

新約聖書入門



神戸ルーテル聖書学院

小賀野英次著
J.ピヒカラ著
その他

神様のみことばである聖書

聖書は神様のみ言葉です。

「なぜなら、預言は決して人間の意志によってもたらされたのではなく、聖霊に動かされた人たちが、神からのことばを語ったのだからです。」(2 ペテロ 1:21)

「聖書はすべて、神の靈感によるもので、教えと戒めと矯正と義の訓練とのために有益です。」(2 テモテ 3:16)

聖書は誤りの無い神様のみ言葉であり、全ての事はそれによって吟味しなければなりません。ですから、私たちが聖書を読んだり、聖書を自分なりに理解したり、解釈したり、判断したりする事は出来ません。そのような読み方は人間の理性や体験や価値観を聖書の上に置いて、人間中心主義で、神様のみ声を聞く妨げになる姿勢です。そのような危険性は聖書を読む時にも、聖書を学んだりする時に起こりやすいから気をつける必要があります。

正しい姿勢は自分の理性も、判断力も、自分自身のすべてを聖書の下に置く事です。主のみ声を聞く姿勢が問われます。

聖書の正しい理解と解釈は人間自身の営みによって出来るわけではありません。神様の聖霊様が聖書を開いて、正しく理解させて、正しい解釈を与えて下さいます。

人の内にある霊以外に、いったいだれが、人のことを知るでしょうか。同じように、神の霊以外に神のことを知る者はいません。 12 わたしたちは、世の霊ではなく、神からの霊を受けました。それでわたしたちは、神から恵みとして与えられたものを知るようになったのです。 13 そして、わたしたちがこれについて語るのも、人の知恵に教えられた言葉によるのではなく、“霊”に教えられた言葉によっています。つまり、霊的なものによって霊的なことを説明するのです。 14 自然の人は神の霊に属する事柄を受け入れません。その人にとって、それは愚かなことであり、理解できないのです。霊によって初めて判断できるからです。 15 霊の人は一切を判断しますが、その人自身はだれからも判断されたりしません。(1コリ 2:11～15)

わたしをお遣わしになった父が引き寄せてくださらなければ、だれもわたしのもとへ来ることはできない。わたしはその人を終わりの日に復活させる。預言者の書に、『彼らは皆、神によって教えられる』と書いてある。父から聞いて学んだ者は皆、わたしのもとに来る。(ヨハネ 6:44～45)

そこで、イエスは言われた。「ああ、物分かりが悪く、心が鈍く預言者たちの言ったことすべてを信じられない者たち、メシアはこういう苦しみを受けて、栄光に入るはずだったのではないか。」そして、モーセとすべての預言者から始めて、聖書全体にわたり、御自分について書かれていることを説明された。(ルカ 24:25～27)

聖書を聖霊を持たない未信者が本当の意味で分かる事が出来ません。しかし、そのような人の心に神様の聖霊様が聖書のみ言葉を通して悔い改めをするように迫ることが出来ます。主の御前に悔い改めて、初めて主のみ言葉を正しく理解始めます。

リベラル主義の聖書理解

多くのリベラル主義の神学者たちは聖書を一般の書物として扱って、一般の歴史非難的や文学的な方法で聖書を研究しています。彼らは現代の科学は神様の存在を学問に入れてはいけなから、聖書がたとい神様のみ言葉であっても、神様を抜きに科学的に分析しなければならないと主張しています。しかし、神様がいらっしゃらない前提から出発したら、神様がいない結果になるに過ぎません。聖書の歴史的な背後についての知識や情報が増えても、本当の理解が少しも得られません。結果として、そのような前提ですべての預言や奇跡を否定するだけではなく、イエス・キリスト様ご自身も単なる宗教家に過ぎない、人間中心的な一般宗教に終わってしまいます。

しかし、このような危険は単なるリベラル神学者の問題だけではありません。生きているクリスチャンも聖書を一種の宗教的な領域に入れてしまって、その他の生活の分野で一般の科学信仰の価値観で生活する恐れが十分あります。ですから、聖書の権威を積極的にすべての人生の分野に適用する必要があります。

リベラル派の一つの主張は「現代自然科学や聖書の中の矛盾をみても、聖書を誤りのない神様のみ言葉として信じるのは理性の自殺だ」とです。しかし、そのような考え方は人間の罪墮落の深さを認めない事に過ぎません。人間の理性は罪墮落以前も神様の啓示を必要としました。しかし、罪墮落の結果、人間の意志や感情などが歪んだだけではありません。人間の理性も正しく働きません。神様の権威の下に置いて、聖霊の照らしによって理性ははじめて正しく用いる事が出来るようになります。

だから、キリスト信仰は理性を使ってはいけないものではありません。聖書が一般啓示（自然、良心、歴史など）と矛盾しないから、偏見を捨てて、正直に聖書を学ぶ人は、その真実性を認める事が出来ます。ただし、一般社会に支配的な相対論、進化論、唯物論、一方的な科学信仰などと聖書が衝突すると理性的な疑いやいろいろの疑問が生まれるのは避けられません。すべての問題点にまず納得する答えを得て、そして信じる事が出来るという必要はありません。聖書のみことばを直に受けいれて、疑いながらも実施してみたら、確信が与えられて、又信仰生活の過程の中にそれぞれの疑問に答えが後で与えられます。その反面に、たといすべての疑問の納得できる答えが与えられても、それが未だ救いをもたらせる信仰とは限りません。聖書の中に語って下さるイエス様に心も身も委ねる事はキリスト信仰です。

聖書の名前

聖書と言う名前はただ聖なる書物と言う意味に過ぎません。しかし、その二つの部の名前を読めば本当の名前が分かります。旧約聖書と新約聖書の共通の部は契約の約と約束の約と言う字です。ですから日本語の聖書の本当の名前は「契約の本」と言っても言い過ぎではないでしょう。ただし、英語や多くのその他の聖書翻訳の名前を見たら、Testament 翻訳すれば「遺言」と言う言葉が日本語の「契約」の分の代わりに出ます。遺言も一種の契約に過ぎませんから、互いに矛盾する意味にはなりません、正確な名前を与えるなら聖書は「遺言と言う形の契約の聖なる書」です。

普通の契約は二人（又は二つの組織）の間に結ばれて、両方が年月日がついた契約書に赤の印鑑を押捺して有効になります。赤は血の色で、契約を破ったら血を流してもよいという意味でしょう。しかし、遺言と言う契約は一人の印鑑しかありません。ただし、有効になる日は契約を書く日ではなく、書いた人の死亡の日です。遺言にも相手がありますが、その相手がまだ何も知らない内にも書けるものです。ですから、遺言は一方的な契約です。

聖書は神様の一方的な遺言と言う形の契約の書物です。その対象は罪を犯した人類です。その遺言は最終的な意味でイエス・キリスト様の十字架の血潮が流された事によって有効になりました。旧約聖書の古い遺言は新約聖書の新しい遺言の雛形であり、又それによって与えられた赦しと恵みは新約聖書の遺言の成立によって有効になりました。旧約聖書の遺言は単なる預言だけではなく、新約聖書の遺言で与えられる将来の恵みの前払いと言う形でした。

旧約聖書の遺言の場合に血を流したのは動物であったが、それらはすべて神の小羊イエス・キリスト様を指しました。パウロは新約聖書の救いと旧約聖書の救いの関係を次のように説明しました：

「神は、キリスト・イエスを、その血による、また信仰による、なだめの供え物として、公にお示しになりました。それは、ご自身の義を現わすためです。というのは、今までに犯されて来た罪を神の忍耐をもって見のがして来られたからです。それは、今の時にご自身の義を現わすためであり、こうして神ご自身が義であり、また、イエスを信じる者を義とお認めになるためなのです。」(ローマ 3:25～26)

旧約聖書の契約という形の遺言が与えられた場面は次の出エジプト記の 24 章の箇所に記録されています：

1 主は、モーセに仰せられた。「あなたとアロン、ナダブとアビフ、それにイスラエルの長老七十人は、主のところに上り、遠く離れて伏し拝め。 2 モーセひとり主のもとに近づけ。他の者は近づいてはならない。民もモーセといっしょに上ってはならない。」 3 そこでモーセは来て、主のことばと、定めをことごとく民に告げた。すると、民はみな声を一つにして答えて言った。「主の仰せられたことは、みな行ないます。」 4 それで、モーセは主のことばを、ことごとく書きしるした。そしてモーセは、翌朝早く、山のふもとに祭壇を築き、またイスラエルの十二部族にしたがって十二の石の柱を立てた。 5 それから、彼はイスラエル人の若者たちを遣わしたので、彼らは全焼のいけにえをささげ、また、和解のいけにえとして雄牛を主にささげた。 6 モーセはその血の半分を取って、鉢に入れ、残りの半分に祭壇に注ぎかけた。 7 そして、契約の書を取り、民に読んで聞かせた。すると、彼らは言った。「主の仰せられたことはみな行ない、聞き従います。」 8 そこで、モーセはその血を取って、民に注ぎかけ、そして言った。「見よ。これは、これらすべてのことばに関して、主があなたがたと結ばれる契約の血である。」 9 それからモーセとアロン、ナダブとアビフ、それにイスラエルの長老七十人は上って行った。 10 そうして、彼らはイスラエルの神を仰ぎ見た。御足の下にはサファイヤを敷いたようなものがあり、透き通っていて青空のようであった。 11 神はイスラエル人の指導者たちに手を下されなかったので、彼らは神を見、しかも飲み食いをした。（出エジプト記 24:1～11）

新約聖書の契約と言う形の遺言が十字架上に成立しましたが、その前の晩にイエス・キリスト様は聖餐式を定めた時に次のようにその事を言い表されました：

「また、彼らが食事をしているとき、イエスはパンを取り、祝福して後、これを裂き、弟子たちに与えて言われた。「取って食べなさい。これはわたしのからだです。」また杯を取り、感謝をささげて後、こう言って彼らにお与えになった。「みな、この杯から飲みなさい。これは、わたしの契約の血です。罪を赦すために多くの人のために流されるものです。ただ、言うておきます。わたしの父の御国で、あなたがたと新しく飲むその日までは、わたしはもはや、ぶどうの実で造った物を飲むことはありません。」（マタイ 26:26～29）

旧約聖書と新約聖書の遺言の関係をヘブライ人への手紙は詳しく説明します。その一部を引用しましょう。

13 もし、やぎと雄牛の血、また雌牛の灰を汚れた人々に注ぎかけると、それが聖めの働きをして肉体をきよいものにするのであれば、 14 まして、キリストが傷のないご自身を、とこしえの御霊によって神におささげになったその血は、どんなにか私たちの良心をきよめて死んだ行ないから離れさせ、生ける神に仕える者とするのでしょうか。 15 こういうわけで、キリストは新しい契約の仲介者です。それは、初めの契約のときの違反を贖うための死が実現したので、召された者たちが永遠の資産の約束を受けることができるためなのです。 16 遺言には、遺言者の死亡証明が必要です。 17 遺言は、人が死んだとき初めて有効になるのであって、遺言者が生きている間は、決して効力はありません。 18 したがって、初めの契約も血なしに成立したのではありません。 19 モーセは、律法に従ってすべての戒めを民全体に語って後、水と赤い色の羊の毛とヒソプとのほかに、子牛とやぎの血を取って、契約の書自体にも民の全体にも注ぎかけ、 20 「これは神があなたがたに対して立てられた契約の血である。」と言いました。 21 また彼は、幕屋と礼拝のすべての器具にも同様に血を注ぎかけました。 22 それで、律法によれば、すべてのものは血によってきよめられる、と言ってよいでしょう。また、血を注ぎ出すことがなければ、罪の赦しはないのです。 23 ですから、天にあるものにかたどったものは、これらのものによってきよめられる必要がありました。しかし天にあるもの自体は、これよりもさらにすぐれたいけにえで、きよめられなければなりません。 24 キリストは、本物の模型にすぎない、手で造った聖所にはいられたのではなく、天そのものにはいられたのです。そして、今、私たちのために神の御前に現われてくださるのです。 25 それも、年ごとに自分の血でない血を携えて聖所にはいる大祭司とは違って、キリストは、ご自分を幾度もささげることはなさいません。 26 もしそうでなかったら、世の初めから幾度も苦難を受けなければならなかったでしょう。しかしキリストは、ただ一度、今の世の終わりに、ご自身をいけにえとして罪を取り除くために、来られたのです。 27 そして、人間には、一度死ぬことと死後にさばきを受けることが定まっているように、 28 キリストも、多くの人の罪を負うために一度、ご自身をささげられましたが、二度目は、罪を負うためではなく、彼を待ち望んでいる人々の救いのために来られるのです。（ヘブライ人への手紙 9:13～28）

新約聖書の遺言には二つの部分があります。その内容を短くまとめれば、次の通りになります。

先ず第一にイエス・キリスト様は凄く長くて、具体的に色々の罪のリストを書き並べて下さいます。そこには神様を無視する不信仰、偶像礼拝、不従順、わがまま、党派心、喧嘩、殺意、妬み、恨み、けがれ、情欲、盗み、貪り、裏切り、無関心、憎しみ、よこしま、酩酊、嘘、詐欺、悪口、争い、絶望、占い、軽蔑、高ぶり、善を怠る事、分派、高慢、怠惰などあります。とても長いリストで、又沢山の具体例も伴います。そしてイエス・キリスト様はこう書いて下しました。「私はこれらのすべての罪の責任を背負うって、その処罰を終わりまで十字架の上で遺言の相手方の身代わりとして受け入れます。支払います」と。

第二にイエス・キリスト様は別の長いリストを書き記して下さいました。そこにはいのち、愛、喜び、平和、平安、忍耐、神様の子供の身分、永遠のいのち、天国、栄光、豊かさ、祝福、従順、交わり、賛美、使命、支配権、きよさなど、イエス・キリスト様の持つ財産が全部含まれます。そしてイエス・キリスト様は言われます：「これらのすべての私の所有を遺言の相手の方々に残します」と。

この遺言は西暦 30 年によき金曜日にイエス・キリスト様の死によって有効になって、今現在も有効です。

普通の遺言で相手方が財産を自分の名義に写すには、遺言と身分証明（住民票）と死亡証明書以外に何も要りません。しかし、イエス・キリスト様の遺言の相手方は一体誰でしょうか。罪の支払いは全世界のすべての人々のためです。しかし、遺言があっても、それによって与えられた財産を自分の名義に移そうともしない人々が多いでしょう。それは自分の身分証明書を見せようとしなからずです。神様の御前の身分証明書は何でしょうか。それはイエス・キリスト様の遺言に書いてある罪のリストを自分の罪として認める事に過ぎません。それは別名で悔い改めと呼ばれます。

聖書の正しい読み方

救いのメッセージの聖書

聖書のもっとも大切なメッセージは小福音と言われるヨハネの福音書 3 章 16 節にまとめられています。

「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。」

聖霊によって生まれた聖書の正しい理解に先ず聖霊によって生まれ変わる必要があります。それは主に向かって悔い改めて、イエス・キリスト様の十字架の贖いのゆえに罪を赦すために洗礼を受けなければなりません。

すると、ペトロは彼らに言った。「悔い改めなさい。めいめい、イエス・キリストの名によって洗礼を受け、罪を赦していただきなさい。そうすれば、賜物として聖霊を受けます。(使徒言行録 2:38)

鏡である聖書

パウロは聖書を鏡に喩えます。(昔の鏡はガラス製品ではなく、青銅で作られたから、映る絵は場合によってぼんやりした形でしたが、それにしても現実に間違いはなかったのです。)

わたしたちは、今は、鏡におぼろに映ったものを見ている。だがそのときには、顔と顔を合わせて見ることになる。わたしは、今は一部しか知らなくとも、そのときには、はっきり知られているようにはっきり知ることになる。(1 コリント 13:12)

モーセが、消え去るべきものの最後をイスラエルの子らに見られまいとして、自分の顔に覆いを掛けたようなことはしません。 14 しかし、彼らの考えは鈍くなってしまいました。今日に至るまで、古い契約が読まれる際に、この覆いは除かれずに掛かったままなのです。それはキリストにおいて取り除かれるものだからです。 15 このため、今日に至るまでモーセの書が読まれるときは、いつでも彼らの心には覆いが掛かっています。 16 しかし、主の方に向き直れば、覆いは取り去られます。 17 ここでいう主とは、「霊」のことですが、主の霊のおられるところ

に自由があります。18 わたしたちは皆、顔の覆いを除かれて、鏡のように主の栄光を映し出しながら、栄光から栄光へと、主と同じ姿に造りかえられていきます。これは主の霊の働きによることです。(2コリント 3:13~18)

聖書は鏡のように現実を写しています。ですから、その鏡をどの方向に向けるかによって、色々の事が見えてきます。自分自身に向けたら、恐ろしい罪の現実が見えてきます。その反面に隣のキリスト者に向けると、不思議にもキリストの義の衣に着せられている恵みの現実も見えてきます。社会に向けば、あらゆる事件や堕落や戦争や争いの現実の理由が見えてきます。これらの方向に聖書の鏡を時たま向ける必要があっても、聖書の本質的な目的はそこにはありません。

聖書の鏡をイエス・キリスト様に向けると、主との出会いが出来て、主のみ声を聞く事が出来ます。その中に聖霊様は不思議な働きをなさいます。私たちが主の栄光の姿に作り変える働きをして下さいます。

聖書を読む時には私たちが聞かなければ第一質問は「神様、私が今日何をしなければならぬのですか」、又は、「主よ私が今日どんな罪を悔い改めるべきですか」、又は「主よ、あなたの御心は何ですか」などではありません。これらの質問は間違っている訳ではありませんが、その優先順序が間違っている場合が多いにあります。第一質問は「主よ、今朝もあなたの恵みと栄光の姿を私に見せて下さい。あなたの十字架と復活の姿を見せて下さい。あなたの大祭司として執り成しの祈りをなさる姿を見せて下さい。あなたの王である姿を見せて下さい。」主を仰ぎ見ながら、主のみ声を聞くと、私たちに新しい恵みと力が注がれます。主の一つ一つのみ言葉がいのちのパンになり、主の聖霊様が私たちの内に働いて、生かして、導いて、慰めて下さいます。

律法と福音の聖書

聖書の読み方のもう一つの鍵は律法と福音の区別をハッキリする事です。

律法は神様の要求ですが、罪のためにそれを満たす事の出来るクリスチャンは一人もいません。しかし、律法は神様の愛ときよさを示して、私たちにとても大切なメッセージです。律法によって罪の意識が益々深まって、自分自身で救われる事が出来なくて、キリスト者としても生きる事が到底出来ない事を示して、繰り返して私たちにイエス・キリスト様の恵みの福音の所に追い出します。律法は命を与えません。かえって、私たちの罪深い性質（肉）を殺します。律法の要求は次の通りです。

「あなたがたの天の父が完全であられるように、あなたがたも完全な者となりなさい。」(マタイ 5:48)

福音は神様がその恵みによって私たちの代わりに何を成し遂げて下さったかを語る素晴らしいメッセージです。それはイエス・キリスト様の十字架の死による罪の赦しとイエス・キリスト様の復活による義と認められるメッセージです。福音は私たちの目を主に向けさせて、いのちの聖霊様がそれを通して永遠のいのちの愛を私たちに注いで下さいます。

しかし、憐れみ豊かな神は、わたしたちをこの上なく愛してくださり、その愛によって、5 罪のために死んでいたわたしたちをキリストと共に生かし、——あなたがたの救われたのは恵みによるのです—— 6 キリスト・イエスによって共に復活させ、共に天の王座に着かせてくださいました。7 こうして、神は、キリスト・イエスにおいてわたしたちにお示しになった慈しみにより、その限りなく豊かな恵みを、来るべき世に現そうとされたのです。8 事実、あなたがたは、恵みにより、信仰によって救われました。このことは、自らの力によるのではなく、神の賜物です。9 行いによるものではありません。それは、だれも誇る事が出来ないためなのです。(エペソ 2:4~9)

指の5本の読み方

聖書を読みなさい。

読んだ事を信じなさい（受け入れなさい）。

読んだ言葉に従いなさい。

そうすれば読まれた箇所の約束もあなたに成就されます。

その上に主に感謝しなさい。

聖書 — 神様からの奇跡の本

ベストセラー

聖書は世界一のベストセラーです。毎年何百万冊も印刷され、売られています。2007年の終わりに全聖書は438言語に翻訳されています。新約聖書は1168言語に翻訳されています。少なくとも聖書の一つの書が2454言語に翻訳されています。（すべての言語の数はやく7000と言われます）。

聖書のインスピレーション（靈感）

聖書の66巻きはほぼ2000年の間に多くの方々を通して書かれたものです。神様は歴史の中に働いて、それぞれの人々を動かして、彼らの人格を無視しないで、一点も、一画も間違いのないように導いて下さいました。ですから、聖書そのものも奇跡です。ただし、聖書翻訳には必ずしも、もともとのヘブライ語、アラミア語、ギリシヤ語のすべての意味やニュアンスが100%伝わるとは限りませんから、日本語にも幾つかの少し違う翻訳があります。

「わたしが来たのは律法や預言者を廃止するためだ、と思ってはならない。廃止するためではなく、完成するためである。はっきり言うておく。すべてのことが実現し、天地が消えうせるまで、律法の文字から一点一画も消え去ることはない。だから、これらの最も小さな掟を一つでも破り、そうするようにと人に教える者は、天の国で最も小さい者と呼ばれる。しかし、それを守り、そうするように教える者は、天の国で大いなる者と呼ばれる。言うておくが、あなたがたの義が律法学者やファリサイ派の人々の義にまさっていなければ、あなたがたは決して天の国に入ることができない。」(マタイ 5:17～20)

「天地は滅びるが、わたしの言葉は決して滅びない。」(マタイ 24:35)

「わたしは彼らに御言葉を伝えましたが、世は彼らを憎みました。… 真理によって、彼らを聖なる者としてください。あなたの御言葉は真理です。」(ヨハネ 17:14、17)

聖書は聖霊が人々を通して書かせて下さった神様のみ言葉ですが、その靈感は一体どのように行われたかについて色々な考え方があります。ある人々は神様が考えを与えて、そして書いた人々はその考えを自分の能力によって書いてまとめたと主張します。ですから人間的な作業の方には間違いもあり得ると主張です。ある人々は逆に聖霊様は人間を機械的に使って書かせたと主張します。ですから元々の写本に人間的な間違いはありえません。しかし、このような論議は神様の聖霊の私たちの理性を超える働きを無視します。聖霊は自由に人々を用いて、その性格やそのスタイルを生かして、一画まで誤りのない聖書を与えて下さったのです。

聖書は人間の救いに関する神様の言葉から、救いと関係のない歴史的な事柄や地理的な事柄や自然に関する事柄において間違いがあっても、別に問題にはなりません。以上のイエス・キリスト様の主張は全く違います。聖書は部分的に真理ではなく、すべての事柄に置いて間違いのない真理です。神様が与えて下さった軌跡ですから。神様は罪深く、色々な意味で欠けている人をも通して完全なみ業をなさる事が出来ます。それは旧約聖書の多くの奇跡や新約聖書の癒しなどの中にも明確です。ですから、私たちは聖書も完全に信頼できます。それは、主のみ業だからです。

章と節の分け方

聖書は66書から出来ています。旧約聖書は39書で、新約聖書は27書です。聖書には1189章とやく31166節があります。ただし書かれたときに聖書が章と節に分けられた訳ではありません。章に分ける動きはもうすでに紀元前にも行われ始めましたが、現在の節分けは1551

年に Estienne という方が導入しました。節分けで聖書の箇所が探しやすくなっていますが、場合によって文脈の流れの邪魔になりえます。

カノン問題

カトリック教会の聖書には 73 書とギリシヤ正教会には 79 書があります。プロテスタント教会はカトリックが聖書に入れたアポクリファ書を神様のみ言葉ではなく、一般的な信仰書として定義しています。外典（がいてん、Apocrypha）とは、ユダヤ教・キリスト教関係の文書の中で、聖書の正典化作業の際に正典のリストに加えられなかった文書を指します。経外典（けいがいてん）とも呼ばれます。アポクリファとは、ギリシヤ語の ἀπόκρυφος（隠されたもの）に由来する言葉である。宗教改革以前のキリスト教会には、旧約聖書の正典・外典という区別はなかった。伝統的キリスト教会は、ヤムニア会議以前に成立した古代ギリシヤ語訳の七十人訳聖書、ないしその翻訳を旧約聖書の正典としていました。マルティン・ルターがヘブライ語本文から聖書を訳した際に、ヤムニア会議の定めたテキストと、カトリックが使っていたラテン語聖書との異同に気付きました。ルターはこれを外典と位置付けました。キリスト教における旧約聖書の正典・外典の位置づけは諸教派により異なっています。ヤムニア会議はユダヤ戦争終結後、90 年代にユダヤ教のラビたちによって行われ、旧約聖書の正典を決定した会議でした。

聖書は唯一の正典（カノン）です。カノンという言葉には、ギリシヤ語で「まっすぐな棒、規範、原則、標準、規準、根本原理」という意味が込められています。どんなに時代が移り変わろうとも、社会を取り巻く状況がどれほど変わろうとも、キリスト教会はカノンを修正したり加筆したりはしません。

聖書外典偽典について Apocrypha

旧約

旧約聖書における「外典」とは、一世紀末、ユダヤ教の正典が決定されたとき、七十人訳という旧約聖書の最初の翻訳（ギリシア語）に含まれてはいたが、ヘブル語の正典には含まれなかった文書を指す。

「偽典」はそれ以外の文書で、旧約中の名前などを借りて旧約の時代に書かれたように見せかけたもので、七十人訳やラテン語訳の「ヴルガータ」には含まれないものである。

旧約の外典・偽典が書かれたのは紀元前二世紀から紀元後一世紀、そして 1947 年に死海で発見された「死海写本」の一部もこの中に含めることができる。

新約

新約聖書には「偽典」はなく、「外典」のみ存在する。これはギリシア語で「アポクリファ (Apocrypha)」と言い、旧約聖書の外典にも当てはめられる。アポクリファのもともとの意味は「隠されたもの」を示し、キリスト教会に対しての異端派との関連で出てきた言葉で、正統教会がまとめたものになると、こうした「隠されたもの」は「異端的であるため隠されたもの」「隠された起源のもの、偽りのもの」いった意味で使われるようになる。

しかし、古カトリック教会は七十人訳の伝統に従って旧約外典も正典に編纂したため、それから除外される旧約偽典もアポクリファに含まれるようになる。

旧約外典

第一エズラ書 第一マカベア書 第二マカベア書 トビト書 ユディト書 ソロモンの知恵 ベン・シラの知恵 エレミヤの手紙 マナセの祈り ダニエル書への付加 スザンナ アザリヤの祈りと燃える炉の中の三人の祈り バビロンのベルとバビロンの龍 エステル記への付加

旧約偽典

アリストテレスの手紙 第三マカベア書 第四マカベア書 モーセの昇天 イザヤの殉教 アダムとエヴァの生涯 シビュラの託宣 スラヴ語エノク書 ピルケ・アボス ヨベル書 エチオピア語エノク書 十二族長の遺訓 ソロモンの詩篇 第四エズラ書 シリア語バルク黙示録 ギリシア語バルク書

新約外典

オクシリンコス・パピルス八四〇 エジャトン・パピルス二 オクシリンコス・パピルス六五四 オクシリンコス・パピルス一 オクシリンコス・パピルス六五五 オクシリンコス・パピルス二二四 カイロ・パピルス一〇七三五 ファイユーム断片 ナザレ人福音書 エピオン人福音書 ヘブル人福音書 エジプト人福音書 ヤコブ原福音書 トマスによるイエスの幼児物語 ペテロ福音書 ニコデモ福音書 ラオデキア人への手紙 コリント人への第三の手紙 セネカとパウロの往復書簡 偽テトスの手紙 パウロの黙示録 シビュラの託宣 ヨハネ行伝 ペテロ行伝 パウロ行伝 アンデレ行伝 トマス行伝 ペテロの黙示録

新約聖書の成立

(多久和 律、神戸ルーテル聖書学院長)

I、授業のねらい

皆様のお家には何かお宝をお持ちでしょうか。明治時代のものは、ありますか。江戸時代のものはありますか。平安時代のものはお持ちでしょうか。実は、私どもが毎日手にしている聖書は、驚くべきことに新約が約 2000 年前、旧約は、さらに古い書物であります。この時代の書物を毎日目にし、手に取るとは実に奇跡に近いことです。

私たちは、27 の書物を神様からの新しい契約として新約聖書が与えられています。この新約聖書の結集の背景、過程を学び、改めて神様の導き、み言葉として大切に読むことを目指します。

II、正典結集の意義

約2000年前のイエス・キリストの時代、また、使徒たちの時代には、コンピュータも自動車もテレビもありませんでした。そんな時代ですからどんなにか文化的にも未開であり、迷信的であったのではないかと考えます。確かに科学技術的には今日のようにありませんが、ギリシヤや哲学などを背景としながら「真理」「普遍性」を私たちより深く考えていた時代であります。

そんな時代でしたから教会内、教会外からありとあらゆる教え、思想の文書が数多く著され、また、残されてきました。こうした内外の揺さぶりの中でイエス様の教え、み言葉がまとめられていきました。著名な哲学者であり倫理学者であった和辻哲郎先生が、「正典結集の意義」を次のように述べていらっしゃいます。

「仏教はいろいろな点でキリスト教に劣っているであろうが、その最もはなはだしい点は、キリスト教が早くからカノンを決して、異端や分派を排斥したのに対し、仏教がカノンを決し得ず、経典の無制限の成長を許したということである。…いろいろな新しい立場が展開してくると共に、さまざまな思想や信仰が流れ込んで行った。だから仏教と総称せられるのは一つの潮流であって、一つの教義ではない」(全集 XX、472 ページ)

III、正典結集の過程

1、結集の理由

新約聖書が結集の背景には、初代教会の上に起った三つの出来事があった。

- ①**使徒たちの死** イエス様に直に接し、教えを受けた 12 使徒たちは、AD100 年頃には死を迎えた。このため使徒たちの権威をどのようにして受け継ぐべきか、福音の真理をどのように守り、教会を一つとしたらよいのか必要となった。
- ②**誤った教えの出現** ガラテヤ教会に対して使徒パウロは「どうしてこんなに早く違った福音に落ちたのか」と記している。使徒たちの死は、ただそれだけなら危機とはならない。誤った教えが出てきて初めて明らかになった。グノーシス主義、マルキオン主義、化現説、モンタヌス運動などに対し教会は、信仰、生活の基準、異端反駁などが必要となった。
- ③**迫害** ご承知の通り初代教会は、ローマ帝国の迫害にあった。AD313 のミラノ寛容令によるキリスト教公認まで 200 年以上も続いた。これらの出来事に対して教会は、新約聖書正典の結集、使徒後教父や監督の出現、使徒信条など信仰告白、宣言などを整える必要が生じた。

2、初代教会の文献、歴史資料に見る新約聖書の範囲

新約 27 書が教会全体に正典と認められたのは、400 後半であった。しかし、200 年には、かなりの文書が認められていた。AD180 頃の記録には、裁判を受けたキリスト教徒が、何を持っているのかと聞かれると「われわれの書物と義人パウロの手紙」と答えた。われわれの本とは、福音書と思われる。主の言葉を記した福音書と 12 使徒の権威を持つと考えられる文書、パウロの手紙が旧約聖書に近い地位に位置づけられていたと思われる。

- ①**マルキオン(～160)** 初代教会の偽パウロ主義的異端者。グノーシス主義の影響を受けながら教会活動を行った。その考えは、旧約の世界創造神は義の神、報復の神、低き神である。新約の救いの神は、キリストの神、至高神、善の神、愛の神であり創造神より優れたもの。キリストは、肉体をとらず仮現的であり、天使と同じで救いの霊として下った。その聖書は、ルカ福音書の 1～2 章を削除したものとパウロの 10 書簡(牧会書簡とヘブル書を除いたもの)のみとした。
- ②**タティアノス(2 世紀)** キリスト教弁証家シリア出身。150 年ごろにローマで改宗。後にグノーシス主義に傾き異端として排斥された。「ディアテッサロン」は、4つの福音書記事を編纂して一貫した物語にしようとした。
- ③**ムラトリ断片(2 世紀後半)** ムラトリは、18 世紀のイタリアのカトリック神学者。18 世紀にムラトリによって発見された 2 世紀後半のものとする、現存する最古の新約聖書目録表。断片とは、最初と最後の部分が欠けているため。
第 1 部に 4 福音書、第 2 部にパウロの 13 書簡、第 3 部に、ユダとヨハネの手紙二つ、黙示文書としてヨハネ黙示録、ペテロの黙示録、そして正典とされないもののリストが記されている。27 書のうちヘブル書、ヤコブ書、1、2 ペテロ以外の 23 書のリストが出ている。
- ④**イレナイオス(130?～200 頃)** リヨンの主教。4 福音書とパウロ書簡の引用が多い。
- ⑤**テルトゥリアヌス(150?～220)** 西方教会の神学者。三位一体という神学用語を用いた。4 福音書、パウロの 13 書簡、ヘルマスの牧者も正典とした。
- ⑥**オリゲネス(185～254 頃)** アレクサンドリア学派の代表的神学者。ムラトリ断片は西方教会の正典の範囲を示したが、東方教会のその役割は、オリゲネスが担った。各地の正典事情に通じ、一般に承認されたものとして、4 福音書、13 のパウロ書簡、1 ペテロ、1 ヨハネ、黙示録、使徒言行録を示した。論争中として 2 ペテロ、2、3 ヨハネ、ヘブル人の手紙、ヤコブ、ユダをあげている。
- ⑦**アタナシウス(295 頃-373)** アレクサンドリアの主義。ニケア会議の正統派教父の祖。父なる神とキリストとの関係について、ホモウシオス(同質)を主張。アリウス派のホモイシオス(類似)と戦う。
376 年にラオデキア会議で決定された黙示録を除く 26 書に黙示録を加えて東方教会の 27 の新約聖書が定められた。アリウス派に敗れて西方教会に追放中に、西方の黙示録の取り扱いに学んだのでした。西方教会では東方がヘブル書を採用していることに学んだ。
- ⑧**アウグスチヌス(354～480)** 西方教会最大の教父。ヘブル書はなかなか薦めようしなかった。

このように全教会が今日の新約聖書を正典とするまでには、数 100 年を必要とした。金が溶かされ、不純物を取り除き、純度を上げていくように、新約聖書も時間をかけながら様々な角度から検討され、正典と定められてきたのである。そこにこそ、神様の摂理と導きを見ることができるのである。

IV、背景異端の活動

- 1、グノーシス主義
- 2、モンタヌス運動
- 3、化現説
- 4、外典・偽典
 - ① トマスによるイエスの幼年時代
 - ② ナグ・ハダディ文書

V、宗教改革の時代 1、改革者たち 2、「わらの書」ルター

VI、現代

- 1、外典研究サイト 新興宗教
- 2、ダビンチ・コード、ユダの福音書、キリストの棺
人としてのイエスの主張。
- 3、歴史批評
「聖書の中に神のみ言葉がある」
「聖書は神のみ言葉」

VII、まとめ

キリスト教会の宝は聖書である。聖書は、突然に出現したものではなかった。旧約の預言者たちを通し、また、使徒たちを通して主イエスのみ旨が示され、口で教えられ、やがて文書で記された。そして、その要因として、教会内の信仰理解、また、様々な時代思想、異端に対する反駁の中で正典として位置づけられてきた。しかし、それは決して教団組織を守ることに主眼があったわけではない。主がどう語られ、教えられたか、が正典とする基準となったのである。まさに、神様の導きは、こうした背景の中に働いて聖書を手にしているのである。

私も、40年この聖書と共に歩んできた。確かに神の言葉であることを実感している。ともにこの宝を大切にしていきたい。

旧約聖書と新約聖書の関係

新約聖書の第一の節は「**アブラハムの子ダビデの子、イエス・キリストの系図。**」(マタイ 1:1)です。それで新約聖書と旧約聖書の密接な関係が明確です。旧約聖書の背後が新約聖書の理解の鍵です。新約聖書は旧約聖書の成就ですから、旧約聖書を正しく理解するには新約聖書の中から見なければなりません。新約聖書を認めないユダヤ教は旧約聖書も正しく理解できません。全聖書の筋道は主イエス・キリスト様ですから。

新約聖書の中に旧約聖書の直接引用と間接引用の統計は大体次の通りです。詩篇とイザヤ書から 500、モーセの 5 書から 400、他の預言書から 250、その他の書から 100、合わせてやく 1250 の引用があります。

書の諸グループ

聖書の書は幾つかのグループに分けられますから、歴史の書は大体時間的な順序に並んでいますが、他の書は時間的な順序よりも性質的な特徴によってそれぞれのグループに入っています。聖書の書の名前をグループ別に暗記して下さい。そうすると探しやすくなります。子供用の歌がその助けになると思います。

解釈の問題

同じ聖書を読んでも多く の人は解釈によって違う結論に至るのはなぜでしょうか。それは聖書が相対的なものであるという意味ではありません。聖書は絶対的な 神様のみことばで、真理ですが、聖書を読む人々は色々の意味で限られて、偏っている私たちですから、自分の聖書解釈を絶対化してはいけません。聖書の前で 謙遜に、聖霊の導きを求めるなら、救いの道から離れることはありません。聖書に一つの正しい解釈しかありませんが、それは聖書を与えて下さった神様の解釈 です。神様の聖霊は私たちをすべての真理に導く約束がありますから、部分的な聖書理解からもっともっと深い恵みの理解に主がへりくだってみこころを求める人を導いて下さいます。

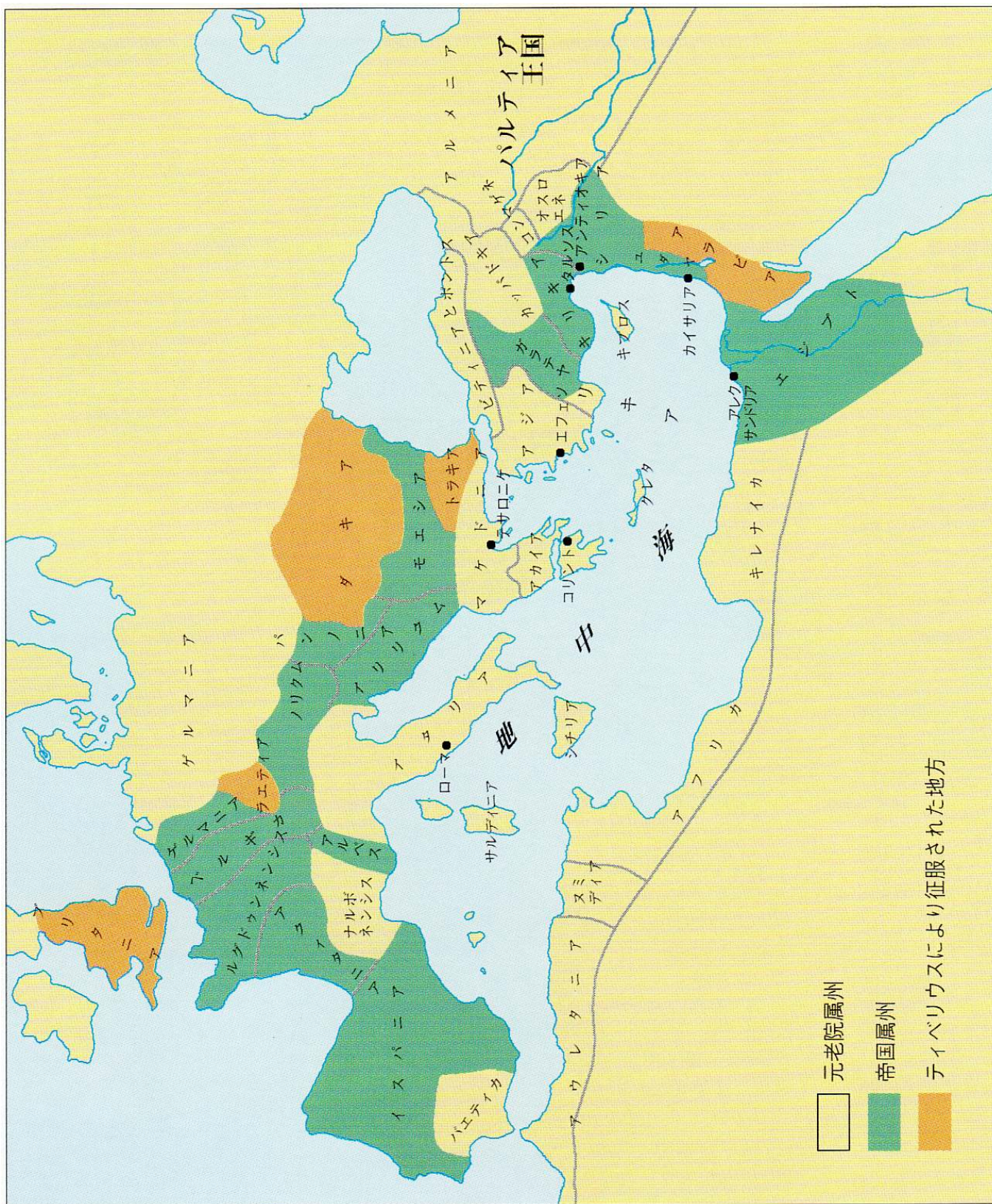
ですから、同じみ言葉が違う時と違う場面で、神様のメッセージを違う形で語る事は、聖書が相対で、曖昧と言う意味ではなく、限られた私たちが、いっぺんではそのみ言葉の多様性や

豊かさが分からないと言う意味です。聖霊様は私たちをすべての真理に導いて下さる方法は私たちの霊的な成長に合わせる事です。

言っておきたいことは、まだたくさんあるが、今、あなたがたには理解できない。しかし、その方、すなわち、真理の霊が来ると、あなたがたを導いて真理をことごとく悟らせる。その方は、自分から語るのではなく、聞いたことを語り、また、これから起こることをあなたがたに告げるからである。その方はわたしに栄光を与える。わたしのものを受けて、あなたがたに告げるからである。(ヨハネ 16:12～14)

新約聖書は27書（新改訳聖書の呼び名による）

書名	書かれた年	書いた場所	書いた人	呼び名
1) マタイの福音書	60年代	パレスチナ	マタイ	共観福音書
2) マルコの福音書	50年代	ローマ	マルコ	共観福音書
3) ルカの福音書	50～60年	ローマかカイザリア	ルカ	共観福音書
4) ヨハネの福音書	85～90年	エペソ	ヨハネ	
5) 使徒の働き	62年	ローマ	ルカ	初代教会の歩み
6) ローマ人への手紙	56年	コリント	パウロ	
7) コリント人への手紙 第一	55年	エペソ	パウロ	
8) コリント人への手紙 第二	56年	ピリピ	パウロ	
9) ガラテヤ人への手紙	49年	アンテオケ	パウロ	
10) エペソ人への手紙	61年	ローマ	パウロ	獄中書簡
11) ピリピ人への手紙	61年	ローマ	パウロ	獄中書簡
12) コロサイ人への手紙	61年	ローマ	パウロ	獄中書簡
13) テサロニケ人への手紙 第一	51年	コリント	パウロ	
14) テサロニケ人への手紙 第二	51年	コリント	パウロ	
15) テモテへの手紙 第一	63年	マケドニア	パウロ	牧会書簡
16) テモテへの手紙 第二	67年	ローマ	パウロ	牧会書簡
17) テトスへの手紙	65年	ニコポリ	パウロ	牧会書簡
18) ピレモンへの手紙	61年	ローマ	パウロ	獄中書簡
19) ヘブル人への手紙	65～69年	不詳	不詳	
20) ヤコブの手紙	45～48年	エルサレム	ヤコブ	公同書簡
21) ペテロの手紙 第一	63年	ローマ	ペテロ	公同書簡
22) ペテロの手紙 第二	66年	ローマ	ペテロ	公同書簡
23) ヨハネの手紙 第一	88～92年	エペソ	ヨハネ	公同書簡
24) ヨハネの手紙 第二	88～92年	エペソ	ヨハネ	公同書簡
25) ヨハネの手紙 第三	88～92年	エペソ	ヨハネ	公同書簡
26) ユダの手紙	70～80年	不詳	ユダ	公同書簡
27) ヨハネの黙示録	90年代	パトモス	ヨハネ	







聖書の矛盾に見える箇所と歴史的な背景

聖書のよく似た箇所を詳しく読むと矛盾のように見える所に気がつきます。しかし、その箇所の歴史的、地理的な背景が分かったら、実際矛盾ではない事が分かります。例えばイエス・キリスト様がエリコの近くに盲人の目を開いた箇所を比べましょう。

46 一行はエリコの町に着いた。イエスが弟子たちや大勢の群衆と一緒に、エリコを出て行こうとされたとき、ティマイの子で、バルティマイという盲人の物乞いが道端に座っていた。 47 ナザレのイエスだと聞くと、叫んで、「ダビデの子イエスよ、わたしを憐れんでください」と言い始めた。 48 多くの人々が叱りつけて黙らせようとしたが、彼はますます、「ダビデの子よ、わたしを憐れんでください」と叫び続けた。 49 イエスは立ち止まって、「あの男を呼んで来なさい」と言われた。人々は盲人を呼んで言った。「安心しなさい。立ちなさい。お呼びだ。」 50 盲人は上着を脱ぎ捨て、躍り上がってイエスのところに来た。 51 イエスは、「何をしてほしいのか」と言われた。盲人は、「先生、目が見えるようになりたいのです」と言った。 52 そこで、イエスは言われた。「行きなさい。あなたの信仰があなたを救った。」盲人は、すぐ見えるようになり、なお道を進まれるイエスに従った。(マルコ 10:46～52)

35 イエスがエリコに近づかれたとき、ある盲人が道端に座って物乞いをしていた。 36 群衆が通って行くのを耳にして、「これは、いったい何事ですか」と尋ねた。 37 「ナザレのイエスのお通りだ」と知らせると、 38 彼は、「ダビデの子イエスよ、わたしを憐れんでください」と叫んだ。 39 先に行く人々が叱りつけて黙らせようとしたが、ますます、「ダビデの子よ、わたしを憐れんでください」と叫び続けた。 40 イエスは立ち止まって、盲人をそばに連れて来るように命じられた。彼が近づくと、イエスはお尋ねになった。 41 「何をしてほしいのか。」盲人は、「主よ、目が見えるようになりたいのです」と言った。 42 そこで、イエスは言われた。「見えるようになれ。あなたの信仰があなたを救った。」 43 盲人はたちまち見えるようになり、神をほめたたえながら、イエスに従った。これを見た民衆は、こぞって神を賛美した。(ルカ 18:35～43)

二つよく似た箇所だから、必ずしも同じ出来事についてで書いてあるとは限りませんが、この二つの箇所は同じ出来事を指す事はほぼ間違いないと思われます。マルコは癒された盲人の名前まで書くのですが、その他の要素と時間的な要素は一致しています。ただ問題はマルコが「エリコを出て行こうとされたとき」と書いて、ルカは「エリコに近づかれたとき」と書いてあります。矛盾のように見えるのですが、実際にそうではありません。なぜかと言うと、当時のエリコは古いエリコと新しいエリコに分けられて、イエス・キリスト様がこの奇跡をなさった場所はこの二つのエリコの間の道端でした。(盲人が乞食をするにはあのような場所はもっとも相応しかっただしょう。人々の一番よく通る道だからでしょう。)

ですから、聖書の正しい理解に当時の歴史的、地理的な知識は役に立ちます。

もう一つのよく矛盾と思われる事は、諸福音書が人の数を違う形で書き表す事です。しかし、片方の福音書が単数を使っても、それは別の福音書の複数と矛盾する意味ではありません。強調の違いに過ぎません。

時間の書き方にも矛盾のように見える場合が出ます。しかし、その背後にはユダヤ人とローマ人の違う一日の数え方が影響します。ユダヤ人の一日は朝の6時から始まりましたが、ローマ人は今現在私たちが使うやり方で夜の12時から数えます。同じ福音書が100%一貫してどちらかに絞る必要もありませんでした。一般にユダヤ人の数え方を使っても、異邦人と関係のある場面でローマ式に代えるのはおかしくありませんでした。(平成と西暦の使い方に少し似ているかもしれません。)

新約聖書と創世記

(小賀野英次)

新約聖書と創世記は深いつながりを持っている。このことを学ぶことによって、イエス様の生涯や使徒たちの教えを深く学ぶことができる。

新約聖書における創世記の記事（抜粋）

①創造

天地の創造（使徒4：25、14：15、17：24、Ⅱコリ4：6、ヘブル11：3）

人間の創造（Ⅰコリント11：7）

男と女の創造（マルコ10：6）

結婚（エペソ5：31）

7日の安息（マルコ2：13）

②墮落

蛇の誘惑（2コリ11：3）

エバの墮落（1テモテ2：14）

アダムの罪（ローマ5：12－19）

カイン（ヘブル11：7）

ノア（ヘブル11：7、Ⅰペテロ3：20）

洪水（マタイ24：38－39、Ⅰペテロ3：6）

③族長

アブラハム（ルカ1：55、使徒3：25、7：2－8、ヘブル6：13－20、ローマ4：11－19、9：7－10、ガラテヤ3：6－8）

ロトとソドムの滅亡（ルカ10：12、17：28－29）

サラとハガル（ローマ4：19、ヘブル11：11、Ⅰペテロ3：6、ガラテヤ4：22－31）

メルキゼデク（ヘブル7章）

イサク（使徒7：8、ヘブル11：9、17－20、ヤコブ2：21）

ヤコブとエソウ（使徒7：8、ローマ9：11－13、ヤコブ11：21）

ヨセフ（使徒7：9－10、ヘブル11：22）

系図（トレドース）の重要性

創世記のアウトライン（あらすじ）は系図によってスッキリとわかることができる。

■創造の賛歌（1：1－2：3）

■創造の由来（2：4－4：26）

■アダムの系図（5：1－6：8）

■ノアの系図（6：9－9：28）

- ノアの子の系図（１０：１－１１：９）
- セムの子の系図（１１：１０－２６）
- テラの系図（１１：２７－２５：１１）
- イシュマエルの系図（２５：１２－１８）
- イサクの系図（２５：１９－３５：２９）
- エソウの系図（３６：１－４３）
- ヤコブの系図（３７：２－５０：２６）

面白いことに、信仰の父アブラハムは父テラの子供として系図に入れられている。また、信仰の人ヨセフでさえ、ヤコブの子供としてその系図に入れられている。

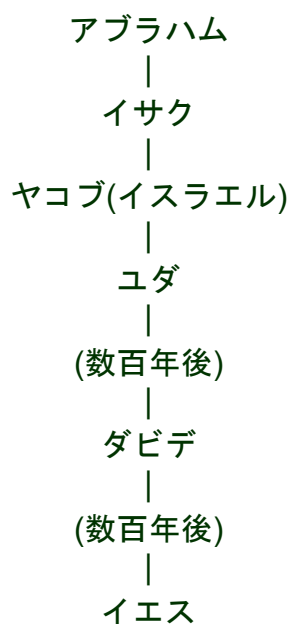
創世記は神に選ばれ、神の恵みに生きる人間が描かれている。その歴史のつながりこそ、系図であり、創世記のメッセージである。

アブラハム⇒ダビデ⇒イエスにいたる救いの歴史

マタイ 22:32『わたしはアブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神である』とあるではないか。神は死んだ者の神ではなく、生きている者の神なのだ。』

神は救い主を遣わすために一つの民を選ばれた

神は、救い主がアブラハム(12:1－3)、イサク(17:19、20)、ヤコブ(28:10－14)、ユダ(49:10)・・・数百年後に……ダビデ(2サムエル 7:5－17)を通して来られると約束されました。マタイ 1:1 は、イエス・キリストがアブラハムとダビデの家系から出ると言っていますー神が約束されたとおりです。



創世記を通読する時には、アブラハム、イサク、ヤコブ、ユダの名前を捜してください。彼らはイエスの家系の人々です。想像してください、神がすでに私たちのために死んでくださる救い主を遣わそうとしておられたことを。神は世界の初めの時でさえも、ご自分の民をととても愛されたのです。

来るべき救い主の象徴

創世記には、やがて来られるイエスを表す描写が出てきます。アダムとエバの子、アベルは、何一つ兄カインに悪い事をしなかったのに殺されてしまいました。イエスも何一つ悪い事をなさらなかったのに、殺されました。ノアの箱舟は、彼の家族を救いました。イエスは、神の家族に属するすべての人を救ってくださる箱舟のようです。ヨセフは、もう一つのイエスの象徴です。ヨセフは虐待され、不当に牢に入れられました。しかし、「仕返しをしよう」などとは思いませんでした。彼は、兄弟を赦し、ききんから彼らを救ったのです。イエスもご自分を虐待した人々を赦しました。イエスは罪のさばきからの救いを提供されたのです。

新約聖書の系図（マタイ 1 章 1～17、ルカ 3 章 23～38）

マタイ 1：1～17

アブラハムの子ダビデの子、イエス・キリストの系図。アブラハムはイサクをもうけ、イサクはヤコブを、ヤコブはユダとその兄弟たちを、ユダはタマルによってペレツとゼラを、ペレツはヘツロンを、ヘツロンはアラムを、アラムはアミナダブを、アミナダブはナフシオンを、ナフシオンはサルモンを、サルモンはラハブによってボアズを、ボアズはルツによってオベドを、オベドはエッサイを、エッサイはダビデ王をもうけた。

ダビデはウリヤの妻によってソロモンをもうけ、ソロモンはレハバアムを、レハバアムはアビヤを、アビヤはアサを、アサはヨシヤファトを、ヨシヤファトはヨラムを、ヨラムはウジヤを、ウジヤはヨタムを、ヨタムはアハズを、アハズはヒゼキヤを、ヒゼキヤはマナセを、マナセはアモスを、アモスはヨシヤを、ヨシヤは、バビロンへ移住させられたころ、エコニヤとその兄弟たちをもうけた。

バビロンへ移住させられた後、エコニヤはシャルティエルをもうけ、シャルティエルはゼルバベルを、ゼルバベルはアビウドを、アビウドはエリアキムを、エリアキムはアゾルを、アゾルはサドクを、サドクはアキムを、アキムはエリウドを、エリウドはエレアザルを、エレアザルはマタンを、マタンはヤコブを、ヤコブはマリアの夫ヨセフをもうけた。このマリアからメシアと呼ばれるイエスがお生まれになった。

こうして、全部合わせると、アブラハムからダビデまで十四代、ダビデからバビロンへの移住まで十四代、バビロンへ移されてからキリストまでが十四代である。

ルカ 3：23～38

イエスが宣教を始められたときはおよそ三十歳であった。イエスはヨセフの子とされていた。ヨセフはエリの子、それからさかのぼると、マタ、レビ、メルキ、ヤナイ、ヨセフ、マタティア、アモス、ナウム、エスリ、ナガイ、マハト、マタティア、セメイン、ヨセク、ヨダ、ヨハナン、レサ、ゼルバベル、シャルティエル、ネリ、メルキ、アディ、コサム、エルマダム、エル、

ヨシュア、エリエゼル、ヨリム、マタ、レビ、シメオン、ユダ、ヨセフ、ヨナム、エリアキム、メレア、メンナ、マタタ、ナタン、ダビデ、

エッサイ、オベド、ボアズ、サラ、ナフシオン、アミナダブ、アドミン、アルニ、ヘツロン、ペレツ、ユダ、ヤコブ、イサク、アブラハム、テラ、

ナホル、セルグ、レウ、ペレグ、エベル、シェラ、カイナム、アルパクシャド、セム、ノア、レメク、メトシェラ、エノク、イエレド、マハラルエル、ケナン、エノシュ、セト、アダム。そして神に至る。

マタイとルカにも二人のメッセージを描く視点の違いがある。マタイはイエス様のユダヤ人である正統性(王としてのイエス)を強調している。ルカは異邦人伝道の視点から、イエス様が人となった神の子、ダビデやアブラハムを超えて、アダムの子であり、第二のアダムの子であるという主張がここにある。イエス様は全人類の救いになられた(⇒ローマ 5:12 以下)。

人間の創造と墮落と救いの完成

①人間の創造と墮落ーアダムとイエス様

アダム＝罪人の原型

ローマ 5:12

このようなわけで、一人の人によって罪が世に入り、罪によって死が入り込んだように、死はすべての人に及んだのです。すべての人が罪を犯したからです。

イエス様＝第2のアダム

ローマ 4:1-3

一人の罪によって、その一人を通して死が支配するようになったとすれば、なおさら、神の恵みと義の賜物とを豊かに受けている人は、一人のイエス・キリストを通して生き、支配するようになるのです。

②信仰の模範アブラハム＝わたしたちは信仰によってアブラハムの子孫である。

ローマ 4:1-3

では、肉によるわたしたちの先祖アブラハムは何を得たと言うべきでしょうか。もし、彼が行いによって義とされたのであれば、誇ってもよいが、神の前ではそれはできません。聖書には何と書いてありますか。「アブラハムは神を信じた。それが、彼の義と認められた」(創世記 15:6)とあります。

ガラテヤ 3:6-9

それは、「アブラハムは神を信じた。それは彼の義と認められた」と言われているとおりです。だから、信仰によって生きる人々こそ、アブラハムの子であるとわきまえなさい。聖書は、神が異邦人を信仰によって義となさることを見越して、「あなたのゆえに異邦人は皆祝福される」という福音をアブラハムに予告しました。それで、信仰によって生きる人々は、信仰の人アブラハムと共に祝福されています。

③イエス様はアブラハムを何と言っているか？救われた者、天国の主人

ザーカイに

ルカ 19:9-10

イエスは言われた。「今日、救いがこの家を訪れた。この人もアブラハムの子なのだから。人の子は、失われたものを捜して教うために来たのである。」

ラザロに

ルカ 16:23

そして黄泉にいて苦しみながら、目をあげると、アブラハムとそのふところにいるラザロとが、はるかに見えた。(口語訳)

ヤコブ(イスラエル)は約束によって選ばれた者とされている。

ヤコブにいては、族長自身の名だけではなく、イスラエルとしての民の名を代表している。

イエス様の誕生

ルカ 1:31-33

あなたは身ごもって男の子を産むが、その子をイエスと名付けなさい。その子は偉大な人になり、いと高き方の子と言われる。神である主は、彼に父ダビデの王座をくださる。彼は永遠にヤコブの家を治め、その支配は終わることがない。」

ヤコブの家の選び — 約束によって(創世記 25、27 章)

ローマ 9:11-13

その子供たちがまだ生まれもせず、善いことも悪いこともしていないのに、「兄は弟に仕えるであろう」とリベカに告げられました。それは、自由な選びによる神の計画が人の行いにはよらず、お召しになる方によって進められるためでした。「わたしはヤコブを愛し、／エサウを憎んだ」と書いてあるとおりです。

ヤコブもエサウも選ばれる

ローマ 11:20-21

そのとおりです。ユダヤ人は、不信仰のために折り取られましたが、あなたは信仰によって立っています。思い上がってはなりません。むしろ恐れなさい。神は、自然に生えた枝を容赦されなかったとすれば、恐らくあなたをも容赦されないでしょう。

ヤコブ(イスラエル・創世記 32:28)の家の救い

ローマ 11:25-26

兄弟たち、自分を賢い者とうぬぼれないように、次のような秘められた計画をぜひ知ってもらいたい。すなわち、一部のイスラエル人がかたくなになったのは、異邦人全体が救いに達するまでであり、こうして全イスラエルが救われるということです。次のように書いてあるとおりです。「救う方がシオンから来て、／ヤコブから不信心を遠ざける。

わたしたち教会は霊のイスラエル(ヤコブの家)

ガラテヤ 6:14-16

しかし、このわたしには、わたしたちの主イエス・キリストの十字架のほかに、誇るものが決してあってはなりません。この十字架によって、世はわたしに対し、わたしは世に対してはりつけにされているのです。割礼の有無は問題ではなく、大切なのは、新しく創造されることです。このような原理に従って生きていく人の上に、つまり、神のイスラエルの上に平和と憐れみがあるように。

新約聖書の全体的な教理の骨組み

① 高い所からあけぼのの光 (福音書)

- 救い主の表れ — イエス・キリストの誕生
- イエス・キリストと言う名前 — 三重の勤め(預言者、王、祭司)
- 天のみ国のメッセージ
- 十字架上の戦い
- 復活の勝利
- 勝利者の昇天
- 神の国の開始 — 聖霊様が注がれる

② 教会 (使徒の働き、諸手紙)

- 教会の召し — 神様の新しい民 — 異邦人の使徒
- 教会の地位 — 神様の恵みの管理 — キリストの量り知れない豊かさ
— 神様の新しい定め — 個人の救い
- 教会の希望 — キリストの再臨 — 第一の復活

③ 将来の神の国 (福音書と諸手紙と黙示録)

- 反キリストの人格 — その制度と歴史性 — 反キリストの裁き
- キリストの見える支配 — その歴史的な表れ — 世の終わり、最後の審判

④ 新しい天と新しい地 (黙示録)

福音書を調べましょう

福音書とは何ですか

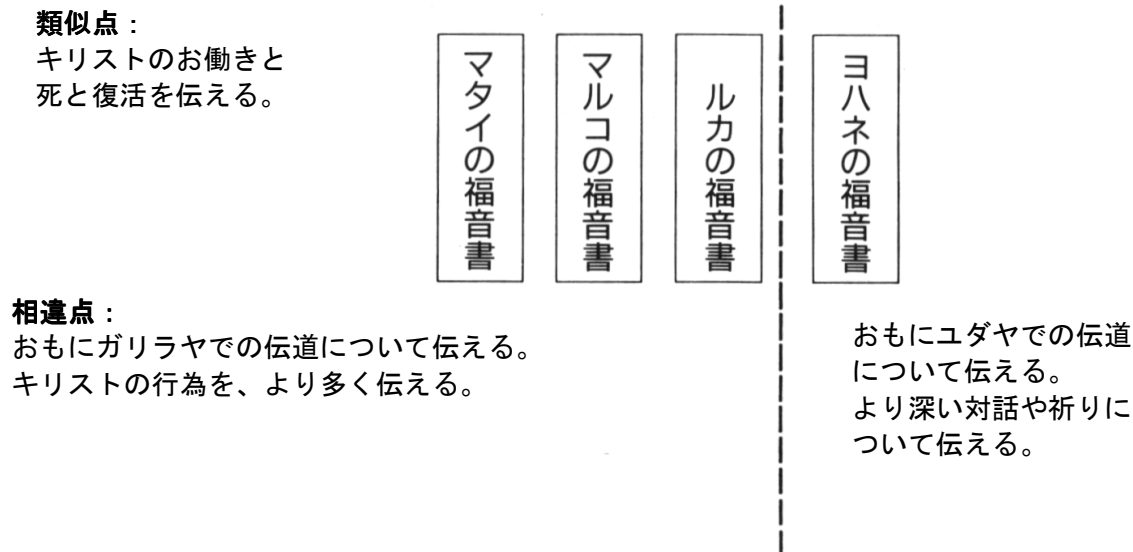
「福音」ということばは「良い知らせ」という意味です。四福音書とは、イエスが私たちの救い主となってくださったというすばらしいニュース（良い知らせ）を伝える4冊の本のことです。それは新約聖書の最初の4冊の本で、マタイ、マルコ、ルカ、ヨハネという4人の著者の名がついています。

類似点と相違点

下の図表は、四福音書の中の類似点と相違点を示しています。最初の三福音書はよく似ています。ですから共観福音書とも呼ばれます。それらは、おもにイエス様のガリラヤ地方での伝道について書いています（ユダヤ伝道についてもふれていますが）。共観福音書はイエス・キリスト様の3年半かかった公の活動の2年目から終わりまでの時期を描写します。それらは、イエス様の御業、イエス様の奇跡、群衆に語ったたとえ話や説教に集中しています。

ヨハネの福音書は、これらのことも多少伝えていますが、むしろイエス様の深遠な対話や祈りに集中しています。ヨハネはおもにイエス様のユダヤ地方での伝道について書いています（多少ガリラヤでの出来事も含めていますが）。ヨハネはイエス・キリスト様の公の活動の1年目と最後の半年を中心として描写します。

福音書



全部の福音書が、キリストの地上での任務、教え、奇跡、死、復活を扱っていますが、それぞれの福音書に相違点もあります。4人の著者が、イエス・キリスト様の異なった描写を紹介しようとしています。

著者：
マタイ
マルコ
ルカ
ヨハネ

イエス様についての紹介：
王
しもべ
人の子
神の子

これらすべての福音書を読むなら、どれか1つだけを読むよりも、より完全なイエス様の姿をとらえることができます。

旧約聖書のイエス像

旧約聖書の預言者たちも、私たちが、福音書に見出す4つのイエス像を描写しました。預言者たちがイエス様について語ったことを、次の聖句で調べてみましょう。

- 王：イザヤ 9:6,7、32:1、エレミヤ 23:5、ゼカリヤ 9:9,14:9
- 神のしもべ：イザヤ 42:1-7、52:13-15、53 章
- 人、人の子：イザヤ 7:14 - 16、9:6
- 神：イザヤ 9:6、40:3-5、47:4、エレミヤ 23: 6

福音書 — 新約聖書の始まり

旧約聖書は一つの約束の物語（史実）であるということを思い出してください。新約聖書はその約束がどのようにして実現したかを報告しています。

イエス・キリスト様は、旧約聖書の 22 の書物から引用されています。その引用回数は次のとおりです。マタイに 19 回、マルコに 15 回、ルカに 25 回、ヨハネに 11 回。

新約聖書では、その約束が実現したのを見た人たちが、正確に書き留めました。その人たちは、神の約束がすべての人にとってどのような意味をもつかということについて、たくさん大切なことを書きました。

福音書は書かれた目的

マタイの福音書はユダヤ人クリスチャンに書かれたと考えられます。一番古いと思われるマルコの福音書は異邦人向きで書かれたでしょう。ルカはその福音書と使徒の働きを異邦人向きに書かれた事がその冒頭から分かります。おそらくパウロのローマで受けた裁判の資料としても使われたと考えられます。ヨハネはイエス・キリスト様の話をその場で記録して、他の福音書が広く使われるようになって、編集して発表したと考えられます。

すべての福音書の中心はイエス・キリスト様の十字架と復活にあります。イエス・キリスト様の地上の活動の最後の一週間は福音書の三分の一ぐらいの量をしめます。

ヨハネはその福音書が書かれた目的を明記しますが、他の福音の目的にも当てはまります：

このほかにも、イエスは弟子たちの前で、多くのしるしをなさったが、それはこの書物に書かれていない。これらのことが書かれたのは、あなたがたが、イエスは神の子メシアであると信じるためであり、また、信じてイエスの名により命を受けるためである。(ヨハネ 20:30-31)

先ず福音書はイエス・キリスト様の幅広い活動の一部をしか語らないのですが、選ばれたしるしやメッセージや十字架の出来事と復活は、それを読む人にとってイエス・キリスト様がだれである事を示すには十分な証拠です。ですから偏見を捨てて福音書を読めば、イエス・キリスト様が神様から使わされた救い主であり、又神様の独り子である事が分かります。納得できます。それはいわゆる理性的な信仰であります。信仰告白に短くまとめたイエス・キリスト様についての教理、教えを認める事です。

しかし、それはまだ救いをもたらせる信仰ではありません。31 節の後半は「信じてイエスの名により命を受けるためである」と言います。この二番目の信仰は自分自身をこの復活した、生きておられるイエス・キリスト様に任せる事です。それは主イエス・キリスト様の十字架の

出来事が自分の罪の贖いであると認めて、主から罪の赦しを求めて、受け入れて、又その結果としてイエス・キリスト様の復活のいのちに預かる事です。

こうして、キリスト信仰は歴史的な証拠のゆえに理性的な確信から、人格をイエス・キリスト様に委ねるに至る事です。キリストについての知識だけではなく、知った上でイエス・キリスト様の人格を自分自身の人生に受け入れる事です。

この救いの体験が行われる事は福音書の書かれた目的です。

聖書の箇所を覚えるコツ

ユダヤ人のラビたちは全旧約聖書を暗記出来ました。又多くの国々で聖書を簡単に手に入れることが出来ないクリスチャンたちは新約聖書を暗記しています。特に迫害に遭って、聖書が取り除かれた刑務所や労働改善所のような所で、暗記した聖書のみ言葉は大きな支えになっています。

私たちももっとも中心的な聖句を暗記した方がよいのです。出来れば新約聖書の一章づつに一節を暗記すれば、それで周辺の出来事を思い起こす事が出来て、必要な箇所も探しやすくなります。一日に一節とその章をこれから覚えて行きましょう。

聖書の数

「1」は神の唯一性と独自性の概念を伝えるのに用いられる。たとえば「主はただひとりである」（申命記 6:4）。人類は1人の人から造り出された（使徒 17:26）。罪が世界に入ったのは1人の人によってである（ロマ 5:12）。恵みの賜物が与えられるのは1人の人イエス・キリストによってである（ロマ 5:17）。キリストはただ1度のいけにえとして御自身をささげ（ヘブ 7:27）、死者の中から一番最初に生れた方である（コロ 1:18）。また「1」はキリストと父なる神との一体性（ヨハ 10:30）、信者と神との結合（ヨハ 17:21）、信者の間にある一体性（ガラ 3:28）を示す、結合ないし一体性という概念は、結婚に間するイエスのことばにも見られる（マタ 19:6）。

「2」は最小の結合および分割を示す数字である。男と女は基本的な家族の単位を構成する（創 1:27、2:23-24）。動物も雌雄が一对となって2匹ずつ箱舟に入った（創 7:9）。またしばしば2人は組になって行動した（ヨシ 2:1、マコ 6:7、ルカ 10:1）。シナイ山でモーセに授けられた石の板も2枚であった。さらに2つのものは、異なる2つの「道」を指すように対比的にも用いられた（マタ 7:13-14）。

「3」は何と言っても三位一体の神である。その教えが含蓄されている箇所として、マタ 28:19、ヨハ 14:26、15:26、2コリ 13:13、1ペテ 1:2があげられる。また神は「3日目」に律法を授けるためにシナイ山に下りてこられた（出 19:11）。ホセアの預言には、主がその民を「3日目」に立ち上がらせるとある（ホセ 6:2）。それはルカ 13:32に見られる用法と同じで、何かが成就するための短い期間を詩的に表現している。ヨナが魚の腹から救い出されたのも（ヨナ 1:17、マタ 12:40）、神がキリストを死者の中からよみがえらせたのも（1コリ 15:4）、3日目であった。十二弟子の中でも特に3人がイエスと親しかった（マコ 9:2等）。ゴルゴタの丘には3本の十字架が立てられた（ルカ 23:33）。パウロはキリスト者の3つの徳性（信仰、

希望、愛)を強調している(1コリ 13:13)。ダビデが3つのうち1つを選ぶように言われた刑罰は、3年間のききん、3か月の敗北、3日の疫病であった(1歴 21:12)。ギデオンの300人の勇士は3隊に分けられた(士 7:16)。同じ3分法が黙 8:7-12に用いられている。

「4」は正方形の4辺の数で、聖書において完全を示す象徴の一つである。神名ヤハウエはヘブル語で4文字(YHWH)から成っている。エデンの園からは4本の川が流れ出ていた(創 2:10)。神の栄光の幻の中に、エゼキエルは4つの生きものを見た(エゼ 1章)。それは黙 4:6の「4つの生き物」と対比できよう。新バビロニア帝国以降の世界史は4つの王国で代表されている(ダニ 2:39-40、7:17)。預言的象徴と黙示文学において、4は特に際立った数である。4つの角と4人の職人(ゼカ 1:18-21)、4台の戦車(ゼカ 6:1-8)、祭壇の四隅(黙 9:13)、4人の御使い(黙 9:14)。さらに福音書も4書ある。

「5」と「10」およびその倍数は、パレスチナで10進法が用いられていたことの証明となる。旧約聖書においては、洪水前に10人の祖先の名があげられ、エジプトは10の災害に見舞われ、イスラエルの民には十のことば(十戒)が与えられた。また十分の一が主へのささげ物とされた(創 14:20、28:22、レビ 27:30、2歴 31:5、マラ 3:10)。ルカ 15:8-10のたとえに出てくる女は10枚の銀貨を持っていた。ミナのたとえでは、10ミナ、10人のしもべ、10の町、5ミナ、5つの町が出てくる(ルカ 19:11-27)。10人の娘のうち5人は賢く、5人は愚かであった(マタ 25:2)。5000人の給食の時、少年は5つのパンを持っていた(ヨハ 6:9)。私たちが神の愛から引き離すことのできない力が10あげられ(ロマ 8:38-39)、神の国を相続できなくする10の罪があげられる(1コリ 6:9-10)。このように10という数は完全をも意味しているようである。

「6」は創造物語に見られ、神は6日目に男と女を創造された(創 1:27)。6日間は1週のうち労働のために人に割り当てられた日数であった(出 20:9、23:12、31:15)。ヘブル人のしもべは6年間主人に仕えたと自由にされた。6という数は、このように人間と深い関係がある。

「7」は聖書における神聖な数の中でも特別なものであった。7は典型的な完全数で、完成、成就、完結を意味する。創造物語において、神は7日目にわざを休み、創造のわざの完成を告げて、その日を聖別された(創 2:1-3)。そのことから、1週の7日目が安息日として制定され、その日には人は働くことを禁じられた(出 20:8-11)。また6年間畑を耕したなら地に休息を与えるために7年目を安息の年とし(レビ 25:4)、さらに7年の7倍を数えたその翌年の第50年目をヨベルの年とすることが定められた(レビ 25:8,10)。種を入れないパンの祭と仮庵の祭は7日間祝われた(出 12:15,19、民 29:12)。贖罪の日は第7の月に守られた(レビ 16:29)。油注がれた祭司は雄牛の血を7たび振りかけ(レビ 4:6)、全焼のいけにえには7頭の子羊がささげられ(民 28:11)、らい病をきよめられた者は小鳥の血とわき水などの水を7たび振りかけられ(レビ 14:7)、ナアマンはヨルダン川に7たび身を浸した(2列 5:10,14)。幕屋の中に置く純金の燭台には7つのともしび皿があった(出 25:37)。7日目には、祭司たちはエリコの町の周囲を7度回った(ヨシ 6:4)。エリヤのしもべは雨が降るまでに7たび海の方を見た(1列 18:43)。詩篇作者は日に7度神をほめたたえたと言っている(詩 119:164)。初代教会は7人の執事を選んだ(使 6:3)。ヨハネは7つの教会に手紙を書き送ったが(黙 1:11以下)、そこに7つの会の燭台と7つの星が出てくる(黙 1:12,16)。7つのパンで4000人を養った奇蹟で、余ったパン切れが7つのかごに集められた(マコ 8:1-9)。

「8」は新しい始まりを示す数として用いられる。8人のノアの家族が箱舟に乗って洪水から救い出された(1ペテ 3:20、2ペテ 2:5)。ユダヤ人の男児の割礼は生後8日目に行われた(創 17:12、21:4、ルカ 2:21、ピリ 3:5)。エゼキエルが幻に見た新しい神殿では、祭司が8日目にいけにえをささげている(エゼ 43:27)。

「12」 1年は12か月に分けられ(参照1歴 27:1-15)、昼は12時間に分けられた(ヨハ 11:9)。ヤコブには12人の息子がおり(創 35:22-27、42:13,32)、神の民イスラエルの12部族の祖となった(創 49:28)。キリストは12人の使徒を選ばれた(マタ 10:1-4)。このように12という数は神の選びの目的と関連があり、神の民にとっての特別な完全数であった。12の倍数の24は祭司の組の数であり(1歴 24章)、その倍数の48はレビ人の町の数である(民 35:7、ヨシ 21:41)。12とそれを基本にした数はヨハネの黙示録によく見られる数である。教会を示す女の冠には12の星があり(黙 12:1)、新しいエルサレムの描写には12と12000と144(12の12倍)が用いられている(黙 21:12-21)。

マタイの福音書

著者：

著者は、ローマ政府のためにカペナウムで働いていた取税人マタイ。彼は、ユダヤ人たちからきらわれていましたが、イエスは、ご自分に従うようにとマタイを招かれました。マタイはすぐイエスに従い、十二弟子の一人となりました。マタイは、聖書の中でしばしばレビと呼ばれています。

書名：

「マタイ」は「主の贈り物」という意味です。マタイの福音書は、ユダヤ人がイエスについて疑問に思っていることに答えるために書かれました。旧約聖書は、神の民が、長い間約束されていた王なるメシヤを待ち望んでいたところで終わりました。マタイの福音書は、イエスがその王であることを明らかにしています。マタイは、他の福音書の著者よりもたくさん、旧約聖書のメシヤ預言を引用し、イエスがそれらを成就されたことをユダヤ人に明らかにしようとした。

おもな登場人物：

イエス、弟子たち

あらすじ：

- イエスの誕生と少年時代（1、2章）
- イエスの教えといやしの業（3-20章）
- イエスの十字架の死とよみがえり（21-28章）

マタイの福音書の中のキリスト

神は、アブラハムに、地上のすべての民族は彼によって祝福される（創世 12:2,3）と約束されました。イエス・キリストは、「アブラハムの子孫」です（マタイ 1:1）。イエスはまた「ダビデの子孫」とみなされています（マタイ 1:1）。神の約束のすべてが、イエスを通して真実となりました。

マタイの福音書では、イエスが王と表現されています。イエスは、すべてのものの上に権威をもっておられます。イエスは、罪を赦し、病気をいやし、人々から悪霊を追い出すことができになります。イエスは、死に打ち勝つ権威さえももっておられます。墓はイエスを閉じ込めることができませんでした。

み言葉のしおり

マタイの福音書

1) 「マリアは男の子を産む。その子をイエスと名付けなさい。この子は自分の民を罪から救うからである。」 マタイ 1 章 21 節

2) 「ユダヤ人の王としてお生まれになった方は、どこにおられますか。わたしたちは東方でその方の星を見たので、拝みに来たのです。」 マタイ 2 章 2 節

3) 「悔い改めよ。天の国は近づいた」と言った。これは預言者イザヤによってこう言われている人である。「荒野で叫ぶ者の声がする。『主の道を整え、その道筋をまっすぐにせよ。』」 マタイ 3 章 2,3 節

イエスは洗礼を受けると、すぐ水の中から上がられた。そのとき、天がイエスに向かって開いた。イエスは、神の霊が鳩のように御自分の上に降って来るのを御覧になった。そのとき、「これはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」と言う声が、天から聞こえた。 マタイ 3 章 16,17 節

4) イエスはお答えになった。「『人はパンだけで生きるものではない。神の口から出る一つ一つの言葉で生きる』と書いてある。」 マタイ 4 章 4 節

5) 「心の貧しい人々は、幸いである、天の国はその人たちのものである。 マタイ 5 章 3 節

「あなたがたは地の塩である。だが、塩に塩気がなくなれば、その塩は何によって塩味が付けられよう。もはや、何の役にも立たず、外に投げ捨てられ、人々に踏みつけられるだけである。 マタイ 5 章 13 節

しかし、わたしは言うておく。悪人に手向かってはならない。だれかがあなたの右の頬を打つなら、左の頬をも向けなさい。 マタイ 5 章 39 節

6) 施しをするときは、右の手のすることを左の手に知らせてはならない。 マタイ 6 章 3 節

「だれも、二人の主人に仕えることはできない。一方を憎んで他方を愛するか、一方に親しんで他方を軽んじるか、どちらかである。あなたがたは、神と富とに仕えることはできない。」 マタイ 6 章 24 節

なぜ、衣服のことで思い悩むのか。野の花がどのように育つのか、注意して見なさい。働きもせず、紡ぎもしない。 マタイ 6 章 28 節

何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはみな加えて与えられる。だから、明日のことまで思い悩むな。明日のことは明日自らが思い悩む。その日の苦労は、その日だけで十分である。」 マタイ 6 章 33,34 節

7) 「人を裁くな。あなたがたも裁かれないようにするためである。 マタイ 7 章 1 節

「求めなさい。そうすれば、与えられる。探しなさい。そうすれば、見つかる。門をたたきなさい。そうすれば、開かれる。 マタイ 7 章 7 節

「狭い門から入りなさい。滅びに通じる門は広く、その道も広々として、そこから入る者が多い。しかし、命に通じる門はなんと狭く、その道も細いことか。それを見いだす者は少ない。」 マタイ 7 章 13,14 節

8) イエスは言われた。「わたしに従いなさい。死んでいる者たちに、自分たちの死者を葬らせなさい。」

マタイ 8 章 22 節

イエスは言われた。「なぜ怖がるのか。信仰の薄い者たちよ。」そして、起き上がって風と湖とお叱りになると、すっかり凪になった。 マタイ 8 章 26 節

9) すると、人々が中風の人を床に寝かせたまま、イエスのところへ連れて来た。イエスはその人たちの信仰を見て、中風の人に、「子よ、元気を出しなさい。あなたの罪は赦される」と言われた。 マタイ 9 章 2 節

新しいぶどう酒を古い革袋に入れる者はいない。そんなことをすれば、革袋は破れ、ぶどう酒は流れ出て、革袋もだめになる。新しいぶどう酒は、新しい革袋に入れるものだ。そうすれば、両方とも長もちする。」 マタイ 9 章 17 節

10) 体は殺しても、魂を殺すことのできない者どもを恐れるな。むしろ、魂も体も地獄で滅ぼすことのできる方を恐れなさい。 マタイ 10 章 28 節

11) 疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう。 マタイ 11 章 28 節

12) あなたは、自分の言葉によって義とされ、また、自分の言葉によって罪ある者とされる。」 マタイ 12 章 37 節

13) 「天の国は次のようにたとえられる。畑に宝が隠されている。見つけた人は、そのまま隠しておき、喜びながら帰り、持ち物をすっかり売り払って、その畑を買う。 マタイ 13 章 44 節

14) 群衆には草の上に座るようにお命じになった。そして、五つのパンと二匹の魚を取り、天を仰いで賛美の祈りを唱え、パンを裂いて弟子たちにお渡しになった。弟子たちはそのパンを群衆に与えた。すべての人が食べて満腹した。そして、残ったパンの屑を集めると、十二の籠いっぱいになった。 マタイ 14 章 19,20 節

15) しかし、口から出て来るものは、心から出て来るので、これこそ人を汚す。悪意、殺意、姦淫、みだらな行い、盗み、偽証、悪口などは、心から出て来るからである。 マタイ 15 章 18,19 節

16) わたしも言うておく。あなたはペトロ。わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てる。陰府の力もこれに対抗できない。 マタイ 16 章 18 節

17) ペトロがこう話しているうちに、光り輝く雲が彼らを覆った。すると、「これはわたしの愛する子、わたしの心に適う者。これに聞け」という声が雲の中から聞こえた。 マタイ 17 章 5 節

18) あなたがたはどう思うか。ある人が羊を百匹持っていて、その一匹が迷い出たとすれば、九十九匹を山に残しておいて、迷い出た一匹を捜しに行かないだろうか。 マタイ 18 章 12 節

はっきり言うておく。あなたがたが地上でつなぐことは、天上でもつながれ、あなたがたが地上で解くことは、天上でも解かれる。 マタイ 18 章 18 節

また、はっきり言うておくが、どんな願い事であれ、あなたがたのうち二人が地上で心を一つにして求めるなら、わたしの天の父はそれをかなえてくださる。 マタイ 18 章 19 節

二人または三人がわたしの名によって集まるところには、わたしもその中にいるのである。」 マタイ 18 章 20 節

19) 弟子たちはこれを聞いて非常に驚き、「それでは、だれが救われるのだろうか」と言った。イエスは彼らを見つめて、「それは人間にできることではないが、神は何でもできる」と言われた。 マタイ 19 章 25, 26 節

20) 人の子が、仕えられるためではなく仕えるために、また、多くの人の身代金として自分の命を献げるために来たのと同じように。」 マタイ 20 章 28 節

21) イエスはお答えになった。「はっきり言うておく。あなたがたも信仰を持ち、疑わないならば、いちじくの木に起こったようなことができるばかりでなく、この山に向かい、『立ち上がって、海に飛び込め』と言っても、そのとおりになる。信じて祈るならば、求めるものは何でも得られる。」 マタイ 21 章 21,22 節

22) 彼らは、「皇帝のものです」と言った。すると、イエスは言われた。「では、皇帝のものは皇帝に、神のものは神に返しなさい。」 マタイ 22 章 21 節

23) だれでも高ぶる者は低くされ、へりくだる者は高められる。 マタイ 23 章 12 節

24) 稲妻が東から西へひらめき渡るように、人の子も来るからである。 マタイ 24 章 27 節

25) そこで、王は答える。『はっきり言うておく。わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである。』 マタイ 25 章 40 節

26) はっきり言うておく。世界中どこでも、この福音が宣べ伝えられる所では、この人のしたことも記念として語り伝えられるだろう。」 マタイ 26 章 13 節

これは、罪が赦されるように、多くの人のために流されるわたしの血、契約の血である。 マタイ 26 章 28 節

そこで、イエスは言われた。「剣をさやに納めなさい。剣を取る者は皆、剣で滅びる。 マタイ 26 章 52 節

27) 「わたしは罪のない人の血を売り渡し、罪を犯しました」と言った。しかし彼らは、「我々の知ったことではない。お前の問題だ」と言った。 マタイ 27 章 4 節

三時ごろ、イエスは大声で叫ばれた。「エリ、エリ、レマ、サバクタニ。」これは、「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか」という意味である。 マタイ 27 章 46 節

しかし、イエスは再び大声で叫び、息を引き取られた。そのとき、神殿の垂れ幕が上から下まで真っ二つに裂け、地震が起こり、岩が裂けた。 マタイ 27 章 50,51 節

28) イエスは、近寄って来て言われた。「わたしは天と地の一切の権能を授かっている。だから、あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にきなさい。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授け、あなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」 マタイ 28 章 18～20 節

マタイの福音書のアウトライン

1. イエスの誕生と備え (1:1-4:11)

(1) イエスの誕生と幼児期の出来事 (1:1-2:23)

a. 系図 (1:1-17)

b. 誕生 (1:18-25)

c. 博士たちの訪問 (2:1-12)

d. エジプト下りと帰還 (2:13-23)

(2) イエスの受洗と誘惑 (3:1-4:11)

a. バプテスマのヨハネの働き (3:1-12)

b. イエスの受洗 (3:13-17)

c. 誘惑 (4:1-11)

(1) 公生涯の開始 (4:12-25)

a. 宣教の開始 (12-17)

b. 最初の弟子たちの召命 (18-25)

(2) 山上の説教 (5:1-7:29)

a. 弟子の特徴 (5:1-16)

b. 律法の成就 (5:17-20)

c. 律法の解釈 (5:21-48)

d. 律法の実践 (6:1-18)

e. 富に対する態度 (6:19-34)

f. 人や神に対する態度 (7:1-12)

g. 真の弟子となる条件 (7:13-29)

2. ガリラヤでの公の働き (4:12-15:20)

- (3) イエスの働き(8:1-9:34)
 - a. ツアラアトのきよめ(8:1-4)
 - b. 百人隊長のしもべのいやし(8:5-13)
 - c. ペテロの姑のいやし(8:14-17)
 - d. 2 人の弟子志願者(8:18-22)
 - e. 嵐を静める奇蹟(8:23-27)
 - f. ガダラでの悪霊追放(8:28-34)
 - g. 中風のいやし(9:1-8)
 - h. マタイの召命(9:9-13)
 - i. 断食についての質問(9:14-17)
 - j. 会堂管理者の娘と長血の女のいやし(9:18-26)
 - k. 2 人の盲人のいやし(9:27-31)
 - l. 悪霊につかれて口のきけない人のいやし(9:32-34)

- (4) 12 弟子の派遣(9:35-11:1)
 - a. 派遣のきっかけ(9:35-38)
 - b. 12 使徒の任命(10:1-4)
 - c. 派遣に当たっての指示(10:5-15)
 - d. 直面する迫害(10:16-23)
 - e. 恐れずにする告白(10:24-33)
 - f. 派遣される者の覚悟と報い(10:34-11:1)
- (5) イエスの働きに対する反対(11:2-12:50)
 - a. イエスとバプテスマのヨハネ(11:2-19)
 - b. 拒む者と受け入れる者(11:20-30)
 - c. 安息日を巡る論争(12:1-14)
 - d. 主のしもべとしてのイエス(12:15-21)
 - e. ベルゼブル論争(12:22-37)
 - f. 悪い姦淫の時代(12:38-45)
 - g. イエスの家族(12:46-50)

- (6) 天の御国のたとえ(13:1-53)
 - a. 種まきのたとえ(1-23)
 - b. 毒麦のたとえ(24-30, 36-43)
 - c. からし種とパン種のたとえ(31-35)
 - d. 宝と真珠、地引き網のたとえ(44-50)
 - e. 結び(51-53)

- (7) 続く反対と弟子たちの訓練(13:54-15:20)
 - a. 郷里の人々の拒絶(13:54-58)
 - b. ヘロデ・アンテパスの誤解(14:1-12)
 - c. パンの奇蹟(14:13-21)
 - d. 湖上を歩く奇蹟(14:22-33)
 - e. 働きの要約(14:34-36)
 - f. きよめを巡る論争(15:1-20)

3. 異邦人の地での働き(15:21-17:21)

- (1) 異邦人の地への働きの拡大(15:21-16:12)
 - a. カナン人の女の娘のいやし(15:21-28)
 - b. 異邦人の間でのいやし(15:29-31)
 - c. 第 2 のパンの奇蹟(15:32-39)
 - d. パリサイ人とサドカイ人のパン種(16:1-12)
- (2) 弟子たちのための教えと働き(16:13-17:21)
 - a. キリスト告白(16:13-20)
 - b. 最初の受難予告(16:21-28)

- c. イエスの栄光の姿(17:1-13)
- d. てんかんの霊の追放(17:14-21)

4. ガリラヤにおける弟子たちへの教え(17:22-18:35)

- (1) ガリラヤに戻ったイエス(17:22-27)
 - a. 第 2 の受難予告(22-23)
 - b. 宮の納入金(24-27)
- (2) 弟子たちの交わりに関する教え(18:1-35)
 - a. 真の偉大さ(1-5)
 - b. つまずきについて(6-9)
 - c. 小さい者たちに対する配慮(10-14)
 - d. 罪を犯した兄弟について(15-20)
 - e. 兄弟の罪を赦すこと(21-35)

5. ユダヤでの働き(19:1-25:46)

- (1) エルサレムへの途上で(19:1-20:34)
 - a. 離婚について(19:1-12)
 - b. 子供たち(19:13-15)
 - c. 金持ちの青年(19:16-30)
 - d. 気前のよい主人のたとえ(20:1-16)
 - e. 第3の受難予告(20:17-19)
 - f. しもべとなること(20:20-28)
 - g. 2 人の盲人のいやし(20:29-34)
- (2) エルサレム入城(21:1-22)
 - a. 勝利の入城(1-11)
 - b. 宮きよめ(12-17)
 - c. いちじくの木 of 教訓(18-22)
- (3) ユダヤ人の指導者との論争(21:23-23:39)
 - a. 権威を巡る論争(21:23-27)
 - b. 2 人の息子のたとえ(21:28-32)
 - c. 悪い農夫のたとえ(21:33-46)
 - d. 結婚披露宴のたとえ(22:1-14)
 - e. カイザルへの納税について(22:15-22)
 - f. 復活について(22:23-33)
 - g. 大切な戒めについて(22:34-40)
 - h. ダビデの子としてのキリストについて(22:41-46)
 - i. 律法学者とパリサイ人の偽善(23:1-36)
 - j. エルサレムの運命(23:37-39)
- (4) 終末に関する教え(24:1-25:46)
 - a. 終末の前兆(24:1-14)
 - b. ユダヤに起こる苦難(24:15-22)
 - c. 偽キリスト(24:23-28)
 - d. 人の子の到来(24:29-35)
 - e. 思いがけない人の子の到来(24:36-51)
 - f. 10 人のブライドメイドのたとえ(25:1-13)
 - g. タラントのたとえ(25:14-30)
 - h. 人の子によるさばき(25:31-46)

6. イエスの死と復活(26:1-28:20)

- (1) 受難の序曲(26:1-46)
 - a. 第 4 の受難予告と暗殺計画(1-5)
 - b. ベタニヤでの油注ぎ(6-13)
 - c. ユダの裏切り(14-16)

- d.過越の食事(17-30)
- e.ペテロのつまずきの予告(31-35)
- f.ゲツセマネでの祈り(36-46)

(2) 逮捕と裁判(26:47-27:26)

- a.逮捕(26:47-56)
- b.ユダヤ人による裁判(26:57-68)
- c.ペテロのつまずき(26:69-75)
- d.総督への引き渡しとユダの後悔(27:1-10)
- e.ローマ人による裁判(27:11-26)

(3) 十字架刑(27:27-56)

- a.兵士たちによる陵辱(27-31)
- b.十字架刑(32-44)
- c.イエスの死(45-56)

(4) 埋葬と復活(27:57-28:20)

- a.ヨセフによる埋葬(27:57-61)
- b.墓の番(27:62-66)
- c.空の墓とイエスの復活(28:1-10)
- d.番兵の報告(28:11-15)
- e.ガリラヤにおける復活のイエス(28:16-20)

マルコの福音書

著者：

著者はマルコで、彼は、バルナバという、初代教会の指導的役割を果たした人の親戚でした。マルコは、バルナバとパウロと一緒に伝道旅行をしました。ペテロは、マルコにこの本のため、たくさんの情報を伝えました。14:51、52で「ある青年」と言われているのは、マルコ自身のことのようです。

書名：

マルコは、この福音書を書いた男の人の名前です。マルコはおそらく、ローマにいる読者のためにこれを書いたと思われます。彼らは、預言の成就ということよりも、イエスが何を行われたかに関心を抱いていました。短い福音書なので、出来事がとても速く進みます。マルコは、イエスを「しもべ」として見えています。

おもな登場人物：イエス、弟子たち

鍵の聖句：

人の子が来たのも、仕えられるためではなく、かえって仕えるためであり、また、多くの人のための、贖いの代価として、自分のいのちを与えるためなのです。(10:45)

あらすじ： ☐ しもべとしてのイエス — 人々に仕えた(1-10章)
☐ しもべとしてのイエス — 他の人々を救うために、ご自分のいのちを与えられた(11-16章)

マルコの福音書の中のキリスト

キリストは「しもべ」として描かれています。イエスは、あなたがよみがえるために、ご自分のいのちを与え尽されました。イエスはすべてのことにおいて、天の父なる神に従順でした。

み言葉のしおり

マルコの福音書

1) 神の子イエス・キリストの福音の初め。預言者イザヤの書にこう書いてある。「見よ、わたしはあなたより先に使者を遣わし、あなたの道を準備させよう。 マルコ1章1,2節

イエスは、「わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしよう」と言われた。二人はすぐに網を捨てて従った。
 マルコ1章17,18節

2) イエスはこれを聞いて言われた。「医者が必要とするのは、丈夫な人ではなく病人である。わたしが来たのは、正しい人を招くためではなく、罪人を招くためである。」 マルコ 2 章 17 節

3) 神の御心を行う人こそ、わたしの兄弟、姉妹、また母なのだ。」 マルコ 3 章 35 節

4) 隠れているもので、あらわにならないものではなく、秘められたもので、公にならないものはない。 マルコ 4 章 22 節

5) イエスは言われた。「娘よ、あなたの信仰があなたを救った。安心して行きなさい。もうその病気にいかからず、元気に暮らなさい。」 マルコ 5 章 34 節

6) イエスは、「さあ、あなたがただけで人里離れた所へ行って、しばらく休むがよい」と言われた。出入りする人が多くて、食事をする暇もなかったからである。 マルコ 6 章 31 節

7) ところが、女は答えて言った。「主よ、しかし、食卓の下の小犬も、子供のパン屑はいただきます。」 マルコ 7 章 28 節

8) 人は、たとえ全世界を手に入れても、自分の命を失ったら、何の得があろうか。自分の命を買い戻すのに、どんな代価を支払えようか。 マルコ 8 章 36,37 節

9) はっきり言うておく。キリストの弟子だという理由で、あなたがたに一杯の水を飲ませてくれる者は、必ずその報いを受ける。」 マルコ 9 章 41 節

10) はっきり言うておく。子供のように神の国を受け入れる人でなければ、決してそこに入ることはできない。」 マルコ 10 章 15 節

いちばん上になりたい者は、すべての人の僕になりなさい。人の子は仕えられるためではなく仕えるために、また、多くの人の身代金として自分の命を献げるために来たのである。」 マルコ 10 章 44,45 節

11) だから、言うておく。祈り求めるものはすべて既に得られたと信じなさい。そうすれば、そのとおりになる。 マルコ 11 章 24 節

12) 死者が復活することについては、モーセの書の『柴』の箇所、神がモーセにどう言われたか、読んだことがないのか。『わたしはアブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神である』とあるではないか。神は死んだ者の神ではなく、生きている者の神なのだ。あなたたちは大変な思い違いをしている。」 マルコ 12 章 26,27 節

ところが、一人の貧しいやもめが来て、レプトン銅貨二枚、すなわちクアドランスを入れた。イエスは、弟子たちを呼び寄せて言われた。「はっきり言うておく。この貧しいやもめは、賽銭箱に入れている人の中で、だれよりもたくさん入れた。」 マルコ 12 章 42,43 節

13) そのとき、人の子が大いなる力と栄光を帯びて雲に乗って来るのを、人々は見ると、そのとき、人の子は天使たちを遣わし、地の果てから天の果てまで、彼によって選ばれた人たちを四方から呼び集める。」 マルコ 13 章 26,27 節

14) 誘惑に陥らぬよう、目を覚まして祈っていなさい。心は燃えても、肉体は弱い。 マルコ 14 章 38 節

15) 三時にイエスは大声で叫ばれた。「エロイ、エロイ、レマ、サバクタニ。」これは、「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか」という意味である。 マルコ 15 章 34 節

16) 若者は言った。「驚くことはない。あなたがたは十字架につけられたナザレのイエスを捜しているが、あの方は復活なさって、ここにはおられない。御覧なさい。お納めした場所である。」 マルコ 16 章 6 節

マルコの福音書のアウトライン

1. 準備段階(1:1-13)

- (1) 表題(1)
- (2) 先駆者ヨハネ(2-8)
- (3) イエスの受洗(9-11)
- (4) 荒野の誘惑(12-13)

2. ガリラヤ初期伝道(1:14-3:6)

- (1) 伝道の開始(1:14-45)
 - a. 4弟子の召命(14-20)
 - b. カペナウムの1日(21-39)
 - c. ツァラアトをきよめる(40-45)
- (2) 権威の主張(2:1-3:6)
 - a. 中風の人はいやし(2:1-12)
 - b. 取税人や罪人と共に(2:13-17)
 - c. ぶどう酒と皮袋(2:18-22)
 - d. 安息日の主(2:23-3:6)

3. 広がりゆく伝道活動(3:7-8:30)

- (1) みもとに座る人々(3:7-35)
 - a. 東西南北から(7-12) =41
 - b. 12弟子の任命(13-19)
 - c. ベルゼブル論争(20-30)
 - d. 主の家族(31-35)
- (2) 神の国のたとえ(4:1-34)
 - a. 種まきのたとえ(1-9)
 - b. たとえの解き明かし(10-20)
 - c. 今聞けます(21-25)
 - d. 神の国の成長(26-34)
- (3) 信仰と力あるみわざ(4:35-6:6)
 - a. 「黙れ、静まれ」(4:35-41)
 - b. 「汚れた霊よ、出て行け」(5:1-20)
 - c. 「安心して帰りなさい」「タリタ・クミ」(5:21-43)
 - d. 驚くべき不信仰(6:1-6)
- (4) 弟子の訓練(6:7-56)I
 - a. 12弟子の派遣(7-13)
 - b. バプテスマのヨハネの死(14-29)
 - c. 5千人の給食(30-44)
 - d. イエスの湖上歩行(45-52)
 - e. ゲネサレでのいやし(53-56)
- (5) 汚れときよめ(7:1-30)
 - a. 神の戒めと人間の言い伝え(1-13)j4
 - b. 汚れと人の心(14-23)
 - c. 異邦人の信仰(24-30)
- (6) 目があっても見えず(7:31-8:30)
 - a. エパタ(7:31-37)1
 - b. 4千人の給食(8:1-10)
 - c. しるしを求めるパリサイ人(8:11-13)
 - d. いまだ悟らず(8:14-21)
 - e. 盲人のいやし(8:22-26)
 - f. ペテロの告白(8:27-30)

4. 十字架の道(8:31-10:52)

- (1) 受難の予告と弟子の道(8:31-9:1)
 - a. 受難の予告I(8:31-33)

- b. 弟子の道(8:34-9:1)
- (2) 山の頂で・ふもとで(9:2-29)
 - a. 栄光の姿(2-8)
 - b. 人の子とエリヤの関係(9-13)
 - c. いやされたてんかんの少年(14-29)
- (3) 弟子のあり方(9:30-50)
 - a. 受難の予告II(30-32)
 - b. 仕える者となる(33-37)
 - c. 和合して暮らしなさい(38-50)
- (4) 神の国に入る者(10:1-52)
 - a. 結婚と離婚(1-12)
 - b. 子供のように神の国を受け入れる(13-16)
 - c. 富める青年(17-22)
 - d. 神には出来る(23-31)
 - e. 受難の予告IIIと弟子の道(32-45)
 - f. バルテマイ(46-52)

5. エルサレムにて(11:1-13:37)

- (1) エルサレムに入る(11:1-25)
 - a. 王の入京(1-11)
 - b. エルサレムの霊的実態(12-19)
 - c. 祈りについて(20-25)
- (2) エルサレムでの論争(11:27-12:44)
 - a. 天からか人からか(11:27-33)
 - b. 邪悪な農夫たちのたとえ(12:1-12)
 - c. カイザルへの税金(12:13-17)
 - d. サドカイ人の無知(12:18-27)
 - e. 一番大切な命令(12:28-34)
 - f. ダビデの子(12:35-37)
 - g. 律法学者とやもめ(12:38-44)1
- (3) 終わりの時(13:1-37)
 - a. 神殿崩壊の宣告(1-4)
 - b. 前兆(5-23)
 - c. その日(24-27)
 - d. 気を付けなさい(28-37)

6. イエスの受難(14:1-15:47).

- (1) 迫り来る最後(14:1-52)
 - a. 指導者とユダの思惑(1-2、10-11)
 - b. 香油の注ぎ(3-9)
 - c. 最後の晩餐(12-25)
 - d. ゲツセマネの祈りと逮捕(26-52)
- (2) 大祭司の邸宅で(14:53-72)
 - a. 大祭司の前での審問(53-65)
 - b. ペテロの否認(66-72)
- (3) 十字架(15:1-47)
 - a. ピラトの前で(1-15)
 - b. ローマ兵士による嘲弄(16-20)
 - c. 十字架刑(21-41)
 - d. 埋葬(42-47)

7. 復活(16:1-8)

8. 末尾の問題

- (1)本書は 16:8 で完結していたか
(2)付加された末尾について(16:9-20)

- (3)別の追加文について

マルコによる福音書についての学びの質問

マルコによる福音書 1章

福音の始まり (マルコ1:1-8)

1. 福音は誰についてのメッセージでしょうか。(1,1コリント15:1-8を参照に)
2. ナザレのイエス様はどのようなお方ですか。(1) イエス・キリスト様はあなたにとってどのようなおかたですか。
3. イエス様の公の活動に準備をするためにバプテスマのヨハネがどのような役割を果たしましたか。(2-3)もしイエス様は福音であるなら、バプテスマのヨハネは何だったでしょうか。律法と福音は互いにどのような関係にありますか。(ローマ 3:19-25を参照に)
4. あなたの心の中に律法はイエス様にどのように道を開いたでしょうか。(3)
5. バプテスマのヨハネの活動はどの二つの事を強調しました。(4)
6. 悔い改めはどういう内容ですか。(4) 罪の告白と懺悔は赦される理由ですか、それともその条件ですか。赦しの理由は何でしょうか。(1ヨハネ1:7,9を参照に)
7. ヨハネの施したバプテスマが罪の赦しを指したのですが、赦しの実現は最終的にイエス様の十字架のと復活による聖霊のバプテスマです。(4,8)
8. 罪の告白はどうして大切ですか。(5) あなたは自分の罪を主の前に認めて来ましたが、それとも罪を隠していますか。告白は何故必要ですか。
9. バプテスマのヨハネの使命は神様からですが、彼はそれをイエス様の使命にどう比べましたか。(7-8) イエス様はヨハネとその生き方をどう評価しましたか。(6,マタイ11:7-14を参照に)

イエス様の活動の始まり (マルコ1:9-15)

10. 洗礼の意味は何でしょうか。(4,8,10) イエス様はどうしてバプテスマのヨハネの洗礼を受けられましたか。(9,マタイ3:13-14を参照に)
11. イエス様の洗礼の中に三位一体の神様のそれぞれの各位(人格)はどう現れましたか。(10-11)
12. キリスト者の救いの確信はイエス様の完全な生き方にもよります。父なる神様の御声は私たちにどのような様な慰めになりますか。(11)
13. 聖霊はイエス様を荒野に何のために導いたでしょうか。(12-13、マタイ4:1-11を参照に)悪魔の誘惑に合う時に私たちの助けは何ですか。
14. バプテスマのヨハネとイエス様の活動はユダヤ地方でやく一年間並行して行われました。イエス様のガリラヤ地方の活動はいつ始まりましたか。(14)
15. イエス様のメッセージの要点は何ですか。(15) イエス様とバプテスマのヨハネのメッセージはどう違いましたか。(3,7,15)自分の悔い改めの祈りを書いて下さい。
16. 時が満ちる事は何を指すでしょうか。(15)
17. 神の国はどのようなものでしょうか。(15,ローマ14:17)神様の国がどのように近づきますか。あなたの人生に主がどのように来られましたか。証を書いて下さい。
18. 福音は何ですか。(15,1コリント15:1-8を参照に)
19. 福音を信じる事はどのようなことですか。(15)

初めの弟子たち (マルコ1:16-20)

20. シモン(ペテロ)とその兄弟アンデレの仕事はなんでしたか。(16) あの二人は一年前からイエス様の弟子に招かれました。(ヨハネ1:36-42)一年間はイエス様の教えを聞いたり、一緒に行動しましたが、途中で漁師の仕事も続けました。仕事をしながら伝道活動は多くのキリスト者の選択ですが、あなたはどうか伝道しますか。
21. 今度はイエス様はどのような招きをなさいましたか。(17、マタイ4:18-22を参照に)
22. 人間を取る漁師はどのような働きをしますか。(17) イエス様はあなたをどのような働き人に造り変えて下さいますか。ある教師の賜物を持つ方はこう言いました。イエス様は私を人間を取る漁師に招きませんでした。かえって「私は人間に聖書を教える教師にします」と招かれました。またその通りになりました。
23. イエス様はどのように弟子たちを作り変えられたでしょうか。(17) あなたはどのような様な訓練と変化を必要としますか。
24. 全面的に伝道の働きをするために何を捨てなければなりませんか。(18,20) イエス様に従おうとするなら、何を捨てるべきですか。(マルコ8:34-38を参照に)
25. イエス様はヨハネとヤコブをどのような場面で見つけましたか。(19) 主からの招きはどのような時又場面で私たちに来ますか。

26. ヨハネとヤコブのお父さんは大祭司の知り合いで(ヨハネ18:15-16)で、かなりの裕福な方でした。弟子たちに招かれる時に私たちの家庭的な背後や経済的な状況はどのような役割をするでしょうか。(20) あなたにとって一番捨てにくい事は何でしょうか。

カペルナウム会堂の礼拝 (マルコ1:21-28)

27. 安息日になるとイエス様は会堂の礼拝に出席する習慣がありました。なぜでしょうか。(21)あなたにとって礼拝出席はどのようなものですか。
28. イエス様は会堂でどのように教えたでしょうか。(21,ルカ4:16-21と使徒13:14-17を参照に)
29. イエス様の教えの特徴はなんでしたか。(22)イエス様の権威は何によりますか。
30. 悪霊はどのような存在ですか。(23,マタイ12:45とルカ8:30,33とエペソ6:12を参照に)
31. 悪霊の特徴は何ですか。(24,34,マルコ3:11を参照に)悪霊たちは何を恐れていますか。私たちは悪霊たちを恐れる必要がありますか。
32. 悪霊は人にどのような影響を及ぼしますか。(マタイ9:32-33,マルコ 5:1-13,9:17-27を参照に)
33. イエス様は悪霊をどのように追い出しましたか。(25,マルコ16:17-18を参照に) あなたはどのように悪霊を追い出す事が出来ますか。
34. イエス様の言葉の力で悪霊が追い出されると何が起こりますか。(26,使徒16:16-19を参照に)
35. 悪霊たちはイエス様に従わなければなりません、それはイエス様について何を語りましたか。(27)あなたはイエス様をどう見ますか。
36. イエス様にとって評判はどのぐらい大切な事だったでしょうか。(28,44)あなたにとって評判はどのぐらい大切な事ですか。

ペテロの姑と多くの方々の癒し (マルコ1:29-34)

37. 会堂礼拝の後イエス様はシモンペテロとアンデレの家になぜ行かれたでしょうか。(29,31)
38. ペテロの姑はどのような状態にいましたか。(30)
39. 祈りの本質は何ですか。(30,使徒4:24-31を参照に) ペテロたちはイエス様にアドバイスをしましたか。
40. イエス様じゃ姑をどのように癒して下さいましたか。(31)完全に癒されるためにどのぐらいの時間がかかったでしょうか。
41. 癒された姑は何をしましたか。(31) 私たちの健康は何のためですか。
42. 他の病人や悪霊につかれた人々はどうして夕方まで待ちましたか。(32)当時のユダヤ教の指導者たちは安息日に行われる、癒す活動をどう見ていましたか。(マルコ3:4とヨハネ5:9-10、9:16を参照に)
43. イエス様は集まったすべての病人を癒して、悪霊を追い出した事で何を示したでしょうか。(33-34)

イエス様の活動の目的 (マルコ1:35-39)

44. イエス様の活動の秘訣は何でしたか。(35)
45. イエス様は朝の早い時に祈られました。(35) あなたの祈りの生活はどんなものですか。
46. イエス様にとって人気はどのぐらい大切でしたか。(36-38) あなたを人気はどのぐらい動かしますか。
47. イエス様は人を癒すより何を大切にしましたか。(38) それはどうしてでしょうか。
48. 福音宣教と癒す活動は互いにどのような関係にあったでしょうか。(39) あなたにとって魂の永遠の救いは地上の体の癒しより大切ですか。

らい病人の癒し (マルコ1:40-45)

49. 伝染の恐れのあるらい病に対してモーセの律法は隔離政策を命じましたが、らい病人はイエス様のところにその規定に反して来たのは何故でしょうか。(40,ルカ17:12-14を参照に)
50. らい病人の信仰の特徴は何でしたか。(40)
51. 救いと癒しを誰が決定しますか。(40,41) 私たちには救いと癒しを受ける資格がありますか。何故でしょうか。
52. イエス様は人々の苦しみをどう感じますか。(41) あなたは人の苦難にどのような態度で臨みますか。
53. イエス様は来病人に触ったのは何故でしょうか。(41)
54. らい病は瞬間的に癒されましたが、新約聖書はらい病に関して癒すより清められたという表現を使いますが、何故でしょうか。(42,民数記12:9-15を参照に)
55. イエス様はなぜ多くの癒された人に経験した癒しについて黙るように言われたのですか。(44,45) 体の癒しより大切な事はなんですか。
56. 祭司たちにはらい病人に対してどのような権限がありましたか。(44,レビ記14:2-32を参照に)
57. 癒された人の行動はイエス様にとって迷惑でした。(45) 私たちキリスト者はどのようにイエス様の証しをすべきでしょうか。

マルコによる福音書 2章

中風の癒し (マルコ2:1-12)

1. 公の活動の時にイエス様の住まいはどこでしたか。(1)
2. イエス様は集まった人々に何を語りましたか。(2,5)
3. 中風の四人の友達の信仰はどのように現れましたか。(3-5) 信仰と愛は互いにどのような関係にありますか。
4. 信仰はイエス様のところに行く事と定義されたら、イエス様のところで行く途中でどのような妨げに打ち勝たなければなりませんか。(4) あなたの信仰の妨げにどのような事がありますか。
5. イエス様は私たちの心の状態が完全に分かりませんが、その中に主は特に何に注意を払いますか。(5)
6. 中風の人の最も深刻な問題は何でしたか。それをイエス様はどのように扱いましたか。(5) あなたは神様から頂いた罪の赦しを始めて経験したのは何時でしたか。それはどのような経験でしたか。
7. イエス様は中風の人から公の罪の告白を要求しませんでした。何故でしょうか。(5,8) イエス様が私たちの心の動きを完全に知って理解するのはあなたにとってどのような事ですか。
8. 律法学者たちのイエス様に対する心の考えには正しい部分と間違った部分がありました。それぞれを言って下さい。(6-8) 彼らの態度は何だったのでしょうか。彼らは何故イエス様の家に来ていたのでしょうか。
9. イエス様が9節で提供した質問の答えは何でしょうか。この質問は私たちにとって易しいか難しいかと言うよりも神様にとってどちらが難しいですかと言う意味で考えて見て下さい。癒しの為に何が必要ですか。罪を赦すために何が必要ですか。
10. 罪を赦す権限は地上に限定されるのは何故でしょうか。(10) 死後に罪の赦しのチャンスがあるのでしょうか。
11. イエス様は中風の人にどのような命令をしましたか。(11) 動く事の出来ない彼はどのようにしてそれに従う事が出来ましたか。(12) イエス様の命令は律法でしたか、それとも福音の約束でしたか。何故ですか。
12. イエス様がなされた奇跡は中風の為に必要だったか、それとも律法学者たちに信仰を与えるために必要でしたか。(10,12) 中風の人にとって最も大切な事は何でしたか。(5,10) あなたの一番深い必要は今なんなのでしょうか。イエス様はそれにどのような答えを与える事が出来るのでしょうか。
13. この出来事はどのような影響を及ぼしましたか。(12) あなたは神様の御業を見たら何をすべきですか。

レビつまりマタイの招き (マルコ2:13-17)

14. イエス様はよく湖の近くや山々やヨルダン川の近くで活動しました。何故でしょうか。(13) あなたにとって自然はどのような意味をしますか。
15. イエス様の時代で税金や関税はどのように集められたのでしょうか。(14) その税金はローマの支配下にあったイスラエルで何のために使われたのでしょうか。私たちの税金に対してどのような態度を取るべきですか。
16. イエス様は取税人レビにどのような招きをなさいましたか。(14) それは結婚のプロポーズにどの様に似ていますか。
17. イエス様に従う事は何を与えますか、又何を要求しますか。それはレビにとってどんなものだったのでしょうか。(14,マルコ8:34-38を参照に) あなたにとってイエス様の後につく事はどんな祝福、又どんな困難をもたらせますか。
18. イエス様に従う人々の中に沢山の取税人と罪人(売春婦)がいた事はイエス様について何を語りますか。(15,17) それはイエス様の評判にどんな影響を及ぼしましたか。(16)
19. イエス様は招かれたら何処でも人々と食事の交わりをしました。何故でしょうか。(15) 教会の伝道にとって愛餐会や食事の交わりはどのような役割を果たすのでしょうか。
20. イエス様はどんな人を救うためにこの世に来られましたか。(17) あなたはイエス様の救いを必要としますか。

断食についての質問 (マルコ2:18-22)

21. 断食はキリスト者にとって必要ですか。又その役割は何でしょうか。(18,民数記29:7,マタイ6:16-18を参照に) あなたは断食をしたことがありますか。何のためにしましたか。
22. いつ断食すべきですか。何時しなくてもよいのです。(19,20)
23. イエス様は弟子たちにとってどのような存在ですか。(19) あなたにとってイエス様との交わりはどんなものですか。
24. 弟子たちの断食の時は何時でしたか。(20)
25. イエス様の喩えの新しい布と新しい葡萄酒は何を指しますか。(21-22) 旧約聖書と新約聖書は互いにどのような関係にありますか。
26. この喩えはよく次のように解釈されます:形にはまった、命を失った宗教を新たにすることが出来なくて、リバイバルが起こると新しい組織を作らなければならないと。イエス様の教えと一致しますか。(21-22)

安息日の主 (マルコ2:23-28)

27. 弟子たちは麦畑の中から穂を摘み始めたのは何故でしょうか。(23,レビ記19:9-10) 私たちは食べ物のない人に何をすべきですか。
28. イエス様の一行は経済的にどのくらい恵まれていましたか。(23) 私たちが経済的に困る時に何を覚えるべきですか。(マタイ6:25-34)

29. パリサイ人の問題意識は何でしたか。(24)
30. ダビデの一行が食べ物不足で何を貰ったでしょうか。(25-26,出エジプト29:33を参照に)それは何故でしたか。
31. 宗教的な規定と人々の基本的な必要が衝突すると何を優先すべきでしょうか。(25-26)
32. 安息日は何のためですか。(27) 日曜日の正しい使い方は何でしょうか。
33. イエス様はどんな権能をもっておられますか。(28) それは私たちにとってどういう意味になるでしょうか。

マルコによる福音書 3章

イエス様の癒し活動 (マルコ3:1-12)

1. イエス様は又會堂で安息日に片手のなえた人を直すかどうかをパリサイ派の人々は何故監視したでしょうか。(1-2,6)あなたは人の行為をどのような動機と基準で見ていますか。
2. イエス様は片手のなえた人をもパリサイ派の人を愛しましたが、その愛をそれぞれにどの様に示して下さいましたか。
ア)片手のなえた人に(3,5) イ)パリサイ人に (4)
3. イエス様は人々の罪を指摘するために使った質問の答えは何でしょうか。(4) 人を真理に導くためにどのような質問を使った方がよいでしょうか。
4. 悔い改めない人に対してイエス様は怒りと悲しみを示しましたが、怒りの理由は何だったと思いますか。悲しみの原因は何だったでしょうか。(5) イエス様は今のあなたを見て何を感じておられるでしょうか。
5. イエス様を人々はどのように殺したかったでしょうか。(6) 現代の人の中にイエス様の存在を自分の人生において殺したいのは何故でしょうか。
6. イエス様のところに大勢の人々がどこから集まりましたか。(7-8) イエス様の活動の範囲はどのぐらいでしたか。
7. 集まった人々の動機は何でしたか。(8,10,使徒4:29,30を参照に) あなたはイエス様のところに行く動機は何ですか。
8. 悪霊たちは主の御前でどう反応しますか。(11,ヤコブ4:7を参照に)
9. イエス様は悪霊たちの証しを何故拒んだでしょうか。(12,使徒16:16-19を参照に)

12人の使徒の選択 (マルコ3:13-19)

10. キリスト者になるための招きの他に主に用いられる召命もあります。両方は誰の決定によりますか。(13,ローマ9:16を参照に)
11. 使徒たちは福音宣教と悪霊を追い出す権威が与えられましたが、それ以前に彼らは何をすべきだったのですか。(14,ヨハネ15:5,7を参照に) 主の近くにおる事は今どのように出来ますか。
12. イエス様がある弟子たちに新しい名前を与えたのは何故でしょうか。(16,17,マタイ16:17-19を参照に)
13. イエス様はなぜ裏切りのユダを使徒の中に選ばれたでしょうか。(19, ヨハネ6:71,13:21-27,使徒2:23-24を参照に)
14. 私たちにとって使徒たちの最も大切な使命は何でしたか。(エペソ2:19-22と2ペテロ1:16-21)

イエス様の家族と律法学者たちの不信仰 (マルコ3:20-35)

15. あまりにも沢山の人の必要に答えるためにイエス様と弟子たちには食事をする暇さえなかったのですが、自分の必要をおいて他の人々の必要を優先すべきでしょうか。(20,ヨハネ4:31-34を参照に)
16. 一般の常識から見たらイエス様の活動はその家族の人々にもどう見えましたか。(21,ヨハネ7:5を参照に)
17. エルサレムから来た律法学者たちはイエス様の評判を落とすためにどのような攻撃を始めたでしょうか。(22) 現代もキリスト信仰がどのように攻撃されますか。 あなた自身は信仰のゆえに攻撃を受けたことがありますか。
18. イエス様がなさった奇跡を否定できない人々はその力が神様からではなく悪魔からと彼らが主張しましたが、イエス様の答えは何でしたか。(23-26,ヨハネ8:48-49を参照に)
19. イエス様の喩えの強い人ともっと強い人はサタンとイエス様を指しますが、イエス様は悪魔に打ち勝って、悪魔を縛ったのは何時でしたか。(27,ヘブル2:14-15,1ヨハネ3:8を参照に)
20. イエス様を汚す罪も悔い改める人に十字架の恵みのゆえに赦されますが、なぜ聖霊様を汚す罪は永遠に赦されないのですか。(28-30,ヘブル6:4-6;10:26-31を参照に)
21. イエス様の母マリアと兄弟たちはナザレからカペルナウムにイエス様の公の活動を辞めさせるために家の外まで来た時にイエス様はどう反応しましたか。(31-34)
22. 彼らの行為は人間的な愛情から生まれたと考えられますが、人間的な感情よりも遥かに大切なものは何ですか。(35,マタイ16:22-23;19:29を参照に)あなたはイエス様を信じるゆえに家族の方から問題にぶつかった事がありますか。

マルコによる福音書 4章

種蒔きの喩えとその説明 (マルコ4:1-20)

1. イエス様は湖の船から岸辺に集まった大きな群衆に喩えで神の国性質を教えられました。(1-2) 種蒔きのやり方は現代と違って、種を先に蒔いて、それから鋤を使って土を耕しながら、種を土に入れ混じりました。落ちた種は、どうなりましたか。

(イ)道ばたに落ちた種(4) (ロ)岩の上に落ちた種(5-6)

(ハ)いばらの中に落ちた種(7) (ニ)良い地に落ちた種(8)

2. 種には、どのような意味がありますか。(14)
3. 道ばたに落ちた種には、どのような霊的な意味がありますか。(15)
4. 岩の上に落ちた種には、どのような霊的な意味がありますか。(16-17)
5. いばらの中に落ちた種には、どのような霊的な意味がありますか。(18-19)
6. 20節の良い地の人々の、みことばに対する態度について、三つか四つつ挙げてください。(ルカ8:15を参照に)
7. イエスは、私たちがこのたとえ話から、何を覚えるように望んでいるのでしょうか。
8. 種蒔きの例え話は運命論を教えている訳ではありません。すなわち、人間の心の状態によって人間が必然的にみ言葉を受け入れるかどうかと言う意味ではありません。み言葉を聞くすべての人々は悪魔の邪魔や試練やこの世の心配事と誘惑に直面しなければなりません、よい心を得させる力は何でしょうか。(3,9,14,20)
9. どうしてイエス様は例え話を使って教えたのでしょうか。(11-12,マタイ13:10-17を参照に)
10. 神の国の奥義は何でしょうか。(11,エペソ1:9-14;3:3-12を参照に)
11. 12節で救いの道は簡単に否定的な形で纏まっていますが、それを肯定的に言い表して下さい。
12. 現代の心を頑なに、偏見をもって、福音の意味を理解しようともない人々にどの様に語るべきでしょうか。(12) あなたはどのような偏見を持ちますか。真理の理解を妨げる偏見から解放されるにはどうしたらよいでしょうか。(使徒10:26,28を参照に)
13. もし種が神様のみことばであるなら、豊かな実を結ぶよい心の人々の生き方はどんなものなのでしょうか。(20) み言葉を述べ伝える事はキリスト者にとって重荷でしょうか、それとも特権でしょうか。何故でしょうか。

み言葉の正しい受け止め方 (マルコ4:21-25)

14. 神の国の奥義は心の固い人にとって隠されていて、救われた私たちにどの様なものです。(21)
15. み言葉によって生かされているキリスト者の使命は何でしょうか。(22,2コリント4:6,7,13;5:18-21を参照に)
16. クリスマン生活の秘訣は何でしょうか。(23,24,黙示録2:7,11,17,29を参照に)
17. 聞くことはただ耳を使う事だけではなく、従う意味も含まれます。もし私たちが注意深く主の御声を聞き従うなら、何が起こるでしょうか。(24) ある先生はこう言いました:「もしあなたは水をスプーンで汲むなら、少ししかもらえません。スクープで汲むなら、もっともらいますが、バケツで汲んだ方がよい」と。み言葉をバケツで一杯汲んで、どのような約束が与えられますか。(24)
18. 定期的にもみ言葉を受け入れないとどうなりますか。(25) あなたの聖書の読み方はどんなものですか。

麦とからし種の喩え (マルコ4:26-30)

19. 神の国の成長はどこから始まりますか。(26) 種蒔きをする人は誰を指すでしょうか。あなたはどのように人の心に神様の言葉を蒔いていますか。
20. 神の国(イエス・キリスト様の支配)は蒔く人の努力によりますか。(27-28) み言葉の生命力は何によりますか。(ローマ1:16,1コリント1:18を参照に)
21. 神の国の成長は何時まで続きますか。(29,マルコ13:4-13を参照に) イエス様の再臨は近いですか。
22. からし種の喩えは現在どの程度まで成就していますか。(31-32)
23. からしが異常に大きく成長すると鳥たちもその上に巣を造る事が出来ますが、鳥たちはこの喩えで何を指すでしょうか。(32) 種蒔きの喩えの中に鳥たちは悪魔を指しましたから、もしかしたらイエス様は教会が世界的に広がるにつれて、不健全な事も起こると解釈する人もいます。あなたはどう理解していますか。
24. あなたは聖書をどのぐらい理解できますか。(33) 理解できる範囲でみ言葉に従ったら、イエス様は新しい段階まで導いて下さると思いますか。
25. イエス様が私たちの理解に合わせてみ言葉を啓いて下さるのは、イエス様について何を語りますか。(33)

嵐を沈めたイエス様 (マルコ4:35-41)

26. イエス様が指示をしたら、弟子たちは何をしましたか。(35-36) 主があなたの心に語るとすぐ従いますか。なぜそうしますか。
27. イエス様が共におられるのはあなたにとってどんな意味をしますか。(36)
28. イエス様が一緒にいられても行く道に問題が起こらないとは限らない事は私たちにどんな意味がありますか。(37) 何のためにイエス様は私たちをわざと困難な場面に導いて下さいますか。 あなたの今までの人生経験から例を挙げて下さい。
29. 凄い嵐の中にイエス様が眠れた事はその肉体的な状態について何を語りますか。又その霊的な状態について何を。(38)
30. 弟子たちの恐怖はどのぐらいでしたか。(38) あなたは危機的な状況にぶつかるとうどう反応しますか。
31. 弟子たちの頼み(祈り)は不信仰の祈りでしたが、イエス様はそれにどう答えましたか。(38-40)

32. 嵐を沈めた事でイエス様はご自分について何を表しましたか。(39,41) 自然界はどうしてイエス様の言葉に従わなければならなかったのですか。(ヨハネ1:3を参照に)
33. 恐れからの解放の鍵は何でしょうか。(40) 恐れ反対は何ですか。
34. 信仰はどんなものなのでしょうか。(40) 信仰はどのように成長できるのでしょうか。

マルコによる福音書 5章

イエス様はゲラサに (マルコ5:1-20)

1. 湖の向こう側のゲラサにつくと何が起こりましたか。(1-2)
2. 悪霊は人にどのような力とどのような行為をさせますか。(3-5) 悪魔と悪霊の狙いは何でしょうか。(5) 悪霊は人の中に住んでいる別の人格で、その人を支配します。悪霊につかれている状態と精神的な病状は関係がありますか。
3. 悪霊たちはイエス様を恐れています。何故ですか。(6-8)
4. イエス様は悪霊の名前を尋ねたのは何故でしょうか。(9) み使いたちと同様に悪霊にランクがあって、弱いと強いものがあります。一人の人間の中に多くの悪霊が住むと状態はどうなりますか。(3-5)
5. 悪霊たちは人間の他に動物にも入る事ができます。悪霊たちは最終的に永遠の滅びに行かなければならないと知って恐れています。その時までどこかで住もうとします。どうしてイエス様は悪霊たちの願いに応じたのでしょうか。(10-13)
6. イエス様はどうして豚の群れの消滅を赦したのでしょうか。(13) 旧約聖書は豚肉を食べてはいけないと命じたのは何故ですか。(レビ記11:4-8を参照に)現代の私たちは豚肉を食べてよいのでしょうか。(使徒10:13-16とローマ14:15-23と1コリント8:8を参照に)
7. 悪霊から解放された人はどうになりましたか。(15) 悪魔と悪霊がキリスト者に色々の誘惑と攻撃をさせますが、聖霊を持っているクリスチャンに悪霊が住む事が出来ますか。悪魔と悪霊に対してどのように抵抗できますか。(2コリント12:7-9とエペソ6:11-19と1ペテロ5:8-9を参照に)
8. イエス様がなされた奇跡を人々はどのように反応しましたか。(14-16) 彼らの恐れの原因は何だったのでしょうか。(15)
9. イエス様はなぜ彼らにとって都合の悪い存在でしたか。(17) あなたの商売とイエス様に聞き従う事が矛盾する時に何をしますか。
10. イエス様は解放された男にどのような使命を与えましたか。(19-20) イエス様今回らい病から癒された人に与えられた命令と全く違うような指示をしましたが、どうしてでしょうか。(1:44-45を参照に)
11. イエス様はあなたにたいしてどのような御業をなさってきましたか。そりについてあなたはどのように証しますか。

ヤイロの娘と長血の女性 (マルコ5:21-43)

12. 湖の向こうから戻ったら、イエス様のところにどのような人が来て、何を頼んだでしょうか。(21-23) あなたの身近な人がいのちの危険にぶつかったら、あなたの祈りは何でしょうか。イエス様はそれにたいしてどう答えましたか。あれば事例を挙げて下さい。
13. イエス様はヤイロの頼みにどう答えましたか。(24) 危機的な状況の中にイエス様が近くにおられるのはどのような意味があるのでしょうか。
14. 群衆の中に長血を患っている女性がどのような信仰を持ちましたか。またそれによってどのように行動しましたか。(26-28) あなたの信仰がどのような行動を持たれますか。事例を挙げて下さい。(ヤコブ2:26を参照に)
15. イエス様の服装に触ったら何が起こりましたか。(29-30,エペソ1:19-21を参照に)
16. イエス様は癒された女性を見たかった理由は何でしたか。それは本人にとってどのような恵みをもたらせました。又ヤイロにとってどのような励ましになりましたか。(32-34)
17. 34節の「直すか癒す」と言うギリシャ語の言葉は「救う」と言う意味もありますから、イエス様の癒しの力は女性に恐れをもたらしたが、イエス様の言葉は彼女に何を与えたのでしょうか。(34) 肉体的な癒しと霊的な平安、どちらが最も大切ですか。
18. ヤイロの娘が亡くなった事に対して、イエス様は何を言われましたか。(36) 絶望的な時に私たちの望みはどこにありますか。事例を挙げて下さい。
19. イエス様がただ3人の弟子たちを連れて行ったのは何故でしょうか。(37;9:2と14:33を参照に)
20. ユダヤ教の当時の葬儀の準備に何が付きものでした。(38) 死別れの時に泣いたりする事はどのような役割を果たすのでしょうか。
21. イエス様の言葉に対して人々は笑いました。何故でしょうか。(39-40)
22. どうしてイエス様は死について眠るという言葉を使ったのでしょうか。(39,ヨハネ11:11-15と1コリント15:6,18,51;1テッサロニケ4:13を参照に)
23. イエス様はヤイロの娘に何を言われましたか。(41) その言葉を使った理由は相手が聞いている前提で言われたでしょうか。それは死のこちら側と向こう側がどのような関係にある事を示しますか。
24. 女の子はどうしましたか。(42)
25. この奇跡についてどうして語っていけなかったのでしょうか。(43)

マルコによる福音書 6章

ナザレの人々の不信仰 (マルコ6:1-6)

1. イエス様は生まれ育った町の会堂で安息日に教えました。聞く人々の第一印象はどうでしたか。(1-2) あなたは新約聖書を通してイエス様の教えに関心しますか。又その軌跡や力ある御業をどう思いますか。
2. 彼らはどうしてイエス様に躓きましたか。(3) あなたと一緒に育った人があなたより成功して、認められるとどう感じますか。
3. どうして家族と親戚とに認められるのは難しいですか。(4, ルカ4:16-30を参照に)
4. イエス様は大きな御業をナザレで出来なかった理由は何でしたか。(5-6)
5. 不信仰の本質は何でしょうか。それはどのような影響を及ぼしますか。(6) 不信仰は信仰がないよりも、自分自身でやっつけていける姿勢なら、自分自身を信じる、すなわち、反信仰と言う意味でしょうか。聖書はどうして不信仰を最も大きな罪として教えていますか。

使徒たちの派遣 (マルコ6:7-13)

6. イエス様はどうして使徒たちを二人組で派遣したのでしょうか。(7) 私たちの伝道を考えたらその事から何が学べますか。
7. 服装とその他の持ち物についての指示は何故だったのでしょうか。(9-10, マタイ10:5-15を参照に) これは永久に適用すべき原則ですか、それともその時に弟子たちに信仰による歩みを訓練させるためのものだったか。(ルカ22:35-38を参照に)
8. 泊めてもらえる家を代えてはいけない理由は何だったのでしょうか。(10) 伝道と教会形成においてキリスト者の家庭の役割は何でしょうか。
9. 拒否されたら静かに次の所に行くべきでしょうか。足の裏のちりを払い落とす事はどんな意味を持つのでしょうか。(11, 使徒16:35-40を参照に)
10. 使徒たちはどのようなメッセージを伝えましたか。(12) 今日にも悔い改めのメッセージを伝えるべきですか。
11. イエス様は使徒たちに悪霊を追いついて、人を癒す権威を与えましたが、現代の私たちにも同じ権威が与えられていますか。(13)
12. 油を注いで癒す活動をする事は具体的にどう行うべきですか。(13, ヤコブ5:13-16を参照に)

バプテスマのヨハネの死 (マルコ6:14-29)

13. ヘロデ王と他の人々はイエス様の事を聞いて、どう思いましたか。(14-15, 8:28を参照に)
14. ヘロデ王の言葉は彼の心の状態をどう表しますか。(14, 16) 咎める心の攻めがヘロデ王に恐れを起こしたが悔い改めのない恐怖はどのような行動に人を導きますか。(ルカ13:31-32; 23:6-11を参照に)
15. バプテスマのヨハネはヘロデ王の罪を攻めに行った時にそれは危険と分かったはずですが、それにしてもどうして宮殿に行ったのでしょうか。(17-18) この個所は離婚と再婚についてどのような示唆を与えるのでしょうか。
16. バプテスマのヨハネのメッセージはヘロデ王の良心にどの様に響いたのでしょうか。(20) 良心の攻めが私たちに悔い改めに導かなかつたら、どんな結果になりますか。
17. ヘロデヤはどうしてバプテスマのヨハネを憎んだのでしょうか。(19, 21-25) 憎しみはどこから生まれて、又人を何処までさせますか。憎しみからの解放はどこにあるのでしょうか。(1ヨハネ2:9-11を参照に)
18. 酒と性的なダンスは人に何をさせますか。(22) 清い生き方をするために何を避けるべきですか。インターネットポルノはどのような影響を及ぼしますか。
19. 真実と周りの人々の意見が矛盾する時にどの様に正しい選択が出来ますか。(26)
20. ヘロデ王の永遠の運命を決めた瞬間は何時でしたか。(27-28) 悔い改めに迫る主のみ言葉を拒否するのはどうして危ないですか。
21. ヨハネの弟子たちはどのように行動しましたか。(29) 葬儀はどのような役割を果たしますか。又喪の時期の意味はどこにあるのでしょうか。

5000人に食べ物を (マルコ6:30-44)

22. 弟子たちは伝道旅行からイエス様の所に帰ってきて、何をしましたか。(30, ルカ10:17-20を参照に) イエス様と兄弟姉妹に伝道の中に経験した成功と失敗を語るのはどうして大切ですか。
23. 成功した伝道でも疲れます。その時に何をしなければなりませんか。(31)
24. 休むにはどこがよい所でしょうか。(32) 一人でイエス様と一緒に過ごす時間はどのような恵みをもたらせますか。
25. 弟子たちがいくら疲れていても、彼らが休みながらイエス様はどうして働きを続けたのでしょうか。(33-34) あなたは迷いの中にいる人をどんな目線で見ていますか。
26. 夕方になると弟子たちはイエス様にどのようなアドバイスをしましたか。(35-36) イエス様は私たちのアドバイスを必要としますか。あなたの祈り方はこの点でどうですか。
27. イエス様は弟子たちに不可能な仕事を命令しましたが、何故でしょうか。(37-38)

28. 奇跡をなさる前にイエス様は群衆に組織を命令しましたが、それからいのちのパンを分けるキリスト教会にとって何を学ぶべきでしょうか。(39-40)
29. イエス様の祝福で何が起こりますか。(41-42) 豊かな人生の条件は何ですか。
30. 5000人が満腹になって、沢山食べ物が残った事は何を語りますか。ア)イエス様について イ)食べた人々について (43-44)

イエス様は湖の上を歩く事と癒し活動 (マルコ6:45-56)

31. 食べ物の奇跡を見た弟子たちも、群衆もイエス様を王様にしがったが、イエス様は物質的な王様になろうとしなかったから、何を弟子たちに命令して、又群衆に何をしましたか。(45,ヨハネ6:14-15,26-27を参照に)
32. 弟子たちと群衆の態度はイエス様にとって一つの誘惑でもあったから、何をなさいました。(46) 誘惑にぶつかると何をすべきですか。
33. 弟子たちの船が反対風で進まなかった事をイエス様は山の上からご覧になったら、何をなさいましたか。(47-48) 私たちが人生の嵐の中に何を覚えるべきですか。
34. イエス様が湖の上を歩いて弟子たちの船を通り過ぎそうとしたのは何故でしょうか。船の所に直接行かなかったのは何故でしょうか。(48)
35. 弟子たちは暗い中でイエス様を見てどう反応しましたか。(49-50) 私たちの迷信的な恐怖にイエス様はどう答えますか。
36. 恐れからの解放はどこにありますか。(50) あなたは特に何を恐れていますか。
37. イエス様は出来事でご自分が王様である事を弟子たちに示しましたが、弟子たちはそれが分かったでしょうか。(51-52)
38. イエス様が誰であるか分からない理由は何ですか。(52) 何が心を頑なにしますか。あなたはどのような偏見を持っていますか。
39. イエス様を触った人々は皆癒されました。(56) イエス様の癒す活動は神様のどの性質を表しますか。あなたは癒される必要を感じますか。

マルコによる福音書 7章

神様の律法と昔の人の言い伝え (マルコ7:1-13)

1. パリサイ派の人々と律法学者たちはどのような昔の人の言い伝えを守っていましたか。(1-4)あなたは人の伝統にどのような所で縛られといえますか。伝統を守るのは良い事ですか、悪い事ですか。それは何時問題になりますか。
2. パリサイ派の人々と律法学者たちはイエス様の弟子たちの行動をどの点で非難しましたか。(5) キリスト者の自由はどんなものでしょうか。(ヨハネ8:31-32;1コリント8:9;ガラテヤ5:1,13を参照に)
3. 人間的な伝統の恐ろしい結果は何ですか。(6-8) イエス様は繰り返して偽善的な生き方を非難しましたが、それは何故でしたか。あなたの言葉と行動は一致しますか。
4. 人間的な言い伝えは何故神様の戒めを無効にしますか。(8-13) 現代のクリスチャンは愛の代わりに宗教的な儀式をやる現象はどこから来るのでしょうか。
5. 税金を払っているから、両親の世話を町の福祉に任せるのはどんな行為でしょうか。(11) 両親を敬う事はどのような生き方で示すべきですか。
6. すべての伝統の上に何を置くべきですか。(13)

何が人を汚すか。(マルコ7:15-23)

7. イエス様の言葉を聞く事の他に何が必要です。(14,18) イエス様はなぜ理解する事を強調なさったでしょうか。(エペソ1:17-19を参照に)
8. 何を食べるかは何か霊的な意味がありますか。(18-19,1コリント6:13;8:8; 1テモテ4:3-5を参照に)現代も多くの宗教が色々の食べ物に対して規制をするのは何を物語っていますか。現代の食事ブームはどこから来るのでしょうか。
9. 何が人を汚しますか。(21-23) あなたの心にイエス様が教えて下さった罪深い性質がありますか。それをどのようにコントロールすることが出来ますか。
10. 私たちの心の汚れは他の人に、又私たち自身の生き方にどの様に影響しますか。(23,ルカ17:1-2を参照に)現代の世の中に心の汚れを押さええない事が主流になっていますが、何故でしょうか。その結果はどんなものでしょうか。実例を挙げて下さい。
11. 心の汚れからどのように解放されて、清くなる事が出来ますか。(21-23;ローマ7:15-21;8:3-5を参照に)

スロ・フェニキヤの女性の信仰 (マルコ7:24-30)

12. イエス様はなぜ公を避けたかったのでしょうか。(24) それはイエス様にとって、又弟子たちにとってどうして必要でした。(6:31を参照に)あなたはどこで又どのような方法で一番よく疲れから癒されますか。(マタイ11:28-30を参照に)

13. イエス様は結局ご自分を隠すことが出来なかった理由は何だったのでしょうか。(25,マタイ15:21-28を参照に) イエス様がイスラエルの国境を越えてギリシャ人の地方に行かれたのは休むだけではなく、この女性の必要を満たすためと考えられますが、同意出来ますか。
14. この女性の苦しみの原因は何でしたか。(26) 愛する人が苦しむとあなたも苦しむでしょうが、愛の苦しみはどのような行動を起こすべきですか。
15. どうしてイエス様は初めに女性の訴えに冷たいような言葉で答えられたのでしょうか。(27) マタイの平行個所でイエス様は十字架と復活の前の活動をイスラエルの人々の救いに限定したと書いてありますが、それにしてもこの外国の人に対する行動で、復活の後の活動範囲をどう示しましたか。
16. イスラエルの人々に神様は特別な約束を与えて下さいました。それをイエス様は「こどものパン」という表現で示しましたが、そのパンは何を含んだのでしょうか。(27,ルカ1:68-75;ローマ9:4-5,エペソ2:12-13を参照に)
17. 女性はイエス様を主と認めながら自分には何も受け入れる資格がないと認めても、頼み続けたのは何故でしょうか。(28) 信仰は何に訴えますか。この女性の信仰が大きかったとイエス様は認めましたが、なぜでしょうか。信仰の大きさの秤は何でしょうか。あなたの信仰はイエス様をどのぐらいの存在として見ますか。
18. イエス様は女性の信仰の言葉を認めましたが、信仰とその告白はどのような関係にありますか。(29,ローマ10:9-13を参照に)
19. イエス様は私たちの信仰に「弱い」ですから、女性は娘の癒しを頂いた他に何を貰ったのでしょうか。(29-30) あなたにとってイエス様の与えてくださる賜物よりイエス様ご自身の愛の心を知る事が大切ですか。

聾啞者の癒し (マルコ7:31-37)

20. イエス様の旅はどのように進みましたか。(31) 聖書の地理的な情報から何が学べますか。
21. イエス様のところにどのような人が連れて来られましたか。(32) 本人が話すことが殆ど出来なかったから、他の人は彼に代わって癒しを頼みました。これは執り成しの祈りについて何を教えますか。あなたの祈りの課題は自己中心的かそれとも人を中心に行われますか。
22. イエス様はどのような方法でこのろうあ者を癒しましたか。(33-34) 何故でしょうか。
23. イエス様が天を見上げた事はその祈りの生活と癒し活動の関係をどのように表しますか。(34)
24. 聾啞者はどうなりましたか。(35) 話す事は大きな神様の恵ですが、あなたはそれをどう使いますか。(ヤコブ3:1-12を参照に)
25. あなたに奇跡が起こったら、それについて話しますか。どうしてそれは行けないのですか。(36) 癒しよりもっと大切な事は何か。
26. あなたにとってイエス様はどのようなお方ですか。(37)

マルコによる福音書 8章

4000人に食べ物を (マルコ8:1-10)

1. イエス様は三日間も集まって教えた群衆に対してどのような姿勢を示しましたか。(1-3) 私たちは物質的に困っている人にどのような目線を向けますか。
2. 弟子たちはどのような疑問を持ちましたか。(4) あなたは人間的に不可能な問題にぶつかるとう何をしますか。
3. 4000人を満腹させるためにどのぐらいの食べ物が必要でしたか。(5,7)
4. イエス様は感謝の祈りをもって食べ物を増やしました。(6) 食前の祈りは何故大切でしょうか。
5. イエス様の恵みの豊かさはどのように現れました。(8) 伝統文化の中に食事は終わりまで食べないとだめでした。食べ残しは何について語りますか。

しるしの要求 (マルコ8:11-13)

6. パリサイ派の人々は何を要求しましたか。彼らの動機は何でしたか。(11) ちょうど前にイエス様は4000人に食べ物を与えたのは彼らにとってどうして不十分だったのでしょうか。信仰は奇跡を見る事で生まれるのでしょうか。(ヨハネ6:30-33を参照に)
7. イエス様は彼らの不信仰をどの様に受け止めましたか。(12) あなたは人々の不信仰をみてどう感じますか。
8. 唯一信仰に導くしるしは何でしょうか。(12,マタイ12:39-42とヨハネ12:37-40を参照に)

パリサイ人とヘロデのパン種 (マルコ8:14-21)

9. 弟子たちは船の中に何を心配していましたか。(14,16) あなたは経済的な困難にぶつかるとう何をしますか。(マタイ6:25-34を参照に)
10. イエス様にとって問題の何でしたか。(15) パリサイ人とヘロデのパン種は何だったのでしょうか。(ルカ12:1-3を参照に) キリスト者の生き方はどうあるべきですか。

11. イエスは弟子たちの心配にどのような態度で答えましたか。(17-19) あなたは主が今まであなたの人生に与えて下さった恵みの数々を覚えていますか。それらを覚えるとどのような態度が生れるでしょうか。

ベツァイダの盲人の癒し (マルコ8:22-26)

12. 盲人の癒しを頼まれたイエスはどのようにしてその方を村の外に連れて行ったでしょうか。(22-23,26) どうしてイエスはしるしを公にしたいなかったでしょうか。一般の人々の期待よりもイエス様にとって大切なことは何でしたか。(ヨハネ7:3-8を参照に)

13. イエス様はこの盲人を二つの段階で癒して下さいました。何故でしょうか。(23-25)

ペテロの信仰告白 (マルコ8:27-30)

14. イエス様は弟子たちにどんな質問をしましたか。(27) この質問はどのようにして大切ですか。現代の一般の人々はイエス様を誰と考えていますか。あなた自身はどうですか。

15. 当時の一般の人々はイエス様の事をどう言いましたか。(28) それは彼らのイエス様に対する態度について何を語るのでしょうか。

16. ペテロの返事は何でしたか。(29) ペテロはその信仰にどの様に至ったでしょうか。(マタイ16:13-20を参照に)

17. イエス様はどのようにして私たちから信仰告白を求めますか。(27,29,ローマ10:9-13を参照に)

18. キリスト(メシヤ、油注がれた)と言う言葉はどのような意味ですか。(29) もしあなたはイエス様をキリストと告白するのなら、あなたの生き方にそれはどのような変化をもたらせますか。

19. イエス様はどのようにしてこの告白を隠さなければならぬと言われたでしょうか。(30) 当時のユダヤ人にメシヤはどのような存在だと考えられていましたか。

十字架の道の予告 (マルコ8:31-33)

20. イエス様は何のためにこの世に来られたでしょう。(31) その時までイエス様は十字架について語らなかったのは何故でしょうか。それはペテロの29節の告白とどのような関係にあるでしょうか。

21. キリスト教の福音はどんな内容でしょうか。(31,1コリント15:1-8を参照に)

22. イエス様の十字架と復活はどのように私たちに救いをもたらせますか。(31)

23. ペテロはどのようにしてイエス様をいさめ始めたでしょうか。(32) その背後にどのような感情があったでしょうか。イエス様を脇に連れて行ったのは何故でしょうか。あなたにイエス様にアドバイスをしたい気持ちがありますか。どのような時にですか。

24. イエス様はわざと他の弟子たちの前にペテロを叱ったでしょうか。(33)

25. サタンは人間的な感情を、(愛情も含めて)をどのように使いますか。(33)

26. 私たちにもサタンが他の人の人間的な感情を通して誘惑しますから、その時に何を考えるべきですか。(33,使徒21:10-14を参照に)

イエス様に従う事 (マルコ8:34-9:1)

27. イエス様に従う事は何を意味しますか。(34) あなたはイエス様に従う事を願っていますか。

28. 自分を否定する事はどういう意味ですか。又何故必要ですか。(34)

29. 自分の十字架はどのような苦しみの意味するのでしょうか。(34)

30. 自己愛はどのようにして私たちを滅ぼしますか。(35,36)

31. イエス様と福音のために命を失う事はどのように救いを得させますか。(35,36)

32. 永遠の救いはどのような代価で手に入れる事が出来ますか。(37) あなたの救いはあなた自身で可能ですか。

33. 現代の社会の特徴は何ですか。(38) その調子に合わせるとどうなりますか。

34. あなたは人の前に生きていますか、それともイエス様の前にですか。(38)人の前の恥より遥かに恐ろしいのは何ですか。

35. イエス様はどのような姿で再臨しますか。(38) その時はあなたにとって何をもたらせますか。

36. 神の国がイエス様の再臨の時に力をもって現れますが、神の国の力は何時から公に現れ始めましたか。(9:1,使徒2:1-21を参照に)

マルコによる福音書 9章

主の栄光の姿 (マルコ9:2-13)

1. どの出来事から六日たったのですか。(2, 8:27-30参照)

2. イエス様は3人の弟子(ペテロとヤコブとヨハネ)を三つの場面につれて行きました。他の二つは何処でしたか。この三つの場面の共通点は何でしょうか。(2,5:37と14:32-34を参照に)

3. イエス様の様子はどのように変りましたか。(3) イエス様の変貌はイエス様ご自身にどのような意味がありましたか。私たちにどの様な意味でしょうか。

4. 何故イエス様はその光り輝く姿を見せたでしょうか。(IIペテロ1:16-19参照)

5. 他に誰が山の頂上に現れましたか。(4)
6. エリヤとモーセが現れたことは死者について何を語っていますか。(4)
7. イエス様とエリヤとモーセは何について語り合いましたか。(4、ルカ9:31参照)
8. 6節によるとペテロが言った事は訳の分からないものだったが、ペテロの提案の間違ひは何処にあったと思いますか。(5)あなたが同じ場面でイエス様に何を言うのでしょうか。
9. 父なる神様が何をおおせられましたか。(7) その言葉は私達にとってどう言う意味をするのでしょうか。
10. 素晴らしい体験でしたが、とうとう元の様子に戻られたイエス様しか見えませんでした、それで充分だったのでしょうか。(8) 体験が大切ですか、イエス様が傍におられるのは大切ですか。
11. この体験について何故イエス様の復活まで誰にも語ってはいけなかったのでしょうか。(9) あなたの人生には自分にも他の人にも未だ理解していない体験がありますか。あったら、どうしてですか。
12. 復活とはどんなものなのでしょうか。(10)
13. 弟子達のエリヤについての疑問は私達にとって少し分かりにくいと思いますが、イエス様に理解できないことについて説明をどの様に求めたらよいのでしょうか。(11)
14. イエス様が指したエリヤは誰のことだったのでしょうか。(13、ルカ1:17を参照に)

信仰と不信仰 (マルコ9:14-29)

悪霊とは神様の敵である悪魔の家来です。それが人に宿っている場合、悪霊につかれているといいます。例えばシャーマンふなどがそうで、その力により奇跡、占いなどをすることもあります。病気のような症状を起こすこともあります、精神病やてんかんとは違います。

イエス様を信じ、洗礼を受けたクリスチャンの霊には聖霊様が宿っていますから、悪霊が宿ることはできません。しかし、罪を悔い改めないと、感情などには悪霊の入る機会を作ってしまうことがあります。(エペソ4:26-27)

15. イエスと弟子達は何処から帰ってきましたか。どんな気持ちだったでしょう。(9:2-9参照)神様のすばらしい恵みに触れた直後に、大きな問題にぶつかるという経験をしたことがありますか。
 16. 息子が悪霊につかれてから父親はどういう生活をしていたでしょう。(17-18、20-22)
 17. 弟子たちの失敗の後、父親はどういう気持ちだったでしょう。(18)
 18. この場面でイエス様はなぜ人々の不信仰を悲しんだのでしょうか。(19)
 19. 父親はなぜ「私たちをあわれんで、お助けください。」と自分も含めて助けを求めたのでしょうか。(22)
 20. 23節でイエス様は父親に揺るがない信仰を求めておられるようにみえます。もし、自分が落ち込んでいるとき揺るがない信仰を求められれば、どう思いますか。
 21. 24節で「信じます。不信仰な私をお助けください。」と言った父親は、何を信じ、何を疑ったのでしょうか。愛する者のためにイエス様に助けを求めるとき、あなたは何を信じ、何を疑いますか。
 22. 父親も息子も揺るがない信仰をもっていませんでしたが、なぜイエス様はこの家族を助けましたか。誰の信仰によって奇跡が行われましたか。(23-24)イエス様があなたの家族を助けるためには、どの程度の信仰が必要ですか。
 23. 26節で父親も息子が死んだと思ったでしょう。なぜ息子が解放される前にこんな辛い経験をしなければなりませんでしたか。それによって何を学んだと思いますか。あなたも神様が助けて下さる前にもっと辛い経験をすることがあります。何を学びましたか。
 24. 弟子達はイエス様から悪霊を追い出す力と権威を与えられていました。(ルカ9:1)それなのに、何故この悪霊が追い出せなかったのでしょうか。(29)
- あなたはイエス様に助けてもらいたい問題や家族がありますか。

一番偉いのは誰ですか (マルコ9:30-50)

25. イエス様はなぜ人に知られなくなかったのでしょうか。(30,31)
- イエス様はどうして弟子達に教えることを癒しや一般の人を教えるより優先したのでしょうか。
26. イエス様の教えの内容は福音そのものでしたが、なぜ弟子達はその意味が理解できなかったのでしょうか。(31,32)
- 又どうしてイエス様に聞くことを恐れたのでしょうか。(32-34)
27. 偉くなって、人の先に立ちたい気持ちは間違っているのでしょうか。(35)どのような方法で偉くなりましか。イ) この世の中に ロ) 主の教会の中に
 28. イエス様は子供をどのように扱って下さいましたか。(36) あなたはどうですか。
 29. 子供を受け入れるのはどんなことですか。(37)イエス様の名に受け入れるのはどうことですか。あお教会で一番偉い人は誰ですか。
 30. キリストの教会と仲間意識は同じことでしょうか。(38,39)
 31. 反対と味方は何を基準としてはかるべきでしょうか。(40)イエス様に対して中立的な立場は可能でしょうか。(マタイ12:30参照)
 32. 私達の行為の価値は何によって決まりますか。(41)
 33. 子供を(神様の子供即ちキリスト者を含めて)つまづかせるのはどう言う意味でしょうか。(42)その処罰はどんなものなのでしょうか。(43)

34. 罪への誘惑に対してどのように対処すべきでしょうか。(43-47)
35. 滅び、地獄はどんなところでしょうか。(48)
36. 塩の役割は何でしょうか。(49)
37. すべての人が火で清められるのはなぜでしょうか。(49) (1コリ3:9-17参照)
38. あなたはしおけを持っていますか。(50)それは具体的にどういう意味でしょうか。

マルコによる福音書 10章

結婚と子供 (マルコ10:1-16)

1. なぜモーセの律法は離婚を認めたのでしょうか。(5) 現代の法律はどうですか。
2. 神様の結婚における御心は何でしょうか。(6-9)
3. 幸せな結婚の三つの条件を三つの関係で言い表しましょう:
ア)親子関係において(7)イ)夫婦関係において(8)ウ)神様との関係において(9)
4. 一心同体はどういう意味でしょうか。(8)
5. キリスト者は離婚と再婚をどう考えるべきでしょうか。(11,12、マタイ19:3-18; 1 コリント 7:10-16)
6. 離婚問題をイエス様はどう言う位置付けにおいて扱いましたか。(13-15) 離婚の一番の犠牲者は誰でしょうか。
7. 9章では子供を受け入れるのはイエス・キリスト御自身を受けると言う事を学びましたが、今度は「神様の国が子供のよ
うな者達のものである」と言うのはどう言う意味でしょうか。(14)
8. 子供のような受け入れ方はどんなものなのでしょうか。(15)
9. イエス様の与える祝福は何を含めるでしょうか。(16,民数記6:23-27を参照)

救いの狭い門 (マルコ10:17-31)

10. 走って来た若い男の質問はどう言う意味でしたか。(17) 誰かがあなたに同じ質問をするなら、どんな答えを与えますか。
11. 男の人の質問の問題はどこにあったでしょうか。(27)
12. イエス様は18節の質問をどんな狙いで聞かれたでしょうか。
13. あなたは十戒を守っていますか。(19,20)
14. 男の人は果たして全部の十戒を守ることが出来たでしょうか。もし、出来なかったとしたら、どうして出来たと言えたでしょうか。(20)
15. イエス様の21節の要求は無理だったでしょうか。(自分自身ならどうでしょうか。)(ザーカイを参照に:ルカ19:1-10)
16. 私達にとって「私に従いなさい」と言うイエス様の招きは具体的にどう言う結果をもたらせますか。(21)
17. 男の神は一体何だったでしょうか。(22)あなたは誰に又は何に支配されていますか。
18. どうして富は救いの妨げになりますか。(23,25)
19. 救いは可能ですか。(26,27)なぜでしょうか。
20. イエス様に従うことはどんな報いをもたらせますか。(29,30)
21. 何がペテロの質問の問題点だったでしょうか。(28)
22. あなたはイエス様のために何を失いましたか。あなたの報いは何でしょうか。
23. 神様が与えてくださる評価と私達の評価の基準はどう違いますか。(31)

あなたの信仰があなたを救った (マルコ10:32-52)

24. イエス様の弟子達が戸惑って怖がっていた時にイエス様はどんな話をなさいましたか。(33-34)なぜだったでしょうか。
25. イエス様は十字架と復活の事をどうして前もって分かっておられたでしょうか。神様は私達に対しても計画をもっておられます。どのようにその計画を私達に示して下さいますか。(33-34)
26. ヤコブとヨハネの質問は彼らの信仰について何を語っていますか。(35,37) 彼らの願いは間違っていたでしょうか。(黙示録3:21を参照に)
27. イエス様の杯とバプテスマは何でしたか。(38)
28. 二人の「出来ます」という返事は正しかったでしょうか。(39) 彼らの杯とバプテスマは何でしたか。
29. 偉くなる道は何ですか。(43) あなたは大きくなりたいのですか。(認めて貰いたいのですか。誰に。)
30. イエス様の愛の本質は何ですか。(45、33-34)
31. バルトマイの生活はどんなものだったのですか。(46)
32. 彼の信仰がどのように現れましたか。(47、48、50、51)
33. 信仰とは一体何でしょうか。(52)
34. 信仰の結果は何でしたか。(52)

マルコによる福音書 11章

ロバに乗る王様 (マルコ11:1-11,15-19)

- イエス様は二人の弟子にどんな命令をなさいましたか。(2) その命令はイエス様の権限について何を語っていますか。
- イエス様はあなたの何を必要とおられますか。(3)
- 私達が自分の権威範囲で物事をする時に、他の人にやっている事を説明する必要がありますか。(3,5,6)
- 誰も乗ったことのないロバに乗るのはやさしい事だと思いますか。どうしてイエス様にそれが出来たのでしょうか。(7) 暴れる私たちをイエス様はコントロール出来るのでしょうか。
- 「ホサナ」とはどう言う意味でしょうか。(9) どうしてイエス様に「憐れんでください」と叫ぶことは賛美を意味しますか。あなたは主をどう褒めたたえますか。
- 祝福と言う言葉にどんな事が含まれますか。(9)
- ダビデの国は何を指すでしょう。(10) 又、いと高き所は何処ですか。
- 次の日にイエス様は何をなさいましたか。(15,16)
- 神殿は何の為に存在していましたか。(17)
- あなたの祈りの場は何処ですか。(17)
- 祭司たちは何故イエス様を殺そうとしましたか。(18) なぜ多くの人々は自分の人生からイエス様を殺そうとしますか。

ロバに乗る王様 (マルコ11:12-14, 20-33)

- イエス様がなさったしるしの中には破壊的なものは二つしかありません。いちじくの木を枯れさせた意味はどこにあったでしょう。(13,14,22) イチジクの木は何の比喻でしたか。
- 信仰の祈りの力の秘訣はどこにあるのでしょうか。(23,24)
- 「既に受けた」とどうして信じる事が出来るのでしょうか。(24)
- お祈りが聞かれる条件は何でしょうか。(25)
- 赦さない心は赦されないのは何故でしょうか。(26)
- イエス様の権威を聞く宗教的な指導者達の動機は何だったのでしょうか。(28)
- イエス様は好奇心だけによる質問に何故答えられないのでしょうか。(33)
- バプテスマのヨハネの洗礼はどんな意味を持ちましたか。(マルコ1:4~8参照に)
- 御言葉の前に私達の姿勢はどんなものでしょうか。

マルコによる福音書 12章

ぶどう園の農夫達と税金 (マルコ12:1-17)

- 例え話の男と農夫達は誰をさすでしょう。(1)
- ぶどうの収穫の分け前は何を意味するでしょう。(2) 神様は私たちから何を期待しておられますか。
- 農夫達はどんな酷い事を続けたでしょう。(4-8) なぜでしたか。彼らの行為は私達にどんな警告になりますか。
- イエス・キリスト様を拒否する結果は何でしょう。(9) 歴史の中にこの例え話はどのように実現しましたか。
- 礎の石は何を指すでしょう。(10,11) あなたの人生の基礎は何でしょう。
- イエス様を殺そうとする人の動機は何でしたか。(12) あなたは痛い真実に合うとどう反応しますか。
- 税金を払うことの正当性を問うイエス様の敵たちのわなはどこにありましたか(14, 15)
- イエス様の見事な答えにはどんな意味がありますか。(16,17)

生きている者の神 (マルコ12:18-27)

- 27節によるとサドカイ人達は「たいへんな思い違いをしている」イエス様が言われましたが、その間違いはどんな所に現れましたか。
イ (18) ロ (23) ハ (24)
- 復活した人の状態はどのようなものですか。(25、1コリ15:35~53参照)
- 既に肉体的に死んだ信仰者の状態は今どんなものでしょうか。(26,27、ルカ16:19~31と黙示録5:13~14,6:9~11参照)
- 旧約聖書の一つの筋道は生きている先祖の神様と言う事です。先祖に対するキリスト者の姿勢はどうあるべきでしょうか。(27、ヨハネ8:31~40参照に)
- 「土江さん、高橋さん、ピヒカラの神様」という表現を使えるなら、それは神様と私達の関係について何を語るでしょうか。(26)
- 信仰的に間違っている人を真理にどう導いたらよいでしょうか。(27)

神様の国から遠くはない (マルコ12:28-44)

- 戒めの中に優先順序が大切ですが、どうして神様を愛する事が一番大切でしょうか。(29,32)

16. あなたは自分の人生で色々の事を守ろうとしています、その中に一番大切は何ですか。
17. 質問した人がどうして神様の国に近かったでしょうか。(34)
18. 神様の国とは一体何なんでしょうか。
19. 近いと言っても未だ神様の国に入っていない事でしたが、入るには何をすべきだったでしょうか。
20. イエス様を主とキリストとして認めることは神の国に入るとどんな関係にあるでしょうか。(36,37)
21. イエス様が偽善の罪とその奴隷達を繰り返して攻撃しますが、それは何故でしょうか。(38～40)
22. イエス様はどのような献金のやり方を評価なさいますか。(43,44)
23. イエス様はあなたの献金のやり方もいつも見ておられますが、どんな評価でしょうか。(2コリ8:1～15; 9:6～12)

マルコによる福音書 13章

キリストの再臨 I (マルコ13:1-18)

1. 私達は立派な建物を見てどんな態度をすべきでしょう。(1, 2)
2. イエス様のエルサレムについての預言は何時とどのように実現しましたか。(14～18) なぜそうになりましたか。(ルカ13:33-35を参照に)
3. 弟子達はどんな二つの質問をしました。(4) イエス様の答えは13:3-13,20-27でどちらの出来事を指しますか。エルサレムの破壊は14-19で描写されますが、その時の酷い状態はイエス様の再臨の前の状態にも似ています。
4. イエス様の再臨の前にどんな恐ろしい事が起こりますか。(5,6,7,8,9,11,12,13) どうしてでしょうか。
5. これらの恐ろしい事の中に最も危険なものは何でしょうか。(5, 6)
6. こんな状況の中に何が出来ますか。(9,10)
7. 最後まで耐え偲ぶのはどうして可能でしょうか。(11)
8. 苦しい状況の中に何をやる事が出来ますか。(18)
9. 私達は今苦しんでいるクリスチャンの為に何をすべきでしょうか。
10. あなたはイエス様の再臨に対してどのような準備をしていますか。

キリストの再臨 II (マルコ13:19-37)

11. イエス様の再臨の前の苦しみはどんなものでしょうか。(19)
12. その中にクリスチャンもいますか。彼らの為に主は何をなさいますか。(20)
13. クリスチャンは選民と呼ばれるがどんな危険に再臨の前に遭えるでしょうか(21,22)
14. イエス様がなぜこの預言を語られたでしょうか。(23)
15. イエス様の再臨の様子はどんなものでしょうか。(24～26)
16. イエス様の再臨はどんな目的で行われますか。(27) この時を喜んで待っていますか、それとも怖れで待っていますか。
17. イエス様の再臨の前兆からどんな結論を引き出さなければなりませんか。(28,29)
18. 「この時代」は何を指すでしょうか。(30)
19. 不動のものは何でしょうか。(31) あなたは聖書をどんな姿勢で読みますか。
20. イエス様の再臨の時は何時でしょうか。それはなぜ啓示されていないのでしょうか。(32)
21. 目を覚ますのは具体的に何を意味しますか。(33～37)
22. 目を覚ましている人は何をしますか。(34) イエス様の再臨を待っているあなたの使命は何でしょうか。
23. 聖書は繰り返して物事を強調しますが、目を覚ます事はどれほど大切ですか。(33,35,37)

マルコによる福音書 14章

イエス様を殺す計画の相談 (マルコ14:1-2)

1. 過ぎ越しの祭りは何の記念に行われましたか。(1, 出エジプト記12:1～30参照)
2. 祭司と律法学者たちはどんな決定をしましたか。(1-2)
3. 彼らの決定通りになりましたか、それともイエス様の計画通りになりましたか。(ヨハネ12:20,23を参照に) どうして十字架は過ぎ越しの祭りの時に行われなければならなかったでしょうか。

イエス様はベタニアで油注がれる 14:3-9

4. この出来事はいつとどこで起こりましたか。(3,ヨハネ12:1-8を参照に)
5. マリヤのイエス様に対する愛はどのように現れましたか。(3)
6. ナルド油はどのぐらいの価値がありましたか。(5)
7. マリヤの行為に少なくとも二つの理由を挙げましょう。(6,7)
8. イエス様はマリヤの行為(礼拝)をどのように評価なさいましたか。(9, マタイの26:13を参照に)

9. ユダとその他の弟子の態度は彼ら自身について何を語っていますか。(4-5)
10. あなたはイエス様をどのぐらい大切に思いますか。

最後の晩餐 (マルコ14:10-31)

11. ユダはどうしてイエス様を裏切る道に到ったでしょうか。(10,11, ヨハネ12:4~6;13:26~30参照)
12. 過ぎ越しの食事にはどんな意味がありましたか。(12, 出エジプト記12:1~30参照)
13. 具体的な働きにもイエス様の導きが期待できますか。(13~16) どの様に。
14. あなたがイエス様を裏切らない自信がありますか。(18~20) 裏切る人の運命はどんなものでしょうか。(21)
15. 聖餐式はあなたにとってどんな意味を持つでしょうか。(22~24)
16. 聖餐式にどんな将来を指す意味があるでしょうか。(25)
17. イエス様はこの預言で弟子達をどのように守ろうとなさいましたか。(27,28)
18. 羊飼いでおられるイエス様を誰が打たれたでしょうか。(27) それは十字架について何を教えますか。
19. 復活のイエス様は何をなさいましたか。(28)
20. ペテロ達は本気で「イエス様と一緒に死んでもよい」と言ったでしょうか。なぜあんな発言をしたでしょうか。(29,31)

ゲッセマネの祈りとペテロの否定 (マルコ14:32-72)

21. イエス様はどうしてゲッセマネの祈りの時にペテロとヨハネとヤコブを連れて行かれたでしょうか。(32,33,34)
22. イエス様の苦しみの原因は何処にあったでしょうか。(34, ヨハネ12:27~33参照)
23. イエス様はどうして十字架の苦しみを選んだかだったでしょうか。(35,36)
24. イエス様は父なる神様の御心が何であると分かりましたか。それにしても苦しみから解放されるイエス様のお祈りから何が学べますか(36)
25. 祈りはどうして必要でしょうか。(38)
26. あなたは肉の弱さを感じる時にどんな祈りをしますか。(38)
27. 同じ祈りを繰り返す意味は何処にあるでしょうか。(39)
28. ペテロ達は何故余りにも眠たかったでしょうか。(37,40)
29. イエス様を罪人の手に渡されたのは誰ですか。(41)
30. ユダの裏切り方は口付けでしたが、何故でしょうか。(44,45)
31. ペテロが剣を出して、祭司長の僕の耳を切った事とその前に眠ったことは関係があるでしょう。又後のイエス様を知らないと言う否定とどう結びついていたでしょう。(47) 危機的な場面にどう準備したらよいでしょう。
32. 弟子達はイエス様の逮捕の祭に何をしましたか。又何故そうしたでしょうか。(50~52)
33. ペテロが距離をとってイエス様について行った事とイエス様の敵たちの間に入った事は後の否定に繋がったのですが、私達がイエス様に対して距離を置いて従うことができますか。(54) 人々と調子を合わせてイエス様を否定した場面があなたのクリスチャン生活にありましたか。
34. 偽証人の58節の発言は全く根拠のないものでしたか。(ヨハネ2:19~22参照)
35. 十字架に向っておられたイエス様の意識はどんなものでしたか。(61,62)
36. 真実を拒む人間はどうとうどのようなものになりますか。(65)
37. ペテロの否定は何処まで行きましたか。(71) ペテロは何故イエス様を否定しましたか。恐れと恐怖はあなたを何処まで支配出来ますか。
38. 否定から絶望への道は短いのですが、ペテロを絶望と自殺から守ったのは何だったでしょうか。(30,72, ヨハネ13:37~14:3参照)
39. 信仰への回復の道は何処から始まりますか。(72)

マルコによる福音書 15章

イエス様はピラトの前で死刑判決を受ける (マルコ15:1-15)

1. 祭司たちは何について前会議で相談しましたか。どうしてイエス様を囚人として引き渡したでしょうか。(1)
2. イエス様はピラトにどのような返事をしましたか。(2) イエス様はどのような王様ですか。(ヨハネ18:36-37を参照に)
3. ピラトは多くの質問をしましたが、イエス様はなぜ答えられなかったのですか。(3-5, ヨハネ19:10-11を参照に)
4. ローマ人は過ぎ越しの祭りにどのような習慣を持っていましたか。(6,8) 何故でしょうか。
5. バラバはどのような人物でしたか。(7)
6. ピラトは群衆にどのような選択を与えましたか。彼の狙いは何だったでしょうか。どうしてイエス様を釈放したかだったでしょうか。(9-10,12)
7. 群衆はどうしてイエス様に十字架刑を要求したでしょうか。(13,14) 群衆はどうして扇動されやすかったでしょうか。
8. ピラトはローマ軍の力があつたし、支配権を持ったにも関わらず、何故無実のイエス様を死刑に渡したでしょうか。(15, ヨハネ19:7,8,12を参照に) あなたは不正を要求されただどうしますか。

9. バラバの贖い論を知っていますか。(15) あなたがバラバであって、イエス様はあなたに代わって裁かれたら、どう感じますか。

十字架 (マルコ15:16-47)

10. ローマの兵隊達のやり方と現代の兵隊達の楽しみと暴力を最高のスリルと感じる現代のマスメディアを比べて見て下さい。(17~20) 人間の本質は変わっていますか。あなたはテレビとインターネットでどんな番組で楽しみを求めていますか。
11. アレキサンデルとルポスはマルコの福音書を始めて読んだ初代教会の中によく知られているクリスチャンでしたが、彼らがおそらくお父様の影響でクリスチャンになったと仮定したら、シモンがイエス様の十字架を背負わされた事は彼にとってどんな出来事だったのでしょうか。(21)
12. 十字架がつけられた場所でほぼ2000年前に何が起こったのでしょうか。(22、創世記22:1~14参照)
13. どうしてイエス様は没薬を混ぜたぶどう酒を断ったのでしょうか。(23、ヨハネ19:28~30に比較して下さい。)
14. なぜイエス様は十字架につけられる前に裸にされたのでしょうか。その服装はどうになりましたか。(24、ヨハネ19:23-24を参照に)
15. イエス様はどう言う罪書きで死刑にされましたか。(26)
16. イエス様に対するあざけりにはどんな深い真実がありましたか。(31)
17. イエス様と一緒に十字架につけられた犯罪人も両方ともイエス様をののしった事は人間の罪深さについて何を物語っているでしょう。片方が後で苦しみの中に悔い改めてイエス様から赦しを願って救われましたが、死に直面する時にも人々は心を頑なにする事が出来ます。あなたは自分の罪を悔い改める用意が来ていますか。
18. 3時間かかった暗闇は何を物語ったのでしょうか。(33,34)
19. 父なる神様に見捨てられて、御怒りの燃える苦しみにおかれる事は地獄の本質です。イエス様はそれを私達の身代わりとして受けてくださった事がイエス様の叫びによって分かります。私達の驚きの叫びは「我が神、我が神、どうして罪人の私をお見捨てにならなかったのですか。」その理由はどこでしょうか。(34)
20. それぞれの福音書はイエス様の死について亡くなると言う表現を使いません。何故でしょうか。(37、ヨハネ10:17-18を参照に)
21. 神殿の幕が上から破られたのは、どう言う意味でしょうか。(38)
22. 百人隊長はどうしてイエス様を神様の御子として認めたのでしょうか。(39) その生き方がその時からどのように変わったのでしょうか。
23. イエス様が墓に置かれた事によって墓はキリスト者にとってどんな場所になりましたか。(45、46)

マルコによる福音書 16章

イエス様の復活 (マルコ16:1-11)

1. 女性たちは何をしに墓に行きましたか。それはいつでしたか。彼女たちは安息日に墓に行かなかった理由は何でしょうか。(1) 彼女たちの行動はどのような態度を示したのでしょうか。
2. 女性たちは墓に着いたのは何時ごろでしたか。(2) 墓参りはキリスト者にとってどんな意味を持つのでしょうか。
3. 彼女たちはどんな問題について行く途中で話し合ったですか。(3)
4. 着いたら墓石はどうなっていましたか。(4、マタイ28:2-3を参照に) 墓石がどういう目的で取り除かれたのでしょうか。復活したイエス様が墓から出られるためでしょうか、それとも弟子たちが墓が空っぽである事が分かるためでしょうか。
5. 墓の中に誰がいたのでしょうか。その方の姿はどうだったのでしょうか。彼を見た女性たちはどう感じたのでしょうか。それは何故でしょうか。(5、ルカ2:9-10を参照に) み使いたちの役割は何でしょうか。(ヘブル1:14を参照に)
6. み使いはどうしてイエス様の遺体のおかれた場所を示したのでしょうか。(6、ヨハネ20:3-9を参照に)
7. み使いは女性たちにどのようなメッセージを語ったのでしょうか。(6-7) そのメッセージは福音の中心ですが、なぜでしょうか。イエス様の十字架と復活はあなたにとってどんな意味を持つのでしょうか。
8. み使いは女性たちにどんな使命を与えましたか。(7) 現代の私たちの使命は何でしょうか。
9. 女性たちは受けた使命を直ぐ実行できなかったのは何故でしょうか。(8) 彼女たちの恐れの原因はなんでしたか。怖れを乗り越えるには何が必要でしょうか。
10. 復活されたイエス様はなぜ一番先にマグダラのマリヤに現れたのでしょうか。(9、ヨハネ20:11-18を参照に)
11. マグダラのマリヤは復活のイエス様に会ってからどう行動しましたか。(10)
12. 弟子たちの状態はどうでしたか。(10)
13. 弟子たちはマリヤの言葉を信じなかった理由は何だったのでしょうか。(11、ヨハネ20:24-29を参照に) 信じる事が出来るために何が必要ですか。あなたはどうして復活のイエス様を信じましたか。(ローマ10:12-17を参照に)

大宣教命令とキリストの昇天 (マルコ16:12-21)

14. イエス様は姿を変えて御自分を現した事にどう言う意味があったのでしょうか。(12、ルカ24:13~33)
15. 復活を信じる難しさはどこにありますか。(13、14)

16. イエス様はあなたの信仰を見て、どんな評価を与えて下さるでしょう。(14) イエス様の責めは悔い改めを起こす愛から出ますから、私達の不信仰をどう悔い改めたらよいのでしょうか。
17. クリスチャンの使命は何ですか。(15) あなたはそれをどう実行しますか。
18. 救われる条件は何でしょうか。(16)
19. 滅びる理由は何ですか。(16)
20. あなたは救われていますか。
21. 信仰によってキリスト様とつながっている人々を通して主がどんな印をなさいますか。(17、18、使徒の働き3:1～9;28:1～6)
22. 現代もこのような印が現れていますか。もしないなら何故でしょうか。(17、18、20)
23. 昇天なさったイエス様は何をなさっていらっしゃいますか。(19、ヘブル8:1～2; 7:24～28参照)
24. イエス様の宣教命令に従うと何が起こりますか。(20)

ルカの福音書

著者

著者はイエスを愛し、人々にイエスのことを教えた医者（ルカ 13:13）のルカです。ルカはパウロとともに旅行をしました。ルカはこの福音書と「使徒の働き」を書きました。

書名

ルカはこの福音書を書いた男の人の名前です。ルカはテオピロと呼ばれる人 - また、すべての人々 - のために、イエスについて確かなことを知る手助けになるようにこれを書きました。ルカは、イエスが何を行われたか教えています。ルカは、イエスを「人の子」と呼びました。

おもな登場人物：イエス、弟子たち

あらすじ

- ☐ 人の子として成長するイエス(1:1-4:13)
- ☐ 人の子としてすべてのものの上に権威をもつイエス(1:14-9:50)
- ☐ 人の子として弟子たちを教えるイエス(9:51-19:27)
- ☐ 人の子として苦難を受け、死なれるイエス（19:28-23:56）
- ☐ 人の子としてよみがえり、永遠に生きておられるイエス（24 章）

ルカの福音書の中のキリスト

ルカは、イエスを「人の子」として描きました。ルカが記録した出来事は、イエスが神であると同時に人間であることを明らかにしています。イエスは生れ、成長し、死なれました。イエスは、人間になるということが、どのようなことかを知り尽されたのです。イエスは、すべての点で、私たちを助けることのできる唯一のお方です。

み言葉のしおり

ルカの福音書

- 1) 天使は答えた。「聖霊があなたに降り、いと高き方の力があなたを包む。だから、生まれる子は聖なる者、神の子と呼ばれる。」 ルカ 1 章 35 節
神にできないことは何一つない。」 ルカ 1 章 37 節
- 2) 「いと高きところには栄光、神にあれ、地には平和、御心に適う人にあれ。」 ルカ 2 章 14 節
- 3) そこで、ヨハネは皆に向かって言った。「わたしはあなたたちに水で洗礼を授けるが、わたしよりも優れた方が来られる。わたしは、その方の履物のひもを解く値打ちもない。その方は、聖霊と火であなたたちに洗礼をお授けになる。」 ルカ 3 章 16 節
- 4) 「主の霊がわたしの上におられる。貧しい人に福音を告げ知らせるために、主がわたしに油を注がれたからである。主がわたしを遣わされたのは、捕らわれている人に解放を、目の見えない人に視力の回復を告げ、圧迫されている人を自由にし、主の恵みの年を告げるためである。」 ルカ 4 章 18～19 節

5) シモンの仲間、ゼベダイの子のヤコブもヨハネも同様だった。すると、イエスはシモンに言われた。「恐れることはない。今から後、あなたは人間をとる漁師になる。」 ルカ 5 章 10 節

6) 人にしてもらいたいと思うことを、人にもしなさい。 ルカ 6 章 31 節

7) そして、近づいて棺に手を触れられると、担いでいる人たちは立ち止まった。イエスは、「若者よ、あなたに言う。起きなさい」と言われた。 ルカ 7 章 14 節

だから、言っておく。この人が多くの罪を赦されたことは、わたしに示した愛の大きさに分かる。赦されることの少ない者は、愛することも少ない。」 ルカ 7 章 47 節

8) イエスは言われた。「娘よ、あなたの信仰があなたを救った。安心して行きなさい。」 ルカ 8 章 48 節

9) 自分の命を救いたいと思う者は、それを失うが、わたしのために命を失う者は、それを救うのである。 ルカ 9 章 24 節

その子が来る途中でも、悪霊は投げ倒し、引きつけさせた。イエスは汚れた霊を叱り、子供をいやして父親にお返しになった。 ルカ 9 章 42 節

一行が道を進んで行くと、イエスに対して、「あなたがおいでになる所なら、どこへでも従って参ります」と言う人がいた。イエスは言われた。「狐には穴があり、空の鳥には巢がある。だが、人の子には枕する所もない。」 ルカ 9 章 57～58 節

10) そして、彼らに言われた。「収穫は多いが、働き手が少ない。だから、収穫のために働き手を送ってくださるよう
に、収穫の主に願いなさい。 ルカ 10 章 2 節

主はお答えになった。「マルタ、マルタ、あなたは多くのことに思い悩み、心を乱している。しかし、必要なことはただ一つだけである。マリアは良い方を選んだ。それを取り上げてはならない。」 ルカ 10 章 41～42 節

11) このように、あなたがたは悪い者でありながらも、自分の子供には良い物を与えることを知っている。まして天の父は求める者に聖霊を与えてくださる。」 ルカ 11 章 13 節

しかし、わたしが神の指で悪霊を追い出しているのであれば、神の国はあなたたちのところに来ているのだ。 ルカ 11 章 20 節

12) しかし神は、『愚かな者よ、今夜、お前の命は取り上げられる。お前が用意した物は、いったいだれのものになるのか』と言われた。自分のために富を積んでも、神の前に豊かにならない者はこのとおりだ。」 ルカ 12 章 20～21 節

主人が帰って来たとき、目を覚ましているのを見られる僕たちは幸いだ。はっきり言っておくが、主人は帯を締め、この僕たちを食事の席に着かせ、そばに来て給仕してくれる。 ルカ 12 章 37 節

「わたしが来たのは、地上に火を投ずるためである。その火が既に燃えていたらと、どんなに願っていることか。しかし、わたしには受けねばならない洗礼がある。それが終わるまで、わたしはどんなに苦しむことだろう。 ルカ 12 章 49～50 節

13) 園丁は答えた。『御主人様、今年もこのままにしておいてください。木の周りを掘って、肥やしをやってみます。そうすれば、来年は実がなるかもしれません。もしそれでもだめなら、切り倒してください。』 ルカ 13 章 8～9 節

エルサレム、エルサレム、預言者たちを殺し、自分に遣わされた人々を石で打ち殺す者よ、めん鳥が雛を羽の下に集めるように、わたしはお前の子らを何度集めようとしたことか。だが、お前たちは応じようとしなかった。
ルカ 13 章 34 節

14) だれでも高ぶる者は低くされ、へりくだる者は高められる。」 ルカ 14 章 11 節

「だから、同じように、自分の持ち物を一切捨てないならば、あなたがたのだれ一人としてわたしの弟子ではありえない。」 ルカ 14 章 14 節

15) 言うておくが、このように、悔い改める一人の罪人については、悔い改める必要のない九十九人の正しい人についてよりも大きな喜びが天にある。」 ルカ 15 章 7 節

16) どんな召し使いも二人の主人に仕えることはできない。一方を憎んで他方を愛するか、一方に親しんで他方を軽んじるか、どちらかである。あなたがたは、神と富とに仕えることはできない。」 ルカ 16 章 13 節

アブラハムは言った。『もし、モーセと預言者に耳を傾けないのなら、たとえ死者の中から生き返る者があっても、その言うことを聞き入れはしないだろう。』 ルカ 16 章 31 節

17) そこで、イエスは言われた。「清くされたのは十人ではなかったか。ほかの九人はどこにいるのか。この外国人のほかにも、神を賛美するために戻って来た者はいないのか。」 ルカ 17 章 17～18 節

稲妻がひらめいて、大空の端から端へと輝くように、人の子もその日に現れるからである。しかし、人の子はまず必ず、多くの苦しみを受け、今の時代の者たちから排斥されることになっている。 ルカ 17 章 24～25 節

18) まして神は、昼も夜も叫び求めている選ばれた人たちのために裁きを行わずに、彼らをいつまでもほうっておかれることがあるか。言うておくが、神は速やかに裁いてくださる。しかし、人の子が来るとき、果たして地上に信仰を見いだすだろうか。」 ルカ 18 章 7～8 節

19) イエスはその場所に来ると、上を見上げて言われた。「ザアカイ、急いで降りて来なさい。今日は、ぜひあなたの家に泊まりたい。」 ルカ 19 章 5 節

イエスはお答えになった。「言うておくが、もしこの人たちが黙れば、石が叫びだす。」 ルカ 19 章 40 節

20) イエスは彼らを見つめて言われた。「それでは、こう書いてあるのは、何の意味か。『家を建てる者の捨てた石、これが隅の親石となった。』その石の上に落ちる者はだれでも打ち砕かれ、その石がだれかの上に落ちれば、その人は押しつぶされてしまう。」 ルカ 20 章 17～18 節

21) 言われた。「確かに言うておくが、この貧しいやもめは、だれよりもたくさん入れた。あの金持ちたちは皆、有り余る中から献金したが、この人は、乏しい中から持っている生活費を全部入れたからである。」 ルカ 21 章 3～4 節

しかし、あなたがたは、起ころうとしているこれらすべてのことから逃れて、人の子の前に立つことができるように、いつも目を覚まして祈りなさい。」 ルカ 21 章 36 節

22) 「父よ、御心なら、この杯をわたしから取りのけてください。しかし、わたしの願いではなく、御心のままに行ってください。」 ルカ 22 章 42 節

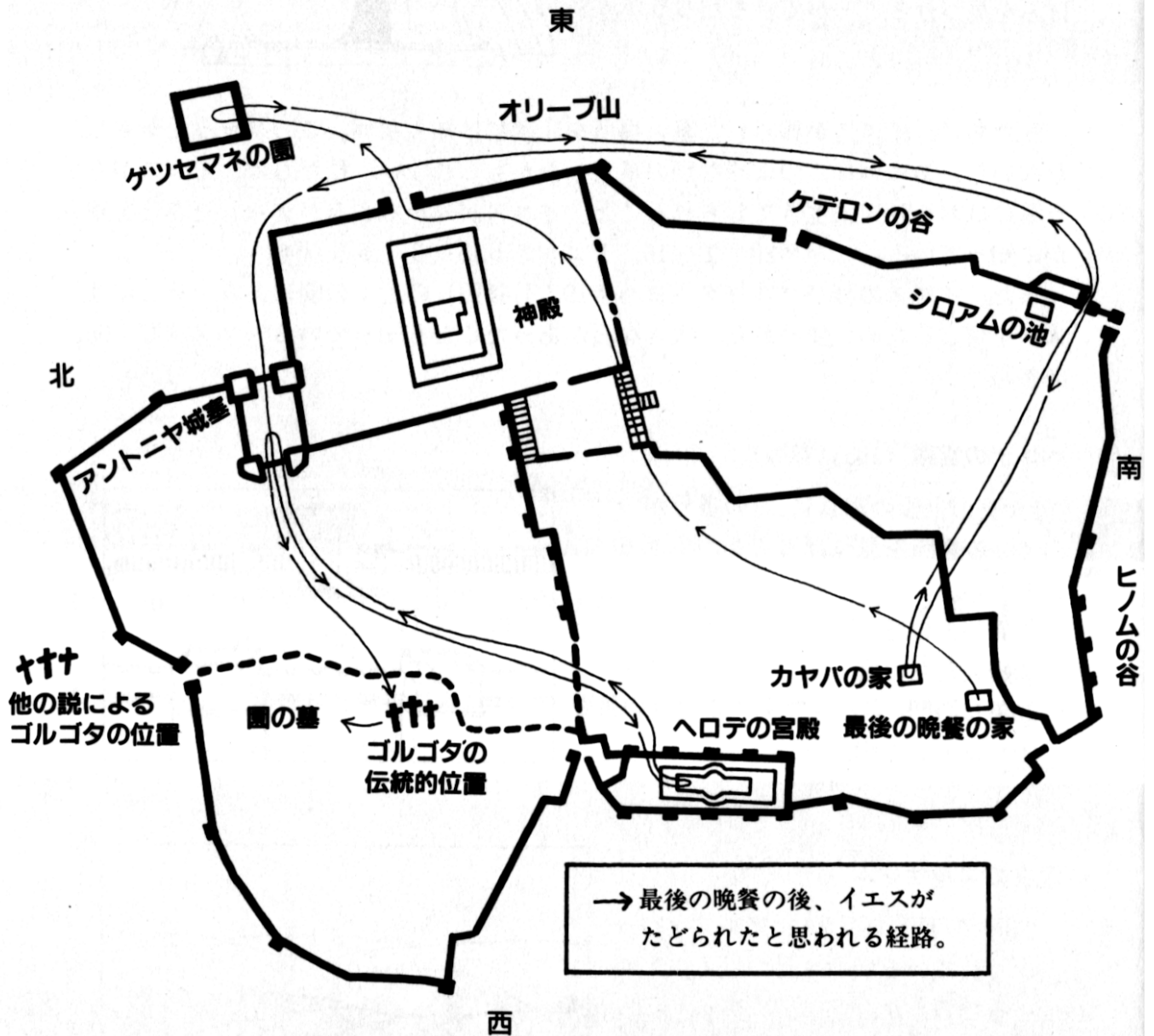
「しかし、今から後、人の子は全能の神の右に座る。」 ルカ 22 章 69 節

23) そのとき、イエスは言われた。「父よ、彼らをお赦しください。自分が何をしているのか知らないのです。」 ルカ 23 章 34 節

24) 婦人たちが恐れて地に顔を伏せると、二人は言った。「なぜ、生きておられる方を死者の中に捜すのか。あの方は、ここにはおられない。復活なさったのだ。まだガリラヤにおられたころ、お話しになったことを思い出しなさい。人の子は必ず、罪人の手に渡され、十字架につけられ、三日目に復活することになっている、と言われたではないか。」 ルカ 24 章 5～7 節



新約聖書の時代のエルサレム



次のような出来事が起きた場所を、見つけることができるだろうか。

- 1 群衆がイエスを歓迎した マタイ21：9－11
- 2 イエスが教えられた マルコ11：17－19
- 3 ペテロとヨハネが過越の食事を準備した ルカ22：8－13
- 4 イエスが祈られた マタイ26：36
- 5 イエスが捕えられた マタイ26：36、47－50
- 6 イエスが大祭司の前に連れて行かれた マタイ26：57、58
- 7 イエスが十字架につけられた ヨハネ19：17、18
- 8 イエスが葬られた ヨハネ19：40－42
- 9 イエスがよみがえられた マルコ16：5－8

ルカの福音書を読む

(小賀野英次)

ルカ福音書の特徴(ルカの神学)

- a. ルカという人物 「愛する医者」(コロ4:14)
パウロの「同労者」(ピレ 24 節、2テモテ 1:15、4:11)
異邦人キリスト者
歴史家(ルカ1章、使徒1章の冒頭)
画家(キリスト教会の伝承)

「生まれではアンテオケ人、職業では医者であったルカは、長い間パウロの同伴者であったし、他の使徒たちとも親交があった。そこで彼は、彼から学んだ魂の治療法の手本を、二巻の神学に靈感された書物、『福音書』と『使徒の働き』に残してくれた。」 カイザリアのエウセビオイス(260-339)のことば。

- b. 四つの福音書における位置
マタイはイエスがイスラエルの王であることを強調する。
マルコはイエスが神のしもべであることを強調する。
ルカはイエスが全き人であることを強調する。
ヨハネはイエスが救い主であることを強調する。

教会のシンボルはマタイが人の子、マルコは獅子(ライオン)、ルカは牛、ヨハネは鷲である。

イエス様の人性(神が人になられたこと)を伝える。

- a. 人として祈りより頼む ― よく祈るイエス様
- 3:21 さて、民衆がみなバプテスマを受けていたころ、イエスもバプテスマをお受けになり、そして祈っておられると、天が開け
 - 5:16 だが、イエスは一人で離れた所に退いて祈っておられた。
 - 6:12 このころ、イエスは祈るために山に行き、神に祈りながら夜を明かされた。
 - 9:18 イエスがひとりで祈っておられたとき、弟子たちは共にいた。そこでイエスは、「群衆は、わたしのことを何者だと言っているか」とお尋ねになった。
 - 9:28 この話をしてから八日ほどたったとき、イエスは、ペテロ、ヨハネ、およびヤコブを連れて、祈るために山に登られた。9:29 祈っておられるうちに、イエスの顔の様子が変わり、服は真っ白に輝いた。
 - 11:1 イエスはある所で祈っておられた。祈りが終わると、弟子の一人がイエスに、「主よ、ヨハネが弟子たちに教えたように、わたしたちにも祈りを教えてください」と言った。
 - 22:32 しかし、わたしはあなたのために、信仰が無くならないように祈った。だから、あなたは立ち直ったら、兄弟たちを力づけてやりなさい。」
 - 22:44 イエスは苦しみもだえ、いよいよ切に祈られた。汗が血の滴るように地面に落ちた。
 - 23:34 そのとき、イエスは言われた。「父よ、彼らをお赦してください。自分が何をしているのか知らないのです。」人々はくじを引いて、イエスの服を分け合った。

b. 聖霊と賛美

1:35 天使は答えた。「聖霊があなたに降り、いと高き方の力があなたを包む。だから、生まれる子は聖なる者、神の子と呼ばれる。」

10:21 そのとき、イエスは聖霊によって喜びにあふれて言われた。「天地の主である父よ、あなたをほめたたえます。これらのことを知恵ある者や賢い者には隠して、幼子のような者にお示しになりました。そうです、父よ、これは御心に適うことでした。」

福音は喜ばしいおとずれ(踊りだすもの)

福音は喜ばしいおとずれ

a. バプテスマのヨハネとイエス様の誕生を一番詳しく記している — 1、2 章

登場： 人物は高齢者、少女、羊飼、赤ちゃん、貧しい大工…。

b. 平地の説教の逆転

6:17「それから、イエスは彼らとともに山を下り…」、20 節「イエスは目を上げて弟子を見つめながら、話し出された『貧しいものは幸いです。神の国はあなたがたのものだからです。』」

土木工事をされるイエス様

6:41 あなたは、兄弟の目にあるおが屑は見えるのに、なぜ自分の目の中の丸太に気づかないのか。6:42 自分の目にある丸太を見ないで、兄弟に向かって、『さあ、あなたの目にあるおが屑を取らせてください』と、どうして言えるだろうか。偽善者よ、まず自分の目から丸太を取り除け。そうすれば、はっきり見えるようになって、兄弟の目にあるおが屑を眼から除くことができる。」

良い木を植え、しっかりとした土台に家をすえる。

以上、イエス様の言葉に隠されたユーモアを読み取ろう。

ルカの福音書のアウトライン

1.序文(1:1-4)

2.メシヤの出現(1:5-2:52)

(1)誕生の告知(1:5-56)

a.ヨハネ誕生の告知(5-25)

b.イエス誕生の告知(26-38)

c.マリヤの訪問と賛歌(39-56)

(2)誕生と幼少時代(1:57-2:52)

a.ヨハネの誕生と成長(1:57-80)

b.イエスの誕生と成長(2:1-52)

3.宣教への備え(3:1-4:13)

(1)バプテスマのヨハネの宣教(3:1-20)

a.ヨハネのバプテスマ(1-6)

b.ヨハネのメッセージ(7-14)

c.ヨハネの役割(15-17)

d.ヨハネの投獄(18-20)

(2)イエスの受洗(3:21-22)

(3)イエスの系図(3:23-38)

(4)荒野の誘惑(4:1-13)

4.ガリラヤ宣教(4:14-9:50)

(1)宣教の開始(4:14-30)

a.ガリラヤ帰還(14-15)

b.ナザレでの宣教(16-30)

(2)イエスの権威(4:31-6:16)

a.いやしと教え(4:31-44)

b.弟子の召命(5:1-11)

c.いやしの奇蹟(5:12-26)

d.取税人の召し(5:27-32)

e.断食問答(5:33-39)

f.安息日論争(6:1-11)

g. 12 使徒(6:12-16)

(3)平地の説教(6:17-49)

a.導入(17-19)

b.幸いな者と哀れな者(20-26)

c.愛と義(27-45)

d.結び(46-49)

(4)カペナウム宣教(7:1-8:56)

a.病と死への勝利(7:1-17)

b.イエスとヨハネ(7:18-35)

c.罪深い女の救い(7:36-50)

- d. 教え (8:1-21)
- e. 奇蹟 (8:22-56)
- (5) 弟子への教え (9:1-50)
 - a. 12 人の派遣 (1-6)
 - b. ヘロデの問い (7-9)
 - c. 5 千人の給食 (10-17)
 - d. 弟子であること (18-27)
 - e. イエスの変貌 (28-36)
 - f. ひとり息子のいやし (37-43a)
 - g. 弟子の無理解 (43b-45)
 - h. 弟子の高慢 (46-48)
 - i. 弟子の狭量 (49-50)

5. エルサレムへの道 (9:51-19:27)

- (1) エルサレムに向けて (9:51-13:21)
 - a. 拒絶と服従 (9:51-10:24)
 - b. 永生問答 (10:25-37)
 - c. なくてはならぬもの (10:38-11:13)
 - d. 悪い時代 (11:14-54)
 - e. 弟子への教え (12:1-53)
 - f. 群衆への教え (12:54-13:21)
- (2) 神の国の民 (13:22-17:10)
 - a. 神の国への招き (13:22-14:35)
 - b. 捜し求めて救う神 (15:1-32)
 - c. 富と神の国 (16:1-31)
 - d. 対人・対神関係 (17:1-10)
- (3) 神の国の到来 (17:11-18:30)
 - a. 感謝するサマリヤ人 (17:11-19)
 - b. 神の国の到来 (17:20-21)
 - c. 人の子の到来 (17:22-37)

- d. 祈りについて (18:1-14)
 - e. 幼子のごとくあれ (18:15-17)
 - f. 富と永遠の命 (18:18-30)
- (4) 救い主と新しい生 (18:31-19:27)
 - a. 受難予告 (18:31-34)
 - b. 盲人のいやし (18:35-43)
 - c. ザアカイの救い (19:1-10)
 - d. 10 ミナのたとえ (19:11-27)

6. エルサレムにて (19:28-21:38)

- (1) エルサレム入城 (19:28-44)
 - a. 入城準備 (28-34)
 - b. 聖都入城 (35-40)
 - c. エルサレム哀歌 (41-44)
- (2) エルサレムの宮で (19:45-21:38)
 - a. 宮での教え (19:45-21:4)
 - b. 終わりの日 (21:5 - 38)

7. メシヤの死と復活 (22:1-24:53)

- (1) 受難と死 (22:1-23:56)
 - a. 殺害計画 (22:1-6)
 - b. 死の準備 (22:7-46)
 - c. 逮捕 (22:47-53)
 - d. 裁判 (22:54-23:25)
 - e. 十字架 (23:26-49)
 - f. 埋葬 (23:50-56)
- (2) 復活と昇天 (24:1-53)
 - a. 復活 (1-12)
 - b. 顕現 (13-49)
 - c. 昇天 (50-53)

イエス・キリストの十字架

マタイ 26 章、27 章

26:1 イエスは、これらの話をすべて終えると、弟子たちに言われた。
26:2 「あなたがたの知っているとおりに、二日たつと過越の祭りになります。人の子は十字架につけられるために引き渡されます。」
26:3 そのころ、祭司長、民の長老たちは、カヤパという大祭司の家の庭に集まり、
26:4 イエスをだまして捕え、殺そうと相談した。
26:5 しかし、彼らは、「祭りの間はいけない。民衆の騒ぎが起こるといけなから。」と話していた。
26:6 さて、イエスがベタニヤで、らい病人シモンの家におられると、
26:7 ひとりの女がたいへん高価な香油のはいった石膏のつぼを持ってみもとに来て、食卓に着いておられたイエスの頭に香油を注いだ。
26:8 弟子たちはこれを見て、憤慨して言った。「何のために、こんなむだなことをするのか。」
26:9 この香油なら、高く売れて、貧乏な人たちに施しができたのに。」
26:10 するとイエスはこれを知って、彼らに言われた。「なぜ、この女を困らせるのです。わたしに対してりっぱなことをしてくれたのです。」
26:11 貧しい人たちは、いつもあなたがたといっしょにいます。しかし、わたしは、いつもあなたがたといっしょにいるわけではありません。
26:12 この女が、この香油をわたしのからだに注いだのは、わたしの埋葬の用意をしてくれたのです。
26:13 まことに、あなたがたに告げます。世界中のどこでも、この福音が宣べ伝えられる所なら、この人のした事も語られて、この人の記念となるでしょう。」
26:14 そのとき、十二弟子のひとりで、イスカリオテ・ユダという者が、祭司長たちのところへ行って、

26:15 こう言った。「彼をあなたがたに売るとしたら、いったいいくらくれますか。」すると、彼らは銀貨三十枚を彼に支払った。
26:16 そのときから、彼はイエスを引き渡す機会をねらっていた。
26:17 さて、種なしパンの祝いの第一日に、弟子たちがイエスのところに来て言った。「過越の食事をなさるのに、私たちはどこで用意をしましょうか。」
26:18 イエスは言われた。「都にはいって、これこれの人のところに行って、『先生が「わたしの時が近づいた。わたしの弟子たちといっしょに、あなたのところで過越を守ろう。」と言っておられる。』と言いなさい。」
26:19 そこで、弟子たちはイエスに言いつけられたとおりにして、過越の食事の用意をした。
26:20 さて、夕方になって、イエスは十二弟子といっしょに食卓に着かれた。
26:21 みなで食事をしているとき、イエスは言われた。「まことに、あなたがたに告げます。あなたがたのうちひとりが、わたしを裏切ります。」
26:22 すると、弟子たちは非常に悲しんで、「主よ。まさか私のことではないでしょう。」とかわるがわるイエスに言った。
26:23 イエスは答えて言われた。「わたしといっしょに鉢に手を浸した者が、わたしを裏切るのです。」
26:24 確かに、人の子は、自分について書いてあるとおりに、去って行きます。しかし、人の子を裏切るような人間はのろわれます。そういう人は生まれなかったほうがよかったです。」
26:25 すると、イエスを裏切ろうとしていたユダが答えて言った。「先生。まさか私のことではないでしょう。」イエスは彼に、「いや、そうだ。」と言われた。
26:26 また、彼らが食事をしているとき、イエスはパンを取り、祝福して後、これを裂き、弟子たちに与えて言われた。「取って食べなさい。これはわたしのからだです。」
26:27 また杯を取り、感謝をささげて後、こう言って彼らにお与えになった。「みな、この杯から飲みなさい。」

26:28 これは、わたしの契約の血です。罪を赦すために多くの人のために流されるものです。

26:29 ただ、言っておきます。わたしの父の御国で、あなたがたと新しく飲むその日まで、わたしはもはや、ぶどうの実で造った物を飲むことはありません。」

26:30 そして、賛美の歌を歌ってから、みなオリブ山へ出かけて行った。

26:31 そのとき、イエスは弟子たちに言われた。「あなたがたはみな、今夜、わたしのゆえにつまずきます。『わたしが羊飼いを打つ。すると、羊の群れは散り散りになる。』と書いてあるからです。

26:32 しかしわたしは、よみがえってから、あなたがたより先に、ガリラヤへ行きます。」

26:33 すると、ペテロがイエスに答えて言った。「たとい全部の者があなたのゆえにつまずいても、私は決してつまずきません。」

26:34 イエスは彼に言われた。「まことに、あなたに告げます。今夜、鶏が鳴く前に、あなたは三度、わたしを知らないと言います。」

26:35 ペテロは言った。「たとい、ごいっしょに死ななければならぬとしても、私は、あなたを知らないなどとは決して申しません。」弟子たちはみなそう言った。

26:36 それからイエスは弟子たちといっしょにゲツセマネという所に来て、彼らに言われた。「わたしがあそこに行って祈っている間、ここにすわっていなさい。」

26:37 それから、ペテロとゼベダイの子ふたりとをいっしょに連れて行かれたが、イエスは悲しみもだえ始められた。

26:38 そのとき、イエスは彼らに言われた。「わたしは悲しみのあまり死ぬほです。ここを離れないで、わたしといっしょに目をさましていなさい。」

26:39 それから、イエスは少し進んで行って、ひれ伏して祈って言われた。「わが父よ。できますならば、この杯をわたしから過ぎ去らせてください。しかし、わたしの願うようにはなく、あなたのみこころのように、なさってください。」

26:40 それから、イエスは弟子たちのところに戻って来て、彼らの眠っているのを見つけ、ペテロに言われた。「あなたがたは、そんなに、一時間でも、わたしといっしょに目をさましていることができなかったのか。

26:41 誘惑に陥らないように、目をさまして、祈っていなさい。心は燃えていても、肉体は弱いのです。」

26:42 イエスは二度目に離れて行き、祈って言われた。「わが父よ。どうしても飲まずには済まされぬ杯でしたら、どうぞみこころのとおりをなさってください。」

26:43 イエスが戻って来て、ご覧になると、彼らはまたも眠っていた。目をあけることができなかったのである。

26:44 イエスは、またも彼らを置いて行かれ、もう一度同じことをくり返して三度目の祈りをされた。

26:45 それから、イエスは弟子たちのところに来て言われた。「まだ眠って休んでいるのですか。見なさい。時が来ました。人の子は罪人たちの手に渡されるのです。

26:46 立ちなさい。さあ、行くのです。見なさい。わたしを裏切る者が近づきました。」

26:47 イエスがまだ話しておられるうちに、見よ、十二弟子のひとりであるユダがやって来た。剣や棒を手にした大ぜいの群衆もいっしょであった。群衆はみな、祭司長、民の長老たちから差し向けられたものであった。

26:48 イエスを裏切る者は、彼らと合図を決めて、「私が口づけをするのが、その人だ。その人をつかまえるのだ。」と言っておいた。

26:49 それで、彼はすぐにイエスに近づき、「先生。お元気で。」と言って、口づけした。

26:50 イエスは彼に、「友よ。何のために来たのですか。」と言われた。そのとき、群衆が来て、イエスに手をかけて捕えた。

26:51 すると、イエスといっしょにいた者のひとりが、手を伸ばして剣を抜き、大祭司のしもべに撃ってかかり、その耳を切り落とした。

26:52 そのとき、イエスは彼に言われた。「剣をもとに納めなさい。剣を取る者はみな剣で滅びます。

26:53 それとも、わたしが父にお願いして、十二軍団よりも多くの御使いを、今わたしの配下に置いていただくことができないとも思うのですか。

26:54 だが、そのようなことをすれば、こうならなければならないと書いてある聖書が、どうして実現されましょう。」

26:55 そのとき、イエスは群衆に言われた。「まるで強盗にでも向かうように、剣や棒を持ってわたしをつかまえに来たのですか。わたしは毎日、宮ですわって教えていたのに、あなたがたは、わたしを捕えなかったのです。

26:56 しかし、すべてこうなったのは、預言者たちの書が実現するためです。」そのとき、弟子たちはみな、イエスを見捨てて、逃げてしまった。

26:57 イエスをつかまえた人たちは、イエスを大祭司カヤパのところへ連れて行った。そこには、律法学者、長老たちが集まっていた。

26:58 しかし、ペテロも遠くからイエスのあとをつけながら、大祭司の中庭まではいって行き、成り行きを見ようと役人たちといっしょにすわった。

26:59 さて、祭司長たちと全議会は、イエスを死刑にするために、イエスを訴える偽証を求めていた。

26:60 偽証者がたくさん出て来たが、証拠はつかめなかった。しかし、最後にふたりの者が進み出て、

26:61 言った。「この人は、『わたしは神の神殿をこわして、それを三日のうちに建て直せる。』と言いました。」

26:62 そこで、大祭司は立ち上がってイエスに言った。「何も答えないのですか。この人たちが、あなたに不利な証言をしています。これはどうなのでしょう。」

26:63 しかし、イエスは黙っておられた。それで、大祭司はイエスに言った。「私は、生ける神によって、あなたに命じます。あなたは神の子キリストなのか、どうか。その答えを言いなさい。」

26:64 イエスは彼に言われた。「あなたの言うとおりです。なお、あなたがたに言っておきますが、今からのち、人の子が、力ある方の右の座に着き、天の雲に乗って来るのを、あなたがたは見ることになります。」

26:65 すると、大祭司は、自分の衣を引き裂いて言った。「神への冒涇だ。これでもまだ、証人が必要でしょうか。あなたがたは、今、神をけがすことばを聞いたのです。

26:66 どう考えますか。」彼らは答えて、「彼は死刑に当たる。」と言った。

26:67 そうして、彼らはイエスの顔につばきをかけ、こぶしでなぐりつけ、また、他の者たちは、イエスを平手で打って、

26:68 こう言った。「当ててみる。キリスト。あなたを打ったのはだれか。」

26:69 ペテロが外の中庭にすわっていると、女中のひとりが来て言った。「あなたも、ガリラヤ人イエスといっしょにいましたね。」

26:70 しかし、ペテロはみなの前でそれを打ち消して、「何を言っているのか、私にはわからない。」と言った。

26:71 そして、ペテロが入口まで出て行くと、ほかの女中が、彼を見て、そこにいる人々に言った。「この人はナザレ人イエスといっしょでした。」

26:72 それで、ペテロは、またもそれを打ち消し、誓って、「そんな人は知らない。」と言った。

26:73 しばらくすると、そのあたりに立っている人々がペテロに近寄って来て、「確かに、あなたもあの仲間だ。ことばのなまりではっきりわかる。」と言った。

26:74 すると彼は、「そんな人は知らない。」と言って、のろいをかけて誓い始めた。するとすぐに、鶏が鳴いた。

26:75 そこでペテロは、「鶏が鳴く前に三度、あなたは、わたしを知らないと言います。」とイエスの言われたあのことばを思い出した。そうして、彼は出て行って、激しく泣いた。

27:1 さて、夜が明けると、祭司長、民の長老たち全員は、イエスを死刑にするために協議した。

27:2 それから、イエスを縛って連れ出し、総督ピラトに引き渡した。

27:3 そのとき、イエスを売ったユダは、イエスが罪に定められたのを知って後悔し、銀貨三十枚を、祭司長、長老たちに返して、

27:4 「私は罪を犯した。罪のない人の血を売ったりして。」と言った。しかし、彼らは、「私たちの知ったことか。自分で始末することだ。」と言った。

27:5 それで、彼は銀貨を神殿に投げ込んで立ち去った。そして、外に出て行って、首をつった。

27:6 祭司長たちは銀貨を取って、「これを神殿の金庫に入れるのはよくない。血の代価だから。」と言った。

27:7 彼らは相談して、その金で陶器師の畑を買い、旅人たちの墓地にした。

27:8 それで、その畑は、今でも血の畑と呼ばれている。

27:9 そのとき、預言者エレミヤを通して言われた事が成就した。「彼らは銀貨三十枚を取った。イスラエルの人々に値積もりされた人の値段である。

27:10 彼らは、主が私にお命じになったように、その金を払って、陶器師の畑を買った。」

27:11 さて、イエスは総督の前に立たれた。すると、総督はイエスに「あなたは、ユダヤ人の王ですか。」と尋ねた。イエスは彼に「そのとおりです。」と言われた。

27:12 しかし、祭司長、長老たちから訴えがなされたときは、何もお答えにならなかった。

27:13 そのとき、ピラトはイエスに言った。「あんなにいろいろとあなたに不利な証言をしているのに、聞こえないのですか。」

27:14 それでも、イエスは、どんな訴えに対しても一言もお答えにならなかった。それには総督も非常に驚いた。

27:15 ところで総督は、その祭りには、群衆のために、いつも望みの囚人をひとりだけ赦免してやっていた。

27:16 そのころ、バラバという名の知れた囚人が捕えられていた。
27:17 それで、彼らが集まったとき、ピラトが言った。「あなたがたは、だれを釈放してほしいのか。バラバか、それともキリストと呼ばれているイエスか。」
27:18 ピラトは、彼らがねたみからイエスを引き渡したことに気づいていたのである。
27:19 また、ピラトが裁判の席に着いていたとき、彼の妻が彼のもとに人をやって言わせた。「あの正しい人にはかわり合わないでください。ゆうべ、私は夢で、あの人のことで苦しいめに会いましたから。」
27:20 しかし、祭司長、長老たちは、バラバのほうを願うよう、そして、イエスを死刑にするよう、群衆を説きつけた。
27:21 しかし、総督は彼らに答えて言った。「あなたがたは、ふたりのうちどちらを釈放してほしいのか。」彼らは言った。「バラバだ。」
27:22 ピラトは彼らに言った。「では、キリストと言われているイエスを私はどのようにしようか。」彼らはいっせいに言った。「十字架につけろ。」
27:23 だが、ピラトは言った。「あの人がどんな悪い事をしたというのか。」しかし、彼らはますます激しく「十字架につけろ。」と叫び続けた。
27:24 そこでピラトは、自分では手の下しようがなく、かえって暴動になりそうなを見て、群衆の目の前で水を取り寄せ、手を洗って、言った。「この人の血について、私には責任がない。自分たちで始末するがよい。」
27:25 すると、民衆はみな答えて言った。「その人の血は、私たちや子どもたちの上にかかってもいい。」
27:26 そこで、ピラトは彼らのためにバラバを釈放し、イエスをむち打ってから、十字架につけるために引き渡した。
27:27 それから、総督の兵士たちは、イエスを官邸の中に連れて行って、イエスの回りに全部隊を集めた。
27:28 そして、イエスの着物を脱がせて、緋色の上着を着せた。
27:29 それから、いばらで冠を編み、頭にかぶらせ、右手に葦を持たせた。そして、彼らはイエスの前にひざまずいて、からかって言った。「ユダヤ人の王さま。ばんざい。」
27:30 また彼らはイエスにつばきをかけ、葦を取り上げてイエスの頭をたたいた。
27:31 こんなふうに、イエスをからかったあげく、その着物を脱がせて、もとの着物を着せ、十字架につけるために連れ出した。
27:32 そして、彼らが出て行くと、シモンというクレネ人を見つけたので、彼らは、この人にイエスの十字架を、むりやり背負わせた。
27:33 ゴルゴタという所(「どくろ」と言われている場所)に来てから、
27:34 彼らはイエスに、苦みを混ぜたぶどう酒を飲ませようとした。イエスはそれをなめただけで、飲むうとはされなかった。
27:35 こうして、イエスを十字架につけてから、彼らはくじを引いて、イエスの着物を分け、
27:36 そこにすわって、イエスの見張りをした。
27:37 また、イエスの頭の上には、「これはユダヤ人の王イエスである。」と書いた罪状書きを掲げた。
27:38 そのとき、イエスといっしょに、ふたりの強盗が、ひとり右に、ひとり左に、十字架につけられた。
27:39 道を行く人々は、頭を振りながらイエスをののしって、
27:40 言った。「神殿を打ちこわして三日で建てる人よ。もし、神の子なら、自分を救ってみろ。十字架から降りて来い。」
27:41 同じように、祭司長たちも律法学者、長老たちといっしょになって、イエスをあざけて言った。
27:42 「彼は他人を救ったが、自分は救えない。イスラエルの王さまなら、今、十字架から降りてもらおうか。そうしたら、われわれは信じるから。
27:43 彼は神により頼んでいる。もし神のお気に入りなら、いま救っていた方がいい。『わたしは神の子だ。』と言っているのだから。」
27:44 イエスといっしょに十字架につけられた強盗どもも、同じようにイエスをののしった。
27:45 さて、十二時から、全地が暗くなって、三時まで続いた。
27:46 三時ごろ、イエスは大声で、「エリ、エリ、レマ、サバクタニ。」と叫ばれた。これは、「わが神、わが神。どうしてわたしをお見捨てになったのですか。」という意味である。
27:47 すると、それを聞いて、そこに立っていた人々のうち、ある人たちは、「この人はエリヤを呼んでいる。」と言った。
27:48 また、彼らのひとりがすぐ走って行って、海綿を取り、それに酸いぶどう酒を含ませて、葦の棒につけ、イエスに飲ませようとした。
27:49 ほかの者たちは、「私たちはエリヤが助けに来るかどうか見ることでしょう。」と言った。
27:50 そのとき、イエスはもう一度大声で叫んで、息を引き取られた。
27:51 すると、見よ。神殿の幕が上から下まで真二つに裂けた。そして、地が揺れ動き、岩が裂けた。

27:52 また、墓が開いて、眠っていた多くの聖徒たちのからだが生き返った。
27:53 そして、イエスの復活の後に墓から出て来て、聖都にはいて多くの人に現われた。
27:54 百人隊長および彼といっしょにイエスの見張りをしていた人々は、地震やいろいろの出来事を見て、非常な恐れを感じ、「この方はまことに神の子であった。」と言った。
27:55 そこには、遠くからながめている女たちがたくさんいた。イエスに仕えてガリラヤからついて来た女たちであった。
27:56 その中に、マグダラのマリヤ、ヤコブとヨセフとの母マリヤ、ゼベダイの子らの母がいた。
27:57 夕方になって、アリマタヤの金持ちでヨセフという人が来た。彼もイエスの弟子になっていた。
27:58 この人はピラトのところに行って、イエスのからだの下げ渡しを願った。そこで、ピラトは、渡すように命じた。
27:59 ヨセフはそれを取り降ろして、きれいな亜麻布に包み、
27:60 岩を掘って造った自分の新しい墓に納めた。墓の入口には大きな石をころがしかけて帰った。
27:61 そこにはマグダラのマリヤとほかのマリヤとが墓のほうを向いてすわっていた。
27:62 さて、次の日、すなわち備えの日の翌日、祭司長、パリサイ人たちはピラトのところに集まって、
27:63 こう言った。「閣下。あの、人をだます男がまだ生きていたとき、『自分は三日の後によみがえる。』と言っていたのを思い出しました。
27:64 ですから、三日目まで墓の番するように命じてください。そうでないと、弟子たちが来て、彼を盗み出して、『死人の中からよみがえった。』と民衆に言うかもしれません。そうすると、この惑わしのほうが、前のばあいより、もっとひどいことになります。」
27:65 ピラトは「番兵を出してやるから、行ってできるだけの番をさせるがよい。」と彼らに言った。
27:66 そこで、彼らは行って、石に封印をし、番兵が墓の番をした。

ルカ 23:24～49

24 ピラトは、彼らの要求どおりにすることを宣告した。
25 すなわち、暴動と人殺しのかどで牢にはいていた男を願いどおりに釈放し、イエスを彼らに引き渡して好きなようにさせた。
26 彼らは、イエスを引いて行く途中、いなかから出て来たシモンというクレネ人をつかまえ、この人に十字架を負わせてイエスのうしろから運ばせた。
27 大ぜいの民衆やイエスのことを嘆き悲しむ女たちの群れが、イエスのあとについて行った。
28 しかしイエスは、女たちのほうに向いて、こう言われた。「エルサレムの娘たち。わたしのことで泣いてはいけない。むしろ自分自身と、自分の子どもたちのことのために泣きなさい。
29 なぜなら人々が、『不妊の女、子を産んだことのない胎、飲ませたことのない乳房は、幸いだ。』と言う日が来るのですから。
30 そのとき、人々は山に向かって、『われわれの上に倒れかかってくれ。』と言い、丘に向かって、『われわれをおおってくれ。』と言い始めます。
31 彼らが生木にこのようなことをするのなら、枯れ木には、いったい、何が起ころでしょう。」
32 ほかにもふたりの犯罪人が、イエスとともに死刑にされるために、引かれて行った。
33 「どくろ」と呼ばれている所に来ると、そこで彼らは、イエスと犯罪人とを十字架につけた。犯罪人のひとりは右に、ひとりは左に。
34 そのとき、イエスはこう言われた。「父よ。彼らをお赦しください。彼らは、何をしているのか自分でもわからないのです。」彼らは、くじを引いて、イエスの着物を分けた。
35 民衆はそばに立ってながめていた。指導者たちもあざ笑って言った。「あれは他人を救った。もし、神のキリストで、選ばれた者なら、自分を救ってみろ。」
36 兵士たちもイエスをあざけり、そばに寄って来て、酸いぶどう酒を差し出し、
37 「ユダヤ人の王なら、自分を救え。」と言った。
38 「これはユダヤ人の王。」と書いた札もイエスの頭上に掲げてあった。
39 十字架にかけられていた犯罪人のひとりはイエスに悪口を言い、「あなたはキリストではないか。自分と私たちを救え。」と言った。
40 ところが、もうひとりのほうが答えて、彼をたしなめて言った。「おまえは神をも恐れないのか。おまえも同じ刑罰を受けているではないか。
41 われわれは、自分のしたことへの報いを受けているのだからあたりまえだ。だがこの方は、悪いことは何もしなかったのだ。」

42 そして言った。「イエスさま。あなたの御国の位にお着きになるとときには、私を思い出してください。」
43 イエスは、彼に言われた。「まことに、あなたに告げます。あなたはきょう、わたしとともにパラダイスにいます。」
44 そのときすでに十二時ごろになっていたが、全地が暗くなって、三時まで続いた。
45 太陽は光を失っていた。また、神殿の幕は真二つに裂けた。
46 イエスは大声で叫んで、言われた。「父よ。わが霊を御手にゆだねます。」こう言って、息を引き取られた。
47 この出来事を見た百人隊長は、神をほめたたえ、「ほんとうに、この人は正しい方であった。」と言った。
48 また、この光景を見に集まっていた群衆もみな、こういういろいろの出来事を見たので、胸をたたいて悲しみながら帰った。
49 しかし、イエスの知人たちと、ガリラヤからイエスについて来ていた女たちとはみな、遠く離れて立ち、これらのことを見ていた。

ヨハネ 19:16～30

16 そこでピラトは、そのとき、イエスを、十字架につけるため彼らに引き渡した。
17 彼らはイエスを受け取った。そして、イエスはご自分で十字架を負って、「どくろの地」という場所（ヘブル語でゴルゴタと言われる）に出て行かれた。
18 彼らはそこでイエスを十字架につけた。イエスといっしょに、ほかのふたりの者をそれぞれ両側に、イエスを真中にしてであった。
19 ピラトは罪状書きも書いて、十字架の上に掲げた。それには「ユダヤ人の王ナザレ人イエス。」と書いてあった。

20 それで、大ぜいのユダヤ人がこの罪状書きを読んだ。イエスが十字架につけられた場所は都に近かったからである。またそれはヘブル語、ラテン語、ギリシヤ語で書いてあった。
21 そこで、ユダヤ人の祭司長たちがピラトに、「ユダヤ人の王、と書かないで、彼はユダヤ人の王と自称した、と書いてください。」と言った。
22 ピラトは答えた。「私の書いたことは私が書いたのです。」
23 さて、兵士たちは、イエスを十字架につけると、イエスの着物を取り、ひとりの兵士に一つずつあたるよう四分した。また下着をも取ったが、それは上から全部一つに織った、縫い目なしのものであった。
24 そこで彼らは互いに言った。「それは裂かないで、だれの物になるか、くじを引こう。」それは、「彼らはわたしの着物を分け合い、わたしの下着のためにくじを引いた。」という聖書が成就するためであった。
25 兵士たちはこのようなことをしたが、イエスの十字架のそばには、イエスの母と母の姉妹と、クロパの妻のマリヤとマグダラのマリヤが立っていた。
26 イエスは、母と、そばに立っている愛する弟子とを見て、母に「女の方。そこに、あなたの息子がいます。」と言われた。
27 それからその弟子に「そこに、あなたの母がいます。」と言われた。その時から、この弟子は彼女を自分の家に引き取った。
28 この後、イエスは、すべてのことが完了したのを知って、聖書が成就するために、「わたしは渇く。」と言われた。
29 そこには酸いぶどう酒のいっぱいはいった入れ物が置いてあった。そこで彼らは、酸いぶどう酒を含んだ海綿をヒソブの枝につけて、それをイエスの口もとに差し出した。
30 イエスは、酸いぶどう酒を受けられると、「完了した。」と言われた。そして、頭を垂れて、霊をお渡しになった。

十字架は愛のしるし、十字架のペンダント、病院のしるし。

十字架は処刑の道具 ローマの諸刑法

イエス様の十字架は急なことではない。時が満ちて行われた。

イザヤの預言。イザヤ書 53 章、ルカ 4 章 16-30

十字架の道は天国から始まりました。キリストの低い姿はただその人間性に属する性質だけではありません。キリストの謙遜は神様の性質です。人間が大きくなるのを求めるが、神様は人間の謙遜を求める理由は神様の偉大さはその小さくなられた姿で一番よく現れるからです。

イエス様が馬小屋で生れた事は人々の罪のための冷たさの結果でした。（人目で出産が真近かな事が分かっていても、人々は宿屋の中に彼女を入れなかった無関心。）しかし、同時に神様の選びでもありました。新しく生まれる救いの象徴です。新生において人間の罪深い、暗い、臭さい心にイエス様の聖霊様が入って下さる事のためにイエス様はこの世の暗闇にお生まれになったのです。

イエス様の十字架は人々の裏切りによる

群衆ルカ 19:37 の歓迎 — 十字架につけろルカ 23:18

オリーブ山の祈り ルカ 22:39-46

ペテロは離反する。ルカ 22:31、22:54 以下。

イエス様は一人で十字架刑へ。

イエス様の裁判は三重の尋問

①ユダヤの最高法院で裁判をうける（宗教裁判・ルカ 22:66 以下）

②ピラトの尋問（行政裁判・ルカ 23:1-5）

③ヘロデにわずらわしいことを押し付ける。最後に死刑の判決を下す。ピラトは、この男に罪はないと知りながら。

カルバリの丘の出来事

十字架上で七つのみ言葉

イエス様は十字架上で七つのみ言葉を大変な肉体的、精神的、霊的な苦しみの中から言われました。それらは恐らく大体次の順番で言われたと思います。それらを通して十字架の出来事を考えましょう。

① 「父よ。彼らをお赦してください。彼らは、何をしているのか自分でわからないのです。」

イエス様の第一のみ言葉は父なる神様に対する取り成しのお祈りです。ご自分を十字架につけようとするローマ人の兵隊の罪の赦しを願うお祈りです。それは十字架の苦しみは人々の罪の赦しのためのものだとはっきり示します。又その赦しは自分の罪を認めて悔い改める人のためだけではなく、まだ自分の罪に全然気が付いていない、まだ無知の世界で生きている人々のためでもあります。(兵士たちは恐らく自分の義務を果たして、罪を犯した人に正しい罰を執行しようとしていると勘違いをしていたでしょう。しかし、十字架上のイエス様のみ言葉と姿勢で彼らの目も開かれたでしょう。少なくとも、百人体長は「ほんとうに、この人は正しい方であった。」と言って、自分の過ちに気が付いて、イエス様のこの祈りに大きな慰めを得たでしょう。分からない内に犯した罪も罪であり、赦しを必要とします。

このイエス様の祈りによってどれほど多くの人々が神様の愛の御心を知って、赦しに預かったでしょう。また後でクリスチャンたちに対する迫害の中に、この祈りによって多くのクリスチャンは敵を赦すところに至ったに間違いはありません。

② 「女の方。そこに、あなたの息子がいます。」「そこに、あなたの母がいます。」

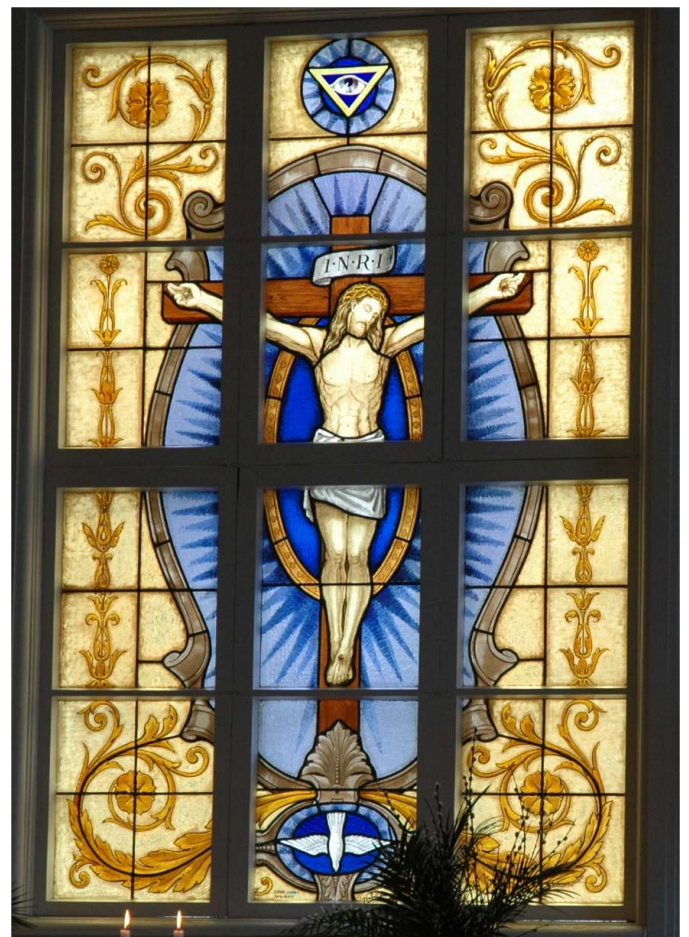
十字架の下にイエス様の母と弟子のヨハネがいました。母の心を剣が通るような苦しみが生じたでしょう。イエス様のみ言葉は深い愛情から出る親孝行の言葉です。イエス様はヨハネにマリアの世話を頼んで、ヨハネはマリアをこの耐えられない場から町に連れて行って、又後で一人で十字架の下に戻りました。イエス様の愛はもっとも大変な苦しみの中にも周りの人々の苦しみを見て、理解して、助けるあいです。

③ 「まことに、あなたに告げます。あなたはきょう、わたしとともにパラダイスにいます。」

十字架の両側に同じ刑を受けている犯罪人は始めに両方がイエス様を罵ったが、イエス様の赦しを願う祈りを聞いて片方は悔い改めて、イエス様を見つめ直して、自分の罪深さを認めて、もう一人の犯罪人にも姿勢を変えるように促しました。「おまえは神をも恐れないのか。おまえも同じ刑罰を受けているではないか。われわれは、自分のしたことの報いを受けているのだからあたりまえだ。だがこの方は、悪いことは何もしなかったのだ。」そして、イエス様に向かって一つの願いを言いました。「イエスさま。あなたの御国の位にお着きになるとときには、私を思い出してください。」

この犯罪人の言葉はすべての人々のすべき悔い改めの要素を含めます。まず第一に、自分の罪を正直に認める事です。第二に、イエス様を神様の国の王様として認める事です。第三に、自分には地獄に行く以外に何の資格もありません。第四に、にも拘らず十字架のイエス様から思い出さる様に願う事です。(資格のない人が十字架のイエス様から恵みをお願いする事は信仰です。)

イエス様の答えは十字架の意味を明言します。イエス様はその犯罪人の受けるべき永遠の苦しみの罰を代わって受け取って下さって、その故にこの犯罪人は天のみ国にあるパラダイスにその日に入ることが出来ました。犯罪人を救ったのは悔い改めの祈りではなく、イエス様の身代わりとしての苦しみでしたが、悔い改める心はその恵みを受け入れるには必要です。悔い改めの反対は救いを拒否する、自分で自分の始末をする高ぶりの姿勢です。



④ 「エリ、エリ、レマ、サバクタニ。」「わが神、わが神。どうしてわたしをお見捨てになったのですか。」

このイエス様のみ言葉は十字架の苦しみの最も深い事を表します。十字架上の6時間の間、父なる神様はご自分の御子イエス様を見捨てられました。神様に見捨てられる状態は地獄です。滅びです。燃えるゲヘナです。「神は燃えつくす火です」と書いてある通りです。

もし一人の人間のすべての罪が苦しみの杯の一滴に比べると、イエス様は全人類のすべての人々のすべての罪の罰としての杯を最後の一滴まで飲まれて、味わって下さいました。

ある人は次のような質問をしました。「イエス様の救いを拒否する人は永遠に続く滅びの火の中に掘り込まれるなら、イエス様の僅か6時間は比べ物にはならないではないか」と言いました。しかし、そうではなくて、イエス様の苦しみの長さはポイントではなく、その永遠の深さです。その深さで私たちのすべての人の罪の長い処罰は完全に負えられました。

イエス様のこのみ言葉は詩篇の祈りの始めからの引用です。その続きを言える肉体的な力がイエス様にはなかったのですが、周りのユダヤ人たちはその詩篇の内容を知ったでしょう。その詩篇22篇をここに全部引用しましょう。その詩篇の中にイエス様の苦しみとその後の栄光が預言されていました。

⑤ 「わたしは渇く。」

十字架上の6時間の最後の時に、イエス様は、すべてのことが完了したのを知って、「わたしは渇く。」と言われました。このすべての完了は大切な意味を持ちます。何が終わったかと言うとイエス様の地上の生涯と言う意味ではありません。それは、十字架上にまだ体が生きておられた時の滅びの苦しみが終わったと言う意味です。全人類の罪の代価は最後の一門まで支払われたと言う事でした。すべての人の永遠の火の地獄の処罰が最後まで経験されて、救いが完了したと言う意味です。イエス様の霊的な苦しみがピタッと終わりました。その苦しみに比べるとイエス様の肉体的な苦しみは余りにも軽かったのです。その苦難が終わって、イエス様は初めてご自分の肉体的な痛みが気が付いたほどと言っても言い過ぎではありません。しかし、飲むことによってイエス様は最後の勝利宣言を叫ぶに必要な肉体的な力を得られました。

⑥ 「完了した。」

私たちのすべての罪が赦されるためのイエス様の思いみ業が完成しました。これは何とも言えない素晴らしい勝利宣言でした。罪の代価が払い済みです。我らの罪の要求する処罰は最後まで受けられて、私たちは自由です。天国の門が犯罪人に開かれました。

イエス様が経験した罪の処罰はイエス様が肉体的に生きておられた内に終わりました。イエス様の肉体的な死は罪の処罰ではなく、罪の結果としての死を勝利者として取り除く働きに属します。主の復活は罪の支払いではなく、その領収書に似た役割があります。十字架の贖いが十分であった証拠です。

⑦ 「父よ。わが霊を御手にゆだねます。」

イエス様の最後のみ言葉は夜寝る前の安心する祈りです。同時に肉体的な死が何を意味するかと言う大切な教えでもあります。真の神様であり、真の人間であるイエス様はクリスチャンに正しい死に方を示して下さいました。イエス様の贖いによって罪赦された人は、安心して自分の霊を父なる神様に委ねて、新しい体の復活の日まで体から離れて、人格として主の下にパラダイスに体の蘇りを待つことになります。

旧約聖書では罪の為のいけにえの動物は血を流してほふられてから祭壇の上で燃やされました。それはイエス様の霊的な苦しみの性質を現す儀式でした。神様の罪に対する永遠のみ怒りの火がイエス様の魂を十字架の上に燃やしました。それは滅びの火、永遠の地獄の火でした。その本質はイエス様の十字架上の言葉で次に現れました：「わが神、わが神。どうしてわたしをお見捨てになったのですか。」神様に見捨てられる滅びの処罰をイエス様が私たちの代わりに終りまで経験して下さいました。

私たちの罪の為に払われた代価、キリストの経験した滅びの苦しみはイエス様が肉体的に生きておられた間に完成して終わりました：「イエスは、酸いぶどう酒を受けられると、『完了した。』と言われた。そして、頭を垂れて、霊をお渡しになった。」(ヨハネ 19:30) ですからイエス様の肉体的な死は私たちの罪の処罰を受けるよりも、私たちの罪がもたらせた結果に甦りで打ち勝つためのものでした。

イエスの死 (ルカ 23:44-49)

百人隊長の言葉、「本当に、この人は正しい人だった」。

「もし神の子なら、十字架からおりていこい」(マタイ 27:40)。

罪なきお方の死、過ぎ越しの子羊として、実に聖書に、神の御心に忠実にキリストは自分から、十字架に架けられ、本当に死んだ。

クリスチャンの信仰の土台としての十字架

十字架の躓き(ガラテヤ 5:1、1コリント 1:23)

完全な罪の身代わり(ヘブル9:26)

世界、全人類の救い(ヨハネ19:21)

キリストによるあがない (罪、死、サタンから自由に買い戻される)

イエス・キリスト十字架上の贖いは幾つかの面があります：

- a) イエス・キリストは神様の律法の要求する罪の罰を私たちの代わりに完全に、終りまで経験して下さいました。それで、神様の罪人に対するみ怒りは罪のないイエス様にあって、代わりに神様の愛と恵みのみ顔は私たちに向かわれた。
- b) イエス・キリストは私たちの罪の借金を全部払いました。
- c) 罪と悪魔の奴隷状態からイエス・キリストは私たちを自由に買い取れて、私たちを暗闇の支配から神様の光の支配に移して下さいました。
- d) 罪は神様の栄光に対する傷つけるもので、イエス・キリストは神様に「賠償」を払って下さいました。
- e) イエス・キリストは罪のために神様から離れている人々を神様と和解させて下さって、神様の国への道を備えて下さった。

だれのための贖い

イエス・キリストは天国に救われる人々のためだけではなく、自分の選択で地獄に行かなければならない人々の罪の贖いを完全に払いました。誰一人も地獄に行く必要がありません。イエス・キリストの贖いはすべての人に十分ですが、イエス・キリストの唯一の救いを拒否する人には別の救いの道がありません。

贖いに預かる道

ニコデモの受けた答え(ヨハネ 3 章 1～16)

「モーセが荒野で蛇を上げたように、人の子もまた上げられなければなりません。それは、信じる者がみな、人の子にあって永遠のいのちを持つためです。神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。」ヨハネ 3:14－16

ニコデモと言うユダヤ人の指導者がイエス様の所にやって来ました。彼は聖書を堅く信じて、裕福で、教育レベルの高い、それに謙遜で勇気のある熱心な宗教家でした。彼のイエス様に対する質問はやはり「人間はどうして神様の御前に十分な存在に変わり得るか」と言うものでした。イエスは答えて言われました。「まことに、まことに、あなたに告げます。人は、新しく生まれなければ、神の国を見ることはできません。」(ヨハネ 3:3) 人間は神様から与えられる奇跡を経験しない限り変わることが不可能です。しかし、人間には出来ない事は神様に可能です。人が新しく生まれる奇跡は洗礼の水と神様の聖霊様を心に受け入れる内容をもっているとされました。人格的な神様御自身を心に受け入れて、神様の永遠の命に預かることです。神様は全ての人にその奇跡をただその愛と恵みによって与えようとしておられます。それはあくまでも神様の御業ですから、神様の定められた条件の元にしか起こり得ません。イエス様はその条件を次のようにニコデモに告げました。

- 人の知恵や知識や努力や善行などはこの奇跡を受けるには何の役にも立ちません。へりくだってイエス様の言葉に(聖書)に耳を傾けねばなりません。神様は聖書の御言葉と洗礼式を通してこの奇跡をなさって下さいますから。
- この奇跡は人がイエス・キリスト様が彼のために十字架の上に死んで下さって三日目に蘇られた事に心の目を留める時にしか起こりません。イエス様があなたの代りにあなたの罪の正しい処罰を受けられて、あなたの心の全ての汚れや罪や悪をそのゆえに赦して下さいることをあなたが信じる瞬間に起こる奇跡なのです。

イスラエルの歴史の中に人々が神様に対してつぶやいて罪を侵しました。その結果として毒蛇の以上発生が起こって、多くの人々が亡くなりました。民は罪を認めてモーセを通して蛇からの解放を神様に願いました。返事はノーでした。問題は蛇ではなく、神様に対する不信仰でした。(神様より自分自身を信頼する盲信です。)だから、神様は変な答えを与えてくださいました。モーセが竿につけた銅製の蛇を仰ぎ見れば蛇に噛まれても死なないと言う

答えでした。自分の外にある銅製の蛇を仰ぎ見る瞬間に肉体的な癒しの奇跡が起こりました。馬鹿な話だなと思ったイスラエル人もいたでしょう。しかし、いざになると、死にかかる人はもう条件をつけません。何でも助けになりそうなことをします。神様の言われる通りにした人々は実際に癒されました。

心が生まれかわるという霊的な奇跡は同様に起こるとイエス様が約束なさいました。聖書の中に描写された歴史的なイエス様の十字架の姿を自分の罪のための救いとして仰ぎ見る途端に新しく生まれる奇跡が行われます。この奇跡によって心に以前となかった命が与えられると同時に神様の子供になる特権も与えられます。それは、全く恵みによるもので、ありのままの罪深い、資格のない、弱い人間に与えられます。

洗礼の内容は私達の罪のために行われたイエス・キリスト様の十字架の死と私達に新しい命を与える復活です。水の中に入ったら人間は3分で溺れ死にます。洗礼の水ではイエス様の死は私達の死になります。洗礼の恵みを受け入れる人には処罰としての死はもはや済んでいます。洗礼の水を出すのはキリスト様が蘇られた新しい復活の命に預かることです。神の聖霊様はこの二つの事実を受け入れる信仰を聖書の御言葉を通して与えて下さいます。

「キリスト・イエスにつくバプテスマを受けた私たちはみな、その死にあずかるバプテスマを受けたのではありませんか。私たちは、キリストの死にあずかるバプテスマによって、キリストとともに葬られたのです。それは、キリストが御父の栄光によって死者の中からよみがえられたように、私たちも、いのちにあって新しい歩みをするためです。もし私たちが、キリストにつき合わされて、キリストの死と同じようになっているのなら、必ずキリストの復活と同じようになるからです。」(ローマ 6:3 - 5)

三つの段階の救い

罪と死と悪魔とからの開放はそれぞれ三つの段階で行われます。第一段階は初めて信じて洗礼を受ける救いの段階です。第二はクリスチャン生活を送っていく清めの段階です。第三は死またはイエス様の再臨の時の体のよみがえりの段階です。

第一段階において罪からの開放は罪の赦し、キリストの十字架の贖いのゆえに義と認められて、神様の怒りから神様の恵みの区域に移す事です。罪の処罰から開放されます。暗闇から神様の国の中に入ります。この大きな立場の変化は罪を悔い改めてキリストの十字架の恵みを信じ受け入れる事狭い門のを通る事で行われます。罪赦された神様の子供は自分の努力や行いと全く関係のない恵みのずっと続く場に置かれます。それは父なる神様は罪赦されたクリスチャンをキリストの完全な義を持つ罪のない存在のように扱って下さいます。クリスチャンの救いの確信はこの一方的な恵みの大きさにあります。

第一段階で霊的に死んだ人間に聖霊による新しい命が注がれます。このいのちは神様との交わりによる永遠の性質があります。その上に肉体的な死は最早何の力もありません。

第一段階で悪魔は人間のを攻める資格を失います。ですから、悪魔の虜の状態から神様の子供の自由の中に入ります。

第一段階でクリスチャンは罪赦されて天国を受け継ぐ資格が与えられますが、未だ救いがそれで完成している訳ではありません。義と認められた、罪赦された神様の子供に未だ罪深い性質が残ります。ですからクリスチャン生活の中に繰り返して罪を犯して、新たに罪の赦しを必要としますが、罪の赦しへの道がいつも開かれています。又肉体的な死の影は未だ神様の子供にも苦しみや病気という形で迫ります。悪魔がクリスチャンを攻める立場を失っても、色々の誘惑を通して神様の子供をも苦しめようとしますが、最早神様の恵みから彼を奪い去る事が出来ません。

第二段階は清めです。その中に聖霊様は神様の子供の内に支配権を増やして、罪深い性質が産もうとする行いを殺して、具体的な罪から清めて、愛の行いを産んでくださいます。と同時に真理の光で益々心を照らして、細かい所でも正しい道に導いて下さって、罪の力から開放して、恵みの大きさを示して下さい。しかし、この地上で完全に罪深い性質から開放する事が未だありません。

第二段階で新生の時に与えられた聖霊によるいのちが成長して、キリストの復活の力が弱って行く体の中にも益々霊的ないのちの力が見えて参ります。

第二段階で悪魔はその燃える矢を神様の子供の心に向けますが、真理の武具でそれに打ち勝つ力が与えられ、悪魔の戦略に負ける事が減って行きます。

第三段階では救いが完成されます。それは罪深い性質が完全に取り去られて、復活の体にとって、悪魔が完全に滅ぼされます。

死の意味

イエス様は不思議な事を言われました。「生きていてわたしを信じる者が決して死ぬことはありません。」と。イエス様を信じる人が何故死なないのでしょうか。だって、クリスチャンも皆死んで行くのではないのでしょうか。聖書の中には死と言う言葉には二つの意味があります。第一は私達が意識的な存在を持ち続けて神様から罪の罰を受ける恐ろしい意味なのです。第二は体の死と言う日常的な意味です。イエス様を頼りにする人には絶対に死後には何の罰もありません。イエス様は私達の受けるに値する裁きと罰を十字架の上で私達に代わって終まで経験してくださいましたので、その罪を告白してゆるしを願う人には平安と天のみ国の永遠のいのちしかありません。そういう意味ではイエス様を信じる人には死がありません。しかし、今の肉体を離れて新しい永遠の体を迎えるための死は勿論ありますが、そこには恐ろしさがもはやありません。イエス様と共に天のみ国におられる喜びですよ。そして、その神様の御国は実に現実的なものです。そこに行かれた人々に又会える希望もありますから、死はただの一時的な別れに過ぎません。

贖いはどうして必要だったのか

赦しの根拠

日本の甘えの文化の中に育った人には、必ずしも赦しの根拠が本当に必要なのかと言う事がピント来ない場合が多いかと思います。甘えさえあれば、悪いことを侵した人が謝れば、許されるべきではありませんか。甘えの範囲以外のトラブルには許しなんか期待すべきではないのです。そういう場合に人間関係を切るしか道がないようですね。そうならないように人間関係において、余り深くて壊れ安い関係をつくらないように、建前レベルのつき合いを好むのは甘えの文化の生活の知恵でしょう。親戚と家庭において深い人間関係は避けられないものですが、その分は甘えの方も強いのですが、許しがきかなくなると、一番悲惨な状態にもなります。

甘えによる許し

甘えによる許しがいかに不公平かと言うと、身内の者が侵した罪が許されても、全く同じ事を侵した甘えの範囲以外の方が絶対に許されない場合が多いものです。それだけではありません。甘えによる許しは本物の赦しではない事がかなり多くの場合に明確になります。甘えで相手を許し続けて来たつもりの方は、相手がある程度を越える罪を侵せば、許す姿勢から憎しみに変わります。そして、以前許したと言った事は全部責めの対象になります。だから、甘えによる許しは心に平安と確信を与えないのです。かえって、疑いを残して、後から色々の努力で許された状態を保たなければならない大変な奴隷状態さえさせる場合まで人をさせます。本当の赦しは問題を解決済みの状態にさせて、再復活を不可能にし、互いのひび割れを癒して、以前より深い関係を築き上げる不思議な力を持ちます。

根拠のない許しは本当の赦しではありません。例えば人が怒って人を叩くと仮定しましょう。別に怪我をさせるつもりはなくても、相手が倒れて、頭を打て、一生麻痺状態になったら、叩く方が謝っても謝っても、健康が元に戻らないのです。叩かれた方が簡単に赦す事が出来るとは限らないのです。もし本当に赦してくれるなら、何かの根拠が問われます。赦す事は相手を罰しないままにしておくだけではありません。赦しは関係の回復でないと駄目ですから。

S. ツルネンの例

実例を上げましょう。私はよく日本からのお客様を私の判断ではクオピオの町の一番幸福な人の所に連れて行きます。S. ツルネンさんと言う55歳の女性です。35年前のことです。神様を知らない生き方をして、婚約して同棲して娘一人が与えられた段階で、相手とどうしてもやっていけなくなって離れてしまいました。ある日にバーに行ったところに以前の婚約者がピストルを持って来て、嫉妬と怒りの余り彼女をうちました。玉は首を通して、首から下の体を完全に麻痺させて、未だにツルネンさんは寝たきりの生活をしております。彼女をうった以前の婚約者はその場で自殺をしました。自分が赦されない程大きな罪を侵したと思ったからでしょう。

しかし、ツルネンさんはその以前の婚約者の罪を完全に赦して、彼が自殺を侵したことを憂いする日がやってきました。それは事件の6ヵ月後のことでした。神様は彼女に語りかけて、彼女の罪深さを明らかにさせて、イエス様の十字架の元に導いて下さいました。イエス様の苦しみが彼女自身の多くの罪の完全な処罰であったことが分

かった瞬間に心に平安と喜びが注がれました。イエス様の十字架の愛を経験した上で自分の罪が赦されたので、始めて自殺した相手をも完全に赦す事が出来ました。人間の心の良心は罰が来ないと平安をえられない不思議な機械なのです。自分の罪を良心の責めのとおりに認めて、イエス様の十字架を仰ぎ見るところに赦しと大きな愛が注がれます。

赦しは肯定的な命の源

キリスト信仰は何と言う否定的なものだ—と思う人がけっこう多いかと思えます。そんな人にはルターが「罪の赦しのあるところに命と幸福がある」と言われたこともなかなか分からないのです。大きな犯罪人なら、許されたら喜ぶでしょう。しかし、彼のような普通の人なら、それほど大きな罪も侵したつもりもないし、肯定的に生きてきたつもりです。命と幸福は多くの肯定的な体験の重なりではありませんか。こう考える人の問題は本当の自分を知らない所にあると思います。肯定的な体験の重なりによって心の渇きは一切おらないのです。その渇きこそ神様から離れている状態の代表的な印なのです。神様の前に侵した罪の本質は犯罪のようなものではありません。それは神様を離れて、その大きな愛を無視する所にあります。その罪が赦されるところに神様との関係が回復されて、神様の愛と喜びと平安が人の心の幸せになります。



神様の赦しは十字架を必要とします

人が人を赦す条件と根拠は自分自身の罪を神様から赦して頂くところにあります。しかし、神様が人を赦す根拠は何処にあるのでしょうか。それは、神様が正義を犠牲にするような甘えにはありません。神様の正しさを満たす十字架の愛にあります。神様は私達に代わって、御自分の御子イエス・キリスト様の上に私達の全ての罪を背負い、それを罰して、私達を完全に赦して下さいます。私達をありのままに受け入れて、御自分の愛の中に入れてくださり、新しく作り替えて、真の幸福を与えてくださいます。だからツルネンさんは罪が赦された以上、大変不自由な生活の中にも、父なる神様御自身を喜びと楽しみにして、顔を見ても文字通り幸せな生活を過ごして、多くの接している人に励ましと愛の言葉を語ってくれます。神様との関係の回復は人間関係の回復の鍵です。人を赦す事は可能になります。生き方が肯定的になり、光の輝く人生が可能になります。

墓

キリスト教の墓は魂の休むところではありません。魂と霊は亡くなる瞬間にイエス様の御前に行きます。墓は体の休む所です。墓の意味はイエス様の再臨の時の体の復活を待つ信仰の現れです。体はその時に新しい、キリストの復活の体と同様に甦って、魂と霊と一緒にあって、救いが完成します。

よみに下られた主

キリストがよみの中に勝利者として死んだ人の霊に福音を述べ伝えられました(1ペテロ 4:6)。この箇所がどう理解すべきかについて色々の解釈があります。生きている間に福音を聞いた事がなかった人々にこのキリストの福音宣教によって救われるチャンスが与えられる解釈もあれば、それを否定する解釈もあります。いずれに致しましても、救われるためにはキリストの福音以外に道がないと言う事は聖書の教えから明白です。

イエス・キリストの復活

マタイ 28:1～20

1 さて、安息日が終わって、週の初めの日の明け方、マグダラのマリヤと、ほかのマリヤが墓を見に来た。
2 すると、大きな地震が起こった。それは、主の使いが天から降りて来て、石をわきへころがして、その上にすわったからである。
3 その顔は、いはずまのように輝き、その衣は雪のように白かった。
4 番兵たちは、御使いを見て恐ろしさのあまり震え上がり、死人のようになった。

5 すると、御使いは女たちに言った。「恐れてはいけません。あなたがたが十字架につけられたイエスを捜しているのを、私は知っています。
6 ここにはおられません。前から言っておられたように、よみがえられたからです。来て、納めてあった場所を見てごらん下さい。
7 ですから急いで行って、お弟子たちにこのことを知らせなさい。イエスが死人の中からよみがえられたこと、そして、あなたがたより先にガリラヤに行かれ、あなたがたは、そこで、お会いできるということです。では、これだけはお伝えしました。」
8 そこで、彼女たちは、恐ろしくはあったが大喜びで、急いで墓を離れ、弟子たちに知らせに走って行った。

9 すると、イエスが彼女たちに出会って、「おはよう。」と言われた。彼女たちは近寄って御足を抱いてイエスを拝んだ。
10 すると、イエスは言われた。「恐れはいけません。行って、わたしの兄弟たちに、ガリラヤに行くように言いなさい。そこでわたしに会えるのです。」
11 女たちが行き着かないうちに、もう、数人の番兵が都に来て、起こった事を全部、祭司長たちに報告した。
12 そこで、祭司長たちは民の長老たちとともに集まって協議し、兵士たちに多額の金を与えて、
13 こう言った。「『夜、私たちが眠っている間に、弟子たちがやって来て、イエスを盗んで行った。』』と言うのだ。
14 もし、このことが総督の耳にはいっても、私たちがうまく説得して、あなたがたには心配をかけないようにするから。」
15 そこで、彼らは金をもらって、指図されたとおりにした。それで、この話が広くユダヤ人の間に広まって今日に及んでいる。
16 しかし、十一人の弟子たちは、ガリラヤに行って、イエスの指示された山に登った。
17 そして、イエスにお会いしたとき、彼らは礼拝した。しかし、ある者は疑った。
18 イエスは近づいて来て、彼らにこう言われた。「わたしには天においても、地においても、いっさいの權威が与えられています。
19 それゆえ、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。そして、父、子、聖霊の御名によってバプテスマを授け、
20 また、わたしがあなたがたに命じておいたすべてのことを守るように、彼らを教えなさい。見よ。わたしは、世の終わりまで、いつも、あなたがたとともにいます。」

ルカ 24:13～53

13 ちょうどこの日、ふたりの弟子が、エルサレムから十一キロメートル余り離れたエマオという村に行く途中であった。
14 そして、ふたりでこのいっさいの出来事について話し合っていた。
15 話し合ったり、論じ合ったりしているうちに、イエスご自身が近づいて、彼らとともに道を歩いておられた。
16 しかしふたりの目はさえぎられていて、イエスだとはわからなかった。
17 イエスは彼らに言われた。「歩きながらふたりで話し合っているその話は、何のことですか。」すると、ふたりは暗い顔つきになって、立ち止まった。
18 クレオパというほうが答えて言った。「エルサレムにいながら、近ごろそこで起こった事を、あなただけが知らなかったのですか。」
19 イエスが、「どんな事ですか。」と聞かれると、ふたりは答えた。「ナザレ人イエスのことです。この方は、神とすべての民の前で、行ないにもことばにも力のある預言者でした。
20 それなのに、私たちの祭司長や指導者たちは、この方を引き渡して、死刑に定め、十字架につけたのです。
21 しかし私たちは、この方こそイスラエルを贖ってくださるはずだ、と望みをかけていました。事実、そればかりでなく、その事があってから三日目になりますが、
22 また仲間の女たちが私たちを驚かせました。その女たちは朝早く墓に行ってみました。
23 イエスのからだが見当たらないので、戻って来ました。そして御使いたちの幻を見たが、御使いたちがイエスは生きておられると告げた、と言うのです。
24 それで、仲間の何人かが墓に行ってみたのですが、はたして女たちの言ったとおりで、イエスさまは見当たらなかった、というのです。」
25 するとイエスは言われた。「ああ、愚かな人たち。預言者たちの言ったすべてを信じない、心の鈍い人たち。
26 キリストは、必ず、そのような苦しみを受けて、それから、彼の栄光にはいるはずではなかったのですか。」
27 それから、イエスは、モーセおよびすべての預言者から始めて、聖書全体の中で、ご自分について書いてある事がらを彼らに説き明かされた。
28 彼らは目的の村に近づいたが、イエスはまだ先へ行きそうな様子であった。
29 それで、彼らが、「いっしょにお泊まりください。そろそろ夕刻になりまし、日もおおかた傾きましたから。」と言って無理に願ったので、イエスは彼らといっしょに泊まるために中にはいられた。
30 彼らとともに食卓に着かれると、イエスはパンを取って祝福し、裂いて彼らに渡された。

31 それで、彼らの目が開かれ、イエスだとわかった。するとイエスは、彼らには見えなくなった。
32 そこでふたりは話し合った。「道々お話しになっている間も、聖書を説明してください。私たちの心はうちに燃えていたではないか。」
33 すぐさまふたりは立って、エルサレムに戻ってみると、十一使徒とその仲間が集まって、
34 「ほんとうに主はよみがえって、シモンにお姿を現わされた。」と言っていた。
35 彼らも、道であつたいろいろなことや、パンを裂かれたときにイエスだとわかった次第を話した。
36 これらのことを話している間に、イエスご自身が彼らの真中に立たれた。
37 彼らは驚き恐れて、霊を見ているのだと思った。
38 すると、イエスは言われた。「なぜ取り乱しているのですか。どうして心に疑いを起こすのですか。
39 わたしの手やわたしの足を見なさい。まさしくわたしです。わたしにさわって、よく見なさい。霊ならこんな肉や骨はありません。わたしは持っています。」
41 それでも、彼らは、うれしさのあまりまだ信じられず、不思議がっているのに、イエスは、「ここに何か食べ物がありますか。」と言われた。
42 それで、焼いた魚を一切れ差し上げると、
43 イエスは、彼らの前で、それを取って召し上がった。
44 さて、そこでイエスは言われた。「わたしがまだあなたがたといっしょにいたころ、あなたがたに話したことばはこうです。わたしについてモーセの律法と預言者と詩篇とに書いてあることは、必ず全部成就するということでした。」
45 そこで、イエスは、聖書を悟らせるために彼らの心を開いて、
46 こう言われた。「次のように書いてあります。キリストは苦しみを受け、三日目に死人の中からよみがえり、
47 その名によって、罪の赦しを得させる悔い改めが、エルサレムから始まってあらゆる国の人々に宣べ伝えられる。
48 あなたがたは、これらのことの証人です。
49 さあ、わたしは、わたしの父の約束してくださったものをあなたがたに送ります。あなたがたは、いと高き所から力を着せられるまでは、都にとどまっていなさい。」
50 それから、イエスは、彼らをベタニヤまで連れて行き、手を上げて祝福された。
51 そして祝福しながら、彼らから離れて行かれた。
52 彼らは、非常な喜びを抱いてエルサレムに帰り、
53 いつも宮にいて神をほめたたえていた。

ヨハネ 20:19～21:25

20:19 その日、すなわち週の初めの日の夕方のことであった。弟子たちがいた所では、ユダヤ人を恐れて戸がしめてあったが、イエスが来られ、彼らの中に立って言われた。「平安があなたがたにあるように。」
20:20 こう言ってイエスは、その手とわき腹を彼らに示された。弟子たちは、主を見て喜んだ。
20:21 イエスはもう一度、彼らに言われた。「平安があなたがたにあるように。父がわたしを遣わしたように、わたしもあなたがたを遣わします。」
20:22 そして、こう言われると、彼らに息を吹きかけて言われた。「聖霊を受けなさい。
20:23 あなたがたがだれかの罪を赦すなら、その人の罪は赦され、あなたがたがだれかの罪をそのまま残すなら、それはそのまま残ります。」
20:24 十二弟子のひとりで、デドモと呼ばれるトマスは、イエスが来られたときに、彼らといっしょにいなかった。
20:25 それで、ほかの弟子たちが彼に「私たちは主を見た。」と言った。しかし、トマスは彼らに「私は、その手に釘の跡を見、私の指を釘のところに差し入れ、また私の手をそのわきに差し入れてみなければ、決して信じません。」と言った。
20:26 八日後に、弟子たちはまた室内におり、トマスも彼らといっしょにいた。戸が閉じられていたが、イエスが来て、彼らの中に立って「平安があなたがたにあるように。」と言われた。
20:27 それからトマスに言われた。「あなたの指をここに付けて、わたしの手を見なさい。手を伸ばして、わたしのわきに差し入れなさい。信じない者にならないで、信じる者になりなさい。」
20:28 トマスは答えてイエスに言った。「私の主。私の神。」
20:29 イエスは彼に言われた。「あなたはわたしを見たから信じたのですか。見ずに信じる者は幸いです。」
20:30 この書には書かれていないが、まだほかの多くのしるしをも、イエスは弟子たちの前で行なわれた。
20:31 しかし、これらのことが書かれたのは、イエスが神の子キリストであることを、あなたがたが信じるため、また、あなたがたが信じて、イエスの御名によっていのちを得るためである。

21:1 この後、イエスはテベリヤの湖畔で、もう一度ご自分を弟子たちに現わされた。その現わされた次第はこうであった。

21:2 シモン・ペテロ、デドモと呼ばれるトマス、ガリラヤのカナのナタナエル、ゼベダイの子たち、ほかにふたりの弟子がいっしょにいた。

21:3 シモン・ペテロが彼らに言った。「私は漁に行く。」彼らは言った。「私たちもいっしょに行きましょう。」彼らは出かけて、小舟に乗り込んだ。しかし、その夜は何もとれなかった。

21:4 夜が明けそめたとき、イエスは岸べに立たれた。けれども弟子たちには、それがイエスであることがわからなかった。

21:5 イエスは彼らに言われた。「子どもたちよ。食べる物がありませんね。」彼らは答えた。「はい。ありません。」

21:6 イエスは彼らに言われた。「舟の右側に網をおろしなさい。そうすれば、とれます。」そこで、彼らは網をおろした。すると、おびただしい魚のために、網を引き上げることができなかった。

21:7 そこで、イエスの愛されたあの弟子がペテロに言った。「主です。」すると、シモン・ペテロは、主であると聞いて、裸だったので、上着をまわって、湖に飛び込んだ。

21:8 しかし、ほかの弟子たちは、魚の満ちたその網を引いて、小舟でやって来た。陸地から遠くなく、百メートル足らずの距離だったからである。

21:9 こうして彼らが陸地に上がったとき、そこに炭火とその上に載せた魚と、パンがあるのを見た。

21:10 イエスは彼らに言われた。「あなたがたの今とった魚を幾匹か持って来なさい。」

21:11 シモン・ペテロは舟に上がって、網を陸地に引き上げた。それは百五十三匹の大きな魚でいっぱいであった。それほど多かったけれども、網は破れなかった。

21:12 イエスは彼らに言われた。「さあ来て、朝の食事をしなさい。」弟子たちは主であることを知っていたので、だれも「あなたはどなたですか。」とあえて尋ねる者はいなかった。

21:13 イエスは来て、パンを取り、彼らにお与えになった。また、魚も同じようにされた。

21:14 イエスが、死人の中からよみがえってから、弟子たちにご自分を現わされたのは、すでにこれで三度目である。

21:15 彼らが食事を済ませたとき、イエスはシモン・ペテロに言われた。「ヨハネの子シモン。あなたは、この人たち以上に、わたしを愛しますか。」ペテロはイエスに言った。「はい。主よ。私があなたを愛することは、あなたがご存じです。」イエスは彼に言われた。「わたしの小羊を飼いなさい。」

21:16 イエスは再び彼に言われた。「ヨハネの子シモン。あなたはわたしを愛しますか。」ペテロはイエスに言った。「はい。主よ。私があなたを愛することは、あなたがご存じです。」イエスは彼に言われた。「わたしの羊を牧しなさい。」

21:17 イエスは三度ペテロに言われた。「ヨハネの子シモン。あなたはわたしを愛しますか。」ペテロは、イエスが三度「あなたはわたしを愛しますか。」と言われたので、心を痛めてイエスに言った。「主よ。あなたはいついっさいのことをご存じです。あなたは、私があなたを愛することを知っておいでになります。」イエスは彼に言われた。「わたしの羊を飼いなさい。」

21:18 まことに、まことに、あなたに告げます。あなたは若かった時には、自分で帯を締めて、自分の歩きたい所を歩きました。しかし年をとると、あなたは自分の手を伸ばし、ほかの人があなたに帯をさせて、あなたの行きたくない所に連れて行きます。」

21:19 これは、ペテロがどのような死に方をして、神の栄光を現わすかを示して、言われたことであった。こうお話しになってから、ペテロに言われた。「わたしに従いなさい。」

21:20 ペテロは振り向いて、イエスが愛された弟子があとについて来るのを見た。この弟子はあの晩餐のとき、イエスの右側にいて、「主よ。あなたを裏切る者はだれですか。」と言った者である。

21:21 ペテロは彼を見て、イエスに言った。「主よ。この人はどうですか。」

21:22 イエスはペテロに言われた。「わたしの来るまで彼が生きながらえるのをわたしが望むとしても、それがあなたに何のかかわりがありますか。あなたは、わたしに従いなさい。」

21:23 そこで、その弟子は死なないという話が兄弟たちの間に行き渡った。しかし、イエスはペテロに、その弟子が死なないと言われたのではなく、「わたしの来るまで彼が生きながらえるのをわたしが望むとしても、それがあなたに何のかかわりがありますか。」と言われたのである。

21:24 これらのことについてあかしした者、またこれらのことを書いた者は、その弟子である。そして、私たちは、彼のあかしが真実であることを、知っている。

21:25 イエスが行なわれたことは、ほかにもたくさんあるが、もしそれらをいちいち書きしるすなら、世界も、書かれた書物を入れることができまい、と私は思う。

キリストの復活ーからの墓

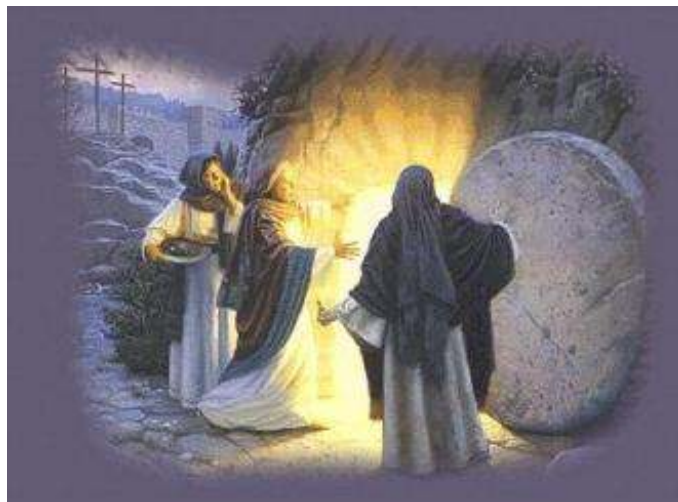
パウロがはっきりと告げているように、キリストこそが「眠った者の初穂として死者の中からよみがえられた」(1コリ 15:20)のである。主は十字架につけられた後、3日目によみがえると預言された(マコ 8:31)。福音書はイエスの十字架、死、3日目の復活、墓がからであったことについて語っている。御使いも、女たちに主がよみがえられたことを告げた。主はその後、40 日の間、弟子たちに姿を現された。パウロもイエスの顕現について述べているが、からの墓(墓にからだが残っていなかったこと)についてはふれていない。しかし、「葬られたこと、また……3 日目によみがえられたこと」(1コリ 15:4)は、墓がからであったことを前提にしていなければ無意味なものとなる。

弟子たちの変化

弟子たちにそれ以前に比べて大きな変化が起きたことは否定できない。何が彼らに変化をもたらしたのか、弟子たちを確信させたものは主の赦し。

死に対する勝利

復活はイエスが力を持った神の御子として示した(ロマ 1:4)。復活はイエスを主とし(使 2:36)、死を滅ぼす方(2テモ 1:10)とした。そのよみがえりにより、主は生かす御霊となられた(1コリ 15:45)。心を燃やすお方(ルカ 24:32)。



贖いの業

復活は贖罪のみわざの核心的な部分である。キリストは私たちの罪を贖い、きよめるために十字架で死なれたのみならず、罪と死とサタンに打ち勝ってよみがえられた。そして復活の主のみが生かす御霊となり、救い主となられたがゆえに、信じる者を永遠のいのちへと導かれる。

信者の復活

新約聖書はイエスの復活と共に、信じる者の復活をもあかししている。「わたしは、よみがえりです。いのちです。わたしを信じる者は、死んでも生きるのです」(ヨハ 11:25)。

救いの保障

復活は救いの保証です。「キリストが復活されなかったのなら、私たちの宣教は実質のないものになり、あなたがたの信仰も実質のないものになるのです。……そして、もしキリストがよみがえらなかったのなら、あなたがたの信仰はむなしく、あなたがたは今もなお、自分の罪の中にいるのです」(1コリ 15:14、17)。こう述べてパウロは、キリストの復活が福音であり、私たちの救いの保証であることを力強くあかししている。イエス様の十字架を支払いに例えば、復活は領収書のようなものです。

1 コリント 15:1～58

1 兄弟たち。私は今、あなたがたに福音を知らせましょう。これは、私があなたがたに宣べ伝えたもので、あなたがたが受け入れ、また、それによって立っている福音です。
2 また、もしあなたがたがよく考えもしないで信じたのでないなら、私の宣べ伝えたこの福音のことばをしっかりと保っていれば、この福音によって救われるのです。
3 私があなたがたに最も大切なこととして伝えたのは、私も受けたことであって、次のことです。キリストは、聖書の示すとおり、私たちの罪のために死なれたこと、
4 また、葬られたこと、また、聖書に従って三日目によみがえられたこと、
5 また、ケパに現われ、それから十二弟子に現われたことです。
6 その後、キリストは五百人以上の兄弟たちに同時に現われました。その中の大多数の者は今なお生き残っていますが、すでに眠った者もいくらかいます。
7 その後、キリストはヤコブに現われ、それから使徒たち全部に現われました。
8 そして、最後に、目足らずで生まれた者と同様な私にも、現われてくださいました。
9 私は使徒の中では最も小さい者であって、使徒と呼ばれる価値のない者です。なぜなら、私は神の教会を迫害したからです。
10 ところが、神の恵みによって、私は今の私になりました。そして、私に対するこの神の恵みは、むだにはならず、私はほかのすべての使徒たちよりも多く働きました。しかし、それは私ではなく、私にある神の恵みです。
11 そういふわけですから、私にせよ、ほかの人たちにせよ、私たちはこのように宣べ伝えているのであり、あなたがたはこのように信じたのです。
12 ところで、キリストは死者の中から復活された、と宣べ伝えられているのなら、どうして、あなたがたの中に、死者の復活はない、と言っている人がいるのですか。
13 もし、死者の復活がないのなら、キリストも復活されなかったでしょう。
14 そして、キリストが復活されなかったのなら、私たちの宣教は実質のないものになり、あなたがたの信仰も実質のないものになるのです。
15 それどころか、私たちは神について偽証をした者ということになります。なぜなら、もしもかりに、死者の復活はないとしたら、神はキリストをよみがえらせなかったはずですが、私たちは神がキリストをよみがえらせた、と言って神に逆らう証言をしたからです。
16 もし、死者がよみがえらないのなら、キリストもよみがえらなかったでしょう。
17 そして、もしキリストがよみがえらなかったのなら、あなたがたの信仰はむなしく、あなたがたは今もなお、自分の罪の中にいるのです。
18 そうだったら、キリストにあって眠った者たちは、滅んでしまったのです。
19 もし、私たちがこの世にあってキリストに単なる希望を置いているだけなら、私たちは、すべての人の中で一番哀れな者です。

20 しかし、今やキリストは、眠った者の初穂として死者の中からよみがえられました。
21 というのは、死がひとりの人を通して来たように、死者の復活もひとりの人を通して来たからです。
22 すなわち、アダムにあってすべての人が死んでいるように、キリストによってすべての人が生かされるからです。
23 しかし、おのおのにその順番があります。まず初穂であるキリスト、次にキリストの再臨のときキリストに属している者です。
24 それから終わりが来ます。そのとき、キリストはあらゆる支配と、あらゆる権威、権力を滅ぼし、国を父なる神にお渡しになります。
25 キリストの支配は、すべての敵をその足の下に置くまで、と定められているからです。
26 最後の敵である死も滅ぼされます。
27 「彼は万物をその足の下に従わせた。」からです。ところで、万物が従わせられた、と言うとき、万物を従わせたその方がそれに含まれていないことは明らかです。
28 しかし、万物が御子に従うとき、御子自身も、ご自分に万物を従わせた方に従われます。これは、神が、すべてにおいてすべてとなられるためです。
29 もしこうでなかったら、死者のゆえにバプテスマを受ける人たちは、何のためにそうするのですか。もし、死者は決してよみがえらないのなら、なぜその人たちは、死者のゆえにバプテスマを受けるのですか。
30 また、なぜ私たちもいつも危険にさらされているのでしょうか。
31 兄弟たち。私にとって、毎日が死の連続です。これは、私たちの主キリスト・イエスにあってあなたがたを誇る私の誇りにかけて、誓って言えることです。
32 もし、私が人間的な動機から、エペソで獣と戦ったのなら、何の益があるでしょう。もし、死者の復活がないのなら、「あすは死ぬのだ。さあ、飲み食いしようではないか。」ということになるのです。
33 思い違いをしてはいけません。友だちが悪ければ、良い習慣がそこなわれまします。
34 目をさまして、正しい生活を送り、罪をやめなさい。神についての正しい知識を持っていない人たちがいます。私はあなたがたをはずかしめるために、こう言っているのです。
35 ところが、ある人はこう言うでしょう。「死者は、どのようにしてよみがえるのか。どのようなからだで来るのか。」
36 愚かな人だ。あなたの蒔く物は、死ななければ、生かされません。
37 あなたが蒔く物は、後にできるからだではなく、麦やその他のほかの穀物の種粒です。
38 しかし神は、みこころに従って、それにかからだを与え、おのおのの種にそれぞれのからだをお与えになります。
39 すべての肉が同じではなく、人間の肉もあり、獣の肉もあり、鳥の肉もあり、魚の肉もあります。
40 また、天上のからだもあり、地上のからだもあり、天上のからだの栄光と地上のからだの栄光とは異なっており、
41 太陽の栄光もあり、月の栄光もあり、星の栄光もあります。個々の星によって栄光が違います。
42 死者の復活もこれと同じです。朽ちるもので蒔かれ、朽ちないものによみがえらされ、

43 卑しいもので蔭かれ、栄光あるものによみがえらされ、弱いもので蔭かれ、強いものによみがえらされ、
44 血肉のからだで蔭かれ、御霊に属するからだによみがえらせるのです。血肉のからだがあるのですから、御霊のからだもあるのです。
45 聖書に「最初の人アダムは生きた者となった。」と書いてありますが、最後のアダムは、生かす御霊となりました。
46 最初にあったのは血肉のものであり、御霊のものではありません。御霊のものはあとに来るのです。
47 第一の人は地から出て、土で造られた者ですが、第二の人は天から出た者です。
48 土で造られた者はみな、この土で造られた者に似ており、天からの者はみな、この天から出た者に似ているのです。
49 私たちは土で造られた者のかたちを持っていたように、天上のかたちをも持つのです。
50 兄弟たちよ。私はこのことを言うておきます。血肉のからだは神の国を相続できません。朽ちるものは、朽ちないものを相続できません。

51 聞きなさい。私はあなたがたに奥義を告げましょう。私たちはみなが眠ってしまうのではなく、みな変えられるのです。
52 終わりのラッパとともに、たちまち、一瞬のうちにです。ラッパが鳴ると、死者は朽ちないものによみがえり、私たちは変えられるのです。
53 朽ちるものは、必ず朽ちないものを着なければならず、死ぬものは、必ず不死を着なければならないからです。
54 しかし、朽ちるものが朽ちないものを着、死ぬものが不死を着るとき、「死は勝利にのまれた。」とするされている、みことばが実現します。
55 「死よ。おまえの勝利はどこにあるのか。死よ。おまえのとげはどこにあるのか。」
56 死のとげは罪であり、罪の力は律法です。
57 しかし、神に感謝すべきです。神は、私たちの主イエス・キリストによって、私たちに勝利を与えてくださいました。
58 ですから、私の愛する兄弟たちよ。堅く立って、動かされることなく、いつも主のわざに励みなさい。あなたがたは自分たちの労苦が、主にあってむだでないことを知っているのですから。

1 コリント 15 章

1～8 節 大雑把に言えば新約聖書の福音書は事実を語って、手紙はその意味を語ります。上記の箇所は 1～8 節に事実を要約して福音の内容を語ります。福音の中味はイエス様の死と復活とによって用意されたものです。

初めのクリスマスに神様が人間になられて、御子イエス・キリスト様として私達人間の一番根本的な問題を解決する為に地上に来られました。罪と死と悪魔から私達を開放するためです。罪から神様の愛の交わりへ、死から命へ、悪魔の支配からキリストの恵みの支配への救いです。イエス様が人間にならなかったら、この三つの問題に何の解決もありません。

イエス様の誕生は歴史上の出来事です。イエス様の愛に満ちた生涯も歴史に記録されています。その十字架上の死と墓からの肉体的な蘇りも歴史に起こった出来事です。だから、私達の救いの為に必要なものは完成されています。私達の方から何の努力も働きも頑張りも要りません。神様が一方的に何もかもなさって下さったからです。プレゼントは完成品です。組み立てるような準備的な手段は何も要りません。

神様からの福音の中味の第一はイエス様の十字架上の身代わりの死による罪の赦しです。もし、あなたは心の良心の責めを覚えるなら、この赦しはあなたの為です。おめでとうございます。神様はあなたを赦して下さるからです。

そのプレゼントの第二は永遠の命です。イエス様があなたの心の中に入られて、神様との平和や喜びや愛を注いで下さり、最終的に復活の体をも与えてくださいます。神様の愛に満ちた命はあなたへの贈り物です。

そのプレゼントの第三はイエス・キリスト様を信仰の目で見える事です。イエス様はあなたにも御自身を現わして下さい。おめでとうございます。あなたにもキリスト様を見る恵みが与えられます。

神様のプレゼントを私達の心に届く手段は福音なのです。この福音は神様の力です。福音は四つの文章で書けるはっきりした内容のメッセージです。目で読むことも出来れば、耳で聞くことも出来る簡単な知らせです。又反対に聞きたくないなら、簡単に耳をふさぐ事が出来ますし、目をつぶる事もできます。そして、何の影響もありません。福音はその意味であまりにも弱々しく見えるメッセージです。それにしても、福音は神様の力です。もし、人間はその耳を開いて、心を開けて、福音の簡単な知らせを受け入れると、素晴らしい奇跡が起こるのです。その言葉と一緒に蘇られたイエス様御自身が人の心に入られて、罪の赦しと永遠の命とイエス様を見る恵みを与えてくださいます。救いと言うプレゼントは福音と言う小包で届きますから。福音は麦の種のように良い土に入ったら、成長して実を結びます。砂や岩の中に実は出てきません。

もし、福音に心を開くなら、あなたも確実に救われます。神様はあなたの救いを望んでおられるし、その為に総てを用意して下さったからです。

もし、あなたはもう既に福音によって救われたならば、その福音によって歩んで下さい。毎朝起きるたび毎に、先ず第一に、福音の言葉を御自分の魂に述べ伝えてください。「魂よ。今朝素晴らしい事を聞いて下さい。あなたは神様の子供です。あなたの罪は赦されています。キリスト様が十字架までの愛をもって今日あなたを愛して、共におられます。キリストの復活によってあなたはもはや死ぬことがなく、永遠の命をもっています。」と。今日この福音をどうぞ受け取ってください。福音の力によって清い生活を送ることが出来るし、外の人にも福音の中味を分かち合うことが出来ます。

9～11 節で福音の力のパウロの人性における結果が証されています。福音によって自分の本当の価値と人性の役割とその原動力が与えられます。

12～21 節でキリスト信仰が如何にイエス様の復活の出来事によるのかが明らかになります。キリスト信仰は歴史的な出来事に、それに明確な奇跡的な出来事によるものです。決して単なる心の信仰だけではありません。イ

イエスの復活がなかったと言う事が証明出したら、キリスト者は世界一惨めな、騙された存在として立証できます。ですから、イエスの復活の証拠を一つ一つ調べて、それを崩そうとした動きが 2000 年も続いたが未だに成功していません。キリストの復活の主な根拠は次の6つです：

1. 墓は空っぽで、遺体を包んでいた亜麻布が残されていました。復活以外に満足の行く説明はなされたことはありません。
2. 40 日の間、復活されたキリストは、いろいろな人々に、いろいろな時間に、頻々と姿を現されました。
3. 11 人の弟子たちは、復活についてかたくなな不信から確固たる確信へと変えられました。
4. 弟子たちは、性格的には、恐れやすくぐらつきやすい人から、恐れを知らない証人へと変えられました。（復活が偽りであるならば考えられないことです）
5. 高度の教育を受けた人、パウロが教会を迫害する者から偉大な伝道者へと変えられた主な原因は、彼が復活のキリストを見たからです。
6. キリストの復活は、人類を救う神の永遠の御計画の一部であり、旧約聖書の中に預言されていました。

22～28 節で復活から永遠のみ国までの道のりが描写されます。

29～34 節でキリストの復活によって苦難に耐える力が与えられる事が強調されます。

35～50 節は復活の体が人間的な想像を超える性質を幾つかの譬で説明されます。

51～57 節でイエスの再臨の時に起こる出来事が説明されて、キリストにある最終的な勝利が褒め称えられます。

58 節で復活の勝利のために今の働きが永遠のみ国まで意味のある事が強調されます。

復活の主の姿

キリスト信仰はイエス・キリスト様という人格的なお方を知ることです。イエス様ご自身がそのみ言葉を通して近づいて来られて、ご自分の愛と恵みを示して下さいからです。その人格の素晴らしさに打たれて、自分自身をイエス様にお任せすることです。だから信仰は人間の心の性質ではありません。信仰はあくまでも相手の偉大さと信頼性を知ることによって生まれる人格と人格の信頼関係です。相手次第です。

私は最近一つの私達の救い主イエス・キリスト様の特徴を考えて参りました。三つの少し長い聖書の引用でそれを御紹介したいのです。一言で言えば、それはイエス様が私達に上からではなく下から近づく謙遜です。

さて、逾越の祭りの前に、この世を去って父のみもとに行くべき自分の時が来たことを知られたので、世にいる自分のものを愛されたイエスは、その愛を残るところなく示された。イエスは、父が万物を自分の手に渡されたことと、ご自分が父から来て父に行くことを知られ、夕食の席から立ち上がって、上着を脱ぎ、手ぬぐいを取って腰にまとわれた。それから、たらいに水を入れ、弟子たちの足を洗って、腰にまといおられる手ぬぐいで、ふき始められた。こうして、イエスはシモン・ペテロのところに来られた。ペテロはイエスに言った。「決して私の足をお洗いだないでください。」イエスは答えられた。「もしわたしが洗わなければ、あなたはわたしと何の関係もありません。」

イエスは、彼らの足を洗い終わり、上着を着けて、再び席に着いて、彼らに言われた。「わたしがあなたがたに何をしたか、わかりますか。あなたがたはわたしを先生とも主とも呼んでいます。あなたがたがそう言うのはよい。わたしはそのような者だからです。それで、主であり師であるこのわたしが、あなたがたの足を洗ったのですから、あなたがたもまた互いに足を洗い合うべきです。（ヨハネ 13:1 - 14）

足を洗うのは奴隷の仕事でした。人間になられた全知全能の創造主で支配者であられるイエス・キリスト様はその弟子達の足を洗ってくださいました。終わりまでの愛、徹底的な愛の印でした。しかし、印以上のものでした。「もしわたしが洗わなければ、あなたはわたしと何の関係もありません。」イエス様を信じて体全体が清くされたペテロさえ続けてイエス様に足が洗って頂かなければイエス様に従って行けなかったのです。私達も同じように毎日その日その日の罪が繰り返して赦して頂かないとイエス様との交わりを保つことができません。しかし、それはあくまでも主御自身が快く私達の為になさって下さる恵みです。十字架の死で次の日にその貴い血潮を流して下さったイエス様は今日も私達の足元に膝まずいて、私達に新しい清め、新しい赦るし、新しい恵みを下から提供してくださいます。

十字架の前の晩の出来事はその一回切りのシンボリックな行為に留まった訳ではありません。イエス様の愛の一番深い性質は繰り返してその様に現れました。イエス様が蘇られて2週間ほど後で次の場面が記録されています。

この後、イエスはテベリヤの湖畔で、もう一度ご自分を弟子たちに現わされた。その現わされた次第はこうであった。弟子がいっしょにいた。シモン・ペテロが彼らに言った。「私は漁に行く。」彼らは言った。「私たちもいっしょに行きましょう。」彼らは出かけて、小舟に乗り込んだ。しかし、その夜は何もとれなかった。

夜が明けそめたとき、イエスは岸べに立たれた。彼らに言われた。「子どもたちよ。食べる物がありませんね。」彼らは答えた。「はい。ありません。」

イエスは彼らに言われた。「舟の右側に網をおろしなさい。そうすれば、とれます。」そこで、彼らは網をおろした。すると、おびたしい魚のために、網を引き上げることができなかった。シモン・ペテロは、主であると聞いて、裸だったので、上着をまとい、湖に飛び込んだ。しかし、ほかの弟子たちは、魚の満ちたその網を引いて、小舟でやって来た。こうして彼らが陸地に上がったとき、そこに炭火とその上に載せた魚と、パンがあるのを見た。イエスは彼らに言われた。「あなたがたの今とった魚を幾匹か持って来なさい。」イエスは彼らに言われた。「さあ来て、朝の食事をしなさい。」弟子たちは主であることを知っていたので、だれも「あなたはどなたですか。」とあえて尋ねる者はいなかった。イエスは来て、パンを取り、彼らにお与えになった。また、魚も同じようにされた。イエスが、死人の中からよみがえってから、弟子たちにご自分を現わされたのは、すでにこれで三度目である。(ヨハネ 21:1 - 14)

全世界の人々の罪が十字架で贖われて、死なれて、墓から三日目に復活なさったイエス様は新しい蘇りの体をもって弟子達に現れました。全世界に出て行って総ての人々に救いの福音を述べ伝える命令を与えたりなさったことはなさいました。しかし、今の場面は違います。イエス様は傷跡のついている手と足で何をなさったでしょうか。先ず炭火をつけられたのです。炭に火をつけるには跪いて何度も息を吹かなければなりません。その火の上で魚を焼かれて、とうとう弟子達に給仕なさいました。なんと言うイエス様でしょう。蘇りの勝利を得られたにも関わらず、お腹が空いている弟子達の日常の必要のためにももっとも低い姿勢を示されたのです。

しかし、この時にもそれはただ弟子達に良い模範を与える為だけではありませんでした。天地を作られた誠の神様であられるイエス様の愛の本質がそこに現れました。それはどうして言えるか、次のイエス様が語られた例え話から明確になると思います。それはイエス様がその最臨の時を指す例えです。イエス様がこの世を裁くために地上に再び帰って来られます。その時の御姿は光り輝いて、全世界の人々が主の栄光を眺めている中で総て救われた人々を集めて、天の披露宴に導いて下さいます。そして、その時にイエス様は一体何を一番先になさるのでしょうか。

「腰に帯を締め、あかりをともしていなさい。主人が婚礼から帰って来て戸をたたいたら、すぐに戸をあけようと、その帰りを待ち受けている人たちのようでありなさい。帰って来た主人に、目をさましているところを見られるしもべたちは幸いです。まことに、あなたがたに告げます。主人のほうで帯を締め、そのしもべたちを食卓に着かせ、そばにいて給仕をしてくれます。」(ルカ 12:35 - 37)

その時にイエス様が天の御国で一番先になさるのは何という驚くべきことでしょう。十字架の恵みによって罪が赦された人々を食卓に座らせて下さって、彼らを給仕なさるのではありませんか。

私達の救い主は地上だけではなく、天でも何時までも膝まづく平伏して給仕なさる神様です。神様の愛は何時までも変わらない下から近づく愛なのです。このイエス・キリスト様の十字架の苦しみの故に赦された私達も謙遜に互いを奉仕し合って、一緒に主の前に膝まづいてその愛と恵みを誉め称えようではありませんか。

十字架と復活のもたらす恵み

「1 ですから、信仰によって義と認められた私たちは、私たちの主イエス・キリストによって、神との平和を持っています。2 またキリストによって、いま私たちの立っているこの恵みに信仰によって導き入れられた私たちは、神の栄光を望んで大いに喜んでいます。3 そればかりではなく、患難さえも喜んでいます。それは、患難が忍耐を生み出し、4 忍耐が練られた品性を生み出し、練られた品性が希望を生み出すと知っているからです。5 この希望は失望に終わることがありません。なぜなら、私たちに与えられた聖霊によって、神の愛が私たちの心に注がれているからです。6 私たちがまだ弱かったとき、キリストは定められた時に、不敬虔な者のために死んでくださいました。7 正しい人のためにでも死ぬ人はほとんどありません。情け深い人のためには、進んで死ぬ人があるいは

いるでしょう。8 しかし私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死んでくださったことにより、神は私たちに対するご自身の愛を明らかにしておられます。9 ですから、今すでにキリストの血によって義と認められた私たちが、彼によって神の怒りから救われるのは、なおさらのことです。10 もし敵であった私たちが、御子の死によって神と和解させられたのなら、和解させられた私たちが、彼のいのちによって救いにあずかるのは、なおさらのことです。11 そればかりでなく、私たちのために今や和解を成り立たせてくださった私たちの主イエス・キリストによって、私たちは神を大いに喜んでいるのです。」(ローマ 5:1～11)

人の姿

この箇所を読む時に、私自身の心が踊ります。なぜなら、神様が私たちの為に用意して下さった救いが如何に一方的な恵みによるものか、余りにも明確にする聖書の箇所です。又大きな個人的な試練の時(死にそうになって病気で苦しんだ時)に、8節の言葉で凄く慰められた経験もあるからです。

先ず、救いはどんな人の為に用意されたでしょうか。第一に弱い人のためです。この言葉はとても広い意味があります。これは社会的に弱い人々も含めば、精神的にも弱い人も、霊的に弱い人も含めます。しかし、一番の弱さは、私たちが自分の罪深い性質に住み着いている罪の力に対して弱いのです。その弱さについてパウロは同じローマ人への手紙の7章の中に次のように嘆いています：

「私たちは、律法が霊的なものであることを知っています。しかし、私は罪ある人間であり、売られて罪の下にある者です。私には、自分のしていることがわかりません。私は自分がしたいと思うことをしているのではなく、自分が憎むことを行なっているからです。もし自分のしたくないことをしているとすれば、律法は良いものであることを認めているわけです。ですから、それを行なっているのは、もはや私ではなく、私のうちに住みついている罪なのです。私は、私のうち、すなわち、私の肉のうちに善が住んでいないのを知っています。私には善をしたいという願いがいつもあるのに、それを実行することがないからです。私は、自分でしたいと思う善を行なわないで、かえって、したくない悪を行なっています。もし私が自分でしたくないことをしているのであれば、それを行なっているのは、もはや私ではなくて、私のうちに住む罪です。そういうわけで、私は、善をしたいと願っているのですが、その私に悪が宿っているという原理を見いだすのです。すなわち、私は、内なる人としては、神の律法を喜んでいるのに、私のからだの中には異なった律法があって、それが私の心の律法に対して戦いをいどみ、私を、からだの中にある罪の律法のとりこにしているのを見いだすのです。私は、ほんとうにみじめな人間です。だれがこの死の、からだから、私を救い出してくれるのでしょうか。」

自分の感情や思いをどうしてもコントロール出来ない私、又誘惑に負ける私、何と言う惨めな弱さを持っているでしょう。それに、その自分の弱さを自分からも、他の人からも強気の姿勢で隠そうとする臆病の弱さも加わっています。しかし、イエス様はちょうどこのような弱い人のために十字架の上で死んで下さいました。何という愛でしょう。

第二に不敬虔な人です。この言葉のもともとのギリシャ語の単語は神様の事や聖なる事を全く無視する生き方を意味します。神様の求めるところか神様を自分の人生から取り除こうとする人のためにイエス様が死んで下さいました。

第三に罪人のためです。罪人は当然社会的な罪を犯した人々を含めますが、聖書の中に最も深い意味で、神様が定めた、愛を要求する律法を無視して、その完全に正しい律法によって有罪になった人を指します。自分の過去の罪の裁きからどこにも逃げられない、罪責感、罪悪感で悩まされている人です。それだけではなく、その心を頑なににして、罪の裁きから逃げようとする人々も含まれます。

第四に敵である人のためです。人間は罪を愛して、自分勝手な生き方をしている内に、その間違った道の結果を思い起こそうとする神様に対して反発や敵意さえ抱いています。愛である正しい神様を憎んでいる人のためにイエス様が血潮を流して死んで下さいました。

第五に私たちは神様の清い怒りのもとにある罪人です。しかし、当然私たちが受けるべき処罰をイエス様が身代わりとして受けて下さって、私たちを赦して、救って下さいます。又御自分の義と正しさを私たちにプレゼントして下さいました。

十字架の血潮による救い

弱くて、不敬虔で、罪人、敵、神様の怒りの子らのためにイエス様は死んで下さって、救いを一方的に与えて下さいます。そして、それは私たちがイエス様を求めた時からではなく、まだ尻尾を神様に向けた時でした。しかし、それだけではなく、この救いは強くて、敬虔で、正しい人、神様を大切に出来た人々と全く関係がありません。イエス様はいい人を救うために来た訳ではありません。ただ罪人を救うためだけです。

それで、救いの唯一の条件は自分が悪くて罪人である事を認めることです。別に罪人になる必要はありません。人間は皆生まれ付きの罪人だからです。その事実を認めるだけです。事実を直面するだけです。そしてイエス様が完全に備えて下さった救いをプレゼントとして受け入れるだけです。

神様との新しい関係

救いはイエス・キリストの十字架の赦しによる新しい神様の関係です。その新しい関係について上記の箇所は次の事を語ります：

- 先ず第一に、神との平和です。もともとの言葉は外面的な平和と内面的な平安を含みます。神様との対立が終わって、心に罪が赦された平安が与えられています。
- 第二に、神の栄光を望んでいる希望です。これからの先行きは天のみ国の栄光ですが、それは素晴らしい環境の栄光ではなく、神様ご自身の栄光であって、私たちに与えられた恵みです。
- 第三に、神様の愛が私たちの心まで聖霊によって注がれます。それは、十字架の上で示された神様の愛を自分自身に対する赦しや新しい価値を付け加える、体験としての愛を含みます。しかし、それはあくまでも、神様との愛で、神様との人格的な触れ合いの中に経験する愛です。
- 第四に、神様との和解です。神様と親しく仲良く出来る恵みです。主を尊敬しながらも、子供がその父親に対して示す同じ親しみがイエス様の十字架の死によって成り立った和解にあります。
- 第五に、神を大いに喜んでいることです。救いの喜びは、単なるほっとした体験の一時的な喜びだけではなく、相手でおられる神様との親しい交わりの中に、愛する相手そのものの存在が最高の喜びです。

しかし、驚くべき事には、これらの祝福、平和、希望、愛、和解、喜びはみな、弱くて、不敬虔で、罪人、敵である私たちに与えられます。これらは私たちにとって無代価のプレゼントです。何故かと言うと、その代価をイエス・キリストご自身が十字架の上で完全に払って下さったからです。

救いは何という恵みでしょう。あなたもこの恵みを自由に受け入れてもよいのです。それは信仰なのです。

十字架と復活によって義と認められること

わたしたちの主イエスを死者の中から復活させた方を信じれば、わたしたちも義と認められます。イエスは、わたしたちの罪のために死に渡され、わたしたちが義とされるために復活させられたのです。(ローマ 4:24～25)

義とされると翻訳された言葉の本来の意味は義と認められる法廷用語です。罪を犯した人を赦す事が出来ますが、無実の人を赦す事が出来ません。義と認められる事は無罪宣言です。ですから、神様が人を義と認められるのは、その人が一生に一度も罪を犯した事のない人間として受け入れ、扱って下さる事を意味します。これは人間の経験ではなく、神様が下さる判決で、その時から人間は神様の御前で罪のない者としてずっと見なされている立場に置かれます。

たとえば言えば、神様は義と認められた人を天国行き大きな船の中に置かれて、天国に着くのはその人の努力や頑張りには関係なく、船次第です。船の中で本人が時には嬉しくて、時には悲しくて、時には安心して、時には恐れを感じますが、船そのものは確実に永遠のみ国の港まで彼を運んでくれます。船の大きな客室の中に彼は足を滑らして、こける事もあれば、又立ち上がる事もあります。しかし、そんな事で船から落ちる事はありません。義と認められるのは本人の状態よりも、彼が置かれた、安心できる場です。

どうして正しいお方でおられる神様は実際に罪だらけの人間を義と認めることが出来ますか。どうして罪ある人間を罪のない者と認める事が出来ますか。それは、キリストの贖いによる「幸せの交換」です。人間の実際の罪をイエス様の実際の十字架の苦しみで罰して、代価を支払った出来事の故に義と認められることが初めて公正さを失わないままで可能です。人間の罪はイエス様に負わされて、罰せられました。イエス様の義は人間に認められ

て、実際の天国の喜びで報いられます。イエス様の完全な正しい生涯が信じる人のものとして認められて、罪人の墮落した生涯がイエス様に負わされて、そしてその負わされた通りに実際に扱われます。

義と認められる事は法的な立場の変化です。神様の天国の法廷で下される裁きです。しかし、それから、生き方の変化も可能になります。アメリカの南北戦争の課題は黒人奴隷の解放でした。米国国会の一回の宣言ですべての奴隷が自由人と認められました。その法的な決定の裏づけは北側の軍隊の勝利でした。黒人を奴隷にする敵が力を失いました。自由宣言を受けて、黒人が自由な生き方を始める事が出来ました。イエス様が人間を罪の奴隷にした罪や悪魔や死に十字架の上で打ち勝って、その勝利によって、罪人を自由な、義と認められた者として宣言なさいました。

南北戦争の後で多くの以前の奴隷は自由人でありながらも、依然として奴隷であるかのような生き方を続けました。それは、自分の置かれた新しい場を実際の行き方に繋げる事が出来なかったからです。多くのクリスチャンもその自由な場を十分理解できずに、罪の奴隷であるかのように悩んでいます。義と認められたクリスチャンが実際の生活の中に多くの罪を依然として犯してしまうから、自分の自由な立場を見失うがちです。しかし、クリスチャンの生き方の変化や罪との戦いの中にどの位成功するかによって天のみ国に行ける訳ではありません。生き方の中に現れて来る実際の正しさ、義は、義と認められる理由ではありません。逆に義と求められた、新しい立場に活かされている結果です。クリスチャンは聖めで救いを得る訳ではありません。義と認められて、救われたからきよめ、すなわち清い新しい生き方を求めます。きよめは決して地上で完全なものにはなりませんが、義と認められたから、初めから神様の御前で天国行き人間として認められています。

主イエス・キリスト様を信じる瞬間に義と認められます。そしてその結果罪が赦されます。この順番はとても大切です。多くの人は自分の罪を悔い改めて、イエス様から罪の赦しを頂いて、そして後で自分が義と認められた事を知りますが、実際に順番は逆です。義とみとめられたから罪が赦されました。クリスチャンは繰り返して罪の赦しを求めて、繰り返して赦された経験をしますが、義とみとめられる事はその赦しの連続の理由です。義と認められる事は一回限りで十分です。天のみ国までそのまま有効です。しかし、罪の赦しは毎日繰り返さなければならないものです。救いの確信は義と認められた事実に基づきます。

日本の文化は実感を強調する傾向があります。しかし、実際に人間の気持ちや感情や実感は非常にあやふやなものです。よい日には救いの確信が湧いて来て、悪い日には絶望的な気持ちになったりします。聖書は人間の決定や感情を頼りにしません。状況に寄らない、変わらない神様のみ言葉の約束は義とみとめられて、救われた事の十分な証拠です。

もし義と認められてすでに天国へ行ける資格が与えられているなら、どうして罪を繰り返して悔い改めて、赦しを求めなければならないのでしょうか。それは、罪の赦しの本質は神様との関係回復にあるからです。罪を犯すたびに、救いを持っているクリスチャンも、喜びや平安を失います。罪を悔い改めないままではクリスチャンとしての力が湧いてきません。罪を犯すたびにイエス様の十字架の下で神様の新しい愛と交わりを味わって、新しい恵みの力で前進する事が出来ます。この過程の中でクリスチャンは神様の愛の大きさ、広さ、深さをもっと深く知って、主イエス様の命が聖霊によって益々彼のうちに働いて、変化をさせます。この過程はきよめであり、その最後は天のみ国でイエス様の復活の体と同じ姿で主を賛美する事です。義と認められた人は天国に着いたら完全な義の姿になります。

神様の赦し

クリスチャンになる道は罪の赦しを頂く事ですが、初めての赦しはきよい怒りを持っておられる裁き主から頂く恵みですが、クリスチャン生活の中の赦しは悲しまれた父なる神様の恵みです。その違いと共通点を次のチャートで表しましょう。

神様の赦し

裁き主として

正しい裁きとして受けるべき
永遠の滅びをもたらせる
罪を犯して有罪
裁き主としての
神様から
裁きの
み言葉を受ける
生まれる罪責感
裁きの恐れに満ちている
降伏をする敵としての
罪の告白
キリストの十字架の故の
罪の赦しは
滅びの脅威から解放して
神様に対する
新しい
関係を作り上げる

父として

成長と清めの為に受けるべき
地上の懲らしめをもたらせる
罪を犯して有罪
父としての
神様から
懲らしめの
み言葉を受ける
生まれる罪責感
父を悲しませた事の後悔だ
謙って悔い改める子どもの
罪の告白
キリストの十字架の故の
罪の赦しは
地上の凝らしめから解放して
神様に対する
以前より深い
関係を作り上げる

ヨハネの福音書

マタイの福音書、マルコの福音書、ルカの福音書とヨハネの福音書が互い同じ事と違う事について書いてある割合は次の通りです：

	独自の内容	他の福音書と共通する内容
マルコ	7 %	93 %
マタイ	42 %	58 %
ルカ	59 %	41 %
ヨハネ	92 %	8 %

著者：

イエスの十二弟子の一人、ヨハネです。ヨハネは、「イエスが愛された弟子」（21:20）と呼ばれています。ヨハネは、イエスが行ったことを見、また、とてもよくイエスを知っていました（21:24）。

書名：

ヨハネは、この福音書を書いた男の人の名前です。ヨハネは、人々がイエスを信じることができるよう、この本を書きました（20:31）。ヨハネは、イエスを「神の子」として見ています。

おもな登場人物： イエス、弟子たち

鍵の聖句：

これらのことが書かれたのは、イエスが神の子、キリストであることを、あなたがたが信じるため、また、あなたがたが信じて、イエスの御名によっていのちを得るためである。（20:31）

あらすじ：

- ☐ 神の子としてのイエスのいやしと教え（1－12章）
- ☐ 神の子としてのイエスの死と復活（13－21章）

ヨハネの福音書の中のキリスト：

ヨハネは、イエスを神の子として描いています。イエスは、人であり、同時に神です。イエスは、人類の救い主なのです。この福音書の中で、7人の人々が、イエスが神、あるいは、神の子であると述べています。

- バプテスマのヨハネ：この方は神の子です（1:34）
- ナタナエル（イエスに向かって）：あなたは神の子です（1:49）
- ペテロ（イエスに向かって）：あなたが神の聖者です（6:69）
- マルタ（イエスに向かって）：あなたは、神の子、キリストです（11:27）
- トマス（イエスに向かって）：私の主、私の神（20:28）
- 弟子のヨハネ：イエスは、神の子、キリストです（20:31）
- キリストご自身：わたしは神の子です（10:36）

ヨハネ福音書の構成（アウトライン）

- ことばは人となって、私たちの間に住まわれた。→イエス・キリストは私たちの間に天幕を張られた。 ヨハネ 1:14
- そのとき、雲は見会の天幕をおおい、主の栄光が天幕に満ちた。 出エジ 40:34, 35
- というのは、律法はモーセによって与えられ、恵みとまことはイエス・キリストによって実現したからである。 ヨハネ 1:17

入口：序文 — ことばは人となった 1:1-18

神のみ子のこの世に対するしるしとことば 1:19-12:50

「見よ、世の罪を取り除く神の小羊」 1:29

①ことばとしるし 2-6 章

カナでの婚礼・2 章、イエスとニコデモ・3 章、イエスとサマリアの女・4 章、ベテスダの池で・5 章、いのちのパン・6 章

②イエスとはだれか 7-12 章

イエスの使命・7 章、イエスは世の光・8 章、
イエスに見えるようにされるお方・9 章、
イエスはよい羊飼ひ・10 章、イエスはラザロをよみがえらせる・11 章、
栄光の始まり・12 章

聖所：弟子たちに対するイエスの最後の教え 13:1-17:26

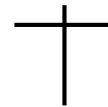
弟子の足を洗う・13 章、道、真理、会 14・章、一致と交わり・15 章

聖霊を派遣する約束・16 章、

み父へのイエスの祈り（大祭司の祈り）・17 章

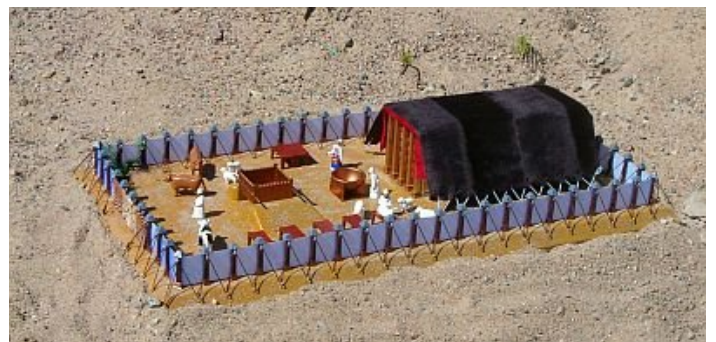
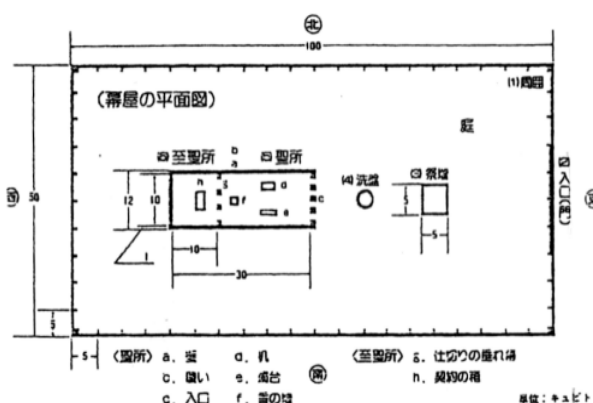
至聖所：受難と十字架 18:1-19:42

逮捕と裁判 18 章、愛の極みと十字架 19 章



イエスの復活と弟子の使者 20:1-21:25

イエス、弟子に現れる・20 章、テペリアでの顕現と結語 21 章



ヨハネ福音書の特徴

①対話の形式をよく用いている。

質問者がイエスの答えを誤解する。その後、イエスが答えを解き、その結果、信じる者と
つまづく者とが起こされる。

ニコデモとの対話（8:1-21）、サマリヤの女との対話（4:1-42）など。

②霊的な真理を「わたしは…です（εγω ειμι）エゴ エイミー」という象徴を用いて表す。

6:35,41 など

11:25

8:12、9:5

14:16

10:7,9

15:1,6

10:11,14

③奇跡を「しるし」と表現され、イエスの奇跡によって、彼が神であることを証しすること
を意味する

カナの婚礼（2:1-11）、役人の息子のいやし（4:46-54）、ベテスダの池でのいやし（6:1-9）、
5000人の養い（6:1-15）、湖の上を歩く（6:16-21）、生まれながらの盲人（9:1-7）、ラザ
ロの復活（11:1-44）。

④ユダヤの宗教的年中行事を枠組みに用いている。特に過越の祭りを重視し、祭りのたびに
エルサレムに上るイエスを描き、十字架で過ぎ越しの小羊としてほふられたイエスの贖い
の救いを強調している（出エジプト 12:24-27、ヨハネ 2:18、6:1、6:4、12:1 など）。

幕屋での礼拝とヨハネ福音書の構成

「彼らがわたしのために聖所を造るなら、わたしは彼らの中に住む」（出エ 25 : 8）

ヨハネ 1:14

- | | |
|--------|---|
| ①入口（門） | 出エジ 27:16 の垂れ幕、ヨハネ 10:9 |
| ②祭壇 | 出エジ 27:1-8、出エジ 29:38-39 |
| ③洗盤 | 幕屋で仕える祭司が死なないために奉仕の前にここで水を浴び手足を洗った。
出エジ 30:19-21、ヨハネ 18:1 以下 |
| ④聖所 | 主の住まいである聖所は幕屋の中心である。出エジ 27:20-21 |
| ⑤至聖所 | レビ記 16 章、ヘブル 9:7、マタイ 27:51 |

み言葉のしおり

ヨハネの福音書

1) 初めに言があった。言は神と共にあった。言は神であつた。 ヨハネ 1 章 1 節

言は肉となって、わたしたちの間に宿られた。わたしたちはその栄光を見た。それは父の独り子としての栄光
であつて、恵みと真理とに満ちていた。 ヨハネ 1 章 14 節

その翌日、ヨハネは、自分の方へイエスが来られるのを見て言った。「見よ、世の罪を取り除く神の小羊だ。
ヨハネ 1 章 29 節

2) しかし、母は召し使いたちに、「この人が何か言いつけたら、そのとおりにしてください」と言った。ヨハネ 2 章 5 節

3) イエスはお答えになった。「はっきり言っておく。だれでも水と霊とによって生まれなければ、神の国に入るこ
とはできない。 ヨハネ 3 章 5 節

- 4) イエスは答えて言われた。「もしあなたが、神の賜物を知っており、また、『水を飲ませてください』と言ったのがだれであるか知っていたならば、あなたの方からその人に頼み、その人はあなたに生きた水を与えたことであろう。」 ヨハネ 4 章 10 節
- 5) はっきり言っておく。死んだ者が神の子の声を聞く時が来る。今やその時である。その声を聞いた者は生きる。ヨハネ 5 章 25 節
- 6) イエスは答えて言われた。「神がお遣わしになった者を信じること、それが神の業である。」 ヨハネ 6 章 29 節
- イエスは言われた。「わたしが命のパンである。わたしのもとに来る者は決して飢えることがなく、わたしを信じる者は決して渴くことがない。」 ヨハネ 6 章 35 節
- シモン・ペトロが答えた。「主よ、わたしたちはだれのところへ行きましょうか。あなたは永遠の命の言葉を持っておられます。」 ヨハネ 6 章 68 節
- 7) この方の御心を行おうとする者は、わたしの教えが神から出たものか、わたしが勝手に話しているのか、分かるはずである。 ヨハネ 7 章 17 節
- 祭りが最も盛大に祝われる終わりの日に、イエスは立ち上がって大声で言われた。「渴いている人はだれでも、わたしのところに来て飲みなさい。わたしを信じる者は、聖書に書いてあるとおり、その人の内から生きた水が川となって流れ出るようになる。」 ヨハネ 7 章 37～38 節
- 8) イエスは再び言われた。「わたしは世の光である。わたしに従う者は暗闇の中を歩かず、命の光を持つ。」 ヨハネ 8 章 12 節
- イエスは、御自分を信じたユダヤ人たちに言われた。「わたしの言葉にとどまるならば、あなたたちは本当にわたしの弟子である。あなたたちは真理を知り、真理はあなたたちを自由にする。」 ヨハネ 8 章 31～32 節
- イエスは言われた。「はっきり言っておく。アブラハムが生まれる前から、『わたしはある。』」 ヨハネ 8 章 58 節
- 9) イエスは言われた。「わたしがこの世に来たのは、裁くためである。こうして、見えない者は見えるようになり、見える者は見えなくなる。」 ヨハネ 9 章 39 節
- 10) わたしは良い羊飼いである。良い羊飼いは羊のために命を捨てる。 ヨハネ 10 章 11 節
- 11) イエスは言われた。「わたしは復活であり、命である。わたしを信じる者は、死んでも生きる。生きていてわたしを信じる者はだれも、決して死ぬことはない。このことを信じるか。」 ヨハネ 11 章 25～26 節
- 12) 自分の命を愛する者は、それを失うが、この世で自分の命を憎む人は、それを保って永遠の命に至る。わたしに仕えようとする者は、わたしに従え。そうすれば、わたしのいるところに、わたしに仕える者もいることになる。わたしに仕える者がいれば、父はその人を大切にしてくださる。」 ヨハネ 12 章 25～26 節
- 13) ペトロが、「わたしの足など、決して洗わないでください」と言うと、イエスは、「もしわたしがあなたを洗わないなら、あなたはわたしと何のかかわりもないことになる」と答えられた。 ヨハネ 13 章 8 節
- 14) イエスは言われた。「わたしは道であり、真理であり、命である。わたしを通らなければ、だれも父のもとに行くことができない。」 ヨハネ 14 章 6 節
- 15) わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。人がわたしにつながっており、わたしもその人につながっていれば、その人は豊かに実を結ぶ。わたしを離れては、あなたがたは何もできないからである。ヨハネ 15 章 5 節

わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい。これがわたしの掟である。友のために自分の命を捨てること、これ以上に大きな愛はない。 ヨハネ 15 章 12～13 節

16) しかし、その方、すなわち、真理の霊が来ると、あなたがたを導いて真理をことごとく悟らせる。その方は、自分から語るのではなく、聞いたことを語り、また、これから起こることをあなたがたに告げるからである。その方はわたしに栄光を与える。わたしのものを受けて、あなたがたに告げるからである。 ヨハネ 16 章 13～14 節

17) 父よ、わたしに与えてくださった人々を、わたしのいる所に、共におらせてください。それは、天地創造の前からわたしを愛して、与えてくださったわたしの栄光を、彼らに見せるためです。 ヨハネ 17 章 24 節

18) そこでピラトが、「それでは、やはり王なのか」と言うと、イエスはお答えになった。「わたしが王だとは、あなたが言っていることです。わたしは真理について証しをするために生まれ、そのためにこの世に来た。真理に属する人は皆、わたしの声を聞く。」 ヨハネ 18 章 37 節

19) イエスは、このぶどう酒を受けると、「成し遂げられた」と言い、頭を垂れて息を引き取られた。ヨハネ 19 章 30 節

20) そう言うってから、彼らに息を吹きかけて言われた。「聖霊を受けなさい。だれの罪でも、あなたがたが赦せば、その罪は赦される。だれの罪でも、あなたがたが赦さなければ、赦されないまま残る。」 ヨハネ 20 章 22～23 節

21) 二度目にイエスは言われた。「ヨハネの子シモン、わたしを愛しているか。」ペトロが、「はい、主よ、わたしがあなたを愛していることは、あなたがご存じです」と言うと、イエスは、「わたしの羊の世話をしなさい」と言われた。ヨハネ 21 章 16 節

ヨハネの福音書のアウトラインと学びのための質問

プロログ1:1-18

イエス様の公の活動の第1の年1:19-5:47

バプテスマのヨハネの証言1:19-34
初めての弟子達1:35-51
第一のしるし2:1-12
神殿の清める事2:13-25
ニコデモ3:1-21
バプテスマのヨハネの最後のメッセージ3:22-36
サマリヤの女性4:1-42
王の高官の息子4:43-54
ベテスダの池の病人5:1-47

公の活動の中間時期6:1-71

5000 人を食べさせる事と嵐を静める事6:1-21
いのちのパン6:22-40
会話の続き6:41-71

公の活動の最後の期間7:1-22:29

仮庵の祭り7:1-8:1
捕まえられた女性、世の光、会話8:2-30
会話の続き、アブラハムよりも先8:31-59
生まれつきの盲人9:1-39
問と良き羊飼ひ9:39-10:21
宮きよめの祭り、メシヤとしてのチャレンジ

10:22-42

甦りと命、ラザロを生き返らせる11:1-53
エフラ임からベタニヤ経由でエルサレムに
11:54-12:19
ギリシャ人とイエス様の最後の訴え12:20-50
聖餐13:1-35
別れのメッセージ13:36-14:31
ぶどうの木15:1-27
最後の教え16:1-33
大祭司としての祈り17:1-26
裏切りと祭司たちの前で18:1-27
ピラトの前で18:28-19:16
十字架と葬られること19:17-42
復活と週の始めの日20:1-29

福音書の目的20:30-31

エピログ21:1-25

第一章

プロログ1:1-18

言葉と神1:1-2
言葉と創造1:3-5
言葉とバプテスマのヨハネ1:6-8
言葉の受肉1:9-14
優れる言葉1:15-18
言葉(ロゴス)

世(コスモス)

バプテスマのヨハネの証し1:19-34

ヨハネとパリサイ人1:19-28

ヨハネとイエス様1:29-34

ヨハネのバプテスマとキリスト者の洗礼

初めての弟子達1:35-51

アンデレとペテロ1:35-42

ピリポとナタナエル1:43-51

学びのための質問:

人間になられた言葉 1:1-18

1. 神様と言葉の関係はどうなっていますか。(1、2)
2. 言葉という方はどなたですか。(14)
3. イエス・キリスト様のみ業をあげて下さい。イ (3、10) ロ (4) ハ (5)
4. 人間の罪の悲しい結果はどのように現れますか。イ (5、10) ロ (11)
5. 人間の中に一番優れた者と言われたバプテスマのヨハネとイエス様はどう違いますか。イ 本質において (6、8、15) ロ 使命において (7、8)
6. イエス様を受け入れる、即ちイエス様を信じる人にどんな権威と力が与えられますか。(12)
7. 誰が神様の子供としての権能をお与えになりますか。(12)
8. クリスマンに成ることはどのように起こるでしょうか。(13、ヨハネ 3 章 3、5 参照に)
9. 言葉が人間に成られた目的は何でしたか。(14、16、18)
10. 律法の内容は何ですか。(17)
11. イエス様を通しての恵みとまことの内容は何ですか。(14、17)
12. イエス様から与えられるものは何ですか。又その豊かさはどのぐらいですか。(16)

バプテスマのヨハネの証 1:19-34

13. バプテスマのヨハネは自分自身についてどのような事を言いましたか。(23)
14. バプテスマのヨハネはイエス様についてどのような事を言いましたか。イ 29 ロ 30 ハ 33 ニ 34
15. 聖霊のバプテスマはどう言うことでしょうか。(32-33)

イエス様の後に付いて行った弟子たち 1:35-42

16. どうしてバプテスマのヨハネの二人の弟子はイエス様の後に付いて行ったでしょう。(36-37)
17. イエス様はどんな質問をなさいましたか。(38)
18. あなたは人生には何を求めていますか。
19. イエス様との出会いは弟子たちにどんなものでしたか。(39、41)
20. メシヤまたはキリストと言う言葉の意味は何ですか。(41)
21. 伝道とはどんなことでしょうか。(41-42)
22. シモンの名前が変えられたことは何を物語っていますか。(42)

ピリポとナタナエル 1:43-51

23. ピリポがイエス様に付いて行ったことによってどんな発

見をしましたか。(45)

24. ナタナエルはなぜ疑ったのでしょうか。(46)

25. イエス様を知る為に何が必要でしょうか。(46)

26. イスラエルと言う言葉はどういう意味でしょうか。(47)

27. ナタナエルはいちじくの木の下で何をしていたでしょう。(48)

28. イエス様がナタナエルを知られたことは彼にどんな影響を及ぼしましたか。(49)

29. あなたの人生を何が、またはだれが支配していますか。

30. 信仰は何によって生まれましたか。(50)

31. 信じる人にはどんな将来がありますか。(51)

第二章

始めのしるし — 水からぶどう酒2:1-11

幕間2:12

神殿から商売人を追い出す2:13-17

神殿を壊して、三日で建て直す2:18-22

イエス様と人々2:23-25

学びのための質問:

カナの結婚式 2:1-11

1. どうしてイエス様が初めての奇跡を結婚式で行われたでしょう。(1、2)
2. ぶどう酒が無くなってマリヤさんは何をしましたか。(3)
3. マリヤさんにはどんな期待がありましたか。(4)
4. イエス様はマリヤさんの期待にどうして答えられなかったのでしょうか。(4)
5. 神様のみ業に預かるため私達は何をしなければならいのですか。(5)
6. イエス様のこの奇跡は量として、また質としてどんなものでしたか。(6、10)
7. 奇跡の目的はどこにありましたか。(11)
8. クリスマンはアルコール類の飲み物に対してどんな態度をとるべきでしょうか。

神殿から商売人を追い払われたイエス様 2:12-22

9. イエス様はどんな態度を示されましたか。(15、17)
10. 神殿は本来どんな場所でしょうか。(16)
11. 本当の神殿は何でしょうか。(19、21)
12. 私達の体はどんなものでしょうか。(16、コリント人への第一手紙 6 章 19-20 を参照に)
13. イエス様の権威はいつ明確に成りましたか。(18、22)

人間を知られるイエス様 2:23-25

14. 人々のイエス様に対する信仰にどんな問題がありましたか。(23)
15. 本物の信仰はどのように生まれますか。(22、25)
16. 私達は他の人々を信用できますか。(24、25)
17. あなたは自分自身を知っていますか。

第三章

第一の談話 — 新生 3:1-36

新生 3:1-15

感想 3:16-21

イエス様とバプテスマのヨハネ 3:22-36

清めについての質問 3:22-26
バプテスマのヨハネの返事 3:27-30
感想 3:31-36

学びのための質問:

新しく生まれ変わる事 3:1~16

1. ニコデモはどんな人でしたか。(1)
2. ニコデモはイエス様の事をどう思っていたでしょう。(2)
3. ニコデモはなぜイエス様の所に夜行ったでしょう。(2)
4. イエス様はニコデモの必要をどう見ておられましたか。(3、5、7)
5. 神の国とはどんな物でしょう。(3、5)
6. 人間は自分を変える事が出来ますか。(4、6)
7. 外の人が変わる事を期待すべきでしょう。(6)
8. 神様が新しい命を何によって与えて下さいますか。(5)
9. 水から生まれること(洗礼、バプテスマ)はどんなことを意味しますか。(5)
10. ニコデモの9の質問は何を現れましたか。
11. 何によって生まれ変わった事が分かりますか。(8)
12. 新しく生まれる為にどんな姿勢が必要ですか。(11、12)
13. 新しく生まれることを誰が可能にして下さいましたか。(13)
14. 新しく生まれることはいつ起こりますか。(14、15)
15. 民数記 21 章 4~9 を読んで下さい。新しく生まれる条件は何でしょう。(16)
16. 神様の愛はどんなものでしょう。(16)
17. 信仰はどんなものでしょう。(16)

救いと裁き 3:17~21

18. イエス様が遣わされた事はどのような目的で行われましたか。(17)
19. もし人間が裁かれるなら、それは何故でしょう。(18)
20. 神様の裁きの本質は何でしょう。(19)
21. 暗闇の歩みかたはどのようなものですか。(20)
22. 光の歩み方はどのようなものですか。(21)
23. あなたは光のうちに歩んでいますか、それとも暗闇のうちに歩んでいますか。

キリスト者の成長 3:22~36

24. キリスト者の生き方は何によるものですか。(27)
25. キリスト者の喜びはどこにありますか。(29)
26. キリスト者の成長はどんなものでしょう。(30)
27. イエス様の証を受け入れる人に何が与えられますか。(33、34)
28. イエス様はどんな方でしょう。(35、36)
29. 神様の怒りはどんなものでしょう。(36)
30. あなたは永遠の命を持っていますか。

第四章

第二の談話 — 命の水 4:1-42

ガリラヤへの出発 4:1-3

命の水 4:4-14

女性とその夫達 4:15-19

本当の礼拝 4:20-26

女性の証し 4:27-30

キリスト様の食べ物 4:31-38

サマリヤの信者達 4:39-42

ガリラヤでの幕間 4:43-45

二番目のしるし — 王室の役人の息子の癒し 4:46-54

学びのための質問:

サマリヤの女 4:1~30、39~42

1. イエス様はどうしてサマリヤを通らなければならなかったでしょう。(4)
2. サマリヤ人とユダヤ人との関係はどんなものでしたか。(9)
3. 井戸に座られたイエス様はどんな体の状態でおられましたか。(6)
4. サマリヤの女が何時に井戸に来ましたか。(6)
5. なぜそんな時刻に水を汲みに来たでしょう。
6. 女はどんな問題を抱えていたでしょう。イ 社会的に(9、27) 口 霊的に(15) ハ 道徳的に(18) ニ 宗教的に(20)
7. どうしてイエス様は女に水を頼まれたでしょう。(7)
8. イエス様は女に何を提供下さいましたか。(10)
9. 生ける水が与えられる条件は何ですか。(10)
10. どうして人々は生ける水を頼まないのでしょうか。(10)
11. 体や精神の必要を満たす事は人間を満足させますか。(13)
12. 生ける水はどんなものでしょう。(14)
13. 生ける水を頂く妨げはどこにありましたか。(16~18)
14. 痛い所に触られた女はどのように逃げようとしたか。(19~20)
15. 礼拝において場所は大切ですか。(21)
16. あなたは何またはだれを礼拝していますか。(あなたを支配するものです。) その対象を知っていますか。(22)
17. 「救いはユダヤ人からです」とはどう言う意味でしょう。(22)
18. 本物の祈りの条件は何でしょう。(23)
19. 逃げ場を失った女は今度どのようにして逃走しようしますか。(25)
20. 女がイエス様がキリストである事が何によって分かりましたか。(26)
21. 女は罪が赦されて、生ける水を頂いた事はどのように明らかになりましたか。イ (28) 口 (29、39)
22. 女の証はどんな影響をもたらせたでしょう。(39)
23. イエス様が話された言葉はどんな影響を及ぼしましたか。(41)
24. イエス様はだれでしょう。(42)
25. あなたの人生は満たされていますか。

本当の食べ物 4:31~38

26. イエス様の食べ物は何でしたか。(34)
27. イエス様は収穫で何を指したでしょう。(35)
28. 種蒔きとはどんな意味でしょう。(36)
29. クリスチャンの喜びの一つはどこにあるでしょう。(36)
30. 種蒔きをした方々はだれでしょう。(37、38)
31. 刈り入れをする方々はだれでしょう。

32. あなたの人生の使命は何でしょうか。

王室の役人の息子の癒し 4:43～54

33. 郷里の人々はイエス様をどう評価しましたか。(44)
34. 王室の役人の息子の状態はどうでしたか。(46、47)
35. 父親はどう言う願いをしましたか。(47)
36. イエス様はどうして彼に対して冷たいような言葉を言われたでしょう。(48)
37. イエス様は願い通りになさいましたか。(49、50)
38. 本物の信仰は何によって生まれますか。(48、50)
39. 信仰の性質はどんなものでしょうか。(50)
40. 信仰の働く順序(イエス様の言葉、それを受け止める信仰、体験)は役人とその家族にどんな影響をもたらせましたか。(53)
41. あなたは必要な時どこから助けを求めますか。

第五章

三番目のしるし — 足なえの癒し 5:1～18

癒し 5:1～9a

安息日についての論争 5:9b～18

第三の談話 — 神様の御子 5:19～47

父と御子 5:19～24

御子と裁き 5:25～29

御子についての証し 5:30～47

学びのための質問:

ベテスダの池 5:1～18

1. 病人の中の男はどんな状態でしたか。(5)
2. イエス様はどう言う質問をなさいましたか。(6)
3. 病人の頼りはどこにありましたか。(7)
4. イエス様はどのような方法で病人を癒して下さいましたか。(8～9)
5. 癒された人を周りの人々はどう見ましたか。(10～12)
6. 癒し主であるイエス様を周りの人々はどう見ましたか。(16、18)
7. 病気より重大な問題は何ですか。(14)

イエス様と父なる神様の働き 5:17、19～30

8. イエス様の働きは何によるものですか。(19～20)
9. イエス様の働きはどんな内容ですか。イ (21、25～26) □ (22、27)
10. イエス様の働きの目的は何ですか。(23)
11. 永遠のいのちはどのようにして得られますか。(24)
12. 復活はいつ行われますか。(28)
13. 復活にはどんな種類がありますか。(29)

証による信仰 5:31～47

14. イエス様について証をするのはだれですか。イ (33) □ (36) ハ (37) ニ (39、45～46)
15. 信仰は何によって生まれますか。(34、47)
16. 信仰の妨げは何でしょうか。イ (38) □ (40) ハ (44) ニ (45)
17. 信仰はどういう祝福をもたらせますか。イ (24) □ (40) ハ (42)
18. 信仰はどんなことでしょうか。イ (24) □ (40)

ハ (43) ニ (44)

第六章

四番目のしるし — 5000 人の給食 6:1～15

五番目のしるし — 湖の上を歩かれた事 6:16～21

第四の談話 — 命のパン 6:22～66

人々が集まる 6:22～25

いつまでも保つ食物 6:26～27

神様の業 6:28～29

命のパン 6:30～40

キリストとパン 6:41～51

肉を食べ、血を飲む 6:52～59

霊であり、命である言葉 6:60～66

ペテロの告白 6:67～71

学びのための質問:

5000 人以上にパンと魚を与えられたイエス様 6:1～15

1. 大勢の人々はどんな動機でイエス様の後に行ったのですか。(2)
2. イエス様はどう言う目的で私達を試して下さいますか。(5、6)
3. 弟子たちは可能なことと不可能なことの判断を何によってしましたか。(7、9) あなたはその判断をどんな基準でしますか。
4. 食べ物が無い時にイエス様はどんな命令をなさいましたか。(10)
5. もし私達が自分の貧しさをイエス様に渡すならば、イエス様はそれをどう用いる事が出来ますか。(9、11)
6. 感謝する事とこの奇跡はどんな関係にありましたか。(11)
7. 食べ物の残った事は人々について何を語りますか。(11、12)
8. 神様から頂いた恵みをどのように大切にすべきでしょうか。(12、13)
9. 群衆がイエス様を王様にしようとする時にどうしてイエス様はそれに応じようともなさいませんでしたか。(26、27)
10. イエス様はどんな誘惑に直面なさいましたか。またどのようにそれに対処なさいましたか。(15)

湖の上を歩かれるイエス様 6:16～21

11. 他の福音書によると弟子たちが舟で湖の反対側に行ったのはイエス様の命令による行為でした。イエス様に従うことは必然的に成功につながるものでしょうか。(18)
12. イエス様が湖の上を歩かれた事は弟子たちにどうして恐怖をさせたでしょうか。(19)
13. 恐れからの解放はどこにあるでしょうか。(20)
14. この二つの奇跡はイエス様について何を物語っているでしょうか。

いのちのパンであられるイエス様 6:22～51

15. 群衆はイエス様をどういう動機で求めていましたか。(26)
16. 何を求めるべきですか。(27)
17. 神様の認証は何でしょうか。(27)
18. 永遠の命を得る為に神様の業を行う必要があると思っ

た人々はどんな質問をしましたか。

(28)

19. 彼らの意識はどのように間違っていましたか。(29)

20. 信仰は何によるものでしょうか。(29、44、45)

21. 信仰と神との関係はどんなものでしょうか。(30～32、36)

(出エジプト 16 章 1～18 を参照)

22. 命のパンはどこから来ますか。(33)

23. 命のパンは何ですか。(35、48、51)

24. 信仰についてどう言う表現が使われていますか。イ (35) ロ (35) ハ (40)

25. イエス様のところに行く人々にどんな祝福が与えられますか。

イ (35) ロ (39) ハ (40、47)

26. イエス様の所に行ける資格は何でしょう。(37)

27. イエス様と父なる神様の関係はどんなものでしょう。(38、46)

28. 人々のイエス様の話しに対する反応はどんなものだったか。(41、42)

イエス様の血と肉 6:52～71

29. 命の源はどこにありますか。(53、57)

30. イエス様の血と肉をいただく人にはどんな恵みが与えられますか。

イ (54) ロ (56) ハ (58)

31. イエス様の血と肉をどのようにしていただくことが出来ますか。(63)

32. 人々はイエス様の話しの結果どう行動しましたか。(52、60、61、66)

それはなぜだったでしょうか。

33. 人間は自分の力でクリスチャンに成れますか。(65)

34. 12 弟子がイエス様から離れて行かなかった理由を二つ言って下さい。

イ (68、69) ロ (70)

35. クリスチャンが自分の永遠の救いについて確信を持つ事のできる理由はどこにあるでしょう。

(37、39、63、65、70)

36. イスカリオテのユダはどうして悪魔と呼ばれましたか。(70)

37. イエス様を離れたらあなたの人生の内容はどんなものに成るでしょう。

第七章

第五の談話 — 命を与える御霊 7:1～52

イエス様とその兄弟達の会話 7:1～9

群衆の反応 7:10～13

正しい裁き 7:14～24

この人はキリストでしょうか 7:25～31

捕まえようとする動き 7:32

父のもとに帰ろうとなさるイエス様 7:33～36

聖霊についての預言 7:37～39

分裂 7:40～44

逮捕の失敗 7:45～52

学びのための質問:

イエス様の教え 7:1～24

イエス様はどうしてユダヤ地方に行きたくはありませんでしたか。(1)

イエス様はどんな理由で狙われていましたか。(21～23)

2. イエス様の兄弟達はどんな考えをもっていましたか。(3、4)

3. 彼らの態度はどうして不信仰になりますか。(5)

4. イエス様の「時」と言うのはどんな意味でしょうか。(6、8)

5. 人々はどうしてイエス様を憎んだでしょうか。(7)

6. イエス様はどうして祭りに行かれたでしょう。(8、10、14、37)

7. イエス様の教えはどんな印象を与えましたか。(16、45～46)

8. 聖書の教えの真実性をどのように確かめることが出来ますか。(17)

9. モーセの律法の内容はどんなものでしょうか。(出エジプト 20 章 1～17)

人々はそれを守る事が出来ますか。(19)

10. 人のことをどう判断すべきでしょうか。(24)

イエス様のことをどう思うべきか 7:25～53

11. イエス様は御自分のことをどう考えられたでしょう。(18、29、33)

12. イエス様を憎んだ人々はどう考えていたでしょう。(20、41、44、47、52)

13. 疑いながらも真実を求めていた人々はどう考えていたでしょう。

(26、27、31、41、46、51)

14. イエス様が父なる神様の元に行かれたことはどのように行われましたか。(33、34)

15. イエス様が天に行かれた結果として与えられた恵みは何でしょうか。(37～39)

16. あなたは聖霊様を受けていますか。

第八章

姦淫で捕まえられた女性 7:53～8:11

第六の談話 — 世の光 8:12～59

父の証し 8:12～20

罪に死ぬ 8:21～24

父と子 8:25～30

罪の奴隷 8:31～47

父が子に与える栄光 8:48～59

学びのための質問:

捕まえられた女 8:1～11

1. 女の罪は何でしたか。(4)

2. 旧約聖書はどんな処罰を要求しますか。(5)

3. イエス様は旧約聖書と食い違う教えをもっておられましたか。(7)

4. イエス様は地面に何を書いたでしょう。(6、8) (エレミヤ書 17:13 参照)

5. 責める人々はどうして石を投げませんでしたか。(9)

6. イエス様は女に何をおっしゃいましたか。(11)

7. イエス様はどんな方でしょうか。

世の光 8:12~30

8. イエスは御自分の事をどう言われましたか。(12)
9. いのちの光はどういう意味でしょうか。(12)
10. イエスはだれでしょうか。(14、18、19、23、29)
11. 不信仰はどんな結果をもたらせますか。(24)
12. いつイエスの事が分かるようになりますか。(28)

本当の自由 8:31~47

13. イエスの弟子はどんな人ですか。(31)
14. 罪は人間をどう言う状態にさせますか。(34)
15. 生まれつきの人間はどんな状態ですか。(43、44、45、55)
16. 自由はどのようにして得られるでしょうか。(32、36、40)
17. あなたは本当に自由ですか

イエスはだれですか。8:48~59

18. 人々はイエスの事をどう思いましたか。(48、52、59)
19. イエスの言葉を守る人はどうなりますか。(51)
20. イエスはどなたですか。(58)
21. あなたはイエスがだれと思いますか。

第九章

六番目のしるし — 生まれつきの盲人の癒し 9:1~4
1

癒し 9:1~7

近所の人々への影響 9:8~12

癒された人とパリサイ人達 9:13~34

初めの対話 9:13~17

癒された人の両親の取り調べ 9:18~23

本人の取り調べと除名 9:24~34

神の御子に対する信仰 9:35~38

パリサイ人への裁き 9:39~41

学びのための質問:

生まれつきの盲人の癒し 9:1~7

1. イエスの弟子たちが生まれつきの盲人を見てどんな疑問を感じましたか。(1、2)
2. イエスの返事によって私達は苦しみの問題についてどんな事を学ぶ事が出来ますか。(3)
3. イエスが指しておられる「夜」はどんな意味でしょう。(4)
4. 神様の業はどんなものでしょうか。(4)
5. イエスは御自分のことを何とおっしゃいましたか。(5)
6. 盲人の癒しはどんな方法で行われましたか。(6、7) イエス様が使われた方法の意図は何だったでしょう。

癒しについての論議 9:8~34

7. 癒された人は以前どのように生活していましたか。(8)
8. 癒された人のイエス様に対する証はどのように発展しましたか。(11、15、17、25、27、30~33)
9. なぜ不信仰が人を明らかな事実にたいして盲目にしますか。(9、16、18、24、28、29、34)
10. 癒された人の両親の態度は人間について何を語っていますか。(22、23)

癒された人とイエス様の再会 9:35~41

11. イエス様は癒された人に癒しよりもっと大切な事を与えようとなさいました。それは何でしょうか。(35)
12. 信仰は何によって生まれますか。(36、37)
13. 信仰は何を産みますか。(38)
14. 33 はイエス様が神様であることをどのように示しますか。
15. イエス様が来られたのはどのようにこの世に裁きをもたらせますか。(39、41)
16. あなたの霊的な目が見えますか。

第十章

第六の談話 — 良き羊飼い 10:1~42

例え 10:1~6

キリストへの適用 10:7~18

ユダヤ人の反応 10:19~21

イエス様に対する最終的な拒否 10:22~42

父と子の一致 10:22~30

冒涜罪が訴えられたイエス様の反論 10:31~39

ヨルダン川の対岸に引き上げる 10:40~42

学びのための質問:

良い牧者 10:1~21

1. イエス様はどんなたとえを話されましたか。(1~5)
2. 羊と羊飼いとの関係はどんなものですか。(3、4、14、15)
3. イエス様は御自分を何と言われましたか。(7、9、11)
4. イエス様の使命は何でしたか。(10、11、15)
5. 16 の囲いと群れは何を指すでしょう。キリスト教会は多いでしょうかそれとも一つでしょうか。
6. イエス様の十字架の死と甦りは父なる神様とイエス様との関係の中にどんな意味を持つでしょうか。(17、18)
7. イエス様の死は殉教でしたか。(18)
8. イエス様のメッセージが生んだ反応はどんなものでしたか。(19~21)

イエス様と父なる神様の一致 10:22~42

9. 群衆はどんな訴えをイエス様にしましたか。(24)
10. イエス様はどうして間接的にしか答えられませんでしたか。(25、26)
11. 救われた人とイエス様の関係はどうでしょうか。(27、28)
12. 救われた人の救いの確かさは何によりますか。(28、29)
13. イエス様と父なる神様の一つであられることは私達にどんな祝福をもたらせるでしょうか。(29、30)
14. ユダヤ人たちはどうしてイエス様を石で殺そうと思いましたか。(31、33) 彼らはイエス様の主張を正しく理解していましたか。
15. イエス様は群衆の疑いにたいして理解を示されたでしょうか。(38)
16. 群衆が偏見を捨てていたらイエス様を信じる二つの十

分な理由があったはずですが、その理由は何でしたか。イ
(34～36) ロ (38)

17. 私達は何でも信じるべきですか。(37)

18. 多くの人がイエス様を信じた理由は何でしたか。(41、
42)

19. あなたの信仰は何を根拠としますか。

第十一章

七番目のしるし — ラザロを生き返らせる 11:1～57

ラザロの死 11:1～16

イエス様とマルタの対面 11:17～27

イエス様とマリヤの対面 11:28～32

ラザロの生き返り 11:33～44

信仰的な反応 11:45

不信仰の反応 11:46～57

学びのための質問:

ラザロが生き返られる奇跡 11:1～44

1. ラザロとイエス様との関係はどんなものでしたか。(1、3)

2. 祈りについて3と6から何を学ぶ事が出来ますか。

3. クリスマンが病気をする時にどんな考えでいる事が出来
ますか。(4)

4. なぜイエス様は初めからラザロの病状について総ての
事を言われませんでしたか。(4、11、14)

5. 光(ここで神様の導き)の内に歩む事は危険な状況の中
にも何を与えますか。(7、8、9、10)

6. イエス様の働きの計画性はどんな所に現れますか。(4、
11、17、23)

7. ラザロの死は人々にどんな気持ちと行動を生じましたか。
(16、19、20、21～22、32、37)

8. マルタ(とマリヤと私達)の信仰はどのように成長する必
要がありますか。(22、23、24、25、26、27、39、40)

9. 祈りの中に自分の疑問と悲しみをイエス様にありのまま
ぶつけてもいいでしょうか。(21、32、39)

10. 甦りというのはどんなものでしょうか。(25、26)

11. イエス様はどうして泣かれましたか。(33、35、38)

12. 信じることと見ることとの関係はどんなものでしょう。(40)

13. イエス様はどうして父なる神様に祈られたでしょう。(41、
42)

14. イエス様はどんな権能を持っておられますか。(43、44)

15. ラザロの生き返られた事は彼にとって必要でしたか、そ
れともマリヤとマルタと弟子たちの為に必要でしたか。(4、
11、15、45)

16. あなたは体の甦りを信じますか。

大祭司カヤパの予言 11:45～57

17. 祭司たちとパリサイ人はイエス様の奇跡を認めました
か。(47)

18. 彼らはどうしてイエス様を信じてくれませんでしたか。
(48)

19. カヤパの言葉は彼自身にとってどう言う意味を持って
いたでしょう。(50)

20. その言葉はどのような形で成就しましたか。(51、52)

第十二章

イエス様の公の活動の終わり 12:1～50

ベタニヤで油注がれる 12:1～8

エルサレム入城 12:9～19

ギリシャ人たち 12:20～36a

イエス様についての預言 12:36b～43

信じるための最後の訴え 12:44～50

学びのための質問:

香油をイエス様の足に注いだマリヤの愛 12:1～11

1. この出来事はいつどこで起こりましたか。(1)

2. マルタとマリヤのイエス様に対する愛はどのように現れ
ましたか。イ マルタ (2) ロ マリヤ (3)

3. ナルド油はどのぐらいの価値がありましたか。(5)

4. マリヤの行為に少なくとも二つの理由を挙げましょう。(2、
3、7)

5. イエス様はマリヤの行為(礼拝)をどのように評価なさい
ましたか。(8、マタイの福音書 26 章 13)

6. ユダの態度は彼について何を語っていますか。(4～6)

7. あなたはイエス様をどのぐらい大切に思いますか。

8. 祭司長たちの計画は彼らについて何を語っていますか。
(9～11)

イエス様のエルサレム入り 12:12～19

9. 群衆はどうしてイエス様を賛美をもって迎えたでしょう。
(13、17、18)

10. イエス様が群衆の賛美を受け入れられた事は何を語る
でしょう。

11. 弟子たちはこの出来事の意味がどうして分からなかつ
たですか。(16)

12. イエス様にとってエルサレム入りはどんな意味を持った
でしょうか。

13. イエス様はどんな王様でしょうか。(13、15)

14. 賛美の本質は何でしょうか。(13)

15. クリスマン生活の中に賛美(主をほめたたえること)は
どんな役割を果たしていますか。

イエス様の栄光の時 12:20～36

16. ギリシャ人たちは何故エルサレムに来ていましたか。
(20)

17. 彼らはどんな願いをもってピリポの所に行きましたか。
(21)

18. イエス様の彼らに対する答えはどんな内容でしたか。
(23、32)

19. イエス様の栄光はいつ明らかになりましたか。(23、28)

20. イエス様の死による実は何でしょう。(24)

21. 24 は私達の生きかたについて、又実を結ぶ事の条件
について何を語っていますか。

22. この地上の生きかたと永遠の命の関係はどうでしょう
か。(25)

23. クリスマンとイエス様はどんな関係を持つべきでしょう。
(26)

24. イエス様に仕える報いはなんでしょう。(26)

25. イエス様の心はどうして騒いでいたでしょう。(27)

26. 父なる神様はどうして語られたでしょう。(30)

27. 私達の裁きはいつ済みましたか。(31)

28. 十字架の苦しみによって悪魔はどうなりましたか。(31)
 29. イエス様は十字架の苦しみによってどのように人々を御自分の所に引き寄せられますか。(32)
 30. 人々はキリストの事をどのように考えていましたか。(34)
 31. 光の子供はどう歩むべきでしょうか。(35、36)
 32. あなたはイエス様に仕えていますか。

人々の不信仰 12:37～43

33. イエス様の奇跡を自分の目で見て信じない理由は三つあげられています。イ(38) 口(39～40) ハ(43)
 34. 心の信仰と公の信仰告白の関係はどうあるべきです。(42)

イエス様の公の最後の訴え 12:44～50

35. イエス様と父なる神様の関係はどうなっていますか。(44、45)
 36. イエス様が与える光はどんな内容をもっていますか。(46)
 37. イエス様はどんな目的でこの世に来られましたか。(47)
 38. 最後の裁きの時に私達はどんな基準によって裁かれますか。(48)
 39. イエス様の言葉はだれの言葉ですか。(49、50)
 40. 父なる神様の命令(即ちイエス様がそれに従って私達のために得るもの)は何でしょうか。(50)
 41. 神様はあなたの事をどう考えておられるでしょう。

第十三章

- 別れのメッセージ 13:1～17:26
 意味のある二つの言動 13:1～30
 足の洗い 13:1～11
 低い姿勢の奉仕 13:12～20
 裏切りの預言 13:21～30
 弟子達の質問 13:31～14:31
 新しい戒め 13:31～35
 否定の預言 13:36～38

学びのための質問:

弟子の足を洗われたイエス様 13:1～20

1. この出来事はいつ起こりましたか。(1、2) イエス様は何をなさいましたか。(4、5)
 2. イエス様は御自分の事をどう思っておられたでしょう。イ(3) 口(13)
 3. イエス様が取られた行為はどういう態度を示されたでしょう。イ(4、5) 口(1)
 4. 何が人を幸福にしますか。(15～16、17)
 5. 主に遣わされたクリスチャンはどんな権威を持ちますか。(20)
 6. 働きの価値は何によって決まりますか。(16) (マタイ 10:42 参照)
 7. 人間の価値は何によって決まりますか。イ(1) 口(10)
 8. イエス様と弟子たちの関係は何に基づいていましたか。イ(8) 口(20)
 9. イエス様の教えの伝達方法はどんなものでしたか。イ

- (7) 口(12) ハ(5、15) ニ(19)
 10. この箇所をどのように実行に移せばいいでしょうか。

裏切りのユダとイエス様 13:21～30

11. イエス様はどうして霊の激動を感じられたでしょうか。(21)
 12. パンを浸して渡す行為はどんな意味をもっていましたか。(26)
 13. どうしてサタンがその時ユダに入ったのでしょうか。(27)
 14. 悪魔が入ったユダにイエス様が命令なされたのは何を語っていますか。(27) ユダはその命令に従ったのでしょうか。(30)

キリストの栄光 13:31～33、36～38

15. イエス様の栄光はどこにあり、父なる神様の栄光はどこにありますか。(31、32)
 16. イエス様はどこに行かれましたか。(33、36)
 17. 私達はいつイエス様が行かれた所に行けるようになりますか。(36)

新しい戒め 13:34～35

18. 新しい戒めは古い愛の戒めとどう違いますか。(34) (マタイ 22:37～40 参照)
 19. キリスト者のしるしは何でしょうか。(35)

第十四章

- 道であられるキリスト 14:1～7
 父と御子 14:8～14
 聖霊降臨 14:15～17
 弟子達の内に現れるキリスト 14:18～24
 父のみもとへ行かれる事 14:25～31

学びのための質問:

信仰によってイエス様を通して父なる神様への道 14:1～11

1. 何が私達の人生に悲しみの原因になりますか。(1)
 2. 悲しみに打ち勝つ道は何ですか。(1)
 3. 信仰の対象は誰でしょうか。(1、10、11)
 4. 天の御国は何に例えられますか。(2)
 5. 天国の中心は何でしょうか。(2、3、6)
 6. イエス様はどんな目的で天に行かれたのでしょうか。(2、3)
 7. イエス様がなさらなければならない準備はどんなものでしょうか。(2、3)
 8. 救いの道は何でしょうか。(5、6)
 9. 6 では道と真理と命とはどう言う意味でしょうか。
 10. イエス様の弟子であってもイエス様を十分知らなかった事から何を学ぶ事が出来ますか。(7、9)
 11. イエス様と父なる神様の関係はどんなものでしょうか。(9、10)
 12. 人間を満足させるのは何でしょうか。(3、10)
 13. イエス様はどのような配慮で弟子たちの弱い信仰を強めようとなさいましたか。(11)
 14. 信仰はどんな働きをしますか。イ(1) 口(5、6) ハ(10、11)

15. あなたはイエスを個人的に知っていますか。どうしたらイエス様を知る事が出来ますか。(6)

祈りに就いての約束 14:12~14

16. イエスを信じる人はどんな業をしますか。(12)
17. イエスの業より大きい業は何でしょうか。(12)
18. 人間にはどうしてそれが出来ますか。(12、13、14)
19. イエスの名前によって祈る事はどんな意味でしょうか。(13)
20. 祈りの答えの目的は何でしょうか。(13)

愛と聖霊様 14:15~31

21. イエスを愛する事はどんな内容ですか。(15、21、23)
22. イエスが父なる神様を愛する事はどんな内容ですか。(31)
23. イエスを愛する事はどんな三つの恵みをもたらせますか。(21、23)
24. 聖霊様がなぜ与えられますか。(16、26)
25. 聖霊様はどんな働きをなさいますか。イ(16、17、23) 口(18) ハ(20) サ(26)
26. イエス様は聖霊様を通してどんな業を進めて下さいますか。イ(27) 口(27) ハ(29)
27. 聖霊様とクリスチャンの関係はどんなものでしょうか。イ(17) 口(26)
28. 聖霊様と救いの確信はどんな関係にありますか。(16、17、23)
29. この世の人々はどうしてイエスの事が分からないのでしょうか。(22、23、24)
30. キリスト者にとって何が喜びでしょうか。(28)
31. 悪魔とイエス様の関係はどうでしょうか。(30)
32. あなたはイエスを愛していますか。

第十五章

真のぶどうの木 15:1~16

迫害 15:17~25

キリストのための苦しみ 15:17~21

キリストが人々の罪を明らかにされる 15:22~25

聖霊様の働き 15:26~16:15

聖霊様の証し 15:26~27

学びのための質問:

ぶどうの木であるキリスト 15:1~11

1. イエス様と父なる神様と信じる人々の関係はどんなものでしょうか。(1、5)
2. イエス様から離れる枝の運命は何でしょうか。(2、6)
3. イエス様にとどまる枝は何が出来ますか。(2、5)
4. クリスチャン生活はどのように可能になりますか。(4、5、9)
5. 豊かな実を結ぶ条件は何でしょうか。(2)
6. 人間はどのようにきよくなれますか。(3)
7. イエス様にとどまるのはどのように出来ますか。(4、7、9、10、16)
8. 実を結ぶ事はどんな内容でしょうか。イ(7、16) 口(8) ハ(12) ニ(11)
9. 実を結ぶ目的は何でしょうか。(8)

イエス様の戒め 15:12~17

10. イエス様の戒めは何ですか。(12、17)
11. クリスチャンの互いの愛は何によるものでしょうか。(12、13)
12. クリスチャンとイエス様の関係はどんなものでしょうか。(14、15)
13. クリスチャンの選びはどんな内容でしょうか。(16)
14. クリスチャンの実の残ることはどういう意味でしょうか。(16)

この世とクリスチャン 15:18~27

15. この世とクリスチャンの関係にはどんな問題が生じますか。(18)
16. 何故この世はクリスチャンを憎むでしょうか。(19、21)
17. 憎まれる時には何をすべきでしょうか。(20)
18. クリスチャンの言葉にはどんな権威がありますか。(20)
19. この世がイエスを憎む理由は何でしょうか。(22、24、25)
20. イエス様と父なる神様の関係はどんなものでしょうか。(23)
21. 聖霊様はどんな働きをなさいますか。(26)
22. 憎しみのこの世の中にはクリスチャンの使命は何でしょうか。(27)

第十六章

来るべき迫害についての警告 16:1~4

聖霊様の働き 16:5~15

幾つかの問題の解決 16:16~33

弟子達の当惑 16:16~18

弟子達の喜び 16:19~24

弟子達の信仰 16:25~30

弟子達の平安 16:31~33

学びのための質問:

迫害の時の慰め 16:1~4、16~24

1. 迫害に遭うクリスチャンはどんな危険にさらされますか。(1、2)
2. 何故クリスチャンは迫害に遭わなければならないでしょうか。(3)
3. 神様はどうして迫害を許すでしょうか。(21、23~24)
4. その時の励ましはどこにあるでしょうか。(4、16、20~22)
5. イエス様が初めから迫害に就いて話されなかったのは何故でしょうか。(4、12、33)
6. イエス様は又会う事で何を指したでしょうか。(16、19、22)

聖霊様の働き 16:5~15

7. イエス様はどこに行かれましたか。(5、17)それはどのように行われましたか。
8. クリスチャンの感情とイエス様の約束が一致しない時に信仰は何を頼りにするでしょうか。(6、7)
9. イエス様が天に行かれてから何をなさいましたか。(7)
10. 聖霊様はどんな働きをなさいますか。イ(8) 口(13)

ハ(13) ニ(14)

11. 罪とは何でしょうか。(9)
12. 義とは何でしょうか。(10)
13. 裁きとは何でしょうか。(11)
14. 三位一体の神様の各位はどんな関係でしょうか。(15)

神様の啓示 16:25~33

15. イエス様の神様についての啓示はどんな性質がありますか。(25、29~30 億行)
16. 神様の啓示を理解する為の条件は何でしょうか。(26、27)
17. 神様の啓示の内容は何でしょうか。(28)
18. 啓示によって弟子たちはどんな信仰に達しましたか。(30)
19. イエス様は彼らの信仰の強さをどう見ておられたでしょうか。(31、32)
20. クリスチャンの平安の秘訣はどこにあるでしょうか。(33)
21. あなたには神様の平安がありますか。

第十七章

大祭司としての祈り 17:1~26

「子の栄光を表してください」 17:1~5

弟子達のための祈り 17:6~19

これから信じようとする人々のための祈り 17:20-26

学びのための質問:

主のご自分の為のお祈り 17:1~5

1. イエス様の祈りの姿勢はどんなものでしたか。(1)
2. イエス様は父なる神様をどう呼ばれますか。(1、11、25)
3. イエス様はご自身をどう呼ばれますか。(1、3)
4. イエス様のこの祈りと主の祈りを比べましょう。イエス様の一番の願いは何ですか。(1、4、5)(マタイ 6:9~13 参照)
5. イエス様が一切の権威を持っておられる目的は何ですか。(2)
6. 永遠の命はどんな人に与えられますか。(2)
7. 永遠の命は何ですか。(3)
8. 父なる神様がイエス様に与えられた使命は何ですか。(4)
9. イエス様の活動は成功しましたか。(4)
10. 創造以前のイエス様の姿はどんなものでしたか。(5)
11. 昇天後のイエス様の姿はどう成っていますか。(5)

弟子達の為の執り成しのお祈り 17:6~19

12. イエス様は弟子達に何を与えられましたか。イ(6、26) ロ(8、14) ハ(22) ニ(26)
13. クリスチャンの印は何ですか。(6、8)
14. イエス様の祈りはどうして限られた人々の為だったでしょうか。(9、10、22)
15. イエス様の栄光はどこに又どのように現れていますか。イ(10) ロ(22、23) ハ(24、26)
16. イエス様は弟子の為に何を祈られましたか。イ(11) ロ(15) ハ(17)
17. イエス様が祈られた目的は何でしたか。(13)

18. クリスチャンはどうしてイエス様の祈りを必要としますか。イ(11、12) ロ(14) ハ(16)
19. 聖書は何ですか。(17)
20. 聖めは何によって行われますか。(17、19)
21. クリスチャンの使命は何ですか。(18)
22. その使命を全うする為の前提は何ですか。(17)

教会の為の執り成しの祈り 17:20~26

23. 人々は何によって信じるように成りますか。(20)
24. イエス様はクリスチャンの為に何を祈られましたか。イ(21、23) ロ(24)
25. クリスチャンの一つであるのはどんな性質のものでしょうか。(21、22)
26. クリスチャンの一致は何によって可能ですか。(22、23)
27. クリスチャンの一致の目的は何ですか。イ(21、23) ロ(23)
28. 天国の本質は何でしょうか。(24)
29. 父なる神様のイエス様に対する愛はいつからのものですか。(24)
30. 世と言う言葉はこの章の中にどんな 3 つの違う意味で使われていますか。イ(11、13、24) ロ(9、21、23) ハ(16)
31. イエス様はこれから何をなしますか。(26)
32. イエス様はそれをどういう目的でなしますか。(26)
33. イエス様のこの祈りによって私達は祈りの生活について何を学ぶ事が出来ますか。

第十八章

十字架 18:1~19:42

逮捕 18:1~12

ユダヤ人の裁判と否定 18:13~27

イエス様はアンナスの前に 18:13~14

ペテロの否定 18:15~18

アンナスの前の取り調べ 18:19~24

ペテロの二番目と三番目の否定 18:25~27

ローマの裁判 18:28~19:16

イエス様はピラトに渡される 18:28~32

ピラトの前の取り調べ 18:33~40

第十九章

人を見よ 19:1~6a

ピラトの最終決定 19:6b~16a

イエス様の死刑の執行 19:16b~42

十字架につけられる 19:16b~22

イエス様の服装の分配 19:23~24

マリヤに対する世話 19:25~27

イエス様の死 19:28~30

イエス様の脇を突き刺す 19:31~37

埋葬 19:38~42

学びのための質問:

ゲッセマネの園 18:1~11

1. イエス様はどんな所によく弟子達と一緒に集まりましたか。(2)
2. ユダは何をしましたか。(3)

3. イエス様は何をご存知でしたか。(4)
4. どうしてイエス様は 4 の質問をなさいましたか。(5)
5. イエス様を捕まえようとした兵隊たちなどがどうして倒れたのでしょうか。(6)
6. イエス様はどのようにその弟子たちを守られましたか。(8、9)
7. ペテロの行為から私達は何を学ぶことができますか。(10、11)
8. イエス様が飲むべき杯は何でしたか。(11)

祭司長の家 18:12~24

9. イエス様はどうして祭司長の家で裁きを受けなければなりませんでしたか。(13、14)
10. ペテロはどこに行きましたか。(15、16)
11. ペテロはイエス様を知らないと言いましたが、なぜでしたか。(17、18、25、27)
12. あなたはまわりの人々によって、または場面によって左右されますか、それとも神様によって支配されていますか。
13. イエス様の教えはどんな性質を持っていますか。(20、21)
14. イエス様はどうしてたたかれましたか。(22)
15. イエス様は 23 で怒りを示されましたが、何故でしょう。(23)

ピラトの前の裁判 18:28~19:16

16. ユダヤ人の偽善はどのように現れましたか。(28)
17. ユダヤ人の訴えは何でしたか。(30、33、19 章 7)
18. なぜイエス様はピラトの裁きを受けなければならなかったのでしょうか。(31)
19. イエス様は御自身を王様と主張なさいましたか。(33、36、37)
20. イエス様の王位はどんな性質のものですか。イ(36) 口(37)
21. 真理は何ですか。(37、38)
22. 人々はどうしてバラバの釈放を求めたのでしょうか。(40)
23. ピラトのユダヤ人に対する態度は何を語っていますか。(35、39; 19 章 8、15)
24. ピラトはどうしてイエス様を鞭打ちにさせましたか。(19 章 1、5)
25. ピラトは何回イエス様に罪がない事を認めましたか。(18 章 38; 19 章 4、6)
26. イエス様はどうしてピラトに答えられませんでしたか。(19 章 9; 18 章 37、38)
27. ピラトは本当の権威をもっていたのでしょうか。(10、11)
28. 政治的な力は誰によってコントロールされていますか。(11)
29. ピラトは自分で無罪と認めたイエス様をなぜ死刑にしましたか。(19 章 12、15、16)
30. 誰が本当の裁きを下しましたか。(11)
31. ピラトはなぜローマ軍の力で正しい裁きをしませんでしたか。(19 章 8)
32. 真実とあなたの利益がぶつかるとあなたは何によって行動しますか。

十字架 19:17~37

33. イエス様はどこで十字架に付けられましたか。(17、へ

ブル 13:11~15 参照)

34. イエス様が真ん中の十字架に付けられた事にどんな意味があったのでしょうか。(18)
35. イエス様の十字架の上に掲げた罪状書きには何が書いてありましたか。(19)
36. ピラトは何故罪状書きを代えなかったのでしょうか。(22)
37. イエス様は完全に裸にされたのは何故でしょうか。(23~24)
38. くじを引く事などのギャンブルについてこの箇所から何が学べますか。(24)
39. イエス様の十字架のそばに誰が立っていましたか。(25、27)
40. イエス様は母マリヤに対して親孝行をどのように果たされましたか。(26、27)
41. 「私が渴く」とイエス様がおっしゃったのは イ いつでしたか。 口 何故そう言われましたか。(28、詩篇 22 篇 参照)
42. 「完了した」と言われたのはどんな意味でしょうか。(30)
43. イエス様の脇腹から血と水が流れた事はイエス様の死亡原因について何を語るのでしょうか。(34)
44. あなたが突き刺されたイエス様を見ると何が分かりますか。(36、37)

イエス様の葬り 19:38~42

45. ヨセフとニコデモはどんな人々でしたか。(38、39)
46. ユダヤ人の葬る習慣はどんなものでしたか。(39~41)
47. 墓はクリスチャンにとってどんな所でしょうか。

第二〇章

復活 20:1~29

空っぽの墓 20:1~10

顕現 20:11~29

マリヤへの顕現 20:11~18

10人の弟子への顕現 20:19~23

トマスへの顕現 20:24~29

福音書の目的 20:30~31

学びのための質問:

空の墓 20:1~10

1. イエス様の墓の石を誰がまた何故取り外したのでしょうか。(1、マタイ 28 章 2 参照)
2. マグダラのマリヤは空の墓を見てどう思いましたか。(2)
3. ペテロとヨハネを墓に走らせた動機は何だったでしょう。(3~4)
4. 墓の様子はどうか。(5~7)
5. 亜麻布を見てペテロとヨハネは何を信じたのでしょうか。(8)
6. 彼らの信仰が本来何に基づくはずだったのでしょうか。(9)
7. クリスチャンにとって墓参りはどんな意味を持つのでしょうか。

マグダラのマリヤと甦られたイエス様 20:11~18

8. マリヤの心はどんな気持ちで満ちていたでしょう。(11、15)
9. 甦りの際に御使いたちはどんな役割を果たしましたか。(12~13、マタイ 28 章 2~7 とルカ 24 章 4~8 参照)

10. マリヤは誰を探していたでしょう。(死んだイエス様でしたか、それとも生きておられるイエス様でしたか。)(15)
11. イエス様はどのようにマリヤを呼びましたか。(15、16)
12. マリヤはイエス様を何と言いましたか。(16)
13. イエス様はマリヤに 17 で大切な教えを与えられました。それは イ マリヤとイエス様の新しい関係についてでした。そして ロ イエス様と弟子たちの関係についてでした。そして ハ イエス様と父なる神様の関係についてでした。そして ニ 弟子たちと父なる神様の関係についてでした。それぞれは何でしたか。
14. イエス様はマリヤにどんな使命を与えられましたか。(17)
15. マリヤは何をしましたか。(18)

弟子達と復活の主 20:19～23

16. イエス様が甦られたと知っていても弟子達はどんな気持ちでいましたか。そしてそれは何故でしょうか。(19、ルカ 24 章 33～35 参照)
17. 鍵がかかっている部屋にイエス様が急に現れた事はイエス様の復活の体について何を語っていますか。(19)
18. イエス様の挨拶はどんな内容でしたか。(19、21)
19. イエス様は弟子達に何を見せられましたか。それは何故だったでしょうか。(20)
20. 弟子達に与えられた使命は何でしたか。(21、マタイ 28 章 18～20 参照)
21. 使命を全うする為の備えはどんな内容ですか。(21、22、23)
22. 誰が聖霊様を与えて下さいますか。(22)
23. 弟子達はいつ聖霊様を受けたでしょうか。(22)
24. 罪を赦す権威をどのように用いるべきでしょうか。(23)

トマスの疑いとイエス様 20:24～29

25. クリスマンの集まる事の大切さについてこの箇所から間接的に何が分かりますか。(19、24～25)
26. イエス様を見なくてもトマスに復活を信じる為に十分な証拠がありましたか。(25、29)
27. トマスの不信仰の本質はどこにありましたか。(25)
28. イエス様の傷痕は何を語っているでしょうか。(27)
29. トマスは何によって不信仰から信仰へと助けられたでしょうか。(27)
30. トマスの信仰告白はどんな内容でしたか。又それは彼のどんな態度を現していますか。(28)
31. 信じる事と見る事は同じレベルの事柄でしょうか。(29)
32. 見ないで信じる事にはどんな祝福がありますか。(29)

福音書の目的 20:30～31

33. ヨハネの福音書にはイエス様の御業がどのくらい含まれていますか。(30、21 章 25 参照)
34. 福音書に書いてある事によって何が可能ですか。(31)
35. 信仰によって何が与えられますか。(31)

第二章

エピログ 21:1～25

奇跡的な大漁 21:1～14

ペテロの使命の回復 21:15～19

愛されている弟子の役割 21:20～23
認証 21:24～25

学びのための質問:

テベリヤ湖畔で現れたイエス様 21:1～14

1. イエス様が現れた目的は何でしたか。(1、14)
2. ペテロ達は何故漁に行く事に決めましたか。(2、3、5)
3. 漁に行った結果はどうでしたか。何故そうなったのでしょうか。(3)
4. イエス様はどこにおられましたか。(4)
5. イエス様は何を聞かれましたか。この質問はイエス様のどんな態度を示したでしょうか。(5)
6. イエス様の言葉に従ってどんな結果になりましたか。(6)
7. ペテロの行為と他の弟子たちの行為は何を現しましたか。(7、8、11)
8. イエス様はどんな奉仕をなさいましたか。(9、12、13)
9. イエス様の姿勢から何が学べますか。

ペテロのイエス様に対する愛 21:15～19

10. イエス様はペテロに対して 3 回よく似た質問をなさいましたが、詳しく読んで見るとみんなそれぞれ違います。どう違いますか。(15、16、17)
11. どうしてイエス様は 3 回質問なさいましたか。
12. ペテロの答えは毎回肯定的でしたが、どうしてペテロはどうとう悲しくなったでしょうか。(17)
13. ペテロの愛は何によって生まれましたか。
14. ペテロは自分自身の愛の大きさの判断を何故イエス様にまかせましたか。(15、16、17)
15. イエス様に対する愛の上に初めて使命が与えられます。ペテロの使命は何でしたか。(15、16、17)
16. あなたはイエス様を愛していますか。
17. イエス様はペテロの将来についてどんな預言をなさいましたか。(18)
18. クリスマンはその死にかたによって何をする事が出来ますか。(19)

ヨハネとイエス様 21:20～25

20. ペテロのヨハネについての好奇心に対してイエス様は何を答えられましたか。(22)
21. イエス様に従う事はどんな意味でしょうか。(19、22)
22. ヨハネはイエス様とどんな間柄でしたか。(22、24)

使徒の働き（使徒言行録）

著者：

著者は、パウロについて一緒に伝道旅行をした医者（ルカ）のルカです。ルカは「私たちが」と「私たちを」ということばを用いることによって、彼がパウロとともにいたことを示しています。ルカは、ルカの福音書も書きましたが、福音書のほうは、キリストが地上で御業をなし始められたことを、使徒の働きのほうは、キリストが聖霊によってなし続けられたことを述べています。

書名：

この書物は、「使徒の働き」と呼ばれますが、それは、聖霊が使徒たちを通して働かれたことを語っています。「使徒の働き」は、聖霊がおいでになった時から、パウロがローマで投獄されるまでの記録です。

聖書の中での位置：

「使徒の働き」は、初代教会の歴史です。それは、新約聖書の5番目の書物です。

おもな登場人物：

- 1-12 章-ペテロ、ステパノ、ピリポ、バルナバ、ヤコブ
- 13-28 章-パウロ、バルナバ、シラス

鍵の聖句：

しかし、聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、および地の果てにまで、わたしの証人となります。(1:8)

あらすじ：福音の宣教

- エルサレムにおいて（1-7 章）
- ユダヤとサマリヤにおいて（8-12 章）
- 世界に対して（13-28 章）

使徒の働きの中におけるキリスト

使徒たちは、あらゆる機会にイエスについて教えました。そして、教えるときはいつでも、イエスの死と復活について話しました。彼らはイエスがおいでになることを語る預言者のことばをよく聞き手に思い起させました。

1 章において、イエスはご自身の弟子たちとお話しになり、イエスが語られ、行われたすべてのことの証人になるように、彼らに告げられました。それから、イエスは、天に帰られました。聖霊は、イエスに従う者たちに、イエスについて人々に語る力をお与えになりました。

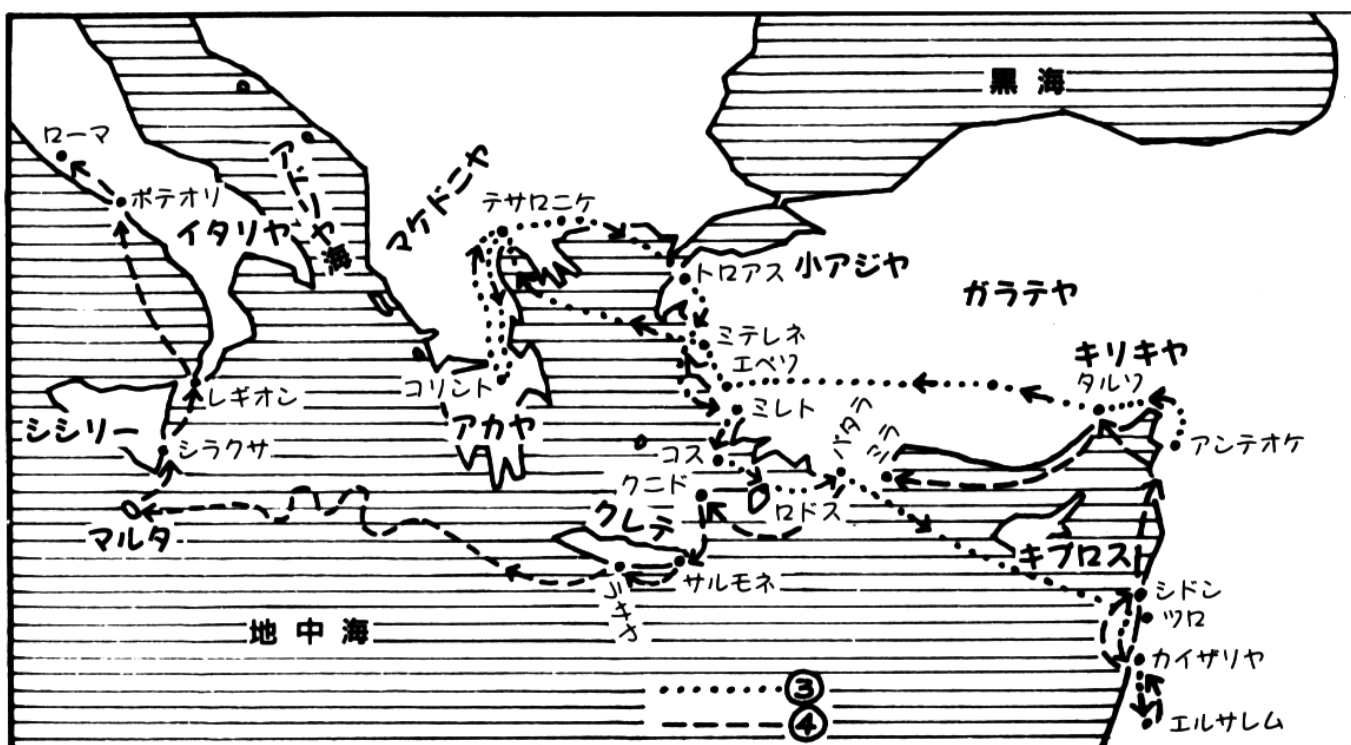
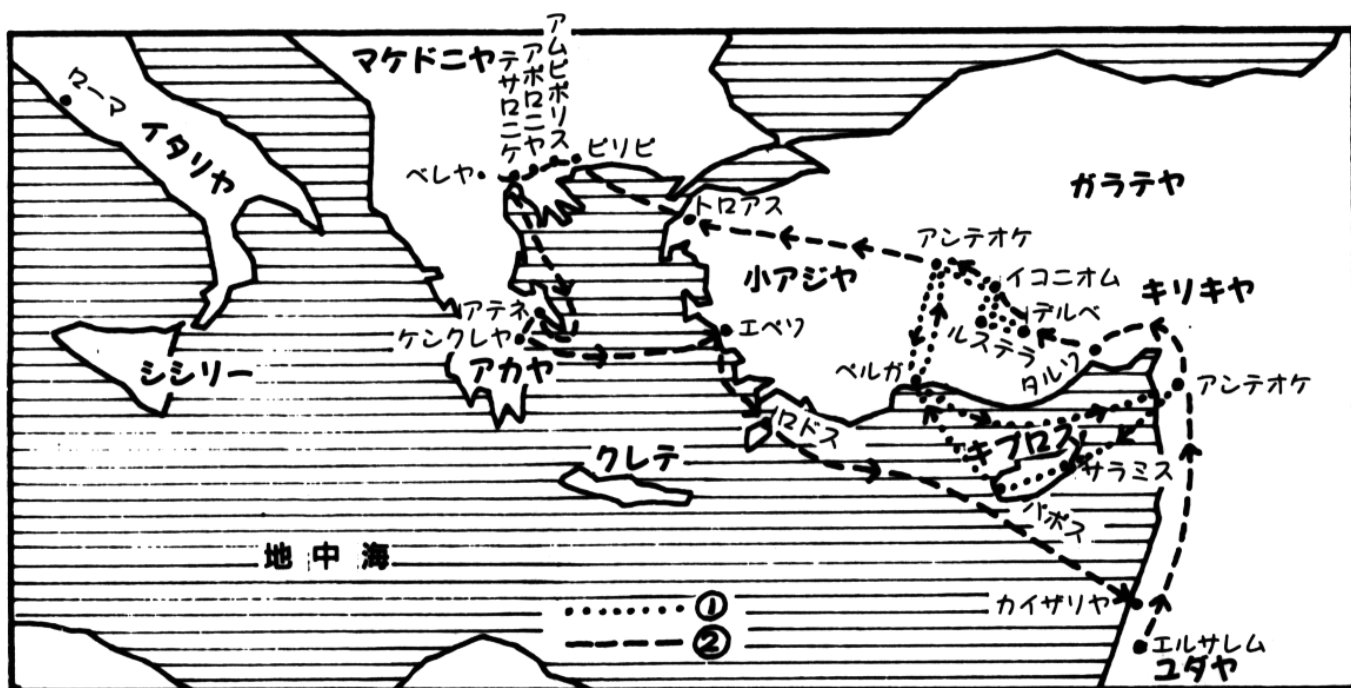
9 章において、イエスは、天からサウロに語りかけられました。それからほどなくして、パウロ（サウロ）はクリスチャンになりました。その時、アナニヤは、パウロにこのように言いました。「私たちの先祖の神は、あなたにみこころを知らせ、義なる方〔イエス〕を見させ、その方の口から御声を聞かせようとお定めになったのです。あなたはその方のために、すべての人に対して、あなたの見たこと、聞いたことの証人とされるのですから」（22:14、15）。パウロは、世界中を旅行して、人々にイエス・キリストについて語りました。

出来事が起った場所

ルカは、彼の第2の書である「使徒の働き」を、パウロと一緒にいたローマから書きました。

ルカは、パウロの3回の伝道旅行と、彼のローマへの旅を記録しました。パウロが4回の旅の途中で立ち寄った町々で、パウロが行ったことや語ったことを読みましょう。

- ① パウロの第1次伝道旅行:13:1-14:28
- ② パウロの第2次伝道旅行:15:36-18:22
- ③ パウロの第3次伝道旅行:18:23-21:26
- ④ パウロのローマへの旅: 21:27-28:31



過去からの発見

使徒の働き 18 章 12 節は、ガリオがアカヤ（ローマ人によって支配されたギリシヤの一地域）の地方総督（支配者）であった時代のことを語っています。デルフォイ（ギリシヤの町）で発見された碑文（石に刻まれた文章）は、紀元 51 年（イエスがお生まれになってから約 50 年後）に、ガリオがアカヤの地方総督であったことを述べています。

使徒の時代の多くの町々は、現代の大都市になりました。「使徒の働き」に出てくる他の場所は、人が住まなくなり、滅びました。このようにして滅びた町の大部分は、考古学者たちによって発見されています。

エペソの町

エペソの廃墟を発見するまでに、考古学者たちは、6年以上も発掘を続けました。6メートルほど掘り下げて、彼らは、女神ダイアナ（偶像）の神殿の白い大理石の床に行き当たりました。その女神の像の下から多数の財宝が掘り出されました。考古学者たちはまた、劇場の廃墟や銀細工人の店も発見しました（使徒 19 章参照）。

アテネの町

考古学者たちは、パウロがアテネの人々に語った丘である、アレオパゴスの場所を確認しました（使徒 17:19 を参照）。パウロは、人々が礼拝する偶像の祭壇を見たことを述べています。彼らの神や女神の立像は、今日博物館にたくさん納められており、ギリシヤ人が多くの石の偶像をもっていたことを示しています。

ローマの町

神は、パウロをローマに遣わしました（使徒 28 章参照）。ローマは、その時代、世界最大の都市でした。そこは大ローマ帝国の中心でした。パウロが知っていたローマには、何百万人もの人々が住んでいました。ローマは、今は現代的な首都ですが、かつての偉容を伝える古い町の遺跡を見ることができます。古い記念碑や貨幣には聖書の時代のローマの銘がつけられています。

み言葉のしおり

使徒の働き

- 1) あなたがたの上に聖霊が降ると、あなたがたは力を受ける。そして、エルサレムばかりでなく、ユダヤとサマリアの全土で、また、地の果てに至るまで、わたしの証人となる。」 使徒言行録 1 章 8 節
- 2) 「だから、イスラエルの全家は、はっきり知らなくてはなりません。あなたがたが十字架につけて殺したイエスを、神は主とし、またメシアとなさったのです。」使徒言行録 2 章 36 節

「すると、ペトロは彼らに言った。「悔い改めなさい。めいめい、イエス・キリストの名によって洗礼を受け、罪を赦していただきなさい。そうすれば、賜物として聖霊を受けます。この約束は、あなたがたにも、あなたがたの子供にも、遠くにいてすべての人にも、つまり、わたしたちの神である主が招いてくださる者ならだれにでも、与えられているものなのです。」 使徒言行録 2 章 38～39 節

彼らは、使徒の教え、相互の交わり、パンを裂くこと、祈ることに熱心であった。使徒言行録 2 章 42 節

- 3) ペトロは言った。「わたしには金や銀はないが、持っているものをあげよう。ナザレの人イエス・キリストの名によって立ち上がり、歩きなさい。」 使徒言行録 3 章 6 節
- 4) 「主よ、今こそ彼らの脅しに目を留め、あなたの僕たちが、思い切って大胆に御言葉を語ることができるようにしてください。どうか、御手を伸ばし聖なる僕イエスの名によって、病気がいやされ、しるしと不思議な業が行われるようにしてください。」使徒言行録 4 章 29～30 節
- 5) ペトロは言った。「二人で示し合わせて、主の霊を試すとは、何としたことか。見なさい。あなたの夫を葬りに行った人たちが、もう入り口まで来ている。今度はあなたを担ぎ出すだろう。」 使徒言行録 5 章 9 節

ペトロとほかの使徒たちは答えた。「人間に従うよりも、神に従わなくてはなりません。」 使徒言行録 5 章 29 節

6) それで、兄弟たち、あなたがたの中から、“霊”と知恵に満ちた評判の良い人を七人選びなさい。彼らにその仕事を任せよう。 使徒言行録 6 章 3 節

7) 「天が開いて、人の子が神の右に立っておられるのが見える」と言った。 使徒言行録 7 章 56 節

8) すると、ペトロは言った。「この金は、お前と一緒に滅びてしまうがよい。神の賜物を金で手に入れられると思っているからだ。 使徒言行録 8 章 20 節

そこで、フィリポは口を開き、聖書のこの箇所から説きおこして、イエスについて福音を告げ知らせた。道を進んで行くうちに、彼らは水のある所に来た。宦官は言った。「ここに水があります。洗礼を受けるのに、何か妨げがあるでしょうか。」 使徒言行録 8 章 35～36 節

9) すると、主は言われた。「行け。あの者は、異邦人や王たち、またイスラエルの子らにわたしの名を伝えるために、わたしが選んだ器である。わたしの名のためにどんなに苦しまなくてはならないかを、わたしは彼に示そう。」 使徒言行録 9 章 15～16 節

ペトロが皆を外に出し、ひざまずいて祈り、遺体に向かって、「タビタ、起きなさい」と言うと、彼女は目を開き、ペトロを見て起き上がった。 使徒言行録 9 章 40 節

10) そしてイエスは、御自分が生きている者と死んだ者との審判者として神から定められた者であることを、民に宣べ伝え、力強く証しするようにと、わたしたちにお命じになりました。また預言者も皆、イエスについて、この方信じざる者はだれでもその名によって罪の赦しが受けられる、と証ししています。」 使徒言行録 10 章 42～43 節

11) しかし、彼らの中にキプロス島やキレネから来た者がいて、アンティオキアへ行き、ギリシア語を話す人々にも語りかけ、主イエスについて福音を告げ知らせた。主がこの人々を助けられたので、信じて主に立ち帰った者の数は多かった。 使徒言行録 11 章 20～21 節

12) 天使が、「帯を締め、履物を履きなさい」と言ったので、ペトロはそのとおりにした。また天使は、「上着を着て、ついて来なさい」と言った。 使徒言行録 12 章 8 節

13) 彼らが主を礼拝し、断食していると、聖霊が告げた。「さあ、バルナバとサウロをわたしのために選び出しなさい。わたしが前もって二人に決めておいた仕事に当たらせるために。」 使徒言行録 13 章 2 節

言った。「ああ、あらゆる偽りと欺きに満ちた者、悪魔の子、すべての正義の敵、お前は主のまっすぐな道をどうしてもゆがめようとするのか。今こそ、主の御手はお前の上を下る。お前は目が見えなくなって、時が来るまで日の光を見ないだろう。」するとたちまち、魔術師は目がかすんできて、すっかり見えなくなり、歩き回りながら、だれか手を引いてくれる人を探した。総督はこの出来事を見て、主の教えに非常に驚き、信仰に入った。 使徒言行録 13 章 10～12 節

14) しかし、神は御自分のことを証ししないでおられたわけではありません。恵みをくださり、天からの雨を降らせて実りの季節を与え、食物を施して、あなたがたの心を喜びで満たしてくださっているのです。」 使徒言行録 14 章 17 節

15) それなのに、なぜ今あなたがたは、先祖もわたしたちも負いきれなかった轡を、あの弟子たちの首に懸けて、神を試みようとするのですか。わたしたちは、主イエスの恵みによって救われると信じているのですが、これは、彼ら異邦人も同じことです。」 使徒言行録 15 章 10～11 節

16) その夜、パウロは幻を見た。その中で一人のマケドニア人が立って、「マケドニア州に渡って来て、わたしたちを助けてください」と言ってパウロに願った。 使徒言行録 16 章 9 節

彼女がこんなことを幾日も繰り返すので、パウロはたまりかねて振り向き、その霊に言った。「イエス・キリストの名によって命じる。この女から出て行け。」すると即座に、霊が彼女から出て行った。 使徒言行録 16 章 18 節

二人は言った。「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたも家族も救われます。」 使徒言行録 16 章 31 節

17) それは、先にお選びになった一人の方によって、この世を正しく裁く日をお決めになったからです。神はこの方を死者の中から復活させて、すべての人にそのことの確証をお与えになったのです。」 使徒言行録 17 章 31 節

18) しかし、彼らが反抗し、口汚くののしったので、パウロは服の塵を振り払って言った。「あなたたちの血は、あなたたちの頭に降りかかれ。わたしには責任がない。今後、わたしは異邦人の方へ行く。」 使徒言行録 18 章 6 節

19) このことがエフェソに住むユダヤ人やギリシア人すべてに知れ渡ったので、人々は皆恐れを抱き、主イエスの名は大いにあがめられるようになった。信仰に入った大勢の人が来て、自分たちの悪行をはっきり告白した。また、魔術を行っていた多くの者も、その書物を持って来て、皆の前で焼き捨てた。その値段を見積もってみると、銀貨五万枚にもなった。 使徒言行録 19 章 17～19 節

20) 神に対する悔い改めと、わたしたちの主イエスに対する信仰とを、ユダヤ人にもギリシア人にも力強く証してきたのです。 使徒言行録 20 章 21 節

だから、特に今日はっきり言います。だれの血についても、わたしには責任がありません。わたしは、神の御計画をすべて、ひるむことなくあなたがたに伝えたからです。 使徒言行録 20 章 26～27 節

そして今、神とその恵みの言葉とにあなたがたをゆだねます。この言葉は、あなたがたを造り上げ、聖なる者とされたすべての人々と共に恵みを受け継がせることができるのです。 使徒言行録 20 章 32 節

21) そのとき、パウロは答えた。「泣いたり、わたしの心をくじいたり、いったいこれはどういうことですか。主イエスの名のためならば、エルサレムで縛られることばかりか死ぬことさえも、わたしは覚悟しているのです。」 使徒言行録 21 章 13 節

22) 今、何をためらっているのです。立ち上がりなさい。その方の名を唱え、洗礼を受けて罪を洗い清めなさい。 使徒言行録 22 章 16 節

23) そこで、パウロは最高法院の議員たちを見つめて言った。「兄弟たち、わたしは今日に至るまで、あくまでも良心に従って神の前で生きてきました。」 使徒言行録 23 章 1 節

その夜、主はパウロのそばに立って言われた。「勇気を出せ。エルサレムでわたしのことを力強く証したように、ローマでも証しをしなければならない。」 使徒言行録 23 章 11 節

24) しかしここで、はっきり申し上げます。私は、彼らが『分派』と呼んでいるこの道に従って、先祖の神を礼拝し、また、律法に則したことと預言者の書に書いてあることを、ことごとく信じています。更に、正しい者も正しくない者もやがて復活するという希望を、神に対して抱いています。この希望は、この人たち自身も同じように抱いております。こういうわけで私は、神に対しても人に対しても、責められることのない良心を絶えず保つように努めています。 使徒言行録 24 章 14～16 節

25) もし、悪いことをし、何か死罪に当たることをしたのであれば、決して死を免れようとは思いません。しかし、この人たちの訴えが事実無根なら、だれも私を彼らに引き渡すような取り計らいはできません。私は皇帝に上訴します。 使徒言行録 25 章 11 節

26) 起き上がれ。自分の足で立て。わたしがあなたに現れたのは、あなたがわたしを見たこと、そして、これからわたしが示そうとすることについて、あなたを奉仕者、また証人にするためである。わたしは、あなたをこの民と異邦人の中から救い出し、彼らのもとに遣わす。それは、彼らの目を開いて、闇から光に、サタンの支配から神に立ち帰らせ、こうして彼らがわたしへの信仰によって、罪の赦しを得、聖なる者とされた人々と共に恵みの分け前にあずかるようになるためである。』 使徒言行録 26 章 16～18 節

ところで、私は神からの助けを今日までいただいて、固く立ち、小さな者にも大きな者にも証しをしてきましたが、預言者たちやモーセが必ず起こると語ったこと以外には、何一つ述べていません。つまり私は、メシアが苦しみを受け、また、死者の中から最初に復活して、民にも異邦人にも光を語り告げることになると述べたのです。」
使徒言行録 26 章 22～23 節

パウロは言った。「短い時間であろうと長い時間であろうと、王ばかりでなく、今日この話を聞いてくださるすべての方が、私のようになってくださいを神に祈ります。このように鎖につながれることは別ですが。」 使徒言行録 26 章 29 節

27) わたしが仕え、礼拝している神からの天使が昨夜わたしのそばに立って、こう言われました。『パウロ、恐れるな。あなたは皇帝の前に出頭しなければならない。神は、一緒に航海しているすべての者を、あなたに任せてくださったのだ。』ですから、皆さん、元気を出しなさい。わたしは神を信じています。わたしに告げられたことは、そのとおりになります。 使徒言行録 27 章 23～25 節

28) この民の心は鈍り、耳は遠くなり、目は閉じてしまった。こうして、彼らは目で見ることなく、耳で聞くことなく、心で理解せず、立ち帰らない。わたしは彼らをいやさない。』だから、このことを知っていただきたい。この神の救いは異邦人に向けられました。彼らこそ、これに聞き従うのです。」 使徒言行録 28 章 27～28 節

使徒の働きのアウトライン

1. 序文(1:1-11)

- (1) 献呈の言葉(1-2)
- (2) 聖霊を与える約束(3-5)
- (3) イエスの昇天(6-11)

d.王の抑圧にもかかわらず(12:1-25)

2. エルサレムから一原始教会の宣教の記録(1:12-12:25)

- (1)エルサレム教会の誕生(1:12-2:47)
 - a.使徒を補充する(1:12-26)
 - b.聖霊の降臨(2:1-13)
 - c.ペテロの説教とその結果(2:14-41)
 - d.福音に生きる教会(2:42-47)
- (2)キリストの名によるいやし(3:1-4:31)
 - a.足の不自由な男をいやす(3:1-10)
 - b.ペテロの第2の説教(3:11-26)
 - c.議会での証言(4:1-22)
 - d.抵抗から祈りへ(4:23-31)
- (3)苦難のうちに成長する教会(4:32-5:42)
 - a.所有の放棄(4:32-5:11)
 - b.多くの奇蹟を行う(5:12-16)
 - c.逮捕・解放・議会での証言(5:17-32)
 - d.ガマリエルの演説(5:33-42)
- (4)ステパノとその殉教(6:1-8:1a)
 - a.7人を選出する(6:1-6)
 - b.伸展報告(6:7)
 - c.ステパノの逮捕(6:8-15)
 - d.ステパノの演説(7:1-53)
 - e.ステパノの殉教(7:54-8:1a)
- (5)ユダヤの境を越えて(8:1b-9:43)
 - a.サマリヤへの伝道(8:1b-25)
 - b.エチオピア人の回心(8:26-40)
 - c.サウロの回心(9:1-31)
 - d.ペテロの巡回伝道(9:32-43)
- (6)異邦人伝道の拠点(10:1-12:25)
 - a.コルネリオの回心(10:1-48)
 - b.異邦人も招かれている(11:1-18)
 - c.アンテオケ教会の設立(11:19-30)

3.全世界に出て行って一使徒パウロの宣教の記録(13:1-21:26)

- (1)第1回の伝道旅行(13:1-14:28)
 - a.世界宣教への派遣(13:1-3)
 - b.キプロスの伝道(13:4-12)
 - c.ピシデヤのアンテオケ伝道(13:13-52)
 - d.小アジアの町々で(14:1-28)
- (2)使徒たちの会議(15:1-35)
 - a.使徒たちの会議の起こり(1-5)
 - b.ペテロ、意見を述べる(6-11)
 - c.ヤコブ、両派を調停する(12-21)
 - d.会議の通達(22-35)
- (3)第2回の伝道旅行(15:36-18:22)
 - a.伝道旅行の開始(15:36-16:5)
 - b.ピリピの伝道(16:6-40)
 - c.テサロニケの伝道(17:1-9)
 - d.ベレヤの伝道(17:10-15)
 - e.アテネの伝道(17:16-34)
 - f.コリントの伝道(18:1-22)
- (4)第3回の伝道旅行(18:23-21:26)
 - a.アポロの活動(18:23-28)
 - b.パウロのエペソ伝道(19:1-41)
 - c.ギリシヤと小アジアの旅(20:1-16)
 - d.エペソの長老たちへの「遺言説教」(20:17-38)
 - e.エルサレムへ(21:1-26)

4. そしてローマへ(21:27-28:31)

- (1)パウロの逮捕と弁明(21:27-23:22)
 - a.宮での騒動と逮捕(21:27-36)
 - b.弁明一群衆の前で(21:37-22:21)
 - c.ローマ市民権の主張(22:22-29)
 - d.弁明一議会の前で(22:30-23:11)
 - e.パウロ暗殺の陰謀(23:12-22)
- (2)カイザリヤでの審理(23:23-26:32)
 - a.カイザリヤへの移送(23:23-35)

- b. 弁明—総督ペリクスの前で(24:1-27)
- c. カイザルへの上訴(25:1-27)
- d. 弁明 — アグリッパ王の前で(26:1-32)
- (3) ローマへの旅(27:1-28:16)
- a. カイザリヤからクレテまで(27:1-12)
- b. 暴風の中で(27:13-26)
- c. ついに難破(27:27-44)

- d. マルタ島にて(28:1-10)
- e. ローマに着く(28:11-16)
- (4) ローマで福音は前進する(28:17-31)
- a. ユダヤ人に語る(17-22)
- b. 福音は異邦人に(23-28)
- c. 妨げるものはない(30-31)

使徒の働きの学びの質問

聖霊の約束とキリストの昇天 (1:1~12)

1. 使徒の働きを誰が又誰のために書きましたか。
(1、ルカ 1:1~4)
2. ルカの福音書の内容はイエス様の働きと教えの始まりなら使徒の働きはその続きでしょうか。使徒の働きよりイエス様の働き又は聖霊様の働きとあってもよいでしょうか。(1)
3. イエス様は宣教命令を聖霊によって与えて下さった事は三位一体について何を語るでしょうか。(2)
4. 復活と昇天の間の 40 日間イエス様は何をなさいましたか。(3)
5. イエス様の復活の歴史的な証拠は充分ありますか。(3)
6. イエス様の弟子達に与えられた特別な約束は何でしたか。(4,5)
7. 「聖霊のバプテスマ」は何を指しますか。(5,8,2:1~11)
8. 主はイスラエルの国を再興してくださいますか。(6)
9. 私達が神様のご計画についての知る範囲を誰が決められますか。(7) 神様に任せると事こそ本当の信仰ではありませんか。
10. 聖霊様を頂く事はどのような影響をもたらせますか。(8)
11. 聖霊様が与えて下さる力とはどんな性質のものでしょうか。(8)
12. イエス様の証しの範囲はどのぐらいですか。(8)
13. イエス様が昇天なさると直ぐ何が起こりましたか。(9,10)
14. 一人が見えなくなると二人が現れたのは天の御国と地上の教会の互いの距離について何を物語るでしょうか。
15. イエス様はどんな様子で再臨なさるでしょう。(11)

未だ聖霊を受けてない 10 日間 (1:13~26)

1. イエス様の昇天と聖霊様が与えられる 10 日間弟子達などは何をしましたか。(13~14)

2. イエス様の復活と 3 年半の弟子訓練は彼らにどんなよい影響を残したでしょうか:
イ) イエス様に対する信頼において(6)
ロ) 互いの信頼に(14)
ハ) 聖書信仰において(16, 20)
3. しかし聖霊様が未だ来られていなかったから彼らにどんな欠けているところがありましたか。
イ 理解力において(7) ロ 力において(8)
ハ 決定能力において(20~26)
(使徒に選ばれる資格は果たして彼らが考えたほど厳しかったでしょうか。1 コリ 15:8~9 参照、彼らの基準ではパウロは使徒になれなかったはず。それに、イエス様が使徒を任命したにも係わらず彼らがグループでそうする資格があったでしょうか。)
4. 教会の中に人を何かの務めに任命するやり方はペンテコステの前と後どう違いましたか。(23~26; 6:3~6; 13:1~3)
5. ペテロが弟子達の置かれた環境と通ってきた出来事を聖書の光で解釈して、聖書から具体的な事柄に対する対策を求める姿勢から私達は何を学ぶべきでしょうか。(16~20)
6. 現在の日本の諸問題(教育、犯罪など)に対して聖書からどんな知恵を見出すことができるでしょうか。
7. 又日本の教会が置かれている使命についてどのような具体的な導きを見出すことができるでしょうか。

聖霊降臨 (2:1~21)

1. ペンテコステは何時、どこで、誰に起こりましたか。(1)
2. 聖霊様が下られた時の三つのしるしはその性質と働きについて何を語るでしょうか。
3. イ 風のような音(2)
4. ロ 炎のような火(3、出エジプト 3:1-7 参照)
5. ハ 他国の言葉での話(4、)
6. 創世記 11:1-9 参照)

7. 聖霊様が与えられて、聖霊に満たされるしるしは何でしょうか。(11)
8. しるしの影響で何が起こりましたか。(6)
9. 集まった人々の反応はどんなものでしたか。(6-8)
10. 聖霊様の働きは人間の理性を超えるから、無理な説明をつけようとする姿勢はどんな心から出ますか。(12,13)
11. 分からないと分かる時は純粋に分かるチャンスですから、ペテロは偏見を先ずどのように扱いましたか。(14、15)
12. ペテロの説教の外面的なやり方はどんなものでしたか。(14、16)
13. 聖霊降臨は終わりの日の始まりですが、聖霊が注がれる時代の最後は何時ですか。(19、20)
14. 聖霊様は誰に与えられますか。
15. (17,38-39)
16. 聖霊の時代の特徴を挙げて下さい。
イ(17) ロ(18)
17. 今聖霊様のもっとも大切な働きは何で
18. しょうか。(21)

ペテロのペンテコステメッセージ (2:22~36)

1. 聖霊様が注がれた理由はイエス様の十字架と復活の出来事にあります。ですからペテロの説教の中心は聖霊様からイエス・キリストに移ります。イエス様はどんな方ですか。イ (22) ロ (36)
2. イエス様のみ業の意味は何でしたか。そのみ業をなさったのは誰ですか。(22)
3. イエス様のみ業はどこで行われましたか(22)今日はイエス様のみ業を見る事ができますか。出来るなら、どこで。
4. イエス様の十字架の死の二つの原因を挙げて下さい。(23,36) 神様の救いの計画は私たちの責任を小さくしますか。
5. イエス様を復活させたのは誰ですか。(24,32)
6. イエス様の復活は確かなものですか。(24,32)
7. ペテロは復活の歴史的な証拠を並べる必要を感じませんでした。なぜでしょうか。(14、16)その代りに復活の倫理的な証拠を聖書から語りました。
8. 死の支配は何によりまし。イエス様の死に対する勝利はどこで行われましたか。(24、25-28)
9. 旧約聖書の中の復活信仰はどう現れましたか。(30,31)
10. 聖霊様が与えられたのはなぜですか。(33)

11. 聖霊様の働きは聞いて見る事の出来る性質をもっています。(33)あなたは聖霊の働きをどのようなところや時に見てきましたか。
12. イエス様は今何をなさっておられますか。(34,35)
13. イエス様はあなたにとって誰ですか。(36)

ペテロのペンテコステメッセージ (2:37~47)

1. 聖霊様の力で述べ伝えられた初めてのメッセージの第一影響は何でしたか。(37)
2. 聖霊様を頂く条件は何でしょうか。(37)
3. 悔い改めは何を意味しますか。(38) 一旦悔い改めたら、後で悔い改めを繰り返す必要がありますか。
4. 洗礼で何が行われますか。(38)
5. イエス・キリストの名によるバプテスマの本質は何でしょうか。(38)
6. 神様の贈物は何ですか。(38)悔い改めとバプテスマは救いの条件であっても救いの理由ではありません。あなたは聖霊様を頂いていますか。
7. 神様の招きの広さと長さがどれほどでしょうか。(39) あなたは神様の招きを何時初めて聞きましたか。
8. 救いにおける私たちの責任はどこですか。(40)
9. 洗礼を受ける条件は何でしょうか。(41)
10. その日に 3000 人はキリストの体に加わりました。どうして洗礼準備教育がこんなに短かったでしょうか。(41)
11. 聖霊様が与えられたのはなぜですか。(41)
12. ペテロの説教には長期的な影響もありました。教会が生まれましたが、その四つの特徴を挙げて下さい。(42)
13. キリスト者の交わりはどのように現れましたか。(44、45、46,47)
14. 教会の評判の良さ何によりましたか。(43,47)
15. 奇跡としるしは誰によって行われましたか。(43)
16. 今日の教会の一番の必要は何でしょうか。

美しい門の癒し (3:1~26)

1. ペテロとヨハネのような違う性格の人を一組の働きペアにしたのは何でしょうか。(1)
2. 祈りの時間に神殿に行くことはどう言う意味を持つでしょうか。(1)
3. ペテロとヨハネが会ったこの男の人のからだは、どんな状態でしたか。(2)この人は何を求めましたか。(3)

4. ペテロがこの人に語りかけた後どんなことが起こりましたか。(7,8)このできごとは私たちに神の力について何を教えてください。
5. この人はなぜ最初に、いやされることを求めなかったのでしょうか(3)。このできごとから、私たち自身の祈りに適用できることが何か学び取れますか。
6. ペテロが「私にはない」と言ったものは何ですか。(6) 彼が「私にあるもの」と言ったものは何ですか。(6) あなたは困っている人に与えることのできるものを何か持っていると思いますか。それは何ですか。
7. 奇跡を見た人々の驚きが二つの理由で間違っていました。その理由を挙げて下さい。(12)
8. 「アブラハム、イサク、ヤコブの神」という表現は何を意味しますか。(13)
9. 14,15 節でペテロはイエス・キリストを何と呼んでいますか。
10. この人がいやされたのは、どうしてですか。(16)
11. あなたには、イエスを信じることによって解決すると思える問題がありますか。
12. 17,18 節と 2 章 23 節を対照させてください。キリストの死の原因が三つあげられています。それは何ですか (イ)2 章 23 節 (ロ)2 章 23 節 (ハ)3 章 17 節
13. 19 節でペテロは聴衆に (イ)神に何をしていたくために、(ロ)何をするようにと命じましたか。
14. 本の回復はいつ起こりますか。その回復はどういう意味ののでしょうか。(20,26)
15. イエスは今どこにいらっしゃいますか(21)。
16. 神様のみ言葉に私たちはどんな姿勢を持つべきでしょうか。(23)
17. 旧約聖書のアブラハムの子孫に対する祝福はどのように実現しましたか。(25)
18. 26 節はペテロの説教の結論です。この聖句にはキリスト教における重要な教えがあります。それは何ですか。

誰に従うべきか (4:1~31)

1. 多くの人々がペテロの説教を喜んで聞いていました。しかし祭司長たちやサドカイ人たちは快く思いませんでした。なぜでしょう(2, 5:28 参照)。(サドカイ人とは復活など是有りえないと考え、特にイエスの復活を信じないユグヤ教の宗派です。)

2. ペテロとヨハネはどうなりましたか。(3) 彼らの説教を聞いた人々の中にどんなことが起こりましたか。(4)
3. 指導者たちがペテロとヨハネを取り調べるにあたって困難を感じたのはなぜでしたか。(7, 9, 14, 16)。
4. ペテロとヨハネは指導的な宗教家たちの敵意に直面してどんな態度をとりましたか(8~13)。
5. 13 節にはペテロとヨハネについてどんなことが書かれていますか。三つあげなさい。これは今日の私たちの生き方について、何を教えてください。
6. ペテロは 12 節で、イエスはどのようなお方であると言っていますか。
7. イエス様を信じ受け入れるほかに救いのチャンスがありますか。(12)
8. 19, 20 節でペテロとヨハネが言ったことは正しいと思いますか。(5:27~32 参照)。
9. 困難な時にあなたは誰に従いますか。(19)
10. ペテロとヨハネに対して指導者たちのしたことは、何ですか。(4:21 と 5:40)
11. 指導者たちから宣教を禁じられた後ペテロとヨハネが行なった四つのことは何ですか。(イ)4 章 23 節 (ロ)4 章 24 節 (ハ)5 章 41 節 (ニ)5 章 42 節
12. 彼らの祈りは主を描く賛美から始まりました。彼らは主について何を語りましたか。(24, 25)
13. 彼らは祈りの中に聖書のみ言葉を引用してそのときの事情に当てはめることから私たちは祈り方について何を学ぶことが出来ますか。(25-28)
14. 弟子たちがいっしょに祈ったとき、主に願い求めた三つのことは何ですか(4:29, 30)。(二)彼らの祈りの中に、迫害から守ってくださいという願いが見られますか。
15. 主の答えは何でしたか。(31)
16. きょうの箇所であなたにとって助けとなることは何ですか。

教会の交わりと清さ (4:32~5:16)

1. 初代教会の交わり(koinonia)はどんなものでしたか。(4:32)
2. 財産の共有は何によりましたか。(32)
3. 教会の霊的な一致はどんな恵みをもたらしましたか。(33)

4. 初代教会の福祉は初めにどのような方法で行われましたか。(34, 35)その原動力はどこにありましたか。(5:4 参照)
5. バルナバの行為はどんな心から行われたのでしょうか。(4:36-37)
6. 教会の中の会計のやり方はどうあるべきでしょうか。(36, 37)
7. アナニヤとサツピラの罪は何でしたか。(5:1-3)その動機は何でしたか。
8. 偽善は何故あれほどの厳しい裁きをもたらせましたか。(5, 9, 10)その裁きを誰が下しましたか。(5)
9. その結果は何でしたか。(11, 12, 14, 16)
10. 教会の清さを今日どのように守るべきでしょうか。
11. リバイバルの幾つかの条件を挙げましょう。(12, 13, 16)

人よりも神様に従う (5:17~42)

1. 司長のねたみはどこから来て、どんな結果をもたらしましたか。(17, 18)あなたはねたみで燃えた経験がありますか。ねたみに打ち勝つ道は何でしょうか。
2. 主の使いは何をして、又何をするように弟子たちに命じましたか。(19, 20) あなたは神様に開放されて、使命を受けていますか。
3. 神殿での福音伝道は危なかったのにも関わらず、何故弟子たちは又そこに行って教え始めたのでしょうか。(21)
4. 弟子たちが刑務所から釈放された奇跡は誰のためのしるしだったのでしょうか。(24, 27)
5. 初代教会の伝道の規模はどのぐらいでしたか。又その中心は反対者たちの目から見るとどこでしたか。(28)
6. 神様の御心と周りの人々の意見が矛盾するとあなたは何を選びますか。(29)
7. 福音の中心は何ですか。(30, 31)
8. 聖霊様はどんな人に与えられますか。(32)
9. 悔い改めない人はイエス様とその弟子たちに何をしたいのですか。(33)
10. ガマリエルのアドバイスはどんな内容でしたか。(38, 39) それはよい助言でしたか。
11. 弟子たちは何を喜んだのでしょうか。(41)
12. 反対の中に弟子たちは何をしましたか。(42)

再組織化 (6:1~7)

1. 代教会は初めから色々な人を含めましたが、どんなグループがありましたか。(1)

2. 言語の違いによってどんな問題が起きましたか。(1)
3. 弱い人を助ける福祉はどこから生まれたのでしょうか。
4. 対立のもう一つの原因は何処でしたか。(2)
5. 説教の賜物で福祉を十分実施できますか。(2, 3)
6. 執事に選ばれる人々の三つの資格を挙げて下さい。(3)
7. 使徒と牧会者の一番大切な使命は何ですか。(4)何故でしょうか。
8. 執事の選び方と任命はどのように行われましたか。(3, 5, 6)
9. 教会運営はどのように行われるべきでしょうか。(5)
10. 按手の祈りはどういう意味がありますか。(6)
11. 責任分担によって伝道はどうなりましたか。(7)
12. 選ばれた執事は名前から見たら皆ギリシャ語の出来る人々でした。(5)と言うのは不満を経験した人々の代表者でもありました。これは教会の中の不満を扱う事について何を語るのでしょうか。
13. 祭司の中から信仰に入った人々が出たのは特に記録されたのは何故でしょうか。(7) 宗教的に偏った人をどう伝道したらよいのでしょうか。

ステパの殉教 (6:8~7:2, 7:51~8:1)

1. 執事のステパノはどんな人でしたか。(6:8, 10)
2. ステパノと言う名前の意味は何でしょうか。ステパノの冠りは何処にありましたか。(7:55)
3. 感情的な対立に直面する時に私たちは何をすべきでしょうか。(6:9, 10)
4. ステパノの受けた攻撃はイエス様のものとどのように似ていましたか。(13, 14, マタイ 26:59~62 参照)
5. ステパノの姿はどうでしたか。(6:15)又なぜそうだったのでしょうか。(7:55, 56)
6. それに反して、ステパノの反対者の姿はどうでしたか。(7:54, 57)
7. 彼らの姿勢はステパノのメッセージのどの内容に対する反応だったのでしょうか。(7:51~53)
8. 律法にはどう言う役割がありますか。(7:53)
9. イエス様は何故立っておられましたか。(7:55)
10. 大きな試練にぶつかるクリスチャンはどうして耐えることができますか。(7:55, 56)
11. ステパノはどんな姿勢で死に向かいましたか。(7:59)
12. パウロはステパノの死に対してどのぐらいの責任がありましたか。(7:58)

13. ステパノの最後の祈りは何でしたか。(7:60) イエスはそれにどんな答えを与えてくださいましたか。(8:1; 9:4,5)
14. クリスマンの殉教者は去年どのぐらいありましたか。
15. 迫害にどのように備えることが出来るでしょうか。(ヨハネ 17:14~17)

ステパノのメッセージ (7:2~53)

1. 神様はアブラハムに何を語られたでしょうか。(3)それは何故だったでしょうか。
2. アブラハムとの約束と契約はどんなものでしたか。(7, 8)
3. アブラハムはどうして信仰の父と呼ばれるでしょうか。(5,6、ヘブライ 11:8~20)
4. 割礼の意味は何でしょうか。(8、ローマ 4:3~12)
5. ヨセフはなぜ苦しい道を通らなければならなかったでしょうか。(9~12)
6. ヨセフはなぜ自分を表したのは二回目の時でしたか。(13)
7. 神様の時(計画の時期)が近づくと何が起こりましたか。(17) それは私たちにどんな慰めになりますか。
8. モーセが自分の力で神様の働きをしようとした時にどうなりましたか。(24~29)
9. モーセの使命はどこから始まりましたか。(30)
10. 神様はモーセに何を語られましたか。(32~34) 使命を全うするための条件は何ですか。
11. 人々に否定されても神様に認められる事は経験した事がありますか。(35)
12. モーセとキリスト様の共通点はどこにあるでしょうか。(36,37,38)
13. 一番恐ろしい罪は何でしょうか。(40~43)
14. 天幕と神殿の役割はなんでしたか。(44~50)
15. イスラエルは一貫して神様に対してどんな態度を示しましたか。(51、53)
16. あなたは聖霊様に逆らった事がありましたか。(51)どのようにして。

サマリヤのリバイバル (8:1~25)

1. ステパノの殉教から始まった迫害の指導者はサウロ(パウロ)でした。何故でしょうか。(1,3)
2. 迫害の時にキリスト者たちは何をしましたか。使徒たちは何をしましたか。(1)使徒たちがなぜエルサレムに留まったでしょうか。(14,25)
3. 迫害の結果は何でしたか。(4)それで迫害は悪い事でしたか、それともよい事でしたか。

4. サマリヤの人々はなぜピリポのメッセージを喜んで受け入れましたか。(5, 6, 7 ヨハネの福音書 4:39~42 参照)
5. 魔術を神様の名前でやってもその源はどこでしょうか。(9,10;使徒の働き 13:8,10 参照)
6. ピリポのメッセージを聞いて受け入れた人々は洗礼を受けましたが、彼らは何に欠けていましたか。(14~16)
7. 洗礼を受けていても聖霊による信仰がなければ人の状態はどうでしょうか。(20~23)
8. 洗礼を受けていても信仰がない人は何をすべきでしょうか。(22)
9. シモンの罪は何でしたか。(20)私たちはお金で(献金も含めて)霊的な祝福を得る事が出来ますか。
10. サマリヤのリバイバルにおいて使徒たちの使命は何でしたか。(14,17)
11. 聖霊様を頂くために手を人の頭の上に置いて祈る事とこの意味はどこだったでしょうか。(17、使徒の働き 10:44, 45 参照)
12. 伝道はいつ又どこですべきでしょうか。(25)

ピリポとエチオピアの宦官 (8: 26~39)

1. ピリポが会ったこの人物について 27 節からどんなことを知ることができますか。四つあげてください。
2. なぜこの宦官はエルサレムにやってきたのですか。(口)ピリポが彼に会ったとき彼は何をしていましたか。(ハ)(イ)と(ロ)の答えは彼について何を物語っていますか。(イ)27 節 (ハ)(ロ)28 節
3. 31 節からこの人についてさらに二つのことがわかります。どのようなことですか。
4. 32, 33 節に引用されたイザヤ書 53 章を開いてください。使徒の働き 8 章 32, 33 節はイザヤ書 53 章の何節から引用されたものですか。イザヤ書のこの章句はだれに関して言われていますか(イザヤ書 52 章 13 節参照)。ピリポはこのかたをどなただと言っていますか(使徒の働き 8 章 35 節)。
5. このエチオピア人がほんとうにイエスを信じたという証拠はどこにありますか。36, 39 節から教えてください。
6. 37 節で(脚注として書かれている場合もある)(イ)ピリポはどのような条件を示しましたか。(ロ)それに対してエチオピア人はどんな返事をしましたか。

7. あなたはこのエチオピア人のようにバプテスマを受ける用意ができていますか。
8. ピリポがそこにいて指導してくれなかったとしたら、この宦官は信じることはできなかったでしょう。ピリポはどのようにしてしだいに導かれていったのですか。(イ) 26、27 節 (ロ) 29、30 節 (ハ) 34、35 節

パウロの改心 (9: 1～19)

1. サウロ(パウロ)はどう言う目的でダマスコに行く途中でしたか。(1,2; 26:11 参照) その時に何が起こりましたか。(3) イエス様が私たちに近づくのは私たちの都合のよい時に限りますか。(26:14 参照)
2. パウロは教会よりも復活のイエス様を迫害したのは教会とキリストの関係について何を語りますか。(4,5)
3. イエス様のパウロに対するメッセージは何でしたか。(6)それから人の救いにおける教会の役割について何が分かりますか。
4. 復活のイエス様に会われた結果パウロはどうなりましたか。(8,9,11)
5. アナニヤは主が語られた呼び声にどう言う姿勢で答えましたか。(10)
6. アナニヤに与えられた使命は何でしたか。(11,12) イエス様の説明はどのぐらい詳しくったのですか。
7. お祈りの中にイエス様に自分が持っている疑問や不安をありのままに語ることが許されているでしょうか。(13,14)なぜでしょうか。
8. パウロの使命はどんなものになりましたか。(15; 26:16-18 参照) あなたの使命は何でしょうか。
9. パウロが何故イエス様の御名のために多くの苦しみを受けなければならなかったでしょうか。(16,ピリピ 3:8-10、2 コリ 12:9-10 参照)
10. アナニヤはパウロをどのように呼びましたか。(17)
11. アナニヤを通してのイエス様のメッセージは何でしたか。(17)
12. アナニヤの祈りの結果何が起こりましたか。(17,18)
13. 洗礼の意味は何ですか。(18; 22:14-16 参照)
14. 救われるとすぐパウロは何をしましたか。(19)

パウロの成長とペテロの牧会 (9: 20～43)

1. 救われて間もなくサウロ(パウロ)は何を述べ伝え始めたのでしょうか。(20,22) その結果はどう言う反応が生まれましたか。(22,23)
2. 「イエス様はキリストである」と言う主張はどう言う意味でしょうか。(22)
3. 神様がパウロを守られた方法は何でしたか。(24,25) 神様のやりかたについてこのことから何が学べますか。
4. クリスマン同士の間どんな問題が起こって、又そこにどんな解決が与えられましたか。(26,27)
5. 何故パウロが生まれ故郷のタルソに行かなければならなかったでしょう。(28～30)
6. 31 節を見ると教会はどんなものでしょうか。
7. ペテロは巡回牧会の家庭で何が起こりましたか。(32～35) 癒しはどんな影響を及ぼしましたか。(35) それは何故でしょうか。(34)
8. タビタはどんな賜物をもって、又それをどのように使いましたか。(36,39)
9. 主を信じて救われたクリスマンが天に召された時に悲しみは正しい姿勢でしょうか。(39)
10. ペテロはどのように振るいましたか。(40) その結果何が起こりましたか。(40,41,42)
11. ピリポ、ペテロとドルカスのそれぞれの賜物は何でしたか、またそれらはこのように協力し合って、補い合ったでしょうか。(32,34,39,40)

コルネリオとペテロ I (10: 1～23)

1. コルネリオと言う人について 1 と 2 節から何を知る事が出来ますか。
2. 御使いの役割はどんなものでしょうか。コルネリオやクリスマス物語やイエス様の復活などを考え合わせてみて下さい。(3)
3. 御使いがコルネリオに言った二つの事は何でしょうか。(4～6)未だ救われていない人の祈りと愛の行為はどう言う価値がありますか。
4. ペテロがシモンの所に泊まっていたことからペテロについて何が分かりますか。(5～6) あなたは差別的な態度から解放される道はどこにあると思いますか。
5. コルネリオの部下の中に敬虔な人がいた事はコルネリオ自身の敬虔さについて何を語りますか。(7)
6. 9 と 10 節はペテロの祈りの生活について何を語りますか。
7. ペテロの見た幻の中でどんなことが起こりましたか。(10～16) その意味は何だったでしょうか。

8. 幻が三回繰り返された事で何が分かりますか。(16)
9. 神様が私たちに語って下さる事にはときどき分からない面がありますが、その時に何をしたらいいのでしょうか。(17, 19)
10. コルネリオの送った部下は実際誰に遣わされて来ましたか。(20)
11. ペテロがためらう理由は何だったのでしょうか。(20)
12. コレネリオが何故ペテロを招いたのでしょうか。(22)
13. ヨッパの兄弟たちを連れていく事はどうして大切だったのでしょうか。(23)

コルネリオとペテロ II (10: 24~48)

1. コルネリオの家庭集会にどんな人が集まりましたか。(24) 家庭集会の今日的な役割は何でしょうか。(33)
2. コルネリオの挨拶のやり方とペテロの返事から何が学べますか。(25,26)
3. ペテロは自分の偏見とそれが崩れた事を話す意味は何でしたか。(28,29, 34, 35)
4. ペテロのメッセージ(福音メッセージ)の七つのポイントをあげて下さい。
a)(36)、 b)(38)、 c)(39)、 e)(40)、
f)(41)、 g)(42)、 h)(43)
5. 私たちは救いに必要な全部の福音を語らなければなりません、一番語り難い部分が何でしょうか。(42)
6. ペテロの述べ伝えた福音は救いに十分な事を神様はどのように証明して下さいましたか。(44, 46)
7. ユダヤ人のキリスト者たちは何に驚いたのですか。(45)
8. ペテロはコルネリオとその友人たちに、何をするようにと言いましたか。(48) その理由について何を言っていますか。(47)
9. 人々が救われるために福音を述べ伝えるキリストチャンが神様に導かれる必要をコルネリオの改心はどのように示していますか。

ペテロの説明とアンテオケ教会の誕生 (11: 1~30)

1. イエス様を信じて聖霊様と洗礼を頂く事は 1 節で簡単にどう表現されていますか。14 節もみて下さい。

2. 偏見から解放されたペテロは他のクリスチャンの偏見にぶつかった時何をしましたか。(4) ペテロの答えから何を学ぶ事が出来ますか。
3. 聖霊様が与えられた事についてどんな表現が使われますか。(10:44; 11:15,16, 17)
4. 一人ではなく他の人の兄弟を連れて行った意味は何処にありましたか。(12)
5. ペテロの説明の結果は何でしたか。(18)
6. 悔い改めは命への門ですが、悔い改めは何ですか。(18)
7. 迫害はどうして益になりました。(19) 神様はあなたの人生の不利な環境の中にも働く事が出来ますか。
8. 伝道するクリスチャンの偏見はその伝道にどう言う影響を及ぼしますか。(19)
9. 偏見を超えて福音をギリシャ人にも伝えた人々の働きの結果はどんなものでしたか。(20,21)
10. バルナバはどんな人でしたか。(24; 4:36, 37 参照に)
11. アンテオケにはバルナバの役割は何でしたか。(23, 24, 30; 13:1)
12. 主にとどまる事は何を意味するのでしょうか。(23)
13. 教会が成長するとバルナバの手が足らなくなつて、彼は何をしましたか。(25, 26)
14. 協力伝道の力と弱さは何処にあるのでしょうか。(26, 15:36~39)
15. 預言の賜物と教会福祉の具体的な働きはどんな関係にありますか。(27~30)

ヤコブの殉教とペテロの釈放 (12: 1~25)

1. 使徒ヤコブは死刑になりましたが、ペテロは奇跡的に釈放された事を通してどのような神様の働きを学ぶことが出来ますか。(2, 11)
2. ペテロも死刑になりそうな時に教会は何をしていましたか。(5)
3. 彼らの信仰がどのぐらいのものでしたか。(15) それにしても神様は彼らのお祈りに答えてくださったことから、祈りについて何がわかりますか。
4. み使いたちの存在と役割についてこの箇所から何が分かりますか。(7~10, 15, 23)
5. 情報伝達の大切さについて 17 節から何が分かりますか。
6. ペテロが奇跡的に釈放されたにもかかわらず彼は自分の身をヘロデ王から隠したこと超自然的な事と普通の事との関係について何が分かりますか。

7. ヘロデ王はエドム人でありながら、イスラエルの最後の王様でした。自分自身を神様のよう考える結果はどうでしたか。(22、23)
8. 私たちを誰または何が支配しますか。
9. 迫害があってもキリストの教会はどうになりましたか。(24)
10. バルナバとサウロ(パウロ)はエルサレムからの土産として誰をアンテオケに連れて来ましたか。(25)このマルコは誰でしょうか。
11. 新しい働き人を常に見出して訓練するのはパウロ達の戦略でしたが、私たちはそれから何を学ぶことができますか。

バルナバとパウロの海外伝道派遣 (13: 1～13)

1. アンテオケ教会の指導者にどんな賜物がありましたか。(1)
2. 聖霊様はどんな場面で語って下さいましたか。(2) 聖霊様があなたにどんな時に、又何を語って来られたか、証してみして下さい。
3. 伝道に対する聖別と招きと任命はそれぞれどう言う意味をするでしょうか。(2、3)
4. バルナバとサウロ(パウロ)を誰が送り出して、遣わしたでしょうか。3 節と 4 節を比べてみて下さい。
5. 遣わされている事は何を意味としていますか。(4)
6. パウロ達のチームは何人でしたか、又どんな構成でしたか。(4、5)
7. パウロたちの伝道方法はどんなものでしたか。(5、6、7)
8. 福音伝道に対する新しい反対はどこから来ましたか。(6、8、10)シャマニズムは現代日本ではどのように現れていますか。
9. 暗闇の力に対して聖霊様はパウロを通してどう働きましたか。(10、11)
10. 主の裁きにどのような優しさが見えましたか。(11、9 章のパウロの改心に比べて見て下さい。)
11. 11. 主の御業によって何が起こりましたか。(12) 主の御業は現代どのように現れていますか。
12. 12. ヨハネ(マルコ)はどんな行為をとったか。その理由はどこにあったでしょうか。(13; 15: 37～39 参照) 海外伝道についてこの出来事から何が分かりますか。

バルナバとパウロの海外伝道派遣 (13: 14～52)

1. ピシデヤのアンテオケの会堂でパウロはどんな人々に話しましたか。(16) どう言うところから話し出しましたか。(17)
2. イスラエルの選びはどんな目的でしたか。(17 と 23 と 26 と 32 と 46)
3. イエス様とダビデの関係はどんなものでしょうか。(22、23)
4. バプテスマのヨハネの使命はなんでしたか。(24)
5. 福音の中心は何でしょうか。(27～31、32)
6. イエス様の復活の意味は何でしょうか。(33～37)
7. 福音からの結論は何ですか。(38)
8. 信仰とは何でしょうか。それによる解放は何を意味するでしょうか。(39)
9. 福音を聞く人の責任はどんなものですか。不信仰の本質は何でしょうか。(40、41、46)
10. 神様の恵みにとどまる事はどのように出来ますか。(43)
11. 福音伝道はどんな影響を施しましたか。(43、44、45、50)
12. 福音は誰のために用意されていますか。(47)
13. 永遠にいのちに定められるのはどう言う意味でしょうか。(48)
14. 福音の進む道はどのようでしたか。(14、49、51)
15. 救いはどのように現れますか。(52)

ガラテヤ地方の伝道 (14: 1～28)

1. 福音はイコニオムの人々を二つの対立する派に分けたのですが、どうしてでしょうか。(1、2、4)
2. 対立の中にパウロたちはどう振舞いましたか。(3、5～6)
3. ルステラの足のきかない人には何がありましたか。(9) 癒される信仰とはどんなものでしょうか。
4. 男の癒しはどう起こりましたか。(10)
5. 癒しはどんな反応を呼びましたか。(11～13) なぜだったでしょうか。あなたの世界観はどんなものでしょうか。
6. パウロは人々の間違いをどうなおそうとしましたか。(15～18)
7. 神様についてリストラの人々はどのぐらい知る事が出来ましたか。(17)
8. 拝もうとする姿勢は殺意に変わったのはなぜでしょうか。(19)
9. 石で打たれたパウロはどうしましたか。(19、20)

10. 殺される恐れがあったにもかかわらず、パウロはなぜリストラとイコニオムに戻りましたか。(21、22、23)
11. 22 節の励ましの意味は何でしょうか。
12. 伝道旅行は計画通りに進みましたか。(26) 誰の計画だったのでしょうか。
13. アンテオケに帰ると彼らは何をしましたか。(27)

エルサレム会議 (15: 1～35)

1. アンテオケ教会でどんな問題が起こりましたか。(1、5、24) この問題は現代にどのように現れてきますか。
2. クリスマンたちは対立や論争を避けるべきでしょうか。避けて通れない時はいつでしょうか。(2、7)
3. 問題解決はどこで行われましたか。なぜでしょうか。(2)
4. 救いはどのように行われますか、又その唯一の条件は何でしょうか。(7、8、11)
5. 律法を守ろうとすることはどうして耐えられない重荷でしょうか。(10)
6. すべての教理的な対立の解決の出発点は原点に戻ることです。その原点は何でしょうか。(11)
7. 問題を扱う時に体験と聖書の御言葉は互いにどんな関係にさせるべきでしょうか。(4、7～8、12、14～18)
8. 19～20、29 節の結論の理由はどこにありましたか。(21)
9. パウロとバルナバの働きはどう評価されましたか。(25、26)
10. 問題解決はどう言う影響がありましたか。(31)
11. 異端の本質は何でしょうか。異端にどのように対応すべきでしょうか。

主の導きの内に (15: 36～16:15)

1. 第二次伝道旅行へ出かける動機は何でしたか。(36) 開拓伝道と牧会伝道はどんな関係にあるでしょうか。(4～5)
2. 神様はパウロとバルナバの対立をどのように用いたでしょうか。(39) 対立の結果人々が別れるのはキリスト者として認めるべきでしょうか。(2 テモテ 4:11 参照に)
3. パウロとバルナバの対立においてどちらが正しかったでしょうか。(38)
4. テモテはどんな人でしたか。(1～2、2 テモテ 1:3～7 参照に) パウロとテモテの関係はどんなものでしたか。(1 テモテ 1:2～3 参照に)

5. 神様の否定的な導きはどうか行われますか。(6～8) 自分の体験からの実例を挙げて下さい。
6. 神様の肯定的な導きはどんなものでしょうか。(9～10) 自分の体験からの実例を挙げて下さい。
7. 神様に導かれると物事がスムーズに運ばれるでしょうか。(16:22～23)
8. フィリッピと言う町はどんな所でしたか。(12) ここでの伝道の成果はどのぐらいでしたか。(14、40)
9. ルデヤの救いはどうか行われましたか。(14、15) 救いの実は何でしたか。(15)

試練の中の賛美 (16:16～40)

1. 16～18 節には、若い女奴隷がパウロの後について来て叫び続けたと書かれています。女奴隷は何と言っていましたか。彼女が言ったことは正しかったのですか。
2. パウロはなぜ占いの霊を追い出したのですか。
3. 占いと聖書的な預言はどう違いますか。(イ)その起源において (ロ)その目的において
4. 占いや超自然的な癒しにどのように対応すべきですか。
5. パウロとシラスが人々から受けた三つのうちはどういうものでしたか。(19～24)
6. パウロとシラスの賛美はどうして可能でしたか。(25)
7. 地震ですべての囚人の鎖が解けて、ドアが開けても他の囚人はどうして逃げて行かなかったでしょうか。(28、25)
8. 新約聖書の時代の看守は、もし囚人に逃亡されたら彼自身が代わりに殺されるということを覚悟の上で、囚人たちを監視しなければなりません。看守をするような男たちは一般的にたいへん荒々しく宗教や信仰には無関心でした。この看守は重要な質問をしました。どういう質問でしたか。(30)
9. 彼にそのような質問をするに至らせたと思われる三つのことは何ですか。(28、25、26)
10. パウロはどんな答えをしましたか。(31)
11. 看守とその家族がどのように救われましたか。(32、33)
12. ルデヤの信仰と看守の信仰がともに本物であるという証拠は何ですか。(15、33、34)
13. パウロはどうして長官の不正に抗議したでしょうか。(37) 社会の中に正しい扱いを要求するのはキリスト者にとってふさわしい行為でしょうか。

御言葉を通してイエス様を学ぶ (17:1~15)

1. テサロニケの会堂でパウロはどのように福音を語りましたか。(2)
2. 旧約聖書でイエス様の事がどのように預言されていますか。
3. クリスマス (イザヤ 9:1~7)
4. 生涯 (イザヤ 61:1~3)
5. 十字架と復活 (イザヤ 53)
6. 本質 (ヘブル 1:1~14)
7. パウロのメッセージの中心はどこにありましたか。(3)
8. イエス様の十字架の死と復活はあなたにとってどんな意味がありますか。
9. 多くの人が救われましたが、パウロは彼らの改心の様子をどのように描きましたか。(4~5、I テサロニケ 1:4~10 参照)
10. テサロニケのクリスチャンたちの信仰の特徴はどんなものでしたか。(I テサロニケ 1:10 と 4:13~18)
11. テサロニケとベレヤのユダヤ人の違いはどこにありましたか。(11, 13)
12. パウロは逃げなければならなかったのにどうしてシラスとテモテは逃げなかったでしょうか。(14, 15)
13. パウロにとって働くチームがどれほど大切でしたか。(15)

アテネでのパウロのメッセージ (17:16~34)

1. 美術や建物の美しさで有名なアテネはパウロにどう言う印象を与えましたか。(16) その結果パウロは何をしましたか。(17, 18) あなたは偶像を見てどう反応しますか。
2. エピクロス派とストア派の哲学者たちはどんな考え方を持っていたでしょうか。(18)
3. アテネの社会風土は現在の日本とどう言う点で似ているでしょうか。(19, 21, 22, 23)
4. 宗教に対して、アテネの人々はどのような態度をとっていましたか。(22)
5. アテネの祭壇の一つに、何が刻まれていましたか。(23)
6. 真の神様は、人間の手による宮にお住みになりますか。(24) なぜ、神様にはそれができないのですか。(24)
7. なぜ、偶像を作ったり、崇拝したりするのは、真の神に近づくための手段として適当ではないのでしょうか。(29) (ハバクク 2:18, 19 参照)

8. 神様が人間のためになされたことを、二つあげなさい。(25, 26)
9. 神様は、どのようなことを人間にしてほしいと思っておられますか。二つあげなさい。(27, 30)
10. 私たちが神を求めるならば、神様は見つかるでしょうか。(27)
11. 神は、将来この世界に、何をなさろうとしているのですか。(31)
12. 誰によって、神様はこの世界をおさばきになるのですか。(31)
13. 神様は、この教えが真実であることを示すどのような歴史的証拠をあげておられますか。(31)

コリントの伝道 (18:1~22)

1. コリントと言う町はどんな所だったでしょうか。(1)
2. パウロは生活のために何をしましたか。(3、1 コリ 9:1~18 参照に)
3. パウロの伝道の目的は何でしたか。(4, 5)
4. 福音を拒否した人に対してパウロはどんな態度を示しましたか。(6、ローマ 9:1~3 参照に)
5. パウロは鉄人でしたか。(9、2 コリ 1:3~7 参照に)
6. 主はパウロにどのような励ましを与えて下さいましたか。(9, 10) その結果は何でしたか。(11) 主は私達が住んでいる諸町をどう見ておられるでしょうか。
7. ガリオはどんな人物だったでしょうか。彼のやりからをどう評価すべきでしょうか。(12~17)
8. パウロとアクラとブリスキラとの関係はどんなものでしたか。この夫婦の特徴はどんなものでしたか。(2, 18, 26)
9. パウロはどんな約束をしたでしょうか。その印は何でしたか。(18, 22; 21:23~26 参照に)
10. パウロは伝道計画をどのようにしましたか。(21) 私たちは計画をどのように立てるべきでしょうか。パウロの計画は実現しましたか。(19:1)
11. コリントの教会はその後はどうなりましたか。(1 コリと 2 コリを参照に)
12. コリントの教会は特にどのような問題にぶつかったでしょうか。

エペソのリバイバル (18:23~19:20)

1. パウロの第三の伝道旅行はどのルートを通りましたか。エペソへ行く途中でパウロは何をしましたか。(18:23)
2. アポロの信仰はどのような段階を通して生まれ育ちましたか。(18:24~28)

3. ヨハネのバプテスマとイエス・キリスト様の御名によるバプテスマはどう違いますか。(18:25; 19:3~6; ローマ 6 章参照に)
4. アポロの賜物はどんなものでしたか。(18:24、25、28) あなたの賜物はなんでしょうか。あなただどのような人のためにあなたの賜物を用いようとしておられますか。(18:27)
5. 聖霊様は人間にいつ与えられますか。(2、5、6; 2:38、39 参照に) 聖霊様の印は何ですか。
6. パウロは教会の組織化をどのようにしましたか。(9)
7. パウロの伝道方法はどんなものでしたか。(9) 伝道の成果はどのぐらいでしたか。(10)
8. エペソのリバイバルの特徴は何でしたか。(11、12) すべてのリバイバルは同じ特徴がありますか。
9. イエス様の御名は魔術的に使ったらどうなりますか。(13~16)
10. 悪霊は何ですか。その特徴は何ですか。(15、16)
11. 神様に清さが明らかになると既に信じて洗礼を受けたクリスチャンたちはどう反応しましたか。(18、19) あなたの人生に燃やすべきものがあるでしょうか。
12. 教会が清められる結果なんでしょうか。(20)

エペソの暴動とトロアスの礼拝 (19: 21~20:16)

1. パウロは旅行計画はどのようにしましたか。又その目的は何でしたか。(19:21; 1 コリ 16:1~9 参照に)
2. エペソの暴動の原因は何でしたか。(19:24~26) 又その宗教的な裏付けは何でしたか。(19:27)
3. 宗教とお金の関係は現代の日本ではどうなっているでしょうか。キリストの教会の中にお金の位置付けは何でしょうか。
4. 暴動の中の人々の心理状態はどんなものでしょうか。(28~34) 私たちはデマなどに流される恐れがありますか。
5. エペソの書記役は政治家としてどう評価すべきでしょうか。(35~40) 暴動を鎮火させるに彼はどんな方法を使いましたか。
6. この暴動の結果として教会はどのような危険にさらされましたか。
7. パウロはエルサレムに行く予定だったのにどうして全く反対の方向のマケドニアとギリシャに行きましたか。(20:1~6)

8. ピリピからトロアスまでの船旅は今回はどのぐらいかかりましたか。前回に比べると何が分かりますか。(20:6;16:11 参照に)
9. トロアスの礼拝の特徴は何でしたか。(20:7)
10. パウロはなぜ長い説教をしましたか。その結果何が起こりましたか。(9)
11. ユテコの事故の中にパウロはどう言う姿勢を示しましたか。なぜでしょうか。(20:9~12)
12. パウロの急ぎの理由は何でしたか。(20:13~16) 急ぎとあせりはどう違いますか。

エペソ長老達への別れのメッセージ (20:17~38)

1. 教会の長老の使命は何でしょうか。(17、28、29、30)
2. パウロの伝道の姿勢のいくつかのポイントをあげましょう。(19、33~34)
3. パウロの伝道方法はどんなものでしたか。(20)
4. パウロのメッセージは何でしたか。(21)
5. パウロにとって身の安全はどうして二次的な問題でしたか。(22~24)
6. 伝道者の責任とメッセージを聞く人の責任はそれぞれどんなものでしょうか。(26~27、エゼキエル書 33:7~9)
7. 教会は誰のものですか。(28)
8. 異端とカルトは何処から生まれるでしょうか。(29、30)
9. 教会は迫害と異端の攻撃の中にどのように勝利を得ますか。(32)
10. 福音伝道と教会福祉(ディアコニー)は互いにどんな関係にありますか。(35)
11. パウロが別れる様子はどんなものでしたか。(36~38)
12. 別れの涙の意味は何でしょうか。(37)

エルサレムへの旅とその結果 (21: 1~40)

1. パウロはどんな交通機関を使いましたか。(1~3) 能率を伝道場でどう考えるべきでしょうか。(ルカ 10:38~42 参照に)
2. 聖霊の導きの一貫性はどのように見えますか。(20:23、21:4、11) 聖霊様はあなたの心に戦いに対してどんな準備をなさって来られたでしょうか。
3. 旅の途中でパウロ達は何をしましたか。(4、7、8) 何処でもキリスト者に会うと私達は何をすべきでしょうか。
4. ピリポはどんな道でケサレアの教会の牧会者になったでしょうか。(6:5;8:5~8、26~40;21:8) ピリポの家族はどんな人でしたか。(9)

5. 預言の賜物はどんな役割がありますか。(9～11;1 コリ 14:23～25)
6. 預言の解釈にどんな問題が起こりうるのですか。(12, 13)
7. 愛による誘惑は特に危ないですが、パウロはそれにどう打ち勝ちましたか。(13, 14)
8. 主の御心は私達にとってどんなものでしょうか。(14)
9. エルサレムでパウロは先ず第一に何をしましたか。(19, 20)
10. パウロのエルサレム入りは教会にとって嬉しいことでしたか。もしそうでないなら、なぜだったでしょう。(20～25)
11. パウロのとった措置の狙いは何処にあったでしょう。(26, 39, 40)
12. パウロのやり方はどんな失敗に終わりましたか。(27～31, 36)何故でしょう。(22:22)
13. 神様はパウロの命をどのような方法で救って下さいましたか。(31～36, 39)

パウロの弁明のメッセージ (22: 1～30)

1. パウロは自分の過去をどう見ていましたか。(3～5, 19, 20)あなたは自分の過去を直視した事がありますか。
2. パウロはなぜ教会を迫害したでしょう。(3) 又どこまでその行為で行きましたか。(4, 5)
3. パウロの救いは何時、又どのように行われましたか。(10～16)
4. パウロの使命は何でしたか。(14, 15)
5. パウロはイエス様からどのように新しいメッセージを受けましたか。(17, 18)その内容は何でしたか。(18, 21)
6. パウロにとってイエス様の言われた事はどうして受け入れにくかったでしょう。(19, 20)
7. イエス様の預言はこの場でどう成就しましたか。(18, 22, 23) それはなぜだったでしょう。
8. むち打たれる尋問に直面するパウロは何を訴えましたか。(25)それはなぜだったでしょう。パウロは何時からローマの市民権を持っていたか。(28)あなたは日本の市民権をどう思いますか。

試練の中のパウロと主の励まし (23: 1～35)

1. パウロの生き方の特徴は何でしたか。(1)清い良心を保つのはどのように出来ますか。

2. パウロの怒った理由は何でしたか。(2, 3)正しい怒りと罪深い怒りはどう違いますか。パウロの怒りはどちらの方だったでしょう。(5)
3. 議員たちはどんな二つの派に分かれていましたか。(7, 8)現代的にその二つの派はどんな形で現れていますか。
4. パウロがこの対立を利用した狙いはどこにあったでしょう。(6, 28, 29)その効目はどうでしたか。(9)
5. もう一度軍隊の介入によって助け出されたパウロの気持ちはどうでしたか。(11)
6. 主は落胆したパウロに対してどんな慰めがありましたか。(11)あなたは主からどんな励ましを最近頂いていますか。
7. 主の約束と全く反対のように物事が運び始めましたが、パウロの命を狙った陰謀に対して主からの解決はどんな方法で行われましたか。(16, 19～21)
8. パウロのローマへの旅はどのような方法で始まりましたか。(23～24)
9. ケサレアで2年間の刑務所生活になった理由はどこにあったでしょう。(35, 9:15 参照に)あなたの人生に物事が思うように運ばない時に主が何をなさろうとおられるでしょう。実例をあげて下さい。

ペリクスとパウロ (24: 1～27)

1. ローマが法律を重んじる国であったことはどのように現れましたか。(1, 2, 3)しかしその実態はどうでしたか。(22, 23, 26, 27)日本はどうでしょう。裁判所で正しい判決が期待できますか。
2. 総督ペリクスにパウロはどう訴えられましたか。(5, 6)パウロの立場はどう見られていましたか。(5)
3. パウロはその訴えにどのように答えましたか。(12, 13)
4. 正統的な信仰と異端かカルトはどう違いますか。(5, 14)
5. 道に従うと言う表現でパウロは何を指しましたか。(14)
6. キリスト信仰の中心的なポイントを三つあげて下さい。(14, 15, 21, 16)あなたの信仰の中心は何でしょう。
7. パウロのエルサレム入りの理由は何でしたか。(17)信仰と愛の関係はどうあるべきでしょう。

8. パウロは福音を語るときにペリクスの何に訴えましたか。(24、25)その結果はどうでしたか。(25)
9. 神様の招きを拒否する一番代表的な方法と理由は何でしょうか。(25)

王様の前での証 (25:1～26:32)

1. パウロに対するしつこい憎しみはどのように現れましたか。(25:1～3、7)憎しみはどこから生まれるでしょうか。又憎しみからの開放の道は何でしょうか。(26:20、21)
2. パウロはどう弁明しましたか。(25:8、10、11)パウロの死刑に対する姿勢はどんなものでしたか。(25:11)それは何故だったのでしょうか。
3. 総督フェストの目から見るとパウロとユダヤ人の指導者たちの対立の焦点はどこでしたか。(25:19)
4. パウロの主張は何に基づきましたか。(26:8、13～15)あなたは何故復活のイエス・キリスト様を信じる事が出来ますか。
5. パウロの以前の宗教的な熱心さの背後に何があったのでしょうか。(26:5、6、9、11、12、14)
6. イエス様に会ってからパウロの新しい熱心さの理由は何でしたか。(26:16～18、19)あなたは神様からどんな幻が与えられていますか。それに対する従順は具体的にどう現れますか。
7. パウロのメッセージは何でしたか。(26:20、23)救いの中身は何ですか。(26:18)
8. 総督フェストが初めて福音を聞きましたが、彼の反応はどうでしたか。(26:24)パウロはその反応にどう答えましたか。(26:25、26)
9. 周囲の人々に対する愛はどう現れましたか。(28、29)あなたは未だイエス様を知らない人々があなたと同じようになってもらいたいと思いますか。

ローマへの船旅 (27:1～44)

1. ローマへの船旅はどのようなルートで行われましたか。(2～8、地図を見てください)その時期は何時でしたか。(9)冬の地中海はとても危ないのです。
2. パウロと同行したアリストアルコはどんな人でしたか。(2; 19:29、コロサイ 4:10)あなたにとって信仰の友、又同労者はどのぐらい大切でしょうか。
3. 百人隊長ユリアスとパウロの関係はどのように発展しましたか。(1、3、11、31、43)人間関係をより深い物にする方法は何でしょうか。

4. パウロと神様の関係はいわゆる宗教的なレベルに留まらなくて、旅の実際的な諸問題に及んだ事から何を学べますか。(10、21～26)あなたは恐ろしい環境の中に主イエス様からどのような励ましを受けたことがありますか。実例を分かち合ってください。
5. パウロは主から頂いた励ましをどのように他の人に伝えましたか。(21～25、33～36)
6. 主からの励ましと危機に対する現実的な対応は互いに矛盾するのでしょうか。(31、36、43、44)
7. 神様はどうして私たちを人生の嵐に導いて下さいますか。(24、マタイ 8:23～27 参照に)人生の嵐の中であなたは何を得了事がありますか。証しを分かち合ってください。

マルタからローマへ (28:1～31)

1. 難破から救われた一行がマルタの島でどのように受け入れられたのですか。(2)それは何故だったのでしょうか。
2. パウロが本草を集めると何が起きますか。(3)それはどのように見られましたか。(4)不幸の迷信的な説明(たとえば祟りなど)どう思いますか。迷信と信仰はどんな関係でしょうか。(6)
3. マムシに刺されたパウロはどうなりましたか。(5)それは何故でしたか。(マルコ 16:17、18 参照に)
4. パウロを通して聖霊からの癒しの賜物はどう働きましたか。(8、9)あなたは癒されたいのですか。あなたは癒しの賜物を持っていますか。聖霊の賜物はどう与えられますか。(1 コリ 12 章、14 章参照に)
5. ポテオリにクリスチャンがいた事から教会の成長ぶりについた何が分かりますか。(14)
6. パウロは何によって励まされましたか。(15)あなたは兄弟姉妹をどのように励ますことが出来ますか。
7. 裁判待ちの2年間のパウロの状態は同でしたか。(16)パウロは限られた自由をどう用いましたか。(17、30、31)
8. ユダヤ人伝道の方法と結果はどうでしたか。(23、24)
9. 福音の内容が分かった上でそれを拒否した人にパウロは何を言いましたか。(25～28)それは何故だったでしょう。(イザヤ 6:1～13 とマタイ 13:10～17 参照に)

ローマ人への手紙を調べましょう

著者：

著者はパウロです(1:1)。

宛先：

ローマの教会(信者の群)。パウロは、この教会を訪問することを熱心に願っていました。彼は、コリントに住む裕福なクリスチャンであるガイオの家からこの手紙を送りました(ローマ 16:23、I コリント 1:14 参照)。おそらく、パウロは、第3次伝道旅行の途上でこの手紙を書いたと思われます。

背景：

だれがローマの教会を始めたのかは分りません。イエスが復活された後に、過越の祭のためにローマからエルサレムを訪れた者たちのうちで、五旬節(ペンテコステ)に回心した者は、福音のメッセージを携えてローマに帰ったに違いありません(使徒 2 章参照)。それに続く 28 年間に、おそらく、他の信者たちがローマに移り住んだのでしょう。この手紙が書かれたころのローマ皇帝はネロでした。

メッセージ：

すべての人は罪人であり、神の救いを必要としている。神は、ご白身の御子イエスを、私たちの罪からの救い主として遣わされた。キリストを救い主として信頼する者は、その罪を赦され、神とともにある永遠のいのちをいただく。

イスラエルは、神が遣わされたメシヤ(救い主)であるイエスに背を向けた。神はなお、イスラエル民族に対して誠実を守られる。神は、将来、イスラエルを回復される。

神の家族に属するなら、私たちは、神を喜ばせる生活を送るべきである。私たちは、神を愛するなら、神に従うべきである。

心に留めるべきみことば：

1:6、3:23、24、5:1、2、6:23、8:28、38、39、10:13、12:4、5、9-21

ローマ人への手紙におけるキリスト

この書物において、イエス・キリストは、第2のアダムとされています。最初のアダムによって、罪が世界に入りました。しかし、イエス・キリストは、罪の赦しをもたらしました。イエスを信じるすべての人は、罪の赦しと永遠のいのちという神からの贈り物を受けます。イエス・キリストが死んで、もう一度墓からよみがえられたゆえに、私たちは、永遠のいのちをもつことができるのです。

み言葉のしおり

ローマ人への手紙

- 1) 私は福音を恥とは思いません。福音は、ユダヤ人をはじめギリシヤ人にも、信じるすべての人にとって、救いを得させる神の力です。なぜなら、福音のうちには神の義が啓示されていて、その義は、信仰に始まり信仰に進ませるからです。「義人は信仰によって生きる。」と書いてあるとおりです。(新改訳) ローマ人への手紙 1 章 16～17 節
- 2) 神にはえこひいきなどはないからです。 ローマ人への手紙 2 章 11 節

- 3) 人は皆、罪を犯して神の栄光を受けられなくなっていますが、ただキリスト・イエスによる贖いの業を通して、神の恵みにより無償で義とされるのです。 ローマ人への手紙 3 章 23～24 節
- 4) 何の働きもない者が、不敬虔な者を義と認めてくださる方を信じるなら、その信仰が義とみなされるのです。(新改訳) ローマ人への手紙 4 章 5 節

主イエスは、私たちの罪のために死に渡され、私たちが義と認められるために、よみがえられたからです。(新改訳) ローマ人への手紙 4 章 25 節

- 5) しかし私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死んでくださったことにより、神は私たちに対するご自身の愛を明らかにしておられます。(新改訳) ローマ人への手紙 5 章 8 節

律法が入り込んで来たのは、罪が増し加わるためでありました。しかし、罪が増したところには、恵みはなおいっぱい満ちあふれました。こうして、罪が死によって支配していたように、恵みも義によって支配しつつ、わたしたちの主イエス・キリストを通して永遠の命に導くのです。 ローマ人への手紙 5 章 20～21 節

- 6) わたしたちは洗礼によってキリストと共に葬られ、その死にあずかるものとなりました。それは、キリストが御父の栄光によって死者の中から復活させられたように、わたしたちも新しい命に生きるためなのです。 ローマ人への手紙 6 章 4 節

あなたがたは、今は罪から解放されて神の奴隷となり、聖なる生活の実を結んでいます。行き着くところは、永遠の命です。罪が支払う報酬は死です。しかし、神の賜物は、わたしたちの主キリスト・イエスによる永遠の命なのです。 ローマ人への手紙 6 章 22～23 節

- 7) わたしは、自分のしていることが分かりません。自分が望むことは実行せず、かえって憎んでいることをするからです。もし、望まないことを行っているとすれば、律法を善いものとして認めているわけになります。そして、そういうことを行っているのは、もはやわたしではなく、わたしの中に住んでいる罪なのです。 ローマ人への手紙 7 章 15～17 節

- 8) こういうわけで、今は、キリスト・イエスにある者が罪に定められることは決してありません。(新改訳) ローマ人への手紙 8 章 1 節

肉の弱さのために律法がなしえなかったことを、神はしてくださったのです。つまり、罪を取り除くために御子を罪深い肉と同じ姿でこの世に送り、その肉において罪を罪として処断されたのです。それは、肉ではなく霊に従って歩むわたしたちの内に、律法の要求が満たされるためでした。 ローマ人への手紙 8 章 3～4 節

神の御霊に導かれる人は、だれでも神の子どもです。あなたがたは、人を再び恐怖に陥れるような、奴隷の霊を受けたのではなく、子としてくださる御霊を受けたのです。私たちは御霊によって、「アバ、父。」と呼びます。私たちが神の子どもであることは、御霊ご自身が、私たちの霊とともに、あかししてくださいます。(新改訳) ローマ人への手紙 8 章 14～16 節

神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて益としてくださることを、私たちは知っています。(新改訳) ローマ人への手紙 8 章 28 節

わたしは確信しています。死も、命も、天使も、支配するものも、現在のものも、未来のものも、力あるものも、高い所にいるものも、低い所にいるものも、他のどんな被造物も、わたしたちの主キリスト・イエスによって示された神の愛から、わたしたちを引き離すことはできないのです。 ローマ人への手紙 8 章 38～39 節

- 9) 神はモーセに、「わたしは自分が憐れもうと思う者を憐れみ、慈しもうと思う者を慈しむ」と言っておられます。従って、これは、人の意志や努力ではなく、神の憐れみによるものです。 ローマ人への手紙 9 章 15～16 節

- 10) ユダヤ人とギリシア人の区別はなく、すべての人に同じ主がおられ、御自分を呼び求めるすべての人を豊かに恵みになるからです。「主の名を呼び求める者はだれでも救われる」のです。 ローマ人への手紙 10 章 12～13 節

そのように、信仰は聞くことから始まり、聞くことは、キリストについてのみことばによるのです。(新改訳)
ローマ人への手紙 10 章 17 節

11) だから、神の慈しみと厳しさを考えなさい。倒れた者たちに対しては厳しさがあり、神の慈しみにとどまるかぎり、あなたに対しては慈しみがあるのです。もしとどまらないなら、あなたも切り取られるでしょう。 ローマ人への手紙 11 章 22 節

12) こういうわけで、兄弟たち、神の憐れみによってあなたがたに勧めます。自分の体を神に喜ばれる聖なる生けるいけにえとして献げなさい。これこそ、あなたがたのなすべき礼拝です。あなたがたはこの世に倣ってはなりません。むしろ、心を新たにして自分を変えていただき、何が神の御心であるか、何が善いことで、神に喜ばれ、また完全なことであるかをわきまえるようになりなさい。 ローマ人への手紙 12 章 1～2 節

13) 13:10 愛は隣人に悪を行いません。だから、愛は律法を全うするものです。 ローマ人への手紙 13 章 10 節

14) こう書いてあります。「主は言われる。『わたしは生きている。すべてのひざはわたしの前にかがみ、すべての舌が神をほめたたえる』と。」 ローマ人への手紙 14 章 11 節

神の国は、飲み食いではなく、聖霊によって与えられる義と平和と喜びなのです。 ローマ人への手紙 14 章 17 節

15) かつて書かれた事柄は、すべてわたしたちを教え導くためのものです。それでわたしたちは、聖書から忍耐と慰めを学んで希望を持続けることができます。 ローマ人への手紙 15 章 4 節

兄弟たち。私たちの主イエス・キリストによって、また、御霊の愛によって切にお願いします。私のために、私とともに力を尽くして神に祈ってください。(新改訳) ローマ人への手紙 15 章 30 節

16) 平和の源である神は間もなく、サタンをあなたがたの足の下で打ち碎かれるでしょう。わたしたちの主イエスの恵みが、あなたがたと共にあるように。 ローマ人への手紙 16 章 20 節

ローマ人への手紙のアウトライン

1. 前書き(1:1-17)

- (1) あいさつ(1-7)
- (2) ローマ訪問を熱望(8-15)
- (3) 主題の提示(16-17)

2. 人類の罪(1:18-3:20)

- (1) 異邦人の罪(1:18-32)
- (2) ユダヤ人の罪(2:1-3:8)
 - a. 神の公平(2:1-11)
 - b. 律法によるさばき(2:12-29)
 - c. ユダヤ人の不真実と神の真実(3:1-8)
- (3) すべての人が罪の下にある(3:9-20)

3. 信仰によって義とされる(3:21-4:25)

- (1) 神の義(3:21-31)
- (2) アブラハムの例(4:1-25)

4. キリストによる救いの恵みの豊かさと確かさ(5:1-8:39)

- (1) 神との平和(5:1-11)
- (2) アダムとキリスト(5:12-21)
- (3) キリストとの結合(6:1-14)
- (4) 罪から解放されて神の奴隷となる(6:15-23)
- (5) 律法の束縛からの解放(7:1-25)
 - a. 婚姻関係のたとえ(1-6)
 - b. 律法は罪か(7-12)
 - c. 良い律法が死をもたらしたのか(13-25)
- (6) 聖霊における永遠の生命の確かさ(8:1-39)
 - a. 命を与える御霊(1-13)
 - b. 子とする御霊(14-17)
 - c. うめきをとりにす御霊(18-27)
 - d. 神のご計画(28-30)
 - e. 勝利の賛歌(31-39)

5. イスラエルの救い(9:1-11:36)

- (1) 神の選び(9:1-29)
 - a. イスラエルの悲劇(1-5)
 - b. 神の選びの計画(6-13)
 - c. 選びにおける神の主権(14-29)
- (2) 人間の責任(9:30-10:21)

- a. つまずきの石 (9:30-33)
- b. 神の義と自分自身の義 (10:1-13)
- c. 神の呼びかけを拒絶するイスラエルの責任 (10:14-21)
- (3) イスラエルに対する神のご計画 (11:1-36)
 - a. イスラエルの残された者 (1-10)
 - b. イスラエルのつまずきと異邦人の救い (11-24)
 - c. イスラエルの救い (25-32)
 - d. 賛栄 (33-36)

6. キリスト者の生活 (12:1-15:13)

- (1) キリスト者の神に対する態度 (12:1-2)
- (2) 聖徒たちに対する態度 (12:3-16)
- (3) 教会外の人々に対する態度 (12:17-21)
- (4) 為政者に対する態度 (13:1-7)
- (5) 隣人に対する態度 (13:8-10)

- (6) 今の時を知る (13:11-14)
- (7) キリスト者の自由と愛 (14:1-15:13)
 - a. キリスト者の自由 (14:1-12)
 - b. 自由とつまずき (14:13-23)
 - c. キリストの模範 (15:1-6)
 - d. ユダヤ人と異邦人は一つ (15:7-13)

7. 結語 (15:14-16:27)

- (1) 異邦人への奉仕 (15:14-21)
- (2) パウロの旅行計画 (15:22-33)
- (3) フィベの推薦 (16:1-2)
- (4) 個人的あいさつ (16:3-16)
- (5) 偽教師を警戒すること (16:17-20)
- (6) パウロの仲間たちからのあいさつ (16:21-23)
- (7) 結びの賛栄 (16:25-27)

ローマ人への手紙の学びの質問

キリスト者のアイデンティティー 1:1-7

1. パウロはどの三つの表現で自分自身を描写しますか。(1)
2. パウロは手紙を受ける人々をどの三つの表現で描写しますか。(6-7) キリスト者のアイデンティティーはどのようなものでしょうか。あなたは自分自身をキリスト者としてどう見ますか。
3. パウロの使命はなんでしたか。私たちの使命は何でしょうか。(1,5)
4. 福音の内容は何ですか。(2-4)
5. 旧約聖書の主な内容は何ですか。(2) 旧約聖書をどう読むべきでしょうか。
6. イエス・キリスト様はどのようなお方ですか。(3-4)
7. イエス様が人間でありながら神様であることは私たちにとってどういう意味を持つでしょうか。(3-4)
8. 三位一体の神様はどのように福音の中に含まれますか。(3-5) 三位一体の各位（人格）の間の関係はどのようなものでしょうか。
9. 主イエス様は福音を通して何を与えて下さいますか。(5)
10. 恵みはパウロにとってどのような内容でしたか、私たちにとってどうでしょうか。(5 ; 1 テモテ 1:12-17 を参照に)
11. 使徒の勤めは何ですか。その努めの持ち主の使命は何ですか。(1,5;)
12. 何故神様の教会に特別な勤めが必要ですか。そのような勤めはすべての信徒の祭司職とどのような関係にありますか。(5 ; 1 ペテロ 2:5,9 を参照に)
13. 信仰の従順はどういう意味でしょうか。(5;15:18 を参照に)
14. 福音はどの位の範囲で述べ伝えるべきでしょうか。(5; 15:15-21 を参照に)
15. パウロはローマのキリスト者のためにどのようなお祈りをしますか。恵みと平和の内容は何ですか。(7)

福音の力 1:8-17

1. パウロはローマに住んでいるキリスト者を覚えて、何について神様に感謝しましたか。(8) あなたは他のクリスチャンを覚えて何について感謝することが出来ますか。
2. 感謝はイエス・キリスト様を通してである事は何を物語りますか。(8)
3. ローマのキリスト者の信仰の性質はどんなものでしたか。(8) 現代のクリスチャンの信仰の特徴は何でしょうか。
4. 神様にどのように奉仕できますか。(9)
5. 9 節と 10 節はパウロの祈りの生活について何を語りますか。私たちの祈りの生活はどんなものでしょうか。
6. キリスト者の交わりの意味はなんでしょうか。(11-12)
7. パウロはローマのキリスト者からどのような実を望んでいたでしょうか。(13, 15)
8. どうしてパウロは前にローマに行けなかったのですか。(13; 15:22-28 を参照に)
9. パウロはどのような負債（責任）を追うっていましたか。(14) 私たちを福音伝道に追いやる動機はなんでしょうか。
10. 福音にはどのような力がありますか。(16; 1 コリント 15:1-8 を参照に)
11. 14 節と 16 節は福音の普遍性について何を語りますか。

12. 救いの理由と救いの条件はそれぞれは何ですか。(16)
13. 「ユダヤ人をはじめ」と言う表現の意味は何でしょうか。(16)
14. この世の人々の前にキリスト者は時々恥かしさを感じますが、何故でしょうか。(16)
15. 義とはどういう意味ですか。神の義はどういう意味ですか。(17) 神の義は神様が要求する義なのか、それとも神様が与えて下さる義なのでしょう。T
16. 神様の義はどのように明らかになりますか。(17)
17. 直訳の「信仰から信仰へ」と言う表現はどんな意味でしょうか。(新共同：「初めから終わりまで信仰を通して」新改訳：「信仰に始まり信仰に進ませる」)
- (17) 信仰って何でしょうか。
18. 信仰によって生きるとはどういう意味でしょうか。(17)

人類の罪 1:18-32

1. 神様の怒りは何に向けていますか。(18) 信仰者も何に向かって怒りをもつべきですか。
2. 人々はどのように真理をはばんでいますか。(18, 21,25,32)
3. すべての人が知っている真理はどんな内容でしょうか。(19)
4. 神様の存在を人に証明する必要がない理由は何ですか。(19)
5. 神様の一般啓示の内容は何でしょうか。(20; 2:14-15 を参照に)
6. 心が暗くなる、物事の正しい理解を失う状態に至る道は何でしょうか。(21)
7. 人間の高ぶりや傲慢はどのように現れますか。(22 ; 箴言 1:7;8:13;14:26-27;22:4 を参照に)
8. 偶像礼拝の本質は何でしょうか。(23, 25)
9. 罪の恐ろしい結果はなんですか。(24,26,28)
10. 同性愛行為は何について物語りますか。(26-27) その結果は何でそうか。
11. 神様を見捨てると、生き方はどのように変わりますか。(29-31) 現代の日本社会に罪はどのように現れていますか。
12. 罪に対する神様の裁きは何ですか。(32) 罪の容認に対しての神様の裁きは何ですか。

神様の正しい裁き 2:1-16

1. 他の人をどう評価すべきですか。又自分を他の人にどう比べるべきですか。(1; マタイ 7:1,5 を参照に)
2. 神様の裁きの性質はどんなもののでしょうか。(2, 6; 黙示録 20:12 を参照に)
3. 神様の裁きを免れる方法は何でしょうか。(3, 4)
4. 神様は悔い改めに招く姿勢はどんなもののでしょうか。(4) 主はあなたを悔い改めに招いて下さった方法は何だったのでしょうか。
5. 何故人が減びますか。(5)
6. 永遠のいのちを得る人は誰でしょうか。(7) 彼らの報いは何でしょうか。(10; マタイ 25:31-46 を参照に)
7. 滅びる人は誰でしょうか。(8) 彼らの運命は何でしょうか。(9)
8. 神様は裁くときにどう働きますか。(11)
9. 人間は自分の力で救われる可能性はどのくらいでしょうか。(12)
10. 神様の裁きに基準は何でしょうか。(13-16)
11. 神様に十分な義はどんなものですか。(13)
12. 良心はどのように働きますか。(14-15) あなたの良心は正しく働きますか。
13. 神様は「福音によって」裁くと言う事はどういう意味でしょうか(16)

14. 人生の秘密は最後の裁きのときにどうなりますか。(16)

15. 最後の裁きに裁判官は誰ですか。裁きはイエス・キリスト様によって行われるのはどういう意味でしょうか。(16)

心の割礼 2:17-29

1. ユダヤ人は異邦人に比べるとどのような特権を持っていますか。(17-18, 20; エペソ 2:11-12 を参照に)

2. ユダヤ人はどのような間違った期待を持っていたでしょうか。(19-20) 私たちはどうでしょうか。

3. 律法を知るよりもっと大切な事は何ですか。(21-24) キリスト者としても私たちは律法を述べ伝えなければなりません、それはどのような姿勢ですべきですか。

4. 盗人はどのように悔い改める事が出来ますか。(21) あなたはどのような盗みをした事がありますか。それらをどう扱って来ましたか。

5. 不品行や姦淫をどのように悔い改めることが出来ますか。(22)

6. 「神殿の物をかすめる」「神殿を荒らす」のは私たちの場合に何を指すでしょうか。(22; マルコ 12:41-44 を参照に)

7. 神様の御心の通りに歩むのは何のためですか。(24) 神様ののみ名が崇められるのはどう実現しますか。

8. 割礼の意味と役割は何でしょうか。(25, 28-29; ガラテヤ 5:1-6 を参照に)

9. 心の信仰と外面的な歩みはそのような関係にあるべきですか。(27-28)

10. 心の割礼を受けた人はどのような存在でしょうか。(26,29; コロサイ 2:11-15 を参照に)

11. あなたはだれに褒めてもらいたいでしょうか。何故でしょうか。(29) 神様はあなたを褒める理由がありますか。(ヨハネ 12:26 を参照に)

神様の真実と人間の罪 3:1-20

1. ユダヤ人が頂いた最も大きな賜物は何ですか。(1-2) 私たちが頂いた最も大きな賜物は何ですか。

2. 不信仰はどのような影響を及ぼしますか。又何に影響がないのですか。(3-4)

3. 人間はどのようなのですか、神様はどのようなのですか。(4; 詩篇 51:6 と 116:11 を参照に) 不真実は私たちの生き方にどのように現れましか。

4. 神様の裁きはどのようなのですか。(5-6)

5. 「私の偽りによって、神の真理がますます明らかにされます」という言葉でパウロは何を指しますか。(7,8; 6:1 を参照に)

6. 何が人間に神様の裁きをもたらせますか。(8)

7. 誰が罪人ですか。(9) 罪はどのように人間を支配しますか。あなたの罪は何ですか。

8. 人間はどのような状態で生まれますか。(10-18)

9. 神様を探していると主張する人々は実際に何をしますか。(11) 人間には神様への道を見出すことが可能ですか。

10. 人間のよい行いの本質は何ですか。(12; ルカ 11:13 を参照に)

11. 言葉使いは私たちについて何を語りますか。(13-14; マタイ 12:36-37 を参照に)

12. 苛め、暴力、戦争が何故何時までも続きますか。(15-17)

13. 平和への道はどこにありますか。(17)

14. もっとも恐ろしい罪は何ですか。罪の本質は何ですか。(18)

15. 律法の役割は何ですか。(19-20)

16. なぜ律法の要求する行いが人を神様の御前で義人にすることが出来ないのですか。人の前でそのような行いはどういう影響を及ぼしますか。(20; 1 コリント 4:4 を参照に)

信仰によって義と認められる 3:21-31

1. 神様は御自分の義の性質を私たちに何処で、またどのように明らかにして下さいますか。(21; 1. 創世記 15:1-6; イザヤ 53:11 を参照に)
2. 神様の義はだれに与えられますか。(22)
3. イエス・キリスト様を信じる信仰（又はイエス・キリスト様の信仰）の本質は何ですか。(22; 4:1-8 を参照に)
4. 義と認められる点においてユダヤ人と他の国民は何故何の差もありませんか。(23-24, 29-30)
5. 神様の栄光と義はどのように互いに繋がっていますか。(23-24; 8:30 を参照に)
6. 神様はどのような根拠で罪人を義と認めることが出来かすか。(24-25)
7. 贖いという言葉はどんな意味ですか。(24) 「罪を償う供え物」「なだめの供え物」と翻訳されたギリシャ語の「ヒラステリオン」という言葉はどう言う意味ですか。(25) 「ヒラステリオン」はエルサレムの神殿の至聖所に置かれている契約の箱の蓋で、それは主が座って語られる場所で、又その上に祭司長が年に一度罪を贖うためのなだめの供え物の血を注ぎました。
8. 信仰の対象は何ですか。なぜそうですか。(25)
9. イエス・キリスト様の受難と死は過去と現在に対してどのような影響を及ぼされますか。(25-26) どうして旧約時代の信仰者の罪が、神様の正しい裁きを受けないで赦されたのでしょうか。(25) 私たちの今の罪が赦される理由は何ですか。(26)
10. イエス・キリスト様の苦しみと死はどのように神様の義と正しさを立証させますか。(26)
11. どうして信仰者にはなんの誇る理由もありませんか。(27)
12. 律法の原則は何ですか、信仰の原則は何ですか。(27)
13. どうして罪深い人間が聖なる神様に受け入れられますか。(28) 神様の御前に人間の義は何ですか。
14. 律法は完全な生き方とすべての罪に対して罰を要求します。どうして神様が与えて下さる義が神様の律法と矛盾しないのですか。(31)

アブラハムの信仰義認 4:1-12

1. アブラハムは人の前に何を誇ることができたでしょう。神様の御前でそれがどうして不可能でしたか。(1-2; 創世記 12:11-13 と 13:2,8-9 を参照に)
2. 何がアブラハムの義と認められましたか。(3; 創世記 15:1-6 を参照に) 私たちの義として認められるのは何ですか。(5)
3. 信仰の反対は何ですか。(4-6)
4. 不敬虔（不信心）な人はどんなものですか。(5) 神様はどのような人を義人と認められますか。(5)
5. 義と認められることはどのような内容ですか。(7-8)
6. 義と認められた人の幸福はどこにありますか。(7-8)
7. 誰が幸いなひとですか。(9) あなたもそのような人ですか。
8. アブラハムの人生には義と認められることと割礼はどの順序に起こりましたか。(10) 他の旧約の信仰者の場合は順番はどうでしたか。新約聖書は洗礼を割礼に比べます。旧約聖書の実例に合わせて、信仰と洗礼の順番についてどう考えることが出来ますか。(コロサイ 2:11-14 を参照に)
9. アブラハムにとって割礼はどのような意味を持ちましたか。(11) 私たちにとってどうですか。

10. アブラハムが信仰の父と呼ばれるのは私たちにどんなメッセージを語りますか。(12; 創世記 12:1-3 を参照に)

信仰によって実現する神様の子供であること 4:13-25

1. 神様はどうしてアブラハムとその子孫を祝福する約束をなさいましたか。(13)
2. 自分の生き方を頼りにすると、どんな結果になりますか。(14)
3. 神様の律法はどのような働きをしますか。(15) 物事が正しいかどうかを判断する基準は何ですか。(15)
4. 義が信仰によって与えられる事を明らかにするのは何ですか。(16)
5. 私たちの人生においても、神様の約束の確かさは何によりますか。(16)
6. アブラハムはどのような神様を信じましたか。(17) 私たちの神様はどんなおかたでしょうか。
7. 逆境の中に私たちの希望は何に基づきますか。(18) あなたの希望の中身は何でしょうか。
8. アブラハムは信仰の試練にどのように耐えられましたか。(19-20)
9. 信仰の確信は何に基づきますか。(21)
10. どうしてアブラハムの信仰が義と認められたのでしょうか。(22)
11. 私たちの場合にどうですか。(23-24)
12. 私たちが義と認められる理由は何ですか。(24-25)
13. 私たちの信仰の対象はだれですか。(24)

義と認められた事の結果 5:1-11

1. 1 節と 2 節に信仰に夜義の結果をどう描写しますか。2. 神様との平和は私たちにどのような意味を持ちますか。それはどのように可能になりましたか。(1,11)
3. 恵みに立つ信仰者の立場はどんなものですか。(2)
4. 義と認められたキリスト者はどの三つの事を誇って（大いに喜んで）いますか。(2,3,11)
5. 希望はどのようなものですか、その内容は何ですか。(2, 4, 5; ヘブライ 6:18-20 を参照に)
6. どうして信仰者は主のみ手から艱難も喜んで受け取りますか。(3-4)
7. 聖霊様は救われた人の心の中にどのように働きますか。(5)
8. イエス・キリスト様は十字架の上でどのような人々のために死なれましたか。四つのことを言ってください。(6,8,10)
9. 神様の愛は今日私たちに何処に現れますか。（ギリシャ語の動詞は現在形です。）(8)
10. 6～1 1 節の中にパウロは救いの理由であるキリストの死を何回繰り返しますか。?
11. 6 節に「定められた時」と言う表現は何を指しますか。
12. もし必要なら、あなたはどのような人のために死ぬ覚悟が出来ますか。(7)
13. 9 節の「怒りから救われる」と言う表現は何を指しますか。
14. パウロは 1 0 節に十字架の死による和解とキリストの命によって救われる事を対比します。「キリストの命によって救われる事」の意味はなんですか。(10)
15. イエス・キリスト様による和解はどんな意味を持つのでしょうか。(11)
16. 救われた人のもっとも大きな喜びは何ですか。(11)

アダムとキリスト 5:12-21

1. 原罪の性質は何ですか。原罪は何を生みますか。(12, 14) 小さい赤ちゃんも死ぬ事は現在について何を語りますか。

2. 律法と罪の関係はどうなっていますか。(13,14, 20)
3. アダムは誰の雛形ですか。どの面でそうですか。(14, 15)
4. 罪と恵みの大きさの差はどのくらいですか。(15,20)
5. アダムの罪とイエス・キリスト様の贖いはどのように対比されますか。
 - a) 義と認められる角度から (16, 18)
 - b) 清めにおける影響の角度から。(17, 19)
6. アダムの罪の性質とその影響をリストアップして下さい。(15,16,17,18,19,21)
7. イエス・キリスト様の恵みの性質とその影響をリストアップして下さい。(15,16,17,18,19,21)
8. 18節は罪と恵みの影響の広さについて何を語りますか。

罪に対して死んで、キリストにあって生きる 6:1-14

1. 恵みとは罪はどうでもよいと言う意味でしょうか。(1)
2. 罪に対して死んでいる事はと言う意味ですか。(2) それからどのような結論を出さなければなりませんか。(7:1-6 を参照に)
3. 洗礼に何が起こりますか。(3-6)
4. 洗礼は今日の行き方にどのような影響を及ぼしますか。(4,6)
5. 「古い自分」「古い人」と言う言葉はどんな意味ですか。(6; 6:19 を参照に)
6. 人間はどのように罪から開放されますか。(7)
7. キリスト者の歩みは何に基づきますか。(8)
8. 復活のキリストはどのようなお方ですか。(9)
9. キリスト様は誰のために生きておられますか。私たちはどうでしょうか。(10)
10. 自分のアイデンティティをどう考えるべきですか。(11)
11. キリストに預かる洗礼を受けた人はどのような選択をしなければなりませんか。(12-13)
12. 信仰を持つキリスト者はどうして罪の奴隷ではありませんか。(14)

義に使える僕 6:15-23

1. キリスト者は罪を犯してもよいのですか。(15) もし誘惑に負けて犯してしまうならどうすべきですか。
2. 罪の本質は何ですか。罪の反対は何ですか。(16)
3. 罪に身を任せて犯し続けるとどんな結果をもたらせますか。(16)
4. 人間にどのような二つの選択しかありませんか。(16) どうして他の可能性が何のですか。
5. 救われるときに何が起こりますか。(17-18) それは誰の働きによりますか。
6. 私たちは誰の僕でしょうか。(18)
7. 罪深い性質(肉)はどのようにキリスト者の中にも影響しますか。(19)
8. 毎日の生活の中にキリスト者はどのような選択をしなければなりませんか。(19 ; 12:9-21 を参照に)
9. 清め、聖化の本質は何ですか。(19, 22 ; ヨハネ 15:1-8 を参照に)
10. 罪の奴隷状態の結果は何ですか、聖化の実は何ですか。(20-23)
11. 永遠のいのちはどのような関係の中に行われますか。(23; ヨハネ 17:3 を参照に)

律法から開放されている 7:1-12

1. 律法はどのように、又どの位の時間人間を支配していますか。(1)
2. 神様の律法が要求する結婚はどんなものですか。(2-3)

- 3.離婚の時と配偶者が亡くなる時に3節からどのような結論を出さなければなりませんか。
- 4.パウロは3節の原則を人間と律法の関係にどのように適用しますか。(4)
- 5.4節によると律法が死んだか、それとも人間が死んだのですか。その死はどのように起こりましたか。(4; 6:4を参照に)
- 6.死んでキリストと共に死んで、蘇ったキリスト者は誰のために生きるべきですか。新しい生き方はどのような性質を持ちますか。4)
- 7.生まれ変わっていない人々の中に律法はどのような働きをしますか。(5,8-10)
- 8.律法からの開放は何を意味しますか。(6)
- 9.7節によると律法の役割は何ですか。神様の律法にその他のどのような役割がありますか。
- 10.律法が無かったら罪が死んでいると言う事はどんな意味ですか。(8,9)
- 11.律法のもともとの目的は何でしたか。何故律法が人を助ける事が出来ないのですか。(10-12)
- 12.神様の律法の内容は何ですか。(12)

律法と罪 7:13-25

聖書解釈者は長い間、パウロが13-25節に自分自身の救われる前の状態について語るのか、それとも求道中のことについて語るのか、それとも救われてからの状態について語るか議論して来ました。しかし、そのような近づき方は正しくないと思います。パウロは救いにおいても律法が役に立たないと同時にキリスト者として生きるためにも律法は何の助けにもならないと言う事を言いたかったと思います。罪深い性質（肉）は律法より力強いからです。福音の力で初めて救われますし、福音の力でのみクリスチャン生活も可能になります。

- 1.律法の性質は何ですか。しかし、生まれつきの人間の状態はどうですか。(14)
- 2.神様の律法の光でどのように生きるべきかが分かる、罪に支配されている人の心にどのような矛盾がありますか。(15)
- 3.罪意識をもつ人間は何を認めますか。(16)しかし神様の要求を逃げようとする人は律法の要求にどう耐用しますか。
- 4.人間の自我と罪の関係はどのようなものですか。(17,18, 20)罪墮落の前のパラダイスにいた人間の状態についてどのようなヒントがこれらの節にありますか。
- 5.18節は人間の罪墮落の深さについて何を語りますか。あなたは自分自身をどう見られますか。
- 6.人間の意志とその力はどのようなものですか。(18,19)
- 7.21-22節はキリスト者の心の中に残っている罪深い性質がさせつ葛藤を描写します。罪深い性質の他に彼は何を持っていますか。
- 8.23-24節はどのような葛藤について語りますか。ギリシャ語のノモス（律法、原則）と言う言葉は神様の律法を指さないで、原則を意味とします。(ガラテヤ5:16-26を参照に)
- 9.パウロは罪深い性質（肉）を人間の内面の中の何処に起きますか。又心を何処に。23-24)
- 10.内面的な矛盾からの開放は何処から見つかりますか。(25; 8:1を参照に)

聖霊による歩み 8:1-17

- 1.誰に罪に定める（滅びる）心配はありません。又どうしてですか。(1,2)
- 2.人生を支配する二つの原則をあげて下さい。それぞれの性質はなんですか。(2)
- 3.罪と死の法則から人間を解放するのは誰ですか。又それはどのように起こりますか。(3)

4. 信仰者は何の目的のために解放されていますか。(4)
5. 神様の律法に従う生き方はどのように可能になりますか。それは救いの条件ですか、それとも救いの結果ですか。(4,5)
6. 人間には二つの可能な生き方があります。それらは何ですか。それぞれはどのようなものですか。(5-8; ガラテヤ 5:16-26 を参照に)
7. 聖霊の支配下にいるのは誰ですか、又どのような人々ですか。(9)
8. キリスト者の内に依然として罪深い性質が残っていますか、彼はどのように神の子供として歩むべきですか。又それはどのように可能ですか。(10-11)
9. 聖霊を持つ人々の内にどのような力が働きますか。(11)
10. 罪深い性質(肉)をどのように扱うべきですか。それはどのように可能ですか。(12-13)
11. 神様の子供のしるしは何ですか。(14-15)
12. キリスト者の救いの確信と安心は何に基づきますか。(15-16)
13. 聖霊様の証はどのように行われますか。(16)
14. イエス・キリスト様と共に神様の子供であることから何が結果として出ますか。(17)

将来の栄光と弱さに対する助け 8:18-27

1. 聖霊に導かれている人生に今どのような事がありますか、又将来はどのようなあものですか。(18)
2. 苦難にぶつかるキリスト者はその目線を何処に向けますか。(18)
3. 被造物は何を待っていますか。(19, 21)
4. 被造物がどうして虚無に服した状態ですか。(20)
5. 被造物のうめきはどのような形で現れますか。(22)
6. 神様の子供たちのうめきは何を物語りますか。(23)
7. キリスト者は何を待っていますか。(23)
8. 御霊の初穂とは何ですか。(23)
9. キリスト者の希望の内容は何ですか。又それはその生き方にどのような影響を及ぼしますか。(24-25)
10. 私たちの弱さはどう現れますか。聖霊様はそれに対してどのような助けを与えて下さいますか。(26)
11. キリスト者の祈りの生活の性質はどのようなものですか。(26-27)
12. あなたはここごろ誰のためにとりなしの祈りをしますか。(27)

神様の計画とキリストにある愛 8:28-39

1. 28節の素晴らしい約束は誰のためですか。
2. あなたの人生のどのような場面で28節の約束の成就を見てきましたか。
3. 私たちの救いの土台はなんですか。(29)
4. 救いの目的は何ですか。(29)
5. 救いのプロセスはどのようなものですか。それを成し遂げるのは誰ですか。(30)
6. 神様は義と認められた人に栄光を与えられた事はと言う意味でしょうか。どうして時制が完了形ですか。(30)
7. 神様が私たちの味方であることはどのような意味がありますか。(31)
8. 祈りの生活を考えたら32節は何を意味しますか。34節はどうですか。
9. なぜ、訴えられることから開放されていますか。(33)
10. キリスト者が滅びることを恐れなくてもよい理由は何ですか。(34)

11. キリストの愛の体験を防ごうとするようなものをあげて下さい。それらが実際にその愛を消すことが出来ない理由は何ですか。(35-39 ; 5:8 を参照に)
12. 36節の現実を私たちは現在何処に見ることが出来ますか。
13. どうしてあらゆる困難の中に勝利を得ることが可能ですか。(37) その勝利は何ですか。
14. 神様の愛は何処に現れますか。(39)
15. 罪を犯してしまうことは私たちを神様の愛から離れさせますか。(39)

神様はイスラエルを選ばれました 9:1-18

1. どのような良心が正しく働きますか。(1)
2. パウロの悲しみの理由は何でしたか。(2-3; 10:1 を参照に) 私たちは邦人の救いについてどの位の重荷を持っているのでしょうか。
3. パウロが自分の民に対する愛はどのようなものでしたか。(3) そのような愛はどこから来ますか。
4. イスラエル人に与えられた大きな特権をあげて下さい。(4-5; エペソ 2:12 を参照に)
5. キリストはどのようなお方ですか。(5)
6. イスラエルに与えられた約束は誰にたいして今も有効ですか。(6-9)
7. 神様の子供たちは誰ですか。(8)
8. どの神様の約束によってあなたが神様の子供であることを知っていますか。(9; ヨハネ 1:12 を参照に)
9. 神様の選びの理由は何ですか。(10-11; 8:29-30 を参照に)
10. どうして神様の選びには不公平が無いのですか。(12-16)
11. 私たちの救いと私たちが神様に用いられる唯一の理由は何ですか。(16)
12. 人間の意志は救いにおいてどのような役割を持ちますか。(16,18; ピリピ 2:12-13 を参照に)
13. 神様はその御心に抵抗する人々をもどのように用いることが出来ますか。(17)

神様の怒りと恵み、イスラエルと神様の正しさ 9:19-33

1. 救いと用いられる事において、自分の責任と神様の御心の間にどのような緊張感が生まれますか。(19-20)
2. 自分自身と自分に与えられる使命を受け入れるのはどのように可能ですか。(20-21)
3. 神様の御心に反対する人々に示される忍耐の目的は何ですか。(22-23)
4. イエス様を信じる人はどのようなものですか。(24)
5. 神様がイスラエル人以外の人々を自分の民として呼ぶ事はどの旧約聖書の約束に基づきますか。(25-26)
6. イスラエル人のほんの一部しか救われないのはどうしてですか。(27,29, 31-32)
7. 神様はそのみ言葉に対してどのような態度を持っておられますか。(6,28; マタイ 24:35 を参照に)
8. どうして異邦人が救われますがユダヤ人に救いはあまりにも難しいのですか。(30-32)
9. 救いにおいて人々が躓きやすい事は何ですか。どうして神様はそのような躓きの石を設けられたのでしょうか。(33)

救いはすべての人のため 10:1-13

1. パウロはその同国人にたいする心はどんなものでした。(1) 私たちの邦人にたいする態度はどんなものでしょうか。
2. 宗教的な熱心に対してどのような態度を取るべきですか。(2-3) 私たちは主の働きに熱心でしょうか。
3. 自分の義を建てることの本質は何でしょう。(3)

4. キリストが律法の目標（終わり、成就）であることは何を意味しますか。（ギリシャ語のテロスは目標、終わり、成就の意味です。）(4)
5. 律法を完全に守ったら、何を得ますか。(5) もしそれが出来なかったらどうなりますか。
6. 信仰による義は何に基づきますか。(6-8)
7. 聖書の最も短い救いの道はどのように表現されていますか。(4,9-10,13)
8. 信仰は何を頼りにしますか。(9)
9. 信仰告白の意味は何ですか。(10)
10. 11節の「失望させられることがない」と言う事は何を指しますか。(8:1を参照に)
11. 主を呼び求める人に対して主はどのような姿勢を示されますか。(12)
12. 13節で信仰をどのような言葉で表現されていますか。

信仰の誕生 10:14-21

1. 救われるために何が必要ですか。」(14)
2. 述べ伝える人の使命はどんなものですか。(14-15; 2コリント 5:19-20を参照に)
3. 誰が述べ伝える人を派遣しますか。どのような方法ですか。(15)
4. なぜ15節に述べ伝える人の足について書かれているのでしょうか。あなたの足はどの方向に向かっていますか。
5. 福音宣教はどのように受け入れられていますか。(16; マタイ 13:1-9,19-23を参照に) 私たち自身の心は福音をどのように受け入れますか。
6. 福音に従うことは具体的に何を意味しますか。(16)
7. 信仰はどのように生まれますか。(17; ヨハネ 6:29を参照に)
8. ユダヤ人たちがすでに福音を聞いたと言うパウロの主張の根拠は何だったのでしょうか。(18-19)
9. 18節は伝道の範囲について何を言っていますか。ユダヤ人以外の国民においてその約束はもう成就されていますか。
10. ユダヤ人伝道でユダヤ人以外のキリスト者の役割はなんのでしょうか。(19-20)
11. どうして異邦人はユダヤ人より信じやすいのですか。(20-21)
12. 神様は御自分の民に対してどのような姿勢で臨んでおられますか。(21; マタイ 23:37を参照に) 主の御心は日本人に対してどうでしょうか。

イスラエルの忠実な残りと他の蹟き 11:1-16

1. 神様がその民イスラエルを見捨てなかったことはどう現れていますか。(1-5)
2. エリヤはその民にたいしてどのような訴えをしましたか。(3) 私たちは日本の民をどう見ますか。イスラエルの民をどう見ますか。
3. 神様はエリヤの時代にイスラエルの状態をどう見られましたか。(4) 主は現代のイスラエルをどう見られるのでしょうか。日本のことはどうでしょうか。
4. 神様の選びは性質は何ですか。(5-6)
5. 神様のみ言葉を聴いても、人や民が頑なになったら、神様はその頑なな状態をどう追認なさいますか。(3,7-10)
6. 復習を訴えるダビデの詩篇のメッセージは私たちに何ですか。(9-10; 12:19と詩篇 69:23-24と黙示録 6:9-11を参照に)
7. 神様は頑なになったイスラエルの民をどう用いておられますか。(11)

8. 全イスラエルが将来にメシヤでおられるイエス様を受け入れるとその使命は何になりますか。(12, 15; 11:25-27 を参照に)
9. 異邦人伝道をするキリストの教会は同時にいつも何をしなければなりませんか。(13-14, 30-31 を参照に)
10. 救いにおいてユダヤ人と異邦人の間に何の差もありますが、神様の選びの民イスラエルには特別な使命があります。(13-16)

異邦人と尊いオリーブの木 11: 17-32

1. イスラエルの状態を考える時にどのような姿勢が問われますか。(17-18,20)
2. 救われた人々がつぎ合わされた木は何ですか。(16-19; ヨハネ 15:1-8 を参照に)
3. 救いに留まるために何をしなければなりませんか。(20)
4. 清い畏れはどんなものですか。(20-21)
5. 神様が人間に対してどのように振舞いますか。(22) 現代の神様についての一般的な教え方を 2 2 節に比べてみて下さい。
6. 神様は御自分の民に対する最も大きな願いは何でしょうか。(23-24)
7. 不信仰に落ちた人にはどのようなチャンスが残っていますか。(23)
8. イエス様は異邦人の時代について話されました。それは何を指しますか。(25-27; ルカ 21:24 を参照に)
9. イスラエルの救いはどのように行われますか。(26-27) 私たち異邦人の場合にどのように。
10. 同時に怒りの下にあっても愛されるのはどのように可能でしょうか。(28)
11. 神様は何を後悔しませんか。(「取り消されない」「変わることがありません」と翻訳されているギリシャ語の直訳は「後悔しません」です。)(29) それはあなたにとって何を意味しますか。
12. ユダヤ人と異邦人は互いにどのような関係にありますか。(30-31)
13. 人と国民は恵みに預かる道は何ですか。(32)
14. 3 3 - 3 6 節のパウロの賛美は神様について何を語りますか。
15. 神様の御心と計画はどのような性質を持っていますか。(33-34)
16. 神様はその行いにおいてどのようなお方ですか。(35)
17. 被造物やイスラエルや教会の存在の目的は何ですか。(36)

キリストにある新しい生き方 12:1-8

1. パウロが「神のあわれみのゆえに」「神の憐れみによって」勧める事の意味は何ですか。(1,3)
2. 新約聖書の勧めは律法ですか、それとも福音に属しますか。なぜですか。(1)
3. 神様はその救われた人に対してどのような期待を持っておられますか。(1)
4. 礼拝はいったい何ですか。(1-2; ヤコブ 1:27 を参照に)
5. 聖化、聖霊による変化はどのように起こりますか。(2)
6. キリスト者はこの世の中にどのような緊張関係に生きていますか。(2)
7. 信仰者は自分自身のことをどう考えるべきですか。(3)
8. 神様が与えて下さる「信仰の度合い」「信仰の量り」と言う事は何を意味しますか。(3, 6)
9. 聖書的な自己評価はどのようなものですか。(3; 1 コリント 15:8-10 を参照に)
10. キリスト者たちがそれぞれ違う事はどこから来ますか。(4-5)
11. 教会の一致は何に基づきますか。(5)
12. あなたはどのような恵みの賜物を持っていますか。他の賜物を持たないで、なぜちょうどあなたが持っている賜物ですか。(6-8; 1 コリント 12:11,27-30 を参照に)

13. 賜物よりも大切な事はそれをどのように用いられるか、言い換えれば清められた生き方です。それは6-8節にどう現れますか。

キリスト者に対する勧め 12:9-21

1. 愛の本質は何ですか。その中に何が含まれますか。(9) それは何故偽りと共存出来ませんか。偽者の愛はどんなものですか。
2. 純粋な愛にどのような感情が含まれますか。(10)
3. 人々を正しく比べ合う方法はどんなものですか。(10, 16; ルカ 7:44-47 を参照に) 妬み深い比べ方からどう開放されますか。
4. 霊に燃えることはどんなものですか。それはどのように現れますか。(11)
5. キリスト者の希望の中身は何ですか。希望と忍耐と祈りはどのように繋がっていますか。(12)
6. 愛はお金と時間の使い方の中にどのように現れますか。(13)
7. 聖書はこの地上で迫害からの開放を約束しませんが、しかし迫害者に対する勝利を約束します。どのように。(14,17, 20-21)
8. 人生の色々な場面で愛をどのように示すべきですか。(15) 実例を挙げてください。
9. 聖書はキリスト者同士に二次的な事柄で意見の違いを認めますが、そのような中でキリスト者の一致は何に基づきますか。(16; 14:1-8 を参照に)
10. キリスト者の生活レベルはどうあるべきですか。(16)
11. 信仰者とノンクリスチャンの関係はどうあるべきですか。(17-18)
12. どうして信仰者には復習権利がありませんか。(17, 19)
13. 正義をもたらせるのは誰ですか。(19)
14. 頭に燃える炭火を積むことはどのような姿勢ですか。(20)
15. 悪に打ち勝つ方法は何ですか。(21)

権力者たち、兄弟愛と目覚め 13:1-14

1. 社会的な権威は誰によって設けられていますか。その結果は何ですか。(1-2)
2. キリスト者は敵対する権力者の下でどのように振舞いますか。(3-4)
3. 個人に対して聖書は「殺すな」と命令しますが、社会の秩序を保つ権威者には何が認められていますか。(4)
4. キリスト者は裁判官、警官、又は兵士として公務員として働くことが出来ますか。もし出来るなら、どうしてですか。もし出来ないならどうしてですか。(3-4)
5. 上に立つ権威に従うキリスト者の姿勢は何に基づきますか。(5)
6. キリスト者は税金の事をどう考えるべきですか。(6-7)
7. 上に立つ権威に対してどのような姿勢であるべきですか。(7)
8. 信仰者はなぜ借金をしてはいけないのですか、又他の人の借金を保証をしてはいけないのですか。その代わりに何をすべきですか。(8)
9. 純粋な愛の中身は何ですか。(8-10) 愛と律法の関係はどうですか。
10. 信仰を持つ人はすでに救われていますが、11節の救いと言う言葉は何をさしますか。
11. イエス・キリスト様の再臨をどのような姿勢で待つべきですか。(12-13)
12. 「主イエス・キリストを着なさい。」「主イエス・キリストを身にまといなさい。」という勧めは何を意味しますか。(14; コロサイ 3:1-16 を参照に)

兄弟を裁かないで下さい 14:1-12

1. 違う考え方を持つキリスト者に対してどのような態度を取るべきですか。(1)
2. どのような課題において意見の違いを認めるべきですか。どのような場合に認めてはいけませんか。(2, 5; 2 ヨハネ 7-11 を参照に)
3. どうしてこのような二次的な事柄において蔑まれる事も裁く事も間違っていますか。(3-4)
4. 信仰を保つことはどうして可能ですか。?(4)
5. どうして違う意見を持つ人々がそれぞれの立場に確信を持たなければなりませんか。(5-6)
6. キリスト者は誰のために生きていますか。(6-8)
7. 死はキリスト者にとって何を意味しますか。(8; 1 テサロニケ 4:13-18 を参照に)
8. イエス様が主である事は私たちにどう言う意味をしますか。(9)
9. 最後の裁きの目的は何ですか。(10-11)
10. あなたにとって最後の裁きはどのようなものになるのでしょうか。(12) あなたの場合にどのような事柄が裁かれるのでしょうか。

兄弟に対して躓きを与えないで下さい 14: 13-23

1. どのような振る舞いは他のキリスト者にとって躓きになるのでしょうか。どのような振る舞いは誘惑になるのでしょうか。(13)
2. 「主イエスにあって確信している」と言う事はどんな意味でしょうか。(14)
3. どのようなものは汚れていませんか。(14, 16) 何かの食べ物が「清い」であるのはどのような意味ですか。
4. 二次的な事柄において他の兄弟姉妹の意見にどのように配慮すべきですか。(15)
5. 主が与えて下さったよい賜物がどのようにそしられるようになりうるのですか。(16)
6. 信者の人生を神様はどのように支配して下さいますか。(17)
7. 違う考え方を持つキリスト者と仲良く生きることはキリストに仕えることですから、その結果は何でしょうか。(18)
8. 互いの平和をどのように深めることが出来ますか。(19)
9. 二次的な事柄においても自分の良心に反して行動する事は本人に純粋な罪ですから、同じ事柄を罪と思わない兄弟がどうに振舞うべきですか。(20-21) 実例を挙げて下さい。
10. 他の兄弟姉妹の意見に対して配慮しても、どうして自分の意見を変えなくてもよいのですか。(22)
11. 罪の本質は何ですか。(23)

隣人/益を求めて、福音をすべての人に 15:1-13

1. 強い人にはどのような責任がありますか。(1)
2. どのような他の人に対する生き方はキリスト者にとって相応しいですか。(2)
3. イエス様は誰を喜ばすために生きておられますか。どのように。(3)
4. 現代のキリスト者の生き方において旧約聖書の役割は何ですか。(4)
5. イエス様は私たちから何を期待しておられますか。(5)
6. キリスト者の心の一致はなぜ必要ですか。(6)
7. 違う兄弟姉妹を受け入れるのはどのような力で可能ですか。(7)
8. イエス様はなぜユダヤ人に使えられましたか。(8)

- 9.旧約聖書の中に海外伝道はどのように裏付けられていますか。海外伝道の目的は何ですか。(9-12)
10. 聖霊による希望はキリスト者の南下にどのように影響しますか。(13)

パウロの海外伝道と将来計画 15:14-33

1. ローマ人への手紙は何故書かれていましたか。(14-15)
2. 海外伝道の最終的な狙いは何ですか。(16) それはすべてのキリスト者の祭司である事とどのように繋がっていますか。
3. 主の働き人は何を誇ることが出来ますか。(17-19) イエス・キリスト様は私たちを通してどのように働くことが出来ますか。
4. どうして開拓伝道は特に大切ですか。(20-21)
5. パウロが前にローマに行けなかった理由は何でしたか。(20-22)
6. パウロにはどのような計画がありましたか。どうしてすでに教会のあるローマに暫らく留まりたかったのですか。(23-24,28-29, 32)
7. 伝道と支援活動は互いにどのような関係にあるべきですか。(25-27)
8. 何がキリストの完全な祝福を保証しますか。(29)
9. すべての神様のための働きの中にもっとも大切な事はなんですか。(30) 何故ですか。
10. パウロにはどのような祈りの課題がありましたか。私たちの祈りの課題は何ですか。(31-32)
11. キリスト者の交わりは何故大切ですか。(32)
12. 神様のご臨在はわたしたちにとってどのような意味をしますか。(33)

挨拶と頌栄 16:1-27

1. パウロは1-4節でその同労者をどのような描写しますか。私たちは同労者にどのように評価を示しているでしょうか。
2. ローマの教会の一部は何処に集まりましたか。(5)
3. パウロは5-15節でローマに住んでいる兄弟姉妹に対してどのように愛を示しましたか。あなたは信仰の友をどう見られますか。
4. 現代に挨拶でどのように互いの愛を示すべきですか。(16)
5. 異端者に対してどのような姿勢を示すべきですか。(17)
6. 誰が偽預言者か異端者かはどのように分かりますか。(18; マタイ 7:15-23 を参照に)
7. パウロはローマのキリスト者の何を喜んでいましたか。(19) 私たちは他のキリスト者のどのところを喜びますか。
8. 私たちの将来はどのようなものですか。何故ですか。(20,24)
9. 挨拶の役割は何ですか。(21-23)
10. 強くなる道は何ですか。(25)
11. 福音の内容は何ですか。福音宣教の目的は何ですか。(25-26)
12. どうして栄光と誉れは神様のものですか。(25,27)

コリント人への手紙第 1

著者：

著者はパウロです（1:1）。

宛先：

コリントの教会（信者の群）。パウロは、コリント人に宛てたこの手紙を、おそらく、エペソに滞在した3年間の終りごろに書きました。

背景：

コリントは、ギリシヤにおける非常に重要な都市でした。そこは、旅行者や商人たちが行き交う交通の要所でした。そこに人々は、偶像を礼拝するために多くの神殿を建てました。彼らは、富と快樂に心を奪われ、あらゆる罪深いことを行っていました。

コリントのクリスチャンには多くの問題がありました。パウロは、教会内の分裂、結婚した人々の問題、食物の問題、礼拝の問題、イエス・キリストの復活に関する信仰をめぐる問題、などに関して彼らに手紙を書き送りました。

メッセージ：

- コリントのクリスチャンは、いくつかのグループに分れていた。ある者たちは、パウロに好意をもち、ある者たちは、他の指導者に好意をもった。パウロは、人間にではなく、イエス・キリストご自身に、もっと思いを向けるようにと語った。
- パウロは、結婚の重大さと、夫婦がどのようにしてともに生活すべきかについて教えた。
- パウロは、自分の行うことが、他の人々を傷つけないかどうかを考えるように人々に話した。
- イエス・キリストを信じた人は聖霊を受けて、1つ、ないしはそれ以上の賜物をいただく一教えること、みことばを語ること、助けることなど。重要なことは、すべてのことを愛をもって行うことである。
- イエス・キリストは、ご自身が言われたとおりに、死者の中からよみがえられた。私たちは、死を恐れる必要はない。もしイエスを信じているなら、私たちは、永遠のいのちをもっている。

心に留めるべきみことば：

12:27、13:4-7、15:3、4、15:58、16:13、14

過去からの発見

コリントには、ユダヤ人の会堂がありました。文字が書かれてある会堂の破片が発見され、コリントの博物館に置かれています。

コリントの劇場のほうで発見されたある文書には、エラストという名前が記されています。これはおそらく、ローマ人への手紙 16 章 23 節でパウロが書いている友人のことでしょう。

コリント人への手紙第 1 におけるキリスト

私があなたがたに最もたいせつなこととして伝えたのは、私も受けたことであって、次のことです。キリストは、聖書の示すとおりに、私たちの罪のために死なれたこと、また、葬られたこと、また、聖書に従って三日目によみがえられたこと……」（１コリント 15:3、4）

コリント人への第1手紙のアウトライン

1. あいさつと感謝（1:1-9）

2. 分争についての勧告（1:10-4:21）

- (1) 分争の愚かさ（1:10-17）
- (2) 人の知恵のむなしさ（1:18-2:16）
 - a. 十字架の言葉と人の知恵（1:18-25）
 - b. 人の知恵によらない神の召し（1:26-31）
 - c. 知恵によらないパウロの宣教（2:1-5）
 - d. 隠された奥義としての神の知恵（2:6-16）
- (3) 働き人と教会（3:1-17）
 - a. 分争の愚かさ（1-4）
 - b. 働き人の役割（5-9）
 - c. 働き人の評価（10-17）
- (4) 結論（3:18-23）
- (5) 分争問題に関する追加の議論（4:1-21）
 - a. 主にのみ責任を負う使徒（1-5）
 - b. 教会の高慢と使徒の低さ（6-13）
 - c. 結びの召集（14-21）

3. 道徳的乱れに対しての勧告（5:1-6:20）

- (1) 不品行な者の放置の問題（5:1-13）
 - a. 父の妻と関係する者に関して（1-8）
 - b. 前の手紙の誤解の訂正（9-13）
- (2) 訴訟の乱用に対して（6:1-11）
- (3) 遊女を買う罪について（6:12-20）

4. 結婚に関して（7:1-40）

- (1) 結婚の是非と夫婦の義務（1-7）
- (2) それぞれの立場の人への勧め（8-16）
- (3) 召された状態にとどまれ（17-24）
- (4) 処女の結婚について（25-40）

5. 偶像への供え物について（8:1-11:1）

- (1) 愛による判断（8:1-13）
 - a. 知識と愛（1-3）

- b. 愛による判断（4-13）

(2) 自由についてのパウロの模範（9:1-27）

- a. 使徒の権利とその自発的放棄（1-18）
- b. 福音のための権利放棄（19-23）
- c. パウロの節制（24-27）

(3) 偶像の祭儀の食事について（10:1-22）

- a. 試練の危険性と神の守り（1-13）
- b. 聖餐と異教祭儀（14-22）

(4) 市場で買う肉について（10:23-11:1）

6. 集会の混乱に対して（11:2-14:40）

- (1) 女性の身だしなみについて（11:2-16）
- (2) 愛餐の乱れと聖餐式について（11:17-34）
- (3) 異言による集会の混乱に対して（12:1-14:40）

- a. 御霊の賜物の一致と多様性（12:1-31）
 - ① 聖霊の恵みは全信徒に（1-3）
 - ② 多様な賜物と一つの起源（4-11）
 - ③ 体のたとえ（12-31）

- b. 愛について（13:1-13）

- c. 異言についての具体的勧め（14:1-40）
 - ① 異言より預言を求めよ（1-25）
 - ② 集会の秩序の守り方（26-40）

7. 復活信仰について（15:1-58）

- (1) 基本的信仰の確認（1-11）
- (2) 復活否定とキリスト信仰（12-19）
- (3) キリストの復活と信徒の復活（20-28）
- (4) 復活否定と信徒の生活（29-34）
- (5) 復活の体（35-49）
- (6) 世の終わりの復活（50-58）

8. 諸連絡と勧め、あいさつ（16:1-24）

- (1) 聖徒への献金について（1-4）
- (2) コリント訪問の予告（5-12）
- (3) 結び（13-24）

み言葉のしおり

コリント人への第1手紙

- 1) 十字架のことは、滅びに至る人々には愚かであっても、救いを受ける私たちには、神の力です。 コリント人への第1手紙 1章 18節
しかしあなたがたは、神によってキリスト・イエスのうちにあるのです。キリストは、私たちにとって、神の知恵となり、また、義と聖めと、贖いとなりました。 コリント人への第1手紙 1章 30節
- 2) なぜなら私は、あなたがたの間で、イエス・キリスト、すなわち十字架につけられた方のほかは、何も知らないことに決心したからです。 コリント人への第1手紙 2章 2節
まさしく、聖書に書いてあるとおりです。「目が見たことのないもの、耳が聞いたことのないもの、そして、人の心に思い浮かんだことのないもの。神を愛する者のために、神の備えてくださったものは、みなそうである。」 コリント人への第1手紙 2章 9節
生まれながらの人間は、神の御霊に属することを受け入れません。それらは彼には愚かなことだからです。また、それを悟ることができません。なぜなら、御霊のことは御霊によってわきまえるものだからです。 コリント人への第1手紙 2章 14節
- 3) というのは、だれも、すでに据えられている土台のほかに、ほかの物を据えることはできないからです。その土台とはイエス・キリストです。 コリント人への第1手紙 3章 11節
あなたがたは神の神殿であり、神の御霊があなたがたに宿っておられることを知らないのですか。 コリント人への第1手紙 3章 16節
- 4) 神の国はことばではなく、力にあるのです。 コリント人への第1手紙 4章 20節
- 5) 新しい粉のかたまりのままでいるために、古いパン種を取り除きなさい。あなたがたはパン種のないものだからです。私たちの過越の小羊キリストが、すでにほふられたからです。 コリント人への第1手紙 5章 7節
- 6) あなたがたは、正しくない者は神の国を相続できないことを、知らないのですか。だまされてはいけません。不品行な者、偶像を礼拝する者、姦淫をする者、男娼となる者、男色をする者、盗む者、貪欲な者、酒に酔う者、そして、略奪する者はみな、神の国を相続することができません。 コリント人への第1手紙 6章 9～10節
あなたがたのからだは、あなたがたのうちに住まれる、神から受けた聖霊の宮であり、あなたがたは、もはや自分自身のものではないことを、知らないのですか。あなたがたは、代価を払って買い取られたのです。ですから自分のからだをもって、神の栄光を現わしなさい。 コリント人への第1手紙 6章 19～20節
- 7) 次に、すでに結婚した人々に命じます。命じるのは、私ではなく主です。妻は夫と別れてはいけません。——もし別れたのだったら、結婚せずにいるか、それとも夫と和解するか、どちらかにしなさい。——また夫は妻を離別してはいけません。 コリント人への第1手紙 7章 10～11節
奴隷も、主にあって召された者は、主に属する自由人であり、同じように、自由人も、召された者はキリストに属する奴隷だからです。あなたがたは、代価をもって買われたのです。人間の奴隷となつてはいけません。 コリント人への第1手紙 7章 22～23節
- 8) 人がもし、何かを知っていると思ったら、その人はまだ知らなければならないほどのことも知ってはいないので。 コリント人への第1手紙 8章 2節
- 9) 私はだれに対しても自由ですが、より多くの人を獲得するために、すべての人の奴隷となりました。ユダヤ人にはユダヤ人のようになりました。それはユダヤ人を獲得するためです。律法の下にある人々には、私自身は律法の下にはいませんが、律法の下にある者のようになりました。それは律法の下にある人々を獲得するためです。 コリント人への第1手紙 9章 19～20節

10) あなたがたのあった試練はみな人の知らないようなものではありません。神は真実な方ですから、あなたがたを耐えることのできないような試練に会わせるようなことはなさいません。むしろ、耐えることできるように、試練とともに、脱出の道も備えてくださいます。 コリント人への第1手紙 10 章 13 節

私たちが祝福する祝福の杯は、キリストの血にあずかることではありませんか。私たちの裂くパンは、キリストのからだにあずかることではありませんか。 コリント人への第1手紙 10 章 16 節

いや、彼らのささげる物は、神にではなくて悪霊にささげられている、と言っているのです。私は、あなたがたに悪霊と交わる者になってもらいたくありません。 コリント人への第1手紙 10 章 20 節

私も、人々が救われるために、自分の利益を求めず、多くの人の利益を求め、どんなことでも、みなの人を喜ばせているのですから。 コリント人への第1手紙 10 章 33 節

11) ですから、あなたがたは、このパンを食べ、この杯を飲むたびに、主が来られるまで、主の死を告げ知らせるのです。 コリント人への第1手紙 11 章 26 節

12) さて、御霊の賜物にはいろいろの種類がありますが、御霊は同じ御霊です。奉仕にはいろいろの種類がありますが、主は同じ主です。働きにはいろいろの種類がありますが、神はすべての人の中ですべての働きをなさる同じ神です。 コリント人への第1手紙 12 章 4～6 節

13) こういうわけで、いつまでも残るものは信仰と希望と愛です。その中で一番すぐれているのは愛です。 コリント人への第1手紙 13 章 13 節

14) しかし、もしみなが預言をするなら、信者でない者や初心の者がはいつて来たとき、その人はみなの方によって罪を示されます。みなにさばかれ、心の秘密があらわにされます。そうして、神が確かにあなたがたの中におられると言って、ひれ伏して神を拝むでしょう。 コリント人への第1手紙 14 章 24～25 節

15) 私があなたがたに最も大切なこととして伝えたのは、私も受けたことであって、次のことです。キリストは、聖書の示すとおりに、私たちの罪のために死なれたこと、また、葬られたこと、また、聖書に従って三日目によみがえられたこと、また、ケパに現われ、それから十二弟子に現われたことです。その後、キリストは五百人以上の兄弟たちに同時に現われました。その中の大多数の者は今なお生き残っていますが、すでに眠った者もいます。 コリント人への第1手紙 15 章 3～6 節

もし、私たちがこの世にあってキリストに単なる希望を置いているだけなら、私たちは、すべての人の中で一番哀れな者です。しかし、今やキリストは、眠った者の初穂として死者の中からよみがえられました。 コリント人への第1手紙 15 章 19～20 節

終わりのラッパとともに、たちまち、一瞬のうちにです。ラッパが鳴ると、死者は朽ちないものによみがえり、私たちは変えられるのです。 コリント人への第1手紙 15 章 52 節

ですから、私の愛する兄弟たちよ。堅く立って、動かされることなく、いつも主のわざに励みなさい。あなたがたは自分たちの労苦が、主においてむだでないことを知っているのですから。 コリント人への第1手紙 15 章 58 節

16) というのは、働きのための広い門が私のために開かれており、反対者も大ぜいいるからです。 コリント人への第1手紙 16 章 9 節

第一コリント人への手紙の学びの質問

1章

挨拶 1:1-3

1. パウロは自分の事とソステネスの事をどのように描写しますか。(1)
2. コロンとの教会のメンバーをどう描写しますか。(2)あなたは自分自身の事をどう考えますか。あなたのアイデンティティーは何ですか。
3. この手紙は誰の為に書かれているのですか。(2)
4. 恵みと平安を定義して下さい。それらはどこから来ますか。信仰を持つキリスト者にとって最も大切なことは何ですか。(3)

パウロは神様に感謝します 1:4-9

5. 他のキリスト者を考えると特に何について感謝すべきですか。(4-5)感謝の反対は妬みです。それに打ち勝つ方法は何でしょうか。
6. キリストをもっと知る事において信仰者はどう成長出来ますか。(5-6)
7. キリスト者の生き方の目指す方向は何ですか。(7)
8. 教会に賜物はどのように与えられます。その賜物は何のためですか。(5-7; 14:12を参照に)
9. イエス・キリスト様の再臨まで信仰を保つのはどのように可能ですか。(8-9)
10. 神様の招きの狙いは何ですか。(9)

教会の中の対立と争い 1:10-17

11. 教会の中の一致は何を含むべきですか。それはどのように可能になりますか。(10; ローマ14:1-9を参照に)
12. コリント教会の中にどのような争いがありましたか。(11-12; 6:1-8; 使徒15:15:1-2を参照に) 現代の教会の中にどのような争いがありますか。
13. 分派心はどこから来ますか。教会の中にそれから自由になる道は何ですか。(13)
14. 洗礼の中身と意味は何ですか。(13; ローマ6:2-11を参照に)

15. 洗礼を受けた人と洗礼を授けた人の関係はどうあるべきですか。(14－16)

16. なぜパウロは福音伝道に集中して、洗礼の実施を地方教会に任せたいでしょうか。(17) あなたの使命は何でしょうか。

神様の力と知恵であるキリスト 1:18－31

17. 福音は信者の生き方にどう影響しますか、不信仰の人々の場合にどう働きますか。(18, 23－24;ローマ1:16－17)

18. 滅びゆく人々はなぜ福音に躓きますか。(19－20)

19. この世的な知恵を得るのはキリスト者にとって危険ですか。もし危険なら、それはどこにありますか。信仰と科学はどのような関係にありますか。(20, 21)

20. 神様の愚かさはどんなものですか。(21, 25;民数記21:4－9)

21. ノンクリスチャンはキリスト信仰に対してどのような要求を求めますか。(22, 23)

22. 神様のノンクリスチャンに対する答えは何ですか。なぜでしょうか。(24, 25, 27－29)

23. 神様に召された(救われた)人々はどのような者でしょうか。(24, 26)この世の人々の目から彼らはどう見えましたが。

24. キリスト者はどのような存在ですか。(30)

25. 「キリストは、私たちにとって、神の知恵となり、また、義と聖めと、贖いとになられた」事はどういう意味でしょうか。(30)

26. 本当の知恵は何ですか。(30－31; 2:6－7を参照に)

27. 義はどういう意味ですか。(30)

28. 聖めは何でしょうか。(30)

29. 贖いは何を意味しますか。(30)

30. あなたの人生の誇り(一番喜ぶ事)はなんでしょうか。(30)

2章

十字架につけられたキリストを宣べ伝える 2:1－5

1. パウロが伝えた神様の「秘められた計画」は何ですか。(1)

2. 救われた人の信仰は何に基づきますか。何に基づかないのせすか。(1, 4－5)

3. パウロはなぜコリントで十字架のイエス・キリスト様に重点置いたでしょうか。(2)

4. パウロがコロンと伝道を始めた時にどのような状態にいましたか。(3;使徒18:9－10と2コリ12:9－10を参照に)

神の秘められた知恵 2:6-16

5. 成熟した、成人は誰の事でしょうか。(6) あなたはどこまで成熟していますか。
6. この世の知恵はどんなものですか。(6, 7)
7. 神様の知恵はどのような性質を持ちますか。(7, 9)
8. キリスト者が受ける最終的な栄光は何に基づきますか。(7;ローマ8:30とエペソ1:4-6, 11を参照に)
9. キリスト者はどのように神様の知恵が分かるようになりますか。(10, 11)
10. 人間の霊は何ですか。それはどのように働きますか。(10)人間の精神(魂)は何ですか。
11. 聖霊様は何のためにキリスト者に与えられていますか。(12)
12. 「霊的なものによって霊的なことを説明する」とはどういう意味ですか。(13, 14-15)
13. 信仰を持たない人はどうして福音が理解できないのですか。(14)
14. 信仰を持つ人はどのような存在ですか。(15, 16)
15. キリストの心(思い)はどんなものですか。(16;ピリピ2:5-11を参照に)
16. あなたには主にアドバイスをする誘惑がありますか。(16)どのような。

3章

神様の協力者 3:1-9

1. クリスチャンの成長の過程にどのような段階がありますか。(1;ヘブル5:11-14と1ヨハネ2:12-14を参照に)
2. 霊的な乳は何を指しますか。固い食物はなんですか。(2)あなたの人生から実例を挙げて下さい。あなたは今の成長の段階にいますか。
3. 肉に属するキリスト者の特徴はなんでしょうか。(3-4)信仰者はノンクリスチャンとどう違うべきですか。
4. 主の僕たちにはどのような違う働きがありますか。(5-6)彼らの能力はどこからきますか。
5. キリスト者の奉仕の狙いはなんですか。(5)
6. み言葉の奉仕者にどのような姿勢が問われますか。(7)
7. 僕たちはどのような報いをうけましか。(8)その大きさは何によりますか。
8. 教会の本質はなんですか。それに使える人々の使命はなんですか。(9)

キリストは唯一の土台 3:10-15

9. 教会の土台は何ですか。それはどのように据えられますか。(10-11)

10. その土台の上にどのように立て上げることが出来ますか。(12)あなたは持っている賜物を用いて、どのように教会を立て上げますか。その結果はどんなものですか。
11. 私たちの人生の建物は何時、またどのように試されますか。(13)
12. 忠実に働いた人はどのような報いを受けるでしょうか。(14)
13. 人生の建物が燃えてしまうキリスト者に何が起こりますか。(15)その人自身がなぜ救われますか。この節何らかの形の「煉獄」を教えますか。

あなた方は神様の神殿 3:16－23

14. キリスト者の最も深い本質は何でしょうか。(16, 17)
15. 私たちは自分自身と自分の体に対してどのような態度で臨むべきですか。(17)
16. どのような事柄においてキリスト者には自分を騙す誘惑がありますか。(18)
17. どのような姿勢で私たちが簡単に迷ってしまいますか。(18－20)
18. 人間的な権威に対して私たちはどういう態度をとるべきですか。
19. キリスト者は何をその所有としてもっていますか。(22)
20. キリスト者自身は誰のものですか。(23)それはあなたの生き方にどのような影響をもたらせますか。

4章

使徒の務め 4:1－21

1. 使徒の務めは何ですか。使徒と弟子はどう違いますか。(1; 1:1とローマ1:1, 5とルカ6:12－16を参照に)
2. 主の僕から何が問われますか。(2)あなたは主から頂いた使命においてどのぐらい忠実さを示して来ましたか。
3. パウロは他の人にどう思われているかを気にしません。なぜでしょうか。(3)あなたは人の言われることを畏れていますか。又、あなたは自分自身に対してどのような姿勢をもっていますか。
4. どうして良い良心は神様のみ前に不十分ですか。(4)何が十分ですか。
5. キリスト者は最後の裁きを安心して、期待して待つことが出来る理由は何でしょうか。(5)
6. パウロとアポロスはその生き方と奉仕をどのような測りで評価しましたか。(6)それはどのように分派審を防ぎますか。
7. 自分の能力、地位や成績を誇るのはどうして愚かですか。(7)
8. 純粋な王様のような性質は神様の国にどのように現れますか。(8－10; 1ペテロ2:9と黙示録3:17－18を参照に)
9. 神様は使徒の使命をなぜ謙遜させられる困難なものにしたのでしょうか。(9; 2コリ12:7－10とヨハネ12:24－26を参照に)

10. パウロと他の使徒はどうして十字架の道を歩まなければならなかったでしょうか。(10-13; 2コリ5:13-15を参照に)
11. 彼らはどうして侮辱に祝福で、非難に優しさで、迫害に忍耐で答えることが出来たでしょうか。(12-13) 私たちは何か同じような目に遭うとどう反応しますか。(1ペテロ3:9-15)
12. パウロがその困難を語る動機は何だったでしょうか。(14; 2コリ11:23-30を参照に)
13. パウロとコリントの教会は互いにどのような関係にありましたか。(15, 21) 霊的な父や母の役割はキリスト者の生き方にどのような影響を及ぼしますか。あなたは誰かに対して霊的な父か母ですか。もしそうであれば、その使命をどのようにしますか。
14. キリスト者がイエス・キリスト様についてノンクリスチャンに証をする時に、事実上こう言います:「あなたも私のような人になって下さい。」それで伝道は信仰者にどのような生き方を要求しますか。(16-17; 使徒26:28を参照に)
15. コリントのあるクリスチャンたちはパウロに対してどのような姿勢で臨んだでしょうか。(18)
16. 神様の国はどこで現れますか。(19-20; ローマ14:17を参照に)

5章

不道德な人々との交際 5:1-13

1. コリント教会の中にどのような性的な罪が存在しましたか。(1) 私たちの教会はその点でどうですか。
2. 性的な罪に対する「寛容」の本質は何ですか。(2, 6)
3. 教会戒規はどう行すべきですか。(2-5, 9, 11; マタイ18:15-18を参照に)
4. 教会戒規の目的はなんですか。(5)
5. 「小さい罪」に対してどういう態度をとるべきですか。(6; マタイ13:33とガラテヤ5:7-9を参照に)
6. パウロは旧約の神殿礼拝の種なしパンと食事について語りますが、新約の中にそれらに相当するものはなんですか。(7-8; 出エジプト12:2-20を参照に)
7. 聖餐式は清め(聖化)とどのように結びついていますか。(8)
8. 罪の中に生きているノンクリスチャンとどのように接するべきですか。(10, 12-13)
9. 教会戒規は誰に対して適用すべきですか。誰に対して適用すべきではありません。(12-13)
10. 教会の清さはどうして大切ですか。(13; 使徒5:9-14をさんしょうに)

6章

信仰のない人々に訴え出てはならない 6:1-11

1. キリスト者同士の争いを一般の裁判所に訴えてはいけないのはなぜですか。(1, 4-6)

2. キリスト者言い換えれば聖徒はいつこの世とみ使いたちを裁くようになりますか。(2-3; マタイ19:28と黙示録5:9-10; 20:4, 6を参照に)
3. どうして互いに争うより不正の被害者になるのがよいのですか。(7; マタイ5:39-42)
4. あなたは他のクリスチャンの間違った行為の被害者になったことがありますか。その時にどう行動しましたか。(8)
5. 罪の結果は何ですか。(9-10)
6. 罪深い生活からどう解放されますか。(11)

聖霊の住まいである体 6:12-20

7. キリスト者の自由はどのような性質を持ちますか。(12-13; ガラテヤ5:1, 13-15と1テモテ4:3-5を参照に)
8. 私たちの体はどのようなものですか。それは誰なおためですか。(13, 15, 19)
9. 将来に与えられる復活の体は現在の体とどんな関係にあるのですか。聖書は体をどう見ていますか。(14; ローマ8:11; 1コリント15:20-22, 44; 2コリント4:14を参照に)
10. 姦淫の罪と他の性的な罪は他の罪に比べて特別扱いにされている理由はなんですか。(16, 18)
11. 聖書は姦淫や偶像拝や貪りと戦うよりもそれらを逃げなさいと進めるのはなぜでしょうか。(18; 10:14; 1テモテ6:10-11を参照に)
12. キリスト者とその体は誰の所有ですか。キリスト者の価値は何によりますか。(19-20)
13. 自分の体で神の栄光を現すのはどのように出来ますか。(20)

7章

結婚に関するアドバイス 7:1-16

1. パウロは未婚の状態をどう評価しますか。(1, 7-8)
2. 彼はどうして結婚もよい選択として考えますか。(2, 9)
3. 結婚の性生活はどうして義務ですか。(3-4)
4. 結婚の中に相手の性的な必要をどう満たすべきですか。(4-5)
5. 信仰を持つキリスト者の結婚において最も深い交わりはどこにありますか。(5)
6. 悪魔はよく性的な必要を用いて攻撃しますから、誘惑を避けるにはどうすべきですか。(5; 詩篇119:9と1テモテ5:14-15を参照に)
7. 離婚を禁じる事でパウロは何に訴えますか。(10-11; マタイ19:9)
8. 離婚の場合パウロは二つの選択をしか提供しません。それらは何ですか。また何故でしょうか。(11)

9. パウロの「これを言うのは主ではなく、私です」と言う言葉はどんな意味でしょうか。(12, 25)
10. 離婚の多いこの世の中に、ノンクリスチャンと結婚しているキリスト者はどう振舞うべきですか。(12-13)
11. キリスト者が家族のノンクリスチャンの配偶者と子供にどのような清さを提供しますか。(14)
12. パウロの言いたい事は、ノンクリスチャンが離婚したら、キリスト者の方が再婚してもよいという意味でしょうか。(15; 11 節を参照に)
13. キリスト者の配偶者が見捨てられたら、彼(彼女)は何に縛られていませんか。(15; マライ19:9を参照に)
14. キリスト者がその配偶者を信仰に導く事が出来るかどうかは、どうして確かではありません。(16; 使徒16:31を参照に)

主が定めた生き方 7:17-24

15. パウロは信仰に入った人々が社会的な地位を高める事を進めないのは何故でしょうか。(17, 20, 22, 24) 本物の社会的な改革はどこから生まれますか。
16. それにしても奴隷を解放にパウロは賛成します。何故でしょうか。(21)
17. 割礼の意味は何ですか。それはキリスト者になぜ不要ですか。(18-19; ローマ4:3-12とガラテヤ 5:2-6を参照に)
18. 本当の自由を保障するのは何ですか。(23)

未婚の人たちとやもめ 7:25-40

19. パウロが「主の命令を受けてはい」と書いたから、パウロの書いたアドバイスは神様の言葉に属しますか。(25)
20. パウロは未婚者とやもめの結婚についてどのような動機でアドバイスをしましたか。(28, 31, 32)
21. 時間の短い事でパウロは何を指したでしょうか。(29) 迫っていた迫害なのか、それとも主の再臨だったでしょうか。
22. イエス様の再臨と天の都エルサレムに向かうキリスト者の姿勢はどんなものですか。(29-31)
23. どうしてパウロは未婚の生き方を評価しますか。(32, 34)
24. 結婚しても、しなくても、何が一番大切ですか。(35)
25. パウロは見合い制度を背後に論じますが、それはいわゆる恋愛結婚にどう適用しますか。(36-38)
26. 結婚はどこまで続きますか。(39)
27. 寡の結婚に対してパウロはどのような条件を付けますか。(39)
28. パウロは寡が再婚しない方がよいと思うのは何故でしょうか。(40) しかし若い寡に彼はどうして違う原則を適用しますか。(1 テモテ5:11, 14)

8章

偶像に供えられた肉 8:1-13

1. キリスト者の間に二次的な事で意見の違う時に正しい知識より何が大切ですか。(1-2)
2. 神様はどのような人を知っておられますか。(3)
3. キリスト者は偶像について何を知っていますか。(4-5)
4. 唯一の神と唯一のキリストを持つのはどういう意味でしょうか。(6)
5. 人間の良心の内容はどんなものでしょうか。(7) 間違った習慣で悩む良心の内容をどのように正す事が出来ますか。
6. 食事についての考え方にはどの位の意味がありますか。(8; マルコ7:18-19を参照に)
7. キリスト者は弱い兄弟姉妹にどのように接したらよいのですか。(9-12)
8. 違う意見を持つ兄弟島をどう見るべきですか。(11)
9. 罪の対象は本質的に誰ですか。(12)
10. 弱い兄弟に躓きを与える可能性のある場合にどのように振舞うべきですか。(13) 実例を挙げて下さい。

9章

使徒の権利 9:1-27

1. パウロが使徒であることは何に基づきますか。(1; ガラテヤ1:11-12を参照に)
2. 私たちの主に対する奉仕の結果は何でしょうか。(1-2)
3. ある人々はパウロを使徒として認めなかった理由は何でしょうか。(3; 2 コリント 10:10-13; 11:20; ガラテヤ2:4-5を参照に)
4. 使徒と牧会者たちはどのような権利を持っていますか。(4-7)
5. その権利は何に基づきますか。(8-11, 13-14)
6. パウロとバルナバはその権利を利用しなかった理由はなんでしたか。(12, 15, 18; 1テサ2:5-11を参照に)
7. パウロはどうして福音を語らなければ何らなかったでしょうか。(16-17; 使徒9:15-16; ローマ1:14を参照に)
8. 人を救いたい意欲はいろいろ違う人々に対してどのように現れますか。(19-22) 実例を挙げて下さい。
9. 福音伝道と福音に預かる事はどのような関係にありますか。(23, 27)
10. キリスト者の歩み(競争)の目標は何ですか。(24, 27)
11. キリスト者の歩みの性質はどのようなものですか。(25-27; ヘブル12:1-3を参照に)

10章

偶像への礼拝に対する警告 10:1-22

1. すべてのイスラエル人はエジプトの奴隷状態から約束の国に行く途中で何を経験しましたか。(1-4)
2. モーセにつくバプテスマはどんな意味でしょうか。(2)
3. 彼らの肉体的必要と霊的な必要を満たしながら彼らと共に歩まれたのは誰ですか。(3-4) あなたは誰と歩んでいますか。
4. 大多数が荒野で死んで目的の地に達しなかった事を神様はどうしてさせたでしょうか。(5-10)
5. もし欲望や偶像礼拝や乱れた行為や主を試みる姿勢が私たちを支配するようになったら、何が起こりますか。(6-10)
6. 旧約聖書は何のために書かれていますか。それをどう読むべきですか。(11; 使徒7:35-42; ヘブル3:8-13を参照に)
7. 誘惑に遭うと、どのような姿勢でいるべきですか。(12)
8. 試練と誘惑に耐える秘訣は何ですか。(13)
9. なぜ偶像礼拝を逃げるべきですか。それはどのように出来ますか。(14)
10. 聖餐式の本質は何ですか。(16)
11. 聖餐式の意味は何ですか。(17-18; 11:23-29を参照に)
12. 偶像礼拝の背後にどのような力が働きますか。(19-20)
13. キリスト者はどうして主に使える事と偶像礼拝の間に妥協してはいけませんか。(21-22)

すべてを神の栄光のために 10:23-11:2

14. キリスト者の自由を何が制限しますか。(23-24; ローマ14:1-23を参照に)
15. キリスト者は市場で売られて、事実上偶像に捧げる捧げられた肉をどうして自由に食べられますか。(25-26)
16. 他のキリスト者の良心の内容にどのような配慮を示すべきですか。(27-29, 32)
17. キリスト者の間に二次的な事で意見の違う事柄の中にどのようなものがありますか。
18. 私たちはどのような姿勢で働いたり食事を食べたりするべきですか。(30, 31)
19. 他の人に対する配慮は最終的に何を狙っていますか。(33)

11章

1. パウロはコリントのキリスト者にどのような生き方を進めましたか。(1)私たちは自分の生き方を他の人の模範にすることが出来ますか。

2. 聖書の教え(教理)を守るのはどうして大切ですか。(2)

礼拝でのかぶり物 11:3-16

3. 三位一体の中にどのような秩序が行われますか。キリスト者の家庭の中にはどうですか。(3)縦の秩序は価値の違う意味でしょうか。

4. 忠誠を具体的にどのように示しますか。(4, 5)当時の習慣は現代的にどう示すべきですか。

5. 頭をかぶる以外に女性たちにどのような選択が提供されましたか。(6)

6. 男性と女性の立場は創造においてどう定義されますか。(8-9, 12, 14-15)

7. 栄光はここで何を意味しますか。(7)

8. み使いたちは私たちとどのような関係にありますか。(10)

9. キリスト教的な平等は何に基づきますか。(11-12)

10. 聖書の教理から正しくて具体的な結論をどう導けますか。(13)

11. 教会の中の習慣はどうして大切ですか。(16)

主の晩餐についての指示 11:17-34

12. コリント教会の礼拝の時に愛餐会も聖餐式も行われましたが、その中にどのような問題が発生したでしょうか。(17-21)

13. 教会のメンバーの間にどのような経済的な差がありましたか。(22; 使徒2:44-47を参照に)

14. パウロは聖餐式の定めのみ言葉を誰から頂いたでしょうか。(23; ガラテヤ1:11-12を参照に)

15. 聖餐式の意味は何ですか。(23-25, 27, 29)

16. イエス様の記念としての聖餐式の側面はどう言う意味ですか。(24-25)

17. 聖餐式のもう一つの側面は何ですか。(26)

18. 聖餐式にどのような心の準備で臨むべきですか。(28, 31)

19. ノンクリスチャンに聖餐をなぜ与えてはいけませんか。(29)

20. 聖餐式の間違った使い方はどのような懲らしめをもたらせますか。(30, 32, 34)

21. 愛餐会はどう行うべきですか。(33)

12章

霊的な賜物 12:1-11

1. 現代キリスト者の間にどのような課題に知識不足がありますか。(1) 聖霊の賜物はその様な課題ですか。
2. 偶像礼拝は何に基づきますか。偶像はどんなものですか。(2;10:20; イザヤ44:9-20を参照に)
3. 誰かの中に聖霊様が住んでおられることがどのように分かりますか。(3; 1ヨハネ4:1-3を参照に)
4. パウロは賜物、務め、働きをそれぞれ三位一体の神様のどの位格に結びつきますか。(4-6)三位一体の神様の働きはその位格(人格)においてどう表れますか。
5. 互いに違うキリスト者の一致は何に基づきますか。(4-6)
6. 色々の賜物を通しての聖霊様の働きの目的は何ですか。(7, 25; 14:12)
7. 聖霊様はどのような賜物を与えて下さいますか。(8-10, 28; ローマ12:6-8) その働きの実例を挙げて下さい。
8. 生まれ付きの賜物と聖霊の賜物はどう違いますか。
9. 主の者に与えられる賜物の種類を誰が決めますか。(11, 18)

一つの体、多くの部分 12:12-31

10. 多様性の中に聖霊様のバプテスマはどう働きますか。(12-13)
11. 御霊を飲むと言う現実にどのような人々が預かっていますか。(13;ヨハネ7:37-39を参照に)
12. キリストの体である教会と肉体的な体の類似点は何でしょうか。(14-26)
13. 教会の中にどのようなメンバーは特に必要ですか。(22)
14. 違う賜物を持つ教会員は互いにどのような配慮を示すべきですか。(25)
15. 現代の教会の中に 26 節はどのぐらい実現されていますか。
16. あなたはキリストの体の中にどのようなメンバーですか。(27)
17. 教会の中に働く務めと恵みの賜物はどのような関係にありますか。(28)
18. 神様はどうしてすべてのキリスト者に同じように恵みの賜物を与えないのですか。(29-30; 26)
19. 主がどの賜物を与えるかを決められますが、それにしてもパウロはどうして恵みの賜物を求めるように勧めますか。(31; 14:1, 12)
20. 賜物を求めるのはどのように行われますか。賜物の使い方と聖化はどのような関係にありますか。(31; 13:1-13を参照に)
21. 最もよい賜物は何ですか。(31; 14:1を参照に)

13章

愛の賛歌 13:1-13

1. もし恵みの賜物が愛と離れて使われたら、どんな意味がありますか。(1-3)

2. 愛は何ですか。それは何処から得られますか。(1-3; ルカ7:47; ガラテヤ5:22; 1ヨハネ4:9-10を参照に)
3. 異言とは何ですか。(1; 14:2, 4)
4. 預言の賜物はどのようなものですか。(2; 14:3-4, 24-25)
5. 聖書は救いをもたらす信仰と奇跡を行わせる信仰とを区別します。奇跡をもたらせる信仰の性質はどんなものでしょうか。(2; マタイ17:20を参照に)
6. 愛がなくても親善活動が出来ます。どうしてでしょうか。(3)
7. 本物の愛の性質は何ですか。(4-7)
8. 「愛」という言葉を「私」と言う言葉で置き換えて 4-7 節を読んでみて下さい。何に気がつくですか。
9. 愛と謙遜はどう結びついていますか。(4)
10. なぜ愛は恨みに打ち勝ちますか。(5)
11. 愛と真実(真理)は互いに矛盾する事が出来ますか。(6)
12. 信仰、希望、愛はどのように互いに結びついていますか。(7, 13)
13. どうして愛は永遠の性質を持ちますか。(8, 13; 1ヨハネ4:16)
14. 完全な天の御国が始まると、何が起こりますか。(8-12)
15. 主イエス様のみ顔をもうすでにどのように見る事が出来ますか。どの程度ですか。(12; 2コリ3:14-18を参照に)
16. 天国の本質は何ですか。(12; 黙示録22:3-4を参照に)
17. どうして天国で愛の他に信仰と希望も残りますか。(13)
18. どうして愛が一番優れているのでしょうか。(13)

14章

言と預言 14:1-25

1. 愛をどのように求める事が出来ますか。(1)
2. 恵みの賜物をどのように、なぜ、どのぐらい、求めるべきですか。(1, 12, 39)
3. 異言の本質は何ですか。(2, 4, 14)
4. 預言の本質は何ですか。(3-4, 24-25)
5. 恵みの賜物の価値を何によって評価すべきですか。(5)
6. 異言を解き明かす賜物はどんなものですか。(5, 13)
7. 人々にどのように話すべきですか。(6-11)

8. 祈りの生活の中に理性と霊はどのような関係にありますか。(14－15)
9. 教会の公の祈りはどのように行わなければなりませんか。(16－17, 19)
10. パウロの祈りの生活はどのようなものでしたか。(18)
11. 信仰生活の中に理性の役割は何ですか。(20)
12. 異言は未信者にとってどのような印ですか。(21－23; 使徒2:8－11を参照に)
13. 預言的なメッセージの役割は何ですか。(24－25)

集会の秩序 14:26－40

14. 教会の集会がどのように行われるべきですか。(26)その目的は何ですか。
15. 集会の秩序はどうあるべきですか。(27－31, 40)
16. 「預言者たちの霊は預言者たちに服従する」と言うのはどういう意味ですか。(32)
17. 神様はどのようなお方ですか。(33) その性質が教会の集まりの中にどう表れるべきですか。
18. 女性たちにも預言と異言が認められているにも関わらず、どのような話が女性たちに教会の礼拝で認められていないのですか。(33－34) どうしてですか。(35)
19. コリント教会の女性たちの中に女性の役割についてどのような態度がありましたか。(36)それは神様に対して、又他の教会に対してどのような姿勢を示しましたか。
20. パウロは教会の秩序について書いたのはただ彼の個人的な意見でしたか。(37)
21. 主の命令に逆らう事は何をもたらせますか。(38)

15章

キリストの復活 15:1－11

1. 繰り返して福音のメッセージに戻るのはどうして大切ですか。(1; 1:23-24;ローマ 1:16 を参照に)
2. 信仰の本質は1 節によって何でしょうか。
3. 福音はどのような影響を及びますか。(2)
4. 福音の内容をどうして変えてはいけませんか。(2; ガラテヤ1:6－9を参照に)
5. パウロは福音を誰から頂いたでしょうか。(3;ガラテヤ1:11－12を参照に)
6. 福音はどの四つの事を内容としますか。(3－5)
7. 福音の歴史的な事実は私たちの人生にどう適用されますか。(3－5)
8. 復活のイエス様は誰らに現れましたか。(5－8)
9. パウロはキリスト者の死について「眠る」と言う表現を使います。なぜでしょうか。(6, 18, 51; ルカ8:52; ヨハネ11:11－14; 1テサ4:13－17を参照に)
10. パウロは過去の罪が赦されたにも関わらず心の痛みを持っていました。それはどのような痛みだったのでしょうか。(9; ガラテヤ1:13) その痛みはどのような影響を及ぼしたのでしょうか。(1テモテ1:12－14)
11. パウロは自分自身の事をどう見ていましたか。(10) 私たちの自己イメージは何に基づきますか。

12. パウロはすべての使徒たちが同じ福音を述べ伝えている事をどうして協調しましたか。

死者の復活 15:12-34

13. 私たちにも福音の内容を縮小する誘惑があります。どんなところにおいででしょうか。(12)
14. 死者の復活とキリストの復活はどのような関係にありますか。(13, 16)
15. キリスト信仰はどうしてキリストの歴史的な復活によって成り立っていますか。(14, 17, 19)
16. イエスを死者の中から蘇らせたのは誰ですか。(15) 私たちを蘇らせるのは誰ですか。
17. イエス・キリスト様の復活と罪の贖いはどのように結び合わされていますか。(17-18)
18. イエ様が初穂としての役割はどういう意味でしょうか。(20, 23; 使徒26:23; ローマ8:29; コロサイ1:15-18; 黙示録1:5を参照に)
19. 神様がイエス・キリスト様において人間になられたのは何故ですか。(21)
20. アダムとイエス・キリスト様はどのように結びつけられていますか。(22, 45-49; ローマ5:12, 16-19を参照に)
21. 復活はどのような順番で行われますか。(23-24; 黙示録20:4-5, 12-13を参照に)
22. 「終わり」とはどういう意味ですか。(24-25, 51-55; マタイ24:6-8, 14; 28:20; 1コリ1:8; 1ペテロ4:7-8を参照に)
23. キリストはそのすべての敵にどのような勝利を得ますか。(25, 27; 黙示録19:11-16, 20; 20:9-10, 13-14を参照に)
24. 死はどうして最後の敵ですか。それに対する勝利はどのようなものになりますか。(26, 53-56)
25. 御子の父に対する従順はどのように現れますか。(28; ヨハネ5:19-30を参照に)
26. 死者に代わって洗礼を受ける事はなぜ行われましたか。(29)
27. 福音のために危険と死にさらされるまで働く動機は何ですか。(30-32)
28. この世の死に対する考え方はどんなものでしょうか。(32)
29. どうしてキリスト者にもこの世の考え方に流される危険がありますか。(33)
30. コリント教会で復活に対する姿勢がうやむやになった結果何が起こりましたか。(34) 私たちの状態はどうでしょうか。

復活の体 15:35-58

31. 復活がどのふうにかかるかと言う質問の問題点はどこにありますか。(35-36)
32. パウロは今の体と復活の体の関係をどのような喩えで描写しますか。(37-41)
33. 天の体はどのようなものですか。(40-41; ルカ20:34-38; マタイ17:1-3; ヨハネ20:19-20; 21:13を参照に)
34. パウロは今の体と復活の体をどのような喩えペアーで描写しますか。(42-44)
35. 聖書は体をどう見えていますか。(44; コロ2:9を参照に)
36. 救われた人々の最終的な状態はどのようなものですか。(48-49; 1ヨハネ3:2を参照に)
37. 今の体と将来の体はどんなものですか。(50, 53-54)
38. すべての人が死ぬという事は確かですか。もしそうでないなら、なぜですか。(51-52; 2列王記2:11; 1テサ4:13-17を参照に)
39. 死と罪はどのような関係にありますか。(56)
40. 罪はどのように律法から力を得ますか。(56; ローマ7:7-20を参照に)
41. 神様は私たちにどのような勝利を与えて下さいますか。(57)

42. 復活の事実は毎日の生活にどのような影響を及ぼしますか。(58)

16章

エルサレム教会の信徒のための募金 16:1-4

1. 貧しいキリスト者を支援する募金はどうすべきですか。(1-2)
2. コリント教会がエルサレム教会まで愛の贈り物を届けたのは何故大切でしたか。(3-4; 2コリ9:12-14を参照に)

旅行の計画 16:5-12

3. パウロにはどのような旅行計画がありましたか。(5-9)それらはその通りに実現しましたか。(2コリ1:15-17, 23-24)
4. パウロの働きに何がよく起こりましたか。(9) 困難にぶつかっても後退しなかった理由はなんでしたか。
5. 教会が巡回伝道者に対してどう対応すべきですか。(10-11)
6. パウロは同労者たちに命令しないで、ただアドバイスを与えただけは何故だったでしょうか。(12)

結びの言葉 16:13-24

7. パウロはどのような強さを私たちに願っていますか。(13-14)
8. 霊的な指導者たちに対してどのような姿勢で臨むべきですか。(15-16; ヘブル13:7, 17を参照に)
9. よく奉仕する兄弟姉妹にどのように評価を表すべきですか。(17-18)
10. 挨拶を送る意味はどこにありますか。(19-20)
11. 聖なる口付けは何ですか。キリスト者同士でどのような挨拶をすべきでしょうか。(20; ヨハネ20:19を参照に)
12. パウロはその手紙をどのように書きましたか。(21)
13. 主を愛しない人々に呪いを願うのはどういう意味でしょうか。(22)パウロはその呪いを何に結びつけましたか。
14. 「マラナタ」はどういう意味ですか。(22)
15. パウロの挨拶の二つの事はなんですか。それらは互いにどのような関係にありますか。(23-24)

コリント人への第2手紙

著者：

著者はパウロです(1:1)。

宛先：

ギリシヤにあったコリントの教会(信者の群)。パウロは、おそらく、コリント人に宛てた彼の第1の手紙を春に書き、この第2の手紙を、同じ年の冬になる前に書きました。この手紙は、マケドニヤから書かれたと思われます。第2の手紙の1章1節は、この手紙がローマ領アカヤにいる信者たちにも、読まれるべきものであることを示しています。

背景：

パウロが第1の手紙を書いた後に、教会に間違った教えが入り込みました。偽りの教師たちはまた、人々がパウロに敵対するようにしました。パウロは、コリントの人々に、彼の務めについて語り、彼らに助言を与えました。

メッセージ：

- パウロは、イエスについての真理を人々に語る務めを彼に与えられたのは神であることを、コリントの教会に確信させた。パウロは、すべてのことについて神に栄光を帰し、自分自身に注目させようとはしなかった。
- パウロは、自分のもっているものを喜んで分け与えて、貧しい者たちを助けることを、人々に勧めた。
- パウロは、人々をイエスから引き離す偽りの教師たちについて、彼らに警告した。

心に留めるべきみことば：

1:3、4、3:18、5:7、10、17、9:6、7

コリント人への手紙第2におけるキリスト

イエス・キリストは、パウロをその務めに召されたお方です。イエスはまた、その務めを遂行するパウロを見守られました。イエスは、主であり(4:5)、クリスチャンの慰め(1:5)であるお方として示されています。イエスは、クリスチャンに力を与えてくださるのです(12:9)。

コリント人への第2手紙のアウトライン

第1部 悔い改めた教会へ(1-9章)

1. 悔い改めた教会への言葉(1:1-2:13)

(1) あいさつ(1:1-2)

(2) 慰めの神への賛美(1:3-11)

a. 苦難と慰めの意味(3-7)

b. 苦難の経験(8-11)

(3) 訪問計画変更の弁明(1:12-2:13)

- a. 信頼を求めて (1:12-14)
- b. 神の真実を体現するパウロ (1:15-22)
- e. 訪問延期の意図 (1:23-2:4)
- d. 悔い改めた者への赦し (2:5-11)
- e. マケドニヤにきた事情 (2:12-13)

2. 使徒論 (2:14-6:10)

- (1) 使徒職の重さ (2:14-17)
- (2) 新しい契約に仕える者 (3:1-4:6)
 - a. 使徒職に任じられた証拠 (3:1-6)
 - b. 新しい契約に仕える栄光 (3:7-18)
 - c. 栄光の福音に仕えるパウロ (4:1-6)
- (3) 苦難の中での使徒職 (4:7-5:10)
 - a. 宝を盛った土の器 (4:7-15)
 - b. 死を超える希望 (4:16-5:10)
- (4) 真正の使徒 (5:11-6:10)
 - a. 主の愛に動かされる者 (5:11-15)
 - b. 和解の福音の使者 (5:16-19)
 - c. 和解の務めの実践 (5:20-6:2)
 - d. 実際活動での使徒職の証明 (6:3-10)

3. 悔い改めた教会への言葉 (6:11-7:16)

- (1) 関係修復の訴え (6:11-7:4)
- (2) 悔い改めを聞いた喜び (7:5-16)

4. 献金の訴え (8:1-9:15)

- (1) マケドニヤの模範から (8:1-7)
- (2) 献金の動機 (8:8-15)

- (3) 兄弟たちの派遣 (8:16-9:5)
 - a. 派遣する兄弟たちの推薦 (8:16-24)
 - b. 兄弟たちを派遣する理由 (9:1-5)
- (4) 献金のもたらず祝福 (9:6-15)

第2部 敵対者たちを念頭に (10-13章)

1. パウロの權威を軽んじる者へ (10:1-18)

- (1) パウロの使徒としての威厳 (1-6)
- (2) パウロを軽んじる者へ (7-11)
- (3) 定められた限度の中で (12-18)

2. 偽使徒と対決しての誇り (11:1-12:13)

- (1) 自分を誇る理由 (11:1-4)
- (2) 攻撃への反撃 (11:5-15)
- (3) 愚かな誇りの前書き (11:16-21a)
- (4) 愚か者としての誇り (11:21b-12:10)
 - a. 主のしもべとしての労苦 (11:21b-33)
 - b. 幻と啓示と与えられた弱さ (12:1-10)
- (5) 結び (12:11-13)

3. 3度目の訪問に際して (12:14-13:10)

- (1) 金銭問題について (12:14-18)
- (2) 訪問に際しての懸念 (12:19-21)
- (3) 訪問に際しての警告 (13:1-10)

4. 結び (13:11-13)

み言葉のしおり

コリント人への第2手紙

- 1) 私たちの主イエス・キリストの父なる神、慈愛の父、すべての慰めの神がほめたたえられますように。神は、どのような苦しみのときにも、私たちを慰めてくださいます。こうして、私たちも、自分自身が神から受ける慰めによって、どのような苦しみの中にいる人をも慰めることができるのです。 コリント人への第2手紙 1章 3～4節

ほんとうに、自分の心の中で死を覚悟しました。これは、もはや自分自身を頼まず、死者をよみがえらせてくださる神により頼む者となるためでした。 コリント人への第2手紙 1章 9節

2) しかし、神に感謝します。神はいつでも、私たちを導いてキリストによる勝利の行列に加え、至る所で私たちを通して、キリストを知る知識のかおりを放ってくださいます。 コリント人への第2手紙 2 章 14 節

3) 主は御霊です。そして、主の御霊のあるところには自由があります。私たちはみな、顔のおおいを取りのけられて、鏡のように主の栄光を反映させながら、栄光から栄光へと、主と同じかたちに姿を変えられて行きます。これはまさに、御霊なる主の働きによるのです。 コリント人への第2手紙 3 章 17～18 節

4) 「光が、やみの中から輝き出よ。」と言われた神は、私たちの心を照らし、キリストの御顔にある神の栄光を知る知識を輝かせてくださったのです。私たちは、この宝を、土の器の中に入れているのです。それは、この測り知れない力が神のものであって、私たちから出たものでないことが明らかにされるためです。 コリント人への第2手紙 4 章 6～7 節

すべてのことはあなたがたのためであり、それは、恵みがますます多くの人々に及んで感謝が満ちあふれ、神の栄光が現われるようになるためです。 コリント人への第2手紙 4 章 15 節

今の時の軽い患難は、私たちのうちに働いて、測り知れない、重い永遠の栄光をもたらすからです。私たちは、見えるものにではなく、見えないものにこそ目を留めます。見えるものは一時的であり、見えないものはいつまでも続くからです。 コリント人への第2手紙 4 章 17～18 節

5) そういうわけで、肉体の中にあろうと、肉体を離れていようと、私たちの念願とするところは、主に喜ばれることです。なぜなら、私たちはみな、キリストのさばきの座に現われて、善であれ悪であれ、各自その肉体にあってした行為に応じて報いを受けることになるからです。 コリント人への第2手紙 5 章 9～10 節

というのは、キリストの愛が私たちを取り囲んでいるからです。私たちはこう考えました。ひとりの人がすべての人のために死んだ以上、すべての人が死んだのです。また、キリストがすべての人のために死なれたのは、生きている人々が、もはや自分のためにではなく、自分のために死んでよみがえった方のために生きるためなのです。 コリント人への第2手紙 5 章 14～15 節

だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。これらのことはすべて、神から出ているのです。神は、キリストによって、私たちをご自分と和解させ、また和解の務めを私たちに与えてくださいました。すなわち、神は、キリストにあって、この世をご自分と和解させ、違反行為の責めを人々に負わせないで、和解のことはを私たちにゆだねられたのです。こういうわけで、私たちはキリストの使節なのです。ちょうど神が私たちを通して懇願しておられるようです。私たちは、キリストに代わって、あなたがたに願います。神の和解を受け入れなさい。神は、罪を知らない方を、私たちの代わりに罪とされました。それは、私たちが、この方にあって、神の義となるためです。 コリント人への第2手紙 5 章 17～21 節

6) 私たちは神とともに働く者として、あなたがたに懇願します。神の恵みをむだに受けないようにしてください。神は言われます。「わたしは、恵みの時にあなたに答え、救いの日にあなたを助けた。」確かに、今は恵みの時、今は救いの日です。 コリント人への第2手紙 6 章 1～2 節

不信者と、つり合わぬくびきをいっしょにつけてはいけません。正義と不法とに、どんなつながりがあるでしょう。光と暗やみとに、どんな交わりがあるでしょう。 コリント人への第2手紙 6 章 14 節

- 7) 神のみこころに添った悲しみは、悔いのない、救いに至る悔い改めを生じさせますが、世の悲しみは死をもたらします。 コリント人への第2手紙 7 章 10 節
- 8) あなたがたは、私たちの主イエス・キリストの恵みを知っています。すなわち、主は富んでおられたのに、あなたがたのために貧しくなられました。それは、あなたがたが、キリストの貧しさによって富む者となるためです。 コリント人への第2手紙 8 章 9 節
- 9) ひとりひとり、いやいやながらでなく、強いられてでもなく、心で決めたとおりにしなさい。神は喜んで与える人を愛してくださいます。神は、あなたがたを、常にすべてのことに満ちたりて、すべての良いわざにあふれる者とするために、あらゆる恵みをあふれるばかり与えることのできる方です。 コリント人への第2手紙 9 章 7～8 節
- 10) 誇る者は、主にあって誇りなさい。 コリント人への第2手紙 10 章 17 節
- 11) だれかが弱くて、私が弱くない、ということがあるでしょうか。だれかがつまずいていて、私の心が激しく痛まないでおられましょうか。もしどうしても誇る必要があるなら、私は自分の弱さを誇ります。 コリント人への第2手紙 11 章 29～30 節
- 12) また、その啓示があまりにもすばらしいからです。そのために私は、高ぶることのないようにと、肉体に一つのとげを与えられました。それは私が高ぶることのないように、私を打つための、サタンの使いです。このことについては、これを私から去らせてくださるようにと、三度も主に願いました。しかし、主は、「わたしの恵みは、あなたに十分である。というのは、わたしの力は、弱さのうちに完全に現われるからである。」と言われたのです。ですから、私は、キリストの力が私をおおうために、むしろ大いに喜んで私の弱さを誇りましょう。ですから、私は、キリストのために、弱さ、侮辱、苦痛、迫害、困難に甘んじています。なぜなら、私が弱いときにこそ、私は強いからです。 コリント人への第2手紙 12 章 7～10 節
- 13) あなたがたは、信仰に立っているかどうか、自分自身をためし、また吟味しなさい。それとも、あなたがたのうちにはイエス・キリストがおられることを、自分で認めないのですか。——あなたがたがそれに不適格であれば別です。—— コリント人への第2手紙 13 章 5 節

主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、あなたがたすべてとともにありますように。 コリント人への第2手紙 13 章 13 節

コリント人への第二手紙の学びの質問

コリント人への第二手紙 1章

挨拶 1:1-2

1. パウロは自分とテモテを描写しますか。(1)
2. この手紙の受け取る人々は誰でしたか。彼らはどう描写されますか。(1) あなたは自分自身を誰と思っていますか、自分の目で見てあなたのアイデンティティーはどのようなものですか。
3. 恵みと平安はどういう内容ですか。それらを父なる神様と主イエス様との関係の中にしか見つからないのは何故ですか。(2) 恵みはあなたの日常生活の中にどういう意味を持ちますか。平安はどうですか。

慰めの神 1:3-11

4. 賛美の本質は何ですか。それは感謝とどう違いますか。(3) パウロはどの二つの賛美の理由を挙げますか。(エペソ 1:3 と 1 ペテロ 1:23 を参照に) あなたの今日の賛美は何についてですか。
5. 神様の慈愛と憐みはどんなものですか。(3) 自分の経験から実例を挙げて下さい。(詩篇 103:8-10; ヘブライ 2:17; ルカ 13:30-37 を参照に)
6. 神様はその者をどのように慰めて下さいますか。(3-4) それはどのぐらいの範囲で行われますか。(ヨハネ 14:16-17, 26 と 1 ヨハネ 2:1 を参照に)
7. 主から頂いた慰めは他の人々にどの様に影響しますか。(4,6) カウンセリングが出来る人にどうなれますか。
8. キリスト者が受ける慰めの量はどの位ですか。(5,7)
9. キリスト者が直面するキリストの苦しみはどんなものですか。それらの中にどの様にやっつけていけますか。
10. パウロはコリントの教会に対してどうして動かす事の出来ない希望を抱きましたか。(7)
11. 他のキリスト者の苦難の体験談を聞くのはどうして役に立ちますか。(8)
12. 私たちにほぼ絶望的に感じる試練を許す神様の目的は何ですか。(9-10)
13. あなたの将来の希望の根拠はどこにありますか。(10)
14. キリスト者は互いの執り成しの支援をいつ必要ですか。(10-11)
15. 神様が与えて下さる祈りの答えの目的は何ですか。(11) 今日は神様にどのような恵みのために感謝しますか。

パウロの旅行計画の変化 1:12-2:4

16. パウロのキリスト者としての歩みはどのような性質のものでしたか。それについてよい良心で何を言う事が出来ましたか。(12) 「聖さと神から来る誠実さ」は何を意味しますか。私たちはどうですか。(1 テサロニケ 2:10 を参照に)
17. パウロの歩みを導いて動かした力は何でしたか。(12) あなたの人生の最も深い動機は何ですか。
18. 聖書を読むときにどんな危険がありますか。(13) 人間関係においても間違った解釈をどう避けばよいのですか。
19. パウロは他の人との関係においても何の日をいつも目の前にして歩みましたか。(14) 私たちの人間関係で主の再臨の日はどんな役割を果たすでしょうか。
20. パウロの旅の元の計画はどんなものでしたか。どんな目的とこんな確信をもってコリント行き計画を立てたでしょうか。(15-16)
21. パウロの計画通りには行きませんでした。私たちの計画と神様の導きはどんな関係にありますか。(17, 使徒 16:6-10 を参照に) 自分の経験から例を挙げて下さい。

22. パウロはその正直さが疑われる時に何に訴えましたか。(18,23) あなたの計画が上手く行かなかった時に他の人にその計画で本気であった事をどう納得させますか。
23. パウロがこの手紙を書きながら目を主イエス様に向けていたことがどこから分かりますか。(19)
24. もう既に実現された神様の計画とこれからの計画はどんなものですか。(19-20)
25. 神様の計画はどのように実現しますか。それを誰が実現させますか。(20) あなたは今日どの神様の約束を頼りにしますか。それが実現する事がどうして分かりますか。
26. 「アーメン」はここでどんな意味があるでしょうか。(20) 聖書の他の所でどんな意味でも使われていますか。(黙示録 3:14 を参照に)
27. キリスト者の救いの確信は何によりますか。(21-22; 1 コリント 1:8 と 1 ペテロ 5:10 を参照に)
28. 神様からの油注ぎは何ですか。(21; 1 ヨハネ 2:27 を参照に)
29. 神様はキリスト者にどのような証印を押されましたか。それは何のためですか。(22; ローマ 8:15-16; エペソ 1:13-14; 4:30 を参照に)
30. パウロはどうしてコリント行き旅を延期しましたか。(23) 私たちはどのような理由で計画を変更しますか。実例を挙げて下さい。
31. 牧会者とカウンセラーの使命はどんなものですか。(24) どのようになる危険性がありますか。間違った霊的な支配を見たことがあったら例を挙げて下さい。それに対してどう反応すべきですか。

コリント人への第二手紙 2章

1. パウロはコリント人への第一手紙の中にある教会メンバーに対して教会戒規を適用するアドバイスを挙げました。(1 コリント 5:3-5) 教会はそのアドバイスに従ったようですが、まだプロセスは部分的に未完成だったようです。そのプロセスにもっと時間を与えるためにパウロはコリント訪問を延期したようです。どうしてそのようにしましたか。(1) 何時とどのように人に悔い改めるに時間を与えるべきでしょうか。
2. 教会戒規の目的は何ですか。(2; 1 コリ 5:5 を参照に) 現代の私たちが悔い改めないで罪の中にいる兄弟姉妹を責めたくないし、責める事も出来ない事は何故でしょうか。正しい方法は何ですか。(マタイ 18:15-18 を参照に)
3. キリスト者の喜びはどうであるべきですか。(3) 互いの喜びを深める方法は何でしょうか。私たちの喜びの源は何ですか。
4. パウロはコリントのキリスト者に前の手紙を書いた時の苦しみを心を開いて描写しますが、その苦しみの理由は何だったでしょうか。(4) 人々と寄り添ってキリストの愛を伝えたいなら何を覚悟しなければなりませんか。

罪を犯した人に対する赦し 2:5-11

5. 教会戒規を使う時にどのようなプロセスを通過しなければならないのですか。(5-8)
6. 教会戒規はどのような姿勢で行われるべきですか。(5)
7. 教会戒規を受けて、悲しくなって、罪を認めて、悔い改めた人に対してどのような姿勢を示すべきですか。(7-8)
8. 教会戒規はどうしてやらなければならないのですか。(9) それを怠ったらどんな結果になりますか。それを実行する事は誰に対しての従順ですか。
9. 公の罪は多くの人に悲しと苦しみをもたらせますから、それを公に責めるべきですし、公に悔い改めるべきです。その後ですべての関係者が公に何をすべきですか。(10) 公の罪に対して個人的な懺悔と赦しの宣言で十分ですか。

10. 私たちが悔い改めた人を赦した事を教会にどう報告したらよいのですか。(10) 赦しは最終的に誰の御前で行われますか。
11. もし私たちが赦さない、恨む気持ちのままに留まるなら、何が起こり得るのですか。(11) 悪魔の戦略はどんなものですか。(マタイ 16:23; マルコ 4:15; ヨハネ 8:44; 2コリ 11:14; 2テサ 2:9 を参照に)

キリストによる勝利の行列 2:12-17

12. パウロにとってはトロアでよく始まった伝道より最も大切な事は何でしたか。(12) 私たちにとって働きか人々かどちらが大切ですか。
13. キリストによる勝利の行列はどのようなものですか。(14) 勝利者は誰ですか。勝利者の後で囚人として従う者は誰ですか。「いつも」と「至る所で」と言う表現は何を意味するでしょうか。
14. 私たちがキリストの香である事はどういう意味でしょうか。(15) ある人々が救われる、又他の人々は滅びるという意識をどうして失ってはいけません。
15. 私たちのキリストについての証しはどのような影響を及ぼしますか。(15,16)
16. キリストの香であるためにどのような相応しさが問われますか。
17. どの二つの姿勢で神様のみ言葉を伝える事が出来ますか。(17;ピリピ 1:15-18; 1テサ 2:3-5 を参照に)金の為に牧会をする人と大集会で自分に大きな献金を集める成功の神学者たちにどのような態度を取るべきですか。他方で聖書は福音の働き人がその働きに対して生活が与えられるべきと言う教えをどう考えるべきでしょうか。

コリント人への第二手紙 3章

新しい契約の栄光 3:1-18

1. 初代教会で推薦状は何に必要でしたか。(1) 色々の国から来る説教者に対してどのような対応を取るべきですか。
2. パウロの推薦状は誰でしたか。(2) 人々は私たちの生き方から何を読み取れるでしょうか。
3. キリストの推薦状はどこに書かれていますか。(3) どのように書かれていますか。
4. パウロはどのような確信について 4 節で書いていますか。(4-6) 神様はあなたを他の人の救いの為に用いる事が出来る確信を持っていますか。
5. あなたの考え方や結論を導く方法は何によりますか。(5)
6. パウロはどの二つの務めについて 6-11 節で語りますか。
7. パウロは旧約聖書の律法とそれを仲介したモーセをどうして死と定めと務めと言いますか。(6-7)
8. 律法にはどのような栄光がありますか。(7)
9. 新しい契約の務めの影響は何でしょうか。(6,9)
10. 新しい契約の務めにはどんな栄光がありますか。(8,10-11) パウロはどうして両方について務めと言う言葉を使いますか。
11. 律法と福音を比べたら、律法はどんな結果になりますか。(10,11) 信仰者は自分の生き方の中に律法と福音をどう区別すべきでしょうか。両方は必要ですか。互いにどんな関係にあるべきですか。
12. 福音伝道はどう行うべきですか。(12) 大胆さの理由は何ですか。隠れクリスチャンの生き方はどうして不可能ですか。
13. モーセはどうして顔におおいを掛けたのでしょうか。(13;出エジプト 34:28-35 を参照に)
14. パウロはモーセの顔のおおいを何に例えられますか。(14,15) 私たちにもみ言葉を聞きながら頑なになる恐れがあるのでしょうか。

15. 人が正しく聖書のみ言葉を理解するために何が必要ですか。(15-16)
16. もし律法が人を奴隷状態にさせるなら、なぜ福音は自由を与えますか。(17)
17. 聖霊による自由はどんなものですか。(17;ヨハネ 8:31-32,36;ガラテヤ 5:1,13 を参照に)
18. どのような鏡を通して今主の御顔を見る事が出来かすか。(18; 1コリ 13:12 を参照に) 聖書をどのように読むべきですか。
19. キリストの栄光を見ると何が起こりますか。(18; 1 ヨハネ 3:2; 黙示録 22:4-5 を参照に)
20. 清め、聖化はどのようなものですか。それはどう行われますか。(18)その目的は何ですか。

コリント人への第二手紙 4章

キリストの福音の光 4:1-6

1. 福音の僕は何故勇気を失う必要がありませんか。(1,16) 何が私たちをがっかりさせますか。
2. 福音伝道の目指すところは何ですか。(2) どのような間違った関心を買う手段を避けるべきですか。
3. み言葉に留まるのは何故大切ですか。(2)
4. 福音の光の伝達の妨げは何ですか。(3-4)
5. 不信仰で福音を拒否する人の運命は何ですか。(3)
6. 福音の光はどんな性質を持っていますか。(4) キリスト様はどんなお方ですか。
7. 福音の内容は何ですか。(5) 私たちはよく福音のメッセージについてかたりますが、何故福音のお方からそれほど語らないのでしょうか。
8. どのように私たちは福音の光に預かりますか。(6) あなたはキリストの光をどのように周りに放ちますか。

土の器の中に 4:7-15

9. 私たちの土の器の中にどのような宝がありますか。(7)
10. 自分の土である性質を何故知る必要がありますか。(7; 12:7-10 を参照に)
11. パウロの弱さの中に神様の力がどのように働きましたか。(8-12)
12. 「イエスの死をこの身に帯びる」事はどんな意味でしょうか。(10-11) それはどうして必要ですか。(ローマ 6:2-11 を参照に)
13. 私たちの死はどうして他の人の命になりえますか。(12) どういう事でしょうか。イエス様に従う人はどうして自分を否定して、自分の十字架を背負うべきでしょうか。
14. 聖霊様が内住する印は何ですか。(13; ローマ 10:9-15 を参照に)
15. 信仰者の歩みの目標は何でしょうか。(14,17) あなたはイエス様の再臨と身体の復活にどのように準備しますか。その準備の中に兄弟姉妹たちの事にどう配慮しますか。
16. 福音伝道の最終目的は何ですか。(15; エペソ 1:6,12,14 を参照に)

栄光の希望 4:16-5:10

17. 内なる人はどのように毎日新たにされますか。(16) それはどうして可能ですか。
18. 人生の苦難と苦しみを何に比べるべきですか。(17) 艱難はどうして短くて軽いのですか。(マタイ 11:28-30 を参照に)
19. 見えないものに目を向けるのはどう出来ますか。(18; ヘブル 11:1-3,13 を参照に)

コリント人への第二手紙 5章

1. パウロは体の死と復活の体についてどのような描写を使いますか。(1-4)
2. 今の地上の歩みはどんなものですか。(2-4) あなたはどのような困難に遭って来ましたか。
3. パウロは地上の体にいる間に裸である経験を何故したでしょうか。(3)
4. パウロは肉体的な死を経験しないで、生きたままでイエス様の再臨の時に一挙に引き上げられる事を優先したかったでしょう。どうしてでしょうか。(4; 1コリ 15:51-54; 1テサ 4:13-18 を参照に)
5. 肉体的な死の前によく病氣や痛みがありますが、どうしてでしょうか。それらにどう耐えられるでしょうか。(5-6; 1:22; エペソ 4:30 を参照に)
6. キリスト者の安心感の根拠は何ですか。(6,8)
7. 天国を天国にするのは何ですか。(6,8)
8. 信仰と見る事は互いにどんな関係にありますか。(7; ヨハネ 20:29; ヘブル 11:1 を参照に)
9. あなたはどちらを優先しますか。地上の使命を続ける事ですか、それとも天国に主という事ですか。何故ですか。(8; ピリピ 1:21-24 を参照に)
10. 天国に対する憧れは地上の生き方にどう影響すべきですか。(9; 2 ペテロ 3:10-12 を参照に)
11. キリストの裁きの座が現れる時に何が行われますか。(10; マタイ 25:31-46; ヨハネ 5:24-29; ローマ 14:10; 黙示録 22:12 を参照に) キリストの裁きの座は最後の裁きと同じですか、それとも第一復活、言い換えれば千年王国の前のキリスト者の復活の時の別の裁きですか。あなたにどのような裁きが下されるでしょうか。

和解の務め 5:11-6:2

12. 伝道の目的は何ですか。その動機は何ですか。(11) あなたは人を信仰に導く事が出来ますか。事例を挙げて下さい。
13. パウロはコリントのキリスト者にどのような誇りの理由を提供しましたか。(11-12) あなたは模範的なキリスト者を知っていますか。そのような人のどのような性質を誇りに思う事が出来ますか。あなた自身は模範になれますか。
14. 感情的なエネルギーを発散する時にどの二つの方向を目の前にすべきですか。(13) 福音宣教でどのように怒りをも自己自制も用いる事が出来ますか。両方の状態もなぜ役に立ちますか。
15. パウロの怒りと自己自制の動機は何でしたか。(14)
16. キリストの死はそのすべての者に何を意味としますか。(14-15; ローマ 5:15-19; 6:3-14 を参照に)
17. 「キリストの愛が私たちを取り囲んで(駆り立てて、制約して、無理矢理にさせて、要求して)いる」と書いてありますが、その愛はどうしてそのように働きますか。また何をするようにさせますか。(14; 1コリ 9:16 を参照に)
18. (何ではなく)誰があなたの人生の目的ですか。(15) あなたの人生は誰ののですか。
19. あなたは周りの人々をどう見えていますか。(16) パウロはイエス様にその公の活動の時に会ったでしょうか。パウロのイエス様に対する態度は何時又どのように変わりましたか。(使徒 9:3-18 を参照に)
20. キリストの内にある新しい創造は何を指しますか。(17) 過ぎ去った古いのは何でしたか。(イザヤ 43:18-21; 黙示録 21:5 を参照に)
21. 新しい創造は誰からきますか。(18)
22. 新しい創造に預かるには何が必要ですか。(18)
23. キリストの和解は何を含めますか。(18-19,21)
24. 和解の務めの内容は何でしょうか。(18,20)
25. 和解の言葉の内容は何ですか。(19,20; ヨハネ 20:21-23)

26. 大使の使命は何ですか。(20) 大使の権威はどのようなものですか。
27. 信じる人が義と認められるのは何に基づきますか。義と義とされると義と認められるのはどういう意味ですか。
- (21)

コリント人への第二手紙 6章

1. 神様の恵みと平安に預かるのはどう行われますか。(5:20; 6:1-2)
2. 神様の恵みはいつ無駄になりますか。(1)
3. 和解の言葉とともに救いを頂くには何時が最もよい時ですか。(2)
4. 救いの日はあなたの人生に何時でしたか。

使徒の困難 6:3-13

5. 主のための働きに於いて働き人の生き方がどのくらい大切ですか。(3)
6. 神様の僕にどのような資格が問われますか。(4,6,7) どうしてですか。忍耐はどのように成長しますか。
7. 神様の働きにどのような困難にぶつかりますか。(5,8,9,10) 私たちが直面した困難はパウロの闘いに比べるとどの位ですか。
8. 福音はどのような手段で広がりますか。(6,7)
9. 悲しみの中にどう喜べますか。(10)
10. 福音伝道はどのくらいお金によりますか。(10) 私たちの本物の財産は何ですか。
11. コリントのキリスト者の心の狭さはどんなものだったでしょうか。(11-13) 私たちはどのような心の広さを必要としますか。
12. 自分の体験について教会の中にオープンに語り合うのはどうして大切ですか。(11)

生きる神の神殿 6:14-7:1

13. キリスト者はどのような間違った結びつきを捨てるべきですか。(14-15) このことは商売を一緒にする人々に当てはまりますか。結婚はどうですか。(ネヘミア 13:23-27 を参照に)
14. どうして偶像礼拝と妥協してはいけませんか。(15; 1列王記 18:21; 1 コリ 10:20-21 を参照に) キリスト教以外の宗教の代表者と一緒にお祈りをするのは良い事ですか。
15. 神様の神殿は何ですか。神様はどこで住んでおられますか。(16; レビ記 26:11; エレミヤ 31:33; 1 コリ 6:19; 10:14 を参照に)
16. 偶像礼拝と妥協する恐れがあったらどんな措置を取らなければなりませんか。(17) 背教的クリスチャンとどう関わるべきですか。
17. 背教的な関係を捨てるにはどのような約束が与えられますか。(18) あなたのキリスト者としてのアイデンティティーはどのようなものですか。

コリント人への第二手紙 7章

1. 神様の神殿であることがどのようにキリスト者と教会の生き方に影響すべきです。(1)
2. 清め、聖化の本質は何ですか。(1; ヨハネ 15:3,5,8 を参照に)
3. 霊的な成長を可能にするのは何ですか。(1; 2 ペテロ 1:3-8 を参照に)
4. 清めは何時完全になりますか。(1)

5. キリスト者の生き方において神様に対する恐れはどのような役割を果たしていますか。(1;5:11 とヘブル 12:28 を参照に)

コリント教会の悔い改め 7:2-16

6. パウロは「だれからも利をむさぼったことがない」と言えたのは何故ですか。(2;使徒 20:33-35;1 コリ 9:14-15,18-19 を参照に)
7. 難しい問題に取り組む時にキリスト者同士の交わりはどのくらい深いものですか。(3) あなたは兄弟姉妹とどのような交わりを持ちますか。
8. コリントの教会に様々な問題があっても、パウロは彼らを信頼できたのは何故でしょうか。(4,16)
9. 艱難の最中でも喜べるのは何故でしょうか。(4;ピリピ 2:17-18;3:1 を参照に)
10. パウロは鉄人ではなく、生の人間で、外からの戦いと内面の恐れで悩んでいましたが、神様からどのような慰めと励ましを受けましたか。(5-7;使徒 18:9-11 を参照に) 主はあなたをどのように励ましますか。実例を挙げて下さい。
11. パウロはコリント教会の事で何を喜びました。(7) あなたは自分の教会のメンバーである意識がどのくらい深いのですか。教会の霊的な状態はあなたの心に喜びか悲しさをどのくらいさせますか。
12. どのような悲しみは最終的に喜びに変わりますか。(8-10) 逆はどのようなものですか。
13. 悔い改めはどうして必要ですか。(10)
14. 神様の御心の悲しみは何をもたらせますか。(11-12)
15. ある罪を犯した人に対して教会戒規の実施を要求したパウロの前の手紙はどのような結果をもたらせましたか。(12;1 コリ 5:1-5)
16. 兄弟姉妹の喜びと一緒に喜べるようにどうすればよいのですか。(13,16)
17. 教会の交わりはどうして大事ですか。(13) 兄弟姉妹をどのように励ませばよいのでしょうか。
18. 何故真実を語らなければならないのですか。(14) 出席していない人についてどう話すべきですか。

コリント人への第二手紙 8章

エルサレムのキリスト者のための援助 8:1-15

1. パウロは何のために他の教会の例を挙げますか。(1,8)
2. 豊かに与える事の秘訣は何ですか。(2)キリスト者の喜びの源は何ですか。あなたは今日何を喜びますか。
3. キリスト者の経済的な捧げ物はどのようなものであるべきですか。(3-4)現代の教会やミッションは支えを集める時に何に訴えますか。そのような訴えは私たちにどのような影響を及ぼしますか。
4. 純粋な捧げ物はどんなものですか。(5) 本質的な意味で捧げ物の対象は誰ですか。あなたは主に財布を捧げるか、それとも心を捧げますか。
5. 初めに熱心によく捧げるだけでは何故不十分ですか。その他に何が必要ですか。(6,11-12)
6. パウロは何を「恵みのわざ」と言いましたか。(6) どうして捧げる事に愛が大切ですか。(マルコ 12:42-44;1 コリ 13:3 を参照に)
7. 教会にどの様は賜物が豊かに与えられていますか。(7)それにしても何故捧げる勧めが必要ですか。フィンランドでよく次の言い回しが使われます:「人間の救いに於いて最後に悔い改めるのは財布です」と。本当ですか。
8. 献金の訴えにはどのような危険性がありますか。(8) 献金をした後で入れ過ぎたと後悔する気持ちは何を物語りますか。
9. 私たちの富は何処からですか。(9) 本当の豊かさは何ですか。

10. パウロは何故献金訴えでアドバイスに留まりましたか。(10)
11. 主の働きのためにどのぐらい捧げるべきですか。(11-12)
12. 愛はどのような平等な補う事を要求しますか。(13-14)
13. お互いを経済的に支え合う愛の狙いは何ですか。(15)

援助活動の実行者たち 8:16-24

14. 捧げ物を集める責任者にどのような性質が問われますか。(16-18)
15. 主の働きを熱心にするために何が必要ですか。(16-17) その熱心はどう働きますか。
16. 福音伝道と経済的な援助活動はどのような関係にありますか。(18)
17. 援助活動の実行者たちはどのような権限を必要としますか。(19)
18. 教会会計がどうして透明であるべきですか。(20-21) 会計監査の役割はどんなものですか。
19. パウロはテトスと他の兄弟たちをどう描写しますか。(22-23) 他の兄弟姉妹について意見が問われる時に彼らをどう描写すべきですか。
20. 肯定的な評価(フィードバック)は新たによい行いに励ますにはどのような役割を果たしますか。

コリント人への第二手紙 9章

援助活動の実施 9:1-15

1. 兄弟姉妹たちの助け合いはどうして分かり切った事であるべきですか。(1)
2. 私たちの熱心な愛の奉仕は他の人にどう影響しますか。(2)
3. 援助活動にどのような計画性が必要ですか。(3-4)
4. よい組織にはどのような利点がありますか。(5)
5. 「豊かに蒔く者は、豊かに刈り取る」と6節に約束されますが、豊かに捧げる事によってどのような祝福に預かりますか。
6. 捧げ物は何故明確な意思決定の上で行われるべきですか。どんな決定であるべきですか。どうしてですか。(7)
7. 捧げる献金額の大きさは何によるべきですか。(8) 私たちは誰から頂いたものを捧げますか。他の人に捧げる事が出来るために、あなたにとって十分な金額はどのぐらいでしょうか。
8. 神様は捧げることにいてどのようなお方ですか。そのよいものを誰に与えて下さいますか。(9)
9. 捧げる事と蒔く事と実を結ぶ事はどのように神の義(9)と信仰者の義(10)に関係しますか。義と認められる事と聖化はどのような関係にありますか。
10. 援助活動の最終目的は何ですか。(11-13,15)
11. 援助活動はキリスト者同士の交わりと福音伝道を強めるためにどう働きますか。(13) み言葉を伝えない援助活動はキリスト教的なものと言えないのは何故ですか。
12. 援助はそれを受ける側にどのような影響を及ぼしますか。(14) 執り成しの祈りの役割は何ですか。
13. 神様からの言葉に表わせないほどの賜物は何ですか。(15) あなたは今日神様にどの賜物のゆえに感謝していますか。

コリント人への第二手紙 10章

パウロの弁明 10:1-15

1. パウロはあるコリント教会のメンバーからどのような非難を受けたでしょうか。(1-2,7,10) 彼らに対する勧めは何に基づきますか。
2. 肉に従う生き方(この世の人々のような生き方)はどんなものですか。(2)パウロは受けら非難に本腰で答えたのは何故でしょうか。
3. 霊的な生き方は戦いですが、その中にどのような武器を使いますか。(4;エペソ 6:11-18 を参照に)
4. 霊的な武器はどのような力を持ちますか。(4-5)
5. 私たちの考え方がキリストに従うのは何故大切ですか。(5) 本当の考える自由は何ですか。正統的な教理を守る事は考える自由に属しますか。
6. 教会戒規が上手く働く条件は何ですか。(6)教会戒規が機能しない理由は何ですか。
7. キリストの者である確信(救いの確信)は何に基づきますか。(7) 私たちの信仰を疑ってるキリスト者に対してどのように接したらよいでしょうか。
8. 教会の中に霊的な権威をもつ指導者は何故必要ですか。(8) その権威は何処から与えられますか。パウロはどうして自分の権威をコリント教会に強調し負ければならなかったでしょうか。
9. コリント教会の事を考えたら、パウロの手紙の目的は何でしたか。(9-11)私たちにとってどうですか。
10. パウロに対して敵対する人々は自分自身をどのような測りで測ったでしょうか。パウロは自分をどのような測りで測ったでしょうか。(12-13) 私たちの自己評価は何に基づきますか。
11. パウロはその働き範囲を測る基準は福音宣教の拡大でしたが、私たちの働き範囲はどの位ですか。具体的にそれはどういう事ですか。(14)
12. 信仰の成長は私たちを信仰に導いた人との関係にどう影響しますか。(15;ヘブル 13:7,17 を参照に)正しい霊的な指導者はどんな人ですか。
13. パウロの目的は何でしたか。(16) 私たちは福音の働きで何を目指しますか。
14. キリスト者は何を誇るべきですか。(17)
15. 人の信頼性は何にありますか。(18) 主は人をどのように推薦しますか。人と教会の前であなたの最もよい推薦は何でしょうか。

コリント人への第二手紙 11章

パウロと偽教師ら 11:1-15

1. パウロは「愚かな」話し方で偽教師に対して攻撃した動機は何でしたか。(1-2)
2. 私たちは何故純粋な清さに歩まなければならないのでしょうか。(2)
3. キリスト者が特に何に対して警戒しなければならないのでしょうか。(3-4;コロサ 2:8;ヘブル 13:9;2 ペテロ 3:17 を参照に)
4. どのような「寛容」を避けるべきですか。(4)
5. 偽使徒はパウロに対してどのような攻めをしましたか。(6,7-8,11-12) その攻めは偽使徒自身について何を物語りますか。
6. パウロは後から来て巡回する偽使徒に対して自分の立場を弁明するのは何故大事でしたか。(5)
7. パウロの話し振りはどんなものでしたか。福音の奥義についてパウロはどのぐらいの知識を持っていましたか。(6;1 コリ 2:13;エペソ 3:4 を参照に)

8. パウロはなぜコリントで福音宣教で生活が出来る権利を用いませんでしたか。(7-12; 1 コリ 9:6-15 を参照に) 偽使徒はどうだったでしょうか。(20; 2 ペテロ 2:1-3 を参照に) 私たちはなぜ特に貪りの罪を避けるべきでしょうか。
9. 偽使徒はどのような人柄を持ちましたか。(13-15) パウロもイエス様も彼らについて沢山の警告をしなければならぬ理由は何だったでしょうか。
10. 悪魔はどのように人に近づきますか。(14)
11. 純粋な教師と偽教師の区別はどう出来ますか。(15; マタイ 7:15-23; 1 ヨハネ 4:1-3 を参照に) 現代の代表的な偽預言者は誰でしょうか。

パウロの苦難の道からの弁明 11:16-33

12. パウロは誇る事を愚かで主の御心に合わないと考えたにも関わらずどうして誇らなければならなかったのでしょうか。(16-19, 21) それはコリントのキリスト者の霊的な状態について何を物語りました。パウロが彼らのレベルに降りた事についてそれは何を物語りますか。霊的な指導者に一番優れた性質は何でしょうか。
13. キリスト者はどうして偽教師にお金を捧げるように騙されやすいでしょうか。(20)
14. 偽使徒は何を誇っていましたか。(22, 23; 使徒 22:3; ローマ 11:1; ビリピ 3:4-5 を参照に) 人の生まれは救いにおいて何か役割がありますか。他方で神様の選びの民に属するのはどのような意味を持ちますか。
15. パウロは福音伝道を進める中にどのような苦しみに遭いましたか。(23-27) 私たちは福音を伝えるために苦難を受ける覚悟が来ていますか。海外伝道でどのようなリスクに甘んじなければならないでしょうか。どうしてですか。身の安全をどのぐらい考えなければならないでしょうか。
16. パウロにとって伝道の中に最も苦しい事は何でしたか。(28-29) 主の働きの中にどのぐらいプライバシーを考えなければならないでしょうか。耐える限度を何処に置くべきでしょうか。
17. 正しい誇りはどんなものですか。(30; 12:10 を参照に)
18. 神様はパウロをダマスコの迫害の中からどのように救って下さいましたか。(32-33) 殉教を逃げるのは何故正しいですか。

コリント人への第二手紙 12章

パウロに示された事 12:1-10

1. パウロは役に立たないと分かりながらもどうして誇らなければならなかったのですか。(1) 誰にとってそれは有益でしたか。誰にそうではないのですか。私たちにどうですか。
2. イエス様はパウロを掲示を伝える使徒として選んで下さいました。パウロはそのメッセージをどのように主から頂いたでしょうか。(1; 1 コリ 11:23; ガラテヤ 1:11-12; エペソ 3:3-5 を参照に)
3. パウロは 2-5 節と 7 節で誰について語りましたか。(2-5, 7) 自分についてであったにも関わらず、何故第三者的に語りましたか。
4. コリント人への第二手紙はエペソから 56 年に送られたから、幻を見た時は 42 年で、その時にパウロはバルナバが彼をアンテオケアに招く前にタルソに住んでいました。第三の天にまで引き上げられた体験はどのようなものでしたか。パウロはその明確な性質をどうして説明する事が出来なかったでしょうか。(2-3; 黙示録 1:10-11 を参照に)
5. 第三の天は何ですか。(2)
6. パウロはどうして天で聞いた言葉を話すことが禁じられたでしょうか。(3; 黙示録 10:4 を参照に)
7. パウロはどうして誇りたくはなかったのですか。(5-6)

8. 神様はどうしてサタンの使いにパウロを苦しめる許可を与えられたのでしょうか。(7) サタンの使いはどのような痛みをさせましたか。主はあなたを謙遜なままで保たれるためにどのような手段を使われましたか。実例を挙げて下さい。
9. 主はどうしてパウロの欲しいままでその祈りに答えられなかったのでしょうか。(8-9)
10. 主の答えは何でしたか。(9) パウロにどのような恵みが十分でしたか。願う通りに行かなかった時に私たちにとって何が十分ですか。
11. 私たちの弱さの中に見える神様の力はどんなものですか。(9-10; 4:7 を参照に)
12. 弱さ、侮辱、苦痛、迫害、困難に甘んじる事をどう学ぶことが出来ますか。(10) それはあらゆる苦難の時に可能ですか。

パウロの教会に対する愛 12:11-21

13. パウロの誇りの理由は何だったのでしょうか。(11)
14. 本物の使徒の印は何でしたか。(12)
15. パウロのコリント教会に対する愛はどう現れました。(13)
16. パウロは教会の方から何を期待していましたか。(14) 私たちは霊的な指導者に対してどのような愛を示していますか。
17. 親には子供に対してどのような義務がありますか。(14)
18. 愛はどのように現れますか。(15) 愛はどうして相手からも愛を期待できますか。
19. 偽使徒たちはパウロとその同労者をどのように責めましたか。(16-18) 真実は何でしたか。
20. 他の人と接してもキリスト者は誰の御前で歩みますか。(19) 私たちの唯一の狙いは何ですか。
21. パウロは三回目のコリント訪問の前に何を恐れていましたか。(20-21)
22. 教会はいつもどのような罪を悔い改めなければなりませんか。(20) 私たちの教会の状態はどうですか。
23. 罪を犯すよりもっと酷い事は何ですか。(21)

コリント人への第二手紙 13章

自分を吟味する事 13:1-10

1. パウロの三回目のコリントへの旅の目的は何でしたか。(1-2; 12:20-21)
2. キリストがパウロを通して私たちにも語って下さることは何によって分かりますか。(3-4)
3. キリストの弱さと強さは何処に現れますか。(4; 1 コリ 1:21-25; ピリピ 2:6-11; 1 ペテロ 3:18; 黙示録 1:18 を参照に)
4. 自分が本物のキリスト者であり、キリストは自分の内に住んでおられる事がどのように分かりますか。(5-6,8) どのような吟味の方法が与えられていますか。
5. 自分自身をどのような測りで測るべきですか。(8)
6. パウロはコリントの教会に対してどのような事を願っていましたか。(7,9)
7. この手紙の目的は何ですか。(10)
8. どのような厳しさに主が許可を与えて下さいますか。(10)

最後の挨拶と祝福 13:11-13

9. 完全なものにどのような様になれますか。(11)
10. 神様のご臨在はどのような教会の中に見えるようになりますか。(11)

11. 神様が平和の神であることはどのような意味でしょうか。(11; 使徒 10:36; ローマ 16:20 を参照に)
12. キリスト者はお互いをどう挨拶すべきですか。(12) 挨拶の意味は何処にありますか。
13. 使徒の祝祷はどのように神様の三位一体と主が教会の中におられる事を反映しますか。(13)
14. 使徒の祝祷はどうして三位一体の第二の各位(キリスト)から始まりますか。父なる神様をどのように知ることが出来ますか。(13)
15. 使徒の祝祷をアロンの祝祷に比べて見て下さい。(13 と民数記 6:24-26)アロンの祝祷の中に三位一体の各位の順番はどうなっていますか。
16. 恵みと愛と交わりとはどういう意味ですか。(13)祝祷はあなたにとってどのような意味をしますか。

ガラテヤ人への手紙

著者：

著者はパウロです(1:1、5:2)。

宛先：

ガラテヤ地方の諸教会(信者の群)。パウロの手紙の中では、複数の教会に宛てられたのは、この手紙だけです。

背景：

パウロの第2次伝道旅行の期間、彼は病気のためにガラテヤに滞在し出発を延しました(4:13)。彼は、そこで、病気であったにもかかわらず、福音を宣べ伝え続けました。この期間に彼は、ガラテヤにいくつかの教会を発足させました。

メッセージ：

- パウロは、私たちは、神の律法に従うことによって、罪から救われるのではない、と説いた。私たちが救われるのは、ただイエス・キリストを信じる信仰による。
- クリスチャンがイエス・キリストを信じて救われると、聖霊がその人の内に住んで、罪を犯し続けないように助けてくださる。
- クリスチャンが罪を犯す代りに善を行うとき、他の人々は、そこに神の愛を見る。
- クリスチャンは、神を喜ばせることを行えるように、互いに、助け合うべきである。

心に留めるべきみことば：

3:26、5:13、6:2、9、10

ガラテヤ人への手紙におけるキリスト

キリストは、人々を、神との正しい関係に入れてくださるお方として示されています。ただキリストのみが、私たちの罪のためにご自身を与え、その結果、私たちをこの世における悪から自由にすることがおできになるのです。私たちはキリストに信頼しなければなりませんし、また、私たちの罪が赦される方法としてキリストが私たちのためにしてくださったことに、信頼しなければなりません。私たちは、善を行おうとする自分自身の努力に信頼してはなりません。私たちは、自分の力で完全になれるほど善良ではないからです。

クリスチャンを含めてすべての人は、悪い事であると知りながらも、それをしているように感じることがあります。これを誘惑と呼びます。イエスは、クリスチャンに、特別の力を与えてくださいます。クリスチャンは、自分が誘惑された時はいつでも、この力を用いて、正しいことを選び取ることができるのです。クリスチャンは、罪に負けない自由な者なのです。

ガラテヤ人への手紙のアウトライン

1. あいさつ (1:1-5)

- (1) 発信人・パウロ (1-2a)
- (2) 受信人・ガラテヤの諸教会 (2b)
- (3) 恵みと平安 (3-4)
- (4) 神に栄光が (5)

2. ガラテヤ諸教会の危機的現状 (1:6-10)

- (1) 執筆の理由 (6-7)
- (2) キリストの福音 (8-9)
- (3) パウロの基本的態度 (10)

3. パウロの使徒職：神の恵みを無にせず (1:11-2:21)

- (1) イエス・キリストの啓示によって受けた福音 (1:11-12)
- (2) 恵みにより異邦人宣教への召命 (1:13-16a)
 - a. 召命前 (13-14)
 - b. 召命 (15-16a)
- (3) 召命に応じて (1:16b-24)
 - a. 召命直後 (16b-17)
 - b. エルサレム訪問 (18-20)
 - c. シリヤ、キリキヤ (21)
 - d. ユダヤの諸教会 (22-24)
- (4) エルサレムでの会議 (2:1-10)
 - a. エルサレム訪問の目的 (1-2)
 - b. テトスと割礼 (3-5)
 - c. 基本的一致 (6-10)
- (5) アンテオケにて (2:11-14)
- (6) 神の恵み：キリスト信仰にある義 (2:15-21)

4. 旧約聖書に基づくキリスト信仰にある、義の論証 (3:1-5:1)

- (1) ガラテヤ諸教会の出発点 (3:1-5)
- (2) アブラハム：約束と信仰 (3:6-18)
 - a. アブラハム：信仰による義と祝福 (6-9)
 - b. キリストのみわざ：律法ののろいからの解放 (10-14)

①律法とのろい (10-12)

②キリストによる解き放ち (13-14)

c. 神の約束の優位と不変性 (15-18)

- (3) 律法の役割 (3:19-24)
- (4) キリスト・イエスにあって (3:25-29)
- (5) 相続人：神の子としての身分と立場 (4:1-7)
- (6) ガラテヤ諸教会の危機 (4:8-11)
- (7) パウロとガラテヤ諸教会 (4:12-20)
- (8) キリストにある自由 (4:21-5:1)
 - a. ハガル（奴隷）とサラ（自由）のアレゴリー (4:21-27)
 - b. あなたがたは約束の子 (4:28-31)
 - c. キリストにある自由に立ち (5:1)

5. キリストにある自由 (5:2-6:10)

- (1) キリストにある自由を奪う者 (5:2-12)
 - a. 律法の要求を真に満たすキリスト (2-6)
 - b. 「かき乱す者」を警戒せよ (7-12)
- (2) 愛をもって互いに仕えよ (5:13-15)
- (3) 御霊による歩み (5:16-18)
- (4) 肉の行い (5:19-21)
- (5) 御霊の実を結び、御霊により進め (5:22-26)
- (6) キリストの律法 (6:1-10)
 - a. 互いに仕えよ (1-5)
 - b. すべての良いものを分け合え (6-10)

6. パウロ自筆の結び・要約 (6:11-18)

- (1) 割礼を強要する者たちを警戒せよ (11-13)
- (2) 主イエス・キリストの十字架 (14)
- (3) 新しい創造 (15-16)
- (4) 主イエスの焼き印 (17)
- (5) 主イエス・キリストの恵み (18)

み言葉のしおり

ガラテヤ人への手紙

- 1) キリストは、今の悪の世界から私たちを救い出そうとして、私たちの罪のためにご自身をお捨てになりました。私たちの神であり父である方のみことろによったのです。のときにも、私たちを慰めてくださいます。こうして、私たちも、自分自身が神から受ける慰めによって、どのような苦しみの中にいる人をも慰めることができるのです。ガラテヤ人への手紙 1 章 4 節

しかし、私たちであろうと、天の御使いであろうと、もし私たちが宣べ伝えた福音に反することをあなたがたに宣べ伝えるなら、その者はのろわれるべきです。ガラテヤ人への手紙 1 章 8 節

- 2) しかし、人は律法の行ないによっては義と認められず、ただキリスト・イエスを信じる信仰によって義と認められる、ということを知ったからこそ、私たちもキリスト・イエスを信じたのです。これは、律法の行ないによってではなく、キリストを信じる信仰によって義と認められるためです。なぜなら、律法の行ないによって義と認められる者は、ひとりもないからです。ガラテヤ人への手紙 2 章 16 節

しかし私は、神に生きるために、律法によって律法に死にました。私はキリストとともに十字架につけられました。もはや私が生きているのではなく、キリストが私のうちに生きておられるのです。いま私が、この世に生きているのは、私を愛し私のためにご自身をお捨てになった神の御子を信じる信仰によっているのです。ガラテヤ人への手紙 2 章 19～20 節

- 3) しかし聖書は、逆に、すべての人を罪の下に閉じ込めました。それは約束が、イエス・キリストに対する信仰によって、信じる人々に与えられるためです。ガラテヤ人への手紙 3 章 22 節

こうして、律法は私たちをキリストへ導くための私たちの養育係となりました。私たちが信仰によって義と認められるためなのです。ガラテヤ人への手紙 3 章 24 節

あなたがたはみな、キリスト・イエスに対する信仰によって、神の子どもです。バプテスマを受けてキリストにつく者とされたあなたがたはみな、キリストをその身に着たのです。ユダヤ人もギリシヤ人もなく、奴隷も自由人もなく、男子も女子もありません。なぜなら、あなたがたはみな、キリスト・イエスにあって、一つだからです。ガラテヤ人への手紙 3 章 26～28 節

- 4) しかし定めの時が来たので、神はご自分の御子を遣わし、この方を、女から生まれた者、また律法の下にある者となさいました。これは律法の下にある者を贖い出すためで、その結果、私たちが子としての身分を受けるようになるためです。そして、あなたがたは子であるゆえに、神は「アバ、父。」と呼ぶ、御子の御霊を、私たちの心に遣わしてくださいました。ですから、あなたがたはもはや奴隷ではなく、子です。子ならば、神による相続人です。ガラテヤ人への手紙 4 章 4～7 節

- 5) キリストは、自由を得させるために、私たちを解放してくださいました。ですから、あなたがたは、しっかり立って、またと奴隷のくびきを負わせられないようにしなさい。ガラテヤ人への手紙 5 章 1 節

肉の行ないは明白であって、次のようなものです。不品行、汚れ、好色、偶像礼拝、魔術、敵意、争い、そねみ、憤り、党派心、分裂、分派、ねたみ、酩酊、遊興、そういった類のものです。前にもあらかじめ言ったように、私は今もあなたがたにあらかじめ言うておきます。こんなことをしている者たちが神の国を相続することはありません。しかし、御霊の実は、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制です。このようなものを禁ずる律法はありません。ガラテヤ人への手紙 5 章 19～23 節

- 6) 思い違いをしてはいけません。神は侮られるような方ではありません。人は種を蒔けば、その刈り取りもすることになります。自分の肉のために蒔く者は、肉から滅びを刈り取り、御霊のために蒔く者は、御霊から永遠のいのちを刈り取るのです。ガラテヤ人への手紙 6 章 7～8 節

しかし私には、私たちの主イエス・キリストの十字架以外に誇りとするものが決してあってはなりません。この十字架によって、世界は私に対して十字架につけられ、私も世界に対して十字架につけられたのです。 ガラテヤ人への手紙 6 章 14 節

ガラテヤ人への手紙を学ぶ

小賀野 英次

緒論＝聖書を深く学ぶ上での背景となる作業

ガラテヤ人への手紙の執筆者・パウロを疑う人はいない（1:1）。

あて先、執筆時代、執筆場所

北ガラテヤ説と南ガラテヤ説の二説があります（1:2）。

①北ガラテヤ説

古くからあった説で、諸教会のある場所を小アジアの中央北部地方と見る。この地方はゴール地方（フランス東南部）から紀元前 280 年頃にケルト人が移住してきた土地であり、民族学的な意味でのガラテヤとする。

パウロはガラテヤへ 2 度行ったことが、4 章 13 によってわかる。「最初」という言葉はギリシャ語（το πρῶτον）で 2 回のうち最初という意味である。それが北ガラテヤだとすると、パウロの第 2 回伝道旅行（使徒 16:6）と第 3 回伝道旅行（使徒 18:23）の途中になる。したがって、執筆年代は第 3 回伝道旅行でガラテヤの諸教会を訪問した後、エペソ滞在中なら紀元 53 年頃となり、マケドニア滞在中なら前 55/6 年に書かれたとする。

この説について、コリント 1、2 の手紙、ローマ人への手紙の内容、文体に似ているのでこの説が有力。パウロの手紙としては中期に書かれたものとされる。

②南ガラテヤ説

この説によるガラテヤとは前 1 世紀の半ば以降、北ガラテヤ地方を支配していた王アンミタス（前 36-25 年）が南部を支配、やがて、前 25 年にローマの支配の下に一行政区となった。ローマの属州ガラテヤを指す。前 7 年にはパフラゴニヤ、ポントの一部が加わり拡大した。もし、この地方が 4 章 13 にある地方だとすれば、ガラテヤの諸教会はピシデヤのアンテオケ、イコニオム、ルステラ、テルベの諸教会となり、パウロの第 1 伝道旅行に建設した教会となる（使 13:4-14:28）。

そして、二度は引き返す途中で立ち寄ったとすれば、アンティオケの教会について直後、シリアのアンティオケでパウロはこの書を書いたとする。執筆年代は紀元 45 年頃となり、パウロの書簡では最初期のものとなる。それならば、2 章 1 節は使徒 15 章のエルサレム会議ではないことになる。

もうひとつの説は第 2 回伝道旅行でもこの地方を訪れている（使 16:1-6, 18:23）。この説をとれば、ガラテヤ 2 章 1 節記事はエルサレム会議と見ることができる。紀元 50 年頃、第 2 回伝道旅行の途中、コリントで書かれた。

この説について、

- (a) パウロが北ガラテヤに伝道した詳しい記述が使徒の働きにはない。
- (b) パウロは地名をローマの行政区によって呼んでいることが多い（1 コリ 16:19、2 コリ 8:1、ガラ 1:22 など）。
- (c) パウロが南ガラテヤを去った後、まもなく、ユダヤ人教師たちの影響を受けて、パウロの信仰義認の教えを否定し、パウロの使徒職も否定した。パウロはそれを知って直ちにこの手紙を書き送って彼らの信仰を指導した。

執筆事情

パウロがこの手紙を書かなければならない理由は2つあった。

(a) 教会にパウロが教えた福音について間違った教えを説くものがあった。1:6-9、2:1-4

- () 福音によって、救われる。
- () 福音と善いとされる行いによって救われる。
- () 善い行いによって救われる。

(b) 果たして、パウロは神の教えを説く、教師なのかどうか？パウロの使徒職について。パウロの教えはどこから一啓示の問題。

- () 神からの啓示
- () 神からの教えと人間の知恵
- () 人間のすばらしい知恵

霊的な目とは、
福音 + α を見分ける目
(みそは α です)

1章の要約

1. 二つの問題点—パウロの主張 (1:1~5)

- ① 福音とは何か — キリストは、今の悪の世界から私たちを救い出そうとして、私たちの罪のためにご自身をお捨てになりました。私たちの神であり父である方のみことろによったのです。ガラテヤ 1:4 (参考 1コリント 15:1-8)
- ② パウロは本当に使徒か — 使徒となったパウロ — 私が使徒となったのは、人間から出たことではなく、また人間の手を通したことでなく、イエス・キリストを死者の中からよみがえらせた父なる神によったのです。ガラテヤ 1:1

2. ガラテヤ教会の人々がほかの福音に移っていった (1:6~9)

- ① 背景 (a) ケルト人の気質、(b) パウロの伝道の期間の短さ、(c) 異邦人の教会 (非ユダヤ)
- ② 出来事 (a) 他の福音に移っていく信徒たち (6 節)
(b) 偽教師が入ってきた (7~10 節) 参 2 章 14
他の福音を説く人々=福音十律法

③信仰を迷わすもの、信仰冷却法

- (a) 競争心、党派心 1コリント 1:12
- (b) 孤立、交わり不足 エペソ 1:23
- (c) 虚栄、自己中心、思い煩い (この世の尺度へ) ピリピ 2:3
- (d) 宗教的雰囲気、神秘世界 コロサイ 2:23
- (e) 苦難や迫害 1テサロニケ 1:9、1ペテロ 1:6 以下
- (f) 成功や栄達 2テサロニケ 3:12、黙示録 3:15-18
- (g) 間違った教え 1テモテ 6:3

人間の欲望は常に刺激を求める性質がある — ローマ 1:17

「わたしたちがあなたがたに伝えた福音」 (1:8 節)

福音（エウ・アングリオン＝エウ＋アングリオン：よい知らせ）

新約では76回、パウロの手紙では60回。

新約では、イエス・キリストの十字架の贖いによって人が罪から救われ、神の子とされることが、また、やがて完成する神の国の到来を告げるよい知らせのこと、さらにイエス・キリストのことを指す。

メシアの待望＝イザヤ 52:7、キリストご自身＝マルコ 1:1

私たちの悔い改めと信仰＝マルコ 1:14-15

福音による召し＝ローマ 1:16

ユダヤ主義者＝ユダヤ人キリスト者の一派で、使徒 15 章の問題について、クリスチャンは使徒の教えを受けないで（使徒 15:19-20）、ユダヤ教によって神の律法を重んじなければならない。また、異邦人がキリスト者になるためにはまずユダヤ人になり、ユダヤ教の律法を守らなければならないと主張した。彼らは、パウロの訪問した後の教会に入り込み、福音を覆そうとした。

わたしはキリストの僕（ドゥーロス）です（1:10 節）

クリスチャンはキリストのように「しもべ」となり仕える者となって神の栄光を表します。しもべに関する語彙は、しもべ、弟子、仕える者、奴隷、仕える、愛する、赦す、とどまる、従う、ならう、ついて行く、模範、手本、見本、神のかたち、神の似姿など。

当時のギリシヤ・ローマ社会では、好ましい響きをもった言葉ではありませんでした。ローマ市民は働くことを卑しいことと考え、あらゆる仕事を奴隷にさせていました。奴隷は「生きた道具」「言語をはなす道具」でした。キリストの僕と言い切ったパウロの言葉は革命的な言葉でした。

マルコ 10:43-45＝

ピリピ 2:6-8＝

ガラテヤ 6:17＝ キリストの焼印

伝道者パウロの欠陥－パウロの使徒性（1:11～24）

①パウロの致命的な欠点

- (a) キリスト教会を迫害をした
- (b) 熱心なユダヤ教徒であった
- (c) 今は異邦人にキリストを伝えている
- (d) キリストに会ったことをだれも見えてない
- (e) 話すのは下手である
- (f) 肉体のとげ（よわさ）
- (g) 短気、怒りやすい
- (h) ローマの市民権をもっていた

ガラ 1:13、使徒 7:54 以下
ガラ 1:14、ピリピ 3:2-11
ガラ 1:16
使徒 9:7
2 コリ 10:10
2 コリ 12:7
ガラ 2:11
使徒 22:25-29

②パウロの独自性－パウロの神学（教えの強調点）

- (a) イエス・キリストからの一方的な恵みの啓示
- (b) ユダヤ律法を完成させるキリストの福音
- (c) 異邦人もクリスチャンになれる
- (d) 復活の主に一度、出会うだけで人生が変わる
- (e) 福音の宣教は神から委ねられたもの－預言者、
- (f) 弱さにおける恵み
- (g) 気質を補い合う同労者が与えられる

1 ペテ 1:8、9
1 テサ 2:4、1 コリ 9:16
2 コリ 12:9
使徒 9:10

1:16 節以下はパウロの召しは主の計画であったことを伝えます。

- (a) パウロの福音と使徒への召しが純粋に旧約聖書の預言の成就であり、キリストの恵みの啓示によるものである(エレミヤ 1:5)。
- (b) また、エルサレムの使徒たちの計画でもなく、神の御霊の宣教計画であること、さらには、ユダヤの教会もパウロの回心と伝道を喜んでいる。

召し＝主イエス・キリストの恵み
教会の人々の祈りと励まし
(キリストの恵みの現れ)

図： パウロの生涯の略年譜(推定) (井之上薫)

年 代	事 項
紀元 33 年	ダマスコ途上で回心
36-46	タルソで生活
46-48	第 1 回伝道旅行
48	ガラテヤ人への手紙執筆
49	エルサレム教会合議
49-52	第 2 回伝道旅行
50-51	テサロニケ人への手紙執筆
53-58	第 3 回伝道旅行
55-56	コリント人への手紙執筆,
57	ローマ人への手紙執筆
58	最後のエルサレム訪問
58-60	カイザリヤ幽閉
60-61	ローマへの旅
61-63	ローマでの軟禁 獄中書簡の執筆
63	釈放
63-67	自由な活動 スペイン伝道 牧会書簡執筆
67	再逮捕投獄 2 テモテ執筆 殉教

自己弁明 (1 章 11-2 章 14)

パウロが使徒として選ばれた次第 (1:11-24) →パウロの生涯を参照のこと
パウロの使徒性が疑われていることを受けて、パウロは弁明を始めている。

a) パウロの主訴は次め通りである。

①恵みの出会い (1:11-12)

わたしの福音のメッセージは直接、復活のキリストから聞いたものである。

②パウロの過去・律法に生きる自分 (1:13-14)

キリストに出会う前の自分の体験は、自分の行為を誇るのではなく、神の選びの恵みを示すものである。

③人によらない福音、異邦人の宣教の使徒（1:15-24）

「生まれたときから私を選び分け」（15 節）⇒エレミヤ 1:5

「神の御前で」（20 節）－ ルカ 8:27

④使徒たちパウロを受け入れる（2:1-10）

2:1 その後十四年たってから、わたしはバルナバと一緒にエルサレムに再び上りました。その際、テトスも連れて行きました。内海師によると、このエルサレム行きを、使徒 11:27-30 が描写する。次は、使徒 15 章のエルサレム会議。

b) 聖霊は一人の人だけに働くのではなく、一度に複数の人々に働く（使徒 2:3）

バルナバ＝慰めの子、財産を献げる － 使徒 4:36-37、パウロを支持する － 9:27、11:22-30、パウロに高い評価をうける － 1 コリ 9:6

パウロと決別、使徒 15:36-39、信仰の揺らぎ－ガラテヤ 2:13

テトス＝パウロの同労者、ギリシヤ人であったと思われる（テトス 1:4）。

テモテ＝ユダヤ人とギリシヤ人の混血児 － 使徒 16:1、3。テモテには割礼を施している。キリスト者の自由 － すべての人に僕となった － 1 コリ 9:19-20。

* ここで問題なのは、割礼が救いの条件となってしまうことへの警告である。

c) 『神は人を分け隔てなさいません』（2:6 節、使徒 10:34）

この言葉が、初代教会の合言葉であった可能性が強い。これは二つの普遍性を含む、一つは誰でも罪人であること。もう一つは、イエス様を信じるだけで救われるということである。

d) ペテロとの論争（2:7-14）

ここに、パウロが公でペテロを叱責した記事が載っている。非常に緊迫した状況が伝わってくる。ペテロのもまた、この問題と同じ状況にあったのに、古い習慣とは恐ろしい（使徒 11:1-4、15-18）。

ペテロとパウロの仲はその後、修復されている（2 ペテロ 3:15、16、1 コリ 3:22、23）。

救いの体験からキリストの恵みの救いの教え（2 章 15-21）

これまでは、パウロがキリストに出会い、異邦人伝道に導かれた証しを述べた。12 弟子（使徒）の筆頭であるペテロを叱責する（2 章 11-14）の記事は、そのまま人間的な権威の位置づけで読めば、パウロが造反したようにも読める。しかし、異邦人伝道の原則「割礼はいらない、不品行と偶像礼拝を避ける」（15:18）に反するものである。そして、「イエス・キリストの福音の恵み」（1:6）からそれるものであった。

パウロの生涯

ユダヤ名はサウロ、キリスト教の迫害者であったが、初代教会最大の宣教者、異邦人の使徒となった。彼の 13 の手紙と使徒の働きから、彼の回心から、ローマに至るまでの活動を探ることができる。

回心の前のパウロは、タルソで生まれ、ベニヤミンの出身、またパリサイ派に属していた。生まれながらにローマ市民であった。タルソは当時、学術都市であり、パウロはユダヤ人の教育（ガマリエル門下、天幕作り）だけではなく、ギリシヤ・ヘレニズム文化にも触れ、異邦人伝道の下地は準備されていた。

「同年輩の多くの者たちに比べ、はるかにユダヤ教に進んでおり、先祖からの伝承に人一倍熱心」であった（ガラ 1:14）パウロは、新興のキリスト教を危険視した。十字架というのろわれるべき方法で殺された人物をメシヤとして仰ぐことは、耐えがたい冒瀆と思われた。さらにステパノの神殿批判は、ユダヤ教の伝統に対する破壊的な挑戦と思われた。ステパノの処刑に立会い（使徒 7:58）。そして、これを契機に起った激しい迫害の先頭に立ち（使 8:1-3）、ダマスコにまで赴くが、その途上で回心を経験した（使 9:1-9）。彼は天からの光に打ちのめされ、「サウロ。サウロ。なぜわたしを迫害するのか」という声を聞き、その声の主が復活のイエスであることを知った（1 コリ 15:8）。

2 章 16 以下では、パウロがいよいよ、福音の本質について述べる。ガラテヤ書の急所に迫る。

- a) 2:15 節「私たちは、生まれながらのユダヤ人であって、異邦人のような罪人ではありません」パウロはユダヤ人の優越性について述べる⇒ローマ 3 章 1-2。
- b) 2:16 節「しかし、人は律法の行ないによっては義と認められず、ただキリスト・イエスを信じる信仰によって義と認められる…」

義とされる、義と認められる（ディカイオオー）δικαιοω

パウロは「義とされる（デネカイオオー）」という言葉でキリストの救いに結び付けて使います。一般的な意味と用法は、「法廷で正しい、あるいは正当と認める」という意味です。名詞化して、「裁き」、「罰する」、「正義（旧約ではツェデク）」しても用いられます。

しかし、パウロの手紙では、「正しいものを正しいと認める」意味では用いられません。福音理解と深く結びついています。

- ①人は行いによってだれひとり、神の前に義と認められません。

ローマ 3 章 20 なぜなら、律法を実行することによっては、だれ一人神の前で義とされないからです。律法によっては、罪の自覚しか生じないのです。

- ②義認の源は「神の恵み」です。受けるに値しない者に与えられる神の愛顧です。

ローマ 3 章 24 ただキリスト・イエスによる贖いの業を通して、神の恵みにより無償で義とされるのです。

- ③人間が義と認められるのは信仰によります。ここでの信仰はただ恵みを受けとるだけの信仰です。人間の努力や功績によるものではありません。

ガラテヤ 2 章 16

ローマ 3 章 28 なぜなら、わたしたちは、人が義とされるのは律法の行いによるのではなく、信仰によると考えるからです。

④そして、ここに神の義をあらわすために、イエス・キリストを信じるものを義と定められるのです。

ローマ 3 章 25－26 ただキリスト・イエスによる贖いの業を通して、神の恵みにより無償で義とされるのです。神はこのキリストを立て、その血によって信じる者のために罪を償う供え物となさいました。それは、今まで人が犯した罪を見逃して、神の義をお示しになるためです。

ここに、福音の最高の逆説が、生じた。キリスト以前に神は人の罪を忍耐して見逃してきた。しかし、罪を罰せず、また人を救わない点で、神の善と聖さが徹底しない。いま、時が満ち、義の徹底をするために、キリストを十字架につけ罰した。これにより、キリストは復活し、神の義が完成し、信じる者もまた義にあずかる者となった。

義と認められる

義とされると翻訳された言葉の本来の意味は義と認められる法廷用語です。罪を犯した人を赦す事が出来ますが、無実の人を赦す事が出来ません。義と認められる事は無罪宣言です。ですから、神様が人を義と認められるのは、その人が一生に一度も罪を犯した事のない人間として受け入れ、扱って下さる事を意味します。これは人間の経験ではなく、神様が下さる判決で、その時から人間は神様の御前で罪のない者としてずっと見なされている立場に置かれます。

たとえば、神様は義と認められた人を天国行き大きな船の中に置かれて、天国に着くのはその人の努力や頑張りには関係なく、船次第です。船の中で本人が時には嬉しくて、時には悲しくて、時には安心して、時には恐れを感じますが、船そのものは確実に永遠のみ国の港まで彼を運んでくれます。船の大きな客室の中で彼は足を滑らして、こける事もあれば、又立ち上がる事もあります。しかし、そんな事で船から落ちる事はありません。義と認められるのは本人の状態よりも、彼が置かれた、安心できる場です。

どうして正しいお方でおられる神様は実際に罪だらけの人間を義と認めることが出来ますか。どうして罪ある人間を罪のない者と認める事が出来ますか。それは、キリストの贖いによる「幸せの交換」です。人間の実際の罪をイエス様の実際の十字架の苦しみで罰して、代価を支払った出来事の故に義と認められることが初めて公正さを失わないままで可能です。人間の罪はイエス様に認められて、罰せられました。イエス様の義は人間に認められて、実際の天国の喜びで報いられます。イエス様の完全な正しい生涯が信じる人のものとして認められて、罪人の墮落した生涯がイエス様に認められて、そしてその認められた通りに実際に扱われます。

義と認められる事は法的な立場の変化です。神様の天国の法廷で下される裁きです。しかし、それから、生き方の変化も可能になります。アメリカの南北戦争の課題は黒人奴隷の解放でした。米国国会の一回の宣言ですべての奴隷が自由人と認められました。その法的な決定の裏づけは北側の軍隊の勝利でした。黒人を奴隷にする敵が力を失いました。自由宣言を受けて、黒人が自由な生き方を始める事が出来ました。イエス様が人間を罪の奴隷にした罪や悪魔や死に十字架の上で打ち勝って、その勝利によって、罪人を自由な、義と認められた者として宣言なさいました。

南北戦争の後で多くの以前の奴隷は自由人でありながらも、依然として奴隷であるかのような生き方を続けました。それは、自分の置かれた新しい場を実際の行き方に繋げる事が出来なかったからです。多くのクリスチャンもその自由な場を十分理解できないで、罪の奴隷であるかのように悩んでいます。義と認められたクリスチャンが実際の生活の中に多くの罪を依然として犯してしまうから、自分の自由な立場を見失うがちです。しかし、クリスチャンの生き方の

変化や罪との戦いの中にどの位成功するかによって天のみ国に行かれる訳ではありません。行き方の中に現れて来る実際的な正しさ、義は、義と認められる理由ではありません。逆に義と求められた、新しい立場に活かされている結果です。クリスチャンは聖めで救いを得る訳ではありません。義と認められて、救われたからきよめ、すなわち清い新しい生き方を求めます。きよめは決して地上で完全なものにはありませんが、義と認められたから、初めから神様の御前で天国行き人間として認められています。

主イエス・キリスト様を信じる瞬間に義と認められます。そしてその結果罪が赦されます。この順番はとても大切です。多くの人は自分の罪を悔い改めて、イエス様から罪の赦しを頂いて、そして後で自分が義と認められた事を知りますが、実際に順番は逆です。義とみとめられたから罪が赦されました。クリスチャンは繰り返して罪の赦しを求めて、繰り返して赦された経験をしますが、義とみとめられる事はその赦しの連続の理由です。義と認められる事は一回限りで十分です。天のみ国までそのまま有効です。しかし、罪の赦しは毎日繰り返さなければならぬものです。救いの確信は義と認められた事実に基づきます。

日本の文化は実感を強調する傾向があります。しかし、実際に人間の気持ちや感情や実感は非常にあやふやなものです。よい日には救いの確信が沸いて来て、悪い日には絶望的な気持ちになったりします。聖書は人間の決定や感情を頼りにしません。神様の状況に寄らない、変わらないみ言葉の約束は義とみとめられて、救われた事の十分な証拠です。

もし義と認められてすでに天国へ行ける資格が与えられているなら、どうして罪を繰り返して悔い改めて、赦しを求めなければならないのでしょうか。それは、罪の赦しの本質は神様との関係回復にあるからです。罪を犯すたびに、救いを持っているクリスチャンも、喜びや平安を失います。罪を悔い改めないままではクリスチャンとしての力が沸いてきません。罪を犯すたびごとにイエス様の十字架の下で神様の新しい愛と交わりを味わって、新しい恵みの力で前進する事が出来ます。この過程の中でクリスチャンは神様の愛の大きさ、広さ、深さをもっと深く知って、主イエス様の命が聖霊によって益々彼のうちに働いて、変化をさせます。この過程はきよめであり、その最後は天のみ国でイエス様の復活の体と同じ姿で主を賛美する事です。天国に着いたら、義と認められた場合は、完全な義の姿になります。(Jピヒカラ)

c)2:17 節 しかし、もし私たちが、キリストにあって義と認められることを求めながら、私たち自身も罪人であることがわかるのなら、キリストは罪の助成者なののでしょうか。そんなことは絶対にありえないことです。

やってられないじゃん～パウロさん！！

ここで問題になるのは「キリストは罪の助成者（そそのかす者）なのか」というユダヤ主義者たちの言い分である。もし、キリスト者の前提が罪人であることなら、十戒にはじまる律法を厳格に守ってきたユダヤ人の選びはどうなるのか、異邦人と同じ罪人にされてしまうなら、やってられないじゃん～。パウロさん。私もご先祖も真面目にやってきたのに、それなら、キリストは私たちを罪におとしめるためにきはったん。

パウロ：「断じて、そうではない」！！

2:19 節、新しい酒は新しい皮袋に（マタイ 9:17）

ここら 19-21 にかけて、パウロは自分は律法によって滅び、キリストの十字架によって、いのちの贖いを受けたことを告白する。ここは、ガラテヤ書の心臓である。「これらは、ほと

んど信じがたい言葉であり、人間の理性が到底理解することの出来ない未知の話法である」(内海 P. 54)。

「キリストがわたしのうちに生きておられる」(20)を神秘主義的にとらえてはならない。神が私をきよい愛をもって恵み、復活のイエスと共に生かしてくださっているという、神の救いのみ業のことである。パウロは大胆にそのことを告げる。

ああ愚かなガラテヤ人 (3:1-6)

a) 吼えるパウロ (3:1-8)

この章から、教理的な論証に入るが、前段の主題「人は福音を信じることによって救われる」という主題が繰り返され展開する。この反対の主張として、「律法の行いによって救われる」という主張がユダヤ人クリスチャンの一部からなされていた。

「十字架につけられたイエス・キリストが、あなたがたの目の前に、あんなにはっきりと示されたのに…」とパウロは嘆きの声を上げる(ガラ 1:6、マタイ 23:33)。

- ① 救いはただ信仰よりくるものであって、ほんの髪の毛一筋であっても、「律法の行為」が「救い」の条件として入ってきてはならない。
- ② 「ガラテヤ人よ」とパウロは言っている。「兄弟たちと」は言わない。熱しやすく、さめやすいガラテヤ人の気質。日本人の気質は…。しかし、キリストによって、クリスチャンは新しく作られた者(エペソ 2:10)。
- ③ 「十字架につけられたイエス」は、今も十字架にかかり続けられておられるか方(完了形分詞・永続的な効果を示す)としてパウロは宣教している(1コリント 2章 1-5)。「はっきりと示された」は「プラカードとして掲げられた」との意味。

b) 「あなたがたが御霊を受けたのは…」(2節)

ここでは、わたしたちが一般に霊的と呼ばれることについての逆転が見られる。

一般に霊的なことと言えば

祈り、献身、熱心な礼拝、ささげもの、慈善…などをしている人を見れば、霊的と評価される。しかし、それらのことが救いの条件になるなら、これは肉的なことになってしまう。あるいは、よい行いを救われたものの御霊の実とすることも可能だが、これは後の5章(キリスト者の自由)で述べられる。

霊的な事柄とは「信仰をもって聞いたから」にほかならない。反対に、律法に逆戻りすることを厳しく、反対する(ガラテヤ 2:18 と 3:3 は同じ)。

パウロの聖霊論

パウロの聖霊(ここでの聖霊は、ギリシヤ語・プネウマの意味、日本語の聖書では「霊、御霊」と訳される。ギリシヤ語・ト プネウマ ト ハギオンについては、ガラテヤ書では少ない。)はとくに、イエス・キリストと結合する。聖霊のキリスト論的意義はパウロの特色である。彼はしばしば「キリストの霊、御子の霊、主の霊」(ローマ 8:9、ガラテヤ 4:6、2コリント 3:17)といている。

①キリストの働き

しかし、キリストと聖霊とは同一ではない。先在と受肉と十字架の和解とはキリストのもので、聖霊のわざではない。キリストは聖霊に従って歩み、行動されたが、聖霊と同一ではない（ローマ 1:4）。

②聖霊とキリストは密接に結合し、クリスチャンを導く。

キリストが復活し、昇天された後、生ける主、キリストの現在と働きとは聖霊と密接に結合している。

キリストは聖霊を所有し、聖霊を注ぎ、さらに自ら聖霊において、教会と信者との中にあり生きて働く、そして、聖霊のない所で、主は働くことが出来ない。このようにキリストと聖霊は現在（教会とクリスチャン）のうちに、まったく同一視される。

「主は霊である」（2コリント 3:17）。聖霊は主の現れであり、主の顕現でもある。これはイエスの復活と来臨の間の、今の時のキリストの現われと働きにほかならない。「キリストにあって」と「霊にあって」とは同じことを言っている（ローマ 8:9、14:17）。

③聖霊はキリストを示すことによって、具体的に人間に働きかける。

パウロにとって、聖霊は奇跡的な力（異言や癒し）を示すものであったが、その働きは、具体的に人間に働きかけ、人間では決してなしえない不可能を可能にする。

i) 生まれながらの人間は罪人であり、自分で救いを達成することは出来ない。聖霊は罪の自覚と、なによりも、言葉によって働く、人は説教を聴いて、聖霊を受ける（ガラ 3:1-4）

ii) 聖霊によって、〈主イエスを信じ〉告白し、バプテスマを受け、洗い清められ、義とされる。新しい人間とされる、パウロはこれを「霊の人、聖霊の宮」と呼ぶ（ガラ 6:1、1コリント 2:13、コロサイ 3:16）、十字架に啓示された神の愛は、聖霊を通して、信者の心に注ぎ込まれ、聖霊は信者の内に住む。

iii) 終末的の希望の保証としての聖霊

将来におとずれる終末の神の国における世継ぎとしての保証となり、キリストと同じ姿に変えられる。栄光の神の子となる希望が与えられている（ローマ 8:9、ガラ 5:22、2コリ 1:22）

iv) 聖霊は信者の新しいきよい生活を確立させ、励まし、導く力となる。これらの働きについては、聖化の働きであって、別項で説明したい。

④ヨハネにおいては聖霊は風であり、内的人間（助け主）であった。しかし、

イエスの言葉はすべて聖霊に満たされ、霊が共に働き、その言葉には命があった（ヨハネ 6:63、4:24）。パウロの聖霊論とは視点が違う。

義人アブラハムの信仰による救い（3:7-19）

a) アブラハムの信仰による実証（7-19）

聖書教師・パウロはここで、旧約聖書（当時はこれだけ）によって、「信仰による救い」を実証する。これは、当時のユダヤ教師（ラビ）姿であった。私たちの信仰もまた聖書によって検証される。

パウロは旧約聖書を説き明かす。それはイスラエルの歴史の危機から救い主を論証している。

①第1の危機はアダムによって罪と死がこの世にきたこと。

②第2の危機は「それによって彼が義と認められた」（創世記 15:6）。アブラハムの信仰、彼が神に認められたのは約束を信じたから。⇒ハバクク 2:4「義人は信仰によって生きる」

③第3の危機は「違反を示すために」（ガラ3:19）モーセの律法が与えられた。申命記27:26『「このみおしえのことばを守ろうとせず、これを実行しない者はのろわれる。」民はみな、アーメンと言いなさい。』

④第4の危機はキリストの十字架と復活である。

ガラテヤ3:13 『キリストは、わたしたちのために呪いとなって、わたしたちを律法の呪いから贖い出してくださいました。「木にかけられた者は皆呪われている」と書いてあるからです。』 ⇒レビ記18:5

b) パウロの聖書解釈の強引さ

ガラテヤ3:16 ところで、約束は、アブラハムとそのひとりの子孫に告げられました。神は「子孫たちに」と言って、多数をさすことはせず、ひとりをさして、「あなたの子孫に」と言っておられます。その方はキリストです。

創世記3:15 わたしは、あなたか見渡しているこの地全部を、永久にあなたとあなたの子孫とに与えよう。

創世記においては、「あなたの子孫」は単数であるが、これは集合名詞である。だから、これをイエス・キリストだけに限定することは強引な解釈というほかにない。しかし、霊の集合体のキリストにつながるわたしたちが、キリストの体（単数）となるならこれも深い真理を含んでいるというべきであろう。

* 旧約聖書がどのように生活に適応されるかを解釈するために、ラビ（教師）はおり、ユダヤ教ではこの解釈のことをミドラシュという。

c) アブラハムの祝福の優越性 （18-19）

d) 律法はそれでは不要か



律法の効果⇒①律法は違反を明らかにする（19）。

②律法は人を罪の支配下に閉じ込めた（22）

③律法は私たちがキリストのもとに導く養育係である（23、24）。

f) 律法と福音は矛盾するか（25-29）

律法はきよい神の言葉である。しかし、すべてを守らなければ、人間は救われない。パウロはすべての人、人類は律法に照らして、罪人であるという結論を出す。それが、人類という普遍的なことだけではなく、パウロ自身がパリサイ人として、十戒のすべてを守ったとされるが、罪の自覚を深め、赦されたという平安がいただけなかった。さらには、神の敵となってキリストを迫害する結果となったことを振り返っている。

福音は罪人に救いを与える点で、律法を優越している。神の敵を捕らえて、救いに入れてくださる恵み。

26-29 節は、キリストある私たちの喜びの地位が語られている。

27 節「洗礼を受けてキリストに結ばれたあなたがたは皆、キリストを着ているからです。バプテスマを受けキリストに、キリストを着る者となった」。

神の実子、義の衣をまとった者（中身は黒い）、すべてのものが罪の奴隷から解放され、神の御前で自由人（人権と尊厳）。

4章は福音のすばらしさを続けて、証明し、説得する。

a) 神の子、相続人（4:1-7）

4:4-6 しかし、時が満ちると、神は、その御子を女から、しかも律法の下に生まれた者としてお遣わしになりました。それは、律法の支配下にある者を贈い出して、わたしたちを神の子となさるためでした。あなたがたが子であることは、神が、「アッバ、父よ」と叫ぶ御子の霊を、わたしたちの心に送ってくださった事実から分かります。

ここに、ガラテヤ書におけるクリスマスと聖霊降臨がある。キリストの受肉と十字架、聖霊降臨は私たちを神の子とする一方的な恵みの手続きであり、歴史の中に起こった出来事である。

「アッバ、父よ」という表現は、ルカ 22:29、ローマ 8:15

b) キリストがあなたがたのうちに形づくられるまで（4:8-19）

自分は自由であるといいながら、古い教えや生活に帰っていく人々。

パウロはここで、自分の模範に倣うこと、かつて、ガラテヤの人々が福音に出会った頃の愛の日々を思い起せと語っている。

c) 自由の女と奴隷の女のたとえ（4:21-5:1）

ここでのたとえは、アブラハムの子孫をめぐる、パウロが創世記の解釈を行っている。

ハガル（奴隷女）	—	シナイ山の契約	—	律法	—	奴隷	イシマエル
サラ（妻）	—	天のエルサレム	—	自由の約束	—	祝福の子・イサク	

パウロはガラテヤの教会の人々が自由を選び取るようにと勧め、はじめの愛に帰ってくるようにと懇願している。

5章 キリスト者の愛と自由

パウロはくどいように、律法に帰っていくことを警告し、嫌悪さえも抱いているように続けている。

5:3-4 割礼を受ける人すべてに、もう一度はっきり言います。そういう人は律法全体を行う義務があるのです。律法によって義とされようとするなら、あなたがたはだれであろうと、キリストとは縁もゆかりもない者とされ、いただいた恵みも失います。

5:11-12 兄弟たち、このわたしが、今なお割礼を宣べ伝えているとするならば、今なお迫害を受けているのは、なぜですか。そのようなことを宣べ伝えれば、十字架のつまずきもなくなっていたことでしょう。あなたがたをかき乱す者たちは、いっそのこと自ら去勢してしまえばよい。

キリスト教信仰は愛（アガペー）と自由（エリューセリア）信仰である。このことは、二つの逆転をもっている。

- | | | | |
|-----|----------------------|---|------|
| ①逆転 | 私たちは神の愛によって自由にされた。 | — | 救い |
| ②逆転 | 私たちは自由にされたことによって愛する。 | — | 愛の召命 |

パウロは私たちは神と人に仕えることができるほど自由にされていることをつげ、信仰が愛を生み出すとしている。

5:6 キリスト・イエスに結ばれていれば、割礼の有無は問題ではなく、愛の実践を伴う信仰こそ大切です。

5:13 兄弟たち、あなたがたは、自由を得るために召し出されたのです。ただ、この自由を、肉に罪を犯させる機会とせず、愛によって互いに仕えなさい。

ルターはその立場を次のように明らかにしている。

ルター『キリスト者の自由』の解題

キリスト者はすべてのものの上に立つ自由な君主であって、何人にも従属しない。

キリスト者はすべてのものに奉仕する奴隷であって、何人にも従属する。

かつて、罪と律法の奴隷であった私は神の愛によって救われ、自由を得た。この愛によって、自己の功績や人間的な名誉を期待せず、忍耐すること、苦しむことさえも受け入れる自由な身分とされているのである。また、これはキリストがやがて来られるという希望をもって、日常の生活に励むことに向けられる。

パウロはまた、この愛と自由の源泉がキリストの福音にあることを明らかにし、自分で救済を求める動機が肉の願いであると 16 のリストを提出している。それに対して、御霊の実のリストは 9 と半分の数であり、愛の実は単純さや明快さを持っているものとして示される。

肉のわざのリスト

5:19-21 肉の業は明らかです。それは、姦淫、わいせつ、好色、偶像礼拝、魔術、敵意、争い、そねみ、怒り、利己心、不和、仲間争い、ねたみ、泥酔、酒宴、その他このたぐいのものです。以前言っておいたように、ここでも前もって言いますが、このようなことを行う者は、神の国を受け継ぐことはできません。

御霊の実のリスト

5:22-24 しかし、御霊の実は、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制です。このようなものを禁ずる律法はありません。キリスト・イエスにつく者は、自分の肉を、さまざまな情欲や欲望とともに、十字架につけてしまったのです。

① 愛（アカペー）ἀγαπή

この愛は十字架を源にした愛、そこから湧き出る敵をも愛する愛

ヨハネ 15:13 友のために自分の命を捨てること、これ以上に大きな愛はない。

② 喜び（カラー）χαρά

この喜びは十字架を源にした喜び、そこから湧き出る救いに対する喜び

ルカ 10:20 だがしかし、悪霊どもがあなたがたに服従するからといって、喜んではなりません。ただあなたがたの名が天に書きしるされていることを喜びなさい。」

③ 平和（エイレーネー）εἰρήνη

この平和・平安は十字架を源にした平和、そこから湧き出るキリストの平和

ヨハネ 14:27 わたしは、あなたがたに平安を残します。わたしは、あなたがたにわたしの平安を与えます。わたしがあなたがたに与えるのは、世が与えるのとは違います。あなたがたは心を騒がしてはなりません。恐れてはなりません。

④ 寛容（マクロスユーミア）μακροθυμία

この寛容・忍耐は十字架を源にした寛容、そこから湧き出るキリストの寛容

1テモテ 1:16 しかし、そのような私があわれみを受けたのは、イエス・キリストが、今後彼を信じて永遠のいのちを得ようとしている人々の見本にしようと、まず私に対してこの上ない寛容を示してくださったからです。

ルカ 23:34 そのとき、イエスはこう言われた。「父よ。彼らをお赦してください。彼らは、何をしているのか自分でわからないのです。」彼らは、くじを引いて、イエスの着物を分けた。

⑤親切（クレーストテース） **χρηστοτης**

この親切は十字架を源にした親切、そこから湧き出るキリストの親切

詩篇 41:1,2 幸いなことよ。弱っている者に心を配る人は。主はわざわいの日にその人を助け出される。主は彼を生きながらえさせ、地上でしあわせな者とされる。どうか彼を敵の意のままにさせないでください。

⑥善意（アガソースネー） **αγαθωσυνη**

この善意は十字架を源にした善意、そこから湧き出るキリストの善意

ヨハネ 8:7、11 けれども、彼らが問い続けてやめなかったので、イエスは身を起こして言われた。「あなたがたのうちで罪のない者が、最初に彼女に石を投げなさい。」…彼女は言った。「だれもいません。」そこで、イエスは言われた。「わたしもあなたを罪に定めない。行きなさい。今からは決して罪を犯してはなりません。」

⑦誠実（ピスティス） **πιστις**

この誠実・信仰は十字架を源にした誠実、そこから湧き出るキリストの誠実

ルカ 16:10,11 小さい事に忠実な人は、大きい事にも忠実であり、小さい事に不忠実な人は、大きい事にも不忠実です。ですから、あなたがたが不正の富に忠実でなかったら、だれがあなたがたに、まことの富を任せるでしょう。

⑧柔和（パラウテース） **πραυτην**

この柔和は十字架を源にした柔和、そこから湧き出るキリストの柔和

マタイ 27:12-14 しかし、祭司長、長老たちから訴えがなされたときは、何もお答えにならなかった。そのとき、ピラトはイエスに言った。「あんなにいろいろとあなたに不利な証言をしているのに、聞こえないのですか。」それでも、イエスは、どんな訴えに対しても一言もお答えにならなかった。それには総督も非常に驚いた。

マタイ 11:28、29 すべて、疲れた人、重荷を負っている人は、わたしのところに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。わたしは心優しく、へりくだっているから、あなたがたもわたしのくびきを負って、わたしから学びなさい。そうすればたましいに安らぎが来ます。

⑨節制（エグツラティア） **εγκρατεια**

この節制・自制は十字架を源にした節制、そこから湧き出るキリストの節制

ルカ 10:39、40 彼女にはマリアという姉妹がいた。マリアは主の足もとに座って、その話に聞き入っていた。マルタは、いろいろのもてなしのためせわしく立ち働いていたが、そばに近寄って言った。「主よ、わたしの姉妹はわたしだけにもてなしをさせていますが、何ともお思いになりませんか。手伝ってくれるようにおっしゃってください。」

御霊の賜物のリスト①

ローマ 12:6-10 私たちは、与えられた恵みに従って、異なった賜物を持っているので、もしそれが預言であれば、その信仰に応じて預言しなさい。奉仕であれば奉仕し、教える人であれば教えなさい。勧めをする人であれば勧め、分け与える人は惜しまずに分け与え、指導する人は熱心に指導し、慈善を行なう人は喜んでそれをしなさい。愛には偽りがあってはなりません。悪を憎み、善に親しみなさい。兄弟愛をもって心から互いに愛し合い、尊敬をもって互いに人を自分よりまさっていると思いなさい。

恵みの賜物リスト②

1 コリント 12:8-13 ある人には御霊によって知恵のことばが与えられ、ほかの人には同じ御霊にかなう知識のことばが与えられ、またある人には同じ御霊による信仰が与えられ、ある人には同一の御霊によって、いやしの賜物が与えられ、ある人には奇蹟を行なう力、ある人には預言、ある人には霊を見分ける力、ある人には異言、ある人には異言を解き明かす力が与えられています。しかし、同一の御霊がこれらすべてのことをなさるのであって、みこころのままに、おののちにそれぞれの賜物を分け与えてくださるのです。ですから、ちょうど、からだの一つでも、それに多くの部分があり、からだの部分はいち多くあっても、その全部が一つのからだであるように、キリストもそれと同様です。なぜなら、私たちはみな、ユダヤ人もギリシヤ人も、奴隷も自由人も、一つのからだとなるように、一つの御霊によってバプテスマを受け、そしてすべての者が一つの御霊を飲む者とされたからです。

6章は信仰に基づいた助け合い（教会論）が語られる。

愛の律法、キリストの律法（1-10 節）

- ・ 罪に落ちた兄弟を戒め、信仰の道に導き返すこと（1-2）
- ・ 謙遜と自己吟味（3-5）
- ・ み言葉への従順と希望と信仰者の励まし合い（6-10）

結びの言葉（11-18 節）

- ・ 律法主義者への最後の勧告（11-16）

6章 14「この十字架によって、世界は私に対して十字架につけられ、私も世界に対して十字架につけられたのです。」⇒ 新共同訳 2:19 わたしは神に対して生きるために、律法に対しては律法によって死んだのです。わたしは、キリストと共に十字架につけられています。

ここでパウロは今なお、十字架につけられ、自らも十字架にとともにつけられていることを告げる。

- ・ キリストによる焼印（17 節）
- ・ ガラテヤの信徒たちへの祈り（18 節）

異端との戦い ― ガラテヤ書講解

J.ピヒカラ

異端の魅力と愚かさ

爆発的な書簡

ガラテヤ書は「爆発的な書簡」と言われています。というのは神様と人間との関係において、救いと神様の御前で立つ事において、人間自身からの可能性を徹底的に破壊する爆発力のある手紙だからです。救われるには律法は何一つ役に立たないという事をはっきりさせます。人間は自分の努力、自分の意志、感情、知識を尽くして救いを得る事は出来ない事は律法の働きで明らかになります。律法は神様の正しい要求であっても、人間に救いを与えるものではなく、救いの必要性を明確にする神様の啓示です。しかし、救いそのものをもたらせるのは福音だけです。言い換えれば、救いは100%神様ご自身の御業です。ガラテヤ書は律法と福音を区別するだけではなく、律法と福音をなんらかの形で混同するあらゆる異端的な考えを厳しく攻撃する書簡でもあります。

異端の定義

一般的に異端と言う言葉は次のような意味で使われています：

「正統からはずれていること。その時代の多数の人が正統と認めているものとは異なった、特殊な少数の者によって信じられ、主張される思想、信仰、学説など。また、その人。」

この定義に従って、キリスト教的な文脈の中に異端という言葉は正統的な、多数派の諸教会の聖書解釈や教えから外れて、何かの特殊な、多くの場合、極端な教えを持つ少数派グループを指します。しかし、宗教改革の歴史を振り返ってみると、大多数を占める正統的な教会が全体として異端的になる可能性が充分あると言えます。ですから異端のキリスト教的な定義はあくまでも聖書と照らし合わせて考えるべきです。

ガラテヤ書の中の異端とは神様が与えて下さった福音に何かを付け加える、あるいは福音から何かを取り除く、または福音そのものを持ちながら、それを異質な包みで見えなくなるようにする教えまたは生き方です。

まったく正しい福音を教えながら、福音と矛盾した生き方も異端的なグループを生み出しますが、全ての生き方にそれを支える哲学と価値観がありますから、実施そのものも教えに結びついていますから、たとえ言葉で言われなくても、福音と矛盾する教えが異端を生みます。

もっと狭く言ったら、ガラテヤ書が戦っている異端は何らかの形で律法と福音を混同するものです。しかし、深く考えて見ると全ての異端の本質はそこにあります。

宗教と異端

非キリスト教的な宗教は聖書からみたら、異端に属しません。神様の一般啓示によって、ある程度まで律法の内容を知りながら、それも否定したり、抑えたりしますが、福音を全く知らないものですから。暗闇の世界です。聖書的に表現したら、サタンの支配の下にあります。

異端に必ずある程度までの聖書の啓示、即ち律法と福音との知識があって、真理と偽りの巧みな組み合わせです。異端に必ず

ある程度までの真実があるからこそ、クリスチャンにとっても危険性が他の諸宗教より遥かに高いのです。新約聖書全体は異端に対して非常に厳しい態度を取ります。イエス様がパリサイ派やサドカイ派を余りにも厳しく非難しました。パウロも異端者に対して呪いを思わせる表現を使います：

「あなたがたをかき乱す者どもは、いっそのこと不具になってしまうほうがよいのです。」(5:12)

イエス様もパウロも異端者を愛しておられたからこそ、大変厳しい表現を使います。偽りと真実を混同する者に一番大切な必要は本当の真実を知ることであり、又異端は命取りであり、余りにも危険な状態であるからです。多くの異端の特徴は凄い程の熱心者です。偽りと真実を混同している熱心者に客観的な、第三者的な姿勢で近付くべきではないとイエス様とパウロの行為から読み取れます。クリスチャン達の生温さこそが異端を生む環境です。しかし、その半面にいくら熱心であっても、それ自体は人が正しい教えを持っている証拠ではありません。

福音の定義

聖書によく使われている福音と言う言葉は良い知らせと言う意味ですが、決まった絶対に変えてはならない内容のメッセージです。パウロはそれを次のように要約します：

「兄弟たち。私は今、あなたがたに福音を知らせましょう。これは、私があなたがたに宣べ伝えたもので、あなたがたが受け入れ、また、それによって立っている福音です。また、もしあなたがたがよく考えもしないで信じたのでないなら、私の宣べ伝えたこの福音のことはしっかりと保っていれば、この福音によって救われるのです。私があなたがたに最も大切なこととして伝えたのは、私も受けたことであって、次のことです。キリストは、聖書の示すとおり、私たちの罪のために死なれたこと、また、葬られたこと、また、聖書に従って三日目によみがえられたこと、また、ケパに現われ、それから十二弟子に現われたことです。その後、キリストは五百人以上の兄弟たちに同時に現われました。その中の大多数の者は今なお生き残っていますが、すでに眠った者もいくらかいます。その後、キリストはヤコブに現われ、それから使徒たち全部に現われました。そして、最後に、月足らずで生まれた者と同様な私にも、現われてくださいました。(1コリント 15:1-8)

異端へ走ったガラテヤのクリスチャンの背後

福音によるよいスタート

パウロはその一番目の宣教旅行の時に南ガラテヤの諸町に福音を述べ伝えました。その中にイコニウム、ルステラ、デルベがありました。(使徒行伝 14 章) 当時伝えた福音の内容を彼はこう表現します：

「十字架につけられたイエス・キリストが、あなたがたの目の前に、あんなにはっきり示された」と。

パウロの伝道は大変困難な状況の中に行われました。ユダヤ人は彼を反対し、異邦人に石打にされたほどでした。にもかかわらず、多くの人々が福音を受け入れて、聖霊様を心に迎え入れました。

「ただこれだけをあなたがたから聞いておきたい。あなたがたが御霊を受けたのは、律法を行なったからですか。それとも信仰をもって聞いたからですか。あなたがたはどこまで道理がわからないのですか。御霊で始まったあなたがたが、いま肉によって完成されるというのですか。」(3:2 - 3)

パウロの伝道は福音の痛みをもって言葉によって人を神様の国に生む事でした：

「私の子どもたちよ。あなたがたのうちにキリストが形造られるまで、私は再びあなたがたのために産みの苦しみをしています。」(4:19)

福音伝道の結果として信仰に入った人々は自分の幸福を誇るぐらいでした：

「あなたがたが味わっていた幸福は、いったいどこへ行ってしまったのか。」(4:15)

救われたばかりの教会の歩みもただしかったのです：

「あなたがたは、よく走っていました。」(5:7)

福音によって救われたばかりのガラテヤのクリスチャンの心に神様と兄弟姉妹に対する愛が生まれました。目の病気で悩んでいるパウロに自分の目さえ与えたかったほどの愛でした：

「知ってのとおり、この前わたしは、体が弱くなったことがきっかけで、あなたがたに福音を告げ知らせました。そして、わたしの身には、あなたがたにとって試練ともなるようなことがあったのに、さげすんだり、忌み嫌ったりせず、かえって、わたしを神の使いであるかのように、また、キリスト・イエスでもあるかのように、受け入れてくれました。あなたがたが味わっていた幸福は、いったいどこへ行ってしまったのか。あなたがたのために証言しますが、あなたがたは、できることなら、自分の目をえぐり出してわたしに与えようとしたのです。」(4:13 - 15)

福音の力で救われるのは偶像礼拝から生きておられる神様を礼拝する方向転換でした。神様を知るようになったからです：

「ところで、あなたがたはかつて、神を知らずに、もともと神でない神々に奴隷として仕えていました。しかし、今は神を知っている、いや、むしろ神から知られているのに、なぜ、あの無力で頼りにならない支配する諸霊の下に逆戻りし、もう一度改めて奴隷として仕えようとしているのですか。」(4:8 - 9)

彼らが単純に主イエス・キリスト様の福音を聞いて受け入れた結果としてこれらの全ての事柄が起こりました。洗礼を受けて、イエス・キリストを信じる信仰によって神様の子供にされました：

「あなたがたは皆、信仰により、キリスト・イエスに結ばれて神の子なのです。洗礼を受けてキリストに結ばれたあなたがたは皆、キリストを着ているからです。」(3:26 - 27)

その後惑わす教師達が教会に入り込んで、福音と律法を混同させる教えを受けて、教会は霊的に酷い状態に陥ったにもかかわらず、パウロは彼らを依然として神様の子供とキリストの者と呼んでいます。しかし、彼らの信仰生活は大きな危機にぶつかっていたから、ガラテヤ書のような厳しい手紙を送らなければならなかったのです。

パウロの単純な十字架と復活の福音を述べ伝える事によって教会が生まれました。福音を受け入れた人々は聖霊様を受けて、洗礼を授けられました。福音を信じる信仰は彼らをキリスト様と結び合わせて、彼らの心を喜びや愛や熱心で満たしました。福音を信じることによって生きる力が湧いてきました。パウロの伝道は福音についての説明でもなく、福音の弁明でもなく、単純にイエス・キリストの十字架の贖いと復活されたキリストご自身を述べ伝えることでした：

「異邦人の間に御子を宣べ伝えさせるために、御子を私のうちに啓示することをよとされた」と。(1:16)

霊的な荒野

今全てが変わっていました。教会の状態は惨めで、信仰や愛や熱心の代わりにユダヤ教の儀式と律法の規定を守る、力のない、冷たい荒野になっていました。喜びと愛がどこかに消えていました。パウロとその同労者たちは諸教会の非難と軽蔑の対象になっていました。彼らのメッセージを誰も本気で聴こうとしなかったのです。だからガラテヤ書は福音の弁明であり、又彼自身の福音伝道が神様から与えられた権威で行われた事の弁証でもあります。彼の福音の他に違う福音があり得ない訴えでもあります。

恵みから落ちた人々の記憶

諸教会のパウロに対する姿勢が否定的に変わったにもかかわらず、ある意味では彼らがパウロの言う事を聞かなければならなかったのです。それは救われたばかりの時に経験した不思議な力、喜び、平安を忘れる事が出来なかったからです。今パウロより遥かに進んでいる自慢を持ちながらも、福音の初期に苦しい中にも神様の力、癒しや忍耐強さの記憶を頭から追い払うことが出来なかったのです。福音の力を本当に経験した人は、後でどんなに神様の恵みから遠ざかっていっても、完全に忘れることが出来ません。悲惨な結果に導いたプロセスを扱う時にパウロには諸教会の信徒の心に味方のようなものがありました。

異端はどのような道で信徒の心に入り込んだのか

異端者の聖書知識と熱心

どうしてガラテヤのクリスチャン達は道を迷って、力を失ったのでしょうか。それは、諸教会が生まれて、パウロが彼らを組織化して、リーダーを任命して帰られて間もなくエルサレムから新しい教師がやって参りました。彼らはパウロと同様にユダヤ人であったし、自分をクリスチャンと呼んだ人々でした。彼らもパウロが教えていた同じイエス・キリストについて教えていました。彼らの教え方も熱心で、クリスチャンになったばかりの彼らをもっと深く神様の御言葉の奥義に導く助けを与えようとしたから、諸教会は彼らを心から歓迎しました：

「あなたがたに対するあの人々の熱心は正しいものではありません。彼らはあなたがたを自分たちに熱心にならせようとして、あなたがたを福音の恵みから締め出そうとしているのです。」(4:17)

これらの新しい教師達は旧約聖書をよく知って、信用できる学者振りをしていました。

諸教会の安全の必要

この新しい教師達は迫害の中に生まれた諸教会の安全に対する必要に巧みに訴えることが出来ました。先ず一般の社会から彼らを隔離して、そして今はパウロ達よりも聖書の奥義を知ることの出来る新しいアイデンティティー(自己確立感)を与えて、彼らこそが「本物のクリスチャンである」宗教的な安全区域を作りました：

「あなたがたに対するあの人々の熱心は正しいものではありません。彼らはあなたがたを自分たちに熱心にならせようとして、あなたがたを福音の恵みから締め出そうとしているのです。」(4:17)

生まれ変わったクリスチャンにも肉、即ち罪深い古い性質が残っていますから、これらの偽教師らは肉に種を蒔いて、教会の交わりを以前よりも密接にして、開かれていないけれども安全感を与える集団意識を育てる事で成功しました。時間と伴って、この隔離させる政策の背後に経済的な利益を求める心があったという事が明らかになりました。(4:17) しかし、他のクリスチャンより遥かに高い聖書知識を与える指導者に大きな経済的な犠牲を惜しみなく与える心がこう言う隔離されたグループの中に生まれやすいのです。捧げる寄付の大きさと競い合うことさえ生まれる環境ですから。パウロは偽教師らの貪欲を指摘しながらも、信仰者の正しい、愛による捧げ方をも教えなければならませんでした：

「御ことばを教えられる人は、教える人とすべての良いものを分け合いなさい。」(6:6)

しかし、宗教的な安全感だけではなく、社会の中に迫害を経験した新しいクリスチャンにとって、偽教師らは迫害から解放される道を教えてくれました。それはユダヤ教の一派としてローマ当局の前で登録すれば、迫害から免れると言う事でした。異邦人クリスチャンが割礼の意味を余りよく分からなかったでしょうが、社会の中に安全な区域を設ける事が出来た事を歓迎しました：

「あなたがたに割礼を強制する人たちは、肉において外見を良くしたい人たちです。彼らはただ、キリストの十字架のために迫害を受けたくないだけなのです。なぜなら、割礼を受けた人たちは、自分自身が律法を守っていません。それなのに彼らがあなたがたに割礼を受けさせようとするのは、あなたがたの肉を誇りたいためなのです。」(6:12-13)

霊的な飢え渇き

救われたばかりのクリスチャンの心に自然に生まれるイエス・キリスト様をもっともっと知りたい霊的な飢え渇きこそが新しい教師達を受け入れる一番の要因だったと思います。この世の一般の生き方で心が乾いていて、偶像礼拝でその渇きに対して空っぽの杯以外に何もなかった彼らがイエス様に会って、キリストにある新しい命、聖霊による命の水に預かったから、それをもっと飲みたい気持ちが沸いてくるのは当然です。彼らの信仰生活の出発はパウロの証言の通りに良かったでした。この新しい教師達はちょうどこの彼らの神様をもっと知る願いを満たす約束をしました。彼らの良い信仰の出発からもっと進むべきだったと新しい教師達が説いたのです。彼らの以前の教師パウロは確かに正しい事を彼らに教えたに間違いはないと言いながら、「しかし、パウロの教えは不十分だったから、信仰生活に進むためにもっとしらなければならなかったのです。」

パウロはアンテオケから来たでしょう。しかし、彼らは本拠エルサレムから来ていたのです。ですから、パウロよりも聖書の教えに詳しい筈でした。彼らはペテロとヤコブを個人的に知ったではないでしょうか。神様の御前でパウロの教えでは未だ不十分でした。割礼を受けてからはじめてアブラハムに与えられた全ての祝福と約束の相続人になれます。だから、ガラテヤ人の救いは未だ中途半端でした。旧約聖書からこれらの事を立証するのもこの新しい教師達にとって決して難しい事ではありませんでした。未だ聖書知識の浅いガラテヤのクリスチャン達は納得していきました。

自由と形

パウロの権威を先ず打ち砕いて、そしてパウロの福音を踏み躪って、諸教会のクリスチャン達は新しい教師達の側に驚くほどの速さで傾いてしまいました。確かにイエス様を信じる必要がありましたが、その他に割礼を受けて、旧約聖書の律法を出来るだけ熱心を守る必要がありました。初めにこれらのユダヤ教的な掟や彼らのギリシャ文化に属しない習慣を受け入れるにはそれなりの抵抗もあったと言えるでしょう。自由が以前より狭くなった感じは避けられなかったからです：

「キリストは、自由を得させるために、私たちを解放してくださいました。ですから、あなたがたは、しっかり立って、またと奴隷のくびきを負わせられないようにしなさい。」(5:1)

「ところが、今では神を知っているのに、いや、むしろ神に知られているのに、どうしてあの無力、無価値の幼稚な教えに逆戻りして、再び新たにその奴隷になろうとするのですか。あなたがたは、各種の日と月と季節と年とを守っています。」(4:9-10)

その半面にこうして彼らの信仰生活は安全感をさえ与えるはっきりして強い形を持つようになった事を否定出来なかったのです。以前偶像礼拝も明確な形を持っていたからでしょう。それぞれの場面に何をすべきか彼らがこれらの新しい教師達の教えで分かるようになったに間違いなかったのです。自由と多少妥協しなければならなかったのですが、今はどのような行為が正しいか分かったから一安心でした。パウロの教えた自由は思ったより難しかったからです。明確な行動基準に欠けて、自分で余りにも考えなければならなかったからです。キリスト様との個人的な関係を保ちながら、その御言葉を適用する作業をいつもしなえればならなかったからです。宗教生活と宗教儀式的細かい所まで知るようになって、宗教の世界をある意味でマスター出来るまで至って、いい気分になる面もありました。知らない内に霊的な高ぶりが彼らの心に入り込んでしまいました。教会は宗教的な素人からプロ意識に代わっていききました。その上にエルサレムから知り渡ったこれらの宗教的な美しい形にそれなりの深い意味が含まれていたのです。確かにパウロのいた頃経験した色が多少褪せて来ましたが、自分の救いを確かにすることが出来て、信仰生活で進んで神様の奥義を知る事の代価として止むを得なかったでしょう。

こう言うプロセスの結果諸教会は殆ど知らない内に異端の虜になってしまいました。諸教会の霊的な命は脅かされていて、そしてこれらの教会を通しての福音伝道が完全にストップした状態でした。

人間中心主義と現代的な異端

今日的な異端

パウロがガラテヤの諸教会の問題に対してどのように対処したかを見る前に、現代にガラテヤの異端がどのように現れているかを考えてみましょう。

パウロの教えは次の方程式に書くことが出来ます：

救い = キリストの福音を信じる事

異端の方程式は一般的に次になります：

救い = キリストの福音を信じる事 + 人間自身の宗教的な営み(体験も含めて)

古い宗教と新宗教と新新宗教の方程式は次になります：

救い = 人間自身の宗教的な営み

これらの方程式の中に「救い」と言う言葉は違う意味になります。パウロの方程式では救いは創造主でおられる真の神様の交わりに戻って、神様の御前で十分な義を頂いて、聖霊様の命に与る事です。異端と諸宗教の「救い」とは色々の意味になります。その時の苦難からの開放と言う意味もあれば、自分の中に潜んでいる超自然的なエネルギーの発見もあり、神秘的な体験もあり、又単なる気分転換ぐらいの薄い意味もあります。

異端は福音より凄い約束をしますが、実際に一般宗教が提供する以上は何も与えることが出来ません。サタンと悪霊が実際に存在して、普通の心理学的なレベルの体験を超える現象を起こす事がありますから、一般の宗教が約束する事柄は全てが根拠のないものだとは限りませんが、与えられる説明が真実と異なります。

福音と信仰

キリストの福音はキリスト様とその御業についての良い知らせです。ナザレのイエス様は天から下ってきた神様の御子キリストであり、身代わりとして私達の罪の処罰を受けられて、十字架の上で死んでくださって、三日目に甦られた事で死と悪魔とに打ち勝って下さいました。それは罪深い人々が神様の交わりに戻って、聖霊様によって神様の永遠の命に与る為です。

信仰とはこの福音のメッセージとその中に近付きキリスト様を受け入れる事です。イエス・キリストを自分の唯一の望みにして、その御業に自分自身を明け渡して、キリスト様に聞き従うことです。信仰そのものは何もありません。対象であるイエス・キリスト無しに信仰は何の役も立ちません。信仰は信仰の対象を作る事ができません。キリスト信仰はキリスト様との人格的な関係の中に相手でおられるキリストを信頼して、自分の事を何もかもイエス・キリストに任せる事です。信仰はキリスト様が信頼性のあるお方と言う事実に基づきます。信仰はキリスト様についての教えを受け入れる事を超えて、キリスト様との人格的な出会いによるものです。信仰の成長は自分の中にある何かが増えることではなく、相手であるキリスト・イエスをもっと深く知ることであり、又それゆえにもっと大胆に主イエス様から全ての賜物を受け入れる事です。

成功の神学

成功の神学と言う巧みな異端の特徴は信仰を信仰の対象から切り離して、一人歩きをさせて、結果として人間は神様を信じるより自分の信仰を信じる事になります。(極端に言ったら「神様と同じように信じれば、神様と同じ事が出来るようになる」と言う何とも言えない高ぶりです。キリスト信仰の中心は相手であるキリストですが、成功の神学では人間自身が中心です。場合によって余りにも聖書的な表現を使って、如何にも深いキリスト信仰に見えますが、結局ガラテヤの異端の一つの現れです。異端を見極めるために、使われている言葉の意味を吟味しなければなりません。

一般の宗教

人間自身の宗教性は二つの源があります。先ず人間は神様に創造された者として、元々神様との生きた信頼関係の中にいました。罪の為にその関係から離れて、深い命への飢え乾き、罪の結果としての苦難と苦しみを経験しています。この苦難は失われたパラダイスと神様との関係への一種の憧れでしょう。罪のままにこれらの諸問題を解決しようとする為の祈り、断食、善行、遍路、様々な礼拝、修行、恍惚状態、超自然的な力との利用などはこの本質的に罪深い宗教性の現れです。

このような自然な宗教性の根底には心を満たす命や豊かな生活や自分に合う神々との関係が彼自身に可能であると言う確信が潜んでいます。自然宗教は本質的に人間中心であり、自分の可能性を信じる所から湧いて来ます。神様に作られた元々の宗教性のこのような現れ方は罪堕落の結果です。人間の罪深い肉から出るものです。自分が自分

の内側または外側にある力を利用して自分に良い結果を生む事が出来る自己中心的な信仰から始まります。色々の方法や治療方法や心理学的な仕組みなどを使って、一時的な変化を自分の人生にもたらせる事で成功する事もあります。このような宗教性は非常に聖書的な衣をも着ることが出来ます。例えば聖書の律法を自分の力で守る事が出来ると思って、一生懸命頑張ると言う形でも教会の中にも現れています。聖書の律法は確かに清いもので、神様の御心の啓示でもあります、肉の力でそれを守ろうとする営みは一般宗教と本質的に変わりません。

律法は救いの道ではない

ガラテヤ書の3章によると神様の律法は決して救いの道として与えられたものではありません：

「では、律法とは何でしょうか。それは約束をお受けになった、この子孫が来られるときまで、違反を示すためにつけ加えられたもので、御使いたちを通して仲介者の手で定められたのです。仲介者は一方だけに属するものではありません。しかし約束を賜わる神は唯一者です。とすると、律法は神の約束に反するのでしょうか。絶対にそんなことはありません。もしも、与えられた律法がいのちを与えることのできるものであったなら、義は確かに律法によるものだったでしょう。しかし聖書は、逆に、すべての人を罪の下に閉じ込めました。それは約束が、イエス・キリストに対する信仰によって、信じる人々に与えられるためです。信仰が現われる以前には、私たちは律法の監督の下に置かれ、閉じ込められていましたが、それは、やがて示される信仰が得られるためでした。こうして、律法は私たちをキリストへ導くための私たちの養育係となりました。私たちが信仰によって義と認められるためなのです。」(3:19-24)

律法は霊的な性質を持っていますから、聖霊の力によってしか守ることは出来ません。自分自身の力で律法を本気で守ろうとするならば、自分の無力、罪深さ、助けのない絶望的な状態に直面します。その時に二つの可能な道があります。第一はキリストの元に急いで、絶望的な状態を認めて、自分をキリストに任せる事です。もう一つは肉の力で律法を守る努力を続ける中に勝手にその要求を低くする事です。そこに大変福音的に見える手段もよく用いられます。それは自分が完全に律法を守る事が出来ないから、哀れみ深い神様はきっと守れなかった部分を赦してくれると言う考えです。こう言う緊張感は耐えがたいものですから、律法の要求を少しずつ低くする作業の結果とうとう自分の实际生活と神様の要求を一致させる事で成功します。イエス様の時代のパリサイ派は大いにこの営みで成功して、偽善的な安心感まで至ったから、イエス様の厳しい非難的になりました。律法の本質は宗教的な形式を守る人間中心主義に終わってしまったからです。

異端の方程式

異端の方程式に戻しましょう。

救い＝キリストの福音を信じる事＋人間自身の宗教的な営み

考えて見るとこの方程式は矛盾を含むのです。キリストの福音を信じることは全面的にキリストに自分を任せる意味をしますが、人間自身の宗教的な営みは少なくとも部分的に救いの責任を自分自身に取ります。福音は霊的で、人間の宗教性は肉からのものです。命と死と混じるような不可能な方程式です。パウロはそれについてこう語っています：

「私は言います。御霊によって歩みなさい。そうすれば、決して肉の欲望を満足させるようなことはありません。なぜなら、肉の願うことは御霊に逆らい、御霊は肉に逆らうからです。この二つは互いに対立していて、そのためあなたがたは、自分のしたいと思うことをすることができないのです。しかし、御霊によって導かれるなら、あなたがたは律法の下にはいません。肉の行ないは明白であって、次のようなものです。不品行、汚れ、好色、偶像礼拝、魔術、敵意、争い、そねみ、憤り、党派心、分裂、分派、ねたみ、酩酊、遊興、そういった類のものです。前にもあらかじめ言ったように、私は今もあなたがたにあらかじめ言うておきます。こんなことをしている者たちが神の国を相続することはありません。しかし、御霊の実は、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制です。このようなものを禁ずる律法はありません。キリスト・イエスにつく者は、自分の肉を、さまざまの情欲や欲望とともに、十字架につけてしまったのです。もし私たちが御霊によって生きるのなら、御霊に導かれて、進もうではありませんか。」(5:16 - 25)

「肉に従う者は肉的なことをもっぱら考えますが、御霊に従う者は御霊に属することをひたすら考えます。肉の思いは死であり、御霊による思いは、いのちと平安です。というのは、肉の思いは神に対して反抗するものからです。それは神の律法に服従しません。いや、服従できないのです。肉にある者は神を喜ばせることができません。けれども、もし神の御霊があなたがたのうちに住んでおられるなら、あなたがたは肉の中にはなく、御霊の中にいるのです。キリストの御霊を持たない人は、キリストのものではありません。(ローマ 8:5 - 9)

信仰はキリストに全ての栄光を与え、神様を崇めます。肉は自分を大きくして、神様を憎むのです。互いに全く相容れない矛盾を持っています。どちらかが片方を食い潰してしまいます。人間は自分の可能性に対して完全に絶望になって主から救いを受けるか、主を捨てるか、どちらかに最終的になってしまいます。主の御名を唱えながらも主を見捨

てる事もあります。人間は神様を利用して、神様を自分の道具にしてしまいます。しかし、それこそ不信仰と高ぶりの余りです。人間は事実上自分自身を神にするからです。

異端に走った人は次のようなプロセスを通っていきます。方程式の救いという言葉の意味がこれらの変化と共に変わっていきます。

救い = キリストの福音を信じる事ー>

救い=キリストの福音を信じる事+部分的に人間自身の宗教的な営みー>

救い=キリストの福音を部分的に信じる事+人間自身の宗教的な営みー>

救い=信じる事+人間自身の宗教的な営みー>

救い=自分勝手なキリストを自分勝手な信仰で信じる事ー>

救い=人間自身の宗教的な営み

異端と一般の宗教的な営みとの間に本質的な違いはありません。初めにそう見えても結果として変りはありません。ガラテヤ書の中にパウロの基本的な主張は「福音信仰と律法的な宗教の間に中間みたいなものはあり得ない」と言う事です。福音なのか律法なのか、両方は同時に部分的にも共存出来ないのです：
福音(神様の御業)+律法(人間の業)=律法(人間の業です)

人間は同時に二人の主人に仕えることは出来ません。自分の栄光か、神様の栄光か、どちらかなのです。妥協は不可能です。

福音と律法とを混同しようとするのは異端です。どのような割合でミックスしようとするのかによって、異端が明確か巧みかが決まります。95%+5%なら多くのクリスチャンが惑わされやすいのです。しかし、95%の水に5%の毒を入れたら、100%の毒が生まれます。ですからイエス様は偽預言者と惑わす教師について繰り返して警告をなさいました。キリスト者は必ず早かれ遅かれ惑わす者にぶつかります。

異端の影響

多くのクリスチャンはエホバの証人やモルモン教や統一協会のような異端を余り問題にしていらないようです。何故かと言うとそれらの異端に入っている人々を避けて、関係を持とうとしない事で自分が異端から守られると思っているからでしょう。しかし、これらの異端者を表口から払い出しても、彼らの影響が案外裏口から入ってしまいます。例えば、エホバの証人の一つ代表的な教えは滅び即ち神様の永遠の火の処罰が人にはやって来ないと言う教えです。それは罪のために裁きを恐れている人々に余りにも受け入れやすい教えです。ですから聖書的な地獄について話すと教会の中でもどちらかと言うと聖書を弁明する態度を取らなければならない場合がよく出てきます。ですから、エホバの証人の訪問伝道が教会のイメージに打撃を与えるうんぬんと言うよりも、彼らが巧いことに福音の必要性に対する疑いの種を蒔いています。そしてそれは一般社会だけではなくクリスチャンにまで及びます。

心理学的な異端

自分を愛しなさい、そうすれば他の人をも愛することが出来ます。

最近の世界的なキリスト教に入り込んだ異端的な教えの有力な源はニューエージ運動です。1960年代にカリフォルニアから人間可能性運動とヒッピー運動から始まって、ヒンズー教的な世界観と思想を西洋に導入して、凄い勢いでアメリカ全土とヨーロッパに広がりました。この運動はキリスト教会の中にも入り込んで、特にその中心的な教えである宗教的な多元主義、キリストの唯一性を否定する全ての宗教に対する寛容性が知らず知らず多くのクリスチャンの心に入りました。特にこの運動のカチフレーズと言ってもいい程の「自分を受け入れる」教え、言い換えれば、「自分を愛する」教えが数年の内に聖書信仰とリベラル主義の両陣営に広がって、殆ど何の非難もなく受け入れられたのです。「あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ。」と言う聖書の戒めがこの教えの裏づけとしてよく挙げられますが、愛という言葉の定義を聖書的に考えたら全く正反対の意味になります。この戒めが明確に自分と違う相手である隣人への愛の勧めであって、自分を受け入れる命令ではありません。

否定的から肯定的に

自分を愛しない人は他の人をも愛することが出来ないと言う教えは未だに日本の教会でも蔓延しています。ちょっとした神学的な洞察でもそれが如何に非キリスト教的なものか分かる筈なのに、何故広がったかと言うと、キリスト教的と言われるカウンセリングが一般社会の心理学的な方法論を受け入れるだけではなく、心理学の中に入った自己愛思想もそのまま受け入れてしまいました。キリスト教のカウンセリングが神学からかけ離れて、一人歩きをし始めて、神学的なチェックが無いまま広く一般信徒の中に受け入れられたからです。

「自分を愛する」と言う教えはどう言う内容でしょうか。そのキリスト教版はキリスト教的な表現を使いながら、実際に一般心理学の方法か新宗教から借りた手段で人を無駄な罪責感、破壊的な怒り、恨み、憂鬱などから解放して、やっと他の人の必要を考える余裕を与える聖書に反する教えです。クリスチャンであるのはいい事です、自分を十分受け入れられないなら、それだけでは不十分です。本当に輝くクリスチャンになるためには自己確立、自己イメージを高めないといふことです。方程式に書けばこれは次のとおりになります。

救い＝キリストの福音を信じる事＋自分を愛して受け入れる事

しかし、明らかにこれは異端の方程式の一つの形です。ガラテヤで広がった異端と本質的に少しも変わらないのです。ガラテヤ書に明らかに書いてある通りに、愛は聖霊様が結ぶ実であって、聖書的な愛は心理学的または宗教的方法で産む事は不可能です。

この広くクリスチャンの間に受け入れられた教えの問題点は一体何処にあるのでしょうか。幾つかを挙げましょう：

愛の定義

愛と言う言葉の定義が間違っています。現代の愛と言う言葉は非常に感情的な意味で使うようになって来ました。愛するなら、相手に対してよい、肯定的な気持ちを抱かないと駄目だと言われています。(神様は罪に対する清い怒りを持ちながら、人に愛の行為をなさいます。) 良い気持ちがないとよい行為も期待できないのです。よい行為の基準は相手を喜ばして、いい気持ちを与える行動です。この基準では互いのよい気持ちの上に自分の配偶者を裏切る性行為は愛の印に過ぎません。愛、即ち自分のいい感情が全ての上に置かないと駄目です。ガラテヤ書の教えさえこの点で使われます：

「律法全体は、「隣人を自分のように愛しなさい」という一句によって全うされるからです。」(5:14)

こうして感情的な、甘えに似ている愛が全ての標準になります。

「神は愛です」と言う素晴らしい福音はこのような愛と言う言葉の定義では次のような内容に変わります：「神様は暖かく抱いてくれる母親のような存在です。」モーセの神様は時代遅れの恐怖物語の鬼です。柔らかくて、暖かいイエス様が幸いにモーセの厳しい神の代わりに与えられて、もう心配しなくてもよいのです。

異端が教会の中に入るルートの一つは巧みな言葉の意味合いの入れ替わりです。以前と変わらない言葉使いで、全くキリスト信仰と正反対の事を言われるようになります。

聖書の愛

しかし、漢字から見ると愛は感情よりも行動なのです。誰かが手で何かを渡して、そのものを別の人が両手で丁寧に受け取る行動ですが、その特徴は与えられる物に心がついていうことです。言い替えれば、与えられるものは与える人にとって大切なものです。だから、受ける方の人はその物を大切にすることが気にかかる問題です。もし、受ける方がその物の価値が分かるならば、両方の方に感情的なつながりが自動的に生まれます。だから、愛は決して感情的な繋がりから始まるものではありません。価値のある物を与えて、それを受ける行為から始まります。

人間に価値のあるものを言ってみたら、自分の時間、苦勞、お金、評価されること、健康、命などです。それらの事を人に与える事は愛なのです。私達を創造なさった神様は愛のお方です。神様さえもその民である私達人間を愛するために何かを与えなければならませんでした。

「神は、実に、そのひとり子をお与えに成ったほどに、世を愛された。それは、御子を信じるものが、一人として滅びる事なく、永遠の命を持つためである。」(ヨハネ 3 章 16 節)

聖書的な意味の愛は父なる神様が主イエス・キリストを私達の罪の正しい罰の身代りとして十字架の苦しみを受けるためにこの世にお送り下さいました事です。その結果神様の素晴らしいプレゼントは罪の赦しと永遠の命なのです。

この定義から見ると自分自身が愛の対象にはなり得ません。愛は自分が持っている価値のある物を相手に与える行為だからです。自分に自分が持っている物を与えるのは意味のない事です。「隣人を自分のように愛しなさい」と言う戒めは、自分の必要から相手の必要を知ることが出来ますから、相手が何も頼まなくても、その必要を愛の行為で満たすことが出来ると言う意味です。この戒めは非常に積極的な生き方を問うものです。聖書的な愛は犠牲を払うものです。与える行為の結果自分の持っているものが減って行きます。神様から愛を頂かないと、人を愛する事が出来ません。

主体は人間です

「自分を愛しなさい、そうすれば他の人をも愛することが出来ます」と言う教えの、もう一つの落とし穴はその人間中心の所にあります。人間は適当な方法(例えばキリスト教的な恵みと言う方法)で結局自分の恨みや憂鬱や憎しみなどに打ち勝つことが出来ます。頑張ればきっと自分を受け入れて、とうとう人を愛するようになります。しかし、いくら恵みと言う言葉を入れてもこれは新しい律法に過ぎません。必死に自分を受け入れようとして、とうとう絶望に終わったクリスチャンはまれではありません。否定的な感情と呼ばれる恨み、憎しみ、憂鬱などの背後に罪が存在します。聖書を読めば一番はっきりした事は人間は自分の罪に打ち勝つことの出来ない現実があります。たといここに恵みと言う方法が導入されても、結果的に人が主体であって、自分が神様の恵みと言う助けを利用して自分を受け入れる作業の中心になってしまいます。神様が主体になって、一方的に罪を赦して、又一方的に聖霊の力で罪の力から解放して下さらないと、何の救いもありません。人間自身が中心になると、神様が働くことが出来なくなります。人間中心主義は神様の恵みを拒否する恐ろしい不信仰の表れです。

アイデンティティー

聖書的に考えると自分自身を受け入れる作業は自己確立の方から考えても無意味です。人間は自分自身を正しく見る事が出来ない、罪の中にある盲目な存在です。罪の為に創造の時に与えられた価値を失っている哀れなものです。人間的な作業で自分に生きる意味と存在価値を見出すのは不可能です。人に比べる競争社会が生まれるぐらいです。イエス・キリスト様が十字架の上で滅び行き人間に永遠の価値を戻して下さって、それをただ信仰によってのみ与えて下さいます。ですからキリスト者が自己確立よりキリスト確立を受けます。パウロはそれを次のように言い表しました:

「私は使徒の中では最も小さい者であって、使徒と呼ばれる価値のない者です。なぜなら、私は神の教会を迫害したからです。ところが、神の恵みによって、私は今の私になりました。そして、私に対するこの神の恵みは、むだにはならず、私はほかのすべての使徒たちよりも多く働きました。しかし、それは私ではなく、私にある神の恵みです。」(1コリ 15:9 - 10)

神様の一方的な恵みを受けることによって、自分がいかに愛されているか、又その恵みによってのみ地上の使命もまっとう出来ます。

他の普通の異端

もっと古い上と同じパターンの異端が次の方程式で表すことが出来ます。

救い = キリストの福音を信じる事 + きよめ
救い = キリストの福音を信じる事 + 聖霊の賜物
救い = キリストの福音を信じる事 + 讃美
救い = キリストの福音を信じる事 + 聖書的な教会
救い = キリストの福音を信じる事 + 正しいルーテル主義の教理
救い = キリストの福音を信じる事 + 伝道
救い = キリストの福音を信じる事 + 断食祈祷
救い = キリストの福音を信じる事 + 再臨信仰
救い = キリストの福音を信じる事 + イスラエルへの愛
救い = キリストの福音を信じる事 + 倫理的な生き方

カウンセリングにせよ、きよめにせよ、聖霊の賜物などにせよ、全てが聖書的なものです。そして正しく理解すると福音信仰が結ぶ実ですが、もしそれらの事が福音の傍に置かれて、クリスチャン自身の営みになると、律法的になって、福音の光を暗くする異端の始まりになります。ですから異端への道をいつも警戒しなければなりません。

福音による対決

使徒の権威

ガラテヤの諸教会に広がった異端を打ち壊す前にパウロが諸教会のクリスチャン達との信頼回復に努めなければならなかったのです。(1章と2章)手紙の後半に異端の教えとそのリーダー達を攻撃的の的にしました。正しくて唯一の福音の伝達者としての権威と信頼が回復しない限り、パウロの教えは無視されて、受け入れられなかったでしょう。又逆に異端を教える人々または組織に対して疑いの種を蒔かなければなりません。両方共は言うまでもなく真実に基づいて行わなければなりません。

パウロの手紙を含む新約聖書の権威はイエス・キリスト様が選ばれた使徒がそれを書いたか使徒の指導の下で書かれた所によります:

「あなたがたは使徒と預言者という土台の上に建てられており、キリスト・イエスご自身がその礎石です。」(エペソ 2:20)

ですからパウロは自分が述べ伝えた福音は決して人から聞いたものではなく、直接キリスト様から頂いたと強く強調します:

「私はそれを人間からは受けなかったし、また教えられもしませんでした。ただイエス・キリストの啓示によって受けたのです。」(1:12)

今日も聖書の権威を弁明しなければなりません。

リベラル主義

聖書は人間の一番根本的な質問に答えて心を変える力があって、書物としてもとても興味深いはずなのに、聖書の権威を根底から否定するリベラル神学の広く一般社会に広がった影響で、神話や非科学的な昔話のようなものとして見なされるようになりました。ですから、以前キリスト教国として考えられた国々では聖書が無視されるようになりました。ですから、その権威を弁償するのは非常に大切な事です。

宗教的に狭くさせられた聖書

しかし、福音主義的なキリスト者も聖書が全ての教理と人間の営みを批評する基準である事を口癖のように唱えながらも、実際に宗教的な体験以外の実際生活のあらゆる分野でそれを無視して、その代わりに社会一般の基準を適用します。政治、経済、社会倫理、学問などでそれぞれの分野で聖書と矛盾するクリスチャンは日本でも珍しいものではありません。こう言う態度に対してイエス様は何を言われたか、ニコデモとの会話で記録されています:

「あなたがたは、わたしが地上のことを話したとき、信じないくらいなら、天上のことを話したとて、どうして信じるでしょう。」(ヨハネ 3:12)

実際生活に聖書を適用しない宗教はキリスト教ではありません。キリスト教の名に載る異端です。

偽預言者たち

しかし、もっとも恐ろしい聖書の退け方は聖書を固く信じて、それを徹底的に生活に適用とする異端です。聖書をよく知って、話をする時に聖書の引用もよく使います。ガラテヤの新しい教師達はこのタイプのものでした。聖書信仰を主張しながらも、彼らは自分の解釈を聖書の上に置いて、聖書そのものが語ることを許さないで、自分勝手な考え方を立証するために巧みに聖書を利用したのです。彼らの姿勢が間違っていて、自分を神様の上に置きました。これはエホバの証人だけではなく、多くの現代的な異端の特徴です。

このような異端はある意味では一番恐ろしいものです。イエス様が選民と言われたクリスチャンさえも惑わされる恐れがあるからです。これらの異端者は多くの場合預言したり、聖霊の賜物に似ているシャマニズム的な異言を話したり、癒しを見せたりするからです。イエス様は特に偽預言者について繰り返して警告をなさいました。強烈な宗教体験を提供する異端と対照的に何百年の長い宗教的な伝統をバランスよく見える形で聖書の上に置く異端も最終的に同じ性質を持ちます。両方ともは神様の啓示である聖書の上に人間の権威を置くからです。

割礼と救い

ガラテヤにきた新しい教師達はイエス様を信じた異邦人に割礼や旧約聖書のその他の律法を守る主張をしましたが、実はこの問題はパウロが参加したエルサレムの使徒と教会指導者の会議で(使徒行伝 15 章参照)扱われていました。会議の結論は次の通りでした:

「そこで、私の判断では、神に立ち返る異邦人を悩ませてはいけません。ただ、偶像に供えて汚れた物と不品行と絞め殺した物と血とを避けるように書き送るべきだと思います。昔から、町ごとにモーセの律法を宣べる者がいて、それが安息日ごとに諸会堂で読まれているからです。」(使徒行伝 15:19-21)

パウロの福音

ですから、パウロが 12 人の使徒の中に入っていないで、エルサレムの本当の使徒たちと違った自分勝手な福音を伝えたと主張した新しい教師達はエルサレムの教会の代表どころか、エルサレムの会議で負けた少数派の人々でした。教会の中に教理的な主張で間違った人々は、その主張が聖書的でないと指摘されても、悔い改めないで、自分の主張を異端まで拡大する分裂を起こすケースが教会歴史の中に後を立たないのです。面白いことには現代のリベラル神学者の多くもガラテヤの異端者達と同様にはパウロの福音とイエス様と他の弟子達の福音が違う異質なものだ主張します。しかし、このような主張をパウロは否定しました:

「それから十四年たって、私は、バルナバといっしょに、テトスも連れて、再びエルサレムに上りました。それは啓示によって上ったのです。そして、異邦人の間で私の宣べている福音を、人々の前に示し、おもだった人たちには個人的にそうしました。それは、私が力を尽くしていま走っていること、またすでに走ったことが、むだにならないためでした。...そして、私に与えられたこの恵みを認め、柱として重んじられているヤコブとケパとヨハネが、私とバルナバに、交わりのしるしとして右手を差し伸べました。それは、私たちが異邦人のところへ行き、彼らが割礼を受けた人々のところへ行くためです。」(2:1-2,9)

パウロにとって福音はただイエス様について教えだけではなく、イエス様との出会いで、神様がパウロのうちにキリスト様を表すものでした：

「けれども、生まれたときから私を選び分け、恵みをもって召してくださった方が、異邦人の間に御子を宣べ伝えさせるために、御子を私のうちに啓示することをよしとされたとき、私はすぐに、人には相談せず、先輩の使徒たちに会うためにエルサレムにも上らず、アラビヤに出て行き、またダマスコに戻りました。(1:15 - 17)

又彼の使徒としての務めは他の使徒と同様にイエス・キリスト御自身の任命でした：

「使徒となったパウロ・・・私が使徒となったのは、人間から出たことでなく、また人間の手を通したことでなく、イエス・キリストと、キリストを死者の中からよみがえらせた父なる神によったのです。・・・」(1:1)

パウロの福音と他の使徒の福音が全く同じキリストの福音です：

「それから十四年たって、私は、バルナバといっしょに、テトスも連れて、再びエルサレムに上りました。それは啓示によって上ったのです。そして、異邦人の間で私の宣べている福音を、人々の前に示し、おもだった人たちには個人的にそうしました。それは、私が力を尽くしていま走っていること、またすでに走ったことが、むだにならないためでした。」(2:1-2)

パウロの福音以外に救いをもたらせるものはありません。ですから、それと違うもの、を伝える人を警戒すべきです：

「しかし、私たちであろうと、天の御使いであろうと、もし私たちが宣べ伝えた福音に反することをあなたがたに宣べ伝えるなら、その者はのろわれるべきです。」(1:8)

滅びへの道を救いの道として教えるほど恐ろしい罪はありません。異端者の裁きは厳しいものです。

証しの大切さ

人の救いこそが福音の真理と真実の具体的な証拠ですから、パウロは自分が改心した事を繰り返して語りました。使徒行伝の中にそれが3回繰り返されますし、ガラテヤ書にもパウロはそれを証します。ガラテヤのクリスチャン達も同じ福音の力を経験した以上、力のない異端に走ったことは如何に愚かだったでしょう。現代の異端に入っている人々にも救いの証しを繰り返して語るなければなりません：

「しかし、キリストにあるユダヤの諸教会には顔を知られていませんでした。けれども、『以前私たちが迫害した者が、そのとき滅ぼそうとした信仰を今は宣べ伝えている。』と聞いてだけはいたので、彼らは私のことで神をあがめていました。」(1:22 - 24)

律法と恵み

律法

律法は神様の聖なる御心を表す啓示(神様が御自分を私達に示して下さる働き)です。イエス様はその律法の下に御自分を置いて、それを完全に従いながら、その最も深い要求をも教えてくださいました(マタイ 5,6,7 章を参照に)。憎しみは殺人の罪であり、汚い視線は姦淫であり、「本当にそうです」と言う言葉は不誠実の証拠であり、愛は不義に親切で答えるなどです。律法の要約「あなたがたは、天の父が完全なように、完全でありなさい。」(マタイ 5:48)

律法は永遠に変わらないものです。神様が永遠ですから、その清い御心も永遠です。神様の御国でその御心が成就します、そこで真実、清さ、愛、正義、栄光、慈しみ以外に何もありません。

律法には三つの役割があります。まず社会の法律の価値基盤を提供します。国会は神様の律法に従うか従わないかと問わずその上には神様の律法があります。律法の第二の役割は人にその罪と罪がもたらす処罰を示す使命です。第三の役割はクリスチャンを愛の実行に導く使命です。これらの役割においてポイントは律法の文字ではなく、律法を与えて下さった神様との関係です。

律法の役割

律法は決して理論的な考えのレベルのものではありません。具体的に律法に従わなければ、その役割を果たすことが出来ません。私達は律法を知らなければならぬし、それを教えなければなりません、第一にそれに従わなければなりません。しかし、もう既に指摘した通りに律法は救いの道として与えられた訳ではありません。イエス様以外に律法を完全に守った人は罪堕落以来誰一人もおられません。肉、即ち神様に敵対する古い罪深い性質が全てのクリスチャンにも依然として残っています：

「私は神の恵みを無にはしません。もし義が律法によって得られるとしたら、それこそキリストの死は無意味です。」(2:21)

「というのは、律法の行ないによる人々はすべて、のろいのもとにあるからです。こう書いてあります。「律法の書に書いてある、すべてのことを堅く守って実行しなければ、だれでもみな、のろわれる。」ところが、律法によって神の前に義と認められる者が、だれもないということは明らかです。『義人は信仰によって生きる。』のだからです。しかし律法は、『信仰による。』ではありません。『律法を行なう者はこの律法によって生きる。』のです。キリストは、私たちのためにのろわれたものとなって、私たちを律法ののろいから贖い出してくださいました。なぜなら、『木にかけられる者はすべてののろわれたものである。』と書いてあるからです。このことは、アブラハムへの祝福が、キリスト・イエスによって異邦人に及ぶためであり、その結果、私たちが信仰によって約束の御霊を受けるためなのです。(3:10 - 14)

100%の要求

律法に従うことは部分的に出来ません。神様が言われた事を完全に守るか、守らないのか、どちらかなのです。たとい 10%しか守らなかったと思っても、100%の罪です。神様の言われる通りかあなた自身の思う通りかです。自分自身のたとい一番小さい所でも神様の上に置けば、高ぶりの最も恐ろしい罪を犯します。罪の大きさは誰に対して犯したかと言う所にあります。永遠の神様の永遠の律法を破るのは永遠の大きさの罪です。ギリシャ語の罪を表すハマルティアという言葉は的外れと言う意味です。弓と矢で飛んでいる鳥を討とうとしたら、当たるか当たらないかの二つの可能性しかありません。罪深い人間が律法を守って自分を救おうとしたら、結果は呪いと奴隷状態だけです：

「律法の下にいたいと思う人たちは、私に答えてください。あなたがたは律法の言うことを聞かないのですか。そこには、アブラハムにふたりの子があって、ひとりとは女奴隷から、ひとりとは自由の女から生まれた、と書かれています。女奴隷の子は肉によって生まれ、自由の女の子は約束によって生まれたのです。このことには比喩があります。この女たちは二つの契約です。一つはシナイ山から出ており、奴隷となる子を産みます。その女はハガルです。このハガルは、アラビヤにあるシナイ山のことで、今のエルサレムに当たります。なぜなら、彼女はその子どもたちとともに奴隷だからです。しかし、上にあるエルサレムは自由であり、私たちの母です。」(4:21 - 26)

救いは一方的なキリスト様の十字架と復活の御業によってプレゼントされる罪の赦しとキリスト様の完全な義を信仰によって与えられる恵みによってしかありません。恵みによって救われたクリスチャンにも肉が留まります。罪赦された時に与えられた聖霊様の新しい命が注がれますから、キリスト様がクリスチャンの内側から働き出して、聖霊の実を結び出します。しかし、罪深い肉も残りますから、全て聖霊様が結んだ愛、喜び、忍耐、親切などの行動に必ず罪深い肉の影響もですから、最も素晴らしい行為の後でも、クリスチャンは自分の罪を告白して悔い改めなければなりません。救われたクリスチャンもいつまでもただキリストの義が信仰によって与えられた事を頼りにしなければなりません。一番立派なクリスチャンもその愛による行為を神様の前に救いの根拠または救いを確かめる理由として提供する事が出来ません。キリスト者が清い生活を求めるのは救われる為ではなく、救われた故です。

裁きの要求と福音の賜物

神様の清い律法は全ての罪に対して正しい裁きを要求します。神様はどんな罪にも耐えることが出来ません。罪は処罰されなければなりません。聖霊の働きを頂きながらも、したくても律法の要求に応える事の出来ないクリスチャンは安心出来ます。それは救いは律法によらないで、福音によるからです。福音の道に律法の要求は最早及ばないからです：

「しかし私は、神に生きるために、律法によって律法に死にました。私はキリストとともに十字架につけられました。もはや私が生きているのではなく、キリストが私のうちに生きておられるのです。いま私が、この世に生きているのは、私を愛し私のためにご自身をお捨てになった神の御子を信じる信仰によっているのです。」(2:19-20)

「しかし定めの時が来たので、神はご自分の御子を遣わし、この方を、女から生まれた者、また律法の下にある者となさいました。これは律法の下にある者を贖い出すため、その結果、私たちが子としての身分を受けけるようになるためです。そして、あなたがたは子であるゆえに、神は「アバ、父。」と呼ぶ、御子の御霊を、私

たちの心に遣わしてくださいました。ですから、あなたがたはもはや奴隷ではなく、子です。子ならば、神による相続人です。」(4:4-7)

律法によって律法に死ぬ事

救われたクリスチャンは律法によって律法に対して死んでいます。律法は死刑と永遠の滅びを要求しました。しかし、キリスト様は私の身代わりとしてその死刑と永遠の滅びを終わりまで経験して下さいました。(死と言う言葉は聖書の中に普通の肉体的な死と言う意味で使われることもあれば、最も根本的な存在が続きながら受ける処罰を受ける意味でも使われます。この個所では後者の意味です。)律法はイエス・キリスト様を殺し、しかし洗礼で私がキリストに結び合わされたから、私もキリストと共に死んで滅びの処罰を受けました。ですから私の受けるべき死はもう済んでいます。律法の処罰における要求が満たされました。それ以上にもう要求がありません。イエス・キリスト様が私の死と滅びを経験して下さいただけではなく、私に代わって完全な律法に従った生涯をも過ごしました。キリストのこの完全な生涯は私の生涯として見なされます。ですから、律法が要求したものが全部満たされていますから、もう私は律法と関係のない生活を送ってもよいのです。

律法の終わり

キリスト様は律法の終わりです。ですからキリスト者の救いの確信は自分の行き方に少しもかかりません。キリスト様の完全な救いの御業にかかっています。キリスト様が聖霊によってキリスト者の内に住んでおられますから、彼の命はキリストの命です。罪深い肉が反発を繰り返しながらも、キリスト者は絶望する必要はありません。肉はもう既にキリストと共に十字架につけられているからです。即ち、肉が生んだ罪とこれから生もうとする罪はもう既に処罰されているからです。罰はもう済みました:

「キリスト・イエスにつく者は、自分の肉を、さまざまの情欲や欲望とともに、十字架につけてしまったのです。」(5:24)

キリストの命

キリスト者は律法から解放されています。しかし、律法は神様の御心の清い啓示ではなかったのでしょうか。はいそうですが、もう満たされています。ゴルゴタの十字架の上でイエス様が「完了した」(ヨハネ 19:30)と叫ばれた時に完全な救いが与えられました。それでは、キリスト者が神様の御心を行う必要がないと言う事になりますか。はい、救われる為に、神様の天の御国に入れるためには何もしなくてもよいのです。しかし、聖霊様は、キリスト者の内に住んでおられるキリスト様がキリスト者を通して神様の御心を行おうとなさいます:

「しかし、御霊の実は、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制です。このようなものを禁ずる律法はありません。」(5:22-23)

それは最早私達の命よりも私達を通してのキリストの命です。

キリスト様の命はキリスト者の人格を無視する働きをなさらないし、私達の体験から見ると自動的ではありません。心に住んでおられる聖霊様は私達の耳と目を通して入ってくる聖書の御言葉を掴んで、その約束と勧めに従う意思を起こして、又実行の為の力を与えて下さいます。しかし、それはキリスト者が救われる為でもなく、救いの確かさを増やす為でもなく、救いに何かを付け加えるものでもありません。キリスト者の心に注がれた神様の愛の働きに過ぎません。キリスト様が私達の内に生きて、その愛を発揮するだけです:

「律法の全体は、『あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ。』という一語をもって全うされるのです。」(5:14)

罪深い肉も活発に聖霊の働きに対抗して、邪魔をしようとします。ですから、キリスト者の内に一種の緊張感が生まれますが、聖霊の力によって肉の働きを抑える事も出来ます:

「私は言います。御霊によって歩みなさい。そうすれば、決して肉の欲望を満足させるようなことはありません。」(5:16)

キリスト者は律法の要求から解放されていますが、キリストの愛、キリストの自由の掟は彼を愛するように導いて、そして正しい生き方を示す律法の要求を満たすようにさせます:

「互いの重荷を負い合い、そのようにしてキリストの律法を全うしなさい。」(6:2)

キリスト者は律法の要求から解放されていますが、自発的に、キリストの愛の促しによって主の御心を全うしようとします。しかし、それは救われる為ではなく、救われたからです。

肉によって立て直す

律法に対して死んで、神様に対して生きているキリスト者には、もう一度肉によって律法的な生き方に戻る危険があります。律法の骸骨を古い形で又は新しい形で着直そうとすると、キリスト様から頂いた救いの否定に当たりますから、

聖霊様を悲しませる結果になります。その道に進むと先ず福音の力や自由や喜びを失います。続けて行けば福音を否定する異端まで走る恐れがあります：

「しかし、もし私たちが、キリストにあって義と認められることを求めながら、私たち自身も罪人であることがわかるのなら、キリストは罪の助成者なのでしょうか。そんなことは絶対にありえないことです。けれども、もし私が前に打ちこわしたものをもう一度建てるなら、私は自分自身を違反者にしてしまうのです。」(2:17 - 18)

キリスト者にしても、求道者にしても、律法の道で自分に対する絶望までしか至りません。パウロは肉によって無力な律法の道の結果をローマ人への手紙の 7 章で見事に描写します：

「私たちは、律法が霊的なものであることを知っています。しかし、私は罪ある人間であり、売られて罪の下にある者です。私には、自分のしていることがわかりません。私は自分がしたいと思うことをしているのではなく、自分が憎むことを行なっているからです。もし自分のしたくないことをしているとすれば、律法は良いものであることを認めているわけです。ですから、それを行なっているのは、もはや私ではなく、私のうちに住みついている罪なのです。私は、私のうち、すなわち、私の肉のうちに善が住んでいないのを知っています。私には善をしたいという願いがいつもあるのに、それを実行することがないからです。私は、自分でしたいと思う善を行なわないで、かえって、したくない悪を行なっています。もし私が自分でしたくないことをしているのであれば、それを行なっているのは、もはや私ではなくて、私のうちに住む罪です。そういうわけで、私は、善をしたいと願っているのですが、その私に悪が宿っているという原理を見いだすのです。すなわち、私は、内なる人としては、神の律法を喜んでいるのに、私のからだの中には異なった律法があって、それが私の心の律法に対して戦いをいどみ、私を、からだの中にある罪の律法のとりこにしているのを見いだすのです。(ローマ書 7:14 - 23)

肉と律法の道に戻ったキリスト者には一つの道しかありません。それは悔い改めてキリスト様の一方的な恵みに帰る道です。しかし、どんなに迷ったとしてもその道が開いています。恵みの主イエス・キリスト様が待って招いておられます。

信仰と恵み

神様の恵みに帰る道は信仰なのです。ですからガラテヤ書の筋道として行いと無関係の信仰が繰り返して強調されます：

「ところが、律法によって神の前に義と認められる者が、だれもないということは明らかです。『義人は信仰によって生きる。』のだからです。」(3:11)

「アブラハムは神を信じ、それが彼の義とみなされました。それと同じことです。ですから、信仰による人々こそアブラハムの子孫だと知りなさい。聖書は、神が異邦人をその信仰によって義と認めてくださることを、前から知っていたので、アブラハムに対し、「あなたによってすべての国民が祝福される。」と前もって福音を告げたのです。そういうわけで、信仰による人々が、信仰の人アブラハムとともに、祝福を受けるのです。(3:6 - 9)

キリスト者の生き方の全てが信仰によって主イエス・キリスト様から頂きます：

「とすれば、あなたがたに御霊を与え、あなたがたの間で奇蹟を行なわれた方は、あなたがたが律法を行なったから、そうなったのですか。それともあなたがたが信仰をもって聞いたからですか。」(3:5)

信仰の定義

信仰は助けのない人が助ける事の出来るお方により頼むことです。罪深かい、有りのままの姿でイエス様に自分自身と自分の必要を任せる事です。父なる神様は罪深い、弱い、不敬虔な人々を受け入れて、キリスト様の十字架の苦しみと復活の勝利の故に彼らに義をプレゼントして下さいます。信仰はこの賜物を受け入れる空っぽの手です。信仰は神様の約束を信頼することです。信仰は乞食のように謙遜して主から助けを求める事です。信仰はイエス・キリスト様を主として認め、主の支配に従う心です。信仰は心を開いて主イエス・キリスト様を受け入れることです。

信仰の反対、不信仰は信仰に欠けている事ではありません。不信仰は自分自身、自分の可能性、能力、知恵、判断を信じることです。不信仰は自分の人生の指導権をあくまでも自分で握ることです。不信仰は自分で物事をする事です。不信仰は宗教的な超自然的な力(神々を含めて)を自分の益になるように利用する心です。

律法の使命は不信仰の人にその本当の姿を見せて、自分自身に対して絶望させる神様の道具です。しかし、救いは福音によってしか与えられません。福音を信じる信仰は行いによらないで、イエス・キリスト様の御業をとその祝福を受け入れます。信仰によって人間は新しくされます。なぜなら、イエス・キリスト御自身がその心に入って下さるからです：

「キリスト・イエスにあっては、割礼を受ける受けないは大事なことでなく、愛によって働く信仰だけが大事なのです。」(5:6)

活発な信仰

信仰の反対は自分自身を頼りにする行いだからといって、信仰は消極的に怠けると言う意味ではありません。信じたら全ての問題が自動的に解決されるというようなものでもありません。自己中心的な生き方からキリスト様を中心とする生き方が信仰によって生まれます。電線を通して電気が流れると同様に、信仰によってキリスト様の人格的な命が活発的に働くようになります。信仰はキリスト様との交わりを保ちながら、問題や罪や苦難に直面することです。信仰は向かい風の時にもイエス様に従うことです。信仰は御霊による歩みです：

「自分の肉のために蒔く者は、肉から滅びを刈り取り、御霊のために蒔く者は、御霊から永遠のいのちを刈り取るのです。」(6:8)

「私は言います。御霊によって歩みなさい。そうすれば、決して肉の欲望を満足させるようなことはありません。」(5:16)

信仰から生まれる生き方にはこの地上には戦いと重荷も含まれますが、主イエス様との歩みですから、その重荷も主の力で負う事が出来ます：

「人にはおのおの、負うべき自分自身の重荷があるのです。」(6:5)

ガラテヤ人への手紙の学びの質問

第一章

初めの挨拶 1～5 節

1. パウロは使徒の務めをどのように受けましたか。（1、ルカ 6:12-16 と使徒 1:21-26 を参照に）
2. どうしてパウロは自分が持っている使徒の務めを強調しなければなりませんでしたか。（1、2 コリント 10:4-5 を参照に）
3. イエス様の復活はどのように行われましたか。（1、ピリピ 2:5-10 を参照に）
4. 恵みと平安は何処から来ますか。（3）恵みはどのような内容ですか。（4）又平安はどのような内容ですか。
5. イエス・キリスト様は何故十字架の道を歩まれたのでしょうか。（4）
6. 私たちの救いはどのように得られましたか。（4）
7. 救いの目的は何ですか。（4）
8. 救いの最終的な結果は何ですか。（5）
9. 「アーメン」はどういう意味ですか。（5、黙示録 3:14 を参照に）

唯一の福音 6～12 節

10. パウロが伝えた福音の内容と性質は何ですか。（6、1 コリント 15:1-8 を参照に）
11. 恵みの福音を捨てると別の福音がありえない理由は何でしょうか。（7、4:21 と 5:11 と 6:12-13 を参照に）
12. 福音に律法を付け加えたり、曲げたりするは何をもたらせますか。（8-9、5:12 と 2 コリント 1-20 を参照に）
13. 福音伝道はどのような動機ですべきですか。（10）私たちは誰に使えていますか。
14. もし人間が福音を作ったなら、それはどんなものになったのでしょうか。どうして福音が人間によらないのですか。（11）
15. パウロは福音をどのように受けましたか。（12）パウロと他の使徒たちの福音は違っていましたか。（16-17 と 2:2 を参照に）

パウロの証 13～21 節

ガラテヤにきた偽教師たちは福音の他にユダヤ教の律法をも守らないと救われないと主張したから、パウロは自分の証を通して、その道の空しさを明かしします。

16. パウロは何故神の教会を迫害したのでしょうか。（13-14、使徒 7:56-8:1 と 26:9-23 を参照に）
17. 福音と福音の伝達者はどのような互いの関係にありますか。（15-16）
18. 神様の私たちに対する計画はどのようなものですか。（15-16）
19. 福音を伝える時に証の役割は何でしょうか。（15-16）
20. パウロはアラビヤ（現在のシナイ半島）でどのぐらいいて、又何故そこにいたのでしょうか。（17-21、使徒 9:19-30 を参照に）
21. 人に証をする時にそれは何処で行われますか。（20）証をする時に何が大切ですか。

22. 教会の本質は何ですか。(22)
23. 救いの証の最終的な目的は何ですか。(23-24)

第二章

福音による一致 2:1~10

1. パウロとバルナバとテトスは何故エルサレムに行かなければならなかったでしょうか。(1-4、使徒 15:1-29 を参照に)
2. パウロの啓示の内容は何でしたか。(2、1:12 と 1 コリント 15:3-6 を参照に) 他の使徒は福音をどのように受けましたか。(マタイ 16:15-19 を参照に)
3. にせ兄弟たちの教えはどんなものだったでしょうか。(3、4、4:9-10, 17 と 5:4 と 5:12-13 を参照に)
4. キリスト・イエスにある自由はどんな内容でしょうか。(4、2:16 と 4:1-7, 23-26 と 5:1, 13-14 を参照に)
5. 霊的なリーダーの大切な使命は何でしょうか。(5、2:14 を参照に) 何故ですか。
6. 人に対する尊敬とキリストにある平等は互いにどのように調和すべきですか。(6、3:28 とヘブル 13:7, 17 を参照に)
7. 伝道においてどのような責任分担がすべきですか。(7)
8. 伝道はどのように可能でっすか。(8)
9. 違う使命を頂いた働き人は互いにどのような関係を持つべきですか。(9-10、使徒 21:17-19 と 2 コリント 9:12-14 を参照に)

福音の真理と正しい生き方 2:11~14

10. ペテロ(ケパ)とバルナバの偽善てきな行為の動機は何だったでしょうか。(11-13) 正しい相手主義と間違った相手主義はどう違いますか。(1 コリント 8:1-13; 9:19-23 を参照に)
11. 教会の尊敬すべきリーダーが福音の真理から外れたら、何をすべきですか。(14)
12. 個人的に人の罪を指摘して、悔い改めに導く時は何時ですか。公にそうすべき場合が何時ですか。(14、マタイ 18:15-17 を参照に)

信仰によって義と認められる 2:15~21

13. ユダヤ人の特権は何でしょうか。(15、エペソ 2:12 を参照に)
14. ユダヤ人と異邦人にとって救いの道は違いますか。(16)
15. 救いの唯一の道は何ですか。(16、ローマ 4:4-9 を参照に)
16. 義と認められたクリスチャンも罪を犯すと、十字架の贖いは無効になりますか。(17、ローマ 6:1-11 を参照に)
17. 律法の下に戻ると律法は私たちに何を語るでしょうか。(18)
18. 律法によって律法に対して死んだと言う事はどんな意味でしょうか。その結果どのような生き方が生まれますか。(19、ローマ 7:1-6 を参照に)
19. キリストと共に十字架に付けられた事はどんなことでしょうか。(20)
20. キリスト者の命は何ですか。(20)
21. キリストの愛は何処に現れますか。それを自分のものにするのは何ですか。(20)
22. 恵みと律法はどのような関係にありますか。(21) 恵みの中身は何ですか。

第三章

律法の行いか信仰か 3:1~14

1. 悪魔の狙いは何ですか。(1) それは何故ですか。(1 コリント 1:18 を参照に)
2. 福音を語るときに中心は何処ですか。(1)
3. 聖霊様がどのように与えられますか。(2、5、使徒 2:38-39; 8:15-17; 10:44 を参照に)
4. 律法によって生きよとしたら、結果は何ですか。(3)
5. 律法に戻ると迫害と苦しみが減る理由は同時は何でしたか。(4、5:11 と 6:12 を参照に)
6. キリストのための苦しみは無駄ではない理由は何処にあるのですか。(4、1 ペテロ 2:12, 20-25 を参照に)
7. 奇跡のみ業はどのように行われますか。(5、1 コリント 12:4-11 を参照に) 奇跡の役割は何ですか。
8. 義と認められたアブラハムの信仰はどんなものでした。(6-8、創世記 15:1-6 を参照に)
9. 信仰の本質は何ですか。(6、ローマ 4:4-9 を参照に)
10. 信仰の祝福は何ですか。(7-9、11、14、ローマ 1:16-17 を参照に)

11. 律法ののろいは何ですか。（１０、申命記 28 章を参照に）
12. 律法を部分的に守ることはどうして十分ではありません。（１０－１２）１００％に律法を守ったらどうなりますか。（１２）
13. 律法を守ることの出来ない私たちの受けるべきのろいからの救いはどのように可能になりましたか。（１３）

契約と律法 ３：１５－４：７

14. 旧約聖書は古い遺言の聖書です。新約聖書は新しい遺言の聖書です。遺言のと言う形の契約の特徴は何ですか。（１５、１７、ヘブル 9:15-18 を参照に）
15. アブラハムが頂いた約束は誰によって成就されました。（１６）聖書を読む時に文法まで注意しなければならないのは何故ですか。
16. 契約と律法の間にはどのようなものがありますか。（１７、１８）
17. 遺言で約束された遺産は何ですか。（１８、ヨハネ 17:22-26 を参照に）
18. 律法の役割は何ですか。（１９－２４、ローマ 7:7-25 を参照に）
19. 律法は何故救いをもたらせませんか。（２１）
20. 養育係りとしての律法はどのように働きますか。それは何処までですか。（２２－２５、4:1-5 を参照に）
21. 信仰によって私たちはどのような存在ですか。（２６）
22. 洗礼はどのような恵みをもたらしますか。（２７、ローマ 6:1-11 とコロサイ 2:10-15 を参照に）
23. キリスト者の一致と平等は何に基づきますか。（２８）
24. クリスマスは誰のものですか。その結果はどのような特権を持ちますか。（２９）

第四章

1. 奴隷と子供時代の相続人の例でパウロは律法と約束の間に何を教えていますか。（１－３、５）
2. 「この世の幼稚な教え」とは何を意味しますか。（３、4:8-10 を参照に）
3. 神様の計画は時間とどのような関係にありますか。（４）今私たちが神様の計画のどの時代を生きていますか。
4. イエス様は律法の下に生まれたのは私たちにどのような恵みをもたらしましたか。（４－５）
5. 神様の子供の特権は何ですか。（６、７、ローマ 8:15-17 を参照に）
6. 神様の心は何ですか。（７）

パウロの心配 ４：８～２０

7. クリスマスになる前にガラテヤの人々はどんな宗教を信じていましたか。（８－９、使徒 14:11-13 を参照に）
8. 神様を知る事はどのように可能になりますか。（９、1 テサロニケ 1:6-9 を参照に）神様は私たちを知ると言う事は何を意味しますか。
9. 心配するパウロの願いは何ですか。（１１、１２、２０、1 コリント 9:19-23 を参照に）
10. パウロはガラテヤの伝道でどのような状態でしたか。（１３）
11. ガラテヤのクリスマスは救われた時の状態はどんなものでした。（１４－１５）あなたの信仰に入った時と今の状態を比べたらどう違いますか。
12. 耳の痛い真理を受け入れるのは難しいですが、それを拒否しないとどうなりますか。（１６、ヨハネ 8:31-32 を参照に）
13. 正しい熱心と正しくない熱心の基準は何ですか。（１７－１８）
14. キリストが形作られるのはどのようにおこりますか。（１９）

ハガルとサラの例え ４：２１～３１

15. ガラテヤのクリスマスの問題は何でしたか。（２１）
16. 旧約聖書の歴史は比喩的な意味もあります。ハガルとイスマエルは何を指しますか。サラとイサクは何を指しますか。（２２－２４）
17. 聖書はよくシナイ山とシオン山（エルサレム）を比べます。私たちのエルサレムは何ですか。（２５－２６、ヘブル 12:18-24 を参照に）
18. キリスト者の特徴は何ですか。（２６、２７、２８、３１、5:1 を参照に）
19. キリスト者が受ける迫害の理由は何でしょうか。（２９、ヨハネ 16:1-3 を参照に）
20. 「奴隷の女とその子どもを追いつせ」と言う命令は私たちの場合に何を意味しますか。（３０）

第五章

キリストにある自由 5 : 1～15

1. キリストに自由にされたキリスト者にどのような危険がありますか。(1、4)
2. 割礼を受けるとどうしてキリストが私たちにもう益にはなりませんか。(2-3、6、使徒 15:1-2, 23-29; 16:1-3 を参照に) 割礼は何ですか、その役割は何でしたか。(創世記 17:9-14 を参照に)
3. 義の希望は何を指すでしょうか。(5)
4. 信仰はどのように働きます。(6)
5. ガラテヤのキリスト者の信仰生活の初めはどのようなものでしたか。(7、4:15 を参照に)
6. 真理から離れているプロセスはどんなものだったのでしょうか。(7-9、11)
7. 間違った教えを持つ人に対してどのような態度を示すべきですか。(10、12、1ヨハネ 4:1-6 と 2ヨハネ 7-11 を参照に)
8. 自由と愛は互いにどんな関係にありますか。(13、14)
9. キリスト者同士の対立は何をもたらせますか。(15) 解決策は何でしょうか。(7、22)

御霊による歩み 5 : 16-26

10. 御霊による歩みはどのようなものですか。(16、18、25、ローマ 8:1-13 を参照に)
11. キリスト者の葛藤の理由は何処にありますか。(17、ローマ 7:14-25 を参照に)
12. 罪深い性質(肉)の行いは何ですか。(19-21)
13. 肉の行いをしている人の運命は何ですか。(21)
14. 御霊の実は何ですか。(22-23、26、ヨハネ 15:1-17 を参照に)
15. 自分の肉を十字架に付けるのはどういう意味ですか。(24、2:19-20 を参照に)

第六章

互いの荷物を負い合う 6 : 1～10

1. 過ちを犯した人を正すクリスチャンがどのようなものであるべきですか。どのような姿勢で正すべきですか。(1、マタイ 18:15-18 を参照に)
2. 互いの荷物を負い合うのは何を意味にします。(2) 自分の荷物もある事はこれとどう調和できますか。(5)
3. キリストの律法とモーセの律法はどう違いますか。(2、ヤコブ 1:25 を参照に)
4. 自分を他の人にどのように比べるべきですか。(4、ルカ 7:40-47 を参照に)
5. 霊的な教師に対してどのように振舞うべきですか。(6、ヘブル 13:16-17 を参照に)
6. 正しい意味の因縁はどのようなものです。(7)
7. キリスト者の成長の秘訣は何でしょうか。(7-9、5:25 を参照に)
8. 忍耐は何に必要です。(9)
9. 救いはどのような生き方を生みますか。(10、エペソ 2:10 を参照に)

まとめと挨拶 6 : 11～18

10. パウロはその手紙をどのように書きましたか。(11)
11. 私たちは何を自慢にしますか。(12-14)
12. イエス様の十字架は私たちに何を意味しますか。(14)
13. 新しい創造は何を意味しますか。(15、2コリント 5:16-21 を参照に)
14. 平安と哀れみどのような人に与えられます。(16) 神のイスラエルは何を指しますか。
15. パウロの体についているイエスの焼き印はなんのでしょうか。(17) 兄弟姉妹の経験した苦労に対してどのような配慮が必要ですか。
16. キリストの恵みはどのような内容ですか。(18)

エペソ人への手紙

著者：

著者はパウロです(1:1、3:1)。

宛先：

エペソの教会(信者の群)。この手紙は、パウロがローマで投獄されていた時に書かれました。手紙はおそらく、他の諸教会にも回され、多くの人々に読まれたことでしょう。

背景：

エペソは、今日トルコと呼ばれている地域で最も重要な町でした。そこは、多くの商業路が交わる場所でした。エペソには、ローマの女神ダイアナを礼拝する神殿がありました。

パウロは、約3年間エペソでみことばを宣べ伝えました(使徒 20:31)。彼は、エペソ教会の指導者に最後に会った時、非常に特別な時をもって、彼らに別れを告げました(使徒 20:17-38)。

聖書の中での位置：

エペソ人への手紙は、パウロがローマで囚人であった時に書いたもので、「獄中書簡」と呼ばれています。

メッセージ：

- イエスが与えられる救いのゆえに、すべてのクリスチャンは、新しいいのちと、罪に打ち勝つ力をもつように祝福されている。すべてのクリスチャンは、イエスの体である教会の部分である。
- 神が私たちのためにしてくださったことのゆえに、私たちは、神を愛している。私たちは神を愛するがゆえに、神に従い、神を喜ばせるように生きたいと願う。私たちは、神に賛美と栄光をささげたいと願う。
- クリスチャンは、お互いに親切にすべきであり、お互いに人に勝とうとすべきではない。
- 神は、私たちを助け、守ることを約束された。神は、私たちに、身に着けるべき特別の「よろい」を与えられた。

心に留めるべきみことば：

1:22、23、2:8-10、3:20、21、4:2、16、25、29-32、5:15、19、20、6:1、7、10-17

エペソ人への手紙におけるキリスト

信じる者として、私たちは、「キリストにある」者(1:1)、神に選ばれた者(1:7)、大いなる望みを与えられた者(1:12)、そして、神の子どもとして、キリストにあって成長し続ける者(2:21)です。

イエスを死者の中からよみがえらせたのと同じ力を、神は、私たちが得られるようにしてくださいます。というのは、神は、自分の罪の中に死んでいた者たちに、真のいのちをもたらしてくださったからです。イエスを信じる者はすべて、キリストの体である教会の部分です。

イエス・キリストは、心が燃やされるだけでなく、私たちの天のお父様である神に喜ばれる生活を送ることを可能にしてください。

エペソ人への手紙のアウトライン

- ①異邦人の召し(1-9)
 - ②神の知恵を示す教会(10-13)
 - ③キリストの愛を知るように(14-21)
1. あいさつ(1:1-2)
2. 神による新しい共同体(1:3-3:21)
- (1) 神の救いへの賛美(1:3-14)
 - a. 父なる神による選び(3-6)
 - b. 子なる神による贖い(7-12)
 - c. 聖霊なる神による保証(13-14)
 - (2) 神の啓明を求める祈り(1:15-23)
 - a. 神の偉大さを知るように(15-19)
 - b. キリストの権威を知るように(20-21)
 - c. 教会を知るように(22-23)
 - (3) キリストにある新しい命(2:1-3:21)
 - a. 霊的死からの救い(2:1-10)
 - b. ユダヤ人と異邦人の和解(2:11-22)
 - c. 教会の奥義(3:1-21)
3. 新しい共同体の姿(4:1-6:20)
- (1) キリストの体の一体性(4:1-16)
 - a. 一体性の根拠(1-6)
 - b. 一体性における多様性(7-16)
 - (2) キリスト者の人格的基準(4:17-5:20)
 - a. 新しい人としての歩み(4:17-24)
 - b. 真実と愛の歩み(4:25-5:2)
 - c. 光の子としての歩み(5:3-14)
 - d. 賢い人としての歩み(5:15-20)
 - (3) キリスト者の社会倫理(5:21-6:9)
 - a. 妻と夫の関係(5:21-33)
 - b. 子と親の関係(6:1-4)

- c. 奴隷と主人の関係 (6:5-9)
- (4) キリスト者の戦い (6:10-20)
 - a. 戦いの相手 (10-12)
 - b. 戦いの武具 (13-17)
 - c. 祈りの援軍 (18-20)

- 4. 結びの言葉 (6:21-24)
 - (1) テキコの紹介 (21-22)
 - (2) 祝祷 (23-24)

み言葉のしおり

エペソ人への手紙

- 1) すなわち、神は私たちを世界の基の置かれる前からキリストのうちに選び、御前で聖く、傷のない者にしようとされました。神は、ただみこころのままに、私たちをイエス・キリストによってご自分の子にしようと、愛をもってあらかじめ定めておられたのです。それは、神がその愛する方によって私たちに与えてくださった恵みの栄光が、ほめられたえられるためです。 エペソ人への手紙 1 章 4～6 節

私たちは、この御子のうちにあって、御子の血による贖い、すなわち罪の赦しを受けているのです。これは神の豊かな恵みによることです。 エペソ人への手紙 1 章 7 節

また、神の全能の力の働きによって私たち信じる者に働く神のすぐれた力がどのように偉大なものであるかを、あなたがたが知ることができますように。 エペソ人への手紙 1 章 19 節

- 2) あなたがたは、恵みのゆえに、信仰によって救われたのです。それは、自分自身から出たことではなく、神からの賜物です。行ないによるものではありません。だれも誇ることのないためです。2:10 私たちは神の作品であって、良い行ないをするためにキリスト・イエスにあって造られたのです。神は、私たちが良い行ないに歩むように、その良い行ないをもあらかじめ備えてくださったのです。 エペソ人への手紙 2 章 8～10 節

私たちは、このキリストによって、両者ともに一つの御霊において、父のみもとに近づくことができます。 エペソ人への手紙 2 章 18 節

このキリストにあって、あなたがたとともに建てられ、御霊によって神の御住まいとなるのです。 エペソ人への手紙 2 章 22 節

- 3) どうか父が、その栄光の豊かさに従い、御霊により、力をもって、あなたがたの内なる人を強くしてくださいますように。こうしてキリストが、あなたがたの信仰によって、あなたがたの心のうちに住んでいてくださいますように。また、愛に根ざし、愛に基礎を置いているあなたがたが、すべての聖徒とともに、その広さ、長さ、高さ、深さがどれほどであるかを理解する力を持つようになり、人知をはるかに越えたキリストの愛を知ることができますように。こうして、神ご自身の満ち満ちたさまにまで、あなたがたが満たされますように。 エペソ人への手紙 3 章 16～19 節

- 4) 主は一つ、信仰は一つ、バプテスマは一つです。すべてのものの上にあり、すべてのものを貫き、すべてのもののうちにおられる、すべてのものの父なる神は一つです。しかし、私たちはひとりひとり、キリストの賜物の量りに従って恵みを与えられました。 エペソ人への手紙 4 章 5～7 節

神の聖霊を悲しませてはいけません。あなたがたは、贖いの日のために、聖霊によって証印を押されているのです。無慈悲、憤り、怒り、叫び、そしりなどを、いっさいの悪意とともに、みな捨て去りなさい。お互いに親切にし、心の優しい人となり、神がキリストにおいてあなたがたを赦してくださったように、互いに赦し合いなさい。 エペソ人への手紙 4 章 30～32 節

- 5) また、酒に酔ってはいけません。そこには放蕩があるからです。御霊に満たされなさい。詩と賛美と霊の歌とをもって、互いに語り、主に向かって、心から歌い、また賛美しなさい。いつでも、すべてのことについて、私たちの主イエス・キリストの名によって父なる神に感謝しなさい。キリストを恐れ尊んで、互いに従いなさい。 エペソ人への手紙 5 章 18～21 節

- 6) 悪魔の策略に対して立ち向かうことができるために、神のすべての武具を身に着けなさい。 エペソ人への手紙 6 章 11 節

では、しっかりと立ちなさい。腰には真理の帯を締め、胸には正義の胸当てを着け、足には平和の福音の備えをはきなさい。これらすべてのものの上に、信仰の大盾を取りなさい。それによって、悪い者が放つ火矢を、みな消すことができます。救いのかぶとをかぶり、また御霊の与える剣である、神のことばを受け取りなさい。 エペソ人への手紙 6 章 14～17 節

エペソ人への手紙の学びの質問

エペソ人への手紙 1:1～14 主の恵の栄光の為に

1. パウロはエペソのクリスチャンたちを何と言う名前前で呼んでいますか。(1)
2. 聖徒とは清い弟子と言う意味ですが、キリスト者の清さは何によるもので、又どう得られますか。(1)
3. 神様の恵みはどのような事を含むでしょうか。(2、8)
4. 平安の秘訣は何でしょうか。(2、ピリピ 4:7 参照に)
5. クリスチャンと神様の関係はどんなものでしょうか。(2、3)
6. 賛美の本質と対象と目的は何でしょうか。(3、6、12、14)
7. キリストにある祝福はどんなものでしょうか。それはどこから来て、又どのぐらいのものですか。(3)
8. あなたの救いは何時決められましたか。(4)
9. 救いの目的は何ですか。(4、10、11)
10. 救いの中身は何ですか。(5、7)
11. 救いの方法は誰が決められたのですか。(5)
12. あがないとはどういう意味でしょうか。(7、14)それは何によって与えられましたか。
13. 罪の赦しの幅はどのぐらいでしょうか。(7)
14. 罪の赦しは何ですか。又赦された事はどのように分かりますか。(7、9)
15. 救いがあらかじめから計画されて、又決められた事は私たちにとってどんな祝福を与えますか。(9、10、11)
16. 救われた人々はイエス・キリスト様にとってどんなものでしょうか。(11、12)
17. キリスト者の希望の内容は何でしょうか。(12)
18. 救いに預かる方法は何でしょうか。(13)
19. 福音の内容は何でしょうか。(13、1 コリ 15:1～8 参照に)
20. 聖霊様は何時与えられますか。(13)
21. 聖霊様はどんな働きをなさいますか。(13、14)

エペソ人への手紙 1:15～23 パウロの祈り

1. パウロはエペソのクリスチャンの事で神様にどんな感謝の祈りをしましたか。(15、16) あお教会の皆様信仰と愛はどのように現れていますか。感謝の課題は特に何でしょうか。
2. パウロはどうして自分の感謝と祈りの課題をエペソのクリスチャンに知らせたかったでしょうか。(15、17) 私たちは祈りと感謝の課題をどこまで分かち合っているでしょうか。
3. パウロはエペソでのキリスト者たちの必要のために先ず第一に何を祈りましたか。(17)
4. 神様をもっともっと深く知りたい渴きはクリスチャンにとって必要ですか。(17)その渴きに対して聖霊様はどのような働きをなさいますか。(17、18)
5. あなたの希望はどこにありますか。(18)
6. 多くのキリスト者は弱さを感じますが、それに対して神様の答えは何でしょうか。(19、20)
7. イエス様の主権はどのぐらいのものですか。(20、21)
8. イエス様の支配権と教会はどんな関係にありますか。(22、22)
9. 教会は一体なんでしょうか。(23)神様の救いの計画の中に教会はどんな役割があるでしょうか。(23)

エペソ人への手紙 2:1～10 恵みによる救い

1. 霊的な死とはどういう状態でしょうか。(1～3)
2. 空中の権威を持つ支配者は誰で、又その支配はどのように行われますか。(2、ヨハネ 8:44 を参照に)
3. 神様のみ怒りとはどんな性質のもので、又そのもとに残ったら人間はどうなりますか。(3、ローマ 1:18～32 とヨハネ 3:36 を参照に)
4. 罪は肉と心の望むままに行動する事で表れますが、たとえばどのような事が含まれるでしょうか。(3、ガラテヤ 5:19～21 を参照に)
5. 神様はどんなお方でしょうか。(4)
6. 救いは何によりますか。(5)

7. 救いはどのように起こりますか。(5、6)
8. 救いは私達をどこまで私達を高めますか。(6、コロサイ 3:1～3 を参照に)
9. 救いの目標は何でしょうか。(7)
10. 救いと私達の努力はどんな関係にありますか。(8、9)
11. 救いにおいて信仰の役割は何でしょうか。(8、ローマ 1:15～16 参照に)
12. 救われた人の状態はどんなものでしょうか。(10)
13. 救われた人にとって良い行いはどんな役割を果たすでしょうか。又良い行いはどのように可能になりますか。(10)

エペソ人への手紙 2:11～22 キリストの体なる教会

1. 割礼は何のしるしでしょうか。(11、ローマ 4:9～12 参照に)
2. 神様の選びの国民、イスラエルの特権はどんなものだったでしょうか。(12、ローマ 9:1～5、23～26、10:9～17、11:25～29)
3. 神様の民の特権に預かる道は何でしょうか。(13)
4. イスラエルと異邦人は一つのキリストの体はどうされましたか。(14、16)
5. イスラエルと異邦人の間の隔ての壁は何でしたか。それはどうなりましたか。(14、15)
6. クリスマンにとって律法の役割は何でしょうか。(14、15、ガラテヤ 3:17～25)
7. 神様との関係と人間関係は互いにどう言うふうになっていますか。(16)
8. キリストにある平和はどんなものでしょうか。(14、15、17)
9. 救いは三位一体の神様の働きで、それを一つの短い文章でまとめたものは 18 節です。あなたはどのように父なる神様の所に行けますか。
10. 救われた新しい共同体をパウロはどんな表現で描写しますか。(15、19～22)
11. 一つの体、市民権、家族に属する事、成長する宮はそれぞれ教会について何を語りますか。(15、19～22)
12. 使徒達と預言者たちはどのように教会の基礎になっていますか。(20)
13. 教会とキリストの関係はどんなものでしょうか。(20、22)
14. 教会の最終的な意味は何でしょうか。(22)

エペソ人への手紙 3:1～13 キリスト者の勤め

1. パウロは自分の状況と使命をどのように結び付けましたか。(1)

2. キリストのために投獄されるのはどのように他の人々のためになり得るでしょうか。(1、13;ピリピ 1:7 参照に)
3. パウロの勤めはどんなものでしたか。(2;1 コリ 4:1～3 と 2 コリ 5:18～20 と 2 コリ 6:3～10 参照に)あなたには教会の中にどんな勤めがありますか。
4. 福音の奥義はどのようにパウロに示されましたか。(3～4;ガラテヤ 1:8～12 参照に)
5. 神様の啓示は歴史の中にどのような広がりを見せてきましたか。(5～6、9)
6. パウロの勤めの資格はどこにありましたか。又その勤めをどのように実行出来ましたか。(7～8;1 コリ 15:8～10)
7. パウロにとって伝道は特権であり義務でもありました。(8～9;1 コリ 9:16～17 に比較して下さい)その伝道の中身は何でしたか。(8～9)
8. 教会の一つ重大な使命は何でしょうか。(10;1:3～6 参照に)
9. 神様の救いの計画はどんなものでしょうか。(11;1:11～12 参照に)
10. 救いの確信は何に基づきますか。(12)

エペソ人への手紙 3:14～21 パウロの祈り

1. パウロの祈りは何によりましたか。(14;12 節を参照に)
2. パウロはどう言う姿勢でお祈りしましたか。(14)
3. 神様が父様でおられるのは私達にとってどう言う意味でしょうか。(15) あなたのお父さんはあなたの人生でどんな役割を果たしましたか。(6:1～4 参照に)教会の霊的な父役と母役の人々はどんな働きをしますか。
4. パウロの第一の願いは何でしたか。(16)
5. 私達の内に神様はどのように働きますか。(16、17)
6. 内なるキリスト様はどのように働きます。(18)
7. キリスト様の愛の広さ、長さ、高さ、深さは何を指すでしょうか。(18)
8. キリスト様の愛はどんな性質のものでしょうか。(19)
9. クリスマンが何処まで祝福される可能性がありますか。(19;5:18 参照に)
10. 神様は私達の祈りにどのぐらい答えて下さいますか。(20) 祈りの答えはどのようなルートで行われますか。
11. パウロの祈りの狙いは何処にありますか。(21) 教会の中に私達はどのように神様に栄光を与えることが出来ますか。

12. アーメンとはどう言う意味でしょうか。(21)
13. あなたは何を祈って、どのような答えを待っていますか。

エペソ人への手紙 4:1～16 主は一つ、信仰は一つ、バプテスマは一つ

1. パウロは自分が置かれた環境とその勧めをどう結び付きますか。(1)
2. 召しにふさわしい歩みの原動力は何処にありますか。(1, 4)
3. クリスマン達の互いの歩みの特徴は何でしょうか。(2, 3) あお教会でこう言う歩みはどんな変化をもたらすべきでしょうか。
4. クリスマン達は互いにどのように共通のものを持ちますか。(4～6)
5. キリスト者はどの点に置いて互いに違いますか。(7)
6. イエス様は私達に恵みの賜物を与えるために何をなさいましたか。(8～10; 詩篇 68:19 参照)
7. 神様の満たしは(3:19)はどのように私達に与えられますか。(10)
8. 教会に色々の賜物と勤めが何のために与えられますか。(11, 12) あなたの賜物は何でしょうか。
9. 私達の奉仕の目的は何でしょうか。(12, 16)
10. 霊的に若いクリスマンがどのような危険に陥り易いでしょうか。(14)
11. キリスト者の成長はどんなものでしょうか。(13, 15)

エペソ人への手紙 4:17～32 古い生き方から新しい人間に

1. クリスマンはどうして警告みたいな勧めさえ必要とするでしょうか。(17～19)
2. 異邦人の生き方はどんなものですか。(18～19; ローマ 1:18～32 参照に)
3. キリスト様をどのように学べますか。(20～21)
4. 古い人と新しい人はどう違いますか。(22～24; ローマ 12:1～2 参照に)
5. 新しい人を着るプロセスはどんなものでしょうか: イ)言葉使いにおいて(25, 29) ロ)感情的なレベルで(25～26) ハ)働きにおいて(28) ニ)霊的なレベルで(27, 30) ホ)人間関係において(31～32)
6. 聖霊の大切な働きの一つは何でしょうか。(30)
7. 人を赦すのはどのように出来ますか。(32)

エペソ人への手紙 5:1～21 神様の子供としての歩み

1. キリスト者はどんな立場に神様に習いますか。(1)
2. 愛のうちに歩むことは具体的にどのような言動を指すでしょうか。(2)
3. あなたは神様に愛されている事は何処に明らかになりますか。(2)
4. イエス様の十字架は父なる神様にとってどんな意味をしますか。(2, 創世記 8:20-22 参照に)
5. セックス文化と快樂文明の中にキリスト者の生き方はどうあるべきでしょうか。(3, 4, 11, 12)
6. 現代的な偶像を二つ挙げて下さい。偶像礼拝者の運命はどうなりますか。(5, 出エジプト 20:1～6 参照に)
7. キリスト者はお人よしでいいでしょうか。(6, 7; 1ヨハネ 4:1～6 参照に) キリスト者の仲間意識はどんな基準で決まりますか。
8. キリスト者の生き方の裏付けになる事柄を6つ挙げて下さい。(1～6)
9. 救いはどんな変化をもたらせましたか。(8) 光である事実からどのような結論を出すべきでしょうか。(8)
10. 光のうちに歩むことはどう言うものか (8, 13, 14)、又それはどのように現れますか。(9, 10; ローマ 13:11～14 参照に)
11. 伝道の本質は何でしょうか。(14)
12. 賢い歩みは何処から始まりますか。(10, 17) またそれはどう現れますか。(15, 16)
13. 酒類に対してキリスト者はどう対応すべきでしょうか。(18)
14. 聖霊に満たされるのはどう言う意味でしょうか。(18)それはどのように現れますか。(19, 20, 21)

エペソ人への手紙 5:22～6:9 互いに従いなさい。

1. 妻は夫に対してどんな姿勢をとるべきでしょうか。又それは何故ですか。(22, 24)
2. キリスト様が教会の頭と言う事はどう言う意味でしょうか。(23)
3. 妻を愛するのは具体的に何を意味しますか。(25, 28～29)
4. キリスト様の愛はどのように表れましたか。(25～27)
5. キリストと教会の関係はどうして奥義でしょうか。(30, 32)
6. 幸せな結婚の三つの条件は何でしょうか。(31, 33)
7. 親に従う事からどうして祝福が生まれますか。(6:1～3)

8. お父さんの使命は何でしょうか。(4)
9. 労使関係のどうあるべきでしょうか。(5～9)
10. それぞれの勧めの裏づけは何でしょうか。
(22,24,25,29,1,4,5,6,7,8,9)

エペソ人への手紙 6:10～24 霊的な戦い。

1. 強くなる秘訣は何でしょうか。(10)
2. キリスト者の戦いはどんなものでしょうか。
(11,12) その中に勝利を得るのは可能でしょうか。
(11,12) 又そのために何をすべきですか。(11,13)
3. 帯は何でしょうか。その役割は何でしょうか。
(14)
4. 胸当ては何でしょうか。その役割は何でしょうか。
(14)
5. 靴は何でしょうか。その役割は何でしょうか。
(15)

6. 大盾は何でしょうか。その役割は何でしょうか。
(16)
7. かぶとは何でしょうか。その役割は何でしょうか。
(17)
8. 剣は何でしょうか。その役割は何でしょうか。
(17)
9. 神様の武具をどのように使うべきですか。(18)
10. 伝道と祈りの関係はどうなっていますか。(19,20)
11. 兄弟姉妹の交わりの中に情報提供にどんな役割がありますか。(21,22)
12. パウロは何を祈りましたか。私達は何を兄弟姉妹のために祈りますか。(23)
13. 最後の 24 節にクリスチャンの定義がどう与えられますか。

ピリピ人への手紙

著者：

著者はパウロです(1:1)。

宛先：

ピリピの教会(信者の群)。パウロは、囚人であった時に、この手紙を書きました。それは、彼がローマで、自費で借りた家に閉じ込められていた2年の間のことと思われます(使徒 28 章)。この期間、パウロは、彼を訪ねて来るすべての人に、自由に福音のメッセージを語る事ができました。

背景：

ピリピの町は、アレクサンドロス大王の父である王フィリッポス2世の名にちなんでつけられました(訳者注：ピリピのギリシヤ語読みは、フィリッポイである)。パウロの時代のピリピは、繁栄したローマの植民地でした。ピリピには、ユダヤ人は多くはいなかったようです。

パウロは、ピリピの信者たちが彼に送ってくれたお金と励ましに対する感謝の思いをこめて、この手紙を書きました。パウロは囚人でしたが、時間をさいては、クリスチャンとしての喜びを友人たちに語っていたのです。

聖書の中での位置：

ピリピ人への手紙は、パウロが囚人であった時に書いたので、「獄中書簡」と呼ばれています。

メッセージ：

- パウロは、自分に何か起ろうとも、その中で満ち足りることができることを知った。もし殺されても、彼はイエスとともにある。殺されないとしたら、イエスについて他の人々に語り続けるのである。
- パウロは、友人たちに、ともに働くことと、イエスにならって、自己中心にならないように求めた。イエスになることは、あなたが何者であるかとか、あなたが何をなしたか、ということよりも、もっと重要なことである。

- パウロは、イエスについての真理を教えない教師たちに気をつけるように、友人たちに警告した。彼は、ピリピの人々に、強い信仰をもち、すべてのことにおいてイエスに従って善を行うように、と勧めた。
- パウロは、ピリピの人々に、喜ぶこと、祈ること、また、神に感謝することを教えた。彼は、神を喜ばせることを考え、行うように、彼らに説いた。また、神が、彼らに平和を与え、彼らが正しいことを考え、行えるように助け、また、彼らの必要を満たしてくださる、と約束した。

心に留めるべきみことば：

1:6、20、21、2:3-8、14、4:4-8、13、19

ピリピ人への手紙におけるキリスト

パウロは、ピリピの人々に、彼の人生におけるただ一つの目標は、彼の主であるイエス・キリストに仕えることである、と語りました(1:21)。この手紙においてパウロは、私たちが従うべき模範としてのキリストを示しています(2:5)。パウロは、イエスに信頼することによって、どんなことでもできる、と語っています(4:13)。

ピリピ人への手紙のアウトライン

1.あいさつ(1:1-2)

2.感謝と祈り(1:3-11)

(1) 感謝(3-8)

(2) 祈り(9-11)

3.パウロの近況報告(1:12-26)

(1) 福音宣教の前進(12-18a)

(2) パウロの覚悟と確信(18b-26)

4.信仰のための闘い:一致(1:27-2:18)

(1) 対外的な闘い(1:27-30)

(2) 内なる闘い(2:1-13)

a.一致の勧め(1-4)

b.一致の基盤:キリスト(5-11)

c.救いの完成の勧め(12-13)

(3) 良いあかしのために(2:14-18)

5.テモテとエパフロデト:模範(2:19-30)

(1) テモテ(19-24)

(2) エパフロデト(25-30)

6.ユダヤ主義者に対する警告:パウロの模範(3:1-21)

(1) 警告(1-3)

(2) パウロの過去(4-6)

(3) パウロの現在(7-11)

(4) パウロの模範(12-16)

(5) 正しい模範と間違った模範(17-21)

7.最後の勧め(4:1-9)

8.贈り物の感謝(4:10-20)

9.あいさつと祝福(4:21-23)

み言葉のしおり

ピリピ人への手紙

- 1) あなたがたが、最初の日から今日まで、福音を広めることにあずかって来たことを感謝しています。あなたがたのうちに良い働きを始められた方は、キリスト・イエスの日が来るまでにそれを完成させてくださることを私は強く信じているのです。 ピリピ人への手紙 1 章 5～6 節

私にとっては、生きることはキリスト、死ぬこともまた益です。しかし、もしこの肉体のいのちが続くとしたら、私の働きが豊かな実を結ぶことになるので、どちらを選んだらよいのか、私にはわかりません。私は、その二つのものの間に板ばさみとなっています。私の願いは、世を去ってキリストとともにいることです。実はそのほうが、はるかにまさっています。しかし、この肉体にとどまることが、あなたがたのためには、もっと必要です。 ピリピ人への手紙 1 章 21～24 節

- 2) あなたがたの間では、そのような心構えでいなさい。それはキリスト・イエスのうちにも見られるものです。キリストは、神の御姿であられる方なのに、神のあり方を捨てることができないとは考えないで、ご自分を無にして、仕える者の姿をとり、人間と同じようになられたのです。キリストは人としての性質をもって現われ、自分を卑しくし、死にまで従い、実に十字架の死にまでも従われたのです。それゆえ、神は、キリストを高く上げて、すべての名にまさる名をお与えになりました。それは、イエスの御名によって、天にあるもの、地にあるもの、地の下にあるもののすべてが、ひざをかがめ、すべての口が、「イエス・キリストは主である。」と告白して、父なる神がほめたたえられるためです。 ピリピ人への手紙 2 章 5～11 節

そういうわけですから、愛する人たち、いつも従順であったように、私がいるときだけでなく、私のいない今はなおさら、恐れおののいて自分の救いを達成してください。神は、みこころのままに、あなたがたのうちに働いて志を立てさせ、事を行なわせてくださるのです。 ピリピ人への手紙 2 章 12～13 節

- 3) しかし、私にとって得であったこのようなものをみな、私はキリストのゆえに、損と思うようになりました。それどころか、私の主であるキリスト・イエスを知っていることのすばらしさのゆえに、いっさいのことを損と思っています。私はキリストのためにすべてのものを捨てて、それらをちりあくたと思っています。それは、私には、キリストを得、また、キリストの中にある者と認められ、律法による自分の義ではなくて、キリストを信じる信仰による義、すなわち、信仰に基づいて、神から与えられる義を持つことができる、という望みがあるからです。私は、キリストとその復活の力を知り、またキリストの苦しみにあずかることも知って、キリストの死と同じ状態になり、どうにかして、死者の中から復活に達したいのです。 ピリピ人への手紙 3 章 7～11 節

けれども、私たちの国籍は天にあります。そこから主イエス・キリストが救い主としておいでになるのを、私たちは待ち望んでいます。キリストは、万物をご自身に従わせることのできる御力によって、私たちの卑しいからだを、ご自身の栄光のからだと同じ姿に変えてくださるのです。 ピリピ人への手紙 3 章 20～21 節

- 4) いつも主にあって喜びなさい。もう一度言います。喜びなさい。あなたがたの寛容な心を、すべての人に知らせなさい。主は近いのです。何も思い煩わないで、あらゆるばあいに、感謝をもってささげる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい。そうすれば、人のすべての考えにまさる神の平安が、あなたがたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくれます。 ピリピ人への手紙 4 章 4～7 節

私は、貧しさの中にいる道も知っており、豊かさの中にいる道も知っています。また、飽くことにも飢えることにも、富むことにも乏しいことにも、あらゆる境遇に対処する秘訣を心得ています。私は、私を強くくださる方によって、どんなことでもできるのです。 ピリピ人への手紙 4 章 12～13 節

また、私の神は、キリスト・イエスにあるご自身の栄光の富をもって、あなたがたの必要をすべて満たしてください。 ピリピ人への手紙 4 章 19 節

コロサイ人への手紙

著者：

著者はパウロです（1:1、23、4:18）。

宛先：

コロサイの教会（信者の群）。パウロは、ローマの自費で借りた家で囚人であったときに、この手紙を書いたのでしょう（使徒 28 章参照）。

背景：

パウロの時代の何百年も前、コロサイは、現在トルコと呼ばれている地域の主要な町の一つでした。コロサイの町は、商業路に位置していました。しかし、パウロの時代までには、コロサイは、平凡な市場町になっていました。ラオデキヤのような近隣の町が、コロサイより重要な町になっていたのです。

パウロのエペソでの働きを通してクリスチャンになったエパfrasによって、コロサイに福音がもたらされました。コロサイは、エペソから約 160 キロほど離れた所にあります。コロサイの教会は、異邦人（ユダヤ人以外の人々）の教会でした。ピレモンは、この教会のメンバーでした。

偽りの教師たちが、コロサイの教会に入り込んで来ました。彼らは、天使を礼拝することや、ユダヤ人の儀式を厳しく守ることなど、人々に正しくないことを教えました。エパfrasは、起っていることをパウロに話すために、ローマに行きました。そこでパウロは、コロサイの人々にこの手紙を書き、それをエパfrasに託して持ち帰らせました。この手紙で、パウロは、イエスは神である、という事実を強く力説しています。私たちは、私たちの主であるイエスを礼拝し、イエスに仕えなければなりません。

聖書の中での位置：

コロサイ人への手紙は、パウロがローマで囚人であった時に書いたもので、「獄中書簡」と呼ばれています。

メッセージ：

パウロは、コロサイの教会の人々に、彼らが、イエスはどなたか、また、どのような権威をおもちの方であるかを知る必要がある、と話した。

私たちは、悪から離れて、神を喜ばせることを行い、きよい生活を送らなければならない。私たちは、何をするにも神に対するささげものとしてなし、自分の最善を尽して行動しなければなりません。

心に留めるべきみことば：

1:16-20、2:6、7、9、10、3:12-14、16、17、20、23、24、4:2

コロサイ人への手紙におけるキリスト

この手紙は、キリストは、すべてのものを支配される主であることを教えています。キリストは、造られたすべてのものの主です（1:16、17）。キリストは、私たちが正しいことを行えるように助けてくださいます（1:10）。またキリストは、教会のかしらです（1:18）。

コロサイ人への手紙のアウトライン

1.あいさつ(1:1-2)

発信人と宛先人

感謝

2.福音の受容と伸展に対する感謝(1:3-8)

3.祈り求めること(1:9-14)

神知識についての祈り

4.御子イエス・キリストに関する知識(1:15-23)

救いにおけるキリストのみわざと役割

5.パウロの使命(1:24-2:5)

パウロの役割の確認

6.偽りの教えとの戦い(2:6-23)

人間の言い伝えについての一般的な警告

無価値な規則についての警告

7.新しい生活の原理(3:1-17)

キリスト者の生活についての勧告

8.具体的な実践(3:18-4:1)

上に立つものに対する姿勢

古い性質を捨てて新しい性質に生きる

日常生活について

家庭

9.祈り(4:2-6)

10.消息と最後のあいさつ(4:7-18)

友人知人の消息とあいさつ

署名と祝福

み言葉のしおり コロサイ人への手紙

- 1) 神は、私たちが暗やみの圧制から救い出して、愛する御子のご支配の中に移してくださいました。この御子のうちにあって、私たちは、贖い、すなわち罪の赦しを得ています。御子は、見えない神のかたちであり、造られたすべてのものより先に生まれた方です。なぜなら、万物は御子にあって造られたからです。天にあるもの、地にあるもの、見えるもの、また見えないもの、王座も主権も支配も権威も、すべて御子によって造られたのです。万物は、御子によって造られ、御子のために造られたのです。御子は、万物よりも先に存在し、万物は御子にあって成り立っています。 コロサイ人への手紙 1 章 13～17 節

なぜなら、神はみこころによって、満ち満ちた神の本質を御子のうちに宿らせ、その十字架の血によって平和をつくり、御子によって万物を、ご自分と和解させてくださったからです。地にあるものも天にあるものも、ただ御子によって和解させてくださったのです。 コロサイ人への手紙 1 章 19～20 節

神は聖徒たちに、この奥義が異邦人の間にあってどのように栄光に富んだものであるかを、知らせたいと思われたのです。この奥義とは、あなたがたの中におられるキリスト、栄光の望みのことです。 コロサイ人への手紙 1 章 27 節

- 2) それは、この人たちが心に励ましを受け、愛によって結び合わされ、理解をもって豊かな全き確信に達し、神の奥義であるキリストを真に知るようになるためです。このキリストのうちに、知恵と知識との宝がすべて隠されているのです。 コロサイ人への手紙 2 章 2～3 節

あなたがたは、バプテスマによってキリストとともに葬られ、また、キリストを死者の中からよみがえらせた神の力を信じる信仰によって、キリストとともによみがえらされたのです。あなたがたは罪によって、また肉の割礼がなくて死んだ者であったのに、神は、そのようなあなたがたを、キリストとともに生かしてくださいました。それは、私たちのすべての罪を赦し、いろいろな定めのために私たちに不利な、いや、私たちを責め立てている債務証書を無効にされたからです。神はこの証書を取りのけ、十字架に釘づけにされました。神は、キリストにおいて、すべての支配と権威の武装を解除してさらしものとし、彼らを捕虜として凱旋の行列に加えられました。 コロサイ人への手紙 2 章 12～15 節

- 3) こういうわけで、もしあなたがたが、キリストとともによみがえらされたのなら、上にあるものを求めなさい。そこにはキリストが、神の右に座を占めておられます。あなたがたは、地上のものを思わず、天にあるものを思いなさい。あなたがたはすでに死んでおり、あなたがたのいのちは、キリストとともに、神のうちに隠されてあるからです。私たちのいのちであるキリストが現われると、そのときあなたがたも、キリストとともに、栄光のうちに現われます。 コロサイ人への手紙 3 章 1～4 節

キリストのことばを、あなたがたのうちに豊かに住まわせ、知恵を尽くして互いに教え、互いに戒め、詩と賛美と霊の歌とにより、感謝にあふれて心から神に向かって歌いなさい。あなたがたのすることは、ことばによると行ない

によるとを問わず、すべて主イエスの名によってなし、主によって父なる神に感謝しなさい。 コロサイ人への手紙 3 章 16～17 節

4) 目をさまして、感謝をもって、たゆみなく祈りなさい。 コロサイ人への手紙 4 章 2 節

コロサイ人への手紙の学びの質問

コロサイ人への手紙 1 章

あいさつ(1:1-2)

1. パウロは自分自身をどう見ていましたか。(1) あなたは自分をどう見ていますか。
2. パウロはキリスト者をどう呼びますか。(2, 7) あなたは他のキリスト者をどう見ていますか。
3. 聖徒とはどんな人ですか。(2)
4. パウロは手紙を祈りで始めます。どんな内容ですか。(2)
5. 恵みと言う事は何を意味しますか。(2, 4:18)
6. 平安(平和)とはどういう内容ですか。(2)
7. 恵みと平安はどのように得られますか。(2)

福音の受容と伸展に対する感謝(1:3-8)

8. パウロはこの手紙の中に自分の祈りの内容をコロサイのキリスト者に伝えます。その祈りはどこから始まりますか。(3, 4)
9. 信仰の対象は何ですか、愛の対象は何ですか。(4)
10. 信仰と愛は何処から生まれますか。(3, 4, 5, 6, 8)
11. 信仰と愛の本質は何ですか。(3, 4)
12. 希望の本質と内容は何ですか。(5)
13. 信仰と希望と愛はどうしてコロサイに伝わりましたか。(5, 7)
14. 福音の内容は何ですか。(5, 13, 14, 1 コリント 15:1-8 を参照に)
15. 福音の力はどのような性質のものでしょうか。(6, マタイ 13:1-9, 18-23 を参照に)

祈り求めること(1:9-14)

16. パウロがコロサイのキリスト者のためにどのような 4 つのとりなしの祈りをしました。
イ(9) ロ(10) ハ(11) ニ(12)
これらのことはキリスト者の成長、きよめの特徴でもあります。成長と祈りとどんな関係にありますか。
17. 成長の本質は何ですか。(10)
18. 成長の力は何処から来ますか。(11)
19. キリスト者はどのような場でいますか。(13) それで成長の出発点は何ですか。
20. 救いの本質は何ですか。(12, 13, 14)
21. 救いは誰の業ですか。(13, 14)
22. 贖いはどういう意味ですか。(14, 20, 21-22)

御子イエス・キリストに関する知識(1:15-23)

23. イエス・キリスト様はどんなお方でしょうか。(15, 19)
24. 天地創造は誰の業ですか。(16)
25. 宇宙と地球がどうして成り立っていますか。(17, ヘブル 1:2-3 を参照に)
26. 教会とキリスト様の関係はどうですか。(18, 24, 2:19)
27. 復活にどんな順番がありますか。(18, 1 コリント 15:22-24、黙示録 20:4-6 を参照に)
28. 救いの目的は何ですか。(22)
29. 信仰にとどまるのはこんなことですか。(23)

5. パウロの使命(1:24-2:5)

30. パウロの使命は何でしたか。(23, 24)
31. キリストの苦しみの欠けたところは、どういう意味ですか。(24)
32. パウロは福音の僕と教会の僕というように自分を描写します。(23, 25)どのような態度で私たちが奉仕すべきですか。
33. 態度の他に奉仕にはハッキリした内容がさって、それは何でしたか。(25, 26)
34. 福音の奥義は何ですか。(27)それはどうして奥義ですか。
35. 僕の働きの目的は何ですか。(28)
36. 働きの原動力は何ですか。(29)

コロサイ人への手紙 2章

1. 祈りはどうして戦い、苦闘という性質を持ちますか。(1, 4)
2. パウロの祈りの内容は何でした。(2, 3) あなたはとりなしの祈りをする時にどんな内容の祈りをしますか。
3. イエス・キリスト様はどんなお方ですか。 イ(3) ロ(9) ハ(10)
4. 祈りの中に私たちはどんなところに行けますか。(5) 祈りと情報交換はどう言う関係にありますか。

偽りの教えとの戦い(2:6-23)

5. 救いとキリスト者の成長は互いにどのように似ていますか。(6, 7)
6. 色々の異端に対する最も大切な対策は何ですか。(7, 8)
7. 9節の二つの翻訳は次の通りです。「キリストのうちにこそ、神の満ち満ちたご性質が形をとって宿っています。」(新改訳)、「キリストの内には、満ちあふれる神性が、余すところなく、見える形をとって宿っており」(新共同訳)。しかしギリシャ語の直訳は「キリストの内の神の完全な性質は身体を持って宿っている」という事です。コロサの教会に入り込んだ異端の性質はこの一節から見たらどんなものだったでしょうか。
8. キリスト者の満たしは何ですか。(聖霊の満たしとも言われることです。)(10)
9. 救いはどのような内容ですか。(11-13、エペソ 2:1-10 を参照に)
10. 割礼と洗礼はどんな関係にありますか。(11, 12)

11. 洗礼、バプテスマの内容は何ですか。(12、ローマ 6:3-8 を参照に)
12. 旧約聖書の律法はどのような性質を持っていますか。私たちはどのように律法から解放されました。(14)
13. 十字架の上の勝利のもう一つの面は何ですか。(15)
14. コロサイの教会に入った異端の特徴は何でしたか。(16, 18, 21, 23) その動機は何でしょうか。(23)
15. 異端がもたらせる危険は何ですか。(18)
16. 律法からの開放はどのように私たちに与えられましたか。(20) キリスト者の自由はどんな性質のものですか。

コロサイ人への手紙 3章

新しい生活の原理(3:1-17)

1. キリスト者の救いはどんなものでしょうか。(1, 3, 4, エペソ 2:1-10 を参照に)
2. キリスト者の生き方は何に向かっていますか。(1, 2)
3. キリストの再臨の内容は何ですか。(4)
4. 新しい生き方を可能にするのは何ですか。(3, 5, ローマ 8:13 を参照に)
5. 古い生き方はどんなものでしたか。(5, 6, 8, 9)
6. きよめはどのようなものですか。(9, 10)
7. 救いときよめにおいてキリスト者には文化的な差や人種的な差や身分における差はどうなっていますか。(11)
8. キリスト者のアイデンティティー(自己イメージ、自己確立)ときよめはどんな関係にありますか。(12)
9. 赦し合うの原動力は何ですか。(13)
10. 愛はどのような性質を持っていますか。(14)
11. 感情をコントロールするにはどのようなキリストの働きが必要ですか。(15, ピリピ 4:6-9 を参照に)
12. 教会の礼拝と交わりはどうあるべきでしょうか。(16)
13. 働きは誰のためにすべきですか。(17, 23)

具体的な実践(3:18-4:1)

14. クリスマン家庭はどうあるべきでしょうか。(18-21)
15. 労使関係にキリスト者の動機は何ですか。(22, 23, 24, 4:1)
16. 働きの報いは何ですか。(24)
17. 主はどんなお方ですか。(25) それは労使関係でどんな意味をしますか。(25, 4:1)

コロサイ人への手紙 4章

祈り(4:2-6)

1. 祈りには何が必要です。(2, 12)
2. 祈りとみ言葉の奉仕の関係はどうですか。(3, 4)
3. キリスト者以外の人々に対してどう振舞ったらよいでしょうか。(5, 6)

4. 機会を活かすのはどういう意味でしょうか。(5)

10. 消息と最後のあいさつ(4:7-18)

5. キリスト者はお互いをどう評価すべきでしょうか。(7, 9, 10, 11, 12, 14)

6. 情報交換は何故大事でしょうか。(8, 9, 18)

7. 新約聖書を読むのはどうして大切ですか。(16)

8. 牧会者の務めはどんな性質を持っていますか。(17)

テサロニケ人への手紙第 1

著者：

著者はパウロです(1:1)。

宛先：

テサロニケの教会(信者の群)。パウロは、コリントに滞在していた期間に、テサロニケ人へ2通の手紙を書きました。

背景：

テサロニケは、2つの主要な道路が交わるところに位置する、活気のある港町でした。そこは、マケドニヤでは最大の町でした。

パウロは、第2次伝道旅行の期間に数週間その町に滞在し、その時にテサロニケの教会が始まりました。パウロは、その町にいた短期間のうちに、多くの騒ぎを引き起しました。パウロの敵は、彼のことを、「世界中を騒がせて来た者」(使徒 17:6)と言って告発しました。パウロは、テサロニケから、ベレヤ、アテネ、コリントと訪問を続けましたが、アテネで、新しいクリスチャンたちがどうしているかを見るために、テモテをテサロニケに戻しました。テモテは、良い知らせをもち帰りました。しかし、テモテはまた、テサロニケの教会が、キリストの再臨にとっても関心をもってはいるが、そのことに関して間違った考えがあることも述べました。そこで、パウロは、コリントで、この手紙をテサロニケの人々に書き送ったのです。この手紙は、ことに、キリストの再臨に焦点を当てており、各章の終りで再臨にふれています。

メッセージ：

- ☐ パウロは、テサロニケの信者たちのことを神に感謝した。彼らの信仰生活、奉仕、喜びは、他のクリスチャンの模範であった。
- ☐ パウロは、戻って、テサロニケの人々に、もう一度会いたいと願った。彼は、他の人々に対する彼らの愛がますます成長するように祈った。
- ☐ パウロは、イエスが再び天から来られる時のことを、友人たちに語った。すでに死んでいるクリスチャンたちが、生きているクリスチャンたちといっしょに、天で神とともに住む。
- ☐ 実際にイエスが再臨される時は、不意に訪れる。しかし、神の民は、それが起るということを、確かなこととして知ることができる。
- ☐ パウロは、イエスの再臨を待っている期間、彼らは喜び、祈り、すべてのことを神に感謝すべきである、と人々に語った。

心に留めるべきみことば：

3:12、13、4:7、16-18、5:2、11、15-18

テサロニケ人への手紙第1におけるキリスト

パウロは、イエス・キリストは、未来に関する私たちの希望である、と教えました。イエス・キリストは、もう一度おいでになります。キリストに信頼する者たちにとって、その日は喜びの日なのです！

テサロニケ人への手紙第2

著者：

著者はパウロです(1:1、3:17)。

宛先：

テサロニケの教会(信者の群)。この第2の手紙は、第1の手紙のおよそ6か月後に、コリントで書かれたようです。

背景：

パウロは、この手紙を、教会を励ますためと、テサロニケの人々がキリストの再臨についてもっていたいくつかの追加的な質問と関心に答えるために書きました。

メッセージ：

- ❑ ある人々は、クリスチャンを迫害した。パウロは、信仰生活が困難なときでも、イエス・キリストにあって成長を続けるように、彼らを励ました。
- ❑ ある偽りの教師たちが、主はすでに再臨された、と言った。パウロは、不法の人が現れて、自分こそが神であると主張するまでは、イエス・キリストの再臨は起らない、と説いた。
- ❑ パウロは、自分のためと、イエスについての良い知らせが広められることのために祈ってくれるように人々に願った。彼はまた、すべての人が自分自身の生活のために働き、善を行うことに疲れることがないように、と指示を与えた。

心に留めるべきみことば：

1:6、2:16、17、3:1、3、13

テサロニケ人への手紙第2におけるキリスト

パウロは、イエス・キリストの再臨について教えました。そのことを考えることは、信じる者たちにとっては、喜ばしいことです。

第1の手紙のアウトライン

1.あいさつ(1:1)

2.個人的な思い出(1:2-10)

- (1)教会の活力(2-3)
- (2)教会の霊的なルーツ(4-6)
- (3)生きた信仰の現れ(7-10)

3.使徒的宣教の本質(2:1-12)

(1)患難の中での忍耐(1-2)

(2)純粋な動機(3-6)

(3)賢明な態度(7-9)

(4)非難されない行動(10-12)

4.福音を受け入れる(2:13-16)

5.テサロニケ人への配慮(2:17-3:13)

(1)妨げられた目的(2:17-20)

(2)宣教の計画(3:1-5)

(3) 喜びにあふれた賞賛(3:6-10)

(4) とりなしの祈り(3:11-13)

6.キリスト者生活への勧め(4:1-12)

(1) 一般的な指針(1-2)

(2) 道德問題(3-8)

(3) キリスト者の愛(9-12)

7.キリストの再臨に関する問題(4:13-5:11)

(1) 死者の状態(4:13-18)

(2) 再臨の時(5:1-11)

8.教会内での生活(5:12-24)

(1) 指導者を認めること(12-13)

(2) 対人関係(14-15)

(3) 3つの命令(16-18)

(4) 5つの命令(19-22)

(5) パウロの第2の祈り(23-24)

9.結びの言葉(5:25-28)

第2の手紙のアウトライン

1.あいさつ(1:1-2)

2.キリスト再臨の時の審判(1:3-12)

(1) 再臨に先立つ試練(3-5)

(2) 再臨の時の報い(6-10)

(3) 再臨を待つ教会のための祈り(11-12)

3.キリスト再臨の出来事(2:1-12)

(1) 落ち着くようにとの呼びかけ(1-2)

(2) 来るべき背教(3-7)

(3) 反キリストの出現(8-12)

4.正しい態度をとるようにとの勧め(2:13-17)

(1) 信仰の基礎を思い起こさせる(13-14)

(2) 固く立つようにとの勧め(15)

(3) 霊的成長のための祈り(16-17)

5.とりなしの祈り(3:1-5)

(1) 祈りの要請(1-2)

(2) 祈りにおける確信(3-4)

(3) 祈り(5)

6.信仰と生活への指示(3:6-15)

(1) 締めりのない者に対する態度(6-10)

(2) 締めりのない者を正す(11-13)

(3) 締めりのない者への戒規(14-15)

7.終わりのあいさつ(3:16-18)

(1) 祈り(16)

(2) 認証(17)

(3) 祝福(18)

み言葉のしおり

Iテサロニケ人への手紙

1) 私たちがどのようにあなたがたに受け入れられたか、また、あなたがたがどのように偶像から神に立ち返って、生けるまことの神に仕えるようになり、また、神が死者の中からよみがえらせなされた御子、すなわち、やがて来る御怒りから私たちを救い出してくださるイエスが天から来られるのを待ち望むようになったか、それらのことは他の人々が言い広めているのです。 Iテサロニケ人への手紙 1 章 9～10 節

2) 私たちは神に認められて福音をゆだねられた者ですから、それにふさわしく、人を喜ばせようとしてではなく、私たちの心をお調べになる神を喜ばせようとして語るのです。 Iテサロニケ人への手紙 2 章 4 節

こういうわけで、私たちとしてもまた、絶えず神に感謝しています。あなたがたは、私たちから神の使信のことばを受けたとき、それを人間のことばとしてではなく、事実どおりに神のことばとして受け入れてくれたからです。この神のことばは、信じているあなたがたのうちに働いているのです。 Iテサロニケ人への手紙 2 章 13 節

3) また、あなたがたの心を強め、私たちの主イエスがご自分のすべての聖徒とともに再び来られるとき、私たちの父なる神の御前で、聖く、責められるところのない者としてくださいますように。 Iテサロニケ人への手紙 3 章 13 節

4) 私たちは主のみことばのとおりに言いますが、主が再び来られるときまで生き残っている私たちが、死んでいる人々に優先するようなことは決してありません。主は、号令と、御使いのかしらの声と、神のラッパの響きのうちに、ご自身天から下って来られます。それからキリストにある死者が、まず初めによみがえり、次に、生き残っている私たちが、たちまち彼らといっしょに雲の中に一挙に引き上げられ、空中で主と会います。このようにして、私たちは、いつまでも主とともにいることになります。 Iテサロニケ人への手紙 4 章 15～17 節

- 5) 兄弟たち。それらがいつなのか、またどういう時かについては、あなたがたは私たちに書いてもらう必要がありません。主の日が夜中の盗人のように来るということは、あなたがた自身がよく承知しているからです。 Iテサロニケ人への手紙 5 章 1～2 節

神は、私たちが御怒りに会うようにお定めになったのではなく、主イエス・キリストにあって救いを得るようにお定めになったからです。主が私たちのために死んでくださったのは、私たちが、目ざめていても、眠っていても、主とともに生きるためです。 Iテサロニケ人への手紙 5 章 9～10 節

いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。すべての事について、感謝しなさい。これが、キリスト・イエスにあって神があなたがたに望んでおられることです。御霊を消してはなりません。預言をないがしろにしてはいけません。すべてのことを見分けて、ほんとうに良いものを堅く守りなさい。 Iテサロニケ人への手紙 5 章 16～21 節

II テサロニケ人への手紙

- 1) 苦しめられているあなたがたには、私たちとともに、報いとして安息を与えてくださることは、神にとって正しいことなのです。そのことは、主イエスが、炎の中に、力ある御使いたちを従えて天から現われるときに起こります。そのとき主は、神を知らない人々や、私たちの主イエスの福音に従わない人々に報復されます。そのような人々は、主の御顔の前とその御力の栄光から退けられて、永遠の滅びの刑罰を受けるのです。その日に、主イエスは来られて、ご自分の聖徒たちによって栄光を受け、信じたすべての者の——そうです。あなたがたに対する私たちの証言は、信じられたのです。——感嘆の的となられます。 IIテサロニケ人への手紙 1 章 7～10 節

- 2) だれにも、どのようにも、だまされないようにしなさい。なぜなら、まず背教が起こり、不法の人、すなわち滅びの子が現われなければ、主の日は来ないからです。彼は、すべて神と呼ばれるもの、また礼拝されるものに反抗し、その上に自分を高く上げ、神の宮の中に座を設け、自分こそ神であると宣言します。 IIテサロニケ人への手紙 2 章 3～4 節

しかし、あなたがたのことについては、私たちはいつでも神に感謝しなければなりません。主に愛されている兄弟たち。神は、御霊による聖めと、真理による信仰によって、あなたがたを、初めから救いにお選びになったからです。ですから神は、私たちの福音によってあなたがたを召し、私たちの主イエス・キリストの栄光を得させてくださったのです。 IIテサロニケ人への手紙 2 章 13～14 節

- 3) しかし、主は真実な方ですから、あなたがたを強くし、悪い者から守ってくださいます。 IIテサロニケ人への手紙 3 章 3 節

テモテへの手紙第 1

著者：

著者はパウロです (1:1)。

宛先：

エペソの教会を託されていた青年テモテ。

背景：

テモテの家族は、ルステラに住んでいました。彼の父はギリシヤ人で、母はユダヤ人クリスチャンでした。彼は、幼いころから聖書を教えられて育ちました。テモテが最初にパウロに会ったのは、おそらく、パウロが第 1 次伝道旅行でルステラを訪れた時でしょう。テモテは、パウロが福音を宣べ伝えるのを聞き、彼が足の不自由な人をいやすのを見たに違いありません。パウロが石打ちにされたのさえ見たかもしれません。第 2 次伝道旅行の途中で、パウロがもう一度ルステラを訪れた時、彼はテモテと一緒に連れて行くことを願いました。テモテは、パウ

ロがマケドニヤやアカヤで福音を宜べ伝えるのを助け、パウロがエペソで活動した3年の期間のほとんどを彼と一緒に過しました。テモテは、パウロとともに、エペソからマケドニヤに、そしてコリントに、もう一度マケドニヤに戻って、さらに小アジアへと旅をしました。パウロのローマでの最初の投獄の期間も、パウロと一緒にいました。パウロが釈放されて自由になると、テモテは再び彼とともに旅をしました。やがて、テモテはエペソにとどまって、その教会を牧することになったのです。

パウロはテモテを非常に高く評価しました。彼はピリピの人々に次のように書き送りました。「テモテのように私と同じ心になって、真実にあなたがたのことを心配している者は、ほかにだれもいないからです。……しかし、テモテのりっぱな働きぶりは、あなたがたの知っているところです。」(2:20、22)

パウロは、テモテを訪れることができなかったのに、テモテが良い指導者になるのを助けるために、この手紙を書き送ったのです。

メッセージ:

- ☐ パウロは、偽りの教師たちについて、テモテに警告した。テモテは、神によって務めに召された者として、イエスは罪人を救うためにこの世に来られた、という真理を教えなければならない。
- ☐ パウロは、教会の礼拝についてテモテに教えた。
- ☐ パウロは、どのようにして良い教会の指導者を選ぶべきかをテモテに示した。彼らは、賢明で、自制があり、尊敬に値する人でなければならない。
- ☐ パウロは、人々の良い模範になるようにと、テモテに要求した。
- ☐ パウロは、教会において、人々をどのように扱うべきかについて、テモテに助言を与えた。
- ☐ パウロは、誤ったことから離れ、正しいことを行うようにと、テモテに語った。

心に留めるべきみことば:

1:15-17、2:5、6、8、4:12、6:6-8、11

テモテへの手紙第1におけるキリスト

パウロは、イエス・キリストは、「神と人との間の唯一の仲介者」(2:5)である、と語りました。仲介者というのは、争いを治めるために、2人の別々の人の中でとりなす人のことです。イエス・キリストは、私たちと神との間のすべての関係を正しくしてくださったお方です。

み言葉のしおり

I テモテへの手紙

- 1) この命令は、きよい心と正しい良心と偽りのない信仰とから出て来る愛を、目標としています。 I テモテへの手紙 1 章 5 節

「キリスト・イエスは、罪人を救うためにこの世に来られた。」ということばは、まことであり、そのまま受け入れるに値するものです。私はその罪人のかしらです。しかし、そのような私があわれみを受けたのは、イエス・キリストが、今後彼を信じて永遠のいのちを得ようとしている人々の見本にしようと、まず私に対してこの上ない寛容を示してくださったからです。 I テモテへの手紙 1 章 15~16 節

ある人たちは、正しい良心を捨てて、信仰の破船に会いました。 I テモテへの手紙 1 章 19 節

- 2) そうすることは、私たちの救い主である神の御前において良いことであり、喜ばれることなのです。神は、すべての人が救われて、真理を知るようになるのを望んでおられます。 I テモテへの手紙 2 章 3~4 節

神は唯一です。また、神と人との間の仲介者も唯一であって、それは人としてのキリスト・イエスです。キリストは、すべての人の贖いの代価として、ご自身をお与えになりました。これが時至ってなされたあかしなのです。 Iテモテへの手紙 2 章 5～6 節

3) 確かに偉大なのはこの敬虔の奥義です。「キリストは肉において現われ、霊において義と宣言され、御使いたちに見られ、諸国民の間に宣べ伝えられ、世界中で信じられ、栄光のうちに上げられた。」 Iテモテへの手紙 3 章 16 節

4) 神が造られた物はみな良い物で、感謝して受けるとき、捨てるべき物は何一つありません。 Iテモテへの手紙 4 章 4 節

私たちはそのために労し、また苦心しているのです。それは、すべての人々、ことに信じる人々の救い主である、生ける神に望みを置いているからです。 Iテモテへの手紙 4 章 10 節

5) もしも親族、ことに自分の家族を顧みない人がいるなら、その人は信仰を捨てているのであって、不信者よりも悪いのです。 Iテモテへの手紙 5 章 8 節

6) 衣食があれば、それで満足すべきです。 Iテモテへの手紙 6 章 8 節

金銭を愛することが、あらゆる悪の根だからです。ある人たちは、金を追い求めたために、信仰から迷い出て、非常な苦痛をもって自分を刺し通しました。 Iテモテへの手紙 6 章 10 節

その現われを、神はご自分の良しとする時に示してくださいます。神は祝福に満ちた唯一の主権者、王の王、主の主、ただひとり死のない方であり、近づくこともできない光の中に住まれ、人間がだれひとり見たことのない、また見ることのできない方です。誉れと、とこしえの主権は神のものです。アーメン。 Iテモテへの手紙 6 章 15～16 節

テモテへの手紙第 2

著者：

著者はパウロです(1:1)。

宛先：

エペソの教会を託されていた青年テモテ。

背景：

パウロは、再び捕えられて、ローマに送られました。今度は、最初の時のような軟禁状態（最初の時のことについては使徒 28 章参照）ではなく、冷たい地下牢に投げ込まれました。彼は、自分の死が近いことを知っていました(4:6 参照)。パウロは、すでに一度、邪悪なローマ皇帝ネロの前に引き出されており、再びそうされることを予期していました。パウロは、神が彼とともにいて、イエスについての良い知らせを広めるために、彼を用いてくださっていることを知っていました(4:17、18 参照)。

パウロは、深い孤独を感じていました。彼の友人たちの多くは、彼を見捨てました。今回、彼と一緒にいるのはルカだけだったのです。この彼の最後の手紙において、パウロは、テモテにすぐに来るように、マルコも連れて来るように、と願いました。彼はまた、上着と書物を持って来てくれるように、テモテに頼みました。パウロは、自分が殺される前に、テモテがローマに来られるかどうか確信がありませんでした。この手紙には、パウロのテモテに対する最後の警告と励ましのことが含まれています。

聖書の中での位置：

パウロの手紙のうちの 3 通は、「校合書簡」と呼ばれています。それらの手紙は、テモテやテトスが指導する教会で、神の民に心を配るのを助けるために書かれました。

メッセージ：

- ❑ 真理に従いなさい：パウロは、テモテが子供のころに受けた教えを、彼に思い起させた。真理は、イエス・キリストに関する良い知らせである。
- ❑ 良い働き人になりなさい：パウロは、兵士や運動選手や農夫のように最善を尽して、他の人々に真理を教えるように、テモテを励ました。
- ❑ 困難な時にも忠実でありなさい：終りの時代には、多くの問題が生じ、多くの人々が神の道から離れる。パウロが迫害されたのと同じように、イエスに従う者はだれでも迫害を受ける。聖書は、私たちの信頼に値する真理の源泉である。
- ❑ 他の人々を教えなさい：パウロは、人々に良い知らせを伝え、真の神のしもべとなるようにと、テモテに勧めた。それからパウロは、自分自身の必要と友人たちに関して、いくつかの個人的なことづけを伝えた。

心に留めるべきみことば：

1:12、2:3、15、23、24、3:14-17、4:5、7、8

テモテへの手紙第2におけるキリスト

パウロは、イエス・キリストは、私たちの救い主であり、また主である、とテモテに語りました。イエスは、死人の中からよみがえって、私たちに永遠のいのちを与えてくださいました。私たちは、やがておいでになるイエスを待ち望まなければなりません。

テモテへの第1の手紙の第1の手紙のアウトライン

1.あいさつ(1:1-2)

2.使命の確認(1:3-20)

- (1) 違った教えへの対策(3-7)
- (2) 律法の目的(8-11)
- (3) 福音の恵みの例証(12-17)
- (4) 信仰の戦いの勧め(18-20)

3.信仰生活の教え(2:1-15)

- (1) 祈りの勧め(1-8)
- (2) 敬虔な生活の勧め(9-15)

4.教会的職務(3:1-13)

- (1) 監督についての教え(1-7)
- (2) 執事についての教え(8-13)

5.敬虔の奥義(3:14-16)

6.偽教師への対策(4:1-16)

- (1) 背教の警告(1-5)
- (2) キリストの立派な奉仕者(6-16)

7.諸問題への対応(5:1-6:19)

- (1) 適切な勧めの姿勢(5:1-2)
- (2) やもめの問題(5:3-16)
- (3) 長老に対して(5:17-25)

(4) 奴隷への教え(6:1-2)

(5) 偽教師の扱い(6:3-8)

(6) 金銭への警告(6:9-10)

(7) 信仰の戦いの勧め(6:11-16)

(8) 富む者への警告(6:17-19)

8.最後の指示と祝福(6:20-21)

第2の手紙のアウトライン

1.あいさつ(1:1-2)

2.感謝(1:3-5)

3.テモテへの勧め(1:6-18)

4.苦しみの宣教(2:1-13)

- (1) 教えゆだねる使命(1-2)
- (2) キリストの兵士(3-7)
- (3) 忍耐と報い(8-13)

5.偽の教え対策(2:14-26)

6.困難な時代(3:1-9)

7.確信の維持(3:10-17)

8.宣教の使命の最終確認(4:1-5)

9.パウロのあかしと希望(4:6-8)

10.個人的依頼と救いの確信(4:9-18)

11.あいさつ・祝福(4:19-22)

み言葉のしおり

Ⅱ テモテへの手紙

- 1) 神が私たちに与えてくださったものは、おくびょうの霊ではなく、力と愛と慎みとの霊です。 Ⅱテモテへの手紙 1 章 7 節

神は私たちを救い、また、聖なる招きをもって召してくださいましたが、それは私たちの働きによるのではなく、ご自身の計画と恵みとによるのです。この恵みは、キリスト・イエスにおいて、私たちに永遠の昔に与えられたものであって、それが今、私たちの救い主キリスト・イエスの現われによって明らかにされたのです。キリストは死を滅ぼし、福音によって、いのちと不滅を明らかに示されました。 Ⅱテモテへの手紙 1 章 9～10 節

- 2) 私が言っていることをよく考えなさい。主はすべてのことについて、理解する力をあなたに必ず与えてくださいます。 Ⅱテモテへの手紙 2 章 7 節

次のことばは信頼すべきことばです。「もし私たちが、彼とともに死んだのなら、彼とともに生きようになる。もし耐え忍んでいるなら、彼とともに治めるようになる。もし彼を否んだなら、彼もまた私たちを否まれる。私たちは真実でなくても、彼は常に真実である。彼にはご自身を否むことができないからである。」 Ⅱテモテへの手紙 2 章 11～13 節

それにもかかわらず、神の不動の礎は堅く置かれていて、それに次のような銘が刻まれています。「主はご自分に属する者を知っておられる。」また、「主の御名を呼ぶ者は、だれでも不義を離れよ。」 Ⅱテモテへの手紙 2 章 19 節

- 3) 確かに、キリスト・イエスにあつて敬虔に生きようと願う者はみな、迫害を受けます。 Ⅱテモテへの手紙 3 章 12 節

また、幼いころから聖書に親しんで来たことを知っているからです。聖書はあなたに知恵を与えてキリスト・イエスに対する信仰による救いを受けさせることができるのです。聖書はすべて、神の靈感によるもので、教えと戒めと矯正と義の訓練とのために有益です。それは、神の人が、すべての良い働きのためにふさわしい十分に整えられた者となるためです。 Ⅱテモテへの手紙 3 章 15～17 節

- 4) 神の御前で、また、生きている人と死んだ人とをさばかれるキリスト・イエスの御前で、その現われとその御国を思って、私はおごそかに命じます。みことばを宣べ伝えなさい。時が良くても悪くてもしっかりやりなさい。寛容を尽くし、絶えず教えながら、責め、戒め、また勧めなさい。 Ⅱテモテへの手紙 4 章 1～2 節

私は勇敢に戦い、走るべき道のりを走り終え、信仰を守り通しました。今からは、義の栄冠が私のために用意されているだけです。かの日には、正しい審判者である主が、それを私に授けてくださるのです。私だけでなく、主の現われを慕っている者には、だれにでも授けてくださるのです。 Ⅱテモテへの手紙 4 章 7～8 節

テトスへの手紙

著者：

著者はパウロです（1:1）。

宛先：

パウロの働きを通して、イエス・キリストに信頼するようになったギリシヤ人テトス。

背景：

テトスは、パウロとバルナバと一緒に旅行したことがあります。彼は、パウロの第3次伝道旅行の時、エペソでパウロとともに働いたと思われます。その後パウロは、コリントの教会を助けるために、テトスを送りました。パウロがローマでの最初の投獄から釈放された後、彼とテトスは、クレテ島で働きました。彼らは、そこの多くの者が反抗的で、うそつきで、なまけ

者なのを知りました（1:12 参照）。パウロはテトスを、クレテ島での働きを成し遂げ、教会の指導者たちを任命させるために、残しました。そしてテトスにしなければならないことを教えるために、この手紙を書きました。

パウロは、クレテでテトスに代る者が来たら、できるだけ早くニコポリ（ギリシヤの西海岸の町）で彼に会うことを願いました。後にテトスは、ダルマテヤ（現在のユーゴスラビヤ）で主に仕えました（II テモテ 4:10 参照）。

聖書の中での位置：

パウロの手紙のうちの3つは「牧会書簡」と呼ばれています。これらは、託された教会の人々を牧するテモテやテトスを助けるために書かれました。

メッセージ：

- ❑ テトスは、正しい事を行い、他の人々を助けることを望んでいる者を、教会の指導者として選ばなければならない。指導者はまた、真理を教えなければならない。
- ❑ パウロは、年をとった人々や若い人々、また婦人たちに、正しいことを行うことを教えるように、テトスに語った。
- ❑ 人々が神の親切と愛を知るようになったなら、言い争うことや他の人を憎むことはやめるべきである。

心に留めるべきみことば：

2:11、3:1、2

テトスへの手紙におけるキリスト

パウロは、イエス・キリストは、私たちの救い主であり、また主である、とテトスに語りました。キリストは、私たちが永遠のいのちをもつことができるように、私たちの身代りに死んでくださいました。このことは、私たちの心を感謝で満たし、キリストのために働くことをたまらなく心躍るものにするはずです。

テトスへの手紙のアウトライン

1.指示する者とされる者(1:1-4)

- (1)指示する者-パウロ(1-3)
- (2)指示される者-テトス(4)

2.教会の組織についての指示(1:5-16)

- (1)長老(監督)の任命(5)
- (2)長老(監督)の資格(6-9)
- (3)長老(監督)の働き(10-16)

3.教会の会員についての指示(2:1-3:11)

- (1)老人に関して(2:1-2)
- (2)老婦人に関して(2:3-5)

(3)若者に関して(2:6-8)

(4)奴隷に関して(2:9-15)

- a.主人に対する態度(9-10)
- b.正しい生活の理由(11-15)

(5)市民に関して(3:1-8)

- a.政府に対する態度(1)
- b.人々に対する態度(2)
- c.良いわざの基礎(3-8)

(6)分派を起こす者に関して(3:9-11)

4.個人的な指示(3:12-15)

- (1)働き人への指示(12-14)
- (2)あいさつ(15a)
- (3)祈り(15b)

み言葉のしおり

テトスへの手紙

- 1) きよい人々には、すべてのものがきよいのです。しかし、汚れた、不信仰な人々には、何一つきよいものはありません。それどころか、その知性と良心までも汚れています。 テトスへの手紙 1 章 15 節
- 2) というのは、すべての人を救う神の恵みが現われ、私たちに、不敬虔とこの世の欲とを捨て、この時代にあって、慎み深く、正しく、敬虔に生活し、祝福された望み、すなわち、大いなる神であり私たちの救い主であるキリスト・イエスの栄光ある現われを待ち望むようにと教えさとしたからです。キリストが私たちのためにご自身をささげられたのは、私たちをすべての不法から贖い出し、良いわざに熱心なご自分の民を、ご自分のためにきよめるためでした。 テトスへの手紙 2 章 11～14 節
- 3) しかし、私たちの救い主なる神のいつくしみと人への愛とが現われたとき、神は、私たちが行なった義のわざによってではなく、ご自分のあわれみのゆえに、聖霊による、新生と更新との洗いをもって私たちを救ってくださいました。神は、この聖霊を、私たちの救い主なるイエス・キリストによって、私たちに豊かに注いでくださったのです。それは、私たちがキリストの恵みによって義と認められ、永遠のいのちの望みによって、相続人となるためです。 テトスへの手紙 3 章 4～7 節

ピレモンへの手紙

著者：

この短い手紙の著者はパウロです（1 節）。

宛先：

コロサイに住んでいたパウロの親友ピレモン。パウロは、ピレモンに宛てたこの短い「郵便はがき」で、ピレモンの逃亡奴隷オネシモについて書き送りました。

背景：

パウロは、おそらく、彼がローマで囚人であった期間（ルカが使徒の働き 28 章で語っている期間）に、この手紙を書きました。パウロは、おそらく、同じ時にコロサイ人への手紙を書いて、それを同じ旅行者であるオネシモとテキコに託してコロサイに送ったのでしょう（コロサイ 4:7-9 参照）。

オネシモは、主人であるピレモンのもとから逃亡しました。逃亡中、彼は獄中でパウロに出会いました。そして、パウロを通してクリスチャンになったのです。そこでパウロは、オネシモを「愛する兄弟」、すなわち仲間のクリスチャンとしてもう一度迎えてくれるように、ピレモンにお願いの手紙を書きました。

聖書の中での位置：

パウロがローマの囚人であったときに書いたので、「獄中書簡」と呼ばれています。

メッセージ：

- パウロは、逃亡奴隷オネシモを赦してくれるように、ピレモンに頼んだ。オネシモとピレモンは今や二人ともクリスチャンなのだから、犯罪人としてではなく、兄弟として受け入れてくれるように頼んだのである。
- オネシモに、負債やピレモンから盗んだものがあれば、自分がそれを支払う、とパウロは申し出た。

- パウロは、ピレモンにオネシモを赦す以上のことをしてもらいたいと、それとなく言った。パウロは、ピレモンを訪ねて、オネシモを彼の働きの助け手として与えられることを望んでいたと思われる。
- この手紙は、イエス・キリストが1人の人になしてくださる変化について、私たちに教えている。

心に留めるべきみことば：

6 節

ピレモンへの手紙におけるキリスト

ピレモンへの手紙の物語で、パウロとオネシモの関係は、神がどのようにして私たちの罪を赦すことができになるかを思い起させてくれます。オネシモは、悪い事をして、自分を主人から引き離してしまいました。オネシモは、ただパウロが自分から進んで彼が犯した罪の代価を支払おうとしてくれたので、家に帰ることができました。私たちの罪は、私たちを神から引き離します。私たちは、ただイエスが自分から進んで私たちの罪の代価を支払ってくださったことのゆえに、神のもとに帰ることができるのです。

フィレモンへの手紙を読む

小賀野英次

「もはや奴隷としてではなく、奴隷以上の者、つまり愛する兄弟としてです…」(フィレ 16)

1) この手紙の著者はパウロである。

執筆場所と時期は、ローマの軟禁中に書かれた(紀元 61 年頃)。

著者については 1 節、9 節、19 節から分かる。ここで、パウロは自分のことを「キリスト・イエスの囚人」と言い、「すでに老年になり」と言っている。この手紙がパウロの晩年に書かれたものと考えられる。

56-58 年 囚人としてエルサレムからローマへ

59-61 年 ローマで軟禁 獄中書簡の執筆

(エフェソ、フィリピ、コロサイ、フィレモン)

61-64 年 スペイン(イスパニア)訪問(?)、再度の投獄、殉教
牧会書簡(テモテ I、II、テトス)の執筆

使徒 28:30-31 パウロは、自費で借りた家に丸二年間住んで、訪問する者はだれかれとなく歓迎し、全く自由に何の妨げもなく、神の国を宣べ伝え、主イエス・キリストについて教え続けた。

2) フィレモンへの信頼と愛—執筆事情について

コロサイ書とフィレモン書は同時期に書かれ、パウロはティキコにこの二つの手紙を託した。これらの二書は双子の手紙である。

コロサイ 4:7-9、12 わたしの様子については、ティキコがすべてを話すことでしょう。彼は主に結ばれた、愛する兄弟、忠実に仕える者、仲間の僕です。彼をそちらに送るのは、あなたがたがわたしたちの様子を知り、彼によって心が励まされるためなのです。また、あなたがたの一人、忠実な愛する兄弟オネシモを一緒に行かせます。彼らは、こちらの事情をすべて知らせるでしょう。…あなたがたの一人、キリスト・イエスの僕エパfrasが、あなたがたによろしくと言っています。彼は、あなたがたが完全な者となり、神の御心をすべて確信しているよう。

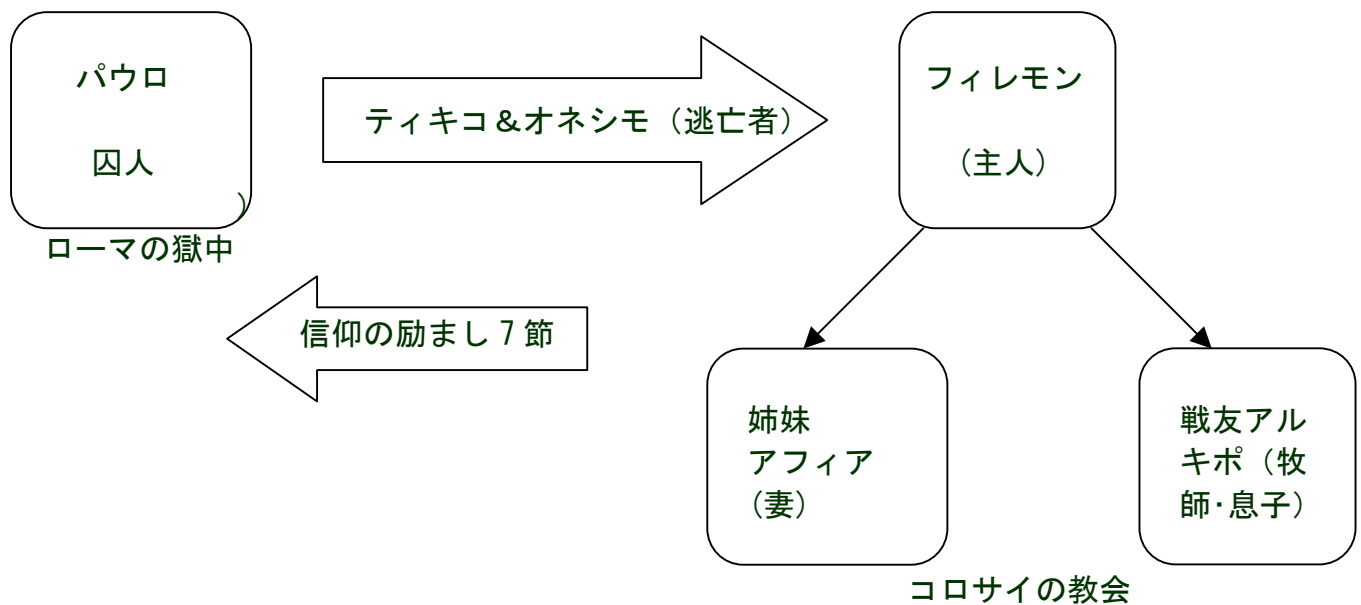
パウロはコロサイの教会に対して手紙を書いて、ティキコとオネシモに託した。一通はコロサイの教会のために、もう一通はオネシモ個人に関するプライベートな手紙をフィレモンにあてて書いた。

コロサイの教会

コロサイの町はエフェソの東、160^{キロメートル}、ルカス河の流域に位置していた。かつては多くの人口があり栄えていたが、使徒時代に近隣のラオデキアとヒエラポリスに抜かれてしまった。パウロは伝道旅行中にこの町を通った可能性があるが、詳しい記述はない。コロサイの教会の伝道者はエパfrasであり、現在はパウロと共にローマに捕らえられている。パウロはエペソ教会での滞在中にコロサイの教会と関係を持ったであろうし、エパfrasとともにコロサイの教会のために熱心に祈っていた。

コロサイの教会は、フィレモンの家庭を解放して、礼拝や活動が行われていた。それは、あいさつの言葉から分かる。

1:1-2 キリスト・イエスの囚人パウロと兄弟テモテから、わたしたちの愛する協力者フィレモン、姉妹アフィア、わたしたちの戦友アルキポ、ならびにあなたの家にある教会へ。



当時の奴隷制について、当時のローマ・ギリシヤ社会は社会制度も経済制度もすべて、奴隷制度によって成り立っていた。奴隷は最初、征服された異民族がほとんどであったが、やがて貧困に売られた同属民も含むようになり、多くは人権を奪われた、言葉をしゃべる家畜として取り扱われた。

新約聖書には、奴隷制度自体に対する反対はないが、パウロは神の前にすべての人が平等であるとしている（ローマ 2:6-11、ガラテヤ 3:28）。また、面白いことに、自分のことを「キリストの奴隷、僕」として自称している。さらに、このフィレモンへの手紙においては「キリストの囚人」（1、9 節）と言っている。

3) 愛の懇願ととりなし — パウロからフィレモンへ

① フィレモンに対する愛の奨め、オネシモの推奨

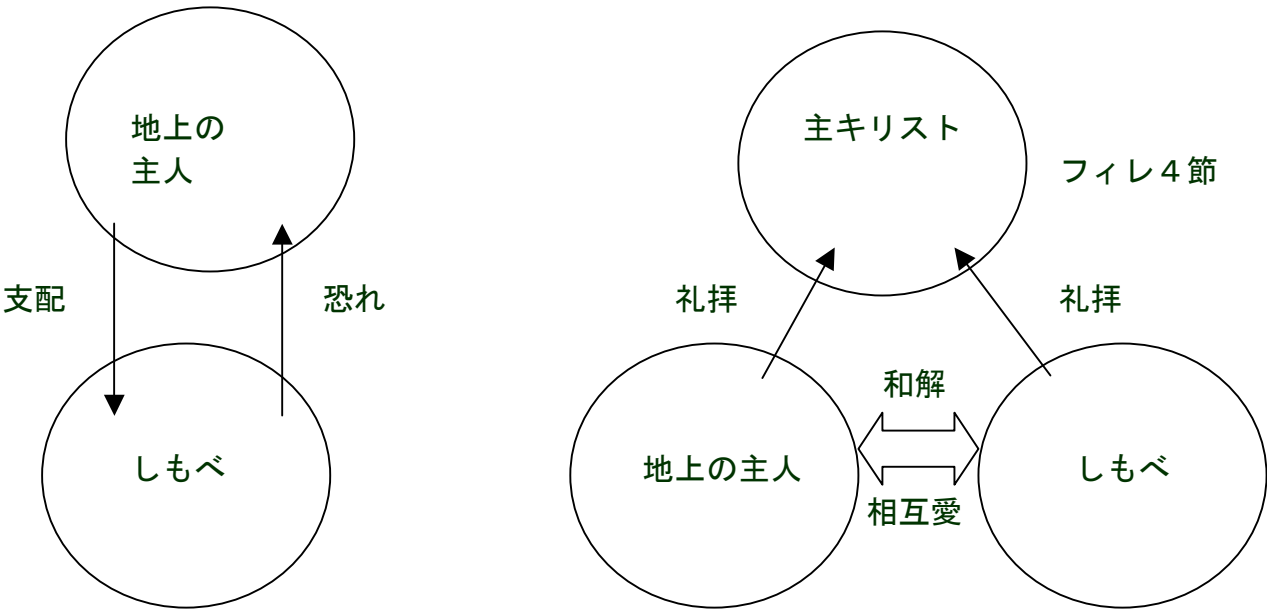
オネシモ

「オネシモ」という名前の意味は、「役に立つ者（奴隷に多い名）」、ちなみに、フィレモンは「愛する者、聖なる接吻」である。オネシモは主人の持ち物を盗んで主人の家から逃げた、逃亡奴隷としてローマの町に紛れ込んだ。しかし、ローマの町でパウロに出会い、導かれ、キリストへの信仰をもつようになった。

8 節から 17 節までに、オネシモが福音によって変えられている姿が述べられる。キリストにあるとき、暗い過去はきよめられ、自立した人間へのステップが見られる。もちろん、オネシモはパウロに出会い罪を告白し、赦された。しかし、新生はさらなるチャレンジをオネシモに与える、主人との和解である。

過去	現在（キリストとの出会い）	未来・新生
役に立たない者 逃亡者・奴隷、罪人	パウロとの出会い 監禁中にもうけた私の子 私の心、パウロの有益な助け手 になった	役に立つ者、主人のもとに帰る＝和解 強いられない、自発的なよい行い 悪事を働いたことが、益となる（創世 45:5） 一人の人間として、主を信じる者としても、愛 する兄弟として生きる

フィレモンがオネシモをどのように受け入れたかは、聖書の中に載ってはいない。しかし、この 25 節の個人的な手紙が聖書の一書として私たちの手にあることからすれば、フィレモンは喜んでオネシモを迎え、主にあって和解したにちがいない。



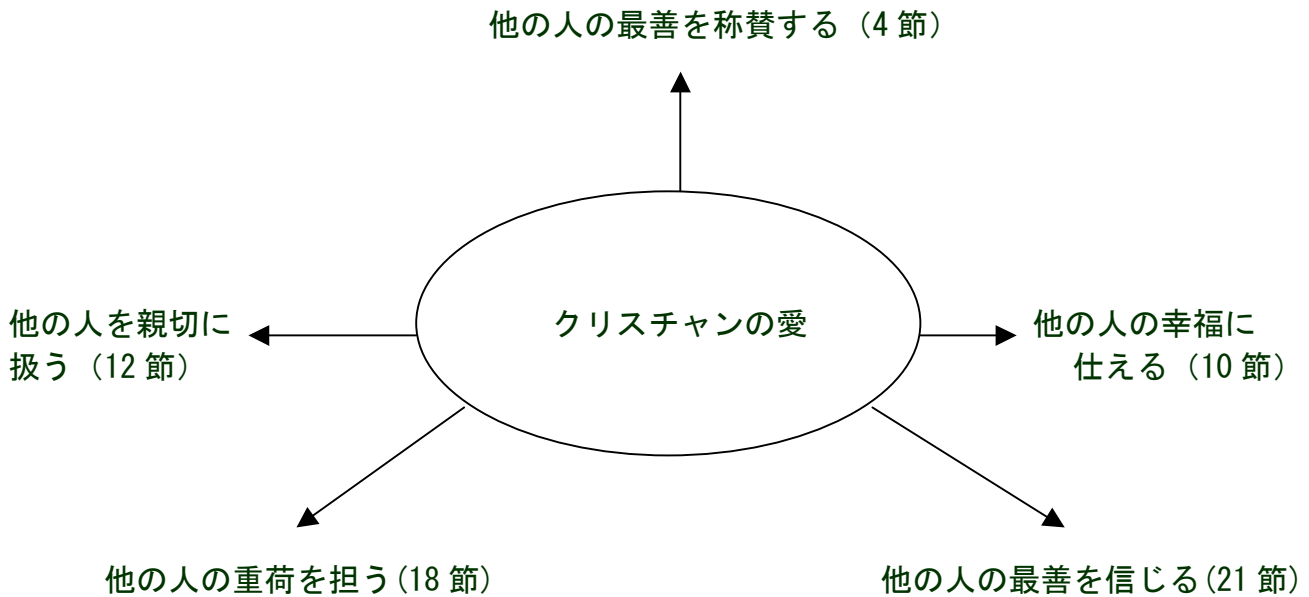
②パウロのとりなし

パウロは自分のことを「キリスト・イエスの囚人」という。両者の関係が悪くなったり、こじれた場合、間に入って非常に苦労することがあるが、それについて、妙案はなく、パウロはまさに自らを低くしてこの和解の手紙をフィレモンに書いている。

フィレモンに	パウロの謙遜と和解	オネシモの推薦
愛と信仰を確かめ称賛（4-7） 愛による訴え（9） あなたに仕えてもらうため（12） あなたの承諾と自発的な行為に任せる（14） 兄弟愛をもって受け入れてほしい（16）	喜びと慰め（7） オネシモを助け、み言葉を教え、信仰に導いた（10） 命令を際し控える（9） オネシモを手元に置きたい（13） あなたは主人である。わたしはオネシモの立場に身を置いている（14） パウロは、ここで、両者にチャレンジを与えている。福音にある兄弟愛を働かせることを両者に奨めている オネシモに負債があったら自分が支払う、贖いの信仰（17-20）	年若い、囚人となったパウロはオネシモによって助けられている。 わたしの子オネシモ（10） 頼みと推奨（9） 役に立つ者（11） わたしの心（12） 彼が悪事を働いたのは私を助けるため、さらに真の兄弟としてあなたのもとに置くという神様の摂理があった（15）

③クリスチャンの愛の働き

パウロに見られる愛の働きは次のように図式化される。



④ローマの教会からコロサイの教会へ

パウロからフィレモンへの個人的な手紙であるが、それはクリスチャンの愛に結ばれた、キリストの体である教会をしっかりと結びつけるあいさつによって締めくくられる。

22-25 ついでに、わたしのため宿泊の用意を頼みます。あなたがたの祈りによって、そちらに行かせていただけるように希望しているからです。キリスト・イエスのゆえにわたしと共に捕らわれている、エパfrasがよろしくと言っています。わたしの協力者たち、マルコ、アリストアルコ、デマス、ルカからもよろしくとのことです。主イエス・キリストの恵みが、あなたがたの霊と共にあるように。

4) まとめ

- ①この書の貴重さは一人の人間（クリスチャン）としてのパウロがいる。
- ②オネシモは福音に出会うことによって、神に赦され自立した人間として裏切った主人のもとに帰ることを決意している。
- ③パウロはフィレモンに対して、命令することのできる立場にあるが、その特権を放棄して、この解決をフィレモンの福音的良心にゆだねている。
- ④パウロの目指した交わりは直接の奴隷解放ではなく、主イエス・キリストを共に礼拝し、信仰の交わりを完成することであった。
- ⑤「互いに愛し合うことのほかは、だれに対しても借りがあつてはなりません。人を愛する者は、律法を全うしているのです」（ローマ 13:8）。さらにパウロは他者の負債を負い、キリストの愛を実践するのである。
- ⑥これは神と人との和解の執り成しをされた主イエスがなされたことであった。

アウトライン

1. あいさつ (1-3)
2. フィレモンへの感謝の言葉 (4-7)

3. パウロの願い (8-20)
4. 終わりのあいさつ (21-25)

ヘブル（ヘブライ）人への手紙

（すべて古いものは成就し、新しくされる）

著者：

謎に包まれています。何世紀もの間、人々は、著者がパウロなのか、バルナバなのか、アポロなのか、それともテモテの友人のどれかなのか（ヘブル 13:23 参照）と考えてきました。ルカ、ピリポ、あるいは、プリスキアなどではないかと憶測されるが、考古学的大発見がない限り、現在は不明である。著者がだれか分らないにしても、私たちは、この書物がイエス・キリストの真のお姿と、クリスチャンの信仰を教えていることを信頼することができます。

宛先：

イエスを自分たちのメシヤ（救い主）として信頼した。ユダヤ人たち。

背景：

多くのユダヤ人クリスチャンが、イエスに対する自分たちの信仰に疑いをもち始めていました。彼らは落胆し、イエスを救い主として受け入れたために自分たちの生き方を失ってしまった、と感じていました。多くの者が。ユダヤ人としての昔の生活に戻ることを望みました。この手紙は、イエスを信じることは、ユダヤ人としての伝統や慣習のすべてにはるかにまわっていることを示すために書かれました。

聖書の中での位置：

ヘブル人への手紙は、共同の手紙と呼ばれる区分の最初の手紙であり、新約聖書では 19 番目の書物に当たります。共同の手紙というのは、普通、ある特定の個人や教会に宛てられたのではない手紙のことです。それらの手紙は、教会から教会へと回して読まれました。

ヘブル人への手紙におけるキリスト

この手紙は、クリスチャンになったばかりのヘブル人（ユダヤ人）宛に書かれたので、著者は、旧約聖書の人々や習慣について語っています。彼らは、民の罪のために祭司がささげるいけにえをよく知っていました。この手紙は、私たちの永遠の大祭司としてのイエスについて語っています。イエスは、最善のささげものをおささげになりました。それは、イエスご自身です。イエスは、完全な神の小羊として、私たちのために死なれました。イエスのいけにえは、決して繰り返される必要がありません。イエスが私たちのために死んで、よみがえられたので、私たちは、永遠のいのちをもつことができます。またどのような時でも、祈りによって父なる神のご臨在に近づくことができます。

この手紙のテーマとメッセージ

イエスの生涯、死、そして、復活が旧約聖書の土台に立っていて、旧約聖書は成就した。

著者はイエスの特異性と優越性を説明する。イエスはだれよりも偉大なお方である！

- 預言者たちよりも偉大なお方：旧約聖書において、神は、預言者と呼ばれる使者を通して語られた。終りには、神は、ご自身の御子イエス・キリストによって、私たちに語られた。神は、そのお方によって宇宙を造られたのである。

ヘブル 1～2 章：イエスはみ使いたちよりすぐれたお方「しばらくの間、低くされた」（2:6-7）。

- 御使いたちよりも偉大なお方：イエスは神の御子である。御使いは、イエスを礼拝する。
- モーセよりも偉大なお方：モーセは、神の忠実なしもべだった。イエスは神の御子である。
ヘブル 3:1～4:13：イエスはモーセよりも偉大なお方モーセは神の家を建てましたが、その建物の設計をしたのはイエスでした (3:1-6)
イエスもモーセも不信仰な者たちに取り囲まれていました。モーセはプレッシャーに耐え切れませんでした（民数記 20:2-13）、イエスは最後まで任務を遂行し、苦痛に満ちた屈辱的な十字架の死をも受けられました。み言葉への尊敬（ヘブル 4:12-14）
- ヨシュアよりも偉大なお方：ヨシュアは、神の民を約束の地に導き入れた偉大な指導者だった。しかし、彼は、民を安息に導き入れたのではなかった。イエスのみが、真の安息を与えられる。イエスを救い主として信頼する者は、自分で自分を救おうとすることをやめ、すべてをイエスの御手にゆだねる。
- すべての大祭司よりも偉大なお方：大祭司は、民の罪のために動物のいけにえをささげた。彼らは、これらのいけにえを、繰り返し繰り返しささげなければならなかった。動物のいけにえは、罪を取り除くものではなく、やがて神が、神の小羊であるご自身の御子イエスを通してなされることを示すものである。イエス・キリストは、決して罪を犯されなかった。イエスは、私たちの罪のための完全ないけにえとして、ご自身をおささげになった。イエスのいけにえは、もう決して再びささげられる必要はない。
ヘブル 4:14～10 章：イエスは、アロン（モーセの兄弟でイスラエルの最初の大祭司）や旧約聖書のどの大祭司よりもすぐれたお方であり、又もう 1 回、永遠イエスは「永遠にメルキゼデクの位に等しい大祭司」（5:10；6:20）といわれています。
ほかの大祭司たちとは違い、キリストには、まず自分の罪のために。その次に、民の罪のために毎日いけにえをささげる必要はありません。というのは、キリストは自分自身をささげ、ただ一度でこのことを成し遂げられたからです。律法は弱さを持つ人間を大祭司に立てますが、律法のあとから来た誓いのみことばは、永遠に全うされた御子を立てるのです。（ヘブル 7：27-28）

イエスは、神の小羊であり、私たち的大祭司である。旧約聖書において、大祭司は、年に一度だけ、神の臨在の前に入っていくことができた。私たち的大祭司であるイエスは、まさに今のこの時も、父なる神の右におられる。キリストを信じる者たちは、どんな時にも、祈りを通して、大胆に神の臨在に近づくことができる。私たちがこのようにできるのは、イエスが私たちのために十字架の上でしてくださったことのゆえである。

律法は「後に来るはずの新しいものの影」（10:1）

10:3、4 動物の血、
9:12、26

クリスチャンはこの新しい契約によってしっかりと神に結びついている。

この手紙は、クリスチャンに多くの勧めをしている。

ヘブル 10:22-25：礼拝、 罪の告白、 愛と善行、 集会と聖書の朗読

ヘブル 10:30-31：神を恐れ、 神を愛する

信仰のオンパレード（11 章）

「信仰は望んでいる事がらを保証し、目に見えないものを確信させるものです。

ヘブル人への手紙は、強い信仰をもっていた多くの旧約聖書の人々について語っている。ノア、アブラハム、イサク、ヤコブ、ヨセフ、モーセ、ラハブ、ギデオン、ダビデ、サムエルなどが、神を信じる強い信仰をもった人々の例として示されている。実際にこの人々の生涯とここに書かれた評価を比べると面白い。

昔の人々はこの信仰によって称賛されました…信仰がなくては、神に喜ばれることはできません。神に近づく者は、神がおられることと、神を求める者には報いてくださる方であることを、信じなければならないのです。」（ヘブル 11:1、2、6）

「ところで、この人たちはすべて、その信仰のゆえに神に認められながらも、約束されたものを手に入れませんでした。神は、わたしたちのために、更にまさったものを計画してくださったので、わたしたちを除いては、彼らは完全な状態に達しなかったのです。」（ヘブライ 11:39-40）

主による鍛錬・試練

私たちは、神の御子イエス・キリストを信じる強い信仰をもつべきである。神の力は、他のいかなる力にもまさって偉大だからである。途中であきらめてはならない。イエスは、私たちがクリスチャン生活を送れるように、助けてくださるからである。私たちの生活は、イエスに従うことの模範であるべきである。

「こういうわけで、わたしたちもまた、このようにおびただしい証人の群れに囲まれている以上、すべての重荷や絡みつく罪をかなぐり捨てて、自分に定められている競走を忍耐強く走り抜こうではありませんか、信仰の創始者また完成者であるイエスを見つめながら。このイエスは、御自身の前にある喜びを捨て、恥をもいとわないで十字架の死を耐え忍び、神の玉座の右にお座りになったのです」（12:1、2）

この聖句は、マラソンレースを走る競技者をイメージしている。また、応援の観客は召された聖徒であることが分かる。

戒めや懲らしめを受けるのは、本当の子どもである証拠。

「およそ鍛錬というものは、当座は喜ばしいものではなく、悲しいものと思われるのですが、後になるとそれで鍛え上げられた人々に、義という平和に満ちた実を結ばせるのです。」（ヘブライ 12:11）

主による試練はやがて、クリスチャンを整え、聖化の道筋を与える。

・ 試練について…マタイ 5:10、ヨハネ 9:1-3、2 コリント 4:7-11、1 ペテロ 4:12-14

神に喜ばれる奉仕の勧めと結語（13章）

- 互いに愛し合うこと、兄弟愛の実践（1 節）
- 投獄されている人々を覚えること（3 節）
- 結婚の純潔を守ること（4 節）
- お金を愛さないこと（5 節）
- 指導者たちに従うこと（7 節）
- 賛美のいけにえを絶えず神にささげること（15 節）

心に留めるべきみことば：

- ❖ 神は、かつて預言者たちによって、多くのかたちで、また多くのしかたで先祖に語られたが、この終わりの時代には、御子によってわたしたちに語られました。神は、こ

の御子を万物の相続者と定め、また、御子によって世界を創造されました。(1:1、2)

- ❖ さて、わたしたちには、もろもろの天を通過された偉大な大祭司、神の子イエスが与えられているのですから、わたしたちの公に言い表している信仰をしっかりと保とうではありませんか。この大祭司は、わたしたちの弱さに同情できない方ではなく、罪を犯されなかったが、あらゆる点において、わたしたちと同様に試練に遭われたのです。だから、憐れみを受け、恵みにあずかって、時宜にかなった助けをいただくために、大胆に恵みの座に近づこうではありませんか。(4:14-16)
- ❖ この方は、ほかの大祭司たちのように、まず自分の罪のため、次に民の罪のために毎日いけにえを献げる必要はありません。というのは、このいけにえはただ一度、御自身を献げることによって、成し遂げられたからです。(7:27)
- ❖ この御心に基づいて、ただ一度イエス・キリストの体が献げられたことにより、わたしたちは聖なる者とされたのです。(10:10)
- ❖ 約束してくださったのは真実な方なので、公に言い表した希望を揺るがぬようしっかりと保ちましょう。互いに愛と善行に励むように心がけ、…(10:23、24)
- ❖ 信仰とは、望んでいる事柄を確信し、見えない事実を確認することです。(11:1)
- ❖ 兄弟としていつも愛し合いなさい。(13:1)
- ❖ だから、わたしたちは、はばかりに次のように言うことができます。「主はわたしの助け手。わたしは恐れない。人はわたしに何ができるだろう。」(13:6)
- ❖ 善い行いと施しとを忘れないでください。このようないけにえこそ、神はお喜びになるのです。指導者たちの言うことを聞き入れ、服従しなさい。この人たちは、神に申し述べる者として、あなたがたの魂のために心を配っています。彼らを嘆かせず、喜んでそうするようにさせなさい。そうでないと、あなたがたに益となりません。(13:16、17)

ヘブル人への手紙のアウトライン

1. イエス・キリストの至高性(1:1-4:13)

- (1)キリストの至高性とその救いの偉大さ(1:1-3:6)
 - a.キリストによる神の言葉の究極的語りかけ(1:1-4)
 - b.御使いに勝るキリスト(1:5-14)
 - c.聞いたことに心を留めよ(2:1-4)
 - d.自ら苦しめられた救い主(2:5-18)
 - e.モーセに勝るイエス(3:1-6)
- (2)神の民の安息に入れ(3:7-4:13)
 - a.不信仰によって神から離れるな(3:7-19)
 - b.神の安息はまだ残っている(4:1-13)

(1)大祭司なるイエス・キリスト(4:14-6:20)

- a.大祭司イエスにより御座に近付こう(4:14-16)
- b.大祭司の資格とイエスの任職(5:1-10)
- c.初歩にとどまらず、希望のうちに前進せよ(5:11-

6:12)

d.神の変わらざる約束(6:13-20)

(2)メルキゼデク系の祭司キリスト(7:1-28)

- a.祭司王メルキゼデクの卓越性(1-10)
- b.不完全なレビ系祭司と完全なメルキゼデク系祭司

(11-19)

c.神の誓いによる不変の大祭司キリスト(20-28)

(3)新しい契約と天の幕屋(8:1-10:18)

2.大祭司キリストによる真の贖罪(4:14-10:18)

- a.優れた契約の仲保者なる大祭司キリスト(8:1-6)
- b.古い契約に取って代わった新しい契約(8:7-13)
- c.予型的祭儀による古い契約と地上の幕屋(9:1-10)
- d.キリストの血による新しい契約と天上の幕屋(9:11-22)
- e.完全な贖罪のための唯一の犠牲キリスト(9:23-28)
- f.実体なき影としての古い契約とその祭儀(10:1-4)
- g.永遠に有効なキリストの一回的犠牲(10:5-18)

3.希望の下にある信仰の道(10:19-13:17)

- (1)信仰と忍耐の奨励・勧告(10:19-39)
 - a.キリストによって神に近付こう(19-25)
 - b.赦されない故意の不信仰(26-31)
 - c.救いと報いの確信をもって忍耐せよ(32-39)
- (2)称賛されるべき昔の人々の信仰の歩み(11:1-40)
 - a.前史における事例(1-7)
 - ①信仰の本質(1-3)

- ②アベル、エノク、ノア(4-7)
- b.族長時代の実例(8-22)
 - ①アブラハムとサラ(8-12)
 - ②信仰者の故郷、神の都(13-16)
 - ③アブラハム、イサク、ヤコブ、ヨセフ(17-22)
- c.出エジプトとカナン征服における実例(23-31)
 - ①モーセ(23-26)
 - ②出エジプト(27-29)
 - ③カナン征服(30-31)
- d.その他の信仰者の実例(32-40)
- (3)信仰生活上の勧告と奨励(12:1-13:17)
 - a.キリストに倣った神の訓練の忍耐(12:1-13)
 - b.神の恵みの拒絶への厳しいさばき(12:14-29)
 - c.信仰共同体の善き生活(13:1-17)

4.結語(13:18-25)

- (1)禱援の要請(18-19)
- (2)祝福(20-21)
- (3)あいさつ(22-25)

ヘブライ書におけるキリストの苦難

苦しめられたキリストは誰ですか。

□ 万物の創造主、すべてを支えるお方で、贖い主、天におられる王の王

神は、この御子を万物の相続者と定め、また、御子によって世界を創造されました。御子は、神の栄光の反映であり、神の本質の完全な現れであって、万物を御自分の力ある言葉によって支えておられますが、人々の罪を清められた後、天の高い所におられる大いなる方の右の座にお着きになりました。(1:2-3)

□ 偉大な大祭司

それで、イエスは、神の御前において *憐れみ深い、忠実な大祭司* となって、民の罪を償うために、すべての点で兄弟たちと同じようにならねばならなかったのです。事実、御自身、試練を受けて苦しめられたからこそ、試練を受けている人々を助けることができになるのです。(2:17-18)

さて、わたしたちには、もろもろの天を通過された偉大な大祭司、神の子イエスが与えられているのですから、わたしたちの公に言い表している信仰をしっかりと保とうではありませんか。(4:14)

また、神は他の個所で、「あなたこそ永遠に、メルキゼデクと同じような祭司である」と言われています。(5:6)

このようにして、イエスはいつそう優れた契約の保証となられたのです。また、レビの系統の祭司たちの場合には、死というものがあるので、務めをいつまでも続けることができず、多くの人たちが祭司に任命されました。しかし、イエスは永遠に生きているので、変わることもない祭司職を持っておられるのです。それでまた、*この方は常に生きていて、人々のために執り成しておられるので、御自分を通して神に近づく人々を、完全に救うことがおできになります。*このように聖であり、罪なく、汚れなく、罪人から離され、もろもろの天よりも高くされている大祭司にこそ、わたしたちにとって必要な方なのです。この方は、ほかの大祭司たちのように、まず自分の罪のため、次に民の罪のために毎日いけにえを献げる必要はありません。というのは、このいけにえはただ一度、御自身を献げることによって、成し遂げられたからです。(7:22-27)

今述べていることの要点は、わたしたちにはこのような大祭司が与えられていて、天におられる大いなる方の *玉座の右の座* に着き、人間ではなく主がお建てになった聖所また真の幕屋で、仕えておられるということです。(8:1-8:2)

しかしキリストは、罪のために唯一のいけにえを献げて、永遠に神の右の座に着き、その後は、敵どもが御自分の足台になってしまうまで、待ち続けておられるのです。(10:12～13)

□ **永遠の主**

イエス・キリストは、きのうも今日も、また永遠に変わることのない方です。(13:8)

主の苦しみはどんな動機からでしたか。

信仰の創始者であり、完成者であるイエスから目を離さないでいなさい。イエスは、ご自分の前に置かれた喜びのゆえに、はずかしめをものともせず十字架を忍び、神の御座の右に着座されました。(12:2、新改訳聖書)

主の苦難は主ご自身にどんな意味がありましたか。

□ **十字架はイエス・キリスト様の栄光**

ただ、「天使たちよりも、わずかの間、低い者とされた」イエスが、死の苦しみゆえに、「栄光と栄誉の冠を授けられた」のを見えています。神の恵みによって、すべての人のために死んでくださったのです。(2:9)

□ **十字架によって完成されたイエス・キリスト様**

というのは、多くの子らを栄光へと導くために、彼らの救いの創始者を数々の苦しみを通して完全な者とされたのは、万物の目標であり源である方に、ふさわしいことであつたからです。(2:10)

□ **従順を学ばれたイエス・キリスト様**

キリストは、肉において生きておられたとき、激しい叫び声をあげ、涙を流しながら、御自分を死から救う力のある方に、祈りと願いとをささげ、その畏れ敬う態度のゆえに聞き入れられました。キリストは御子であるにもかかわらず、多くの苦しみによって従順を学ばれました。そして、完全な者となられたので、御自分に従順であるすべての人々に対して、永遠の救いの源となりました。(5:7～9)

□ **大祭司となられたイエス・キリスト様**

わたしたちが持っているこの希望は、魂にとって頼りになる、安定した錨のようなものであり、また、至聖所の垂れ幕の内側に入っていくものなのです。イエスは、わたしたちのために先駆者としてそこへ入って行き、永遠にメルキゼデクと同じような大祭司となられたのです。(6:19～20)

主の十字架は私たちのどんな恵みを与えますか。

□ **死と悪魔からの開放**

ところで、子らは血と肉を備えているので、イエスもまた同様に、これらのものを備えられました。それは、死をつかさどる者、つまり悪魔を御自分の死によって滅ぼし、死の恐怖のために一生涯、奴隷の状態にあった者たちを解放なさるためでした。(2:14～15)

□ **理解して下さる主、聞いて下さる主**

この大祭司は、わたしたちの弱さに同情できない方ではなく、罪を犯されなかったが、あらゆる点において、わたしたちと同様に試練に遭われたのです。だから、憐れみを受け、恵みにあずかって、時宜にかなった助けをいただくために、大胆に恵みの座に近づこうではありませんか。(4:15～16)

□ **罪の贖い、永遠のいのちを与える主**

御自身の血によって、ただ一度聖所に入って永遠の贖いを成し遂げられたのです。…まして、永遠の“霊”によって、御自身をきずのないものとして神に献げられたキリストの血は、わたしたちの良心を死んだ業から清めて、生ける神を礼拝するようにさせないでしょうか。こういうわけで、キリストは新しい契約の仲介者なのです。それは、最初の契約の下で犯された罪の贖いとして、キリストが死んでくださったので、召された者たちが、既に約束されている永遠の財産を受け継ぐためにほかなりません。(9:12、14～15)

□ **罪を赦して下さる主**

血を流すことなしには罪の赦しはありえないのです。…世の終わりにただ一度、御自身をいけにえとして献げて罪を取り去るために、現れてくださいました。また、人間にはただ一度死ぬことと、その後に裁きを受けることが定まっているように、キリストも、多くの人の罪を負うためにただ一度身を献げられた後、二度目には、罪を負うためではなく、御自分を待望している人たちに、救いをもたらすために現れてくださるのです。(9:22、27～28)

□ **義と認められる主**

なぜなら、キリストは唯一の献げ物によって、聖なる者とされた人たちを永遠に完全な者となさったからです。(10:14)

□ **新しい契約の主**

『『それらの日の後、わたしが彼らと結ぶ契約はこれである』と、主は言われる。『わたしの律法を彼らの心に置き、彼らの思いにそれを書きつけよう。もはや彼らの罪と不法を思い出しはしない。』』罪と不法の赦しがある以上、罪を贖うための供え物は、もはや必要ではありません。それで、兄弟たち、わたしたちは、イエスの血によって聖所に入れると確信しています。イエスは、垂れ幕、つまり、御自分の肉を通して、新しい生きた道をわたしたちのために開いてくださったのです。更に、わたしたちには神の家を支配する偉大な祭司がおられるのですから、心は清められて、良心のとがめはなくなり、体は清い水で洗われています。信頼しきって、真心から神に近づこうではありませんか。(10:16～22)

□ **忍耐を与える主**

あなたがたが、氣力を失い疲れ果ててしまわないように、御自分に対する罪人たちのこのような反抗を忍耐された方のことを、よく考えなさい。(12:3)

□ **恵みを語る主の血潮**

しかし、あなたがたが近づいたのは、シオンの山、生ける神の都、天のエルサレム、無数の天使たちの祝いの集まり、天に登録されている長子たちの集会、すべての人の審判者である神、完全なものとされた正しい人たちの霊、新しい契約の仲介者イエス、そして、アベルの血よりも立派に語る注がれた血です。(12:22～24)

□ **門の外に導く十字架の主**

なぜなら、罪を贖うための動物の血は、大祭司によって聖所に運び入れられますが、その体は宿営の外で焼かれるからです。それで、イエスもまた、御自分の血で民を聖なる者とするために、門の外で苦難に遭われたのです。だから、わたしたちは、イエスが受けられた辱めを担い、宿営の外に出て、そのみもとに赴こうではありませんか。(13:11～13)

□ **契約の血によって備えて下さる大牧者**

永遠の契約の血による羊の大牧者、わたしたちの主イエスを、死者の中から引き上げられた平和の神が、御心に適うことをイエス・キリストによってわたしたちにしてください、御心を行うために、すべての良いものをあなたがたに備えてくださるよう。栄光が世々限りなくキリストにありますように、アーメン。(13:20～21)

ヘブル人への手紙のその他のメッセージ

神は、かつて…語られたが、…語られました。(1:1-2)

ヘブル人への手紙の入門の言葉の抜粋です。完全に理解するために他の部分も読まなければなりませんが、この中に4つの大切なポイントがあります。

- ① 先ず神様の存在が現実です。ユダヤ人向きの手紙ですから、著者は旧約聖書の神様をそのままに主張します。律法や預言者たちが掲示した神様の名前をそのまま受け入れます。
- ② 神様はご自分を掲示して下さるお方です。人間に語って下さって、その御心を明確にして下さる神様です。

- ③ 神様は人々が受け入れる能力に合わせて過去において語って下さいましたが、今イエス・キリスト様において私たちは神様の完全で最終的な揭示を受けています。人々は少しずつ進んでその揭示の内容を受け止める事が出来ますが、それを終わりまで汲み尽くす事は出来ません。
- ④ 過去において語ったにも関わらず、神様はイエス・キリスト様において話す必要があったし、それは可能でもありました。旧約聖書は未だ完全な揭示を含まなかったから必要でしたが、旧約聖書の不完全な揭示はイエス・キリスト様に現れる完全な揭示を十分理解するには必要です。

だから、わたしたちは聞いたことにいっそう注意を払わねばなりません。そうでないと、押し流されてしまいます。(2:1)

「だから」と言う言葉は一章の内容を指します。旧約聖書の揭示はみ使いたちによって与えられましたが、新約聖書の揭示は御子イエス・キリスト様によって与えられています。ですから新約聖書の権威は旧約聖書より遥かに高いものです。それはこの二つが矛盾する意味ではなく、旧約聖書をイエス・キリスト様のみ言葉の光で照らさなければ、本当の理解が得られません。旧約聖書の言葉は正しくて、それを無視する人に裁きがやってきます。しかし、イエス・キリスト様の揭示は救いの揭示です。神様がイエス・キリスト様において語ったから揭示から押し流される事のもっとも危険な状態です。救いのメッセージは律法のメッセージよりもっと力強い警告です。人間は流れに押し流されやすい者です。特に手紙を受けたクリスチャンたちは迫害や困難の中に、楽な方に流され易い状況にいました。

だから、天の召しにあずかっている聖なる兄弟たち、わたしたちが公に言い表している使者(告白する信仰の使徒)であり、大祭司であるイエスのことを考えなさい。(3:1)

もう一度前に書かれた事を指してのアピールが書いてあります。主イエス・キリスト様の低くされた、賢そうな、苦しみの姿はその威厳や栄光や尊厳を小さくする訳ではなく、かえってその大祭司としての生命を可能にしました。押し流されるから助かるには一番重要な事は、目を偉大な大祭司であるイエス・キリスト様に留めて、主の姿を考える事です。

イエス・キリスト様を先ず私たちの信仰告白で言い表した使者(Apostolos)、父なる神様から私たちに権威あるメッセージを伝える為に派遣された使節として見るべきです。又完全な大祭司として見るべきです。

モーセなどに比べると主の優れた偉大さが分かります。モーセは神様の家に忠実な僕であったが、イエス・キリスト様は家の所有者、御子です。モーセは民を奴隷状態から外に導いたが、約束の国の中に彼らを導く事が出来なかったのです。イエス・キリスト様は奴隷状態から約束の所有するまで導く事が出来ます。ヨシュアは彼らを国の中に導いたが、彼らに休みを与える事が出来なかったのです。イエス・キリスト様は平和と平安を与えて下さいます。

「考えなさい」と翻訳された言葉は注意深い、徹底的な姿勢で考え続ける意味のものです。私たちは多くの場合にこの点で失敗しがちです。徹底的に主に注目を向ける姿勢は聖なる修練です。

さて、わたしたちには、もろもろの天を通過された偉大な大祭司、神の子イエスが与えられているのですから、わたしたちの公に言い表している信仰をしっかりと保とうではありませんか。(4:14)

イエス・キリスト様の祭司としての働きをもっと詳しく説明する事に進みます。イエス様はただの祭司だけではなくて、大祭司です。旧約聖書の中に大祭司は最高の祭司の務めを意味しましたが、イエス・キリスト様はそれよりも遥かに大きい、偉大な大祭司です。

イエス・キリスト様はもろもろの天を通過した事は、空気の天も、宇宙の天も通って、神様のご臨在の天国をも通って、もっとも父なる神様に近くて、親しい所まで大祭司として私たちの為に働いておられます。ここに三位一体の深い奥義も現れています。父なる神様とイエス・キリスト様が一つである事です。

諸々の天を通過した事は先ず天から地上に來られて、そして地上から天のみ国に歸られた事が含まれています。エペソ人への手紙では同じ事が次のようにまとめられています：

「昇った」というのですから、低い所、地上に降りて來られたのではないのでしょうか。この降りて來られた方が、すべてのものを満たすために、もろもろの天よりも更に高く昇られたのです。(エペソ 4:9～10)

また、神は他の個所で、「あなたこそ永遠に、メルキゼデクと同じような祭司である」と言われています。(5:6)

神様に召されて、その務めを果たして来た、アロンからの祭司達より、遥かに高い、わたしたちの告白する信仰の大祭司は地上の一時的な祭司ではなく、永遠の祭司であります。私たちの大祭司は神様の御子で永遠にその務めを天で続けておられます。

平和と義の王様であるメルキゼデクには、祭司として罪の問題を解決する使命だけではなく、奉仕と戦いの中にいのちを支える使命もありました。アブラハムが勝利を得た戦いから帰る途中で祭司メルキゼデクが向かいに来て、パンとぶどう酒を与えて、又祝福をしました。アブラハムは彼に十分の一献金を与えました。キリストの祭司職も罪の問題の解決の上に、何時までも私たちを支えて、平安を与えて、祝福する事です。

あなたがたが怠け者とならず、信仰と忍耐とによって、約束されたものを受け継ぐ人たちを見倣う者となつてほしいのです。(6:12)

このような大祭司を持ちながら、私たちは怠け者になる誘惑があります。それはやはり目を大祭司から逸らして、基本的な教理さえ握り締めないで、悔い改めを怠って、十字架の恵みを捨てて、主から離れて行く事です。信仰生活は容易いものとは限りません。積極的な姿勢を忍耐深く保つ必要があります。

このような危険から私たちを守るのは神様のみ言葉の固い約束で、又天で私たちの為に執り成しをして下さる大祭司であるイエス・キリスト様です。イエス様は私たちの希望の礎です。

礎は希望のしるしになっています。イエス・キリストご自身が天国で礎として船を嵐の中に動かないようにするだけではなく、礎から救われているクリスチャンの心まで強い鎖が続きます。私たちの心の中にその鎖を固く握っているのは聖霊様です。最終的に聖霊様は私たちの希望の礎でおられるイエス・キリスト様の所まで引っ張って下さいます。

この約束だ固いものですから、私たちは忍耐をもって約束されたみ国を求めましょう。

それでまた、この方は常に生きていて、人々のために執り成しておられるので、御自分を通して神に近づく人たちを、完全に救うことができになります。(7:25)

完全に救う事の出来る事は二つの事によります。イエス・キリスト様は私たちを救って下さいますが、その反面に私たちは神様に近づく必要があります。神様の近くにいと、大祭司であるイエス・キリスト様はその執り成しの結果、私たちを完全な者として天のみ国まで連れて行くことが出来ます。私たちは未だ完成されている訳ではありませんが、神様に取り成す仲介者であり、大祭司であるイエス・キリスト様は私たちに知恵や力や恵みをずっと与えて下さいます。神様の近くから離れるとこれらの恵みの働きからも遠ざかってしまいます。

神様の近くに行けるのはイエス・キリスト様を通してです。又イエス・キリスト様によって私たちは主の近くに留まる事が出来ます。そこに十字架の贖いのゆえに義と認められた私たちがキリストの復活の体のようになり、完全な救いに預かる事が出来ます。

わたしたちの大祭司は…まさった契約の仲介者になられたからです。(8:6)

新約聖書の契約と言う形の遺言が十字架の上に成立しました。旧約聖書と新約聖書の遺言の関係をヘブライ人への手紙の9章は詳しく説明します。

新約聖書の遺言には二つの部分があります。その内容を短くまとめれば、次の通りになります。

先ず第一にイエス・キリスト様は、具体的に凄く長い色々の罪のリストを書き並べて下さいます。そこには神様を無視する不信仰、偶像礼拝、不従順、わがまま、党派心、喧嘩、殺意、妬み、恨み、けがれ、情欲、盗み、貪り、裏切り、無関心、憎しみ、よこしま、酩酊、嘘、詐欺、悪口、争い、絶望、占い、軽蔑、高ぶり、善を怠る事、分派、高慢、怠惰などあります。とても長いリストで、又沢山の具体例も伴います。そしてイエス・キリスト様はこう書いて下さいました。「私はこれらのすべての罪の責任を背負って、その処罰を終わりで十字架の上で遺言の相手方の身代わりとして受け入れます。支払います」と。

第二にイエス・キリスト様は別の長いリストを書き記して下さいました。そこにはいのち、愛、喜び、平和、平安、忍耐、神様の子供の身分、永遠のいのち、天国、栄光、豊かさ、祝福、従順、交わり、賛美、使命、支配権、きよさなど、イエス・キリスト様の持つ財産が全部含まれます。そしてイエス・キリスト様は言われます：「これらのすべての私の所有を遺言の相手の方々に残します」と。

この遺言は西暦30年によき金曜日にイエス・キリスト様の死によって有効になって、今現在も有効です。

普通の遺言で相手方が財産を自分の名義に写すには、遺言と身分証明(住民票)と死亡証明書以外に何も要りません。しかし、イエス・キリスト様の遺言の相手方は一体誰でしょうか。罪の支払いは全世界のすべての人々のためです。しかし、遺言があっても、それによって与えられた財産を自分の名義に移そうともしない人々が多いでしょう。それは自分の身分証明書を見せようとしなからず、神様の御前の身分証明書は何でしょうか。そ

れはイエス・キリスト様の遺言に書いてある罪のリストを自分の罪として認める事に過ぎません。それは別名で悔い改めと呼ばれます。

また、人間にはただ一度死ぬことと、その後に裁きを受けることが定まっているように、キリストも、多くの人の罪を負うためにただ一度身を献げられた後、二度目には、罪を負うためではなく、御自分を待望している人たちに、救いをもたらすために現れてくださるのです。(9:27～28)

新しい契約はイエス・キリスト様が祭司として父なる神様の御前で私たちの為に現れて、又いつも執り成してくださる事で成り立っています。しかし、イエス・キリスト様はもう一度もろもろの天を通過してこの世に現れる事を約束されました。それは再臨の大きい日です。再臨はイエス・キリスト様に望みを掛ける私たちにもっとも嬉しい日で、もっとも期待すべき時です。再臨は救いの完成の日で、主が崇められる日で、勝利の日です。

心は清められて、良心のとがめはなくなり、体は清い水で洗われています。信頼しきって、真心から神に近づくことはありませんか。(10:22)

新しい契約の特徴はイエス・キリスト様の完全な十字架の贖いによって与えられる罪の赦しで、又その結果として神様を個人的に知る事で、又聖霊を頂いて、新しい心で神様の御心を行う事です。そのすべては主の一方的な恵みによって与えられるから、私達は何の恐れもなく、自由に主に近づく事が出来ます。前もって自分を変える事が要らないし、又実際に出来ません。ありのまま、子供がその父に近づくように主の所に行きましょう。

具体的に主のもとに行くのは自分の本当の姿を認めながら祈って、十字架の恵みを頂いて、新しい清さと力を頂いて、教会の交わりの中で主イエス・キリスト様の再臨を待ち望む事です。

すべての礼拝はイエス・キリスト様の再臨を指します。その日に私達は主の御前での完全な礼拝に預かりますから、教会の礼拝はその時のリハーサルのようなものです。

イエス・キリスト様の再臨の近い事を忘れてはいけません。色々の困難や疲れや迫害の中にあって、忍耐を与えるのは心を主の再臨に向ける事から湧き出ます。

ところで、この人たちはすべて、その信仰のゆえに神に認められながらも、約束されたものを手に入れませんでした。神は、わたしたちのために、更にまさったものを計画してくださったので、わたしたちを除いては、彼らは完全な状態に達しなかったのです。(11:39～40)

イエス・キリスト様の再臨を待っている間に、疲れて、約束が中々成就されない事で希望を失う恐れがあります。そのような時に以前信仰の道で戦い抜いた先輩たちの模範を覚える必要があります。旧約聖書の信仰者たちは神様の約束の言葉を頼りにして終わりまで信仰の道を歩まれました。しかし、私たちに彼らより遥かに大きな救いの完成の約束がありますから、イエス・キリスト様の再臨の日に向かって走り続けましょう。

こういうわけで、わたしたちもまた、このようにおびたしい証人の群れに囲まれている以上、すべての重荷や絡みつく罪をかなぐり捨てて、自分に定められている競走を忍耐強く走り抜こうではありませんか、信仰の創始者また完成者であるイエスを見つめながら。このイエスは、御自身の前にある喜びを捨て(ご自分の前に置かれた喜びのゆえに)、恥をもちとわないで十字架の死を耐え忍び、神の玉座の右にお座りになったのです。(12:1～2)

私たちの信仰の道のりの歩み方を旧約聖書の時代の信仰者たちと先に主のもとに行かれた聖徒たちはずっと観察して、私たちがイエス・キリスト様を仰ぎ見て走る事を願っています。ここに今までヘブル人への中に書かれた事のまとめのような節です。主の最高の喜びは人々の救いですから、それを得るために苦しみの道を選ばれた。私たちにも色々の懲らしめや戦いが先にありますが、その中に神様は私たちを愛で導いて下さいます。それらの中で私たちが清められて、主にもっと役に立つ人間に成長出来ます。

しかし、私たちの歩みは個人的なものだけではなく、他のキリスト者と共に主の栄光を目指していますから、教会の人間関係を正しく保つ必要があります。あらゆる罪を悔い改めなければなりません。悔い改めを怠って、恐ろしい主の清い火を直面しなければなりません。

永遠の契約の血による羊の大牧者、わたしたちの主イエスを、死者の中から引き上げられた平和の神が、御心に適うことをイエス・キリストによってわたしたちにしてくださり、御心を行うために、すべての良いものをあなたがたに備えてくださるように。栄光が世々限りなくキリストにありますように、アーメン。(13:20～21)

主の内に私には欠けているものが何もありません。私は永遠に主のものです。

ヘブル人への手紙の学びのための質問

神様はみ子において語られます 1:1-14 (誰が語られますか)

第1章

1. 神様は以前人々にどのように語られましたか。(1)
2. 神様は今日私たちにどのように語られますか。(2) 主はあなたにどう語られたかを例を挙げて下さい。
3. 神様が語っておられるのはあなたにとってどのような意味がありますか。(1,2)
4. 神様のみ子イエス・キリスト様はどのようなお方ですか。(2-3,8-13)
5. 神様の御子を知らない方にどのようにイエス・キリスト様を描写したらよいのですか。(2,3)
6. イエス・キリスト様が万物の相続者である事はどんな意味でしょうか。(2,6; コロサイ 1:13-19 を参照に)
7. 世界の創造はどう行われましたか。(2; 創世記 1:1-3; 箴言 8:22-31, ヨハネ 1:1-4, コロサイ 1:16-17 を参照に)
8. 世界は誰のために創造されましたか。(2,3)
9. イエス・キリスト様が「神の栄光の輝き、また神の本質の完全な現われ」である事はどんな意味をするでしょうか。(3; ヨハネ 1:14 を参照に)
10. 万物がどのように成り立っていますか。(3, コロサイ 1:17 を参照に) あなたの人生においてそれは何を意味しますか。
11. イエス・キリスト様は罪のきよめをどのようになさいましたか。(3, 10:12; コロサイ 1:13-14 を参照に)だれの罪の事でしょうか。あなたの罪はどうですか。
12. 3節の中に「救い主」と「主」と言うイエス・キリスト様の役目がどのように描写されていますか。罪を清める事と父なる神様の右の座に座する事はどのような関係にありますか。(3,6:20)
13. 「大能者の右の座に座れる」と言う表現は何をいみますか。(3; マタイ 26:64 を参照に)
13. イエス・キリスト様は父なる神様の右に何をなさっておられますか。(8,13, 2:17,7:25)
14. イエス・キリスト様は1章の中にどう呼ばれますか。(2,5,8,10; ヨハネ 1:1-2 を参照に)それらはイエス・キリスト様の本質について何を語りますか。
15. イエス・キリスト様の支配はどのような性質のものでしょうか。(6,8,9,10,12,13)
16. み使い達は同のような存在ですか。(6,7,14) 旧約聖書の中に彼らの役割はどんなものでしたか。(2:2) 新約聖書の中にどうですか。黙示録はみ使いたちについて何を教えていますか。

御子の語られる事を心に留めなければなりません。2:1-4 (何を語られますか)

第2章

1. イエス・キリスト様の語られる事を心に留めるのは具体的にどういう内容ですか。(1)
2. 信仰者にはどのような密かな危険がありますか。(1,3)
3. み使いを通して頂いた旧約聖書の啓示に対してどんな態度をとるべきですか。(2)
4. イエス・キリスト様が備えた大いなる救いを拒む事の結果はなんですか。(3; 10:26-31,12:25)
5. み言葉の警告はなぜ信仰者にとって必要ですか。
6. 救いのメッセージはどのようなルートで私たちに届きましたか。(3,4)
7. 使徒たちの証には誰が働けましたか。その方はそれをどうなさいましたか。(3,4)
8. 神様がみこころに従って聖霊が分け与える事はどういう意味でしょうか。(4)

救いの創始者 2:5-18 (誰が語られますか)

9. イエス・キリスト様が支配する「後の世」は何ですか。(5,8)
10. 旧約聖書をどう理解すべきかにおいて6~8節はどのようなヒントを与えますか。
11. 今日は未だ見えないのはなんですか。しかし今日もうすでに見えるのは何ですか。(8,9)
12. イエス・キリスト様が栄光と誉れを受ける理由は何ですか。(9; イザヤ書 53:10-12 を参照に)
13. 神様の恵みはどこに現れましたか。(9)
14. イエス・キリスト様の死はあなたにとって何を意味しますか。(9,10)

15. 救いの創始者であるイエス・キリスト様はその苦しみによってどのような完成を得られたでしょうか。(10,11,14, 17)
16. きよめは何ですか。信仰者をきよくなさるのはだれですか。(11)
17. キリスト者は神様の子供でありながらイエス・キリスト様の兄弟である事は何を意味しますか。(11-13)
18. 主が私たちを兄弟と呼ぶことを恥としないのはなぜですか。(11,13)
19. イエス・キリスト様が父なる神様を告げたり、父なる神様に頼ったり、父なる神様を賛美したりするのはどこですか。(12,13) そうであるなら私たちの信仰と伝道と賛美との性質はなんでしょうか。
20. なぜ悪魔は死を支配していますか。その悪魔の支配はどのように打ち破られましたか。(14)
21. 死に対する恐怖はどのような影響を私たちの人生におよぼしますか。その中からどのように開放されますか。(15)
22. み使い達は神様によって創造された、責任ある存在です。イエス・キリスト様の救いは墮落したみ使い達まで及びますか。なぜでしょうか。(16)
23. 神様が人間にならなければならない理由は何ですか。(17)
24. イエス・キリスト様が私たちを理解して、すべての人生の場面で助けることが出来る事が分かる根拠は何ですか。(18)

モーセより偉大なイエス・キリスト様 3:1-6 (誰が語られますか)

第3章

1. 信仰を持つ人は誰であり、どのような人でしょうか。(1)
2. イエス・キリスト様は誰であり、どのようなお方でしょうか。(1)
3. イエス・キリスト様を考える事はどういうことですか。(1; コロサイ 3:1-5 を参照に)
4. イエス・キリスト様が自分を立てた方に忠実である事は何を内容として、しめしたか。(2; ルカ 16:10 と ヨハネ 5:19; 6:38-40 を参照に)
5. モーセとイエス・キリスト様の互いの関係はどんなものでしたか。(2,3)
6. 2~4,6 節の中の家と言う言葉は何を指しますか。(1 テモテ 3:15 を参照に)
7. モーセの最も大切な使命は何でしたか。(5; 1:1-2 を参照に)
8. 天の目的地に達するために何が必要ですか。(6)

途中で救いの道から離れる危険 3:7-4:13 (何を語られますか)

9. 7 節の表現「聖霊が言われる」は旧約聖書の性質と役割について何を語りますか。(7,15; 詩篇 95:7-11 と 1 コリント 10:1-13 を参照に)
10. 神様の語りかけを受けた信仰者にもどのような危険がありますか。(7,8,10; 4:7 を参照に)
11. 神様から沢山の恵みを頂いても何が起こり得るのでしょうか。(9,11; 4:5 を参照に)
12. 神様の怒りは性質はどんなものですか。その結果は何ですか。(10,11)
13. 最も恐ろしい罪はなんですか。その影響はどのようなものですか。(12)
14. 誘惑に打ち勝って、心が頑なにならないように何が必要ですか。それをどの位の頻度で要りますか。(13, 15)
15. 「最後まで、終わりまで」と言う表現は新約聖書の中に 11 回出ますし、ヘブル人への手紙の中に 3 回出ます。それはどう言う意味ですか。(6,14;6:11)
16. 救いはどのような内容ですか。(14)
17. 初めの信仰を保つのはどのように出来ますか。(14; ヨハネ 15:3-7 を参照に)
18. 聖書が同じ事を繰り返し貸すのはなぜでしょうか。(7,15)
19. 聖書は「今日」と言う日を強調するのは何故でしょう。(7,15; 4:7 と 2 コリント 6:1-2 を参照に)
20. 16~18 節にどのような警告がありますか。
21. 神様の安息に入る妨げは何でしょうか。(18,19)
22. 神様の安息はどのような状態でしょうか。(18; 4:1,4,9,10 を参照に)

第4章

1. 何を根拠として神様の安息に入れますか。(1,3,9)

2. 神様の約束が私たちの人生の中に成就するには何が必要ですか。(1,2)
3. 「信仰によって結び付く」という事は何を含めるでしょうか。(2)
4. 信仰の本質は何ですか。(3) 不信仰の本質は何ですか。(3:19)
5. 3~4 節は神様が用意される安息について何を語りますか。(マタイ 15:34 を参照に)
6. ある人々が神様のみ言葉を見捨てると、神様は何をなさいますか。(6,7)
7. 信じる人の人生には、神様のみ言葉に従う努力、戦い、励みが付きものですが、それは律法の下に努力事とどう違いますか。(11; フィリピ 1:5-6; 2:12-13 を参照に)
8. 神様のみ言葉は信じる人の人生にどのような影響を及ぼすでしょうか。(12)
9. 私たちの歩みは何処で行われますか。(13) あなたの人生に神様に隠したい分野がありますか。

大祭司イエス様 4:14-5:10 (誰が語られますか)

10. イエス様がもろもろの天を通過された事は何を意味しますか。それはイエス様の大祭司としての務めとどんな関係でしょうか。(14; 使徒の働き 2:32,33 を参照に)
11. ヘブル人への手紙は信仰告白 (3:1; 4:14; 10:23) を強調しますし、それを揺るがない希望にも結び付きませす。信仰告白と信仰を告白する事の意味はなんですか。(14)
12. イエス様はどのような大祭司ですか。(15)
13. 弱さと罪はどう違いますか。(15) あなたの弱さは何ですか。あなたの負けやすい罪はなんでしょうか。
14. 3 章と 4 章の厳粛な警告の背後に何がありますか。(16) 社会的な圧力や流れが押し寄せるときに信仰の道を歩み続けるのはどのように可能ですか。(16)
15. 誘惑に負けた罪人がどうして大胆にイエス様のところに行けますか。(16)
16. 16 節の「おりになかった」と言う表現は何を指すでしょうか。

第 5 章

1. 大祭司の使命は何ですか。(1,3)
2. 新約時代の祭司、言い換えれば信仰者が間違っている、無知の人々に対してどんな態度をとるべきですか。(2; 1 ペテロ 2:9 を参照に)
3. イエス様が祭司でおられる事は何に基づきますか。(4,5,6)
4. イエス様が「メルキゼデクの位に等しい祭司である」事はどんな意味でしょうか。(6,10; 6:20 と 7:1- 17 を参照に)
5. イエス様は永遠の昔から大祭司として生まれましたが、捧げ物をしたり、とりなしをしたりするためにイエス様は地上でどのような献身式を受けなければなりませんでしたか。(7, 8; マタイ 26:36-42 を参照に)
6. キリスト者の人生に苦しみはどんな役割を果たしますか。(8)
7. イエス様はどのような意味で苦しみの中に完全になりましたか。(9)
8. イエス様が与えて下さる救いはどんな性質を持ちますか。(9)
9. どのような人々がイエス様から救いを受けますか。(9)

霊的な糧 5:11-6:12 (何を語られますか)

10. 主のみ声を聞く妨げはどこから来ますか。(11)
11. 霊的な成長を止める理由は何ですか。(12)
12. 霊的な幼稚と霊的な大人の特徴はなんですか。(13-14)
13. 何によって善と悪を区別することが出来ますか。(14)

第 6 章

1. キリストについての初歩の教えは何を含めますか。(1-2)
2. 死んだ行いは何ですか。(1)
3. 悔い改めは何ですか。(1)
4. 信仰は何ですか。(1)
5. どのような洗礼がありますか。(複数です。)それぞれの意味は何ですか。(2)
6. 将来に私たちが預かる体の復活と最後の裁きはどのような内容ですか。裁きはなぜ必要ですか。(2)

7. 霊的な成長の条件は何ですか。(3)
8. 信仰を頂いて生まれ変わる事はどのような内容ですか。(4-5)
9. 信仰から離れた人々の中に悔い改めに引き戻すことの出来ない人々はどのような人でしょうか。(6; 10:26-31 を参照に)
10. 聖霊様を汚す罪はなんでしょうか。(6; マタイ 12:31-33 とマルコ 3:28-30 を参照に)
11. あなたの心の土はどんなものでしょうか。(7-8; マタイ 12:33-36 と 13:1-23 を参照に)
12. ヘブル人への手紙を受け取ったキリスト者は聖霊様を汚した罪を犯さなかった事が何によって分かりますか。(9)
13. 警告はどうしてクリスチャンにとって必要ですか。(9, 11,12; 5:11 を参照に)
14. 誰かの信仰が本物である事が何によって分かりますか。(10)
15. 神様は私たちの生き方をどう見られるでしょうか。(10)
16. 希望についての確信は何ですか。その意味は何ですか。(11)
17. なぜ信仰も忍耐も必要でしょうか。(12, 15)

偉大な大祭司 6:13-10:19 (誰が語られますか)

信頼できる神様 6:13-20

18. アブラハムへの祝福は何ですか、私たちにそれはどんな意味がありますか。(13-15; エペソ 2:11-14 を参照に)
19. 誓いの役割は何ですか。(16) なぜイエス様は誓いを禁じましたか。(マタイ 5:34-37 とマタイ 26:63-64 を参照に)
20. 聖書はどうして信頼できますか。(17)
21. 神様に何が不可能ですか。(17-18)
22. 人生の励ましは何処から出ますか。(18)
23. キリスト者の希望はどんなものですか。(19)
24. 希望の根拠は何ですか。(19-20)

第 7 章

メルキゼデクの制度による大祭司 7:1-28

1. メルキゼデクはどのような方でしたか。(1; 創世記 14:18-19、詩篇 110:4 を参照に)
2. キリストの祭司としての勤めとメルキゼデクの類似点を挙げて下さい。(2,3,4,6,8,16,17,24)
3. イエス様は大祭司でありながら王様である事はどういう意味ですか。(1,2)
4. イエス様が義と平和の王であられるのは私たちにどんな意味を持つでしょうか。(2)
5. イエス様とメルキゼデクの間の比較は 3 節にどちらの方向でしょうか。言い換えればメルキゼデクがイエス様の様にされたか、それともイエス様がメルキゼデクにされたのでしょうか。
6. 十分の一献金はなぜ奉げられたのでしょうか。(2,4,5,6,8,9; マラカイ 3:10 を参照に) 新約聖書の献金と旧約聖書の十分の一献金はどんな関係にあるのでしょうか。(2 コリント 9:1-15 を参照に)
7. 祝福の意味は何ですか。祝福をする人はどんな立場に立っているのでしょうか。(6,7) 神様の約束と祝福はどのような繋がりですか。
8. なぜアロンから始まった祭司職が廃止されましたか、それはどう行われました。(11,12)
9. 新約聖書の牧会者の努めは何に基づきますか。すべての信徒の祭司職は何を根拠としますか。(11,12,14; 1 テモテ 3:1-7 と 1 ペテロ 2:4,9 を参照に)
10. イエス様の大祭司としての努めは何に基づきますか。(16,17,21)
11. なぜ前の律法が廃止されました。(12,18,19)
12. 律法と別に神様への道は何ですか。(19) なぜ旧約聖書の律法が与えられたのでしょうか。(ローマ 7:7 を参照に)
13. イエス様が新しい契約の保証者である事は私たちに何を物語っていますか。(22)
14. 契約はどんな意味でしょうか。(22; 8:6-13; 9:1-4,15-20; 10:16,29; 12:24; 13:20 を参照に)
15. イエス様は大祭司としてどのような特徴を持っておられますか。(24,26,28)
16. 大祭司としてイエス様は何をなさいますか。(25,27)

第 8 章

新しい契約の仲介者 8:1-13

1. ヘブル人への手紙の主なテーマは何ですか。(1)
2. イエス様は今何処にいらっしゃって、何をなさいますか。(1,2,3; 1:3; 13:12 と 1 ヨハネ 2:1 を参照に)
3. イエス様が父なる神様に献げた供え物は何ですか。(3)
4. 旧約聖書の供え物を献げる礼拝の役割はなんでしたか。(5; 9:9)
5. 新しい契約は何に基づきますか。(6; ローマ 4:13-25 を参照に)
6. 新しい契約の大いなる約束はなんでしょう。(6,10-12)
7. 新しい契約の救いの道はどのようなものですか。(12,11,10)
8. 旧約の欠陥は何処にありましたか。(7,8,9,13)
9. 神様の律法はどのように人間の心の中に書きつけられますか。(10)
10. 主をどのように知ることが出来ますか。(11)
11. 神様が与えて下さる赦しはどのような性質のものですか。(12)

第 9 章

旧約聖書の供え物による礼拝 9:1-10

1. 旧約聖書の供え物による礼拝はなぜ行われましたか。(1,4,5,7; ローマ 3:23-26 を参照に)
2. 至聖所は何を含めたか、又その中の詳細は何を物語りますか。(3,4,5)
3. 出エジプトによると香壇は聖所にあります、4 節はそれが至聖所にある事はどうしてでしょうか。(4; 出エジプト 26:1-; 25:31 を参照に)
4. 大贖祭と天幕の構造はどのような神様の啓示を含めるでしょうか。(7,8)
5. 天幕の礼拝は私たちに何を語っていますか。(9)
6. 旧約の規定の中に私たちが守らなければならないものはなんですか、又守らなくてもよいものは何ですか。(10)

新しい契約の供え物 9:11-10:18

7. 新しい契約の神殿、幕屋は何ですか。(11; ヨハネ 2:19-21 と 1 コリント 3:9,16 を参照に)
8. 教会建物はどんな役割を果たしますか。
9. 「既に実現している恵みの大祭司」と翻訳されたものの直訳は「将来に現れるよいものの大祭司」ですが、それは何を語りますか。(11)
10. 「幕屋を通る」事で新しい契約の至聖所に行けますが、新約の至聖所は何ですか。(11,12, 24)
11. イエス様は供え物として何を捧げましたか。(14) その供え物はどういう性質を持っていましたか。
12. 十字架の苦しみの中に三位一体がどう現れましたか。(14)
13. イエス様の血潮はキリスト者の内にどのような影響を及ぼしますか。(14)
14. 旧約時代の信仰者はなぜ救われましたか。(15; ローマ 3:23-26 を参照に)
15. イエス様の血によって清められた人々に何が与えられますか。(15)
16. 新しい契約の遺言は何ですか。その中身は何ですか。(16; マタイ 26:26-29 を参照に)
17. 遺言はいつ有効に成りましたか。(17)
18. 旧約の遺言は何時又どのように結ばれました。(18-21; 出エジプト 24:3-8 を参照に)
19. 罪の赦しの条件は何ですか。(22)
20. 私たちの大祭司は父なる神様の御前に何をなさっておられますか。(24)
21. イエス様の苦しみは何時行われましたか。(26)
22. イエス様の供え物は何処まで十分ですか。(26)
23. すべての人間に何が定まっていますか。(27)
24. 最終的な救いは何時与えられますか、又その内容は何ですか。(28)

第 10 章

1. 古い契約のいけにえを献げる事は人間を完全にすることが出来なかったが、なぜそのような礼拝が続いたのでしょうか。(1-4)
2. イエス様のいけにえとしての死の意味は何でしょうか。(7,8)

3. イエス様のいけにえとしての死は父なる神様の御心でしたが、その御心は私たちに対してどのような結果をもたらせますか。(10)
4. きよめ、聖なる者にされるのはどんな内容ですか。(10;ヨハネ 17:17-19 を参照に)
5. イエス様のいけにえによって永遠に全うされた人々がなぜ清められるでしょうか。(14;ヨハネ 15:8,16)
6. 十字架の贖いを成し遂げられたイエス様は今何処におられますか。(12)
7. イエス様は何を待っておられますか。(13)
8. イエス様の血はどのような新しい契約をもたらせましたか。(15-18;8:10-12 を参照に)
9. 過去の罪を思い出す時に私たちは何を覚えるべきですか。(17,18;2 ペテロ 1:8-9 を参照に)

大祭司としてのイエス様の天での奉仕からの結論 10:19-13:25 (何を語られますか)

心境による勇気 10:19-25

10. キリスト者の信頼の根拠は何処にありますか。(19)
11. 信仰者の行き先はどこですか。(19;エペソ 1:20-23 を参照に)
12. 父なる神様の所への道はなんですか。(20;ヨハネ 14:1-9 を参照に)
13. 「新しい生きた道」とはどう言う意味ですか。(20)
14. 至聖所へ通るための垂れ幕はなんでしょうか。(20)
15. 信仰の確信は何に基づきますか。(21-22)
16. 信仰生活を保つために最も大切なものは何ですか。(22)
17. 体の清さは何のために必要ですか。清い水は何を指すでしょうか。(22;ヨハネ 13:6-10)
18. 信仰者の希望は何にかかっていますか。(23)
19. キリスト者は愛してよい行いをするために何が必要ですか。(24)
20. なぜ信仰、希望と愛が聖書の中に中心的なものでしょうか。(22,23,24;1 コリント 13:13 と 1 テサロニケ 1:3 と 1 ペテロ 1:3-9 を参照に)
21. 信仰告白はどうして必要でしょうか。(23,24)
22. 教会の礼拝はなぜ必要でしょうか。(25)
23. 信仰を持つ教会の基本的な姿勢は何ですか。(25)

故意の罪 10:26-31

24. どのような罪は一切赦されませんか。(26,29;6:4-6 を参照に)
25. その罪に留まった人の運命はどのようなものですか。(27,30-31; 12:29 を参照に)
26. なぜそんな結果になりますか。(28,29,30)
27. 人間にとって最も酷い事は何でしょうか。(31; マタイ 10:28 を参照に)

信仰者の忍耐 10:32-39

28. 信仰に入ることはどのようなものですか、又その結果は何になり得るでしょうか。(32, 33, 34)
29. 過去の経験は信仰生活においてどのような役割を果たすでしょうか。(32)
30. なぜ信仰者は財産が奪われても恨まなくてもよいでしょうか。(34)
31. 勇気と忍耐を育てるためにどうしたらよいでしょうか。(35-36)
32. イエス様は何時再臨なされますか。(37;2 ペテロ 3:9-10 を参照に)
33. 真の人生の秘訣は何でしょうか。(38)
34. 信仰の反対は案でしょうか。(38-39)

第 11 章

信仰の模範 11:1-40

1. 信仰の本質は何ですか。(1)
2. 神様は信仰に対してどう応答なされますか。(2)
3. 信仰と理性は互いにどのようなかんけいにありますか。(3) 信仰と科学はどうでしょうか。
4. 自分が義と認められた事がどのように分かりますか。(4)
5. あなたの信仰は他の人に対してどのように語っていますか。(4)
6. 神様が私たちに対してどのような証明をなさるでしょうか。(5)
7. 「信仰によって」と言う表現は信仰の本質について何を語るでしょうか。(3-5)

8. なぜ信仰がなくては、神に喜ばれることはできませんか。(6)
9. 信仰と神様の啓示に対する従順はどんな関係にあるでしょうか。(7,8)
10. 未だ何も持たない信仰は何を掴みますか。(8,9)
11. 信者はなぜこの世の中に属しない寄留者のような気持ちになりますか。(9-10,13)
12. あなたはどのような目的地を目指して歩んでいますか。(10,16)
13. なぜキリスト者が信仰を持つことが出来ますか。(11)
14. 信仰は何を見ますか。(13)
15. 信者の本当の国籍は何処でしょうか。(13-16)
16. 神様は信仰を持つものに対してどのような信頼を示されますか。(16)
17. 信仰の試練の役割は何でしょうか。(17-19)
18. 信仰による結論付けはどのようなものですか。(19)
19. あなたの信仰で図ったら、神様はどの位の事ができるでしょうか。(19)
20. 祈りと祝福の中に信仰はどう働きますか。(20,21)
21. 私たちが亡くなったら、信仰は後に残された人々にどのような影響を及ぼすでしょうか。(22)
22. 信仰の故に国の命令と法律に逆らう結果になり得るのは何故でしょうか。(23)
23. 場合によって、なぜ信仰者は最も難しい道を選びますか。(24-26)
24. 信仰は困難の中に耐えるのは何故でしょうか。(27)
25. イスラエルの長子たちは何故すくわれましたか。(28)
26. 不可能な所をどのように通ることが出来ますか。(29)
27. エリコの城壁を倒したのはなんでしたか。(30)
28. 信仰はあなたの人生の中にどのような業を生むことが出来るでしょうか。(31-35)
29. 迫害の中に耐える事の出来る可能性がどの位ですか。(36-38)
30. 旧約時代の信仰者の共通点はなんですか。(39)
31. 旧約聖書の人々が未だ持たなかった、更にまさったものは何ですか。(40)

第 12 章

忍耐と主からの懲らしめ 12:1-13

1. 私たちを困んでいる証人たちは誰でしょうか。(1)
2. 今生きている信仰者と先に立たれた信仰者はどのような関係にあるでしょうか。(1; ルカ 16:27-29 と黙示録 6:10 を参照に)
3. 私たちはどのような無駄な荷物を持つでしょうか。(1)
4. 重荷と罪はどう捨てる事が出来ますか。(1)
5. 忍耐は何時特に必要ですか。(1,3)
6. 信仰者の目はどの方向に向かうべきでしょうか。(2)
7. 信仰の根拠は何処にありますか。(2)
8. 十字架はイエス様にとってどのような意味をしたでしょうか。(2)
9. 恥(恥かしさ)と有罪(罪責感)はどう違いますか。
10. 十字架の道を歩まれたイエス様の動機は何でしたか。(2) (二つ違う翻訳が可能です:「喜びを捨て」又は「喜びのゆえに」)
11. イエス様は今何処におられますか。(2; マタイ 28:20 を参照に)
12. 疲れや失望感の時に何がキリスト者の助けでしょうか。(3)
13. 罪と戦うときの血を流すことは何を指すでしょうか。(4)
14. 場合によって私たちの困難や闘いはどうしてやって来ますか。(5)
15. 主が与えて下さる懲らしめは罪との戦いにどのような関係を持つでしょうか。(4,5,10,11)
16. 主の愛はどのように表れる場合がありますか。(6; 黙示録 3:19 を参照に)
17. 子供たちの不正行為や非行は何について物語りますか。(7,8; 箴言 13:24 を参照に)
18. 主の懲らしめの目的はなんでしょうか。(9,10,11)
19. 萎えた手をどのようにまっすぐにすることが出来ますか。(12; マルコ 2:10-12 を参照に)
20. まっすぐな道を歩むには何をすべきでしょうか。(13, 2)

キリスト者にふさわしい生活の勧告 12:14-29

21. 清めは何ですか。それはどうして必要ですか。(14; 13:20-21)

22. 恨みからどのように開放されますか。(15)
23. 恨みはどうして大変破壊的ですか。(15)
24. 人生の間違った優先順序にどのような危険性がありますか。(16)
25. どうしてエサウの涙が役に立たなかったのでしょうか。(16-17)
26. 旧約の山はどこで、又どのような山でしたか。(18-21)
27. 神様の近くに何が怖いですか。(21)
28. 新約の山は何処ですか、又どのような山ですか。(22-24)
29. 天国の栄光に誰に会えるでしょうか。(22-24)
30. アベルの血は何を訴えるでしょうか。神様の小羊イエス様のいけにえの血は何を語っていますか。(24; 出エジプト 4:10 を参照に)
31. 神様のみ声を聞いた人はどのような危険に曝されますか。(25)
32. イエス様が与えて下さった啓示はどこからですか。(25)
33. イエス様の再臨はどのような結果を持たされますか。(26-27; マタイ 24:35 と 2 ペテロ 3:10-13 を参照に)
34. 最終的な目的は私たちの歩み方にどのような影響を与えますか。(28)
35. 神様に火は滅びの人々に、又救われた人々にとってどのようなものですか。(29; 黙示録 14:11 と 1 コリント 3:15 を参照に)

第 13 章

神に喜ばれる奉仕 13:1-19

1. クリスマン同士の間が冷えたらどうなりますか。(1; ヨハネ 15:9-10 を参照に)
2. もてなしの役割は何ですか。(2)
3. どのような態度で囚人や暴力を受けた方々を覚えるべきでしょうか。(3)
4. 結婚を清く守る理由は何ですか。(4)
5. 貪りから開放する秘訣は何ですか。(5; ピリピ 4:11-13 を参照に)
6. 今の状況で満足する事はどのような大きな約束によりますか。(5-6; マタイ 28:20 を参照に)
7. キリスト者の安心感は何に基づきますか。(5-6)
8. 本物の霊的な指導者の特徴は何ですか。(7,17)
9. 十字架上のイエス様と父なる神様の右のみ座に座っておられるイエス様はどう違いますか。(8)
10. 異端の中に縛られている人々と対照的にキリスト者の行き方はどのような性質を持っていますか。(9)
11. 私たちの祭壇はどこですか。私たちの供え物はなんでしょうか。(10,15,16)
12. イエス様がエルサレムの門の外に苦しみを受けなければならなかった理由は何でしょうか。(11-12)
13. キリスト者にとって最もよい所は何処でしょうか。宿営の外に出かけることは何を意味にしますか。(13)
14. 信仰者の生き方の目標は何ですか。(14)
15. 神様は何を喜ばれるでしょうか。(15-16)
16. 教会の指導者たちと信徒の関係はどうあるべきでしょうか。(17)
17. よい良心を保つ事の意義は何でしょうか。(18; 9:14 と使徒 24:16 と 2 コリント 1:12 と 1 テモテ 1:5, 19 を参照に)
18. ヘブル人への手紙を書いた人は手紙をもらった人々からどのようなとりなしの祈りを願ったでしょうか。(18-19)

お祈りと結びの言葉 13:20-25

19. イエス様はどのようなお方ですか。(20)
20. キリスト者の歩みを可能にするのは何ですか。(21)
21. 清めの最終的な目的は何ですか。(21)
22. 信仰者にとっても聖書の勧めを受け入れるのは時々難しいですが、何故でしょうか。(22)
23. キリスト者同士の情報交換の役割は何でしょうか。(23-24)
24. 信仰者は最終的に何によって生きるでしょうか。(25)

エラー! ブックマークが定義されていません。

公開書簡

公開書簡とは、ヤコブの手紙、ペテロの第一、第二の手紙、ヨハネの第一、第二、第三の手紙とユダの手紙で、全部で7つである。公開書簡の名称はパウロの手紙のように、特定の教会または個人にあてて、書かれたものではなく、全体の教会にあてられた手紙であることから、このように名づけられた。

ヤコブの手紙

著者:

著者はヤコブです(1:1)。このヤコブはおそらく、ヨセフとマリヤから生まれたイエスの兄弟です。彼は、イエスが死者の中からよみがえられる以前には、イエスに従う者ではありませんでした。イエスが死からよみがえられた後に、イエスを信じた人々の一人でした(1コリント 15:7 参照)。後にヤコブは、エルサレムの教会の指導者になりました。彼は少なくとも2回はパウロに会っています(ガラテヤ 2:9、使徒 21:18)。

宛先:

多くの国々に散っている。ユダヤ人クリスチャン。

背景:

ユダヤ人クリスチャンの多くは、イエスを信じないユダヤ人によって迫害されていた。ヤコブは、どのようにして困難に立ち向かい、クリスチャン生活を送るべきかについて、彼らに書き送った。

メッセージ:

- ❑ ヤコブの手紙は、すべての手紙のうちで、最も実地的なものである。鍵になる聖句は1章 22 節であり、そこでヤコブは、「みことばを実行する人になりなさい。ただ聞くだけの者であっては いけません」と信者たちに語っている。
- ❑ ヤコブは、その手紙を、祈りについての強い励ましをもって始め、また終えている。
- ❑ ヤコブは、信仰について教えている。信仰が試みられるとき、人は神に心を向ける。神は、信じる者を強め、困難な時、彼らを助け続けてくださる。
- ❑ ヤコブはまた、行いのいのちのない信仰は死んだ信仰である、と教える。キリストへの信仰は、他の人に対して親切で愛のある行為をしたいという願いを起させる。
- ❑ ヤコブは、神を喜ばせる生活に関する実地的な指示を与えている。彼は、舌を制することを教える。すなわち、舌を用いて他の人々の悪口を言うのではなく、その舌をもってイエスについて語り、その御名を賛美することである。彼はまた、怒りを抑えること、神に従うこと、そして、助けを必要としている人々に心を配ることについて語った。私たちは、人に対してえこひいきをしてはならない。
- ❑ 困難な時にも忍耐すべきである。私たちは、どんなことが起っても神に信頼することができるし、イエスがもう一度おいでになるときに、私たちの信仰が報いられることを確信できる。

心に留めるべきみことば:

1:2-8、12、22-25、2:8、3 :17、5:8、9、16

手紙に関係のある場所

ヤコブはこの手紙をエルサレムから書いた、と考えることができます。彼は、当時エルサレム教会の指導者だったと思われます。

ヤコブの手紙におけるキリスト

ヤコブは、イエスを非常によく知っていました。彼は、クリスチャンの信仰と、クリスチャンの生活について教えました。ヤコブが語ったことはすべて、私たちがあらゆる行いにおいて、キリストの命令に従うべきことを教えています。

ヤコブの手紙の緒論

小賀野英次

a) 著者:

神と主イエス・キリストの僕であるヤコブ(1:1)

新約聖書には、ヤコブと呼ばれる4人の人物が出てくる。

初代教会のエウセビオスはアレキサンドリアのクレメンスの言葉として次のように言っている。

「ペテロ、ヤコブ、ヨハネは、主にあげ用いられた人々であったが、救い主の昇天後、名誉を争うようなことをせず、義人ヤコブをエルサレム教会の監督として選んだのである」(エウセビウス)

福音書にはイエスの兄弟として出てくる。マタイ 13:55、マルコ 6:3、ヨハネ 7:5

使徒時代にヤコブはエルサレム教会の柱となっている。使徒 12:17、21:18

エルサレム教会の議長として、責任を担っている。使徒 15:13、19、ガラテヤ 1:19、2:9、12 ⇒ヤコブは初代教会においてユダヤ人クリスチャンと異邦人クリスチャンとの間にあって両グループから尊敬を受けていた。

b) あて先 「離散している十二部族の人たち」(1b)

ユダヤ人クリスチャン、さらに、新しいイスラエルである教会に書かれたものである。

c) 執筆の年代 AD45 頃と考えられている。

あるいは、A.D.60 頃と考える学者もいる。ヤコブは、伝承によるとA.D.63 に殉教したとされる。

d) 特徴

この手紙はユダヤ的性格を全面に押し出している。とくに 2:2 で「あなたがたの集まり」はシナゴーグ(sunagwghn; 会堂)と呼ばれているここだけのことばである。パウロは主として信仰を強調している。ヤコブは行為を強調している。マルチン・ルターはヤコブの手紙を軽んじて「藁(わら)の書」といった。ルターはヤコブの教えをパウロの信仰義認の教えと矛盾すると考えたからである。しかし、これはルターの偏見であり、信仰は正しく、善い業を生み出すものである。これはパウロも言っている。

内容

1. 試練の中の忍耐 1 章

(1) 外側からの試練(1:1-12)

(2) 内側からの誘惑(1:13-27)

2. 真理の実践 2 章

(1) 信仰と愛(2:1-13)

(2) 信仰と働き(2:14-26)

3. 舌を制御する力 3 章

(1) 勧告(3:1-2)

(2) 引例(3:3-12)

(3) 適用(3:13-18)

4. 平和をつくり出す者 4 章

(1) 3 つの戦い(4:1-3)

(2) 3 つの敵(4:4-7)

(3) 3 つの訓戒(4:8-17)

5. 困難の中の祈り 5 章

(1) 経済的困難(5:1-9)

(2) 身体的困難(5:10-16)

(3) 国民的困難(5:17-18)

(4) 教會的困難(5:19-20)

山上の説教(マタイ 5, 6, 7 章)と深い関わりがある。例えば…。

ヤコブ	山上の説教	メッセージ
1:2	マタイ 5:9-12	試練のうちにある喜び
1:4	マタイ 5:48	完全をめざせ: 神の試練と忍耐
1:5	マタイ 7:7	天からの神の賜物を求めなさい。
1:17	マタイ 7:11	よい賜物はみな、父なる神から与えられる。
1:19,20	マタイ 5:22	聞くに早く、怒るのに遅くあれ。
1:22,23	マタイ 7:24-27	みことばを聞いて、行うものになりなさい。
1:26,27	マタイ 7:21-23	口先だけの信仰者になってはならない。
2:5	マタイ 5:3	貧しい者は幸いである。
2:10	マタイ 5:19, 20	律法を完全に守りなさい。
2:11	マタイ 5:22, 27	殺してはならない、ばか者と言ってはならない。姦淫しない。
2:13	マタイ 5:7, 6:14, 15	憐れみ深くありなさい。
2:14-26	マタイ 7:21-23	みことばを聞いて行う、生きた信仰に励みなさい。
3:12	マタイ 7:16	神は信仰の実によって、見分ける。
3:18	マタイ 5:9, 10	義と平和を求め、実現しなさい。
4:2,3	マタイ 7:7, 8	願いと求め、熱心に、父なる神に祈りなさい。
4:4	マタイ 6:24	この世＝富と神の2者に仕えることは出来ない。
4:8	マタイ 5:8	心を清めなさい。心の清いものは幸いである。
4:9	マタイ 5:4	悲しむ者は幸いである。
4:11,12	マタイ 7:1-5	兄弟に向かって悪口を言ってはならない。
4:13,14	マタイ 6:34	明日の心配をしてはならない。神に信頼しなさい。
5:1	ルカ 6:24, 25	富に対する警戒。
5:2	マタイ 6:19, 20	天に宝を積みなさい。
5:6	ルカ 6:37	父が憐れみ深いように、あなたがたも憐れみに富みなさい。
5:9	マタイ 5:22	兄弟に悪口や不平を言ってはならない。
5:10	マタイ 5:12	神の預言者たちの苦難を思い起しなさい。
5:12	マタイ 5:33-37	軽しく誓いをたててはならない。実現されるのは神である。

み言葉のしおり ヤコブの手紙

1) 私の兄弟たち。さまざまな試練に会うときは、それをこの上もない喜びと思いなさい。信仰がためされると忍耐が生じるということを、あなたがたは知っているからです。 ヤコブの手紙 1 章 2～3 節

あなたがたの中に知恵の欠けた人がいるなら、その人は、だれにでも惜しげなく、とがめることなくお与えになる神に願いなさい。そうすればきつと与えられます。 ヤコブの手紙 1 章 5 節

父なる神の御前でよく汚れのない宗教は、孤児や、やもめたちが困っているときに世話をし、この世から自分をきよく守ることです。 ヤコブの手紙 1 章 27 節

- 2) 私の兄弟たち。あなたがたは私たちの栄光の主イエス・キリストを信じる信仰を持っているのですから、人をえこひいきしてはいけません。 ヤコブの手紙 2 章 1 節

たましいを離れたからだ、死んだものであるのと同様に、行ないのない信仰は、死んでいるのです。 ヤコブの手紙 2 章 26 節

- 3) 私たちは、舌をもって、主であり父である方をほめたたえ、同じ舌をもって、神にかたどって造られた人をのろいます。賛美とのおろいが同じ口から出て来るのです。私の兄弟たち。このようなことは、あってはなりません。 ヤコブの手紙 3 章 9～10 節

- 4) しかし、神は、さらに豊かな恵みを与えてくださいます。ですから、こう言われています。「神は、高ぶる者を退け、へりくだる者に恵みをお授けになる。」ですから、神に従いなさい。そして、悪魔に立ち向かいなさい。そうすれば、悪魔はあなたがたから逃げ去ります。神に近づきなさい。そうすれば、神はあなたがたに近づいてくださいます。罪ある人たち。手を洗いきよめなさい。二心の人たち。心を清くしなさい。 ヤコブの手紙 4 章 6～8 節

むしろ、あなたがたはこう言うべきです。「主のみこころなら、私たちは生きていて、このことを、または、あのことをしよう。」 ヤコブの手紙 4 章 15 節

こういうわけで、なすべき正しいことを知っていながら行なわないなら、それはその人の罪です。 ヤコブの手紙 4 章 17 節

- 5) こういうわけですから、兄弟たち。主が来られる時まで耐え忍びなさい。見なさい。農夫は、大地の貴重な実りを、秋の雨や春の雨が降るまで、耐え忍んで待っています。あなたがたも耐え忍びなさい。心を強くしなさい。主の来られるのが近いからです。 ヤコブの手紙 5 章 7～8 節

あなたがたのうちに苦しんでいる人がいますか。その人は祈りなさい。喜んでいる人がいますか。その人は賛美しなさい。あなたがたのうちに病気の人がありますか。その人は教会の長老たちを招き、主の御名によって、オリーブ油を塗って祈ってもらいなさい。信仰による祈りは、病む人を回復させます。主はその人を立たせてくださいます。また、もしその人が罪を犯していたなら、その罪は赦されます。ですから、あなたがたは、互いに罪を言い表わし、互いのために祈りなさい。いやされるためです。義人の祈りは働く、大きな力があります。 ヤコブの手紙 5 章 13～16 節

ペテロの第一手紙

著者：

著者はペテロです（1:1）。ペテロは、イエスの十二弟子の一人でした。「使徒の働き」の最初の 12 章は、ペテロとその活動を中心に書かれています。

ペテロは、五旬節（ペンテコステ）の前と後では、たいへん違います。ペンテコステ以前のペテロは、時に恐れて、頼りないところがありました。が、この手紙を書くころには、大胆で、勇気のある、イエス・キリストに対して忠実な人になっていました。聖霊が、信じる者の人生に働かれるすばらしい例です。

宛先：

信仰のために苦しんでいたクリスチャンたち。彼らは、ペテロのことばで励まされました。ペテロ自身も苦難の中を通らされてきていたからです。ペテロの手紙は、教会から教会へと回し読みされたと思われます。

背景：

ペテロは、晩年にこの手紙を書きました。彼と他の信者たちは、キリストに対する信仰のために苦しんでいました。彼らは、偶像を礼拝したり、他の罪深いことを行おうとしなかつ

たので、人々に憎まれました。ローマ皇帝ネロの治世のクリスチャンに対する迫害は、クリスチャンとして生きること、非常に困難にしていました。ペテロは、クリスチャンたちを励まし、イエスがもう一度おいでになるという彼らの希望を思い起させました。ペテロは、「希望の使徒」と呼ばれています。

聖書の中での位置：

ペテロの手紙第1は、公同の手紙に当たります。

メッセージ：

- ❑ 信者は新しいいのちをもっている：クリスチャンは、イエス・キリストの十字架の死によって、新しいいのちを受けている。クリスチャンは、たとえ困難な時でも、神から多くの祝福を受けており、イエスの再臨を待ち望むことができる。
- ❑ 信者はきよくあるべきである：クリスチャンは、あらゆることにおいて、きよい生活を送るべきである。クリスチャンの生活は、いつでも、どこでも、その人がイエス・キリストに属していることを示すものでなければならない。
- ❑ 信者は従う：クリスチャンはこの世界に滞在している客のようなものである。すなわち、神に属して、世の悪には属さない。しかし、クリスチャンは、たとえ苦難を受けることがあっても、権威をもつ者たちに従うべきである。これは、イエスの模範に従う生き方の一つである。
- ❑ クリスチャンではない人の世界に生きる信者：ペテロは、ローマ政府がクリスチャンを罰しようとしていることを知っていた。クリスチャンとして生きることがますます困難な時代になるにつれて、多くの信者は、自分がなぜクリスチャンであり、そのように生きているのかを説明しなければならない。ペテロは、手紙の読者に、イエスに対する信仰と、お互いの愛を強くもつように語った。ペテロは、信仰ゆえの苦難は、人がより成長して強くなるための助けになることを知っていた。

心に留めるべきみことば：

1:3、6-9、2:1、2、9、17、24、3:15、4:19

手紙に関係のある場所

ペテロは、現在はトルコの一部になっている地域に住むユダヤ人クリスチャンに向けて、この手紙を書きました。ローマの町から手紙を書いたと思われます。

ペテロの手紙第1におけるキリスト

ペテロは、イエスは私たちの模範であると語っています。助けを求めてイエス・キリストを見上げれば、たとえ苦しみの中でも、あなたはイエスにあって喜ぶことができます。クリスチャンの希望は、いつの日にか、イエスがもう一度おいでになるということです。イエスは約束されたとおりに、必ず再臨されます。

ペテロの第二手紙

著者：

著者はペテロです(1:1)。

宛先：

信者たち。この手紙は、教会から教会へと回し読みされたことでしょう。

背景：

ペテロは、この手紙を、死の直前に書きました。おそらく、ローマの町にいたと思われます。第1の手紙で、ペテロは、教会の外部からの迫害への対処の仕方を、読者に教えました。第2の手紙では、イエスとその再臨について間違ったことを教える教会内部の人々について、信者たちに警告しました。

聖書の中での位置：

ペテロの手紙第2は、公同の手紙に当たります。

メッセージ：

- 神の民として成長せよ：クリスチャンは、イエス・キリストのために生きるのに必要なすべてのものを受けている。神の力と親切のゆえに、クリスチャンは、愛と親切に満ちた行いによって、真の信仰を示すべきである。
- 偽りの教師たちに注意せよ：ペテロは、教会内の偽りの教師たちに注意するように、信者たちに警告した。彼らは、新しいクリスチャンたちを、真理から離れるように導くことがある。ペテロは、イエスがもう一度おいでになるときには、神がこれらの教師たちをさばき、滅ぼされる、と説いた。
- イエスの再臨を目を覚して待て：ペテロは、イエスが再臨されることを読者に思い起させる。クリスチャンは、イエスがきょうお戻りになるとあって、生活すべきである。彼らは、他の人々への模範であるべきである。

心に留めるべきみことば：

1:3-7、3:9、18

手紙に関係のある場所

ペテロは、この手紙を死の直前に書きました。彼は、おそらく、ローマの町にいました。

ペテロの手紙第2におけるキリスト

ペテロは、イエス・キリストの再臨を待ち望んでいました。その時、すべての人は、神としての権威と栄光に満ちたイエスのお姿を仰ぎ見るでしょう。イエス・キリストは、やがておいでになる主です。

ペテロの第1の手紙のアウトライン

- 1. あいさつ(1:1-2)
- 2. 神の民-その特質(1:3-2:10)
 - (1) その救いと希望(1:3-12)
 - (2) 聖さへの召し(1:13-25)
 - (3) 神の民としての選び(2:1-10)
- 3. 神の民-その生活(2:11-4:11)
 - (1) 立派な生き方への勧め(2:11-12)
 - (2) この世の権威に対して、(2:13-17)

- (3) 主人に対して(2:18-25)
- (4) 夫婦相互に対して(3:1-7)
- (5) 正しい生活と苦しみ(3:8-22)
- (6) 終末に臨んで(4:1-11)
- 4. 神の民 - その苦難(4:12-5:11)
 - (1) キリスト者としての苦しみ(4:12-19)
 - (2) 群れとしての備え(5:1-11)
- 5. 結び(5:12-14)

第2の手紙のアウトライン

- 1. あいさつ(1:1-2)
- 2. 主イエスを知る知識(1:3-11)
- 3. 使徒的福音とその真理の確かさ(1:12-21)
- 4. 偽教師たちの出現(2:1-10a)

- 5. 偽教師たちの行状(2:10b-22)
- 6. キリストの来臨の約束(3:1-13)
- 7. 最後の勧告(3:14-18)

第一ペテロの手紙の学びの質問

ペテロの第一手紙 1:1～25 試練と希望

1. ペテロはキリスト者をどのように描写しますか。(1、2)
2. キリスト者の賛美の最も中心的な理由は何でしょうか。(3、4)
3. 生まれ変わりはどのように起こりましたか。(3、23)
4. 私達の永遠の救いの確かさは何によりますか。(5、9)
5. 喜びと試練はどんな関係にありますか。(6、8、7)
6. イエス様の再臨は私達にとってどんな意味があるでしょうか。(7、13)
7. 旧約聖書の役割は何でしょうか。(10～12)
8. キリスト者は何故清い生き方を求めるでしょうか。(14～16)
9. 神様の前の正しい姿勢は何でしょうか。(17)
10. あなたの価値は何に基づいていますか。(18～19)
11. 信仰と希望はどんな関係にありますか。(20、21)
12. 愛の源は何でしょうか。(22、23)
13. 神様の御言葉はどんな性質を持っていますか。(23～25)

ペテロの第一手紙 2:1～25 主の民

1. 御言葉はどんな力がありますか。またそれをどんな姿勢で求めるべきでしょうか。(1～3)
2. 主のもとに行く道は何でしょうか。(4)
3. イエス様は人々をどう分けますか。(4、7、8)
4. キリストの教会ついてペテロは5つの比喻を使います。それを言って下さい。(5、9)
5. 教会の使命は何でしょうか。(5、9)
6. 救いはどのような変化でしょうか。(10、25)
7. キリスト者の戦いはどんなところに行われますか。(1、11)
8. 正しい生き方が及ぼす影響は何でしょうか。(12、15)
9. 権力者に対してどんな姿勢で臨むべきでしょうか。(13、14、17)
10. 本当の自由はどんなものでしょうか。(16)
11. 労使関係において不正な扱いを受けるとどう対応すべきでしょうか。(18～20)
12. キリスト者の召しはどんなものでしょうか。(21)
13. イエス様の十字架上の苦しみは私達にどんな恵みをもたらせますか。(22～24)

ペテロの第一手紙 3:1～22 祝福を受け継ぐ歩み

1. 個人伝道のカギは何でしょうか。(1、2、15)
2. 女性の本当の美しさは何処にありますか。(3、4)
3. 夫に従う事の恵みは何でしょうか。(1、5、6)
4. 夫がその妻に対してどんな姿勢でいるべきでしょうか。又その理由は何でしょうか。(7)
5. 私達はどのような生き方への召しを受けたでしょうか。
(8、9、10、11)
6. 祈りが聞かれる条件は何でしょうか。(12)
7. 苦しみと不正を受けるときにはキリスト者にとって大切な事は何でしょうか。(13、14、16、17、18)
8. キリスト様の苦しみはどんな目的がありましたか。(18)
9. 捕らわれた霊のところへイエス様はいつ行かれましたか、又何をなさいましたか。(19、20)
10. 洗礼はどんな意味を持つでしょうか。(20～21)
11. イエス様の主権はどんなものでしょうか。(22) それはあなたにとってどんな意味があるでしょうか。

ペテロの第一手紙 4:1～19 苦しみと喜び

1. クリスマン生活の中に苦しみはどんなよい役割を果しますか。又それは何故でしょうか。(1、12、13、17、19)
2. 私達は何を求めるべきでしょうか。又何を捨てるべきでしょうか。(2、3)
3. クリスマンが寄留者である事はどのような形で明らかになりますか。(4)
4. 裁きの日に何が起こりますか。(5、17、18)
5. 福音と裁きの関係はどうなっていますか。(6)
6. イエス様の再臨が近づくと私達は何をすべきでしょうか。(7、ペテロ第二の手紙 3:5～14 参照に)
7. 愛の最も大切な特徴は何でしょうか。(8)

8. もてなしはどんな姿勢で行うべきでしょうか。(9、マルタとマリヤの話しを参照に)
9. 賜物は何の為でしょうか。賜物をどう使うべきでしょうか。(10、11)
10. 迫害の中にどうして主を賛美出来ますか。(14～16)

ペテロの第一手紙 5:1～14 謙遜と神様の守り

1. ペテロは自分の事をどう考えていたでしょうか。(1)あなたは自分の事をどう思っていますか。
2. 牧会者はその務めを果すべきでしょうか。(2、3、ヨハネ 21:15～17 参照に)
3. イエス様の再臨は私達にどんな恵みをもたらせますか。(4)
4. 謙遜は一体何でしょうか。またそれはどうして必要でしょうか。(5)
5. 謙遜はどう得られますか。又その結果は何でしょうか。(6)
6. 心配から解放される道は何でしょうか。(7)
7. 悪魔はどのように振舞いますか。(8)
8. 悪魔に打ち勝つ道は何でしょうか。(8、9、10)
9. 11 節の祈りはあなたにとってどんな意味があるでしょうか。
10. ペテロの第一手紙の目的は何ですか。(12、14)
11. ペテロはシルワノとマルコをどう見ていましたか。(12、13)あなたは他のクリスチャンをどう見えていますか。
12. 初代教会のクリスチャンの互いの挨拶は何でしたか。(14)

第二ペテロの手紙の学びの質問

ペテロの第二手紙 1:1～21 み言葉の約束の力

1. 恵みと平安はどのように増えますか。(1、2)
2. クリスチャン生活はどうして可能でしょうか。(3)
3. クリスチャン生活の中にみ言葉の役割はどんなもののでしょうか。a) (4) b) (12) c) (19)
4. 聖書はどのように生まれましたか。(20、21)
5. 聖書解釈はどのように行われるべきでしょうか。(20)
6. クリスチャンの成長(きよめ)はどのようなものでしょうか。(5～7)
7. 成長の結果は何でしょうか。(8)
8. 成長の妨げは何でしょうか。(9)
9. 「召されたことと選ばれたこととを確かなものにする」事はどういう意味でしょうか、またその結果は何でしょうか。(10～11、12)
10. ペテロは自分の死をどう描写しますか。(13、14)
11. 信仰の遺産はどんなものなのでしょうか。(15)
12. イエス様の変貌の出来事はどんな意味を持っていますか。(16～19、マタイ 17:1～8 を参照に)

ペテロの第二手紙 2:1～22 罪の恐ろしさと神様の聖なる裁き

1. 間違った教えをする教師たちはどこからきますか。(1)
2. 彼らの教えと生き方の特徴はどんなものでしょうか。(1～3、10、13、14～15)
3. 神様の罪に対する態度はどのように歴史の中に現れて来ましたか。(4～6) それは私たちとどんな関係がありますか。(6)
4. 罪の世の中にクリスチャンはやっていけるのでしょうか。(7～9)
5. 暗闇の支配者たちに私たちはどんな態度をとるべきでしょうか。(10～12)

6. 偽預言者の裁きはどんなものでしょうか。(17)
7. 本当の自由はどんなものですか。(19)
8. 信仰から間違った教えに変わる事はどれほど恐ろしいものですか。(20～22)

ペテロの第二手紙 3:1～18 主の再臨

1. ペテロの二つの手紙とパウロの諸手紙の目的は何ですか。(1、2、15～16、17)
2. これらの手紙に対して私たちはどんな態度をとるべきですか。(15～16)
3. 聖書を間違って扱う事はどれほど危ないものですか。(16)
4. 終わりの時代の特徴は何でしょうか。(3、4)
5. 世界はどのように生まれましたか。またどのように支えられていますか。(5、ヘブル 1:1～3 を参照に)
6. 宇宙と地球の運命は何ですか。(7、10、12)
7. 神様にとって時間はどうなものでしょうか。(8、詩篇 90:4 を参照に)
8. イエス様の再臨がまだ起こっていない理由は何ですか。(9)
9. 主の再臨は何時起こりますか。(10、マタイ 24:29～36、42～44 を参照に)
10. 主の再臨を待ち望むから今の行き方にどんな結論を出すべきですか。(11)
11. 主の再臨をどのように早める事が出来ますか。(12、14)
12. 新しい天と新しい地はどんな性質のものでしょうか。(13)
14. クリスチャンの成長の鍵は何ですか。(18)

み言葉のしおり

第一ペテロの手紙

- 1) 父なる神の予知に従い、御霊の聖めによって、イエス・キリストに従うように、またその血の注ぎかけを受けるように選ばれた人々へ。どうか、恵みと平安が、あなたがたの上にますます豊かにされますように。私たちの主イエス・キリストの父なる神がほめたたえられますように。神は、ご自分の大きなあわれみのゆえに、イエス・キリストが死者の中からよみがえられたことによって、私たちを新しく生まれさせて、生ける望みを持つようにしてくださいました。

第一ペテロの手紙 1 章 2～3 節

ご承知のように、あなたがたが先祖から伝わったむなしい生き方から贖い出されたのは、銀や金のような朽ちる物にはならず、傷もなく汚れもない小羊のようなキリストの、尊い血によったのです。 第一ペテロの手紙 1 章 18～19 節

あなたがたが新しく生まれたのは、朽ちる種からではなく、朽ちない種からであり、生ける、いつまでも変わることはない、神のことばによるのです。「人はみな草のようで、その栄えは、みな草の花のようだ。草はしおれ、花は散る。しかし、主のことばは、とこしえに変わることがない。」とあるからです。あなたがたに宣べ伝えられた福音のことばがこれです。 第一ペテロの手紙 1 章 23～25 節

- 2) しかし、あなたがたは、選ばれた種族、王である祭司、聖なる国民、神の所有とされた民です。それは、あなたがたを、やみの中から、ご自分の驚くべき光の中に招いてくださった方のすばらしいみわざを、あなたがたが宣べ伝えるためなのです。 第一ペテロの手紙 2 章 9 節

そして自分から十字架の上で、私たちの罪をその身に負われました。それは、私たちが罪を離れ、義のために生きるためです。キリストの打ち傷のゆえに、あなたがたは、いやされたのです。あなたがたは、羊のようにさまよっていましたが、今は、自分のたましいの牧者であり監督者である方のもとに帰ったのです。 第一ペテロの手紙 2 章 24～25 節

- 3) そのことは、今あなたがたを救うバプテスマをあらかじめ示した型なのです。バプテスマは肉体の汚れを取り除くものではなく、正しい良心の神への誓いであり、イエス・キリストの復活によるものです。キリストは天に上り、御使いたち、および、もろもろの権威と権力を従えて、神の右の座におられます。 第一ペテロの手紙 3 章 21～22 節

- 4) それぞれが賜物を受けているのですから、神のさまざまな恵みの良い管理者として、その賜物を用いて、互いに仕え合いなさい。 第一ペテロの手紙 4 章 10 節

むしろ、キリストの苦しみにあずかれるのですから、喜んでいなさい。それは、キリストの栄光が現われるときにも、喜びおどる者となるためです。もしキリストの名のために非難を受けるなら、あなたがたは幸いです。なぜなら、栄光の御霊、すなわち神の御霊が、あなたがたの上にとどまってくださいるからです。 第一ペテロの手紙 4 章 13～14 節

- 5) あらゆる恵みに満ちた神、すなわち、あなたがたをキリストにあってその永遠の栄光の中に招き入れてくださった神ご自身が、あなたがたをしばらくの苦しみのあとで完全にし、堅く立たせ、強くし、不動の者としてくださいます。 第一ペテロの手紙 5 章 10 節

み言葉のしおり

第二ペテロの手紙

- 1) というのは、私たちをご自身の栄光と徳によってお召しになった方を私たちが知ったことによって、主イエスの、神としての御力は、いのちと敬虔に関するすべてのことを私たちに与えるからです。その栄光と徳によって、尊い、すばらしい約束が私たちに与えられました。それは、あなたがたが、その約束のゆえに、世にある欲のもたらす滅びを免れ、神のご性質にあずかる者となるためです。 第二ペテロの手紙 1 章 3～4 節

それには何よりも次のことを知っていなければいけません。すなわち、聖書の預言はみな、人の私的解釈を施してはならない、ということです。なぜなら、預言は決して人間の意志によってもたらされたのではなく、聖霊に動かされた人たちが、神からのことばを語ったのだからです。 第二ペテロの手紙 1 章 20～21 節

2) これらのことでわかるように、主は、敬虔な者たちを誘惑から救い出し、不義な者どもを、さばきの日まで、懲罰のもとに置くことを心得ておられるのです。 第二ペテロの手紙 2 章 9 節

3) しかし、愛する人たち。あなたがたは、この一事を見落としてはいけません。すなわち、主の御前では、一日は千年のようであり、千年は一日のようです。主は、ある人たちがおそいと思っているように、その約束のことを遅らせておられるわけではありません。かえって、あなたがたに対して忍耐深くあられるのであって、ひとりでも滅びることを望まず、すべての人が悔い改めに進むことを望んでおられるのです。 第二ペテロの手紙 3 章 8～9 節

しかし、主の日は、盗人のようにやって来ます。その日には、天は大きな響きをたてて消えうせ、天の万象は焼けてくずれ去り、地と地のいろいろなわざは焼き尽くされます。このように、これらのものはみな、くずれ落ちるものだとすれば、あなたがたは、どれほど聖い生き方をする敬虔な人でなければならないことでしょう。 第二ペテロの手紙 3 章 10～11 節

しかし、私たちは、神の約束に従って、正義の住む新しい天と新しい地を待ち望んでいます。 第二ペテロの手紙 3 章 13 節

ヨハネの第一手紙

著者：

この手紙の著者は、イエス・キリストの使徒であったヨハネです。ヨハネは、ほかにも、ヨハネの福音書と 3 つの書物を書きました。

宛先：

若い者も年配の者も含めたクリスチャンたち。ヨハネは、この手紙を書いたころには、老人になっていました。彼の手紙の読者には大人もいましたが、彼は、彼らを「子どもたち」と呼んでいます。これは、読者には、ヨハネほど長くクリスチャンとして生きている者はなかったからです。この手紙は、小アジアにある教会から教会へと回して読まれたと思われます。

背景：

イエスがヨハネを弟子として召されたとき、彼は漁師でした。ヨハネはまた、イエスのいところでもあったと思われます。というのは、彼の母のサロメはイエスの母マリヤの姉妹だと考えられるからです。ペテロとヤコブとヨハネは、イエスの特別の友でした。彼らはイエスをよく知っていました。ヨハネは、次の 2 点で信者を助けようとしてこの手紙を書きました。(1) 彼らがイエスにあって永遠のいのちをもっていることを知る。

(2) キリストの命令を守って生きる。

鍵の聖句： 5:13

メッセージ：

- ❑ 神との交わり：神はきよいお方なので、罪人と交わることはおできにならない。クリスチャンは、罪を赦され、きよめられたので、神との交わりをもつことができる。神との交わりはまた、クリスチャンが神の子、すなわち、神の家族の一員であることを意味する。
- ❑ 他者との交わり：神が私たちを愛してくださるのだから、私たちは、互いに愛を示し合うべきである。互いに愛し合う 1 つの方法は、互いのために祈ることである。

心に留めるべきみことば:

1:3、9、3:1、2、16-18、23、24、4:7-15、18-21、5:3、11-15

手紙に関係のある場所

ヨハネは、おそらく、エペソの町から小アジア全体に散っていたクリスチャンに宛ててこの手紙を書きました。

ヨハネの第1手紙におけるキリスト

イエス・キリストは、神の御子です。イエスは、また、人の子でもあります。人であると同時に神であるお方なのです。ヨハネがこの真理を書いたのは、偽りの教師たちが、神であると同時に人であることはあり得ない、と教えていたからです。

ヨハネは次のように書いています。「しかし、神の御子が来て、真実な方を知る理解力を私たちに与えてくださったことを知っています。それで私たちは、真実な方のうちに、すなわち御子イエス・キリストのうちにいるのです。この方こそ、まことの神、永遠のいのちです」(5:20)。

ヨハネの第二手紙

著者:

この手紙の著者は、イエスの使徒であったヨハネです。ヨハネは、ほかにも、ヨハネの福音書と3つの書物を書きました。

宛先:

「選ばれた夫人」。この表現は、個人をさすとも、あるいは教会（信者の群）をさすとも理解できます。

背景:

ヨハネは、イエスとともに歩み、直接イエスから聞いた教師たちが、ほんのわずかしかなかった時代に、この手紙を書きました。これらの教師たちは、多くの教会に心を配らなければなりません。時には、新しい教会が、教師がいないままになることがあったのでしょう。また時には、偽りの教師が教会に来て、真理を教えるふりをしました。ヨハネは、人々がその書かれたことばによって真理を保持できるように、この手紙を書き送りました。

信者たちは、旅をしている説教者たちを家に迎え入れては、食物や宿を提供しました。ヨハネは、イエスについての真理を教える人々にのみそうするように、信者たちに語りました。

聖書の中での位置:

ヨハネの手紙第2は、公同の手紙に当たります。

メッセージ:

- ❑ 神の命令に従いなさい: ヨハネは、読者が神の命令に従っていることを聞いて、どんなに喜んでいるかを彼らに伝えた。神を愛することには、他の人々を愛することが含まれている、とヨハネは語った。
- ❑ 偽りの教師たちに耳を傾けてはならない: ヨハネは、イエスについての真理を教えない教師たちに気をつけるように、と語った。信者たちは、偽りの教師たちに食物や宿を提供して、彼らを力づけるべきではない。

ヨハネの第三手紙

著者：

この手紙の著者は、イエスの使徒であったヨハネです。ヨハネは、ほかにも、ヨハネの福音書と3つの書物を書きました。吻

宛先：

ヨハネの親友ガイオ。

背景：

ヨハネはいよいよ年老いて、彼の教えを必要としている教会を訪ねることができなくなりました。そこで、真理を教えて教会から教会へと旅をする助手たちを選びました。ヨハネの友人ガイオは、彼らを家に泊め、必要な物を与えることによって、これらの旅人たちを助けました。

聖書の中での位置：

ヨハネの手紙第3は、公同の手紙に当たります。

メッセージ：

- ヨハネは、ガイオがイエスに関する真理に忠実であることを聞いて喜んでいて、と彼に語った。また、ガイオがイエスの命令に引き続き従っていることも聞いた。ヨハネは、ガイオが自分が送った教師たちに親切であることを感謝し、その教師たちを助けてくれるように、もう一度ガイオに頼んだ。
- ヨハネは、善を行う者だけを見習って、教会のかしらになりたがっているデオテレペスのようなわがままな人々に見習わないように、とガイオに警告した。デオテレペスは、ヨハネの教えを聞こうとしなかった。

手紙が書かれた時

ヨハネの手紙第2と第3は、第1の手紙とほぼ同じ時期に書かれました。

手紙に関係のある場所

ヨハネの手紙第2と第3は、おそらく、エペソから書き送られました。

ヨハネの第1の手紙のアウトライン

1.序文—命の言葉(1:1-4)

- (1) 命の言葉について(1-2)
- (2) 交わりを持つため(3-4)

2.交わりの生活(1:5-2:28)

- (1) 光の中を歩む(1:5-2:2)
 - a. 神は光だから(1:5-7)
 - b. 罪を言い表すなら(1:8-10)
 - c. 弁護者イエスがいます(2:1-2)
- (2) 神を知っている(2:3-6)
 - a. 神の命令を守る(3-5)
 - b. キリストのように歩む(6)
- (3) 兄弟を愛する(2:7-11)
 - a. 新しい命令(7-8)
 - b. 光の中にいる者(9-11).
- (4) キリストにとどまる(2:12-28)

- a. キリスト者の立場の確認(12-14)
- b. 世を愛することへの警戒(15-17)
- c. 反キリストへの警戒(18-28)
 - ① 今は終わりの時(18-21)
 - ② 偽り者(22-26)
 - ③ キリストのうちにとどまれ(27-28)

3.神の子供の生活(2:29-4:6)

- (1) 神の子供である確証(2:29-3:12)
 - a. すでに神の子供(2:29-3:3)
 - b. 罪を犯さない(3:4-9)
 - c. 悪魔の子供との区別(3:10-12)
- (2) 愛の実践(3:13-24)
 - a. 死から命への移行(13-15)
 - b. 愛の事実(16-18)
 - c. 真理に属している(19-24)
- (3) キリストを告白する(4:1-6)
 - a. キリストを告白する霊(1-3)

b.偽りの霊の識別(4-6)

4.愛の生活(4:7-21)

- (1)愛の表れ(7-16)
 - a.愛は神から(7-10)
 - b.愛が全うされる(11-12)
 - c.神との一体(13-16)
- [2]愛の完全(17-21)
 - a.恐れなき愛(17-18)
 - b.兄弟を愛する(19-21)

5.信仰の生活(5:1-17)

- (1)信仰による勝利(1-5)
 - a.愛の確証(1-3)
 - b.世に勝つ信仰(4-5)
- (2)神のあかし(6-12)
 - a. 3つのあかし(6-8)
 - b.より勝るあかし(9-12)
- (3)信仰の確信(13-17)
 - a.永遠の命の確信(13)
 - b.祈りの確信(14-15)
 - c.とりなしの祈り(16-17)

6.結び—真理の確認(5:18-21)

- (1)罪の中に生きない(18)
- (2)神からの者(19)
- (3)真実な方を知る(20)
- (4)偶像への警戒(21)

第2の手紙のアウトライン

1.初めのあいさつ(1-3)

2.使信(4-11)

- (1)勧告(4-6)
 - a.真理のうちを歩む(4)
 - b.愛のうちを歩む(5-6)
- (2)警告(7-11)
 - a.反キリストへの警戒(7)
 - b.注意すべきこと(8-9)
 - c.偽りの教師への態度(10-11)

3.結びのあいさつ(12-13)

第3の手紙のアウトライン

1.初めのあいさつ(1-4)

- (1)呼びかけ(1)
- (2)祈り(2)
- (3)感謝(3-4)

2.使信(5-12)

- (1)ガイオへの賛辞(5-8)
- (2)デオテレペスへの非難(9-10)
- (3)デメテリオの推賞(11-12)

3.結びのあいさつ(13-15)

- (1)訪問の希望(13-14)
- (2)よろしく(15)

本物か異端か — ヨハネの第一手紙の基準

顔を変える異端的な教えの世界

ヨハネの手紙は神様が光であり、愛である事を強調しながらキリスト様にある罪の赦し、神様の子供である特権、又キリスト者の交わりの本質を伝える素晴らしいもので、何という多くの方々がそのメッセージを通して主の愛に預かったでしょう。ヨハネの福音書の応用のようなものです。しかし多くの他の新約聖書の手紙と同様に、その背後には異端問題がありました。パウロの手紙よりも遅く(80年代の終わりか、90年代の初め頃)書かれたと言われていますから、パウロが戦った異端的な教えと状況がエペソで変わっていたと言えます。ガラテヤ人への手紙にパウロは律法と福音を混同する、ユダヤ教的な偽教師と戦ったが、晩年のヨハネはエペソでギリシャ哲学と東洋的で神秘主義的なミステリー宗教とをキリスト信仰に混じって作ろうとしたグノーシス主義の教師達と戦わなければなりませんでした。

もしガラテヤの教師たちは救われた人々から救いの確信を奪おうとしたら、グノーシス主義的な教師たちは救い主イエス・キリスト様を否定して、罪の本質を認めないで、人間の宗教体験に神秘的な救いを求めている異端的な宗教で、後で200年代から色々な形で一時的に教会を乗っ取る事が出来そうな勢いで広がったぐらいでした。その当時グノーシス主義と言う名前が使われていませんでした。

グノーシス主義の主な教えはまだヨハネの時代に最終的な形になっていませんでしたが、その流れの影響はもう明確であって、教会の中からもグノーシス主義的な教えを飲み込んで、新しい、以前より当時の社会の一般の人々に受け入れやすい新キリスト教を主張する教師たちが現れました。彼らの教えの主なポイントは次の通りと考えられます。

コスモスの光である神は霊であるから、物質的な創造は神より低い存在(デミウルギ)が作って、創造は失敗でした。ですから、罪は人間から始まった訳ではなく、神が失敗したから、人間は体と言う刑務所の中に生きて行かなければ

なりません。体は低いもので、悪い物で、人間の霊は永遠のよいものですから、邪魔な体からただ霊だけの世界へ開放されるのは救いです。その救いにはイエス・キリスト様の十字架の贖いのような手段は要らなくて、悟りのような深い知識、知恵(ギリシャ語でグノシス)が必要です。しかし、その神秘的な体験を得るには霊的な案内者が助けになります。イエス・キリスト様は人間、すなわち肉になった訳ではなく、天使のような存在と主張する人もおれば、単なる宗教的に深い体験を持つ人間に過ぎないと主張する教師もいました。このような霊の案内者の他に悟りのような知恵を得るには肉体的な必要を出来るだけ、殺さなければならなかったです。断食や性関係を避けるのはその手段になっていました。(テモテの手紙の中にパウロも同じような主張を非難して女性が子供を産んで救われなければならないと教えました。すなわち、性的な営みや出産は救いの妨げではありません。1テモ 2:15)

キリスト教に入ったグノーシス主義の背後に、キリスト教を当時の文化と合わせようとして、一般の人々に受け入れやすくする動機があったかもしれません。現代にもそのような動きが教会の中に見られます。それは西洋でいわゆるリベラル神学として現れて、日本ではキリスト教と仏教の類似点を探ろうとする傾向の中に見られます。正しい意味で人々に福音を分かりやすく伝える為の努力は当然の営みですが、キリスト信仰の躓き、すなわち罪の悔い改めと十字架のメッセージはいつも生れ付きの人間に反発を生むに決まっています。イエス・キリスト様はそうだと明言なさったでしょう。ですから、本物のキリスト信仰を文化に合わせる作業はある線を越えたら信仰を捨てる事になります。

リベラル主義の神学はある意味では新グノーシス主義と定義してもよいと思います。それは聖書を全く他の宗教的な本と変わらないものとして見て、一般科学で使われている方法論と認識論で聖書を研究します。一般科学の認識論はいわゆる自然主義です。それによると、神様のような存在はあっても、聖書研究に当てはまるべきではありません。言い換えれば、聖書は宗教家達の宗教体験の記録に過ぎません。奇跡や預言などはありえないし、すべては偶然の産物として生まれて(進化論)、すべては自然法則の因果関係に行われていると主張します。現代の科学信仰の人々にキリスト教を受け入れやすくするために奇跡や預言や復活などは神話として捨ててしまいます。

しかし、自然主義では人生の意味や価値や倫理は全く分からなくなり、最終的に何もかも分からなくなるから、現実(古いグノーシス主義の体)から科学的な方法で扱う事の出来ない信仰の世界に飛び込まなければなりません。歴史の中のイエス・キリスト様の復活はなかったし、あったとしても関係がありません。大切な事は事実ではなく復活の信仰です。彼らの主張でイエス・キリスト様の歴史的と主張されている復活は実際初代教会のクリスチャン達の信仰が大分後で作った物語に過ぎません。大切な事は人間の心の信仰で、それで人生の意味と価値が作れるからです。歴史的な事実がないから、どんな信仰でもよいのです。信仰さえあれば、よいのです。ですから、リベラル主義は相対的で、寛容な傾向があります。聖書の言葉を素晴らしい宗教体験の記録ですから、私たちも同じような体験が出来るでしょうし、人間には本質的な罪もないと言う結果になります。人生の意味は社会的な解放の活動や貧困層の人々の助けなどに得られます。リベラル主義はそういう意味で現代の人々の考え方に沿って受け入れやすいのですが、実際に人々を生かす力がありません。福音を失った所には神様の力が現れないからです。

新グノーシス主義のリベラル神学と正反対に見えるもう一つの異端的な教えはいわゆる成功の神学です。もし、リベラル神学がドイツを中心として1800年代から広がった動きなら、成功の神学は1900年代のアメリカから広がりました。今は特に極端なカリスマ運動を通して世界的な現象になっています。もし道路に二つの脇溝があったら、リベラル神学は左側で、成功の神学は右側です。それは聖書を真面目に信じているようで、聖書の約束を強く強調しています。しかし、その本質はリベラル神学に似ている所にあります。信仰さえあれば、どんな事も出来ると言う非常に聖書的な主張は次の論理で進みます:「あなたは神様の子供で、凄い権威を持っています。その権威をいかして、山に命令しなさい。そうすると、山が海に動きますよ。もし、そうならなかったら、あなたの信仰が足りない。」このような聖書的に見える主張の問題はどこにあるのかと言うと、信仰の対象は神様ではなく、自分自身の信仰そのものです。ですから、リベラル神学と同様に信仰は人間の心の営みであって、真の生きておられる神様との関係による信頼ではありません。リベラル主義の人々と成功の神学の人々もそれなりに宗教体験をしますが、歴史の中に十字架に付けられて、三日目に蘇られたイエス・キリスト様を最終的な意味で必要ではありません。

エホバの証人の教えの背後にもグノーシス主義的な要素があります。かれらもイエス・キリスト様を人間になられた神様として認めないで、み使いの一人として扱っています。ですから、十字架の贖いも彼らに意味のないものです。結局自分の努力で自分を救わなければなりません。

ヨハネの第一手紙の本物と偽者を分ける基準

イエス・キリスト様が言われた通りに偽預言者たちは羊飼のような形で近づきますから、彼らを見分けるのは簡単でない場合があります。

ある偽札をチェックする人に「本物と偽者を見分ける方法は何ですか」と聞かれたら、「本物を毎朝一時間学びます」と答えたそうです。そうすると偽者が必ず何処かで違う事に気がつきます。真実の一つですが嘘には千以上の違う形

があります。異端との戦いの鍵は聖書の正しい理解を身に付ける事です。ヨハネの第一手紙の本物と偽者を分ける基準もどちらかと言うと本物の特徴を強調する形をとっています。

ヨハネはいくつかの量りを使ってすべての教師の教えと生き方を吟味しなければならないと教えています。吟味する使命は教会の指導者や神学的な専門家の仕事だけではなく、すべてのクリスチャンが目覚まして行わなければ義務です。

愛する者たち。霊だからといって、みな信じてはいけません。それらの霊が神からのものかどうかを、ためしなさい。なぜなら、にせ預言者がたくさん世に出て来たからです。(4:1)

ヨハネが教えたテストを誤解してはならない面があります。これらのテストを自分の力で律法的にクリアする事で人間はクリスチャンになる訳ではなく、神様の聖霊によって十字架の恵みのゆえに生まれ変わった人にいくつかの特徴が現れます。その現れ方の大きさや強さはクリスチャン成長によって左右されますが、必ずすべての本物のクリスチャンに何らかの形で現れ始めます。これらのしるしは神様のみ業によるからです。これらのしるしを自分の力で得ようとしても、生まれ変わりが起こるわけではありません。それらは生れ変わりの理由ではなく、結果です。しかし、人とその教えを吟味するには大切な結果です。

① 罪に対するテスト

クリスチャンになる道は罪を認めて、それを主に向かって告白して、悔い改めて、又十字架の恵みによって赦して頂く事です。その結果として、以前罪を隠したり、弁明したり、又罪を愛した姿勢が変わります。罪を憎む、罪を繰り返して悔い改める姿勢が生まれます。ですから、罪に対する態度は人がクリスチャンであるかどうかの一つのはかりになります。

生まれ変わっていない人間として偽教師たちの共通の特徴は罪を軽視する傾向です。(社会の中に悪や諸問題を認めながらも、自分自身の罪を軽視する場合があります。)

極端な場合に罪の存在そのものを否定します。(日本の神道的な文化は人間の原罪を認めないで、罪をほこりのようなもので見て、それを払い落とす事をそれほど大きな問題とは感じない土壌ですから、このテストは特にこの国には大切です。)

もし私たちが、神と交わりがあると言っているが、しかもやみの中を歩んでいるなら、私たちは偽りを言っているのであって、真理を行なってはいません。(1:6)

もし、罪はないと言うなら、私たちは自分を欺いており、真理は私たちのうちにありません。(1:8)

もし、罪を犯してはいないと言うなら、私たちは神を偽り者とするのです。神のみことばは私たちのうちにありません。(1:10)

あるいは現代的に罪が自然なもので、かえって自分の欲望を満たすのは幸せの道だ言う主張も古いのです。

6 だれでもキリストのうちにとどまる者は、罪のうちを歩みません。罪のうちを歩む者はだれも、キリストを見てもないし、知ってもいないのです。

7 子どもたちよ。だれにも惑わされてはいけません。義を行なう者は、キリストが正しくあられるのと同じように正しいのです。

8 罪のうちを歩む者は、悪魔から出た者です。悪魔は初めから罪を犯しているからです。神の子が現われたのは、悪魔のしわざを打ちこわすためです。

9 だれでも神から生まれた者は、罪のうちを歩みません。なぜなら、神の種がその人のうちにとどまっているからです。その人は神から生まれたので、罪のうちを歩むことができないのです。

10 そのことによって、神の子どもと悪魔の子どもの区別がはっきりします。(3:6～10)

もう一つの形は神の恵みはあまりにも大きなものですから、罪と戦う必要がないと言う形をもとります。

というのは、ある人々が、ひそかに忍び込んで来たからです。彼らは、このようなさばきに会うと昔から前もってしるされている人々で、不敬虔な者であり、私たちの神の恵みを放縱に変えて、私たちの唯一の支配者であり主であるイエス・キリストを否定する人たちです。(ユダ 1:4)

ですから、罪の定義や本質や現れ方をはっきり教えなければなりません。罪は神様の光に対して、暗闇に走る生き方です。

② 教理的なテスト

キリスト信仰は真理において排他的で、愛において寛容ですが、現代の一般的で、相対的な考え方は真理において寛容で、しかし愛において排他的で、差別的で、神様は光であり、イエス・キリスト様は真理であるから、聖書的な教えにおいて妥協すると、必ずクリスチャンの生き方や信仰生活もその内に腐敗し、教会が命を失って、宣教は人を救う事の出来る福音の力を失って、死の焼け野原のような状態になります。

日本では特に真理よりも人々と仲良くする事が重んじられますから、この誘惑はとても大きいのです。

ですから、教会にとってもっとも大切な事は正しい教理に留まる事です。それは、聖書のみ言葉を勝手に解釈しないで、自分の頭も心も神様のみ言葉の下において、主の聖霊の導きを求めながら聖書を学ぶべきです。

聖書のもっとも大切な真理は神様が三位一体である事とイエス・キリスト様が真の神様であると同時に真の人間である事です。キリストの神性と人生は半分人間、半分神と云ういみではありません。キリストは100%の神様でありながら、100%の人間です。無限の神様がどうして有限の人間になれるかは、私たちの理性を遥かに超える素晴らしい事実です。キリストの神性と人性は混じっている訳ではありませんが、別々でもありません。キリストはクリスマスで誕生するまでは、人間性を持っておられなかったから、始めのクリスマスは新しいスタートですが、今復活のキリストが天国におられるところにもその人間性が変わっていませんから、キリストは永遠に真の神と真の人間として存在を続けられます。神様の創造の一番深い意味はキリストの永遠の人間性に現れていると思います。

教会の歴史の中にキリストの神性と人性のどちらかを失って、一方的に教える異端がかなりたくさん現れました。例えばエホバの証人たちはキリストの神性を否定しますが、伝統的な福音派のクリスチャンの誘惑は反対のところにあります。キリストの神性を強調しながら、その人性を見失う危険があります。

グノーシス主義は現代のエホバの証人と同様にイエス・キリストの人間性を否定して、イエス・キリスト様が本当の人間ではなく、ただ人間に見えただけで、天使の表れのような扱いでした。そのような考え方を化言説と言います。

現代のリベラル主義は逆にイエス・キリスト様の神性を否定して、単なる偉大な宗教家扱いにします。

ですから、あらゆる教師を吟味するには一番大切なテストは彼らはイエス・キリスト様について何を教えていますか。

偽り者とは、イエスがキリストであることを否定する者でなくてだれでしょう。御父と御子を否認する者、それが反キリストです。だれでも御子を否認する者は、御父を持たず、御子を告白する者は、御父をも持っているのです。(2:22、23)

小さい者たちよ。今は終わりの時です。あなたがたが反キリストの来ることを聞いていたとおり、今や多くの反キリストが現われています。それによって、今は終わりの時であることがわかります。(2:18)

人となって来たイエス・キリストを告白する霊はみな、神からのものです。それによって神からの霊を知りなさい。イエスを告白しない霊はどれ一つとして神から出たものではありません。それは反キリストの霊です。あなたがたはそれが来ることを聞いていたのですが、今それが世に来ているのです。(4:2、3)

偽預言者や反キリスト的な教師たちに対して明確な態度を難くする一つの理由は、その多くは教会の中から出るという事です。間違った教えと戦う事を教会の愛の交わりを壊す迷惑な動きとして見るクリスチャンは少なくはありません。しかし、教会の中の一部の腐敗と戦わないとその内に体全体に異端が広がって、致命的な結果になり得ます。ですから、ルターのような指導者たちは間違った教えと戦う事を怠る事はありません。

小さい者たちよ。今は終わりの時です。あなたがたが反キリストの来ることを聞いていたとおり、今や多くの反キリストが現われています。それによって、今は終わりの時であることがわかります。彼らは私たちの中から出て行きましたが、もともと私たちの仲間ではなかったのです。もし私たちの仲間であったのなら、私たちといっしょにとどまっていたことでしょう。しかし、そうなったのは、彼らがみな私たちの仲間でなかったことが明らかにされるためなのです。(2:18、19)

もう一つの問題は食い改めを要求しない、人間の罪を容認する偽教師たちは特にこの世の人々に受け入れられ、人気があります。ですから、彼らに対して抵抗するのは、ノンクリスチャンの目から見ると教会のイメージダウンにつながります。しかし、肯定を強調する現代にイエス・キリスト様が如何に多くの否定的な表現で真理を語ったかを忘れてはいけません。真理には確実に肯定的と否定的な面がありますから、バランスを持たなければ、異端に走りやすい結果になります。

彼らはこの世の者です。ですから、この世のことばを語り、この世もまた彼らの言うことに耳を傾けます。(4:5)
世をも、世にあるものをも、愛してはなりません。もしだれでも世を愛しているなら、その人のうちに御父を愛する愛はありません。すべての世にあるもの、すなわち、肉の欲、目の欲、暮らし向きの自慢などは、御父から出たものではなく、この世から出たものだからです。世と世の欲は滅び去ります。しかし、神のみこころを行なう者は、いつまでもながらえます。(2:15～17)

多くの偽教師は初めの内に教会の中に正統的に教えていたが、何かの罪を犯して、又は犯し続けて、それを悔い改めないで、容認して、そして自分の生き方に自分の教えをも変えてきた人々です。ですから、教師たちの教えだけではなく、彼らのいわゆる私的な生活が神様のみ言葉に沿っているかどうかを見守る必要があります。

昔も現代も、人には新しさが非常に強い訴える力を持っています。しかし、新しい物は必ずしもよいとは限りません。神様のみ言葉である聖書は新しいものではなく、古いものです。しかし、み言葉に留まるのは本当の意味の一新の秘訣です。ですから、教師たちは聖書のみ言葉に対してどんな姿勢を示すのかは重大な決め手です。イエス・キリスト様の言葉を受け入れない人はイエス・キリストご自身を拒否します。

あなたがたは、初めから聞いたことを、自分たちのうちにとどまらせなさい。もし初めから聞いたことがとどまっているなら、あなたがたも御子および御父のうちにとどまるのです。それがキリストご自身の私たちにお与えになった約束であって、永遠のいのちです。私は、あなたがたを惑わそうとする人たちについて以上のことを書いて来ました。(2:24～26)

③ 道徳的なテスト

神様の聖霊様は生きたキリスト者を清めて、愛を注いで下さるから、実際生活の中にそれは道徳的に正しく、人に対する具体的な愛の行動、又特に兄弟姉妹に対する愛として現れるはずで、カルト的な異端の場合はその指導者たちは一般の人には凄い厳しい要求をしながら、自分たちに乱れた生活の特権として許しています。例えば性的、金銭的、権力的な欲望を満たしたりします。イエス・キリスト様はこのような偽善的な態度に公に攻撃を繰り返しました。

神を知っていると言いながら、その命令を守らない者は、偽り者であり、真理はその人のうちにありません。(2:4)

もしあなたがたが、神は正しい方であると知っているなら、義を行なう者がみな神から生まれたこともわかるはずで、(2:29)

聖霊を頂いたキリスト者は神様のみ言葉に従う愛の生き方を求めますが、現在愛と言う言葉は聖書と違って甘えに近い意味か、感情的なロマンチックな愛に近い意味で理解していますから、愛と言う言葉で惑わされないためにその聖書的な意味をしっかりとつかむ必要があります。イエス・キリスト様の定義では愛はイエス・キリスト様の言葉を守る事です。

漢字から見ると愛は感情よりも行動なのです。誰かが手で何かを渡して、そのものを別の人が両手で丁寧に受け取る行動ですが、その特徴は与えられる物に心がついていうことです。言い替えば、与えられるものは与える人にとって大切なものです。だから、受ける方の人はその物を大切にすることが気にかかるといえます。もし、受ける方がその物の価値が分かるならば、両方の方に感情的なつながりが自動的に生まれます。だから、愛は決して感情的なつながりから始まるものではありません。価値のある物を与えて、それを受ける行為から始まります。人間に価値のあるものを言ってみたら、自分の時間、苦勞、お金、評価されること、健康、命などです。それらの事を人に与える事は愛なのです。私達を創造なさった神様は愛のお方です。神様さえもその民である私達人間を愛するために何かを与えなければなりません。

光の中にいると言いながら、兄弟を憎んでいる者は、今もなお、やみの中にいるのです。兄弟を愛する者は、光の中にとどまり、つまづくことはありません。兄弟を憎む者は、やみの中におり、やみの中を歩んでいるのであって、自分がどこへ行くのか知らないのです。やみが彼の目を見えなくしたからです。(2:9～11)

キリストは、私たちのために、ご自分のいのちをお捨てになりました。それによって私たちに愛がわかったのです。ですから私たちは、兄弟のために、いのちを捨てるべきです。世の富を持ちながら、兄弟が困っているのを

見ても、あわれみの心を閉ざすような者に、どうして神の愛がとどまっているでしょう。子どもたちよ。私たちは、ことばや口先だけで愛することをせず、行ないと真実をもって愛そうではありませんか。(3:16～18)

愛する者たち。私たちは、互いに愛し合ひましょう。愛は神から出ているのです。愛のある者はみな神から生まれ、神を知っています。愛のない者に、神はわかりません。なぜなら神は愛だからです。神はそのひとり子を世に遣わし、その方によって私たちに、いのちを得させてくださいました。ここに、神の愛が私たちに示されたのです。私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、なだめの供え物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです。愛する者たち。神がこれほどまでに私たちを愛してくださったのなら、私たちもまた互いに愛し合うべきです。(4:7～11)

ヨハネの手紙の肯定的な描写

ヨハネは異端の否定的なテストの他に肯定的に真のクリスチャンの特徴を繰り返して述べ立てます。本物のクリスチャンの特徴は次の通りです。

1. 神様の光のうちに歩む事です。それは罪のない生き方という意味ではなく、いつも罪に気がつくたびに悔い改めて、主イエス・キリスト様の血潮によって清められて行く歩みです。

神は光であって、神のうちには暗いところが少しもない。これが、私たちがキリストから聞いて、あなたがたに伝える知らせです。(1:5)

しかし、もし神が光の中におられるように、私たちも光の中を歩んでいるなら、私たちは互いに交わりを保ち、御子イエスの血はすべての罪から私たちをきよめます。(1:7)

もし、私たちが自分の罪を言い表わすなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、すべての悪から私たちをきよめてくださいます。(1:9)

2. キリストの血潮による救いの確信。

子どもたちよ。私があなたがたに書き送るのは、主の御名によって、あなたがたの罪が赦されたからです。父たちよ。私があなたがたに書き送るのは、あなたがたが、初めからおられる方を、知ったからです。若い者たちよ。私があなたがたに書き送るのは、あなたがたが悪い者に打ち勝ったからです。(2:12、13)

私が神の御子の名を信じているあなたがたに対してこれらのことを書いたのは、あなたがたが永遠のいのちを持っていることを、あなたがたによくわからせるためです。(5:13)

このイエス・キリストは、水と血とによって来られた方です。ただ水によってだけでなく、水と血とによって来られたのです。そして、あかしをする方は御霊です。御霊は真理だからです。

私たちは、私たちに対する神の愛を知り、また信じています。神は愛です。愛のうちにいる者は神のうちにおり、神もその人のうちにおられます。このことによって、愛が私たちにおいても完全なものとなりました。それは私たちが、さばきの日にも大胆さを持つことができるためです。なぜなら、私たちもこの世にあってキリストと同じような者であるからです。(4:16～17)

あかしするものが三つあります。御霊と水と血です。この三つが一つとなるのです。もし、私たちが人間のあかしを受け入れるなら、神のあかしはそれにまさるものです。御子についてあかしされたことが神のあかしだからです。(5:6～9)

3. み言葉を守ること。

しかし、みことばを守っている者なら、その人のうちには、確かに神の愛が全うされているのです。それによって、私たちが神のうちにいることがわかります。(2:5)

4. 神様の愛から生まれる兄弟愛

兄弟を愛する者は、光の中にとどまり、つまづくことはありません。(2:10)

私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、なだめの供え物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです。愛する者たち。神がこれほどまでに私たちを愛してくださったのなら、私たちもまた互いに愛し合うべきです。(4:10～11)

5. 聖霊様の油注ぎによる聖書理解

あなたがたのばあいは、キリストから受けた注ぎの油があなたがたのうちにとどまっています。それで、だれからも教えを受ける必要がありません。彼の油がすべてのことについてあなたがたを教えるように、——その教えは真理であって偽りではありません。——また、その油があなたがたに教えたとおりに、あなたがたはキリストのうちにとどまるのです。(2:27)

神は私たちに御霊を与えてくださいました。それによって、私たちが神のうちにおり、神も私たちのうちにおられることがわかります。(4:13)

6. 正しい生き方

イエスがキリストであると信じる者はだれでも、神によって生まれたのです。生んでくださった方を愛する者はだれでも、その方によって生まれた者をも愛します。私たちが神を愛してその命令を守るなら、そのことによって、私たちが神の子どもたちを愛していることがわかります。神を愛するとは、神の命令を守ることです。その命令は重荷とはなりません。(5:1～3)

7. 神様の子供としての希望

私たちが神の子どもと呼ばれるために、——事実、いま私たちは神の子どもです。——御父はどんなにすばらしい愛を与えてくださったことでしょう。世が私たちを知らないのは、御父を知らないからです。愛する者たち。私たちは、今すでに神の子どもです。後の状態はまだ明らかにされていません。しかし、キリストが現われたなら、私たちはキリストに似た者となることがわかっています。なぜならそのとき、私たちはキリストのありのままの姿を見るからです。キリストに対するこの望みをいただく者はみな、キリストが清くあられるように、自分を清くします。(3:1～3)

8. 祈りが聞かれる世界

何事でも神のみこころにかなう願いをするなら、神はその願いを聞いてくださるということ、これこそ神に対する私たちの確信です。私たちの願う事を神が聞いてくださると知れば、神に願ったその事は、すでにかなえられたと知るのです。(5:14～15)

9. 信仰告白

だれでも、イエスを神の御子と告白するなら、神はその人のうちにおられ、その人も神のうちにいます。(4:15)

10. 恐れからの開放

このことによって、愛が私たちにおいても完全なものとなりました。それは私たちが、さばきの日にも大胆さを持つことができるためです。なぜなら、私たちもこの世にあってキリストと同じような者であるからです。愛には恐れがありません。全き愛は恐れを締め出します。なぜなら恐れには刑罰が伴っているからです。恐れる者の愛は、全きものとなっていないのです。(4:17～18)

第一ヨハネの手紙の学びの質問

第一ヨハネの手紙 1:1～2:2 神様は光です。

1. あなたは、ヨハネの手紙の内容は信頼できると思いますか。もしそうであれば、それはなぜですか。(特に1節と2節で彼自身と他の弟子たちについて使われている動詞に注目しなさい。)
2. 1節と2節でヨハネは、イエス様のことをどのように述べていますか。
3. 3節と4節でヨハネは、この手紙を書く目的としてどのようなことをあげていますか。
4. 5節でヨハネは、神のことをどのように述べていますか。
5. (イ)「やみの中を歩む」(6節)、
(ロ)「光の中を歩む」(7節)ということばは、どういう意味で使われていると思いますか。
6. キリスト者は、もし罪を犯していると気づいたなら、何をすべきでしょうか。
(ロ)9節で私たちに与えられているすばらしい約束は、どういうことですか。
私たちが罪を犯してしまうような機会は多いのですから、9節はぜひとも暗記すべきです。この節は、私たちが罪を犯してしまったとき、どのようにしたら神様との変わりを回復することができるかを教えています。この節を今ここで暗記しましょう。
7. キリスト者は、罪をどのように考えるべきでしょうか(2章1節)。

第一ヨハネの手紙 2:3～17 神様に留まる事

1. 神様を知る事はどんな事でしょうか。(3、4)
2. 神様の愛はどのように表れますか。(5)
3. キリストに留まる事はどんな結果に繋がりますか。(6、ヨハネの福音書 15:1～13を参照に)
4. 古い命令と新しい命令はどのように違いますか。(7、8、ヨハネの福音書 13:34～35を参照に)
5. 光はどのように広がるでしょうか。(8)
6. 光のうちの歩み方はどんなものでしょうか。(9、10)
7. 憎しみと恨みの結果は何でしょうか。(11)
8. 霊的な子供の特徴は何でしょうか。(12、14)
9. 霊的な若者の特徴は何でしょうか。(13、14)
10. 霊的な父達の特徴は何でしょうか。(13、14)
11. この世とはどんな性質を持ちますか。(16、17)
12. この世を愛することの反対は何でしょうか。それぞれのもたらせる結果は何でしょうか。(15、17)

第一ヨハネの手紙 2:18～29 終わりの時代

1. 終わりの時は何時から何時までかかりますか。(18、使徒の働き 2:16～21)
2. 終わりの時の特徴は何でしょうか。(18、使徒の働き 2:16～21)
3. 反キリストはどんな者でしょうか。(18、19、22、4:3、2ヨハ 1:7、マタイ 24:4～13参照に)
4. 教会の分裂はいつも悪い事でしょうか。(19、使徒の働き 19:8～9参照に)

5. 聖霊様の油注ぎはどう言う恵みをもたらせますか。(20、21、27、ヨハネの福音書 16:7～15参照に)
6. 父なる神様と御子イエス様との関係はどうなっていますか。(23)
7. 父なる神様とキリスト様に留まるのは具体的に何を意味するのでしょうか。(24、27、ヨハネの福音書 15:1～17参照に)
8. キリストに留まる事からどんな恵みが来ますか。(25、28)
9. 議と認められて、生まれ変わったクリスチャンの特徴は何でしょうか。(29)

第一ヨハネの手紙 3:1～29 神様の子供

1. 神様の愛はどのように表れていますか。(1)
2. 神様の子供の特権は何でしょうか。(1、ローマ 8:14～18)
3. この世の人と神様の子供の間に通じるところと通じないところはどんなものでしょうか。(1、2)
4. 神様の子供の最終的な状態はどんなものですか。(2) またそれは何故でしょうか。(2、1コリ 13:12と2コリ 3:17、18参照に)
5. 天国の希望は地上の歩みにどんな影響を及ぼしますか。(3)
6. どのようにして清められるのですか。(3、5、8、9)
7. 罪の本質は何ですか。(4)
8. どうしてイエス様は罪を取り除く事が出来ましたか。(5)
9. 罪の内に歩むことはどう言う事でしょうか。(6) またそのような人の状態はどんなものでしょうか。(8)
10. キリスト者の生き方はどんなものでしょうか。(7、10) その生き方と救いはどんな関係にあるでしょうか。

第一ヨハネの手紙 3:3～18 キリスト者の生き方

1. 天国の希望は地上の歩みにどんな影響を及ぼしますか。(3)
2. どのようにして清められるのですか。(3、5、8、9)
3. 罪の本質は何ですか。(4)
4. どうしてイエス様は罪を取り除く事が出来ましたか。(5)
5. 罪の内に歩むことはどう言う事でしょうか。(6) またそのような人の状態はどんなものでしょうか。(8)
6. キリスト者の生き方はどんなものでしょうか。(7、10) その生き方と救いはどんな関係にあるでしょうか。
7. 互いに愛することは具体的にどのように示すべきでしょうか。実例を挙げましょう。(11、17～18)
8. 殺意はどこから生まれますか。(12;創世記 4:1～16参照に)
9. この世がなぜキリスト者を憎むでしょうか。(13;ヨハネ 15:18～21、16:1～4参照に)

10. 愛の反対は何でしょうか。(11、14) いのちはどう現れますか。(14)
11. 憎しみと殺人はどんな関係にありますか。(15)
12. 兄弟に対する愛の源はどこですか。(16)
13. 真実をもって愛するのはどう言う事でしょうか。(18)

第一ヨハネの手紙 3:19～24 心の責めと安心感

1. キリスト者は心の責めをどう見るべきでしょうか。又どう扱うべきでしょうか。(19～21、詩篇 139:1～16 参照に)
2. 心の責めから解放されたクリスチャンは何を期待すべきでしょうか。又その条件は何でしょうか。(21～22、ヨハネの福音書 15:7、16 参照に)
3. 神様の命令は二つの部分があります。それは何でしょうか。又それは互いにどんな関係にあるでしょうか。(23)
4. 神様のうちにおられるのはどう言う内容をもつでしょうか。(24、ヨハネの福音書 17 章 6～26 参照に)

第一ヨハネの手紙 4:1～12 神は愛なり

1. 1 節でヨハネが読者に命じている二つのことは何ですか。そしてその理由は何ですか。
2. ヨハネが読者に警告しているのは、どのような教えについてですか。(2、3)
3. このような教えの出どころとしてヨハネがあげている二つのものは何ですか。(3、5)
4. この偽りの教えを受け入れるような人々がいたのですか。なぜ人々はこのような偽りの教えに聞き入ったのですか。(5; 2テモテ 4:3、4 参照)。
5. ヨハネの手紙第一 2 章 18～25 節を読みなさい。ヨハネの時代の偽りの教えは、イエスの神性を認めながらイエスが完全に人となられたことを否定し、人間のように見えたにすぎないと論じました。ところが今日の最も一般的な誤りの一つは、ヨハネの時代のものと正反対です。今日の「現代的な」教えは、イエスは人間であると認めますが、同時に神であられるということを否定します。2:23 のヨハネのことはこの問題にどのように適用されますか。
6. 愛は何でしょうか。愛と甘えはどう違うのでしょうか。
7. 愛の源は何処でしょうか。(7、8)
8. 神様の本質は何でしょうか。(9)
9. 神様は何を与えて下さったでしょうか。供え物はどうして必要でしたか。(10)
10. 神様の現実は何によって分かりますか。(11)
11. 互いに愛し合うのは可能でしょうか。(11)
12. どのように神様の愛を受け入れることが出来るでしょうか。

第一ヨハネの手紙 4:7～21 神は愛なり

1. 愛は何でしょうか。愛と甘えはどう違うのでしょうか。
2. 愛の源は何処でしょうか。(7、8)
3. 神様の本質は何でしょうか。(9)
4. 神様は何を与えて下さったでしょうか。供え物はどうして必要でしたか。(10、19)
5. 神様の現実は何によって分かりますか。(11)
6. 互いに愛し合うのは可能でしょうか。(11)
7. どのように神様の愛を受け入れることが出来るでしょうか。(16)
8. 聖霊様が私達の内に住んでおられる事はどう現れますか。(12、13)
9. 世の救い主とはどんな意味でしょうか。(14)
10. 裁きの日には私達はどうなるのですか。(17)
11. 愛と恐れの関係はどうなっていますか。(18)
12. 神様への愛と兄弟への愛はどんな関係にありますか。(20、21)

第一ヨハネの手紙 5:1～11 世に打ち勝つ信仰

1. 人が本当のクリスチャンかどうかは何によって判断で出来ますか。(1)
2. 神様に対する愛はどのように現れますか。(2、3)
3. 神様の命令はどうして重荷にはなりませんか。(3)
4. 4 節の「世」と言う言葉の意味は何でしょうか。又世に打ち勝つのはどう言う意味でしょうか。
5. 信仰はどうして世に勝ちますか。(4、5)
6. イエス様が血と水によって来られたのは何を指しますか。(6; ヨハネ 19:34～35 参照に)
7. 聖霊様のあかしは血と水とどんな関係を持つでしょうか。(6～8)
8. 神様のイエス様についてのあかしを受け入れると人間は自分のうちにどんなあかしが与えられますか。(9～11)
9. 永遠のいのちは何でしょうか。(11、ヨハネ 17:3 参照に)

第一ヨハネの手紙 5:12～21 祈りの世界

1. 永遠のいのちは誰のものですか。(12)
2. ヨハネの手紙の書かれた目的は何でしたか。(13) あなたは永遠の命を持っていますか。
3. 祈りはなぜ聞かれますか。(14)
4. 祈りはどこまでといつかなえられますか。(15)
5. 兄弟姉妹たちが罪を犯すと私達が先ず何をすべきでしょうか。(16、マタイ 18:15～17 参照に)
6. 死に至る罪は何でしょうか。(16、17、ヘブル 6:4～8 とマルコ 3:28～30 参照に)
7. 新しく生まれた人は悪魔との戦いでどうなりますか。それはなぜでしょうか。(18)
8. この世はどんな状態の中にありますか。(19)
9. 私達は何によってイエス様を知る事が出来ますか。(20)
10. イエス様はどんな方でしょう。(20)
11. ヨハネの最後の進めは何ですか。それはどうして私達にとって大切な勧めでしょうか。(21)

み言葉のしおり

第一ヨハネの手紙

- 1) 神は光であって、神のうちには暗いところが少しもない。これが、私たちがキリストから聞いて、あなたがたに伝える知らせです。 第一ヨハネの手紙 1 章 5 節

しかし、もし神が光の中におられるように、私たちも光の中を歩んでいるなら、私たちは互いに交わりを保ち、御子イエスの血はすべての罪から私たちをきよめます。もし、罪はないと言うなら、私たちは自分を欺いており、真理は私たちのうちにありません。もし、私たちが自分の罪を言い表わすなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、すべての悪から私たちをきよめてくださいます。 第一ヨハネの手紙 1 章 7～9 節

- 2) 私の子どもたち。私がこれらのことを書き送るのは、あなたがたが罪を犯さないようになるためです。もしだれかが罪を犯したなら、私たちには、御父の御前で弁護してくださる方があります。それは、義なるイエス・キリストです。この方こそ、私たちの罪のための、——私たちの罪だけでなく全世界のための、——なだめの供え物なのです。 第一ヨハネの手紙 2 章 1～2 節

子どもたちよ。私があなたがたに書き送るのは、主の御名によって、あなたがたの罪が赦されたからです。 第一ヨハネの手紙 2 章 12 節

世をも、世にあるものをも、愛してはなりません。もしだれでも世を愛しているなら、その人のうちに御父を愛する愛はありません。すべての世にあるもの、すなわち、肉の欲、目の欲、暮らし向きの自慢などは、御父から出たものではなく、この世から出たものだからです。 第一ヨハネの手紙 2 章 5～16 節

- 3) 私たちが神の子どもと呼ばれるために、——事実、いま私たちは神の子どもです。——御父はどんなにすばらしい愛を与えてくださったことでしょう。世が私たちを知らないのは、御父を知らないからです。愛する者たち。私たちは、今すでに神の子どもです。後の状態はまだ明らかにされていません。しかし、キリストが現われたなら、私たちはキリストに似た者となることがわかっています。なぜならそのとき、私たちはキリストのありのままの姿を見るからです。 第一ヨハネの手紙 3 章 1～2 節

だれでも神から生まれた者は、罪のうちは歩みません。なぜなら、神の種がその人のうちにとどまっているからです。その人は神から生まれたので、罪のうちは歩むことができないのです。 第一ヨハネの手紙 3 章 9 節

キリストは、私たちのために、ご自分のいのちをお捨てになりました。それによって私たちに愛がわかったのです。ですから私たちは、兄弟のために、いのちを捨てるべきです。 第一ヨハネの手紙 3 章 16 節

愛する者たち。もし自分の心に責められなければ、大胆に神の御前に出ることができ、また求めるものは何でも神からいただくことができます。なぜなら、私たちが神の命令を守り、神に喜ばれることを行なっているからです。 第一ヨハネの手紙 3 章 21～22 節

- 4) 愛のない者に、神はわかりません。なぜなら神は愛だからです。 第一ヨハネの手紙 4 章 8 節

私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、なだめの供え物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです。愛する者たち。神がこれほどまでに私たちを愛してくださったのなら、私たちもまた互いに愛し合うべきです。 第一ヨハネの手紙 4 章 10～11 節

愛には恐れがありません。全き愛は恐れを締め出します。なぜなら恐れには刑罰が伴っているからです。恐れる者の愛は、全きものとなっていないのです。 第一ヨハネの手紙 4 章 18 節

- 5) このイエス・キリストは、水と血とによって来られた方です。ただ水によってだけでなく、水と血とによって来られたのです。そして、あかしをする方は御霊です。御霊は真理だからです。 第一ヨハネの手紙 5 章 6 節

そのあかしとは、神が私たちに永遠のいのちを与えられたということ、そしてこのいのちが御子のうちにあるということです。御子を持つ者はいのちを持っており、神の御子を持たない者はいのちを持っていません。 第一ヨハネの手紙 5 章 11～12 節

み言葉のしおり

第二ヨハネの手紙

だれでも行き過ぎをして、キリストの教えのうちにとどまらない者は、神を持っていません。その教えのうちにとどまっている者は、御父をも御子をも持っています。あなたがたのところに来る人で、この教えを持って来ない者は、家に受け入れてはいけません。その人にあいさつのことばをかけてもいいけません。 第二ヨハネの手紙 9～10 節

み言葉のしおり

第三ヨハネの手紙

私の子どもたちが真理に歩んでいることを聞くことほど、私にとって大きな喜びはありません。 第三ヨハネの手紙 4 節

ユダの手紙

著者：

ユダです（1 節）。ユダは、ヤコブの兄弟で、イエスの両親の子です。

宛先：

信者たち。ユダの手紙は、おそらく、教会から教会へと回して読まれたと思われます。

背景：

ユダがこの手紙を書いたのは、偽りの教師たちについて警告するためでした。すべての信者は、イエスに関する真理のみを信じるべきです。

メッセージ：

- ☐ ユダは、イエスについて偽りを教えるすべての人に、恐ろしい罰が用意されている、と書いた。
- ☐ ユダは、イエスに関する真の教えを守るように、と信者に警告した。

手紙が書かれた時と場所

この手紙は、ペテロの手紙第 2 の少し前に書かれたと思われます。どこで書かれたのかは分りません。

ユダの手紙におけるキリスト

イエスの両親の子である。ユダは、読者に、イエス・キリストは、彼らを心にかけてくださり、間違いを犯すことから彼らを守ってくださる信頼できるお方である、と語りました。

ユダの手紙を読む

小賀野英次

新約聖書の26番目に置かれているこの「ユダの手紙」は25節からなり、他の書簡に比べてももっとも目立たないものである。しかし、次世代に向かう教会が持っていた信仰の危機とクリスチャンへのチャレンジを明確に示してくれる。

1. 誰が書いたか？ 著者ユダーニ番手の人

1. a イエス・キリストの僕で、ヤコブの兄弟であるユダから・・・。

このヤコブは、ヤコブの手紙を書いた主の兄弟ヤコブである（ガラテヤ1:19）。したがって、ユダも主の兄弟あることがわかる。主イエスとの関係は「この人は大工の息子ではないか。母親はマリアといい、兄弟はヤコブ、ヨセフ、シモン、ユダではないか。」（マタイ13:55）と記されている。ヤコブと共にユダは教会に仕えていた（Iコリント9:5）。

ユダについて、彼は自分のことを「イエス・キリストの僕（デューロス）」として紹介している。さらに、兄ヤコブの後に自分の名を記す。「彼は次席の地位に甘んじる人である・・・シモン・ペテロの兄弟アンデレの態度と同じである。・・・彼らには次席の地位に甘んじるだけの度量があったに違いない」（『バークレイ聖書注解・ユダ』p. 221）。

2. この手紙が書かれた年代、場所、そして、受け取った人々。

①この手紙はいつごろ書かれたのか？

紀元60～80年頃と考えられる。 内容からみて、教会が次世代に信仰を伝えるにあたっての問題が出てきている。また、IIペトロ2章に非常に良く似ていることがあり、この前後が問題となっている（IIペトロ2:1）。ただ、主の兄弟ユダの年齢からすれば、80年頃には70歳くらいになっていたとおもわれる。

②この手紙の書かれた場所はどこか？

執筆場所は不明である。おそらく、ユダはヤコブと共にエルサレム教会のリーダーとして働いていたが、やがて、巡回の伝道者となっていたと見られる。

③この手紙は誰に宛てられたか？

1b 「父である神に愛され、イエス・キリストに守られている召された人たちへ。」

この手紙は「公同の手紙」と呼ばれ、全教会に宛てられている。

3. ユダの手紙の目的と内容

①この手紙の目的—信仰の戦いに目覚めよ！！

3b 聖なる者たちに一度伝えられた信仰のために戦うこと（エハニゼスタイ＝苦勞して戦うコロ1:29）を、勧めなければならなかったからです。

ユダは愛の挨拶の後、差し迫った信仰の危機について警告し、これと戦うように励ます（7節以下）。

②「ひそかに紛れ込んで来て（パレイスデュエイン＝上手に入り込むもの）」しまった異端者たち（4節、参考；ガラテヤ2:4）。その異端者の実態とは次のようなものです。

a) 生活面では、放縦で、肉欲的な生活をしている。

わたしたちの神の恵みをみだらな楽しみに変え（4節）。

b) 信仰面では、教えから外れている。主イエス・キリストを否定するか、軽んじる。

また、唯一の支配者であり、わたしたちの主であるイエス・キリストを否定しているからです（4 節）。

③実際に、これらに対して、ユダは使徒たちの教えに忍耐を持って、留まり、異端者たちのグループから離れるように、教えている（17-22）。

4. この異端者たちはどのようなものだったのだろうか(5-16)。

今夜は、グノーシス主義という「偽者」が歩みはじめたキリスト教会を脅かしていたことを学びたいと思う。紀元 1 世紀の宗教状況は、ユダヤ教、東洋のバビロニア、ペルシアの密儀宗教やギリシヤ哲学などが混合していた。実は、今日の日本とかわらない異教が忍び込んで来る、状況にあった。

グノーシス主義とは

ギリシヤ語で「知識」、「認識」するという意味である。

- a. 反宇宙的二元論 — この宇宙は劣悪な創造神が造った。本当の善なる至高者と対立している。
 - b. 人間の内部に「祢申的花火」、「本来的自己」があるという確信—人間は創造神（不完全な神）が造ったが、その中に少しだけよいものが閉じ込められている。
 - c. 人間に自己の本質を認識させる救済的啓示者の存在 — この啓示者をイエス・キリストにすれば、グノーシス派キリスト教が出来上がる。
 - d. これにより、キリストの受肉は否定され、旧約の創造の神は悪神とも見られた。たとえば、ウァレンティノス派プトレマイオスの神話図（参考図）にあるように、宗教創造の世界を繰り広げていく。聖書はこれらの天使図については控えめであるし、拒絶さえする。
 - e. 今日の日本の教会については、オカルトや占い、神秘主義の影響は常に受けている。また、いくつかのキリスト教の異端もこのグノーシスの傾向は強い。
- さらに、極端な倫理観を説くキリスト教や聖霊のパワーを説くキリスト教も主イエスの受肉と受難、また、復活を否定してしまうと問題が起きる。

5. 間違った教えに走る人々（5～16 節）

①不自然な肉の欲望を追い求める（5～7）

ここでは、出エジプトの民の荒野での反乱（民数記）、墮落した天使の記事（Ⅱペテロ 2:4、創世記 6:1-5）、ソドムやゴモラ（創世記）の墮落について、語っている。もしくは、異教的な礼拝として、同性愛や神殿売春が行われたことも示唆している。

②聖書以外の宗教的空想にふける人々（8～13）節 — ミカエルと悪魔の論争（ダニエル 10:13、21、旧約外典『モーセの昇天』これについては断片しか残っていない）。

この物語の原典は「モーセが死んだ後、モーセの遺体を偶像化しようとしたサタンの企てについても、天使長ミカエルが『主の懲らしめを待つように』』といったことを引用し、聖書以外の空想話しにふけることを戒めている。

また、「カインの道」、「バラムの迷い」、「コラの反逆」と旧約の祝福を失った人物を否定している。グノーシス主義の人々にとってこれらの失敗者は実際、礼拝の対象にもなった。これは悔い改めのない犯罪者が神格化する日本の宗教事情に似ている。

③これらの人々に与えられる裁きについて（14～16） — 旧約外典。『Ⅰエノク書』（1:9、5:4、27:2 など紀元前 100 年ごろ書かれた。エノクについては創世記 5:24『神と共に歩み、神が取られたのでいなくなった』という記事から、ユダヤ人たちは神の友として尊敬していた）。新約聖書で外典が用いられる数少ない箇所、外典を用いて間違った人々を引きかえら

せようとする。ユダの配慮を見る。私の友人でエホバの証人の救済をしている牧師は彼らの「新世界訳聖書」をもって福音の論証をしている。

6. 頌栄 (24~25) — 福音、天国はシンプルで、力強いもの。

「罪に陥らせないように守り（アプタイトスは「つまづかない、よろよろしないでしっかりしている」の意味。神様が支えてくださる。天国には複雑な手続きはいらない。主の栄光、威厳、力、権威を永遠に賛美しよう。

ユダの手紙のアウトライン

- | | |
|-----------------------|----------------------|
| 1. あいさつ (1-2) | (2) 偽信仰者の性質から (9-16) |
| 2. 偽信仰者の侵入 (3-4) | 4. 真の信仰者への勧告 (17-23) |
| 3. 偽信仰者の実態 (5-16) | 5. 頌栄 (24-25) |
| (1) 過去のさばきの実例から (5-8) | |

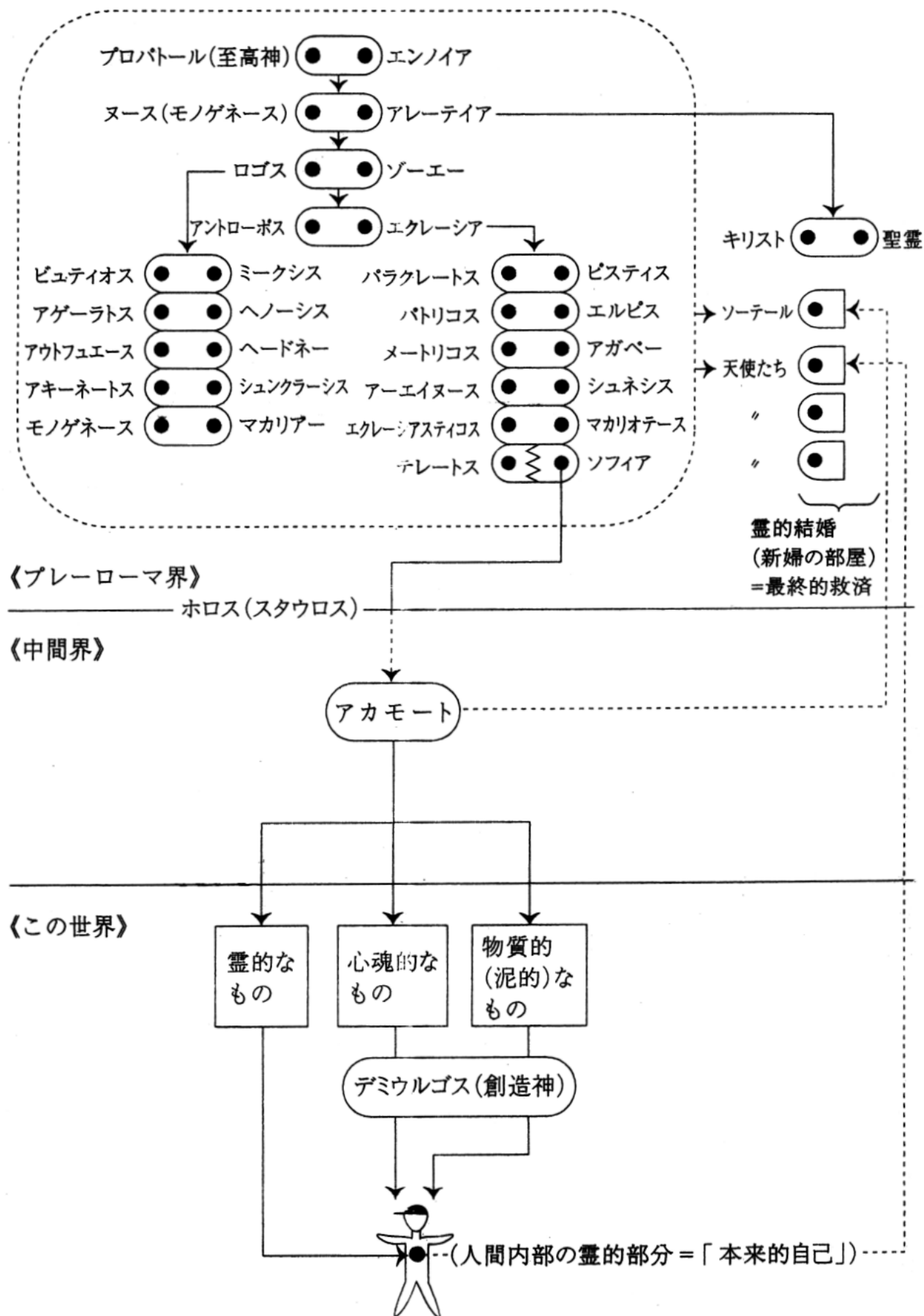
み言葉のしおり

ユダの手紙

愛する人々。私はあなたがたに、私たちがともに受けている救いについて手紙を書こうとして、あらゆる努力をしていましたが、聖徒にひとたび伝えられた信仰のために戦うよう、あなたがたに勧める手紙を書く必要が生じました。
ユダの手紙 3 節

というのは、ある人々が、ひそかに忍び込んで来たからです。彼らは、このようなさばきに会うと昔から前もってしるされている人々で、不敬虔な者であり、私たちの神の恵みを放縱に変えて、私たちの唯一の支配者であり主であるイエス・キリストを否定する人たちです。 ユダの手紙 4 節

あなたがたを、つまづかないように守ることができ、傷のない者として、大きな喜びをもって栄光の御前に立たせることのできる方に、すなわち、私たちの救い主である唯一の神に、栄光、尊厳、支配、権威が、私たちの主イエス・キリストを通して、永遠の先にも、今も、また世々限りなくありますように。アーメン。 ユダの手紙 24~25 節



ヴァレンティノス派プトレマイオスの神話図

ヨハネの黙示録

著者：

この手紙の著者は、イエス・キリストの使徒であったヨハネです。ヨハネは、ほかにも、ヨハネの福音書と3つの手紙を書きました。

宛先：

次の7つの教会：エペソ、スミルナ、ペルガモ、テアテラ、サルデス、フィラデルフィヤ、ラオデキヤ。「黙示録」という書名のもともとの意味は、イエスご自身について、またイエスが終りの時にどのように勝利なさるかについてははっきりと示す、ということです。

背景：

ローマ人は、すべての者にローマ皇帝を礼拝させようとしていました。クリスチャンは、皇帝ではなく神を礼拝したので、ローマ人は、クリスチャンの生活を非常に困難なものにしました。ヨハネは、キリストをあかししたために、パトモスと呼ばれる小さな島に流刑にされました。クリスチャンは、未来に希望があることを知る必要がありました。神は、その希望を与えるために、未来に属する多くの事柄を、目に見える形でヨハネに示されました。

聖書の最初の書物である創世記は、世界の始まりを私たちに示しています。このヨハネの黙示録では、私たちが知っているこの世界の終りを見ます。私たちは、サタンに対するキリストの完全で永遠の勝利を見るのです。

創世記

- ◀ 神は天と地を創造された。
- ◀ サタンがアダムとエバを誘惑して、彼らは罪を犯した。
- ◀ 神との交わりが破れた。
- ◀ 神は救い主を約束された。

ヨハネの黙示録

- ◀ サタンが敗れる。
- ◀ 私たちの救い主キリストが勝一利を得る。
- ◀ 神は新天新地を造られる。
- ◀ 神はご自分の民との交わりのうちに住まれる。

創世記において、サタンは、神が造られた人々を、神との交わりから引き離そうとしました。サタンは、彼らが罪を犯すように誘惑しました。アダムとエバが罪を犯したとき、神は罪からの救い主を送ることを約束されました。神は、旧約聖書の中で、何度もその約束を繰り返されました。福音書の中で、約束された救い主イエス・キリストがおいでになり、私たちの罪のために罰を受けられました。イエスは、ご自身を私たちの救い主として信じる者を神との交わりをもつことができるようにしてくださいました。「使徒の働き」と新約聖書の手紙においては、福音の良い知らせが世界中に送り届けられました。そして、ヨハネの黙示録において、私たちは、すべての約束が成就するのを見るのです。キリストが勝利を得、サタンは敗れ去るのです。神は、ご自身の民とともにお住みになり、新天新地において彼らと親しく交わられるのです。

メッセージ：

- **メッセージが与えられる：**ヨハネは、イエスがどのようにしてメッセージを与えられたかを説明した。イエスは、そのすべてを書きとめるようにヨハネに語った。
- **教会への手紙：**7つの教会の1つ1つに特別のメッセージが与えられた。忠実であり続ける者たちには、報酬が約束された。

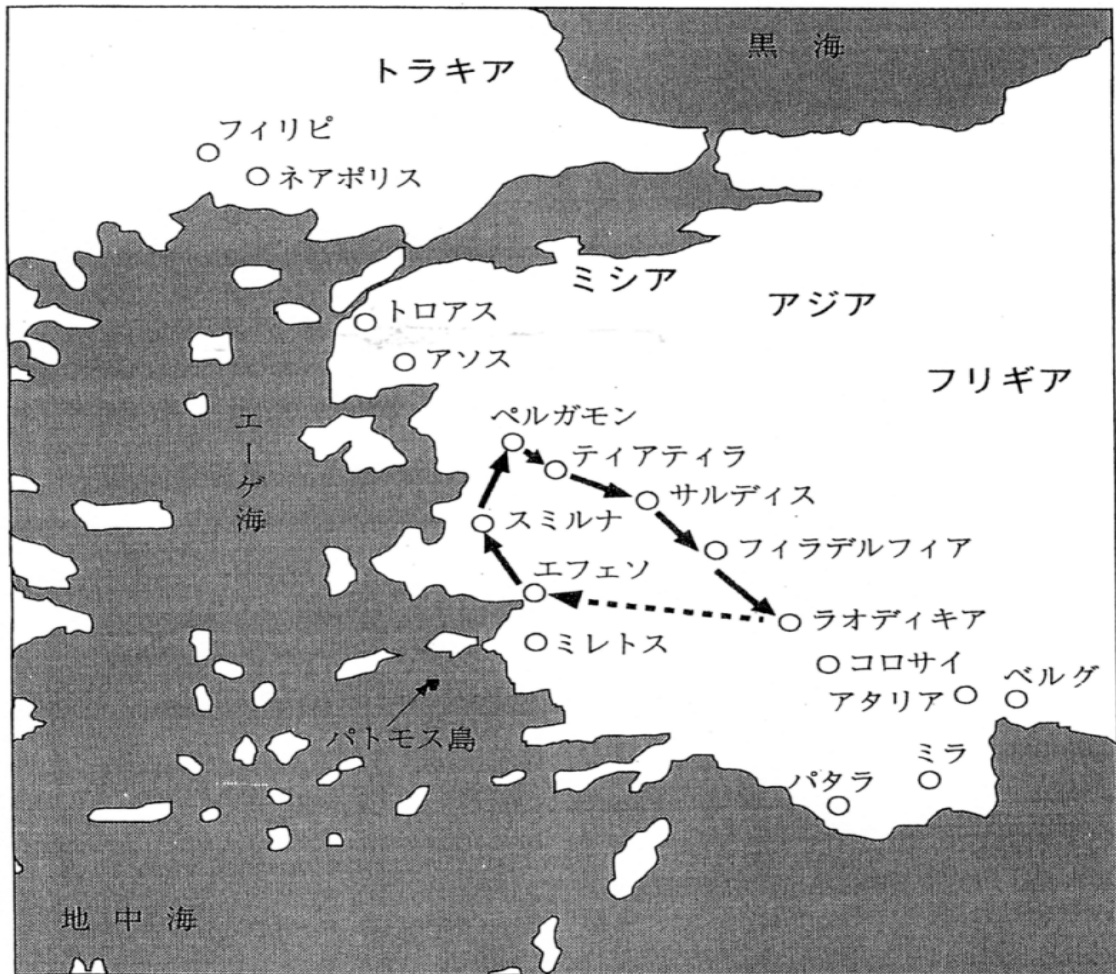
□ **王の帰還**：神は、未来に関する多くの描写をヨハネに示された。これらの描写の意味のすべてを理解するのは容易ではないが、イエスがもう一度おいでになって、悪に対して大いなる、最終的な勝利を収められる、ということは明らかである。

- 4 章：ヨハネは、天と神の御座の描写を見た。
- 5-7 章：イエスは、そのなされたすべてのことのゆえに、さばきの書物を開くのにふさわしいただ一人のお方である。さばきの書物は、7つの封印で閉じられていた。それらが解かれるにつれて、やがて訪れる死と災いが示される。しかし、神は、ご自身の民を守られる。
- 8-15 章：第七の封印が解かれると、7人の御使いが、サタンの恐るべき世界征服への努力を告げるラッパを吹き鳴らす。あらゆる苦難の期間、神は、これから起ることを警告する使者たちを遣わされた。彼らは神の敵によって殺されるが、またよみがえる。
- 16-18 章：ヨハネは、7人の御使いが7つの鉢をぶちまけるのを見た。これはサタンを攻撃することにおける、神の権威を示している。悪魔自身が手下どもを連れて戦いに出て来る。生きている人々の多くは、悪魔のうそを信じて、彼を礼拝する。地上の王国が滅ぼされる。
- 19、20 章：天にいるすべての者が今や地に戻ろうとしている王を賛美する。ヨハネは、白い馬に乗ったお方が天の軍勢を率いられるのを見た。彼の衣には王の王、主の主、と書かれている。それは悪魔の力を除き去るために地に来られるイエス・キリストである。イエスは、千年の間地を支配される。それからもう一度、悪魔はイエスに代って支配しようとするが、イエスは彼を滅ぼされる。
- 21、22 章：私たちが知っている地は終り、新しい地が造られる。イエスは、すべての人々をさばき、ご自身を信じた者たちに報酬を与えられる。イエスは、ご自身の新しい町エルサレムの御座に座って、言われる。「見よ。わたしは、すべてを新しくする。」（21：5）21 章と 22 章は、新しい天と新しい地とを描いている。

手紙に関係のある場所

ヨハネは、黙示録をパトモス島で書きました。それは、コスとロドスという2つの島と並んでいます。

2、3 章は、7つの教会について述べています。それらの町-エペソ、スミルナ、ペルガモ、テアテラ、サルデス、フィラデルフィヤ、ラオデキヤを地図で見つけ出してください。それぞれの教会について、主が言われていることを読んでください。



ヨハネの黙示録におけるキリスト

黙示録のあらゆるところにキリストが出てきます。黙示録は、キリストが再びおいでになる時にどんな事をなさるかという預言です。この書でキリストは、勝利者として示されています。キリストはまた小羊として言及されていますが、これは、私たちの罪のために罰をお受けになるお方ということを表しています。神のみことばはすべて実現します。キリストは、ご自身を、「最初であり、最後である」(21:6)と呼ばれました。創世記において、すべてのものの始まりの時に、キリストはそこにおられました。黙示録において、この地が終る時も、またその後も、キリストはそこにおられるのです。イエスは、「わたしはすぐに来る」(22:20)と言われます。それがどれだけすぐなのかは分かりません。しかし、すべてのクリスチャンは、イエスの再臨の時の喜ばしさを知っています！

ヨハネの黙示録のアウトライン

1.導入の幻(1:1-8)

2.世界の教会(1:9-3:22)

- (1) 神としてのキリストの幻(1:9-20)
- (2) エペソの教会(2:1-7)
- (3) スミルナの教会(2:8-11)
- (4) ペルガモの教会(2:12-17)
- (5) テアテラの教会(2:18-29)

- (6) サルデスの教会(3:1-6)

- (7) フィラデルフィアの教会(3:7-13)

- (8) ラオデキヤの教会(3:14-22)

3.教会の苦難(4:1-8:1)

- (1) 神の支配(4:1-11)
- (2) キリストへの礼拝(5:1-14)
- (3) 六つの封印(6:1-17)

(4) 十四万四千人(7:1-8:1)

4. 世界への警告(8:2-11:18)

- (1) 地に下されるさばき(その 1)(8:2-13)
- (2) 地に下されるさばき(その 2)(9:1-21)
- (3) 口には甘く、腹には苦く(10:1-11)
- (4) 教会と世界の将来(11:1-18)

5. 世界の歴史(11:19-15:4)

- (1) 悪魔の天からの追放(11:19-12:18)
- (2) 悪魔の追従者たち(13:1-18)
- (3) 贖われた者の勝利(14:1-5)
- (4) 慰めの使徒たち(14:6-13)
- (5) 刈り入れの鎌(14:14-20)
- (6) 最後の七つの災害(15:1)
- (7) 勝利の歌(15:2-4)

6. 世界への審判:七つの怒りの鉢(15:5-16:21)

7. バビロンの運命(17:1-19:10)

- (1) 大淫婦バビロン(17:1-6)
- (2) 緋色の獣(17:7-18)
- (3) 確実に崩壊するバビロン(18:1-3)
- (4) バビロンへのさばき(18:4-20)

(5) バビロンの死(18:21-24)

(6) 神への賛美(19:1-5)

(7) 小羊の婚宴(19:6-10)

8. 教会の勝利(19:11-21:8)

- (1) 再臨の主によるさばき(19:11-16)
- (2) 勝利の祝宴(19:17-18)
- (3) 敵の運命(19:19-21)
- (4) 千年の間(20:1-3)
- (5) 天上の座(20:4-6)
- (6) サタンの解放とさばき(20:7-10)
- (7) 最後の審判(20:11-15)
- (8) 新天新地(21:1-8)

9. 新しいエルサレム(21:9-22:19)

- (1) 神の都の外観(21:9-21)

10. 結びの言葉(22:20-21)

- (2) 神の都の内部(21:22-27)
- (3) 神の世界(22:1-5)
- (4) 神の言葉と報い(22:6-15)
- (5) 神の祝福とのろい(22:16-19)

ヨハネの黙示録を読む

小賀野英次

1. 黙示文学＝アポカリュプシス(αποκαλυψις)

a) 黙示文学とはなにか。

黙示文学とは旧約聖書の後期預言者の後の時代に、預言とは別の形で、神の奥義、世の終り等について記された。ユダヤ教文書とキリスト教文書を言う。

「黙示」(〈ギ〉アポカリュプシス)という語は啓示とも呼ばれる。アポは「取り除く」ガリュプシスは「覆っている物」を意味する。これは神の奥義・秘義をそのベールを取り除いて明らかにすることを意味している。

内容的には、諸天と世界の秩序、自然現象、創造の秘義、天使の名とその働き、終りの日と終末論的事柄、さらには神の属性の秘義について述べている。黙示文学としての類型化は比較的新しく、19世紀に始まった。しかし、最近の見解では、「黙示」という類型は、「黙示思想」と「黙示的終末論」からは区別されるべきであると言われている。

b) 神と人間が信仰によって結ばれる土台が現われた。

ヨハネの黙示録 1:1 の「イエス・キリストの黙示」に由来している。このことは大切で神はそのひとり子を世に送り、神様のみ心を明らかにされた。イエス・キリストの現われと証しこそ、私たちの信仰の土台である。 * I ペテロ 1:7

c) ヨハネの黙示録と黙示文学

「ヨハネは、神の言葉とイエス・キリストの証し」(1:2)について、いろいろな制約のある中で、信仰の生活が保たれるように黙示を記した。

他に、黙示文学と呼ばれる文書は、エゼキエル書、ダニエル書などのある部分、また、共観福音書の小黙示録とよばれる部分(マタイ 24:3-44 など)に終末に関して、神と人との関係について述べられている。

2. 著者=使徒ヨハネ

著者自身が本書の中で、自らをヨハネと述べている(1:1、4、9、22:8)ことから、ヨハネの黙示録はゼベダイの子、使徒ヨハネが著者である。

3. 執筆年代=紀元 90 年代に書かれた

黙示録の内容と教会の事情から、ドミティアヌス帝の時代によりよく合致し、その治世の後期、紀元 90 年代に書かれたと考えるのが妥当である。ドミティアヌス時代は、生存中の皇帝に対する礼拝がアジアで強要され、キリスト者への迫害がきびしくなった。本書に記されているアジアの教会の霊的な衰退状態はこの時代と合致する。

4. あて先=アジアの 7 つの教会、すべてのキリスト教会

黙示録 1:4、10、2-3 章。エペソ、スミルナ、ペルガモ、テアテラ、サルデス、フィラデルフィヤ、ラオデキヤにあてられており、7 が完全数であることから、すべてのキリストの教会にあてられたものであると解することができる。これら 7 つの教会が個々に持つ問題と様相は、地域、時代を越えた教会の縮図であって、迫害の下で戦う全世界の主のからだなる教会に、励ましと警告を与えるためであったことが推測できる。

5. 執筆場所=パトモス島

ヨハネは、信仰のゆえにパトモスという島に監禁されていたと述べる(1:9)。パトモス島はエペソの南西約 100 キロ、エーゲ海に浮ぶ面積 40 平方キロの岩の多い小島である。ローマ時代には、囚人の流刑の、地として使用されていた。

6. 執筆事情

この書が記された頃、初代教会は宣教の気運の隆盛の時より一歩後退した状態にあり、初めの愛から離れたと非難されるエペソ教会、行いの死んだサルデス教会、なまぬるいラオデキヤ教会など霊的に衰退している教会もいくつかあった。他方、キリスト教徒に対する迫害の手は、いっそう推し進められていた。ネロ帝のもとでの迫害はまだ局地的であったが、ドミティアヌス帝に至って皇帝礼拝強要の度は増し加わり、キリスト者は、宗教的、政治的にローマ国家の中で広範囲に疑惑と憎しみの対象となっていた。

神は、すでに苦しみの中にあり、将来さらに過酷な状況におかれる教会が、この世に迎合することなく、信仰の原点に立ち返り、迫害と殉教ごは神の国の勝利の実現のための当然の要因として、キリストの救いの完成に希望と忍耐を固く持ち続けるために、使徒ヨハネにこれから確かに起るべき事柄のパノラマ的幻をお与えになった。

7. 内容

内容については次のように区分できる。

- キリストは勝利者である 1 章
- キリストは教会の頭である 2、3 章
- キリストは審判者である 4－16 章
- キリストは完成者である 17－20 章
- キリストはすべてのすべてである 21、22 章

8. ヨハネ黙示録を読むコツ

イエス・キリストの黙示。これは、すぐに起こるはずの事をそのしもべたちに示すため、神がキリストにお与えになったものである。そしてキリストは、その御使いを遣わして、これをしもべヨハネにお告げになった。ヨハネは、神のことばとイエス・キリストのあかし、すなわち、彼の見たすべての事をあかしした。この預言のことばを朗読する者と、それを聞いて、そこに書かれていることを心に留める人々は幸いである。時が近づいているからである。
ヨハネの黙示録 1:1-3

① すぐにも起きる

現代は「忙しい、急ぐ時代」である。ストレスが増大する。それが増えると病んでしまう。

しかし、神に信頼し、待つときに平安が訪れる。

イザヤ 28:16 それゆえ、主なる神はこう言われる、「見よ、わたしはシオンに一つの石をすえて基とした。これは試みを経た石、堅くすえた尊い隅の石である。『信ずる者はあわてることはない』(口語訳)。

② 幸いな人とはだれか

神の言葉とイエス・キリストの証しを

- a. この預言の言葉を朗読する人
- b. これを聞く人
- c. 中に記されたことを守る人

アジアにある7つの教会への啓示

	誉め言葉	批判	教え、指示	約束
エペソ 2:1-7	悪者の嘘を見抜く、キリストの忍耐と我慢をする	初めのころの愛から離れてしまった	初めの愛に立ち戻れ	勝利と命の木の實を得る
スミルナ 2:8-11	苦難と貧しさを知っている	批難されている点はない	苦難を恐れるな、死に至るまで忠実に	勝利を得、第2の死の害を受けない
ペルガモ 2:12-17	キリストへの信仰を捨てなかった	偶像礼拝、不道德、異端を黙認する	悔い改めよ	隠されたマナと新しい名の記された小石を受ける
ティアティラ 2:18-29	最初のことばにまざる行い。愛、信仰、奉仕、忍耐	偶像礼拝、不品行、異端的な預言者を黙認している	悔い改めよ、そうでないと裁く、信仰に堅く立て	勝利を得る者に明けの明星を得させる
サルディス 3:1-6	少数ながら衣を汚さなかった者たちがいる。	実は死んでいる	聞いたことを思い起し、守り抜き、悔い改めよ	白い着物を着て、キリストとともに歩む
フィアデルフィア 3:7-13	力は弱かったが、み言葉を守り、名を恥じなかった。	なし	忍耐と堅く信仰を保て	神の神殿の柱にする
ラオデキア 3:14-22	なし	冷たくも、熱くもない	試練に耐え、霊的な覚醒をせよ	キリストと共に食事をする

未来への預言 4章－22章

4章 天上の礼拝

ヨハネは天上の礼拝に引き上げられる。24人の長老と7つのともし火がキリストの玉座の周りを囲み礼拝をしている。4つの霊的な生き物が賛美しつつ、主を礼拝している。

5章 子羊こそ4物を開くにふさわしいお方

6章 7つの封印が開かれる

- ①第1の封印 — 白い馬（勝利の王）
- ②第2の封印 — 赤い馬（内乱）
- ③第3の封印 — 黒い馬（ききん）
- ④第4の封印 — 青ざめた馬
- ⑤第5の封印 — 殉教者の声
- ⑥第6の封印 — 天変地異による神の怒り
- ⑦第7の封印 — 7つのラッパが御使いに与えられる

7章 刻印を押されたイスラエルの子ら白い衣を着た大群衆

8・9章 第七の封印が開かれる 天使のラッパと災い

- ①第1の天使がラッパを吹いた。－ 地上の3分の1が焼けた
- ②第2の天使がラッパを吹いた。－ 海の3分の1が血となった
- ③第3の天使がラッパを吹いた。－ 川の水の3分の1が苦くなった
- ④第4の天使がラッパを吹いた。－ 太陽、月、星の3分の1が暗くなった
- ⑤第5の天使がラッパを吹いた。－ いなごの群れが不信仰な者を苦しめる
- ⑥第6の天使がラッパを吹いた。－ 人類の3分の1が殺される

10章 天使が小さな巻物を渡す

11章 二人の証人

- ⑦第7の天使がラッパを吹いた。－ 天上での礼拝光景（第7のラッパによる災害は、7つの鉢のさばきとなって現われる）

12章 女と竜

13章 2匹の獣

14章 14万4千人の歌 三人の天使の言葉 鎌が地に投げ入れられる

15章 最後の7つの災い

16章 神の怒りを盛った7つの鉢

この章では7人の御使いがそれぞれ7つの鉢を携えて、それをぷちまけることによって起きる災害を記している。

- ①第1の鉢 － 悪性の腫れ物
- ②第2の鉢 － 血の海
- ③第3の鉢 － 水の異変
- ④第4の鉢 － 太陽の異変
- ⑤第5の鉢 － 暗黒の苦痛
- ⑥第6の鉢 － 汚れた霊の活動（ハルマゲドンの戦い － 16:16）
- ⑦第7の鉢 － 地震の被害

17章 大淫婦バビロンの裁き

18章 バビロンの滅亡

19章 小羊の婚宴 白馬の登場と「誠実」と「真実」なる方の現われ（再臨）

20章 千年間の支配とサタンの敗北、最後の裁き

千年の間、サタンは行動の自由を失い、殉教者が生き返ってキリストと共に王となる。千年が終わるとサタンは再び出てくるが、火と硫黄の地に投げ込まれる。

21章 新しい天と新しい地、新しいエルサレム

22章 以前の天と地は過ぎ去り、新しいエルサレムには神の栄光が満ちている。

もはや、夜はなく、ともし火の光も太陽の光も要らない。神である主が僕たちを照らし、彼らは世々限りなく統治するからである。（22:5）

以上すべてを証しする方が、言われる。「然り、わたしはすぐに来る。」アーメン、主イエスよ、来てください。

主イエスの恵みが、すべての者と共にあるように（22:20）。

千年王国と再臨（19、20 章）

黙示録を理解すること

黙示録を読むとき明らかなことは、わかりにくいことです。黙示録は出来事の描写に多くの象徴を組み込んでいるので、多くの違った解釈があり、説明が難しいのです。

例えば、携挙（けいきょ：クリスチャンが天に挙げられること、I テサロニケ 4:16－17）は大患難の前、後なののでしょうか。それとも途中なののでしょうか。どの時点で、千年王国（黙示 20:1－3）が起こるのでしょうか。裁きの順序はなどです。

もし、クリスチャンが早い時期に携挙されて、その後、大患難で死ぬクリスチャンが生き返って、キリストと共に治めるとすれば、さばきの白い御座に残る人々は、イエス様を拒絶して地獄に行く運命にある者たちだけになります（黙示 20:11－15）。

しかし、この千年王国（20 章）について三つの基本的な解釈がある。

無千年王国（非・千年王国）説（amillennialism）

千年王国を象徴的に解釈します。この説はイエス様の統治は地上や天国にいる信者の心の中、と考えています。アウグスティヌス、ルターなどもこの説をとります。

後千年王国説（postmillennialism）

イエス様の再臨は千年王国の後だと解釈します。この説は、福音宣教によって、また、人類の文化の進歩によって世界はよくなり、キリストの教えと原則に従うものと考えます。千年間の統治とキリストの再臨は、霊的発展の絶頂なのだと考えます。

前千年王国説（premillennialism）

黙示録の出来事をできるだけ文字通りに受け取ります。イエスの再臨（19:11-12）は千年王国の前に起きるのです（20:1－6）。しかし、この説をとる人たちの間でも、大患難に関して、いつ信者の携挙が起こるのか一致しません。

み言葉のしおり

ヨハネの黙示録

- 1) ヨハネから、アジヤにある七つの教会へ。常にいまし、昔いまし、後に来られる方から、また、その御座の前におられる七つの御霊から、また、忠実な証人、死者の中から最初によみがえられた方、地上の王たちの支配者であるイエス・キリストから、恵みと平安が、あなたがたにあるように。イエス・キリストは私たちを愛して、その血によって私たちを罪から解き放ち、また、私たちを王国とし、ご自分の父である神のために祭司としてくださった方である。キリストに栄光と力とが、とこしえにあるように。アーメン。 ヨハネの黙示録 1 章 4～6 節

それで私は、この方を見たとき、その足もとに倒れて死者のようになった。しかし彼は右手を私の上に置いてこう言われた。「恐れるな。わたしは、最初であり、最後であり、生きている者である。わたしは死んだが、見よ、いつまでも生きている。また、死とハデスとのかぎを持っている。そこで、あなたの見た事、今ある事、この後に起こる事を書きしるせ。 ヨハネの黙示録 1 章 17～19 節

- 2) しかし、あなたには非難すべきことがある。あなたは初めの愛から離れてしまった。それで、あなたは、どこから落ちたかを思い出し、悔い改めて、初めの行ないをしなさい。もしそうでなく、悔い改めることをしないならば、わたしは、あなたのところに行って、あなたの燭台をその置かれた所から取りはずしてしまおう。 ヨハネの黙示録 2 章 4～5 節

あなたが受けようとしている苦しみを恐れてはいけない。見よ。悪魔はあなたがたをためすために、あなたがたのうちのある人たちを牢に投げ入れようとしている。あなたがたは十日の間苦しみを受ける。死に至るまで忠実でありなさい。そうすれば、わたしはあなたにいのちの冠を与えよう。 ヨハネの黙示録 2 章 10 節

ただ、あなたがたの持っているものを、わたしが行くまで、しっかりと持っていなさい。勝利を得る者、また最後までわたしのわざを守る者には、諸国の民を支配する権威を与えよう。 ヨハネの黙示録 2 章 25～26 節

- 3) 勝利を得る者は、このように白い衣を着せられる。そして、わたしは、彼の名をいのちの書から消すようなことは決してしない。わたしは彼の名をわたしの父の御前と御使いたちの前で言い表わす。 ヨハネの黙示録 3 章 5 節

「わたしは、あなたの行ないを知っている。見よ。わたしは、だれも閉じることのできない門を、あなたの前に開いておいた。なぜなら、あなたには少しばかりの力があって、わたしのことばを守り、わたしの名を否まなかったからである。 ヨハネの黙示録 3 章 8 節

わたしは、愛する者をしかったり、懲らしめたりする。だから、熱心になって、悔い改めなさい。 ヨハネの黙示録 3 章 19 節

見よ。わたしは、戸の外に立ってたく。だれでも、わたしの声を聞いて戸をあけるなら、わたしは、彼のところにはいつて、彼とともに食事をし、彼もわたしとともに食事をする。 ヨハネの黙示録 3 章 20 節

- 4) 「主よ。われらの神よ。あなたは、栄光と誉れと力とを受けるにふさわしい方です。あなたは万物を創造し、あなたのみこころゆえに、万物は存在し、また創造されたのですから。」 ヨハネの黙示録 4 章 11 節

- 5) すると、長老のひとりが、私に言った。「泣いてはいけない。見なさい。ユダ族から出たしし、ダビデの根が勝利を得たので、その巻き物を開いて、七つの封印を解くことができます。」 ヨハネの黙示録 5 章 5 節

彼らは、新しい歌を歌って言った。「あなたは、巻き物を受け取って、その封印を解くのにふさわしい方です。あなたは、ほふられて、その血により、あらゆる部族、国語、民族、国民の中から、神のために人々を贖い、私たちの神のために、この人々を王国とし、祭司とされました。彼らは地上を治めるのです。」 ヨハネの黙示録 5 章 9～10 節

- 6) 私は見た。見よ。青ざめた馬であった。これに乗っている者の名は死といい、そのあとにはハデスがつき従った。彼らに地上の四分の一を剣とききんと死病と地上の獣によって殺す権威が与えられた。 ヨハネの黙示録 6 章 8 節

小羊が第五の封印を解いたとき、私は、神のことばと、自分たちが立てたあかしとのために殺された人々のたましいが祭壇の下にいるのを見た。彼らは大声で叫んで言った。「聖なる、真実な主よ。いつまでさばきを行なわず、地に住む者に私たちの血の復讐をなさらないのですか。」すると、彼らのひとりひとりに白い衣が与えられた。そして彼らは、「あなたがたと同じもべ、また兄弟たちで、あなたがたと同じように殺されるはずの人々の数が満ちるまで、もうしばらくの間、休んでいなさい。」と言い渡された。 ヨハネの黙示録 6 章 9～11 節

- 7) 彼らは、大声で叫んで言った。「救いは、御座にある私たちの神にあり、小羊にある。」御使いたちはみな、御座と長老たちと四つの生き物との回りに立っていたが、彼らも御座の前にひれ伏し、神を拝して、言った。「アーメン。賛美と栄光と知恵と感謝と誉れと力と勢いが、永遠に私たちの神にあるように。アーメン。」 ヨハネの黙示録 7 章 10～12 節

そこで、私は、「主よ。あなたこそ、ご存じです。」と言った。すると、彼は私にこう言った。「彼らは、大きな患難から抜け出て来た者たちで、その衣を小羊の血で洗って、白くしたのです。だから彼らは神の御座の前にいて、聖所で昼も夜も、神に仕えているのです。そして、御座に着いておられる方も、彼らの上に幕屋を張られるのです。彼らはもはや、飢えることもなく、渇くこともなく、太陽もどんな炎熱も彼らを打つことはありません。なぜなら、御座の正面におられる小羊が、彼らの牧者となり、いのちの水の泉に導いてくださるからです。また、神は彼らの目の涙をすっかりぬぐい取ってくださるのです。」 ヨハネの黙示録 7 章 14～17 節

- 8) 香の煙は、聖徒たちの祈りとともに、御使いの手から神の御前に立ち上った。 ヨハネの黙示録 8 章 4 節

第四の御使いがラッパを吹き鳴らした。すると、太陽の三分の一と、月の三分の一と、星の三分の一とが打たれたので、三分の一は暗くなり、昼の三分の一は光を失い、また夜も同様であった。 ヨハネの黙示録 8 章 12 節

- 9) これらの災害によって殺されずに残った人々は、その手のわざを悔い改めないで、悪霊どもや、金、銀、銅、石、木で造られた、見ることも聞くことも歩くこともできない偶像を拝み続け、その殺人や、魔術や、不品行や、盗みを悔い改めなかった。 ヨハネの黙示録 9 章 20～21 節

- 10) 永遠に生き、天とそこにあるもの、地とそこにあるもの、海とそこにあるものを創造された方をさして、誓った。「もはや時が延ばされることはない。 ヨハネの黙示録 10 章 6 節

- 11) 「万物の支配者、常にいまし、昔います神である主。あなたが、その偉大な力を働かせて、王となられたことを感謝します。諸国の民は怒りました。しかし、あなたの御怒りの日が来ました。死者のさばかれる時、あなたのしもべである預言者たち、聖徒たち、また小さい者も大きい者もすべてあなたの御名を恐れかしこむ者たちに報いの与えられる時、地を滅ぼす者どもの滅ぼされる時です。」 ヨハネの黙示録 11 章 17～18 節

- 12) そのとき私は、天で大きな声が、こう言うのを聞いた。「今や、私たちの神の救いと力と国と、また、神のキリストの權威が現われた。私たちの兄弟たちの告発者、日夜彼らを私たちの神の御前で訴えている者が投げ落とされたからである。兄弟たちは、小羊の血と、自分たちのあかしのことばのゆえに彼に打ち勝った。彼らは死に至るまでもいのちを惜しまなかった。それゆえ、天とそこの中に住む者たち。喜びなさい。しかし、地と海とには、わざわいが来る。悪魔が自分の時の短いことを知り、激しく怒って、そこに下ったからである。」 ヨハネの黙示録 12 章 10～12 節

- 13) また、小さい者にも、大きい者にも、富んでいる者にも、貧しい者にも、自由人にも、奴隷にも、すべての人々にその右の手かその額かに、刻印を受けさせた。また、その刻印、すなわち、あの獣の名、またはその名の数字を持っている者以外は、だれも、買うことも、売ることもしないようにした。 ヨハネの黙示録 13 章 16～17 節

- 14) また、第三の、別の御使いも、彼らに続いてやって来て、大声で言った。「もし、だれでも、獣とその像を拝み、自分の額か手かに刻印を受けるなら、そのような者は、神の怒りの杯に混ぜ物なしに注がれた神の怒りのぶどう酒を飲む。また、聖なる御使いたちと小羊との前で、火と硫黄とで苦しめられる。そして、彼らの苦しみの煙は、永遠にまでも立ち上る。獣とその像とを拝む者、まただれでも獣の名の刻印を受ける者は、昼も夜も休みを得ない。神の戒めを守り、イエスに対する信仰を持ち続ける聖徒たちの忍耐はここにある。」 ヨハネの黙示録 14 章 9～12 節

- 15) 彼らは、神のしもべモーセの歌と小羊の歌とを歌って言った。「あなたのみわざは偉大であり、驚くべきものです。主よ。万物の支配者である神よ。あなたの道は正しく、真実です。もろもろの民の王よ。主よ。だれかあなたを恐れず、御名をほめたたえない者があるでしょうか。ただあなただけが、聖なる方です。すべての国々の民は来て、あなたの御前にひれ伏します。あなたの正しいさばきが、明らかにされたからです。」 ヨハネの黙示録 15 章 3～4 節

- 16) ——見よ。わたしは盗人のように来る。目をさまして、身に着物をつけ、裸で歩く恥を人に見られないようにする者は幸いである。—— ヨハネの黙示録 16 章 15 節

- 17) この者どもは小羊と戦いますが、小羊は彼らに打ち勝ちます。なぜならば、小羊は主の主、王の王だからです。また彼とともにいる者たちは、召された者、選ばれた者、忠実な者だからです。」 ヨハネの黙示録 17 章 14 節

- 18) おお、天よ、聖徒たちよ、使徒たちよ、預言者たちよ。この都のことで喜びなさい。神は、あなたがたのために、この都にさばきを宣告されたからです。」 ヨハネの黙示録 18 章 20 節

19) 私たちは喜び楽しみ、神をほめたたえよう。小羊の婚姻の時が来て、花嫁はその用意ができたのだから。花嫁は、光り輝く、きよい麻布の衣を着ることを許された。その麻布とは、聖徒たちの正しい行ないである。」御使いは私に「小羊の婚宴に招かれた者は幸いだ、と書きなさい。」と言い、また、「これは神の真実のことばです。」と言った。
ヨハネの黙示録 19 章 7～9 節

20) また私は、多くの座を見た。彼らはその上にすわった。そしてさばきを行なう権威が彼らに与えられた。また私は、イエスのあかしと神のことばとのゆえに首をはねられた人たちのたましいと、獣やその像を拝まず、その額や手に獣の刻印を押されなかった人たちを見た。彼らは生き返って、キリストとともに、千年の間王となった。そのほかの死者は、千年の終わるまでは、生き返らなかった。これが第一の復活である。この第一の復活にあずかる者は幸いな者、聖なる者である。この人々に対しては、第二の死は、なんの力も持っていない。彼らは神とキリストとの祭司となり、キリストとともに、千年の間王となる。 ヨハネの黙示録 20 章 4～6 節

また私は、大きな白い御座と、そこに着座しておられる方を見た。地も天もその御前から逃げ去って、あとかたもなくなった。また私は、死んだ人々が、大きい者も、小さい者も御座の前に立っているのを見た。そして、数々の書物が開かれた。また、別の一つの書物も開かれたが、それは、いのちの書であった。死んだ人々は、これらの書物に書きしるされているところに従って、自分の行ないに応じてさばかれた。 ヨハネの黙示録 20 章 11～12 節

21) そのとき私は、御座から出る大きな声がこう言うのを聞いた。「見よ。神の幕屋が人とともにある。神は彼らとともに住み、彼らはその民となる。また、神ご自身が彼らとともにおられて、彼らの目の涙をすっかりぬぐい取ってください。もはや死もなく、悲しみ、叫び、苦しみもない。なぜなら、以前のものが、もはや過ぎ去ったからである。」すると、御座に着いておられる方が言われた。「見よ。わたしは、すべてを新しくする。」また言われた。「書きしるせ。これらのことばは、信ずべきものであり、真実である。」 ヨハネの黙示録 21 章 3～5 節

都には、これを照らす太陽も月もない。というのは、神の栄光が都を照らし、小羊が都のあかりだからである。諸国の民が、都の光によって歩み、地の王たちはその栄光を携えて都に来る。 ヨハネの黙示録 21 章 23～25 節

22) 御使いはまた、私に水晶のように光るいのちの水の川を見せた。それは神と小羊との御座から出て、都の大通りの中央を流れていた。川の両岸には、いのちの木があって、十二種の実がなり、毎月、実ができた。また、その木の葉は諸国の民をいやした。もはや、のろわれるものは何もない。神と小羊との御座が都の中にあって、そのしもべたちは神に仕え、神の御顔を仰ぎ見る。また、彼らの額には神の名がついている。 ヨハネの黙示録 22 章 2～4 節

これらのことをあかしする方がこう言われる。「しかり。わたしはすぐに来る。」アーメン。主イエスよ、来てください。
ヨハネの黙示録 22 章 20 節

ヨハネの黙示録の学びのための質問

黙示録 1 章

入門と挨拶 1:1-8

1. 神様は黙示録をどのように与えて下さいましたか。(1, 2)
2. 黙示録の主な内容は何ですか。(1, 2)
3. 黙示録は将来の出来事の時期について何を語りますか。(1, 3) 私たち人間の「すぐ」はと神様の「すぐ」それぞれどんなものですか。(2 ペテロ 3:8-10 を参照に)
4. どの様な人は幸いですか。何故ですか。(3; 22:14 を参照に)
5. 黙示録は誰に送られましたか。(4)
6. 神様はどのようなお方ですか。(4, 5, 8)
7. 恵みと平安はなんですか。それらにどの様に預かる事が出来ますか。
8. イエス様はどのようなお方ですか。(5)
9. イエス様はその者のために何を成し遂げられましたか。(5, 6)
10. 主の者は王国であり、祭司である事はどんな意味ですか。(6; 1 ペテロ 2:5, 9 を参照に)
11. 賛美は黙示録の中にどの様に拡大しますか。(6; 4:11; 5:12, 13; 7:12; 19:6-8 を参照に)
12. イエス様の再臨はどのように起こりますか。(7; マタイ 24:27; 25:31-32; マルコ 13:24-27; 黙示録 22:12 を参照に)
13. 神様が「アルファであり、オメガである」事はどんな意味ですか。(8; 22:13 を参照に)

天上におられるキリストの姿 1:9-20

14. イエス様に従う事によってどのような事が起こり得るのですか。(9; ルカ 9:23-26 を参照に)
15. ヨハネは何故パトモス島にいましたか。(9)
16. ヨハネはその幻をいつ受けましたか。(10)
17. 黙示録はどのように書かれましたか。(11) 誰の為に書かれていますか。(2 ペテロ 1:19-21 を参照に)
18. イエス様がちょうど私たちに語って下さるのはどんな意味がありますか。(10,12)
19. 金の燭台はどんな意味でしょうか。(12,20)
20. イエス様が燭台の真ん中におられることは私たちにとってどんな意味でしょうか。(13)
21. 蘇って栄光の中のイエス様の姿はどんなものですか。(13-16)
22. 栄光のイエス様の髪の毛の色は何でしたか。何故でしょうか。(14)
23. イエス様の目の姿は私たちに何を物語りますか。(14)
24. イエス様の描写の中に「何々のように」と言う表現は繰り返されますが、何故でしょうか。(14-16)
25. イエス様の御顔はどの様ですか。(16; 使徒 22:6-8; 黙示録 21:22-24; ヨハネ 8:12 を参照に)
26. ヨハンが見た七つの星は何でしょうか。それらは何処にいましたか。(16,20; 2:1,8,12,18; 3:1,7,14 を参照に)
27. イエス様の口からでる刀は何を指しますか。(16; ヘブル 4:12-13; 黙示録 19:15 を参照に)
28. イエス様の清さの御前でどうして恐れる必要がありませんか。(17-18)
29. 黙示録の内容は何ですか。(19)
30. キリスト教会とその指導者の秘められた意味は何ですか。(20)

黙示録 2章

エペソ教会への手紙 2:1-7

1. イエス様は何故この手紙をエペソ教会のみ使い(指導者)に宛てたでしょうか。(1) 教会の牧会者の責任はどのようなものですか。
2. イエス様はご自分をどう描写しますか。(1) 何故語るご自分を強調しますか。
3. イエス様はエペソ教会にどのようなよい評価を与えて下さいましたか。(2,3,6) あなたの教会とあなたにイエス様はどのような評価を与えるでしょうか。
4. イエス様は何を我慢しません。私たちも我慢してはいけないのは何ですか。(2) 現代の寛容主義をどう考えるべきですか。
5. キリスト教を代表すると主張する教師やメッセンジャーをどう吟味すべきですか。(2)
6. イエス様のみ名のためにくる反対にどの様に疲れずに抵抗出来ますか。(3)
7. 私たちの生き方にイエス様が非難しなければならないところがありますか。どのような事柄でしょうか。(4)
8. 初めの愛は何を指しますか。(4)
9. イエス様に対する初めのころの愛にどの様に返ることが出来ますか。(5)
10. 悔い改めは何ですか。それをどのようにすべきですか。(5; マルコ 1:14-15; 使徒 3:18-20 を参照に)
11. 悔い改めがもたらす実は何ですか。(5; マタイ 3:8-10 を参照に)
12. 悔い改めを拒否したらどうなりますか。(5) 個人的なレベルと教会のレベルでそれぞれどのような結果になりますか。エペソの教会はどうなったでしょうか。
13. イエス様は何を憎んでおられますか。私たちもそれを憎むべきですか。(6; 2:14-15 を参照に)
14. 信仰生活の秘訣は何ですか。(7)
15. 勝利を得る人にどのような贈り物が与えられますか。(7; 2:11,17,26-28; 3:5,12,21 を参照に)
16. 勝利を得る人は誰で、どのように勝利を得ますか。何に対する勝利ですか。(7; 7:13-17 を参照に)

スミルナとペルガモンにある教会にあてた手紙 2:8-17

17. イエス様は 8 節と 12 節でご自分をどう描写しますか。それは私たちにとってどういう意味ですか。(1:8,16 を参照に)
18. 貧乏と困難の中に本当の豊かさは何ですか。(9)
19. イエス様はどうしてあるユダヤ人をサタンの会衆の者と呼びますか。(9) それは迫害と異端の性質について何を物語っていますか。
20. キリスト者が迫害を恐れなくてもよいという事は何に基づきますか。(10)
21. ルターの有名な言葉「悪魔も神様の悪魔だ」というのは何を意味するのでしょうか。(10)
22. キリスト者が経験する苦難は時間的に制限されている事は私たちにとってどういう意味でしょうか。(10)
23. 死まで忠実である事はどのように可能ですか。(10; マタイ 10:28-31; ヤコブ 1:12 を参照に)
24. 第二の死は何ですか。第一は何ですか。死の本質と理由は何ですか。(11; 20:14; 21:8 を参照に)
25. サタンが王座をどこかで持つことはどのように現れますか。(13) キリスト者はそのようなところでどの様に生きる事が出来ますか。

26. アンチパスはどのような人物でしたか。(13) 彼も他のペルガモンのキリスト者も迫害の中にキリストを否定しなかった理由は何ですか。私たちはどうですか。
27. バラムとニコライ派の教えは現代にどのような様に現れますか。(14-15) 自分で不品行や異端的な教えから自由であっても、教会の中にそのような人がいたら、彼らに対して私たちの責任は何ですか。
28. 悔い改めを怠ったらどうなりますか。(16)
29. 隠れたマナ、白い石、新しい名は何でしょうか。(17)
30. 新しい名を本人以外が知らないのは何故ですか。(17)

ティアティラにある教会にあてた手紙 2:18-29

31. イエス様の目とその足はその本質について何を物語っていますか。(18)
32. イエス様は信仰者の生き方の中に何を評価なさいますか。(19) 私たちはどうでしょうか。
33. キリスト者の成長はどのように現れますか。(19)
34. 異端的な教えはどのような結果をもたらせますか。何故でしょうか。(20)
35. 新約聖書の預言者の賜物はどんなものですか。それをどう使うべきですか。その使い方にどのような危険性がありますか。(20; 1 コリント 12:28-31; 14:1, 3, 5, 23-25, 29-33 を参照に)
36. イエス様の忍耐深さはどう現れますか。(21)
37. イエス様は異端に走った預言者と彼女に従った人々をどう扱いましたか。(22-23)
38. 神様の裁きは今の人生の中にもどの様に行われますか。何故ですか。(23)
39. イゼベルの教えの中心はなんだってでしょうか。私たちにはサタンとの関係においてどのような危険がありますか。(24)
40. 今持っていて固く守らなければものは何ですか。(25)
41. 勝利を得るには何が必要ですか。(26)
42. 勝利した教会にどのような権威と使命が与えられますか。何時ですか、又何のためですか。(26-27; マタイ 19:28; 1 コリント 6:2; 黙示録 20:4-6 を参照に)
43. 明けの明星が与えられるのはどういう意味ですか。(28; 22:16; 2 ペテロ 1:19 を参照に)

黙示録 3章

サルディスとフィラデルフィアにある教会にあてた手紙 3:1-13

1. 教会とその指導者は目を覚まさないとなどのような状態になりえますか。(1)
2. 主は私たちの教会の状態をどう見られるでしょうか。(1,2)
3. 目を覚ます事はどんな事ですか。そのような状態をどう保つことが出来ますか。(2,3,11; 16:15; マタイ 24:42-44; 26:41; コロサイ 4:2 を参照に)
4. 他の信仰者の状態に対して私たちはどのような責任がありますか。(2)
5. 霊的な服を清いままに保つのはどう出来ますか。(4; 7:14 を参照に) その結果どうなりますか。
6. 天国のいのちの本に自分の名前をどう書いて頂けますか。(5)
7. どの様に認められる事が非常に大切ですか。(5)
8. ダビデの鍵は何でしょうか。(7; 20:1-3 を参照に) 私たちにどの様な鍵が与えられていますか。(マタイ 16:19 を参照に)
9. 主はどのようなドアを開いて下さいますか。(8; 1 コリント 16:8-9 を参照に)
10. 私たちの生き方において何が力より大切ですか。(8)
11. もし私たちが主のみ言葉に留まるなら、どのような主の愛を経験する事になりますか。(9)
12. 終わりの時代の嵐の中に主はその教会の世話をどうなさいますか。(10; 7:3; 9:4; 12:6; 17:14 を参照に)
13. 「私はすぐ来る」か「私はくる」と言う表現は黙示録の中に何回出ますか。(11; 2:16,25; 3:20; 16:15; 22:7,12,20 を参照に)
14. 私たちの冠は何ですか。(11; 22:14; 1 コリント 9:25; 1 テサロニケ 2:29; ヤコブ 1:12 を参照に)
15. 聖所の柱の役割は何でしょうか。(12)
16. 新しい名はどういう意味でしょうか。(12)

ラオディキアにある教会にあてた手紙 3:14-22

17. 「アーメン」と言う言葉の意味は何ですか。(14) 祈りの終わりにアーメンはどんな役割を持ちますか。(ローマ 16:27; 1 コリント 14:16; 黙示録 5:14; 22:20 を参照に)
18. イエス様と自然界の関係はどのようなものですか。(14; コロサイ 1:13-17; ヘブル 1:1-3 を参照に)
19. 私たちの行いは何を物語りますか。(15)
20. どうして生ぬるい状態より冷たさの方が良いのですか。(15)
21. 教会が貧しいでありながらも自分が富んでいると言う錯覚に陥る事はどのして起こりえますか。(17)

22. 純粋な悔い改めの条件は何ですか。(17) 私たちの今の状態はどうですか。
23. イエス様が売ろとする「火で精練された金」は何でしょうか。(18)
24. 私たちはどのような服を必要としますか。(18)
25. イエス様が与えて下さる目に塗る目薬は何でしょうか。(18) 私たちの信仰の目の状態はどうでしょうか。
26. 私たちに対する主の愛について何が語りますか。(19)
27. イエス様が教会の外からその中へ入るためにドアを叩かなければならない事態を何が招いたのでしょうか。(20)
28. 生ぬるい教会とキリスト者の希望は何処にあるのでしょうか。何故ですか。(20)
29. イエス様が私たちの心の真ん中にも教会の真ん中にも来られる事はどのような影響をもたらせますか。(20)
30. 勝利を得た人がイエス様と共に同じみ座に座る事がどのような恵みでしょうか。(21)
31. 聖霊様は私たちの教会に何を話そうとなさいますか。(22)

黙示録 4章

天上の礼拝 4:1-11

1. もし1章～3章は諸教会の現在の状態を描写するなら、黙示録は4章以降は何について語りますか。(1)
2. ヨハネは将来の出来事を観察するように天に上げられました。黙示録の中に天で行われる事と地上で起こる事の関係はどんなものですか。(1)
3. 黙示録の主なメッセージは何ですか。(2-3)
4. 神様の美しさはどう描写されますか。(3) すべて本当の美しさの由来は何処からですか。何故でしょうか。
5. 二十四人の長老たちが誰でしょうか。彼らは神様とどのような関係に居ますか。(4,10-11; 5:5,8,14; 7:13を参照に)
6. 長老たちには金の冠があるのは何を物語りますか。(4; 2:10; ヤコブ 1:12を参照に)
7. いなずまと声と雷鳴は神様について何を語りますか。(5; 8:5; 11:19を参照に)
8. 聖霊様について「灯」と言う表現は何を表しますか。(5; ルカ 12:49-50を参照に)
9. み座の前の四つの生き物は誰でどのような存在でしょうか。彼らの使命は何ですか。(6-9; 6:1,3,5,7; 15:7; 19:4を参照に)
10. この章の中に天国の賛美の理由は何ですか。(8,11)
11. 生き物と長老たちはその冠をみ座の前に投げるのは何を意味しますか。(10) あなたの最終的な使命は何でしょうか。
12. 被造物は何故存在しますか。(11)

黙示録 5章

小羊こそ巻物を開くにふさわしい 5:1-14

1. 巻物は誰の手にありましたか。その内容は何ですか。(1; 6:1-2を参照に)
2. なぜ天にも地上にも小羊を除いて誰も巻物を開くことが出来なかったのでしょうか。(2-3)
3. ヨハネは何故泣きましたか。(4) 私たちはどのような理由で泣きましたか。
4. イエス・キリスト様はこの章のなかにどのような表現で描写されますか。(5,6) それらは私たちにとってどういう意味でしょうか。
5. イエス様はどうして封印を開くことが出来て、世界の歴史を終わりまで導く事が出来ますか。(5,9,10)
6. イエス様は6節でどう描写されますか。(ヨハネ 20:25-27を参照に) 角と目は何を指しますか。
7. 終わりの時代の出来事を開く中に父なる神様とイエス・キリスト様との関係はどうですか。
8. 神様の世界支配において聖徒の祈りはどのような役割を果たしますか。(8; 8:3-5を参照に)
9. 天国の新しい賛美の内容は何ですか。(9-10,12,13)
10. 救いはどのように行われますか。救われた人々にどのような使命が与えられますか。(9-10; 20:6; 1ペテロ 2:5,9を参照に)
11. み使いたちの数はどの位ですか。彼らは小羊をどのように賛美しますか。(11-12)
12. あらゆる造られた者の賛美の対象は誰ですか。(13) どうして聖霊様は賛美の対象として出て来ませんか。
13. 賛美の本質は何ですか。あなたは毎日の生活の中にどの様に神様を賛美しますか。

黙示録 6章

六つの封印が開かれる 6:1-17

1. 封印を開いたのは誰ですか。(1,3,5,7,9,12)それは私たちにとってどういう意味ですか。(ローマ 8:31-31を参照に)
2. 「来なさい」と言う表現は神様の計画について何を語りますか。(1,3,5,7; 19:11; ゼカリヤ 6:1-8を参照に)
3. 白い馬に乗ったのは誰ですか。何をしに行きましたか。どのような勝利の事でしょうか。(2; 19:11-16を参照に)

4. 平和はどうして有効ですか。どうして平和が取り除かれましたか。(4; マタイ 24:6-7 を参照に)世界平和の為に何故祈らなければなりませんか。
5. イエス様の再臨の前に人類は大飢饉に遭うのは何故でしょうか。(5-6) 今日毎日の糧を頂けるのは何故ですか。
6. 死とハデス(黄泉)はどのような破滅的な力ですか。神様はどうしてそれらを用いますか。(8; レビ記 26:21-26; エゼキエル 14:21 を参照に)それらの最終的な運命は何ですか。(黙示録 20:13-14 を参照に)
7. キリストの為に殉教された人の魂は今何処にいますか。(9)
8. 殉教者たちはどうして神様から復讐を求めたでしょうか。(10; 使徒 7:60 を参照に)
9. 神様はその者の殉教をどうして許しますか。(11)
10. イエス様の再臨の前にどのような自然界の災害が起こりますか。(12-14; イザヤ 13:9-13; ヨエル 2:10-13; マタイ 24:29-31 を参照に)
11. イエス様の再臨に対して人々はどのように反応しますか。(15-17; 9:20-21 を参照に)

黙示録 7章

刻印を押されたイスラエルの子ら 7:1-8

1. 悔い改めない人類に対する神様の裁きはどのようなタイミングで陸と海の上に行われますか。(1-2)
2. 主の者にどのような封印が押されますか。何故ですか。(2-3; 9:4; エゼキエル 9:4-6; イザヤ 3:33; 2 コリント 1:22; エペソ 1:13 を参照に)
3. 144000 という数字はどういう意味でしょうか。(4; 14:1-5 を参照に)
4. 神様はその約束の国民であるイスラエルとその 12 部族に対してどのような計画を持っていますか。(4-8; ローマ 11:1-2, 25-27 を参照に)
5. ダン族がどうして部族のリストにないのでしょうか。(4-8)

白い衣を着た大群衆 7:9-17

6. 天の御国にどのような人がいますか。どの位の人数でしょうか。(9)
7. 人々の服はどのようなものですか。(9, 13, 14; 19:8 を参照に)
8. 救われた人々は手で何を持っていますか。彼らは何をしまあすか。(9-10, 15; ヨハネ 12:13 を参照に)今地上で私たちにとって最も大切な使命は何でしょうか。
9. 救いは誰から来ますか。救いの内容は何ですか。どのように救いに預かる事が出来ますか。(10; ルカ 1:69, 77-79; 2 コリント 7:10; エペソ 1:13; 2 テサロニケ 2:13; 2 テモテ 2:10; テトス 2:11-14; ヘブル 5:9 を参照に)
10. 神様を賛美する事は私たちにとってどんな意味がありますか。賛美の本質は何ですか。(11-12)あなたの信仰生活と祈りの生活の中に賛美はどのような役割を果たしますか。
11. 救われた人々が抜けて来た「大きな患難」は何を指しますか。(14; イザヤ 63:9; ダニエル 12:1-2; ザカリヤ 10:11-12; マタイ 24:9, 21-22; ヨハネ 16:33; 使徒 14:22; ローマ 5:3-5; 2 コリント 4:17 を参照に)
12. 天の御国はどんな所でしょうか。(15-17; 21:3-4; 22:22-24; イザヤ 4:5-6 を参照に)天国を天国にするのは何ですか。あなたは天国に憧れていますか。
13. 天の御国で小羊はその者に何をなさいますか。(17; ヨハネ 10:11, 14-16)
14. 神様が私たちの涙を脱ぐとはどのような意味ですか。(17; イザヤ 25:8 を参照に)あなたはどのような涙を流しますか。

黙示録 8章

第七の封印が開かれる 8:1-5

1. 封印を誰が開かれたでしょうか。(1)
2. 天国の静けさは何を語りますか。(1)
3. セツ目の封印に何が含まれますか。(2; 10:7; 11:15; ヨシヤ 6:4-6; 1 歴代 16:6; 詩篇 150:3; イザヤ 58:1; マタイ 24:31; 1 コリント 15:52 を参照に)
4. 生徒たちの祈りは神様の世界支配にどのように関わっていますか。(3-5; 5:8 を参照に)
5. 私たちの祈りが天国に届く事を何が保証しますか。(4)

天使のラッパと災い 8:6-13

6. 封印を開いたのは小羊でしたが、ラッパを吹くのはみ使いです。どうしてでしょうか。(6)
7. 一番目のラッパの結果何が起こりますか。(7)
8. 二番目のラッパの結果何が起こりますか。「大きな山のようなもの」は何でしょうか。(8-9; 16:3; 出エジプト 7:20 を参照に)
9. 三番目のラッパの結果何が起こりますか。(10-11; ダニエル 8:10 を参照に)
10. 苦よもぎのような水は何を指すでしょうか。(11; 「苦よもぎ」はロシア語でツエルノビルと言います)

11. 四番目のラッパの結果何が起こりますか。(12;6:12-14;出エジプト 10:21;イザヤ 13:10-11;使徒 2:19-20 を参照に)
12. ラッパを吹くみ使いの気持ちはどうでしたか。(13) 私たちは何を恐れるべきですか。

黙示録 9章

第五と第六の天使がラッパ 9:1-21

1. 五番目のラッパの結果何が起こりますか。(1-2;20:1 を参照に)
2. 底知れぬ穴は何でしょうか。それを誰が開けましたか。(1-2)
3. いなごのようなものは何でしょうか。(7-10;ヨエル 2:1-11 を参照に)現代の言葉使いで何でしょうか。
4. イナゴの使命は何でしたか。(4-5)
5. 主の者はこの時にどうなりますか。(4)
6. 人々は死にたいのにそれがなぜ許されないのでしょうか。(6,20-21)
7. 底知れぬ所の御使いはどのようなものですか。(11) 主がその支配に暗闇の使いを用いるのは何故可能ですか。
8. 地上の出来事を天国から見ると、それを「わざわい」と言う言葉で表現するのは何を物語りますか。
9. 六番目のラッパの結果何が起こりますか。(13-14)
10. 四人の御使いユーフラテスのほとりにつながれている事は何を意味するのでしょうか。(14;16:12 を参照に)
11. 15 節は神様の計画について何を語りますか。
12. 騎兵の数はどの位ですか。それらはどのような形をしますか。現代の言葉で言えばそれらは何でしょうか。(16-17,19)
13. 終わりの時期の災いの目的は何でしょうか。(20-21;出エジプト 7~11 章の出来事に比べて見て下さい。)
14. 神の民は終わりに時代の災いにごう準備すべきですか。その災いは彼らにごう関わりますか。

黙示録 10章

天使が小さな巻物を渡す 10:1-11

1. み使いは何処から来て、何処にその足を置いたでしょうか。(1,2,5)
2. み使いの姿はどうでしたか。(1) 虹は彼について何を物語りますか。(エゼキエル 1:28 を参照に)何故雲に包まれていたでしょうか。その輝く姿は何を語りますか。
3. 巻物の内容は何でしたか。(2,7,11) 神様の計画はどんなものですか。
4. 物凄い大声で叫んだのは何故でしょうか。(3-4)
5. ヨハネはどうして雷のメッセージを書いては行けなかったですか。(4;申命記 29:28;ダニエル 12:4,9-10;2 コリント 12:3-4 を参照に)
6. み使いはどのような誓いを立てましたか。誰を通しての誓いでしたか。(5-6;マタイ 5:33-37;26:63-64;ヘブル 6:16-18 を参照に)
7. み使いの誓いの内容は何でしたか。(6-7)
8. 「もはや時がない」と言う言葉の意味は何ですか。(6)
9. 預言者たちに示された「奥義」は何ですか。(7;マタイ 13:11;ローマ 2:16;16:25-26;1 コリント 15:51-53;1 テモテ 3:16 を参照に)
10. 神様の働きの基準であるよい知らせは何ですか。(7)
11. 巻物はどうして食べなければならなかったでしょうか。何故口に甘かったが、胃の中に辛かったのですか。(8-10) 私たちは聖書のみ言葉をどう食べるべきですか。
12. ヨハネが食べた巻物と小羊が封印を開いた巻物はどのような関係にあるのでしょうか。(11;5:2 を参照に)
13. 11 節は黙示録の続きの内容について何を言いますか。前に書かれた内容と続きの内容がどのような継続性と違いがあるのでしょうか。

黙示録 11章

二人の証人 11:1-14

1. ヨハネはどうしてエルサレムの神殿とそこに集まった人々を測らなければならなかったでしょうか。(1;エゼキエル 42:15;43:6-12 を参照に)
2. 神殿はどんなものですか。その役割は何ですか。(1;ヨハネ 2:14-21;1 コリント 3:16-17 を参照に)
3. 黙示録とダニエル書の中に 3 年半と言う期間が繰り返して出ますが、それはどのような期間ですか。(2-3;ダニエル 7:25;12:7;ルカ 21:27 を参照に)
4. 二人の預言者的な証人にどの様な使命が与えられましたか。何故ですか。(3-6;旧約聖書のモーセとエリヤに比べて見て下さい。ゼカリヤ 4:2-6;2 列王記 1:10;ヤコブ 5:17-18 を参照に)

5. 二人の証人はどのような人物でしたか。(4)
6. 二人がその使命を成し遂げる時にどのような守りの中にいましたか。(5)
7. 神様はその二人の使命完了の後どうして彼らに殉教を許したでしょうか。(7,11-12; ダニエル 7:21-22 を参照に)
8. 黙示録はその後半に獣について沢山語りますが、それは何ですか。どのような性質のものですか。どのような最終的な運命に向かっていますか。(7; 12:1-7; 17:8 を参照に)
9. エルサレムにはイエス様の再臨の前にどのような役割がありますか。(8; ルカ 13:33-35 を参照に) それは今どのような状態にありますか。
10. 人々は二人の証人の証しを彼らが生きていた時にどのように受けましたか。(9-10; ヨハネ 16:20 を参照に)
11. 彼らが復活して天に上げられた時にどうでしたか。(13; 2 列王記 2:11 を参照に)
12. 今は主の証人である事は私たちにどのような意味ですか。そのための権威は何処からきますか。私たちの死に方にはどんな意味がありますか。

第七の天使がラッパを吹く 11:15-19

13. 七番目のラッパのメッセージは何ですか。(15)
14. 神様にはどのような支配権がありますか。(15)
15. 天国の賛美の理由は何ですか。(16-18) 私たちの賛美の理由は今何ですか。
16. 神様の裁きが始まる時に天国で契約の箱が見えた事は私たちににとってどのようなメッセージでしょうか。

黙示録 12章

女と竜 12:1-6

1. 巨大なしるしが天に現われた事はどういう意味ですか。(1,3)
2. 産みの苦しみの中の女は誰であり、どのようなお方ですか。(1-2)
3. この出来事とクリスマス物語の関係はどうでしょうか。(5; ルカ 2:1-21 を参照に)
4. 女の息子は誰ですか。その支配はどの位ですか。(5; 19:15; 詩篇 2:9; イザヤ 66:7-9 を参照に)
5. 竜は誰ですか。どのような性質のものですか。(3,9; 13:2; 17:3,9; ダニエル 7:7 を参照に)
6. 地上に投げられた星は何でしょうか。(4)
7. 女には 3 年半の間に何が起こりましたか。(6,13-14; 11:3 を参照に) 信仰者は終わりの時代の艱難の事で心配する必要がありますか。

天国での戦争 12:7-18

8. 天国で何時戦争が起こったでしょうか。戦ったのはどの二つの戦力でしたか。結果はどうだったですか。(7-9)
9. 戦争の結果は私たちにどんな意味を持つでしょうか。(10-12; ヨブ記 1:9-11; ゼカリヤ 8:1; ヨハネ 12:31 を参照に)
10. 罪とサタンとの闘いでどのように勝利を得ますか。(11; ローマ 8:33-34 を参照に)
11. サタンはいまどこにいますか。その狙いは何ですか。(12-13,17) 何故ですか。
12. サタンはどのように教会を破壊しようとしていますか。神様はその者をどのように守って下さいますか。(15-16) 信仰者はどのように流される危険がありますか。
13. 女の子孫はどのような人々ですか。(17)
14. 竜は海辺の砂の上に留まったがその海は何でしょうか。(18)

黙示録 13章

海から上がる獣 13:1-10

1. 13 章は互いに契約関係にある二つの獣についてです。両方はその力を竜であるサタンから受けています。片方の獣は海から出て、片方は地から出る事はどういう意味でしょうか。この獣は何でしょうか。(1,11; ダニエル 7:2-12 を参照に)
2. 片方の獣に力の源である角を十本持っていますが、片方は二つしかありません。この差は何を物語りますか。片方の角は何故小羊の角に例えられるでしょうか。(1,11)
3. 一番目の獣はその権能と恐ろしさを何処から受けますか。(2)
4. サタンはキリストの真似をしようとはしますが、それは一番目の獣の場合にどう見えますか。(3-4)
5. 獣の致命的な傷も直った事は人々にどのような影響を及ぼしたでしょうか。(3; 17:8-14 を参照に)
6. サタンは拝められたいのですが、拝みが獣に向けられることをどうして許しますか。(4)
7. 誰が神様怪我して信仰者を迫害する事を三年半獣に許しますか。何故ですか。(5-6; 16:9 を参照に)
8. 神様はどうして主の者に打ち勝って全世界を支配する事を獣に許しますか。(7) それは神様がその者を守ると言う約束とどう調和出来ますか。(ダニエル 7:21-23 を参照に)
9. 本物の信仰者の性質は何処で明らかになりますか。(8; 17:8; 出エジプト 32:32-33 を参照に)

10. 3年半の間に信仰者の運命はどのようなですか。(10)
11. キリスト者はそのような状況の中に特に何が問われますか。それはどのように可能ですか。(10)

地から上がる獣 13:11-18

12. もし一番目の獣は政治的な支配を代表するなら、二番目の獣は宗教的な力を指すでしょう。その結論は何処に基づくでしょうか。(12-13; 申命記 13:1-3; マタイ 24:24 を参照に)
13. 二つの獣の互いの関係はどうか。(12)
14. 二番目の獣の行動の目的は何ですか。(14)
15. もし一番目の獣はサタンの暴力を代表するなら、二番目はサタンのどのような性質を代表しますか。(14)
16. 二番目の獣はどのような近代的な措置を使いますか。どのようにその働きを監視しますか。(15-17)
17. 獣の刻印はどのように機能しますか。刻印を拒否する人はどうなりますか。(17)
18. キリスト者は獣の刻印を受けずにどのように生活が出来ますか。(17; 14:9-11 を参照に)
19. 獣の数字 666 はどんな意味でしょうか。(18)

黙示録 14章

十四万四千人の歌 14:1-5

1. 本物のシオンの山は何処ですか。(1; ガラテヤ 4:25-27; ヘブル 12:22-24 を参照に)
2. イエス様と十四万四千人の間にどのような関係がありますか。それはどのように明らかになりますか。(1; 7:4; エゼキエル 9:4 を参照に)
3. み座の前にどのような賛美の響きが聞こえますか。(2-3)
4. 小羊の初穂はどのような方々ですか。(4-5; マタイ 25:1-13; 2 コリント 11:2; エペソ 5:25-27 を参照に)

三人の天使の言葉 14:6-13

5. 福音は誰に伝えるべきですか。(6; 7:9 を参照に)
6. 福音宣教の時に何を語るべきですか。(7; 伝道者 12:13-14 を参照に)
7. バビロンは黙示録の中に何を指しますか。(8; 17:1-2, 5-6; 18:2-3; イザヤ 21:9; エレミヤ 51:7-9 を参照に) 現代はバビロンの特徴に当たるのは何ですか。
8. 獣を拝む事とその刻印を受ける人に何が起こりますか。(9-11)
9. 永遠の滅びはどのような所ですか。(10-11; 19:3, 20; 詩篇 75:9 を参照に)
10. 滅びに行った人々はどうしてみ使いたちと小羊の前にいますか。(10)
11. キリスト者はどうして忍耐が要りますか。(12)
13. 誰が幸いですか。何故ですか。(13; 1テサ 4:14-17 を参照に)

鎌が地に投げ入れられる 14:14-20

13. 再臨のイエス様は何をするための来られますか。(14-16; ダニエル 7:13-14; マタイ 13:39-43 を参照に)
14. 最終的な収穫は何時起こりますか。(17-18; マタイ 24:28 を参照に)
15. 神様のみ怒りの酒ぶねを誰が踏みますか。(19-20; 19:15 を参照に)

黙示録 15章

最後の七つの災い 15:1-8

1. 神様のみ怒りが極まる事は何を意味しますか。(1, 7-8; レビ記 26:21-24 を参照に) 人間に起こり得る最も恐ろしい事は何ですか。
2. 天国におけるガラスの海はどんな所ですか。(2; 4:6; 2 歴代誌 4:2-5 を参照に)
3. ガラスの海が火で混じっている事は何を意味しますか。(2)
4. ガラスの海の上に誰が立っていますか。(2; 12:11 を参照に)
5. 立っている方々はどのような歌を歌っていますか。(3-4)
6. その歌が小羊とモーセの歌である事は何を物語りますか。(3)
7. 神様の働きと道はどのようなですか。(3) 私たちの人生にとってそれはどのような励ましを得ますか。
8. 神様に対する正しい恐れはどんなものですか。(4; 1 ペテロ 1:17 を参照に)
9. 神様の裁きはどのように賛美の理由になりますか。(4) 今現在も神様の裁きの実現を見る事が出来ますか。(ヘブル 2:8-9 を参照に)
10. 「ただあなただけが、聖なる方である」と書いてあるのはなぜですか。(4; マタイ 6:9 を参照に) 主の者を聖徒と呼べるのはどういう意味ですか。(ローマ 1:7; 1 ペテロ 1:15-16 を参照に)

11. 天国で神殿の役割は何ですか。(5-6,8; 11:19 を参照に) ヨハネはどうして黙示録の終わりにもう神殿を見る事が出来なかったのですか。(21:22 を参照に)
12. 災いの鉢を注ぐみ使いたちの服装が輝いている事と鉢が黄金である事は何を語りますか。(6-7)
13. その章は神様をどう描写しますか。(3-4,7-8) そのような神様の所へ賛美するためにどう行けますか。(1 ペテロ 1:17-21 を参照に)

黙示録 16章

神の怒りを盛った七つの鉢 16:1-21

1. み怒りの鉢を注ぐ命令は誰から来しましたか。(1,11; エレミヤ 10:25 を参照に)
2. 一番目の鉢が注がれると地上で何が起こりましたか。(2; 出エジプト 9:9; 申命記 28:35 を参照に)
3. み怒りの鉢の対象は誰でしたか。対象外は誰ですか。(2)
4. 二番目の鉢が海に注がれると三番目の鉢が川と水源に注がれると何が起こりましたか。(3-4; 8:8; 出エジプト 7:17,20 を参照に) どのような現象の事でしょうか。
5. 天のみ使いたちと祭壇(の下の殉教者たちの魂)はこれらの出来事をどう評価しましたか。(6-7; 6:10-11 を参照に)
6. 神様の裁きはどのような性質のものですか。(7) それは私たちにとってどういう意味でしょうか。
7. 四番目の鉢が注がれると何が起こりましたか。(8)
8. 人々は何故悔い改めないのですか。(9,11,13-14)
9. 神様の裁きはどのようにして悔い改めをさせるには効かなかったのですか。(9; 2 テサ 2:8-12 を参照に)
10. 五番目の鉢の対象は何でしたか。(10)
11. 六番目の鉢はどのような道を準備しますか。(12; 9:14; 19:11-16; イザヤ 11:16 を参照に)
12. サタンは諸国民を神様とその者に対する戦争にどの様に準備しますか。(13-14) 決定的な戦いは何時又何処で行われますか。(14,16)
13. 神様の民はこのような状況の中に特に何をすべきですか。(15)
14. 最後の七番目の鉢が注がれる結果として何が起こりましたか。(17-21; マタイ 24:29-31 を参照に)
15. 「事は成就した」と言う表現はどんな意味ですか。(17; 10:7; 11:15; 21:6; ダニエル 12:1-3 を参照に)
16. バビロンの運命は後で詳しく描写されます。その裁きの理由は何でしたか。(19; 17:5-6 を参照に)
17. 今の地球の運命は何でしょうか。(20; 6:14; 20:11; 2 ペテロ 3:5-7 を参照に)
18. 人々は何故神様を冒瀆したのですか。(21; 出エジプト 9:23-26 を参照に) 神様を冒瀆する事はどのような結果をもたらせますか。

黙示録 17章

大淫婦が裁かれる 17:1-18

1. 旧約聖書はよく霊的な姦淫について語ります。黙示録の大淫婦はどのような状態を表すでしょうか。(1,5,18; 18:16-19; 19:1-2; ナホム 3:4 を参照に)
2. 大淫婦の姦淫はどのようなものですか。(2,4,6; エレミヤ 51:7 を参照に)
3. 大淫婦は獣とどのような関係にありましたか。(3,15-18)
4. 獣はどのような性質を持ちますか。(3,8,9,11-12; ダニエル 7:20-27 を参照に)
5. 大淫婦の名前にはどのような秘密がありますか。(5)
6. 大淫婦を見るとヨハネはどうして驚きましたか。(6; 18:24 を参照に)
7. 獣は救われていない人々にどのような影響を及ぼしましたか。何故ですか。(8)
8. いのちの本にその名が書かれた人々はどうして獣の事で関心しませんか。(8-9; ダニエル 12:1 を参照に)
9. 獣の力は何処から来ますか。(9,11-13)
10. 大淫婦と獣が主の者に対して攻撃する時に彼らはどうなりますか。(14)
11. 神様は時にはその計画をどのように実現させますか。(17; 使徒 2:23 を参照に)

黙示録 18章

バビロンの滅亡 18:1-24

1. 天のみ使いの光り輝く姿は私たちに又私たちについて何を語りますか。(1; ルカ 2:9; 使徒 9:3 を参照に)
2. バビロンはどのような性質を持っていますか。(2-3; イザヤ 13:19; 21:8-9; エレミヤ 51:37 を参照に) 悪霊たちはどのような存在ですか。それらはどのような影響を及ぼしますか。
3. バビロンの中の生活はどのようでしたか。(3,7,11-14,16,22-23) 現代の生活とバビロンの生活ぶりを比べて見て下さい。

4. バビロンの中に住んでいるキリスト者にどのような命令が与えられますか。何故ですか。(4; イザヤ 52:11-12; 2 コリント 6:17-18 を参照に) その命令からどのような結論をしなければならないのですか。
5. 罪は神様にどのように影響しますか。(5)
6. 罪はどのような測りで報いられますか。(6-8; ゼパニヤ 2:15; 2 テサ 1:6-7)
7. 神様はどのようなお方ですか。(8)
8. この世の人々(王たち、商人たち、船乗りたちなど)はバビロンの破滅をどう見ましたか。それは彼らについて何を語りますか。(9-13, 15-19)
9. この世の人々はバビロンをどう思っていましたか。(18) 信仰者はどう思うべきですか。
10. 生徒たちの喜びの理由は何ですか。何故ですか。(20, 24)
11. バビロンの破滅はどう起こりましたか。(8, 10, 14, 17, 21)

黙示録 19章

正しい裁きのための賛美の歌 19:1-4

1. 賛美の歌を誰が歌いますか。(1, 5-6)
2. 一番目の歌の内容は何ですか。(1-2; 詩篇 119:137 を参照に)
3. 天では救いと裁きはどう繋がっていますか。(1-2)
4. 処罰はどのようなものですか。(3; 14:11 を参照に)
5. 19章の中に「ハレルヤ」と「アーメン」は何回出ますか。(1, 3, 4, 6) この単語はあなたにとってどういう意味を持ちますか。

小羊の婚宴 19:5-10

6. 二番目の歌の内容は何ですか。(6-8)
7. 神様はなぜ栄光を受けますか。(7) 父なる神様と御子である神様との関係についてこの賛美の内容は何を語りますか。(マタイ 22:2; 2 コリント 11:2 を参照に)
8. キリストの花嫁は誰ですか、又どのようですか。その服装はどのようなものですか。(7-8) その服装は何時作られましたか。あなたは今日どのように自分の婚礼のための礼服を縫いでいますか。(詩篇 132:9; イザヤ 61:10-11 を参照に)
9. 幸いな人は誰ですか。あなたは小羊の婚礼に招かれていますか。婚礼の時のメニューはどのようでしょうか。(9; マタイ 22:2-3, 9; 26:29 を参照に)
10. 黙示録はどのぐらい信頼出来ますか。(9; 21:5; 22:6 を参照に)
11. 黙示録は何について証しますか。(10)
12. み使いの役割は何ですか。どうしてみ使いを拜んではいけませんか。(10; 22:8-9 を参照に)

白馬の騎手 19:11-21

13. 白い馬に乗るお方は誰ですか。どのようなお方ですか。(11-13; ダニエル 10:6 を参照に)
14. 馬に乗るお方の名前を誰も知らないと言うのはどういう意味ですか。それにしてもどのような名前と呼ばれていますか。(12-13, 16)
15. 騎手はどのような衣を身にまとっていますか。そらは何を物語りますか。(13; イザヤ 63:2-4 を参照に)
16. イエス様の服が血だらけなのにどうして軍隊の兵士たちの服は白いのですか。(14)
17. 神様のみ怒りを実行するのは誰ですか。その時にどのような手段を使いますか。(15, 21; イザヤ 11:4; ヘブル 4:12 を参照に)
18. 小羊に抵抗した人々の運命は何ですか。(17-18, 21; エゼキエル 39:17 を参照に)
19. この大いなる戦いに獣と偽預言者に何が起こりますか。(20)

黙示録 20章

千年間の支配 20:1-6

1. 底なしの淵とその鍵とは何でしょうか。(1, 3; 2 ペテロ 2:4; ユダ 2:4 を参照に)
2. サタンが千年縛られる事の影響はどのようでしょうか。(2-3; ゼカリヤ 3:1 を参照に)
3. サタンは何故千年の後で釈放されますか。(3, 7; 2 テサ 2:9-10 を参照に)
4. 千年王国の間に誰が支配しますか。(4, 6; ダニエル 7:22; マタイ 19:28; 1 コリント 6:2 を参照に)
5. その期間の状況はどんなものでしょうか。(4; イザヤ 11:3-11; 65:17-25 を参照に)
6. 体の復活はどのような順番で行われますか。(5-6, 12; 1 コリント 15:20-24; ピリピ 3:10-11; 1 テサ 4:16 を参照に)
7. どのような人々は第一の蘇りに預かりますか。(6; イザヤ 61:6 を参照に)

サタンの敗北 20:6-10

8. 釈放されたサタンは何を図り始めますか。(8;エゼキエル 38:2, 9;39:1-7 を参照に)
9. 最終的な戦いはどう行われますか。(9)
10. サタンの運命は何ですか。それは何時起こりますか。(10;マタイ 25:41 を参照に)

最後の裁き 20:11-15

11. 最後の裁きの時に今の地球はどうなりますか。(11;2 ペテロ 3:10-12 を参照に)
12. 第二の復活の時に誰が蘇りますか。(12, 13)
13. 最後の裁きはどのような基準で行われますか。審判者は誰ですか。(12-13, 15;マタイ 25:31-46;ヨハネ 5:28-29, 45;ローマ 2:5-12 を参照に)
14. 死と黄泉(ハデス)の運命は何ですか。(14;1 コリント 15:26, 54-57 を参照に)
15. 地獄、滅びの性質は何ですか。(14-15;マタイ 7:13, 23;マルコ 9:43-48 を参照に)

黙示録 21章

新しい天と新しい地 21:1-8

1. 今の地球の運命はなですか。(1;20:11;イザヤ 65:17-18;66:22;2 ペテロ 3:10-12 を参照に)新しい地は古い地とどう違いますか。
2. 新しいエルサレムが天から降りる事はどういう意味ですか。(2, 10;マタイ 25:34;ガラテヤ 4:26;ヘブル 11:10, 16 を参照に)
3. 天国の本質は何ですか。(3, 7;エゼキエル 37:27 を参照に)
4. 天の御国で主と共にいる救われた人々の状態はどのようなですか。(4)
5. 主がすべてを新しくすることはどういう意味でしょうか。(5)
6. 聖書の本質は何ですか。(5) あなたと聖書の関係はどうですか。
7. 今日と言う日と最終的な天国はどのような関係にありますか。(6;イザヤ 55:1;ヨハネ 4:14;6:35;7:37-38;黙示録 22:1, 17 を参照に)
8. どのような人が滅びますか。(8, 27;1 コリント 6:9-11)

新しいエルサレム 21:9-22:6

9. 聖書は教会をキリストの花嫁として描写しますが、何故新しいエルサレムについても同じ言葉を使いますか。(9-10)
10. 新しいエルサレムはどのような所ですか。(11-21)
11. その門にイスラエルの 12 部族の名前があつて、城壁の土台に 12 の使徒の名前がある事は何を物語りますか。(12, 14;エゼキエル 48:30-35;エペソ 2:19-22 を参照に)
12. 町の形と大きさはどのようなですか。(15-16;エルサレムの神殿の至聖所に比べて見て下さい。2 歴代誌 3:8 を参照に)
13. 町の城壁の高さはどの位ですか。何故城壁が必要ですか。(17-20)
14. 城壁の土台にある宝石は何を語りますか。(19-20;出エジプト 28:15-30 を参照に)
15. 町の門が真珠であることは何を語りますか。(21, 15)
16. 町に何故神殿がないのですか。(22)
17. 町の光は何ですか。(23-24;22:5;ヨハネ 1:5, 7 を参照に)
18. 諸々の国民の宝物と誇るものは新しいエルサレムに運ばれるのはどういう意味ですか。(24, 26;イザヤ 60:3-5 を参照に)
19. あなたの名前がいのちの本に書かれている事がどのように分かりますか。(27)

黙示録 22章

1. いのちの水の川は何ですか。それは何処から出ますか。(1;エゼキエル 47:1;ゼカリヤ 14:8;ヨハネ 7:37-39 を参照に)
2. いのちの木は何処ですか。その役割は何ですか。(2;創世記 2:9;エゼキエル 47:12 を参照に)
3. 救われた人の天国における立場は何ですか。彼らは何をしますか。(3, 5;7:15-17 を参照に)
4. 天国の本質は何ですか。(4;マタイ 5:8;1 コリント 13:12;1 ヨハネ 3:2 を参照に)
5. 神様の光は地上の歩みでどう現れますか。天国ではどうですか。(5;1 ヨハネ 1:5, 7 を参照に)

キリストの再臨 22:6-21

6. あなたは聖書の信頼性に対する考えを何に基づきますか。(6, 16, 18-19;1:1;19:9;21:5;マタイ 5:18 を参照に)

7. 私たちはどのように黙示録の言葉を守るべきですか。その結果は何ですか。(7;1:3;3:11を参照に)
8. ヨハネはもう一度同じ間違いをしようとしたのは何ですか。み使いを拜むのはどうしてだめですか。(8-9;19:10を参照に)
9. み使いたちは誰に対して奉仕をしますか。(9;ヘブル1:14を参照に)
10. 黙示録はどのように開いたままに置くべきですか。何故でしょうか。(10,12,20)
11. 世界は将来にどのように発展していきますか。(11)
12. イエス様が再臨するときにあなたはどのような報いを受けるでしょうか。(12;マタイ25:21,34;ルカ12:36-37,40,42を参照に)
13. 全てはイエス様においてどう完成されますか。(13;創世記1:1;ヨハネ1:1-3;1コリント15:24-28を参照に)
14. 誰が幸いですか。(7,14;マタイ5:3-11;11:6;13:16;16:17;24:46;ルカ1:45;10:23;11:28;ヨハネ20:29;ローマ4:6-9;ヤコブ1:12;1ペテロ4:14;黙示録1:3;14:13;16:15;19:9;20:6を参照に)
15. 人を滅ぼすのは何ですか。(15;21:8,27を参照に)
16. イエス様は誰でどのような方ですか。(16;民数記24:17;イザヤ11:1,10;ローマ1:3-4を参照に)
17. 聖霊様と教会はどの二つの招きをしますか。それらは誰に対するものですか。(17)
18. 私たちはどのような姿勢で黙示録と聖書全体を見るべきですか。(18-19)
19. 信仰者と教会の祈りは何ですか。何故でしょうか。(20-21;2テモテ4:8を参照に)